每一月金百圓

第二條　特許手數料ハ毎月一月分ヲ特許ノ日附ニ應當スル日ニ於テ納付スヘシ但シ其ノ最初ノ月ニ係ルモノハ特許ノ日ヨリ十日内ニ之ヲ納付スヘシ

前納セシ特許手數料ノ之ヲ還付セス但シ一時ニ二月分以上ノ特許手數料ヲ前納シタル場合ニ於テハ未タ其ノ納付期限ニ至ラサルモノニ限リ之ヲ還付ス

附　則

本令ハ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣關稅規則ニ依ル訴願ニ關スル律令

（明治三十四年十月二日律令第十三號）

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル臺灣關稅規則竝臺灣輸出稅及出港稅規則ニ依ル訴願ニ關スル律令勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ發布ス

臺灣關稅規則【竝臺灣輸出稅及出港稅規則】ニ依ル訴願ニ關シテハ明治二十三年法律第百五號訴願法ヲ準用ス

●樺太酒類出港稅法

（大正元年八月十二日　勅令第二百八十號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル樺太酒類出港稅法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（樺太廳長官請議）

第一條　樺太酒類出港稅法ヲ酒類ト稱スルハ燒酎、酒精及酒精含有飲料ヲ謂フ

前項ニ於テ燒酎ト稱スルハ酒造稅法ニ於ケル燒酎ヲ謂ヒ酒精及酒精含有飲料ト稱スルハ酒精及酒精含有飲料稅法ニ於テ同法ヲ適用スルモノヲ謂フ

第二條　樺太ニ於テ製造シタル酒類ヲ帝國内ノ他ノ地方ヘ移出スルトキハ燒酎ニ付テハ酒造稅法、酒精又ハ酒精含有飲料ニ付テハ酒精及酒精含有飲料稅法ノ造石稅ト同一ノ稅率ニ依リ出港稅ヲ課ス

第三條　酒類ハ命令ヲ以テ指定シタル港ニ由ルニ非サレハ移出スルコトヲ得ス

第四條　酒類ヲ移出セムトスル者ハ出港稅ヲ納付シタルトキハ領收證及船積免狀ヲ交付ス

第五條　船長ハ船積免狀ニ照シ酒類ヲ船積シ出港前其ノ積取石數ヲ敷稅官吏ニ屆出ツヘシ

第六條　收稅官吏又ハ警察官吏ハ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ出港船舶ニ臨檢スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ收稅官吏ハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帶スヘシ

第七條　出港稅ヲ納付セスシテ酒類ヲ船積シ又ハ移出シタル者ハ其ノ出港稅ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ酒類及其ノ容器ハ之ヲ沒收ス既ニ處分シタルトキハ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ追徵ス

第八條　第五條ノ屆出ヲ爲サス又ハ虚僞ノ屆出ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條　收稅官吏又ハ警察官吏ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、之ヲ妨ケ若ハ忌避シ又ハ當該官吏ノ訊問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十條　酒類ノ製造、販賣又ハ移出ヲ業トスル者ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ第七條又ハ第九條ノ規定ニ違反シタルトキハ酒類ノ製造、販賣又ハ移出ヲ業トスル者ヲ處罰ス

第十一條　前條ノ場合ニ於テ酒類ノ製造、販賣又ハ移出ヲ業トスル者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ヲ處罰シ但シ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ第七條又ハ第九條ノ規定ニ違反シタルトキハ酒類ノ製造、販賣又ハ移出ヲ業トスル者ヲ處罰ス

未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヰス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（大正元年九月一日ヨリ施行）

●樺太酒類出港稅法施行規則

（大正元年八月二十日　勅令第九號）

改正　大正二年第三二〇號

朕樺太酒類出港稅法施行規則ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（樺太廳長官請議）

第一條　樺太酒類出港稅法施行規則

樺太ニ於テ製造シタル酒類ヲ帝國内ノ他ノ地方ヘ移出スルハ酒類ヲ帝國内ノ貨物ノ船移ニ積荷目錄ニ符合シ且ツ原包裝ノ儘ニ非ラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二條　酒類ヲ移出セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申告書ヲ移出港所轄樺太廳支廳ニ提出スヘシ

一　酒類ノ種目、數量及含有純酒精ノ容量

二　容器ノ種類及箇數

三　積載船ノ名稱

四　移出先及移出ノ日

五　移出者ノ住所及氏名又ハ名稱

第三條　前條ノ申告アリタルトキハ所轄樺太廳支廳ハ酒類ノ種目、數量及含有純酒精ノ容量ヲ檢定シ出港稅ヲ徵收スヘシ

第四條　船積免狀ハ所轄樺太廳支廳之ヲ交付スヘシ

附　則

（大正元年八月樺太廳令第六號）

樺太酒類出港稅法施行規則第四條ニ依リ船積免狀ノ樣式左ノ通リ相定ム

本令ハ酒類出港稅法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

契印

第「何」號

船積	
移出者ノ住所氏名又ハ名稱	
酒類ノ種目及數量	
容器ノ種類及箇數	
含有純酒精ノ容量	
出港稅納付濟年月日	
積載スヘキ船舶ノ名稱	
移出年月日	

樺太酒類出港稅法ニ依リ本免狀ヲ交付ス

大正「何」年「何」月「何」日

樺太廳「何」支廳㊞

注意

一、本免狀ハ酒類船積ノ際船長ニ之ヲ呈示スルコトヲ要ス

二、積載スヘキ船舶又ハ移出年月日ノ變更ヲ要スルトキハ本免狀ヲ返付シ其書換ヲ求ムヘシ

樣式

用紙厚質白紙　縱四寸　橫二寸五分

第「何」號

契印　樺太廳（又ハ何支廳）官氏名　樺太廳（又ハ樺太廳何支廳）印

收稅官吏之章

樺太廳（又ハ樺太廳何支廳）

●關東州租借地稅關假規則

（明治四十年六月二十六日　勅令第二百八十八號）

關東都督府令第三十八號

改正　明治四〇年　第四二號、第四四號、第五三號、四三年第二六號　大正三年第二七號

關東州租借地稅關假規則左ノ通リ相定ム

本令ハ明治四十年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

關東州租借地稅關假規則

第一條　外國ヨリ輸入セル外國貨物又ハ外國ヨリ輸入セル外國貨物ヲ以テ製造シタル物品ヲ内地ニ輸送セントスルトキハ納稅濟證ヲ所持セサルモノハ輸入稅ヲ納付スヘシ

【清國】通商港ヨリ輸入セル外國貨物ニシテ【清國】貨物ヲ輸入セルトキハ【清國】貨物ヲ輸入稅金ニ相當スル金額ヲ稅關ニ供託スヘシ若不正ノ行爲アリタルトキハ貨物竝供託金ヲ沒收スルコトアルヘシ

第二條　陸路租借地ニ輸入セラレタル【清國】貨物ヲ輸出セントスルトキハ輸出稅ヲ納付スヘシ

第三條　【清國】通商港ヨリ【清國】貨物ヲ輸入セルトキハ納稅濟證ヲ所持セサルモノハ輸入稅金ニ相當スル金額ヲ稅關ニ供託スヘシ若不正ノ行爲アリタルトキハ貨物竝供託金ヲ沒收スルコトアルヘシ

第四條　陸路租借地ニ輸入セラレタル【清國】貨物ヲ輸出セントスルトキハ輸出稅ヲ納付スヘシ

第五條　租借地ノ生產物及租借地ノ生產物若ハ外國ヨリ輸入セル材料ヲ以テ製造シタル物品ヲ輸出セントスルトキハ輸出稅ヲ納付スルニ及ハス但シ日本官憲ノ發行ニ係ル產地證明書ヲ所持スル場合ニ限ル

第六條　内地又ハ海路【清國】港ヨリ輸入セル材料ヲ以テ製造シタル物品ヲ輸出セントスルトキハ輸出者ノ撰擇ニ依リ材料若ハ製造品ニ對シ輸出稅ヲ納付スヘシ

第七條　【清國】通商港ニ於テ輸入稅ヲ納付シタル外國貨物若ハ輸出稅ヲ納付シタル【清國】貨物ヲ大連ヨリ再輸出セントスルトキハ輸出稅ヲ納付スルニ及ハス

第八條　内地ヨリ又ハ内地ニ向テ内地通過規則ニ依リ貨物ヲ輸送セントスルトキハ輸出稅又ハ輸入稅ノ外ニ通過稅ヲ納付スヘシ

第九條　海路又ハ陸路ヨリ租借地内ニ阿片ヲ輸入セントスルトキハ直ニ稅關ニ屆ケ出ツヘシ

第十條　阿片ヲ内地ニ輸送セントスルトキハ輸入稅竝ニ釐金ヲ納付スヘシ但シ【清國】通商港ヨリ輸入セル阿片ニシテ納稅濟證ヲ所持スルトキハ戸部證票ノ貼付アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　阿片ヲ内地ニ輸送セントスルトキハ稅金ノ有無ヲ問ハス稅關ニ申請シ證票ノ貼付竝關印ノ押捺ヲ受クヘシ

第十二條　阿片ヲ輸入セントスルトキハ【清國】通商港ヨリ【清國】阿片ヲ輸入セントスルトキハ納稅濟證ヲ所持セサルモノハ統稅ヲ納付スヘシ輸入阿片ニ戸部證票ノ貼付アラサルトキ亦同シ

第十三條　武器、彈藥、爆發物及其ノ製造材料ヲ輸入セントスルトキハ稅關ノ許可ヲ得タル後ニ非サレハ船卸又ハ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條　武器、彈藥、爆發物及其ノ製造材料ヲ【清國】官憲ノ發行ニ係ル護照ヲ所持スル者ニ非サレハ之ヲ内地ニ輸送シ若ハ【清國】港ニ輸出スルコトヲ得ス

第十五條　前二條ノ規定ハ日本陸海軍又ハ警察ノ用ニ供スル武器、彈藥其ノ他ニ之ヲ適用セス

第十六條　船舶入港シタルトキハ船長又ハ其ノ代理者ハ遲滯ナク船舶證書又ハ領事報告書竝輸入積荷目錄ヲ稅關ニ提出スヘシ輸入積荷目錄ニハ船舶ノ名稱、國籍、貨物ノ仕出地、仕向地、記號、番號、個數、數量、噸量及荷受人ヲ記載シ船長又ハ其ノ代理者之ニ署名スヘシ

内地仕向ノ積載貨物ノ數量獨立貨物トシテ取扱フニ足ルモノナルトキハ船長又ハ其ノ代理者ハ内地行及租借地行ヲ區分シ各積荷目錄ヲ調製スヘシ

積荷目錄ハ其ノ提出後二十四時間以内ニ限リ訂正補足スルコトヲ得

第十七條　輸入貨物ノ荷受人ハ其ノ貨物ノ内地行ナルト租借地行ナルトヲ問ハス船舶ノ名稱、國籍、貨物ノ仕入地、產出地又ハ製造地、記號番號、品名、個數、數量及價格ヲ記載シタル報告書ヲ稅關ニ提出スヘシ

第十八條　船舶出港セントスルトキハ船長又ハ其ノ代理者ハ輸出積荷目錄ヲ作製シ出港許可申請前少クモ二時間ニ之ヲ稅關ニ提出スヘシ輸出積荷目錄ニ記載スヘキ事項ハ輸入積荷目錄ノ記載事項ニ同シ輸出積荷目錄ニハ船長又ハ其ノ代理者之ニ署名スヘシ

第十九條　貨物ヲ輸出セントスル者ハ輸出申告書ヲ稅關ニ提出シ貨物ノ檢查ヲ受クヘシ

貨物ノ檢查終了シタルトキハ申告者ハ稅關ノ交付スル關稅納入告知書ニ記載セル稅金ヲ稅關指定ノ銀行ニ納付シ其ノ領收證ヲ稅關ニ提出シ船積許可書ノ交付ヲ受クヘシ

第二十條　或ル船舶ヨリ他ノ船舶ノ貨物ノ船移ヲ爲サントスルトキハ稅關ノ許可ヲ受クヘシ若許可ヲ得スシテ船移ヲ爲シタルトキハ其ノ貨物ヲ沒收シ船長ヲ罰金ニ處スルコトアルヘシ

貨物ノ船移ハ積荷目錄ニ符合シ且ツ原包裝ノ儘ニ非ラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條　稅關ニ於テハ之ヲ適用スル稅率左ノ如シ

一　輸入外國貨物ニ對シテハ千九百二年ノ改正輸入稅率

二　輸出入【清國】貨物ニ對シテハ舊清國稅率

第二十二條　或ル船舶ヨリ他ノ船舶ノ貨物ノ船移シテ爲サントスルトキハ稅關ノ許可ヲ受クヘシ若許可ヲ得スシテ船移ヲ爲シタルトキハ其ノ貨物ヲ沒收シ船長ヲ罰金ニ處スルコトアルヘシ

貨物ノ船移ハ積荷目錄ニ符合シ且ツ原包裝ノ儘ニ非ラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條　稅關ニ於テハ之ヲ適用スル稅率左ノ如シ

一　輸入外國貨物ニ對シテハ千九百二年ノ改正輸入稅率

二　輸出入【清國】貨物ニ對シテハ舊清國稅率

【ジヤンク】ニ依リ輸出入スル貨物ニ對シ特別ノ稅率ヲ適用スル場合ニハ別ニ之ヲ告示ス

第二十四條　稅關長ノ罰金又ハ沒收ノ處分ニ對シ不服ヲ申立ツル者アルトキハ千八百六十八年五月三十一日北京ニ於テ協定セラレタル罰金及沒收ニ關スル會審規則ノ精神ニ基キ處理スルモノトス

第二十五條　稅關執務時間ハ日曜日及祭日ヲ除キ午前九時ヨリ午後四時迄トス但シ貨物ノ檢查場ハ午前八時ヨリ午後四時迄トス

第二十六條　午前六時前午後六時後若ハ日曜日及祭日ニハ稅關長ノ特許ヲ受クルニ非ラサレハ貨物ノ積卸ヲ爲スコトヲ得ス

但シ旅客ノ手荷物及郵便物ハ此ノ限ニ在ラス

特許手數料左ノ如シ

午前六時前	海關開	十　兩	日曜日（終日）	同	四十兩
午後六時ヨリ午後十二時マテ	同	十　兩	日曜日（半日）	同	二十兩
午後六時ヨリ翌日午前六時マテ	同	二十兩	祭　日（終日）	同	四十兩
			祭　日（半日）	同	二十兩

附　則

第二十八條　此ノ規則ニ於テ内地ト稱スルハ租借地境界外ノ【清國】領土ヲ云フ

（別表）

品名	單位	海關稅率
各種穀物、菜、高粱、玉蜀黍、大豆、小豆、豆	每擔	一圓
油	每擔	一圓
細磁器	每百支	一圓
粗磁器	每百支	一圓
土器	每千箇	一圓
羅紗	每百塊	一圓
海帶	每擔	一圓
紙	每擔	一圓
茶、綠茶、紅茶	每擔	一圓
各種【清國】產綿布	每擔	一圓

明治四十一年十二月二十八日
關東都督府告示第百二十號

明治四十二年一月一日以降關東州及滿洲內地輸出入貨物ニ就テ關東州租借地稅關假規則第十六條乃至第十九條ニ規定セル事項ヲ具シ左記手續ニ依リ大連海關ニ提出スヘシ

一　關東州租借地稅關假規則第十七條ニ依ル荷受人ノ報告書ハ二通ヲ提出スヘシ

二　同規則第十九條ニ依ル輸出貨物申告書ニハ產地又ハ製造地ヲ記入シ二通ヲ提出スヘシ

三　滿洲內地ニ輸出スル貨物ニ就テハ同規則第十七條ノ事項ヲ具シタル申告書ヲ大連海關ニ提出シ檢查ヲ經タル後更ニ其ノ副本ヲ提出スヘシ

四　前各項ノ報告書及申告書各一通ハ日本文字又ハ漢字ヲ以テ記載シ價額又ハ數量ヲ表示スル數字ハ漢字又ハ亞剌比亞數字ノ外用ウヘカラス

●產地證明書規則

大正七年三月五日
關東都督府令第八號

產地證明書規則左ノ通定ム

產地證明書規則

第一條　關東州租借地稅關假規則第五條ニ依ル產地證明書ハ民政署長、民政支署長又ハ民政支署出張所長之ヲ發給ス

前項證明書ハ附錄樣式ニ依ル

第二條　產地證明書ノ下附ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄民政署、民政支署又ハ民政支署出張所ニ願出ツヘシ

一　品名

二　數量（荷造ノ委細記號アルモノハ之ヲ併記スヘシ）

三　價格

四　生產地

五　製造地

六　仕向地

七　輸送港ノ定マレル場合ハ其ノ港名

民政署、民政支署又ハ民政支署出張所ノ所在地外ニ於テハ前項ノ願書ハ警察官吏ニ差出所ニ提出スルコトヲ得

第三條　產地證明書ノ有效期間ハ下附ノ日ヨリ起算シ五十日トス

前項ノ期間ヲ經過シタル產地證明書ハ之ヲ下附官署ニ返納スヘシ

注意　本證明書ハ下附ノ日ヨリ五十日ヲ經過シタルトキハ必ス返納スヘシ

第一條　【清國】軍費若ハ官廳カ關東州ヲ經テ兵器及彈藥ヲ輸入セムトスルトキハ千九百八年七月一日施行ニ係ル【清國】改訂槍彈進口新章第一款ノ規定ニヨリ其ノ所轄ノ將軍、總督又ハ巡撫カ發給スル護照ヲ稅關ニ提示スヘシ

（附錄樣式）

五寸四分

第　號

產地證明書

出願者住所氏名	
品名	
數量	
生產地	
製造地	
仕向地	
輸出港	
備考	

右證明ス

年　月　日

發給官署長　官印

附則

第五條　本令ハ大正七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六條　本令第三條ノ規定ハ本令施行ノ前ニ下附シタル產地證明書ニ之ヲ準用ス但シ其ノ有效期間ハ本令施行ノ日ヨリ起算ス

二　第三條第二項ノ規定ニ違反シタル者

第四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金拘留又ハ科料ニ處ス其ノ發給ニ係ル證明書ハ之ヲ沒收ス

一　第二條第一項各號中ノ事項ヲ詐稱シ其ノ他詐欺ノ行爲ヲ以テ證明書ノ下附ヲ受ケ又ハ受ケムトシタル者

稅關ハ兵器及彈藥カ護照ニ記載セラレタル數ニ符合スルトキ其ノ陸揚ヲ許可ス

第二條　商人ニシテ【清國】軍督又ハ官廳ニ差出ス爲兵器及彈藥ノ見本ヲ輸入セムトスルトキハ日本人ニ在リテハ所轄民政署長又ハ領事外國人ニ在リテハ所轄領事ヲ經海關監督ニ對シテ輸入許可書ノ發給ヲ申請シ尙輸入ノ際該品ヲ直接若ハ間接ニ法規違反者ニ賣渡ササルコトヲ保證スル爲稅關ヘ證書ヲ提出スルコトヲ要ス

右輸入獵銃一回ノ數量ハ注文ヲ受ケタル場合ニハ六挺以內トシ其ノ他ノ場合ハ四挺以內トス

輸入商會ハ注文ニヨリ輸入スル場合ニハ其ノ注文者ノ氏名及宿所ヲ輸入申告書ニ記入シ稅關ニ屆出ツルヲ要シ注文ヲ受クスシテ輸入シタル場合ニハ其ノ獵銃彈藥數量、購買者ノ氏名宿所竝賣渡月日ヲ詳記シタル帳簿ヲ備ヘ稅關ヨリ其ノ檢閱ヲ要求スルトキ何時ニテモ之ニ應スヘキモノトス

日本又ハ外國商店カ輸入スル獵銃用彈藥ハ各種合計一回一萬發ヲ超過スルコトヲ得ス但シ同一人ニ一萬發以上ヲ賣却セサル保證書ヲ提供シタルトキハ二萬五千發ニ上ホスコトヲ得

第三條　（甲）信用アル日本人又ハ外國人カ關東州ヲ經テ【清國】內地ニ入ラムトスルトキハ護身用トシテ拳銃一挺回旋短銃一挺及其ノ彈丸五百發以內ヲ携帶スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ稅關ニ其ノ旨ヲ屆出ツルヲ要ス稅關ハ檢查ノ上之ニ許可ス

（乙）【清國】內地ニ在留セル信用アル日本人又ハ外國人ニシテ護身用トシテ兵器及彈藥ヲ輸入セムトスルトキハ其ノ輸入ニ先タチ所轄領事ヲ經海關監督ニ輸入許可書（護照）ノ發給ヲ申請シ之ヲ輸入ノ許可ヲ受クヘシ

（丙）信用アル日本又ハ外國商會ハ獵銃及彈藥ヲ輸入スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ

アルハ南洋廳支廳、裁判所トアルハ南洋廳法院、稅關長トアルハ南洋廳支廳長、稅關官吏公吏又ハ市町村吏員トアルハ南洋廳ノ關警部警部補又ハ巡査トス

第三條　南洋群島ニ於テ開港ト爲スヘキ場所及其ノ開港ニ於テ輸出又ハ輸入スヘキ貨物ノ種類ハ南洋廳長官之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正十一年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前内地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ヨリ輸出シタル貨物ノ輸入ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

●關稅法第八十七條ノ稅關官吏タル資格ヲ證明スル證票樣式

昭和二年十月十五日南洋廳令第四號

關稅法第八十七條ノ稅關官吏タル資格ヲ證明スル證票樣式左ノ通定ム

地質象皮　縱二寸

橫一寸五分

表

關稅檢查官吏之章

何支廳之印

裏

南洋廳屬　何某

●保稅倉庫法ノ施行ニ關スル件

昭和二年十月十五日南洋廳令第五號

大正十一年勅令第二百九十五號第一條ニ依ル保稅倉庫法ノ施行ニ關シテハ昭和二年大藏省令第二十三號保稅倉庫法施行規則ヲ準用ス但シ同令中官報ニ揭載シテ之ヲ爲スヘキ公告ハ南洋廳公報ニ揭載シテ之ヲ爲ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●保稅工場法ノ施行ニ關スル件

昭和二年十月十五日南洋廳令第六號

大正十一年勅令第二百九十五號第一條ニ依ル保稅工場法ノ施行ニ關シテハ昭和二年大藏省令第二十五號保稅工場法施行規則ヲ準用ス但シ同令中官報ニ揭載シテ之ヲ爲スヘキ公告ハ南洋廳公報ニ揭載シテ之ヲ爲ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●私設保稅倉庫營業、保稅工場私設ノ特許手數料ニ關スル件

昭和二年十二月二十一日南洋廳令第六號

改正　昭和三年第六號

私設保稅倉庫營業、保稅工場私設ノ特許手數料ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　私設保稅倉庫營業又ハ保稅工場私設ノ特許ヲ受ケタル者ハ毎月特許手數料三十圓ヲ納付スヘシ但シ派出ヲ要スル官吏一人ヲ超ユル場合ハ超過人員毎一人ニ付毎一月三十圓ヲ加フ

第二條　特許手數料ハ毎月一月分ヲ特許ノ日附ニ應當スル日ニ於テ所轄支廳ニ納付スヘシ但シ其ノ最初ノ月ニ係ルモノハ特許ノ日ヨリ十日内ニ之ヲ納付スヘシ

前納セシ特許手數料ハ還付セス但シ一時ニ二月分以上ノ特許手數料ヲ前納シタル場合ニ於テハ未タ其ノ納付期限ニ至ラサルモノニ限リ之ヲ還付ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●南洋群島出港稅令

大正十一年五月三十日勅令第二百九十六號

改正南洋群島出港稅令第十二號

改正　大正十二年第一二號

南洋群島出港稅令施行規則左ノ通定ム

一　加工ノ爲移出スル物品ニシテ南洋廳長官ノ指定シタルモノ

二　學術研究ノ爲移出スル物品

三　試驗品トシテ移出スルモノ

四　注文取集ノ爲移出スル見本品

五　博覽會、展覽會、共進會又ハ品評會等ニ出品スル爲移出スル物品

第五條　南洋廳長官ハ必要アリト認ムルトキハ出港稅額ニ相當スル擔保ヲ提供セシメテ六月以内出港稅ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第六條　前二條ニ規定スル擔保物ノ種類ハ南洋廳長官之ヲ定ム

第七條　内地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ移出スル物品ハ南洋廳長官ノ指定シタル港ニ由ルニ非サレハ之ヲ移出スルコトヲ得ス

第八條　出港稅ヲ課スヘキ物品ノ移出者ハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ物品又ハ其ノ包裝ニ納稅濟又ハ檢査濟ノ證印ノ押捺又ハ證票ノ貼付ヲ受クヘシ

第九條　船長ハ前條ノ證印又ハ證票ニ照シ出港稅ヲ課スヘキ物品ヲ船積シ出港前其ノ積取數量ヲ當該官吏ニ屆出ツヘシ

第十條　出港稅ヲ課スヘキ物品ヲ郵便ニ依リ内地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ移出セムトスル者ハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ移出手續ヲ爲スヘシ

郵便物ノ出港稅ハ印紙ヲ以テ之ヲ納付セシムルコトヲ得

第十一條　第八條第九條及第十條第一項ノ規定ハ出港稅ヲ課スヘキ物品ト同種ノ物品ニシテ出港稅ヲ課セサルモノニ付之ヲ準用ス

第十二條　關稅法第一章、第四章及第七章ノ規定ハ出港稅ニ付之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正十一年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

南洋群島出港稅令施行規則

第一條　南洋群島出港稅令（以下出港稅令ト稱ス）第一條ノ規定ニ依リ出港稅ヲ課スヘキ物品ヲ移出セムトスルトキハ同令第十條ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外左ノ事項ヲ記載シタル申告書ヲ移出地港所轄支廳ニ提出スヘシ

一　移出物品ノ品名、數量及價格

砂糖及糖蜜ニ在リテハ砂糖消費稅法第三條ニ規定スル種目及數量

酒類、酒精及酒精含有飲料ニ在リテハ其ノ含有スル純酒精量ノ異ナル毎ニ其ノ種目及數量

織物ニ在リテハ其ノ價格ノ異ナル毎ニ其ノ種別、品名、數量及價格

容器又ハ包裝ノ種類及個數

二　積載船舶ノ名稱

四　仕向港、移出先及移出ノ年月日

五　移出者ノ住所及氏名又ハ名稱

第二條　出港稅令第七條ノ規定ニ依ル移出港ハ左ノ七港トス

サイパン
パラオ
アンガウル
ヤップ
トラック
ポナペ
ヤルート

コプラハ支廳長ノ許可ヲ受ケ前項ノ港以外ノ港ヨリ之ヲ移出スルコトヲ得

第三條　出港稅令第一條ノ規定ニ依リ出港稅ヲ課スル物品ト同種ノ物品ニシテ出港稅ヲ課セサルモノヲ移出セムトスルトキハ同令第四條第一號ニ依ル移出ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ物品ハ左ノ如シ

一　漂白、仕上、染色、捺染、刺繡ノ爲移出スル織物

第六條　出港稅令第四條ノ規定ニ依リ出港稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ第十二條ニ依ル場合ヲ除クノ外物品移出ノ際左ノ事項ヲ記載シタル出港稅免除申請書ヲ移出地所轄支廳ニ提出スヘシ

郵便局ハ前項ノ郵便物ノ差出人ニ其ノ包有品ノ開示ヲ命スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ申告シタル再移入ノ方法又ハ場所ヲ變更シタルトキハ文書ヲ以テ移出手續ヲ爲シタル郵便局ニ申告スヘシ

郵便物移出申告書用紙ハ郵便局ニ於テ之ヲ交付ス

第十三條　前條ノ郵便物ニ出港稅ヲ課シタルトキハ郵便局ハ郵便物移出申告書ニ其ノ稅額ヲ記入シ之ヲ郵便物差出人ニ交付ス

前項ノ規定ニ依リ郵便物移出申告書ノ交付ヲ受ケタル者ハ出港稅額ニ相當スル收入印紙ヲ其ノ申告書ニ貼附シ之ヲ郵便局ニ提出スヘシ

第十四條　前條第一項ノ規定ニ依リ郵便物移出申告書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ起算シ三日内ニ出港稅ヲ納付セサルトキハ郵便局ハ郵便物ヲ差出人ニ還付スヘシ

前項ノ規定ニ依リ郵便物ヲ還付シタルトキハ其ノ郵便物ニ付爲シタル移出手續ハ之ヲ無效トス

第十五條　郵便局ハ郵便ニ依リ移出スル物品ニ付出港稅ノ納付ヲ受ケ又ハ其ノ納付ヲ要セスト認メタルトキハ出港稅令第八條又ハ第十一條ノ規定ニ依リ其ノ郵便物ニ證票ヲ貼附シ之ヲ宛先ニ送達スヘシ

第十六條　第三條ノ規定ハ郵便ニ依リ移出ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第十七條　郵便ニ依リ移出シタル物品ニ付過納又ハ誤納シタル出港稅ノ拂戻ハ出港稅ヲ納付シタル郵便局ヲ經由シ其ノ所在地ヲ管轄スル支廳長ニ之ヲ請求スヘシ

第十八條　出港稅令第八條及第十一條ノ證印又ハ證票ノ押捺又ハ證票ノ貼附ハ物品ノ包裝ニ、包裝ナキトキハ其ノ物品ニ之ヲ爲スヘシ

前項ノ證印ノ押捺又ハ證票ノ貼附ハ旅客ノ携帶スル物品ニ付テハ之ヲ省略スルコトヲ得

證印及證票ハ別記樣式ニ依ル

第十九條　出港稅ノ逋脫ヲ謀リ又ハ出港稅ヲ逋脫シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處シ逋脫シタル出港稅ニ相當スル金額ヲ追徵ス

第二十條　出港稅ヲ逋脫シタル物品ノ運搬、寄藏、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十一條　内地又ハ樺太ニ於テ前二條ニ該當スル罪ニ付處分又ハ處罰セラレタルトキハ同一事件ニ付本令ニ依リ處分又ハ處罰ヲ受クルコトナシ

第二十二條　出港稅令第七條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條　出港稅令第九條ノ屆出ヲ爲サス又ハ虚僞ノ屆出ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十四條　當該官吏ノ職務ノ執行ヲ拒ミ之ヲ妨ケ若ハ忌避シ又ハ當該官吏ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十五條　出港稅ヲ課スヘキ物品ノ製造、販賣又ハ移出ヲ業トスル者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者其ノ業務ニ關シ第十九條、第二十條又ハ第二十二條ノ罪ヲ犯シタルトキハ出港稅ヲ課スヘキ物品ノ裝造、販賣又ハ移出ヲ業トスル者ヲ處罰ス

附　則

本令ハ大正十一年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別記樣式）

納稅濟證印並檢查濟證印

一　大形貨物ニ使用スルモノ

輪廓寸法、楕圓形長徑二寸短徑一寸五分

備考
一本印ハ箱、アンペラ包其ノ他類似ノ包裝物品ニ押捺スルモノ
二印材ハ護謨ヲ使用シ肉色ハ赤トス
二　小形貨物ニ使用スルモノ
輪廓寸法、圓形直徑一寸

備考
一印材ハ護謨ヲ使用シ肉色ハ赤トス
納稅濟證票並檢查濟證票　縱三寸
輪廓寸法　橫二寸

納稅濟證票
南洋廳「何」支廳
（又ハ「何」郵便局）印

檢查濟證票
南洋廳「何」支廳
（又ハ「何」郵便局）印

備考
一本票ハ鑑、壺、罐其ノ他證印ノ押捺ニ適セサル包裝ニ貼附スルモノ
二　印材ハ護謨ヲ使用シ肉色ハ赤トス

●南洋群島ニ於テ出港稅ヲ課セラレタル酒精、酒類其ノ他酒精含有飲料ノ出港稅ノ免除等ニ關スル件

（大正十五年九月二十日勅令第二百十九號）

第一條　南洋群島ニ於テ出港稅ヲ課セラレタル酒精、酒類其ノ他酒精含有飲料ノ出港稅ノ免除等ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

第二條　南洋群島ニ於テ出港稅ヲ課セラレ其ノ納付濟ナル酒精、酒類其ノ他酒精含有飲料ヲ內地ヨリ外國ニ輸出シ又ハ內地ニ於テ工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戾稅法ニ規定スル例ニ從ヒ工業用ニ使用シ若ハ供給シタルトキハ其ノ石數ニ付テハ請求ニ依リ出港稅ヲ免除ス

第三條　南洋群島ニ於テ出港稅ヲ課セラレ其ノ酒精、酒類其ノ他酒精含有飲料ヲ內地ヨリ外國ニ輸出シタルトキ又ハ內地ニ於テ工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戾稅法ニ規定スル例ニ從ヒ工業用ニ使用シ若ハ供給シタルトキハ其ノ石數ニ付テハ請求ニ依リ出港稅ヲ免除ス

第四條　第一條又ハ第二條ノ規定ニ依ル請求ヲ爲サムトスル者ハ酒精、酒類其ノ他酒精含有飲料ヲ內地ヨリ外國ニ輸出シタル場合ニ於テハ出港稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタル證明書類（納稅濟ナルトキハ納稅濟證明書）、輸出免狀及外國ニ陸揚シタルコトヲ證明スル書類

二　工業用ニ使用シ又ハ供給シタル場合ニ於テハ出港稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルコトヲ證明スル書類（納稅濟ナルトキハ納稅濟證明書）及工業用ニ使用シ又ハ供給シタルコトヲ證明スル書類

第五條　第一條又ハ第二條ノ規定ニ依ル請求ヲ爲サムトスル者ハ酒精、酒類其ノ他酒精含有飲料ヲ內地ヨリ外國ニ輸出シタル場合ニ於テハ出港稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルコトヲ證明スル書類（納稅濟ナルトキハ納稅濟證明書）、輸出免狀及外國ニ陸揚シタルコトヲ證明スル書類

二　工業用ニ使用シ又ハ供給シタル場合ニ於テハ出港稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルコトヲ證明スル書類（納稅濟ナルトキハ納稅濟證明書）及工業用ニ使用シ又ハ供給シタルコトヲ證明スル書類

第六條　第一條又ハ第二條ノ規定ニ依ル請求ヲ爲サムトスル者ハ酒精、酒類其ノ他酒精含有飲料ヲ內地ヨリ外國ニ輸出シタル場合ニ於テハ出港稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルコトヲ證明スル書類（納稅濟ナルトキハ納稅濟證明書）及工業用ニ使用シ又ハ供給シタルコトヲ證明スル書類

第七條　第一條又ハ第二條ノ規定ニ依ル請求ヲ爲サムトスル者ハ酒精、酒類其ノ他酒精含有飲料ヲ內地ヨリ外國ニ輸出シタル場合ニ於テハ出港稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルコトヲ證明スル書類（納稅濟ナルトキハ納稅濟證明書）及工業用ニ使用シ又ハ供給シタルコトヲ證明スル書類

第八條　第一條又ハ第二條ノ規定ニ依ル請求ヲ爲サムトスル者ハ酒精、酒類其ノ他酒精含有飲料ヲ內地ヨリ外國ニ輸出シタルコトノ證明書ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ所轄稅務署ニ之ヲ申請スヘシ

第九條　第一條又ハ第二條ノ規定ニ依ル請求ヲ爲サムトスル者ハ酒精、酒類其ノ他酒精含有飲料ヲ內地ヨリ外國ニ輸出シタル場合ニ於テハ出港稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルコトノ證明書ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ所轄稅務署ニ之ヲ申請スヘシ

第十條　第一條又ハ第二條ノ規定ニ依ル請求ヲ爲サムトスル者ハ酒精、酒類其ノ他酒精含有飲料ヲ內地ヨリ外國ニ輸出シタル場合ニ於テハ出港稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルコトノ證明書ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ所轄稅務署ニ之ヲ申請スヘシ

第十一條　第一條又ハ第二條ノ規定ニ依ル請求ヲ爲サムトスル者ハ酒精、酒類其ノ他酒精含有飲料ヲ內地ヨリ外國ニ輸出シタル場合ニ於テハ出港稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルコトノ證明書ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ所轄稅務署ニ之ヲ申請スヘシ

第十二條　第一條又ハ第二條ノ規定ニ依ル請求ヲ爲サムトスル者ハ酒精、酒類其ノ他酒精含有飲料ヲ內地ヨリ外國ニ輸出シタル場合ニ於テハ出港稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルコトノ證明書ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ所轄稅務署ニ之ヲ申請スヘシ

第十三條　第一條又ハ第二條ノ規定ニ依ル請求ヲ爲サムトスル者ハ酒精、酒類其ノ他酒精含有飲料ヲ內地ヨリ外國ニ輸出シタル場合ニ於テハ出港稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルコトノ證明書ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ所轄稅務署ニ之ヲ申請スヘシ

第十四條　第一條又ハ第二條ノ規定ニ依ル請求ヲ爲サムトスル者ハ酒精、酒類其ノ他酒精含有飲料ヲ內地ヨリ外國ニ輸出シタル場合ニ於テハ出港稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルコトノ證明書ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ所轄稅務署ニ之ヲ申請スヘシ

第十五條　第一條又ハ第二條ノ規定ニ依ル請求ヲ爲サムトスル者ハ酒精、酒類其ノ他酒精含有飲料ヲ內地ヨリ外國ニ輸出シタル場合ニ於テハ出港稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルコトノ證明書ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ所轄稅務署ニ之ヲ申請スヘシ

第十六條　第一條又ハ第二條ノ規定ニ依ル請求ヲ爲サムトスル者ハ酒精、酒類其ノ他酒精含有飲料ヲ內地ヨリ外國ニ輸出シタル場合ニ於テハ出港稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルコトノ證明書ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ所轄稅務署ニ之ヲ申請スヘシ

第十七條　第一條又ハ第二條ノ規定ニ依ル請求ヲ爲サムトスル者ハ酒精、酒類其ノ他酒精含有飲料ヲ內地ヨリ外國ニ輸出シタル場合ニ於テハ出港稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルコトノ證明書ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ所轄稅務署ニ之ヲ申請スヘシ

第十八條　戾稅官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ其ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第十九條　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ【不論罪】及減輕、【再犯加重、竝罪俱發】ノ例ヲ用ヰス但シ【刑法第七十五條第一項】ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十條　骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ製造又ハ販賣ヲ爲ス者其ノ責ニ任ス

第二十一條　本法ハ伊呂波加留多、歌加留多及政府ノ認許ヲ得タル骨牌ニ之ヲ適用セス

第二十一條ノ二　本法ヲ施行セサル地ニ於テ製造シタル骨牌ハ本法ト同一又ハ之ヨリ高キ稅率ヲ有スル法規ヲ其ノ地ニ於テ施行スル迄ハ之ヲ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違反シテ骨牌ヲ移入シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ骨牌ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス

附　則

第二十二條　本法ハ明治三十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十三條　本法施行一年前ヨリ骨牌ノ製造ヲ爲ス者ニシテ同一ノ場所ニ於テ引續キ骨牌ノ製造ヲ爲ス者ニハ第二條ヲ適用セス

第二十四條　本法施行前ヨリ骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者本法施行ノ日ヨリ七日以內ニ第一條ニ準シ政府ニ申告スルトキハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依リ免許ヲ受ケタルモノト看做ス

前項ニ依リ免許ヲ受ケタルモノト看做サレル者ノ所持ニ係ル骨牌ハ之ヲ廢毀スヘシ

第二十五條　本法施行ノ際骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ノ所持ニ係ル骨牌ハ之ヲ廢毀スヘシ

前項ニ違反シタル者ハ三百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ骨牌ハ之ヲ沒收ス

第二十六條　本法施行ノ際骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ノ所持ニ係ル骨牌ハ之ヲ沒收ス

前項ノ骨牌ハ之ヲ沒收ス

第二十七條　骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者骨牌ノ出入ニ關シ帳簿ノ記載ヲ怠リ又ハ之ヲ詐リタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條　骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ハ相當印紙ノ貼用ヲ怠リ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ヲ詐リタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條　骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ハ相當印紙ノ貼用ヲ怠リ又ハ第六條ノ裝置ヲ爲ササル骨牌ヲ所持スルコトヲ得ス

第三十條　相當印紙ノ貼用ヲ怠リ又ハ第六條ノ裝置ヲ爲ササル骨牌又ハ第七條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル骨牌ハ沒收ス

第三十一條　收稅官吏ハ骨牌ノ製造所、販賣所又ハ販賣者ニ就キ骨牌ノ製造又ハ販賣上必要ナル檢查ヲ爲スコトヲ得

第三十二條　外國ニ輸出スル骨牌及骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ノ見本ニ供スル骨牌ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ骨牌稅ヲ免除ス

前項ノ骨牌ニ付テハ第六條第九條第十條第十五條及第十六條ヲ適用セス

第三十三條　削除

第三十四條　免許ヲ受ケスシテ骨牌ノ製造ヲ爲シタル者ハ製造所及製造スヘキ骨牌ノ種類ヲ定メ免許申請書ヲ製造所所轄稅務署ニ提出スヘシ骨牌製造者製造所ヲ增設シ又ハ製造スル骨牌ノ種類ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

販賣所ヲ有シテ骨牌ヲ販賣セムトスル者ハ販賣所ヲ定メ免許申請書ヲ販賣所所轄稅務署ニ提出スヘシ骨牌販賣者販賣所ヲ增設セムトスルトキ亦同シ

販賣所ヲ有セスシテ骨牌ヲ販賣セムトスル者ハ免許申請書ヲ其ノ居所所轄稅務署ニ提出スヘシ

第三十五條　骨牌製造者製造所ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ製造所ヲ定メ許可申請書ヲ其ノ所轄稅務署ニ提出スヘシ

骨牌販賣者ニシテ販賣所ヲ有スル者販賣所ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ販賣所ヲ定メ其ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ

骨牌販賣者ニシテ販賣所ヲ有セサル者其ノ居所ヲ變更シタルトキハ其ノ旨新居所所轄稅務署ニ申告スヘシ

第三十六條　骨牌製造業又ハ骨牌販賣業ヲ相續シ又ハ合併ニ因リ骨牌製造業又ハ販賣業ヲ繼承シタル者ハ相續人又ハ合併ニ因リ設立シタル會社ハ其ノ被相續人又ハ合併ニ因リ消滅シタル會社ノ骨牌製造業又ハ販賣業ニ關シ本法ニ依リ爲シタル處分又ハ本法ニ依リ爲シタル申告ノ效力ヲ繼承ス

第三十七條　骨牌製造業又ハ販賣業ヲ廢止シタル者ハ骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲スコトヲ得ス

骨牌製造業又ハ販賣業ヲ廢止シタル者ハ骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲スコトヲ得ス

第三十八條　骨牌製造業又ハ販賣業ヲ廢止シタルトキハ讓受人ト連署シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第三十九條　骨牌製造者又ハ販賣者其ノ製造又ハ販賣ヲ廢止セムトスルトキハ免許取消申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第四十條　骨牌製造者又ハ販賣者其ノ製造又ハ販賣ヲ廢止セムトスルトキハ免許取消申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第四十一條　骨牌製造者ハ骨牌ノ製造ニ關シ帳簿ヲ備ヘ原料ノ種類、數量及其ノ受入ノ日

二　使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日

三　製造シタル骨牌ノ種類、組數及其ノ製造ノ日

四　貼用シタル印紙ノ金額

五　他ニ引渡シタル骨牌ノ種類、組數、價額、引渡シ日及其ノ引渡先

小賣ノ場合ニ於テハ前項第五號引渡先ノ記載ヲ要セス

第四十二條　骨牌販賣者ハ骨牌ノ販賣ニ關シ帳簿ヲ備ヘ

一　引取リタル骨牌ノ種類、組數、價額、引取ノ日及引取先

二　貼用シタル印紙ノ金額

三　販賣シタル骨牌ノ種類、組數、價額、販賣ノ日及賣渡先

小賣ノ場合ニ於テハ前項第三號賣渡先ノ記載ヲ要セス

第四十三條　骨牌ヲ外國ニ輸出シ骨牌稅ノ免除ヲ得ムトスル者ハ製造ノ際收稅官吏ノ承認ヲ受ケ他ノ骨牌ト區別シテ之ヲ藏置スヘシ

前項ノ骨牌ヲ運搬セムトスルトキハ運搬經路及運搬先又ハ輸出港ヲ定メ收稅官吏ノ承認ヲ受ケヘシ

前二項ノ場合ニ於テ收稅官吏必要ト認ムルトキハ其ノ骨牌ニ封印ヲ施シ又ハ之ヲ護送スルコトアルヘシ

第四十四條　骨牌ヲ外國ニ輸出シタルコトノ證明書ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ所轄稅關ニ、內地ニ於テ工業用ニ使用シ又ハ供給シタルコトノ證明書ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ所轄稅務署ニ之ヲ申請スヘシ

第四十五條　明治三十四年法律第十號施行規則及工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戾稅法施行規則ハ本令ノ施行ニ付之ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十六款　骨牌稅

●骨牌稅法

（明治三十五年四月五日法律第四十四號）

改正　大正十五年第二〇號（總理、大藏大臣副署）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル骨牌稅法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

骨牌稅法

第一條　骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲サムトスル者ハ政府ノ免許ヲ受クヘシ

前項ノ免許ハ骨牌ノ製造ヲ爲サムトスル者ニ在リテハ製造所每ニ骨牌ノ販賣ヲ爲サムトスル者ニシテ販賣所ヲ有スル者ニ在リテハ販賣所每ニ之ヲ受クヘシ

骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第二條　收稅官廳所在地外ニ於テハ政府ハ骨牌製造ノ免許ヲ與ヘス

第三條　削除

第四條　骨牌ニハ一組每ニ麻雀ニ在リテハ三圓、其ノ他ニ在リテハ五十錢ノ稅ヲ課ス

第五條　骨牌稅ハ骨牌ノ包裹ニ印紙ヲ貼用シテ之ヲ納ムヘシ

第六條　骨牌ヲ製造シ又ハ輸入シタルトキハ製造後二十四時間內又ハ稅關若ハ保稅倉庫ヨリ引取前ニ於テ一組每ニ包裹ヲ施シ貼用印紙ヲ破毀スル非サレハ骨牌ヲ取出スコトヲ得サルノ裝置ヲ爲スヘシ

第七條　貼用印紙ニハ印紙面ヨリ他所ニカケ消印ヲ爲スヘシ

第八條　骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ハ骨牌ノ出入ニ關シ詳細明瞭ナル其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第九條　骨牌製造業又ハ販賣業ヲ廢止シタル者ハ骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲スコトヲ得ス

骨牌製造業又ハ販賣業ヲ廢止シタルトキハ讓受人ト連署シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十條　骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ハ相當印紙ノ貼用ヲ怠リ又ハ第六條ノ裝置ヲ爲ササル骨牌ヲ所持スルコトヲ得ス

第十一條　收稅官吏ハ骨牌ノ製造所、販賣所又ハ販賣者ニ就キ骨牌ノ製造又ハ販賣上必要ナル檢查ヲ爲スコトヲ得

第十二條　外國ニ輸出スル骨牌及骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ノ見本ニ供スル骨牌ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ骨牌稅ヲ免除ス

前項ノ骨牌ニ付テハ第六條第九條第十條第十五條及第十六條ヲ適用セス

第十三條　削除

第十四條　免許ヲ受ケスシテ骨牌ノ製造ヲ爲シタル者ハ製造所及製造スヘキ骨牌ノ種類ヲ定メ免許申請書ヲ製造所所轄稅務署ニ提出スヘシ骨牌製造者製造所ヲ增設シ又ハ製造スル骨牌ノ種類ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

販賣所ヲ有シテ骨牌ヲ販賣セムトスル者ハ販賣所ヲ定メ免許申請書ヲ販賣所所轄稅務署ニ提出スヘシ骨牌販賣者販賣所ヲ增設セムトスルトキ亦同シ

販賣所ヲ有セスシテ骨牌ヲ販賣セムトスル者ハ免許申請書ヲ其ノ居所所轄稅務署ニ提出スヘシ

第十五條　骨牌製造者製造所ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ製造所ヲ定メ許可申請書ヲ其ノ所轄稅務署ニ提出スヘシ

骨牌販賣者ニシテ販賣所ヲ有スル者販賣所ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ販賣所ヲ定メ其ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ

骨牌販賣者ニシテ販賣所ヲ有セサル者其ノ居所ヲ變更シタルトキハ其ノ旨新居所所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十六條　骨牌製造業又ハ骨牌販賣業ヲ相續シ又ハ合併ニ因リ骨牌製造業又ハ販賣業ヲ繼承シタル者ハ相續人又ハ合併ニ因リ設立シタル會社ハ其ノ被相續人又ハ合併ニ因リ消滅シタル會社ノ骨牌製造業又ハ販賣業ニ關シ本法ニ依リ爲シタル處分又ハ本法ニ依リ爲シタル申告ノ效力ヲ繼承ス

第十七條　骨牌製造業又ハ販賣業ヲ廢止シタル者ハ骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲スコトヲ得ス

骨牌製造業又ハ販賣業ヲ廢止シタルトキハ讓受人ト連署シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十八條　收稅官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ其ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第十九條　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ【不論罪】及減輕、【再犯加重、竝罪俱發】ノ例ヲ用ヰス但シ【刑法第七十五條第一項】ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十條　骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ製造又ハ販賣ヲ爲ス者其ノ責ニ任ス

第二十一條　本法ハ伊呂波加留多、歌加留多及政府ノ認許ヲ得タル骨牌ニ之ヲ適用セス

第二十一條ノ二　本法ヲ施行セサル地ニ於テ製造シタル骨牌ハ本法ト同一又ハ之ヨリ高キ稅率ヲ有スル法規ヲ其ノ地ニ於テ施行スル迄ハ之ヲ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違反シテ骨牌ヲ移入シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ骨牌ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス

附　則

第二十二條　本法ハ明治三十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十三條　本法施行一年前ヨリ骨牌ノ製造ヲ爲ス者ニシテ同一ノ場所ニ於テ引續キ骨牌ノ製造ヲ爲ス者ニハ第二條ヲ適用セス

第二十四條　本法施行前ヨリ骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者本法施行ノ日ヨリ七日以內ニ第一條ニ準シ政府ニ申告スルトキハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依リ免許ヲ受ケタルモノト看做ス

前項ニ依リ免許ヲ受ケタルモノト看做サレル者ノ所持ニ係ル骨牌ハ之ヲ廢毀スヘシ

第二十五條　本法施行ノ際骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ノ所持ニ係ル骨牌ハ之ヲ廢毀スヘシ

前項ニ違反シタル者ハ三百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ骨牌ハ之ヲ沒收ス

第二十六條　本法施行ノ際骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ノ所持ニ係ル骨牌ハ之ヲ沒收ス

前項ノ骨牌ハ之ヲ沒收ス

第二十七條　骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者骨牌ノ出入ニ關シ帳簿ノ記載ヲ怠リ又ハ之ヲ詐リタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條　骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ハ相當印紙ノ貼用ヲ怠リ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ヲ詐リタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條　骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ハ相當印紙ノ貼用ヲ怠リ又ハ第六條ノ裝置ヲ爲ササル骨牌又ハ第七條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル骨牌ヲ所持スルコトヲ得ス

第三十條　相當印紙ノ貼用ヲ怠リ又ハ第六條ノ裝置ヲ爲ササル骨牌又ハ第七條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル骨牌ハ沒收ス

第三十一條　收稅官吏ハ骨牌ノ製造所、販賣所又ハ販賣者ニ就キ骨牌ノ製造又ハ販賣上必要ナル檢查ヲ爲スコトヲ得

第三十二條　外國ニ輸出スル骨牌及骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ノ見本ニ供スル骨牌ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ骨牌稅ヲ免除ス

前項ノ骨牌ニ付テハ第六條第九條第十條第十五條及第十六條ヲ適用セス

第三十三條　削除

第三十四條　免許ヲ受ケスシテ骨牌ノ製造ヲ爲シタル者ハ製造所及製造スヘキ骨牌ノ種類ヲ定メ免許申請書ヲ製造所所轄稅務署ニ提出スヘシ骨牌製造者製造所ヲ增設シ又ハ製造スル骨牌ノ種類ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

販賣所ヲ有シテ骨牌ヲ販賣セムトスル者ハ販賣所ヲ定メ免許申請書ヲ販賣所所轄稅務署ニ提出スヘシ骨牌販賣者販賣所ヲ增設セムトスルトキ亦同シ

販賣所ヲ有セスシテ骨牌ヲ販賣セムトスル者ハ免許申請書ヲ其ノ居所所轄稅務署ニ提出スヘシ

第三十五條　骨牌製造者製造所ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ製造所ヲ定メ許可申請書ヲ其ノ所轄稅務署ニ提出スヘシ

骨牌販賣者ニシテ販賣所ヲ有スル者販賣所ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ販賣所ヲ定メ其ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ

骨牌販賣者ニシテ販賣所ヲ有セサル者其ノ居所ヲ變更シタルトキハ其ノ旨新居所所轄稅務署ニ申告スヘシ

第三十六條　骨牌製造業又ハ骨牌販賣業ヲ相續シ又ハ合併ニ因リ骨牌製造業又ハ販賣業ヲ繼承シタル者ハ相續人又ハ合併ニ因リ設立シタル會社ハ其ノ被相續人又ハ合併ニ因リ消滅シタル會社ノ骨牌製造業又ハ販賣業ニ關シ本法ニ依リ爲シタル處分又ハ本法ニ依リ爲シタル申告ノ效力ヲ繼承ス

第三十七條　骨牌製造業又ハ販賣業ヲ廢止シタル者ハ骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲スコトヲ得ス

骨牌製造業又ハ販賣業ヲ廢止シタルトキハ讓受人ト連署シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第三十八條　骨牌製造業又ハ販賣業ヲ廢止シタルトキハ讓受人ト連署シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第三十九條　骨牌製造者又ハ販賣者其ノ製造又ハ販賣ヲ廢止セムトスルトキハ免許取消申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第四十條　骨牌製造者又ハ販賣者其ノ製造又ハ販賣ヲ廢止セムトスルトキハ免許取消申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第四十一條　骨牌製造者ハ骨牌ノ製造ニ關シ帳簿ヲ備ヘ原料ノ種類、數量及其ノ受入ノ日

二　使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日

三　製造シタル骨牌ノ種類、組數及其ノ製造ノ日

四　貼用シタル印紙ノ金額

五　他ニ引渡シタル骨牌ノ種類、組數、價額、引渡シ日及其ノ引渡先

小賣ノ場合ニ於テハ前項第五號引渡先ノ記載ヲ要セス

第四十二條　骨牌販賣者ハ骨牌ノ販賣ニ關シ帳簿ヲ備ヘ

一　引取リタル骨牌ノ種類、組數、價額、引取ノ日及引取先

二　貼用シタル印紙ノ金額

三　販賣シタル骨牌ノ種類、組數、價額、販賣ノ日及賣渡先

小賣ノ場合ニ於テハ前項第三號賣渡先ノ記載ヲ要セス

第四十三條　骨牌ヲ外國ニ輸出シ骨牌稅ノ免除ヲ得ムトスル者ハ製造ノ際收稅官吏ノ承認ヲ受ケ他ノ骨牌ト區別シテ之ヲ藏置スヘシ

前項ノ骨牌ヲ運搬セムトスルトキハ運搬經路及運搬先又ハ輸出港ヲ定メ收稅官吏ノ承認ヲ受ケヘシ

前二項ノ場合ニ於テ收稅官吏必要ト認ムルトキハ其ノ骨牌ニ封印ヲ施シ又ハ之ヲ護送スルコトアルヘシ

第四十四條　骨牌ヲ外國ニ輸出シタルコトノ證明書ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ所轄稅關ニ、內地ニ於テ工業用ニ使用シ又ハ供給シタルコトノ證明書ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ所轄稅務署ニ之ヲ申請スヘシ

第四十五條　明治三十四年法律第十號施行規則及工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戾稅法施行規則ハ本令ノ施行ニ付之ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●骨牌稅法施行規則

（明治三十五年五月二十三日勅令第百五十四號）

改正　大正七年第三五九號、一五年第三六號

骨牌稅法施行規則ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

骨牌稅法施行規則

第一條　骨牌ヲ製造セムトスル者ハ製造所及製造スヘキ骨牌ノ種類ヲ定メ免許申請書ヲ製造所所轄稅務署ニ提出スヘシ骨牌製造者製造所ヲ增設シ又ハ製造スル骨牌ノ種類ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

販賣所ヲ有シテ骨牌ヲ販賣セムトスル者ハ販賣所ヲ定メ免許申請書ヲ販賣所所轄稅務署ニ提出スヘシ骨牌販賣者販賣所ヲ增設セムトスルトキ亦同シ

販賣所ヲ有セスシテ骨牌ヲ販賣セムトスル者ハ免許申請書ヲ其ノ居所所轄稅務署ニ提出スヘシ

第二條　骨牌製造者製造所ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ製造所ヲ定メ許可申請書ヲ其ノ所轄稅務署ニ提出スヘシ

骨牌販賣者ニシテ販賣所ヲ有スル者販賣所ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ販賣所ヲ定メ其ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ

骨牌販賣者ニシテ販賣所ヲ有セサル者其ノ居所ヲ變更シタルトキハ其ノ旨新居所所轄稅務署ニ申告スヘシ

第三條　骨牌製造業又ハ骨牌販賣業ヲ相續シ又ハ合併ニ因リ骨牌製造業又ハ販賣業ヲ繼承シタル者ハ相續人又ハ合併ニ因リ設立シタル會社ハ其ノ被相續人又ハ合併ニ因リ消滅シタル會社ノ骨牌製造業又ハ販賣業ニ關シ本法ニ依リ爲シタル處分又ハ本法ニ依リ爲シタル申告ノ效力ヲ繼承ス

第四條　骨牌製造業又ハ骨牌販賣業ヲ廢止シタル者ハ骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲スコトヲ得ス

骨牌製造業又ハ販賣業ヲ廢止シタルトキハ讓受人ト連署シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第五條　骨牌製造者又ハ販賣者其ノ製造又ハ販賣ヲ廢止セムトスルトキハ免許取消申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第六條　骨牌製造者ハ骨牌ノ製造ニ關シ帳簿ヲ備ヘ原料ノ種類、數量及其ノ受入ノ日

二　使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日

三　製造シタル骨牌ノ種類、組數及其ノ製造ノ日

四　貼用シタル印紙ノ金額

五　他ニ引渡シタル骨牌ノ種類、組數、價額、引渡シ日及其ノ引渡先

小賣ノ場合ニ於テハ前項第五號引渡先ノ記載ヲ要セス

第七條　骨牌製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　原料ノ種類、數量及其ノ受入ノ日

二　使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日

三　製造シタル骨牌ノ種類、組數及其ノ製造ノ日

第八條　骨牌販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　引取リタル骨牌ノ種類、組數、價額、引取ノ日及引取先

二　貼用シタル印紙ノ金額

三　販賣シタル骨牌ノ種類、組數、價額、販賣ノ日及賣渡先

小賣ノ場合ニ於テハ前項第三號賣渡先ノ記載ヲ要セス

第九條　骨牌ヲ外國ニ輸出シ骨牌稅ノ免除ヲ得ムトスル者ハ製造ノ際收稅官吏ノ承認ヲ受ケ他ノ骨牌ト區別シテ之ヲ藏置スヘシ

前項ノ骨牌ヲ運搬セムトスルトキハ運搬經路及運搬先又ハ輸出港ヲ定メ收稅官吏ノ承認ヲ受ケヘシ

前二項ノ場合ニ於テ收稅官吏必要ト認ムルトキハ其ノ骨牌ニ封印ヲ施シ又ハ之ヲ護送スルコトアルヘシ

第十條　骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ハ相當印紙ノ貼用ヲ怠リ又ハ第六條ノ裝置ヲ爲ササル骨牌ヲ所持スルコトヲ得ス

第十一條　收稅官吏ハ骨牌ノ製造所、販賣所又ハ販賣者ニ就キ骨牌ノ製造又ハ販賣上必要ナル檢查ヲ爲スコトヲ得

第十二條　外國ニ輸出スル骨牌及骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ノ見本ニ供スル骨牌ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ骨牌稅ヲ免除ス

前項ノ骨牌ニ付テハ第六條第九條第十條第十五條及第十六條ヲ適用セス

第十三條　削除

第十四條　免許ヲ受ケスシテ骨牌ノ製造ヲ爲シタル者ハ製造所及製造スヘキ骨牌ノ種類ヲ定メ免許申請書ヲ製造所所轄稅務署ニ提出スヘシ骨牌製造者製造所ヲ增設シ又ハ製造スル骨牌ノ種類ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

販賣所ヲ有シテ骨牌ヲ販賣セムトスル者ハ販賣所ヲ定メ免許申請書ヲ販賣所所轄稅務署ニ提出スヘシ骨牌販賣者販賣所ヲ增設セムトスルトキ亦同シ

販賣所ヲ有セスシテ骨牌ヲ販賣セムトスル者ハ免許申請書ヲ其ノ居所所轄稅務署ニ提出スヘシ

第十五條　骨牌製造者製造所ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ製造所ヲ定メ許可申請書ヲ其ノ所轄稅務署ニ提出スヘシ

骨牌販賣者ニシテ販賣

第十條　外國輸出ノ承認ヲ得タル骨牌ニシテ承認後六箇月以内ニ於テ輸出セサルトキ又ハ輸出ノ目的ヲ廢止シタルトキハ骨牌製造者又ハ輸出者ハ直ニ包裝ヲ施シ之ニ印紙ヲ貼用シ收稅官吏ノ承認ヲ受ケヘシ

前項ニ依リ骨牌ニ包裝ヲ施シタルトキハ製造者ハ之ニ其ノ氏名又ハ名稱及製造所在地輸出者ハ之ニ其ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載スヘシ

第十一條　見本ニ供スヘキ骨牌ハ收稅官吏ニ申出見本ナルコトヲ明ニスヘキ印章ノ押捺ヲ受クヘシ

第十二條　骨牌稅法第二十一條ニ依リ政府ノ認許ヲ得ムトスル者ハ骨牌ノ雛形及用法ヲ添ヘ申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第十三條　骨牌製造者製造所所在地ニ現住セサルトキハ骨牌稅ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲管理人ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十四條　收稅官吏ハ骨牌ノ製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

附　則

第十五條　本令ハ明治三十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十六條　骨牌稅法第二十四條第一項ニ依リ政府ニ申告セムトスル者ハ第一條ニ準シテ申告書ヲ提出スヘシ

第十七條　前條ノ申告ヲ爲シタル者骨牌稅法施行ノ際同法第二十五條ニ依リ骨牌ニ包裝ヲ施シタルトキハ之ニ第六條ノ記載ヲ爲スヘシ

第十八條　骨牌稅法施行ノ際骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ノ所持ニ係ル骨牌ヲ外國ニ輸出シ骨牌稅ノ免除ヲ得ムトスル者ニ付テハ第九條及第十條ヲ準用ス

第十九條　明治三十五年ニ限リ免許料ハ七月中ニ之ヲ納ムヘシ

第五條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

附　則（大正七年勅令第三百五十九號）

本令ハ大正七年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十五年勅令第百五十五號ハ之ヲ廢止ス但シ當分ノ内收入印紙ニ代ヘ骨牌印紙ヲ使用スルコトヲ得

●骨牌稅法施行細則

明治三十五年六月二十二日
大藏省令第四十七號
改正　大正一五年第五五號

骨牌稅法施行細則左ノ通相定ム

骨牌稅法施行細則

第一條　骨牌ヲ製造セントスル者ハ製造所及製造スヘキ骨牌ノ種類ヲ定メ免許申請書ヲ製造所所轄廳ニ提出スヘシ骨牌製造者製造所ヲ增設シ又ハ製造スル骨牌ノ種類ヲ變更セントスルトキ亦同シ

販賣ヲ爲サントスル者ハ販賣所ヲ有シテ骨牌ヲ販賣セントスル者ハ販賣所ヲ有シテ骨牌ヲ販賣セントスル者ハ販賣所ヲ定メ免許申請書ヲ提出スヘシ骨牌販賣者販賣所ヲ增設セントスルトキ亦同シ

販賣所ヲ有セシテ骨牌ヲ販賣セントスル者ハ販賣所ヲ定メ免許申請書ヲ販賣所ノ所轄廳ニ提出スヘシ骨牌販賣者製造所ヲ增設シ又ハ製造スル骨牌ノ種類ヲ變更セントスルトキ亦同シ

第二條　骨牌製造者製造所ヲ移轉セントスルトキハ移轉先ノ製造所ヲ定メ許可申請書ヲ其ノ所轄廳ニ提出スヘシ骨牌販賣者ニシテ販賣所ヲ有スル者販賣所ヲ移轉セントスルトキハ移轉先ノ販賣所ヲ定メ其ノ所轄廳ニ申告スヘシ

骨牌販賣者ニシテ販賣所ヲ有セサル者其ノ居所ヲ變更シタルトキハ其ノ旨竝居所所轄廳ニ申告スヘシ

第三條　骨牌製造業又ハ骨牌販賣業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄廳ニ申告スヘシ

骨牌製造業又ハ販賣業ヲ讓渡サントスルトキハ讓受人連署シ所轄廳ニ申告スヘシ

第四條　骨牌製造者又ハ販賣者其ノ製造又ハ販賣ヲ廢止セントスルトキハ免許取消申請書ヲ所轄廳ニ提出スヘシ

第五條　削除

第六條　骨牌ニ貼付スル印紙ハ收入印紙トス

第七條　骨牌ニ包裝ヲ施シタルトキハ製造者ハ之ニ其ノ氏名又ハ名稱及製造所所在地輸入者ハ之ニ其ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載スヘシ

第八條　骨牌製造者ハ骨牌製造帳（別記第一號書式）骨牌販賣者ハ骨牌販賣帳（別記第二號書式）ヲ備ヘ各其ノ事項ヲ記載スヘシ

第九條　前條ノ帳簿ハ使用濟ノ日ヨリ滿三箇年間保存スヘシ

第十條　骨牌ヲ外國ニ輸出シ骨牌稅ノ免除ヲ得シトスル者ハ製造ノ際收稅官吏ノ承認ヲ受ケ他ノ骨牌ト區別シテ之ヲ藏置スヘシ

前項ノ骨牌ヲ運搬セントスルトキハ運搬線路及運搬先又ハ輸出港ヲ定メ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ

第二項ノ場合ニ於テ收稅官吏必要ト認ムルトキハ其ノ骨牌ニ封印ヲ施シ又ハ之ヲ護送スルコトアルヘシ

第十一條　外國輸出ノ承認ヲ得タル骨牌ニシテ承認後六箇月以内ニ於テ輸出セサルトキハ骨牌製又ハ輸出ノ目的ヲ廢止シタルトキハ骨牌製造者又ハ輸出者ハ直ニ包裝ヲ施シ之ニ印紙ヲ貼用シ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ

前項ニ依リ骨牌ニ包裝ヲ施シタルトキハ製造者ハ之ニ其ノ氏名又ハ名稱及製造所ノ所在地輸出者ハ之ニ其ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載スヘシ

第十二條　見本ニ供スヘキ骨牌ハ收稅官吏ニ申出見本ナルコトヲ明ニスヘキ印章ノ押捺ヲ受クヘシ

第十三條　骨牌稅法第二十一條ニ依リ政府ノ認許ヲ得シトス者ハ骨牌ノ雛形及用法ヲ添ヘ申請書ヲ所轄廳ニ提出スヘシ

第十四條　骨牌製造者製造所所在地ニ現住セサルトキハ骨牌稅ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲管理人ヲ定メ所轄廳ニ申告スヘシ

第十五條　骨牌製造者ハ製造所、販賣所ヲ有スル販賣者ハ住所ノ戸外見易キ場所ニ別記雛形ノ木札ヲ揭出スヘシ

第十六條　收稅官吏ハ骨牌ノ製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第十七條　削除

第十八條　削除

附　則

第十九條　此ノ細則ハ明治三十五年七月一日ヨリ施行ス

第二十條　骨牌稅法第二十四條第一項ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第一條ニ準シテ申告書ヲ提出スヘシ

第二十一條　前條ノ申告ヲ爲シタル者骨牌稅法施行ノ際同法第二十五條ニ依リ骨牌ニ包裝ヲ施シタルトキハ之ニ第七條ノ記載ヲ爲スヘシ

前項ニ違背シタル者ハ第十七條ヲ適用ス

第二十二條　骨牌稅法施行ノ際骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ノ所持ニ係ル骨牌ヲ外國ニ輸出シ骨牌稅ノ免除ヲ得シトスル者ニ付テハ第十條及第十一條ニ準シテ之ヲ取扱フ

第二十三條　骨牌稅法第二十一條ニ依リ政府ノ認許ヲ得シトス者ハ骨牌ノ雛形及用法ヲ添ヘ申請書ヲ所轄廳ニ提出スヘシ

第二十四條　骨牌製造者製造所所在地ニ現住セサルトキハ骨牌稅ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲管理人ヲ定メ所轄廳ニ申告スヘシ

第二十五條　骨牌製造者ハ製造所、販賣所ヲ有スル販賣者ハ住所ノ戸外見易キ場所ニ別記雛形ノ木札ヲ揭出スヘシ

第二十六條　收稅官吏ハ骨牌ノ製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第二十七條　削除

第二十八條　削除

附　則

第二十九條　此ノ細則ハ明治三十五年七月一日ヨリ施行ス

第三十條　骨牌稅法第二十四條第一項ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第一條ニ準シテ申告書ヲ提出スヘシ

第三十一條　骨牌稅法第二十五條ニ依リ骨牌ニ包裝ヲ施シタルトキハ之ニ第七條ノ記載ヲ爲スヘシ

第三十二條　見本ニ供スヘキ骨牌ハ收稅官吏ニ申出見本ナルコトヲ明ニスヘキ印章ノ押捺ヲ受クヘシ

第三十三條　骨牌稅法第二十一條ニ依リ政府ノ認許ヲ得シトス者ハ骨牌ノ雛形及用法ヲ添ヘ申請書ヲ所轄廳ニ提出スヘシ

第三十四條　骨牌製造者製造所所在地ニ現住セサルトキハ骨牌稅ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲管理人ヲ定メ所轄廳ニ申告スヘシ

第三十五條　骨牌製造者ハ製造所、販賣所ヲ有スル販賣者ハ住所ノ戸外見易キ場所ニ別記雛形ノ木札ヲ揭出スヘシ

第三十六條　收稅官吏ハ骨牌ノ製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第三十七條　削除

第三十八條　削除

附　則

第三十九條　此ノ細則ハ明治三十五年七月一日ヨリ施行ス

第四十條　骨牌稅法第二十四條第一項ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第一條ニ準シテ申告書ヲ提出スヘシ

第四十一條　骨牌稅法第二十五條ニ依リ骨牌ニ包裝ヲ施シタルトキハ之ニ第七條ノ記載ヲ爲スヘシ

第四十二條　見本ニ供スヘキ骨牌ハ收稅官吏ニ申出見本ナルコトヲ明ニスヘキ印章ノ押捺ヲ受クヘシ

第四十三條　骨牌稅法第二十一條ニ依リ政府ノ認許ヲ得シトス者ハ骨牌ノ雛形及用法ヲ添ヘ申請書ヲ所轄廳ニ提出スヘシ

第四十四條　骨牌製造者製造所所在地ニ現住セサルトキハ骨牌稅ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲管理人ヲ定メ所轄廳ニ申告スヘシ

第四十五條　骨牌製造者ハ製造所、販賣所ヲ有スル販賣者ハ住所ノ戸外見易キ場所ニ別記雛形ノ木札ヲ揭出スヘシ

第四十六條　收稅官吏ハ骨牌ノ製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第四十七條　削除

第四十八條　削除

附　則

第四十九條　此ノ細則ハ明治三十五年七月一日ヨリ施行ス

第五十條　骨牌稅法第二十四條第一項ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第一條ニ準シテ申告書ヲ提出スヘシ

第五十一條　骨牌稅法第二十五條ニ依リ骨牌ニ包裝ヲ施シタルトキハ之ニ第七條ノ記載ヲ爲スヘシ

第五十二條　見本ニ供スヘキ骨牌ハ收稅官吏ニ申出見本ナルコトヲ明ニスヘキ印章ノ押捺ヲ受クヘシ

第五十三條　骨牌稅法第二十一條ニ依リ政府ノ認許ヲ得シトス者ハ骨牌ノ雛形及用法ヲ添ヘ申請書ヲ所轄廳ニ提出スヘシ

第五十四條　骨牌製造者製造所所在地ニ現住セサルトキハ骨牌稅ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲管理人ヲ定メ所轄廳ニ申告スヘシ

第五十五條　骨牌製造者ハ製造所、販賣所ヲ有スル販賣者ハ住所ノ戸外見易キ場所ニ別記雛形ノ木札ヲ揭出スヘシ

第五十六條　收稅官吏ハ骨牌ノ製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第五十七條　削除

第五十八條　削除

附　則

第五十九條　此ノ細則ハ明治三十五年七月一日ヨリ施行ス

第六十條　骨牌稅法第二十四條第一項ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第一條ニ準シテ申告書ヲ提出スヘシ

第六十一條　骨牌稅法第二十五條ニ依リ骨牌ニ包裝ヲ施シタルトキハ之ニ第七條ノ記載ヲ爲スヘシ

第六十二條　見本ニ供スヘキ骨牌ハ收稅官吏ニ申出見本ナルコトヲ明ニスヘキ印章ノ押捺ヲ受クヘシ

第六十三條　骨牌稅法第二十一條ニ依リ政府ノ認許ヲ得シトス者ハ骨牌ノ雛形及用法ヲ添ヘ申請書ヲ所轄廳ニ提出スヘシ

第六十四條　骨牌製造者製造所所在地ニ現住セサルトキハ骨牌稅ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲管理人ヲ定メ所轄廳ニ申告スヘシ

第六十五條　骨牌製造者ハ製造所、販賣所ヲ有スル販賣者ハ住所ノ戸外見易キ場所ニ別記雛形ノ木札ヲ揭出スヘシ

第六十六條　收稅官吏ハ骨牌ノ製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第六十七條　削除

第六十八條　削除

附　則

第六十九條　此ノ細則ハ明治三十五年七月一日ヨリ施行ス

第七十條　骨牌稅法第二十四條第一項ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第一條ニ準シテ申告書ヲ提出スヘシ

第七十一條　骨牌稅法第二十五條ニ依リ骨牌ニ包裝ヲ施シタルトキハ之ニ第七條ノ記載ヲ爲スヘシ

第七十二條　見本ニ供スヘキ骨牌ハ收稅官吏ニ申出見本ナルコトヲ明ニスヘキ印章ノ押捺ヲ受クヘシ

第七十三條　骨牌稅法第二十一條ニ依リ政府ノ認許ヲ得シトス者ハ骨牌ノ雛形及用法ヲ添ヘ申請書ヲ所轄廳ニ提出スヘシ

第七十四條　骨牌製造者製造所所在地ニ現住セサルトキハ骨牌稅ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲管理人ヲ定メ所轄廳ニ申告スヘシ

第七十五條　骨牌製造者ハ製造所、販賣所ヲ有スル販賣者ハ住所ノ戸外見易キ場所ニ別記雛形ノ木札ヲ揭出スヘシ

第七十六條　收稅官吏ハ骨牌ノ製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第七十七條　削除

第七十八條　削除

附　則

第七十九條　此ノ細則ハ明治三十五年七月一日ヨリ施行ス

第八十條　骨牌稅法第二十四條第一項ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第一條ニ準シテ申告書ヲ提出スヘシ

第八十一條　骨牌稅法第二十五條ニ依リ骨牌ニ包裝ヲ施シタルトキハ之ニ第七條ノ記載ヲ爲スヘシ

第八十二條　見本ニ供スヘキ骨牌ハ收稅官吏ニ申出見本ナルコトヲ明ニスヘキ印章ノ押捺ヲ受クヘシ

第八十三條　骨牌稅法第二十一條ニ依リ政府ノ認許ヲ得シトス者ハ骨牌ノ雛形及用法ヲ添ヘ申請書ヲ所轄廳ニ提出スヘシ

第八十四條　骨牌製造者製造所所在地ニ現住セサルトキハ骨牌稅ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲管理人ヲ定メ所轄廳ニ申告スヘシ

第八十五條　骨牌製造者ハ製造所、販賣所ヲ有スル販賣者ハ住所ノ戸外見易キ場所ニ別記雛形ノ木札ヲ揭出スヘシ

第八十六條　收稅官吏ハ骨牌ノ製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第八十七條　削除

第八十八條　削除

附　則

第八十九條　此ノ細則ハ明治三十五年七月一日ヨリ施行ス

第九十條　骨牌稅法第二十四條第一項ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第一條ニ準シテ申告書ヲ提出スヘシ

第九十一條　骨牌稅法第二十五條ニ依リ骨牌ニ包裝ヲ施シタルトキハ之ニ第七條ノ記載ヲ爲スヘシ

第九十二條　見本ニ供スヘキ骨牌ハ收稅官吏ニ申出見本ナルコトヲ明ニスヘキ印章ノ押捺ヲ受クヘシ

第九十三條　骨牌稅法第二十一條ニ依リ政府ノ認許ヲ得シトス者ハ骨牌ノ雛形及用法ヲ添ヘ申請書ヲ所轄廳ニ提出スヘシ

第九十四條　骨牌製造者製造所所在地ニ現住セサルトキハ骨牌稅ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲管理人ヲ定メ所轄廳ニ申告スヘシ

第九十五條　骨牌製造者ハ製造所、販賣所ヲ有スル販賣者ハ住所ノ戸外見易キ場所ニ別記雛形ノ木札ヲ揭出スヘシ

第九十六條　收稅官吏ハ骨牌ノ製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第九十七條　削除

第九十八條　削除

附　則

第九十九條　此ノ細則ハ明治三十五年七月一日ヨリ施行ス

第百條　骨牌稅法第二十四條第一項ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第一條ニ準シテ申告書ヲ提出スヘシ

第百一條　骨牌稅法第二十五條ニ依リ骨牌ニ包裝ヲ施シタルトキハ之ニ第七條ノ記載ヲ爲スヘシ

第百二條　見本ニ供スヘキ骨牌ハ收稅官吏ニ申出見本ナルコトヲ明ニスヘキ印章ノ押捺ヲ受クヘシ

第百三條　骨牌稅法第二十一條ニ依リ政府ノ認許ヲ得シトス者ハ骨牌ノ雛形及用法ヲ添ヘ申請書ヲ所轄廳ニ提出スヘシ

第百四條　骨牌製造者製造所所在地ニ現住セサルトキハ骨牌稅ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲管理人ヲ定メ所轄廳ニ申告スヘシ

第百五條　骨牌製造者ハ製造所、販賣所ヲ有スル販賣者ハ住所ノ戸外見易キ場所ニ別記雛形ノ木札ヲ揭出スヘシ

第百六條　收稅官吏ハ骨牌ノ製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第百七條　削除

第百八條　削除

附　則

第百九條　此ノ細則ハ明治三十五年七月一日ヨリ施行ス

第百十條　骨牌稅法第二十四條第一項ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第一條ニ準シテ申告書ヲ提出スヘシ

第百十一條　骨牌稅法第二十五條ニ依リ骨牌ニ包裝ヲ施シタルトキハ之ニ第七條ノ記載ヲ爲スヘシ

第百十二條　見本ニ供スヘキ骨牌ハ收稅官吏ニ申出見本ナルコトヲ明ニスヘキ印章ノ押捺ヲ受クヘシ

第百十三條　骨牌稅法第二十一條ニ依リ政府ノ認許ヲ得シトス者ハ骨牌ノ雛形及用法ヲ添ヘ申請書ヲ所轄廳ニ提出スヘシ

第百十四條　骨牌製造者製造所所在地ニ現住セサルトキハ骨牌稅ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲管理人ヲ定メ所轄廳ニ申告スヘシ

第百十五條　骨牌製造者ハ製造所、販賣所ヲ有スル販賣者ハ住所ノ戸外見易キ場所ニ別記雛形ノ木札ヲ揭出スヘシ

第百十六條　收稅官吏ハ骨牌ノ製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第百十七條　削除

第百十八條　削除

附　則

第百十九條　此ノ細則ハ明治三十五年七月一日ヨリ施行ス

第百二十條　骨牌稅法第二十四條第一項ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第一條ニ準シテ申告書ヲ提出スヘシ

第百二十一條　骨牌稅法第二十五條ニ依リ骨牌ニ包裝ヲ施シタルトキハ之ニ第七條ノ記載ヲ爲スヘシ

第百二十二條　見本ニ供スヘキ骨牌ハ收稅官吏ニ申出見本ナルコトヲ明ニスヘキ印章ノ押捺ヲ受クヘシ

第百二十三條　骨牌稅法第二十一條ニ依リ政府ノ認許ヲ得シトス者ハ骨牌ノ雛形及用法ヲ添ヘ申請書ヲ所轄廳ニ提出スヘシ

第百二十四條　骨牌製造者製造所所在地ニ現住セサルトキハ骨牌稅ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲管理人ヲ定メ所轄廳ニ申告スヘシ

第百二十五條　骨牌製造者ハ製造所、販賣所ヲ有スル販賣者ハ住所ノ戸外見易キ場所ニ別記雛形ノ木札ヲ揭出スヘシ

第百二十六條　收稅官吏ハ骨牌ノ製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第百二十七條　削除

第百二十八條　削除

附　則

第百二十九條　此ノ細則ハ明治三十五年七月一日ヨリ施行ス

第百三十條　骨牌稅法第二十四條第一項ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第一條ニ準シテ申告書ヲ提出スヘシ

第百三十一條　骨牌稅法第二十五條ニ依リ骨牌ニ包裝ヲ施シタルトキハ之ニ第七條ノ記載ヲ爲スヘシ

第百三十二條　見本ニ供スヘキ骨牌ハ收稅官吏ニ申出見本ナルコトヲ明ニスヘキ印章ノ押捺ヲ受クヘシ

第百三十三條　骨牌稅法第二十一條ニ依リ政府ノ認許ヲ得シトス者ハ骨牌ノ雛形及用法ヲ添ヘ申請書ヲ所轄廳ニ提出スヘシ

第百三十四條　骨牌製造者製造所所在地ニ現住セサルトキハ骨牌稅ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲管理人ヲ定メ所轄廳ニ申告スヘシ

第百三十五條　骨牌製造者ハ製造所、販賣所ヲ有スル販賣者ハ住所ノ戸外見易キ場所ニ別記雛形ノ木札ヲ揭出スヘシ

第百三十六條　收稅官吏ハ骨牌ノ製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第百三十七條　削除

第百三十八條　削除

附　則

第百三十九條　此ノ細則ハ明治三十五年七月一日ヨリ施行ス

第百四十條　骨牌稅法第二十四條第一項ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第一條ニ準シテ申告書ヲ提出スヘシ

第百四十一條　骨牌稅法第二十五條ニ依リ骨牌ニ包裝ヲ施シタルトキハ之ニ第七條ノ記載ヲ爲スヘシ

第百四十二條　見本ニ供スヘキ骨牌ハ收稅官吏ニ申出見本ナルコトヲ明ニスヘキ印章ノ押捺ヲ受クヘシ

第百四十三條　骨牌稅法第二十一條ニ依リ政府ノ認許ヲ得シトス者ハ骨牌ノ雛形及用法ヲ添ヘ申請書ヲ所轄廳ニ提出スヘシ

第百四十四條　骨牌製造者製造所所在地ニ現住セサルトキハ骨牌稅ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲管理人ヲ定メ所轄廳ニ申告スヘシ

第百四十五條　骨牌製造者ハ製造所、販賣所ヲ有スル販賣者ハ住所ノ戸外見易キ場所ニ別記雛形ノ木札ヲ揭出スヘシ

第百四十六條　收稅官吏ハ骨牌ノ製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第百四十七條　削除

第百四十八條　削除

附　則

第百四十九條　此ノ細則ハ明治三十五年七月一日ヨリ施行ス

第百五十條　骨牌稅法第二十四條第一項ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第一條ニ準シテ申告書ヲ提出スヘシ

第百五十一條　骨牌稅法第二十五條ニ依リ骨牌ニ包裝ヲ施シタルトキハ之ニ第七條ノ記載ヲ爲スヘシ

第百五十二條　見本ニ供スヘキ骨牌ハ收稅官吏ニ申出見本ナルコトヲ明ニスヘキ印章ノ押捺ヲ受クヘシ

第百五十三條　骨牌稅法第二十一條ニ依リ政府ノ認許ヲ得シトス者ハ骨牌ノ雛形及用法ヲ添ヘ申請書ヲ所轄廳ニ提出スヘシ

第百五十四條　骨牌製造者製造所所在地ニ現住セサルトキハ骨牌稅ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲管理人ヲ定メ所轄廳ニ申告スヘシ

第百五十五條　骨牌製造者ハ製造所、販賣所ヲ有スル販賣者ハ住所ノ戸外見易キ場所ニ別記雛形ノ木札ヲ揭出スヘシ

第百五十六條　收稅官吏ハ骨牌ノ製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第百五十七條　削除

第百五十八條　削除

附　則

第百五十九條　此ノ細則ハ明治三十五年七月一日ヨリ施行ス

第百六十條　骨牌稅法第二十四條第一項ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第一條ニ準シテ申告書ヲ提出スヘシ

第百六十一條　骨牌稅法第二十五條ニ依リ骨牌ニ包裝ヲ施シタルトキハ之ニ第七條ノ記載ヲ爲スヘシ

第百六十二條　見本ニ供スヘキ骨牌ハ收稅官吏ニ申出見本ナルコトヲ明ニスヘキ印章ノ押捺ヲ受クヘシ

第百六十三條　骨牌稅法第二十一條ニ依リ政府ノ認許ヲ得シトス者ハ骨牌ノ雛形及用法ヲ添ヘ申請書ヲ所轄廳ニ提出スヘシ

第百六十四條　骨牌製造者製造所所在地ニ現住セサルトキハ骨牌稅ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲管理人ヲ定メ所轄廳ニ申告スヘシ

第百六十五條　骨牌製造者ハ製造所、販賣所ヲ有スル販賣者ハ住所ノ戸外見易キ場所ニ別記雛形ノ木札ヲ揭出スヘシ

第百六十六條　收稅官吏ハ骨牌ノ製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第百六十七條　削除

第百六十八條　削除

附　則

第百六十九條　此ノ細則ハ明治三十五年七月一日ヨリ施行ス

第百七十條　骨牌稅法第二十四條第一項ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第一條ニ準シテ申告書ヲ提出スヘシ

第百七十一條　骨牌稅法第二十五條ニ依リ骨牌ニ包裝ヲ施シタルトキハ之ニ第七條ノ記載ヲ爲スヘシ

第百七十二條　見本ニ供スヘキ骨牌ハ收稅官吏ニ申出見本ナルコトヲ明ニスヘキ印章ノ押捺ヲ受クヘシ

第百七十三條　骨牌稅法第二十一條ニ依リ政府ノ認許ヲ得シトス者ハ骨牌ノ雛形及用法ヲ添ヘ申請書ヲ所轄廳ニ提出スヘシ

第百七十四條　骨牌製造者製造所所在地ニ現住セサルトキハ骨牌稅ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲管理人ヲ定メ所轄廳ニ申告スヘシ

第百七十五條　骨牌製造者ハ製造所、販賣所ヲ有スル販賣者ハ住所ノ戸外見易キ場所ニ別記雛形ノ木札ヲ揭出スヘシ

第百七十六條　收稅官吏ハ骨牌ノ製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第百七十七條　削除

第百七十八條　削除

附　則

第百七十九條　此ノ細則ハ明治三十五年七月一日ヨリ施行ス

第百八十條　骨牌稅法第二十四條第一項ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第一條ニ準シテ申告書ヲ提出スヘシ

第百八十一條　骨牌稅法第二十五條ニ依リ骨牌ニ包裝ヲ施シタルトキハ之ニ第七條ノ記載ヲ爲スヘシ

第百八十二條　見本ニ供スヘキ骨牌ハ收稅官吏ニ申出見本ナルコトヲ明ニスヘキ印章ノ押捺ヲ受クヘシ

第百八十三條　骨牌稅法第二十一條ニ依リ政府ノ認許ヲ得シトス者ハ骨牌ノ雛形及用法ヲ添ヘ申請書ヲ所轄廳ニ提出スヘシ

第百八十四條　骨牌製造者製造所所在地ニ現住セサルトキハ骨牌稅ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲管理人ヲ定メ所轄廳ニ申告スヘシ

第百八十五條　骨牌製造者ハ製造所、販賣所ヲ有スル販賣者ハ住所ノ戸外見易キ場所ニ別記雛形ノ木札ヲ揭出スヘシ

第百八十六條　收稅官吏ハ骨牌ノ製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第百八十七條　削除

第百八十八條　削除

附　則

第百八十九條　此ノ細則ハ明治三十五年七月一日ヨリ施行ス

第百九十條　骨牌稅法第二十四條第一項ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第一條ニ準シテ申告書ヲ提出スヘシ

第百九十一條　骨牌稅法第二十五條ニ依リ骨牌ニ包裝ヲ施シタルトキハ之ニ第七條ノ記載ヲ爲スヘシ

第百九十二條　見本ニ供スヘキ骨牌ハ收稅官吏ニ申出見本ナルコトヲ明ニスヘキ印章ノ押捺ヲ受クヘシ

第百九十三條　骨牌稅法第二十一條ニ依リ政府ノ認許ヲ得シトス者ハ骨牌ノ雛形及用法ヲ添ヘ申請書ヲ所轄廳ニ提出スヘシ

第百九十四條　骨牌製造者製造所所在地ニ現住セサルトキハ骨牌稅ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲管理人ヲ定メ所轄廳ニ申告スヘシ

第百九十五條　骨牌製造者ハ製造所、販賣所ヲ有スル販賣者ハ住所ノ戸外見易キ場所ニ別記雛形ノ木札ヲ揭出スヘシ

第百九十六條　收稅官吏ハ骨牌ノ製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第百九十七條　削除

第百九十八條　削除

附　則

第百九十九條　此ノ細則ハ明治三十五年七月一日ヨリ施行ス

第二百條　骨牌稅法第二十四條第一項ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第一條ニ準シテ申告書ヲ提出スヘシ

第二百一條　骨牌稅法第二十五條ニ依リ骨牌ニ包裝ヲ施シタルトキハ之ニ第七條ノ記載ヲ爲スヘシ

第二百二條　見本ニ供スヘキ骨牌ハ收稅官吏ニ申出見本ナルコトヲ明ニスヘキ印章ノ押捺ヲ受クヘシ

第二百三條　骨牌稅法第二十一條ニ依リ政府ノ認許ヲ得シトス者ハ骨牌ノ雛形及用法ヲ添ヘ申請書ヲ所轄廳ニ提出スヘシ

第二百四條　骨牌製造者製造所所在地ニ現住セサルトキハ骨牌稅ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲管理人ヲ定メ所轄廳ニ申告スヘシ

第二百五條　骨牌製造者ハ製造所、販賣所ヲ有スル販賣者ハ住所ノ戸外見易キ場所ニ別記雛形ノ木札ヲ揭出スヘシ

第二百六條　收稅官吏ハ骨牌ノ製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第二百七條　削除

第二百八條　削除

附　則

第二百九條　此ノ細則ハ明治三十五年七月一日ヨリ施行ス

第二百十條　骨牌稅法第二十四條第一項ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第一條ニ準シテ申告書ヲ提出スヘシ

第二百十一條　骨牌稅法第二十五條ニ依リ骨牌ニ包裝ヲ施シタルトキハ之ニ第七條ノ記載ヲ爲スヘシ

第二百十二條　見本ニ供スヘキ骨牌ハ收稅官吏ニ申出見本ナルコトヲ明ニスヘキ印章ノ押捺ヲ受クヘシ

第二百十三條　骨牌稅法第二十一條ニ依リ政府ノ認許ヲ得シトス者ハ骨牌ノ雛形及用法ヲ添ヘ申請書ヲ所轄廳ニ提出スヘシ

第二百十四條　骨牌製造者製造所所在地ニ現住セサルトキハ骨牌稅ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲管理人ヲ定メ所轄廳ニ申告スヘシ

第二百十五條　骨牌製造者ハ製造所、販賣所ヲ有スル販賣者ハ住所ノ戸外見易キ場所ニ別記雛形ノ木札ヲ揭出スヘシ

第二百十六條　收稅官吏ハ骨牌ノ製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第二百十七條　削除

第二百十八條　削除

附　則

第二百十九條　此ノ細則ハ明治三十五年七月一日ヨリ施行ス

第二百二十條　骨牌稅法第二十四條第一項ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第一條ニ準シテ申告書ヲ提出スヘシ

第二百二十一條　骨牌稅法第二十五條ニ依リ骨牌ニ包裝ヲ施シタルトキハ之ニ第七條ノ記載ヲ爲スヘシ

第二百二十二條　見本ニ供スヘキ骨牌ハ收稅官吏ニ申出見本ナルコトヲ明ニスヘキ印章ノ押捺ヲ受クヘシ

第二百二十三條　骨牌稅法第二十一條ニ依リ政府ノ認許ヲ得シトス者ハ骨牌ノ雛形及用法ヲ添ヘ申請書ヲ所轄廳ニ提出スヘシ

第二百二十四條　骨牌製造者製造所所在地ニ現住セサルトキハ骨牌稅ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲管理人ヲ定メ所轄廳ニ申告スヘシ

第二百二十五條　骨牌製造者ハ製造所、販賣所ヲ有スル販賣者ハ住所ノ戸外見易キ場所ニ別記雛形ノ木札ヲ揭出スヘシ

第二百二十六條　收稅官吏ハ骨牌ノ製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第二百二十七條　削除

第二百二十八條　削除

附　則

第二百二十九條　此ノ細則ハ明治三十五年七月一日ヨリ施行ス

第二百三十條　骨牌稅法第二十四條第一項ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第一條ニ準シテ申告書ヲ提出スヘシ

第二百三十一條　骨牌稅法第二十五條ニ依リ骨牌ニ包裝ヲ施シタルトキハ之ニ第七條ノ記載ヲ爲スヘシ

第二百三十二條　見本ニ供スヘキ骨牌ハ收稅官吏ニ申出見本ナルコトヲ

第十七款　砂糖消費稅

●砂糖消費稅法

（明治三十四年三月三十日法律第十三號）

改正　明治三五年第三號、三八年第二六號、四三年第三二號、四四年第五七號
大正五年第三八號
昭和二年第九號

第一條　內地消費ノ目的ヲ以テ製造場又ハ保稅地域ヨリ引取ラルル砂糖、糖蜜及糖水ニハ本法ニ依リ消費稅ヲ課ス

第二條　製品ノ原料トシテ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ使用スルハ其ノ消費ト看做ス

第三條　消費稅ノ割合左ノ如シ

一　砂糖

第一種　砂糖色相和蘭標本第十一號未滿ノ砂糖

甲　樽入黑糖　百斤ニ付　一圓

乙　樽入白下糖以外ノ砂糖ニ加工シテ製造シタルモノ、白下糖以外ノ砂糖ニ加工シテ製造シタルモノ及全部又ハ一部ノ新式機械ニ依リ製造シタルモノヲ除ク　百斤ニ付　二圓

丙　其ノ他ノモノ　百斤ニ付　二圓五十錢

第二種　砂糖色相和蘭標本第十八號未滿ノ砂糖　百斤ニ付　五圓

第三種　砂糖色相和蘭標本第二十二號未滿ノ砂糖　百斤ニ付　七圓三十五錢

第四種　砂糖色相和蘭標本第二十二號以上ノ砂糖　百斤ニ付　八圓三十五錢

第五種　氷砂糖、角砂糖、棒砂糖其ノ他類似ノモノ　百斤ニ付　十圓

二　糖蜜

第一種　氷砂糖ヲ製造スルトキニ生スル糖蜜

甲　糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量全重量ノ百分ノ七十ヲ超エサルモノ　百斤ニ付　三圓

乙　其ノ他ノモノ　糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量百斤ニ付　八圓三十五錢ノ割合ヲ以テ算出シタル金額

第二種　其ノ他ノ糖蜜

甲　糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量全重量ノ百分ノ六十ヲ超エサルモノ　百斤ニ付　一圓

乙　其ノ他ノモノ　百斤ニ付　二圓五十錢

三　糖水　百斤ニ付　七圓三十五錢

第四條　前條ノ消費稅ハ製造場又ハ保稅地域ヨリ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ引取ルトキ之ヲ徵收ス但シ政府ニ於テ相當ト認ムル擔保ヲ提供スルトキハ六箇月以內消費稅ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府ハ其ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ見本ヲ採取スルコトヲ得

前項ニ依リ擔保ヲ提供シタル者期限內ニ稅金ヲ納付セサルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公賣ニ付シ消費稅及公賣ノ費用ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

擔保物ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條　政府ノ承認ヲ受ケ外國輸出ノ目的ヲ以テ製造場又ハ保稅地域ヨリ引取ラルル砂糖、糖蜜又ハ糖水ニハ消費稅ヲ課セス

前項ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ付必要アリト認ムルトキハ其ノ消費稅ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第一項ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ニシテ引取後六箇月以內ニ外國ニ輸出セラレタルコトノ證明ナキモノハ內地消費ニ供セラレタルモノト看做シ直ニ其ノ消費稅ヲ徵收ス但シ天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルモノニシテ政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前條第二項及第三項ノ規定ハ第二項ノ規定ニ依ル擔保ニ之ヲ準用ス

第六條　第四條第一項但書、前條、第十一條ノ一及第十一條ノ二ノ場合ヲ除クノ外消費稅納付前ニ於テハ製造場又ハ保稅地域ヨリ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ引取ルコトヲ得ス

第七條　第四條第一項但書、第五條、第十一條ノ一及第十一條ノ二ノ場合ヲ除クノ外砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ハ消費稅納付前ニ於テ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ他ニ引渡シ又ハ政府ノ承認ヲ受ケシテ之ヲ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ消費稅納付前砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造場外ニ移出シタル場合ニ於テハ移出先ヲ以テ製造場ト看做シ移出先ノ營業人ヲ以テ製造者ト看做ス

前項ニ依リ移出シタル砂糖、糖蜜又ハ糖水ニシテ其ノ移出先ニ移入セラレサルトキハ移入者ヨリ直ニ其ノ消費稅ヲ徵收ス但シ天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルモノニシテ政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ハ政府ニ申告スヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキ亦同シ

第八條ノ二　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ハ同一ノ場所ニ於テ砂糖、糖蜜若ハ糖水ノ販賣業又ハ砂糖、糖蜜若ハ糖水ヲ原料トスル砂糖、糖蜜若ハ糖水以外ノ物品ノ製造業ヲ兼營スルコトヲ得ス但シ政府ノ認許ヲ得砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造場ト販賣場又ハ砂糖、糖蜜若ハ糖水ヲ原料トスル砂糖、糖蜜若ハ糖水以外ノ物品ノ製造場トヲ區劃シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者之ヲ販賣スル者又ハ第八條ノ二但書ノ場合ニ於テハ製造者ハ帳簿ヲ備ヘ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造、出入ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ

第十條　收稅官吏ハ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者、之ヲ販賣スル者又ハ第八條ノ二但書ノ場合ニ於テハ製品ノ製造者ノ所持ニ係ル砂糖、糖蜜、糖水、其ノ製造、出入ニ關スル帳簿書類及其ノ製造又ハ販賣上必要ナル建築物、器械、材料其ノ他ノ物件ヲ檢査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條ノ一　政府ノ承認ヲ受ケ砂糖、糖水又ハ酒精製造ノ原料トシテ製造場又ハ保稅地域ヨリ引取ラルル砂糖及糖蜜ニハ消費稅ヲ課セス

前項ノ砂糖又ハ糖蜜ヲ引取ルトキハ其ノ稅金ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第一項ノ砂糖又ハ糖蜜ヲ引取リタル後六箇月以內ニ砂糖、糖水又ハ酒精ヲ製造セサルトキハ消費稅ヲ徵收ス但シ天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルモノニ

シテ政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條第二項及第三項ノ規定ハ第二項ノ規定ニ依ル擔保ニ之ヲ準用ス

第十一條ノ二　政府ノ承認ヲ受ケ飲食スヘカラサル處置ヲ施シ製造場又ハ保稅地域ヨリ引取ラルル糖蜜ニハ消費稅ヲ課セス

第十一條ノ三　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ砂糖ヲ製造シタルモノト看做ス

一　砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ砂糖、糖蜜又ハ糖水以外ノ物品ヲ混和シ其ノ種別ヲ上昇シ又ハ其ノ數量ヲ增加シタルトキ但シ其ノ種別ヲ下降シタルトキ又ハ水ノミヲ混和シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ砂糖、糖蜜又ハ糖水以外ノ物品ヲ混和シ其ノ種別ヲ上昇シ又ハ其ノ數量ヲ增加シタルトキ但シ其ノ種別ヲ下降シタルトキ又ハ水ノミヲ混和シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

三　第八條ノ規定ニ依リ申告ヲ爲シタル製造場ニ於テ砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ混和シタルトキ但シ糖蜜又ハ糖水ニ同種ノ糖蜜又ハ糖水ヲ混和シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　政府ノ承認ヲ受ケ消費稅ヲ課セラレタル砂糖ヲ以テ製造スル糖水ニ付テハ本法ヲ適用セス

第十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ消費稅五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ消費稅ヲ徵收ス但シ消費稅六圓未滿ナルトキハ罰金額ハ三十圓トス

一　第六條又ハ第七條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ

二　政府ニ申告セシテ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造シタルトキ

三　前二號ニ該當スル場合ヲ除クノ外詐僞其ノ他不正ノ行爲ヲ以テ消費稅ヲ逋脫シ又ハ逋脫ヲ圖リタルトキ

第十三條ノ二　第八條ノ二ノ規定ニ違反シタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ三圓以上ノ科料ニ處ス但シ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ原料トスル物品ヲ製造シタルトキハ此ノ前條ノ例ニ依ル

第十四條　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者、之ヲ販賣スル者又ハ第八條ノ二但書ノ場合ニ於テハ製品ノ製造者、砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造、出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リタルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ三圓以上ノ科料ニ處ス

第十五條　收稅官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ其ノ執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ三圓以上ノ科料ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第十六條　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條、第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヰス

第十七條　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者、之ヲ販賣スル者又ハ第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品ノ製造者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

第十七條ノ二　本法ニ於テ保稅地域ト稱スルハ關稅法ノ定ムル所ニ依ル

附則

第十八條　本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十九條　本法施行前ヨリ引續キ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ハ本法施行後一箇月以內ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スヘシ前項ニ違反シタル者ニハ第十三條ヲ適用ス

附　則（昭和二年法律第九號）

本法ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

左ニ揭クル砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

一　本法施行前消費稅ヲ課スヘカリシモノ

二　本法施行前製造場若ハ保稅地域ヨリ引取リ又ハ製造場外ニ移出シタルモノニシテ砂糖消費稅法施行規則ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（大藏大臣副署）

●砂糖消費稅法施行規則

（明治三十四年八月二十日勅令第百六十九號）

改正　明治三五年第一五號、第二五二號、三七年第一〇八號、三八年第一七〇號、四三年第八號、第二二四號、大正三年第三四號、五年第一一五號、九年第五八四號、一二年第一七三號、一二年第二二〇號

砂糖消費稅法第五條第三項、第七條第三項又ハ第十一條ノ一第三項ノ規定ニ依リ消費稅ヲ徵收スヘキモノ

三　本法施行前消費稅ノ徵收ヲ猶豫シタルモノ

第八條　收稅官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ砂糖、糖蜜、糖水ノ製造、糖水ノ販賣ニ關シ條件ヲ指定シ又ハ收稅官吏ノ職務執行ニ關シ相當ナル設備ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ條件ニ從ハス又ハ設備ヲ爲ササルトキハ移入場ノ指定ヲ取消シ又ハ內地移入場ノ移入ヲ停止スルコトヲ得

第九條ノ一　內地移入場ハ砂糖消費稅法第七條第二項ニ依リ大藏大臣ノ指定シタル移入場ニ移入スヘシ

第九條ノ二　內地移入場ハ砂糖、糖水、酒精ノ製造ヲ爲サス但シ稅關ノ監督ニ屬シ且其ノ構造、設備ニ付稅關ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條ノ三　移入場ノ指定ヲ受ケムトスル者ハ倉庫ノ所在地、名稱、所有者ノ住所氏名又ハ名稱其ノ他必要ナル事項ヲ記載シタル申請書ニ土地、建物ノ詳細ナル圖面ヲ添附シ大藏大臣ニ提出スヘシ

前項ノ指定ヲ爲シタル場合ニ於テ收稅官吏必要ト認ムルトキハ砂糖、糖蜜、糖水ニ封印ヲ施シ又ハ之ヲ護送スルコトヲ得

第九條ノ四　內地移入場ハ砂糖消費稅法第七條第二項ニ依リ大藏大臣ノ指定シタル移入場ニ移入スヘシ

第九條ノ五　移入場ノ指定ヲ受ケムトスル者ハ倉庫ノ所在地、名稱、所有者ノ住所氏名又ハ名稱其ノ他必要ナル事項ヲ記載シタル申請書ニ土地、建物ノ詳細ナル圖面ヲ添附シ大藏大臣ニ提出スヘシ

大藏大臣ハ必要アリト認ムルトキハ移入場主ニ對シ內地移入場ノ藏置ニ關シ條件ヲ指定シ又ハ收稅官吏ノ職務執行ニ關シ相當ナル設備ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ條件ニ從ハス又ハ設備ヲ爲ササルトキハ移入場ノ指定ヲ取消シ又ハ內地移入場ノ移入ヲ停止スルコトヲ得

第九條ノ四　內地移入場ヨリ積載シタル船舶ハ入地ニ到達シタルトキハ船長ハ到達ノ時ヨリ二十四時間內ニ其ノ旨移入地所轄稅務署ニ申告シ且當該官廳ノ證明シタル積載明細書ヲ提出スヘシ

第九條ノ五　移入地ニ到達シタル內地移入場ノ

ハ收稅官吏ノ指揮ニ從ヒ積卸ヲ爲シ移入場ニ庫入スヘシ

第九條ノ六　移入場庫入前內地移入糖ニ付砂糖消費稅法第十一條ノ一項ニ依ル原料引取ノ申告ヲ爲シ移入地所轄稅務署ノ承認ヲ受クルトキハ移入場ニ庫入ヲ爲サシテ直ニ之ヲ砂糖、糖水又ハ酒精ノ製造場ニ引取ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ移入場ニ庫入アリタルモノト看做シ引取ノ承認ヲ爲シタルトキヲ以テ移入場ヨリ引取リタルモノト看做ス

第九條ノ七　內地移入糖ノ移入者ハ當該官廳ノ下付シタル移出承認書ノ同付ヲ受ケ置キ內地移入糖ヲ移入シタルトキ直ニ之ヲ所轄稅務署ニ提出シ移入ノ證明ヲ受クヘシ

第九條ノ八　內地移入糖ヲ船積シタル後移入者ニ於テ其ノ移入地ヲ變更セムトスルトキハ其ノ旨新移入地所轄稅務署ニ申告シ其ノ承認ヲ受クヘシ

第九條ノ九　內地移入糖ヲ船積シタル後移入地到達前ニ於テ內地移入糖ノ積換ヲ爲サムトスルトキハ船長ハ其ノ旨最寄稅務署ニ申告シ當該官廳ノ證明シタル積載明細書ヲ提出シ其ノ承認ヲ受クヘシ

前項ニ依リ積換ヲ爲シタルトキハ船長ハ前項積載明細書ニ準シ更ニ積載明細書ヲ作成シ當該稅務署ニ提出シテ其ノ證明ヲ受クヘシ

第九條ノ十　船積シタル內地移入糖天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルトキハ船長ハ直ニ最寄稅務署ニ其ノ事實ヲ申告シ證明書ノ下付ヲ受クヘシ

前項ノ證明書又ハ當該官廳ノ下付シタル亡失證明書ハ第九條ノ四ノ規定ニ依ル積載明細書ノ提出ト同時ニ移入地所轄稅務署ニ之ヲ提出シ其ノ承認ヲ受クヘシ

第九條ノ十一　移入場ニ於ケル內地移入糖ノ藏置ニ關シテハ收稅官吏ノ指揮ニ從フヘシ

第九條ノ十二　所轄稅務署ニ於テ必要アリト認ムルトキハ移入場ニ於ケル藏置期間ヲ指定スルコトヲ得

第十條　製造場又ハ保稅地域ヨリ砂糖、糖蜜、糖水ヲ引取ラムトスル者ハ引取ノ目的及砂糖消費稅法第三條ノ種別、斤數ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十一條　砂糖消費稅法第四條第一項但書、同法第五條第一項、同法第十一條ノ一第一項又ハ同法第十一條ノ二ノ適用ヲ受ケムトスル者ハ前條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ

砂糖消費稅法第五條第一項又ハ同法第十一條ノ一第一項ノ適用ヲ受ケムトスル者ハ前項申請ノ際引取ノ時期並搬出先又ハ製造スヘキモノノ種類、製造ノ場所及時期ヲ申告スヘシ

砂糖消費稅法第五條第一項又ハ同法第十一條ノ一第一項ニ依リ引取リタル砂糖、糖蜜、糖水ニ付テハ第九條第三項ヲ準用ス

第十一條ノ二　砂糖消費稅法第十一條ノ一第一項ニ依リ原料引取ノ承認ヲ請フ者アル場合ニ於テ所轄稅務署ニ於テ必要ト認ムルトキハ每回ノ引取斤數ヲ制限スルコトヲ得

第十一條ノ三　砂糖消費稅法第十一條ノ二ノ適用ヲ受ケムトスル者糖蜜ニ飲食スヘカラサル處置ヲ施サムトスルトキハ其ノ方法ヲ定メ所轄稅務署ノ承認ヲ受クヘシ

第十一條ノ四　砂糖消費稅法第十二條ノ適用ヲ受ケムトスル者ハ豫メ糖水ノ製造方法ヲ定メ所轄稅務署ノ承認ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ所轄稅務署ノ糖水ノ原料タル砂糖ノ種別ヲ制限スルコトヲ得

第十一條ノ五　砂糖消費稅法第五條第一項、同法第七條第二項又ハ同法第十一條ノ一第一項ニ依リ製造場又ハ保稅地域ヨリ引取リ又ハ移出シタル砂糖、糖蜜、糖水ニシテ天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルトキハ引取人又ハ移入者ハ其ノ事實ヲ申告シテ其ノ承認ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テハ收稅官吏ノ指揮ニ從フヘシ

第十一條ノ六　砂糖消費稅法第十一條ノ一第一項ニ依リ原料引取ノ承認ヲ請フ者ハ其ノ引取ニ係ル砂糖、糖水ヲ以テ製造シタル砂糖、糖蜜、糖水ノ品質、數量ヲ證スヘキ書類ヲ提出スヘシ

第十二條　第十條ノ申告アリタルトキハ所轄稅務署ハ砂糖消費稅法第三條ノ種別及斤數ヲ查定シ其ノ直ニ消費稅ヲ徵收スヘキモノハ其ノ徵收ノ手續ヲ爲シ其ノ擔保ノ提供ヲ要スルモノハ提供スヘキ擔保額ヲ指定スヘシ但シ豫メ納稅擔保ヲ提供シタルモノニ付テハ其ノ都度擔保額ノ指定ヲ要セス

第十三條　收稅官吏ハ日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ノ所在地外ニ限リ自ラ消費稅金ノ領收ヲ取扱フコトヲ得

納稅義務者ハ日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ノ所在地外ニ在ル製造場ヨリ千斤未滿ノ第一種若ハ第二種砂糖又ハ糖蜜ヲ引取ル場合ニ限リ收入印紙ヲ以テ砂糖消費稅ヲ納ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ砂糖消費稅金查定書ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ニ消印スヘシ

第十四條　收稅官吏ハ日頃ヲ以テ納稅告知ヲ爲スコトヲ得

第十五條　擔保物ノ種類ハ左ニ揭クルモノニ限ル

一　金錢

二　國債

三　工場財團

第十五條ノ二　擔保物ノ價格ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外稅務署長ノ定ムル所ニ依ル

第十五條ノ三　擔保トシテ金錢、無記名國債證券ヲ提供セムトスル者ハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ

擔保トシテ登錄國債ヲ提供セムトスルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ提出スヘシ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ倘記名國債證券ヲ供託受領證ヲ提出スル可シ

擔保トシテ工場財團ヲ提供シタル者アルトキハ稅務署長ハ抵當權ノ登記ヲ囑託スヘシ

稅務署長ニ於テ擔保物ノ價格減少シタリト認ムルトキハ增擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

擔保トシテ提供シタル國債ノ價却ヲ受クルニ至リタルトキハ所轄稅務署ハ擔保提供者ヲシテ直ニ之ニ代ルヘキ擔保ヲ提供セシムヘシ

前二項ニ依リ擔保ノ提供ヲ命セラレタル者之ヲ提供セサルトキハ所轄稅務署ハ直ニ消費稅ヲ徵收ス

第十七條　砂糖、糖蜜、糖水ノ製造者又ハ移出砂糖、糖蜜、糖水ノ引渡ヲ爲ストキハ引取者ヲシテ消費稅納付濟、擔保提供濟又ハ無擔保引取承認濟ナルコトヲ證明セシムルコトヲ要ス

第十八條　砂糖消費稅法第五條第一項ノ砂糖、糖蜜、糖水ニ付輸出ノ證明ヲ爲サムトスルトキハ引取後六月內ニ左ノ書類ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ但シ已ムコトヲ得サル事由ニ因リ第二號ノ書類ヲ提出シ難キトキハ所轄稅務署ノ承認ヲ受ケタル場合ニ限リ第一號ノ書類ノミヲ以テ證明ヲ爲スコトヲ得

一　輸出免狀又ハ之ニ代ルヘキ書類

二　外國輸入港稅關ノ輸入免狀又ハ外國ニ於ケル輸揚シタルコトヲ證スヘキ書類

第十八條ノ二　砂糖消費稅法第十一條ノ一第一項ニ依リ引取リタル砂糖、糖蜜ヲ原料トシテ砂糖、糖水、酒精ヲ製造シタル場合ニ於テ砂糖、糖蜜ヲ引取リタル場所ヲ管轄スル稅務署ト砂糖、糖水、酒精ノ製造場ヲ管轄スル稅務署ト異ナルトキハ砂糖、糖水、酒精ヲ製造シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ砂糖、糖蜜ヲ引取リタル場所ヲ管轄スル稅務署ニ提出スヘシ

第十九條　砂糖消費稅法第四條第二項、第五條第四項及第十一條ノ一第四項ニ依リ擔保物ヲ公賣ニ付スヘキトキハ之ヲ公告シ公告ノ翌日ヨリ少クトモ三日ヲ經過シタル後之ヲ公賣スヘシ

第二十條　前項ノ公告ニハ擔保提供者ノ住所、氏名又ハ名稱、公賣財產ノ種類、金額、公賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項ヲ記載スヘシ

第二十一條　公賣決行前ニ消費稅及費用ヲ完納シタルトキハ公賣ヲ中止スヘシ

第二十二條　砂糖消費稅法第四條第二項但書、第五條第四項及第十一條ノ一第四項ニ依リ擔保提供者ニ還付スヘキ殘金アルトキハ之ヲ供託スルコトヲ得

第二十三條　砂糖、糖水又ハ酒精製造ノ原料トシテ引取リタル砂糖、糖蜜ハ他ノ砂糖又ハ糖蜜ト隔別シテ之ヲ藏置スヘシ

第二十四條　砂糖、糖水又ハ酒精製造ノ原料トシテ引取リタル砂糖又ハ糖蜜ヲ使用セムトスルトキハ內地移入糖ニ封印ヲ施シ又ハ之ヲ護送スルコトヲ得

第二十五條　前條砂糖、糖水又ハ酒精ノ製造ヲ終リタルトキハ相當期間內ニ其ノ使用シタル原料ノ種類、量目及製造シタルモノノ種類、量目ヲ收稅官吏ニ申告スヘシ

第二十五條ノ二　收稅官吏職務ノ爲內地移入糖ヲ積載スル船舶ニ乘込ムトキハ船長ハ相當ノ便宜ヲ與フヘシ

第二十五條ノ三　收稅官吏ハ內地移入糖ヲ積載スル船舶ニ就キ內地移入糖又ハ之ニ關スル帳簿書類等ヲ檢查スルコトヲ得

收稅官吏必要ト認ムルトキハ內地移入糖ニ封印ヲ施シ又ハ之ヲ護送スルコトヲ得

第二十六條　砂糖、糖蜜、糖水製造者又ハ砂糖消費稅法第八條ノ二但書ノ製造者ノ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　原料ノ種類、數量、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱

二　使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日

三　製造シタル砂糖、糖蜜、糖水又ハ砂糖、糖蜜、糖水ヲ原料トスル物品ノ種類、數量及其ノ製造ノ日

四　他ニ引渡シタル砂糖、糖蜜、糖水又ハ砂糖、糖蜜、糖水ヲ原料トスル物品ノ種類、數量、價額、引渡ノ日及其ノ引取人ノ住所、氏名又ハ名稱

第二十七條　砂糖、糖蜜、糖水ヲ販賣スル者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　引取リタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、數量、價額、引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱

二　販賣シタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、數量、價額、販賣ノ日及其ノ買受人ノ住所、氏名又ハ名稱

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號買受人ノ住所、氏名又ハ名稱ノ記載ヲ要セス

第二十八條　收稅官吏ハ砂糖、糖蜜、糖水製造者及販賣者及砂糖消費稅法第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品ノ製造者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第二十八條ノ二　本令ニ於テ內地移入糖トハ臺灣ヨリ移出シ內地又ハ樺太ニ移入スル砂糖、糖蜜、糖水ヲ謂フ

第二十九條　本令中收稅署ニ屬スル事務ハ保稅地域ヨリ引取ラルル砂糖ニ關シテハ稅關之ヲ行フ

附　則

第三十條　砂糖消費稅法第十九條ニ依リ政府ニ申告スヘキ場合ニ於テハ第一條ニ準シテ所轄稅務署ニ申告スヘシ

●煉乳原料砂糖戾稅法

（明治四十一年三月二十七日法律第二十七號）

改正　明治四四年三月四〇號

脫帝國議會ノ協賛ヲ經タル煉乳原料砂糖戾稅法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

煉乳原料砂糖戾稅法

第一條　政府ノ承認ヲ得テ砂糖色相和關標本第十五號以上ノ砂糖ヲ煉乳製造ノ原料ニ使用シタル者ノ命令ノ定ムル所ニ依リ消費稅ニ相當スル金額ノ下付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得

使用後一年ヲ經過シタルトキハ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第二條　前條ニ依リ下付スヘキ金額ハ煉乳製造者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第三條　收稅官吏ハ第一條ニ依リ承認ヲ與ヘタル砂糖ヲ使用スル場所ニ就キ原料、製品、器具、器械及帳簿書類ヲ檢查シ其ノ他監督上必要ト認ムル處分ヲ爲スコトヲ得

附　則

本法ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●煉乳原料砂糖戾稅法施行規則

（明治四十一年三月二十七日訓令第四十九號　總理、大藏大臣副署）

脫煉乳原料砂糖戾稅法施行規則ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

煉乳原料砂糖戾稅法施行規則

第一條　煉乳原料砂糖戾稅法第一條ニ依リ砂糖使用ノ承認ヲ受ケムトスル者ハ其ノ使用スヘキ種類、數量、場所及日時ヲ定メ其ノ製造場所轄稅務署ニ申請スヘシ

第二條　煉乳原料砂糖戾稅法ニ依リ金額ノ下付ヲ請求セムトスルトキハ原料砂糖ノ種類、數量、消費稅額、使用承認年月日、使用年月日及製造シタル煉乳ノ種類、數量、製造年月日ヲ記シタル申請書ヲ其ノ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ

第三條　煉乳原料砂糖戾稅法ニ依リ金額下付ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　原料ノ種類、數量、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱

二　使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日

三　製品ノ種類、數量及其ノ製造ノ日

四　他ニ引渡シタル原料又ハ製品ノ種類、數量、價額、引渡ノ日及其ノ引取人ノ住所、氏名又ハ名稱

第四條　收稅官吏ハ煉乳製造者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第五條　收稅官吏ハ第一條ニ依リ承認ヲ與ヘタル砂糖ヲ使用スル場所ニ就キ原料、製品、器具、器械及帳簿書類ヲ檢查シ其ノ他監督上必要ト認ムル處分ヲ爲スコトヲ得

附　則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●輸出菓子糖果原料砂糖戾稅法

（明治四十二年三月三十日法律第十八號）

改正　明治四四年第六號

脫帝國議會ノ協賛ヲ經タル輸出菓子糖果原料砂糖戾稅法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

輸出菓子糖果原料砂糖戾稅法

第一條　消費稅法ヲ課セラレタル砂糖ヲ用ヰ製造シタル菓子又ハ糖果ヲ外國ヘ輸出シタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ使用シタル砂糖ニ對シ消費稅ニ相當スル金額以下ノ金額ノ下付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得

第二條　前條ニ依リ下付金ヲ受ケタル菓子又ハ糖果ニ對シテハ明治四十三年法律第五十四號關稅定率法第七條第十七號ヲ適用セス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（明治四十二年勅令第六十三號）

ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行）

●輸出菓子糖果原料砂糖戾稅法施行規則

（明治四十二年三月三十一日勅令第六十四號）

改正　大正五年第二四〇號

脫輸出菓子糖果原料砂糖戾稅法施行規則ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

輸出菓子糖果原料砂糖戾稅法施行規則

第一條　輸出菓子糖果原料砂糖戾稅法ニ依ル下付金額ハ菓子又ハ糖果中ニ含有スル甘蔗糖百斤ニ付金五圓トス但シ假置場ニ於テ砂糖製造場ヨリ直接引取リタル砂糖ヲ以テ製造シタル菓子又ハ糖果ニ付テハ其ノ原料砂糖ニ對スル消費稅ニ相當スル金額トス

第二條　一回ノ輸出菓子及糖果ノ數量三百斤

ニ滿ヲサル場合ニ於テハ下付金ヲ請求スルコトヲ得ス

第三條　下付金ヲ請求セムトスル者ハ菓子又ハ糖果ヲ左ノ開港ヨリ輸出スヘシ

横濱、神戶、大阪、長崎、門司

第四條　下付金ヲ請求セムトスル者ハ輸出ノ際關稅法施行規則第三十四條第一項ニ依リ申告シ外菓子又ハ糖果ノ種類、每種類ノ數量、製造者ノ氏名及製造ノ場所ヲ稅關ニ申告シ甘蔗糖ノ含有量ニ付檢定ヲ受ケシ但シ第一條但書ニ依ル下付金ヲ請求セムトスル者ハ此ノ限ニ在ラス

第五條　下付金ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ輸出免狀又ハ之ニ代ルヘキ稅關ノ證明書及外國ニ陸揚シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添附シテ輸出港稅關ニ提出スヘシ

第一條但書ニ依ル下付金ヲ請求セムトスル者ハ前項ノ書類ノ外砂糖製造場所轄稅務署ノ消費稅納稅濟證明書及假置場所轄稅關ノ製造證明書ヲ提出スヘシ

附　則

本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●砂糖消費稅令

大正八年三月二十四日
勅令第四號

改正　大正一一年勅令第三號、一二年勅令第三號
昭和二年勅令第一號

砂糖消費稅令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

砂糖消費稅令

第一條　砂糖、糖蜜及糖水ニハ左ノ割合ニ依リ消費稅ヲ課ス

一　砂糖

第一種　砂糖色相和蘭標本第十一號未滿ノ砂糖　百斤ニ付　一圓

乙　樟入白下糖　但シ分蜜シタルモノ、白下糖以外ノ砂糖ニ加工シテ製造シタルモノ及全部又ハ一部ノ新式機械ニ依リ製造シタルモノヲ除ク　百斤ニ付　二圓

丙　其ノ他ノモノ　百斤ニ付　二圓五十錢

甲　樟入黑糖　百斤ニ付　一圓

第二種　砂糖色相和蘭標本第十八號未滿ノ砂糖　百斤ニ付　五圓

第三種　砂糖色相和蘭標本第二十二號未滿ノ砂糖　百斤ニ付　七圓三十五錢

第四種　砂糖色相和蘭標本第二十二號以上ノ砂糖　百斤ニ付　八圓三十五錢

第五種　氷砂糖、角砂糖、棒砂糖其ノ他類似ノモノ　百斤ニ付　十圓

二　糖蜜

第一種　氷砂糖ヲ製造スルトキニ生スル糖蜜

甲　糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量ノ百分ノ七十ヲ超エサルモノ　百斤ニ付　三圓

乙　其ノ他ノモノ

糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量百斤ニ付八圓三十五錢ノ割合ヲ以テ算出シタル金額

第二種　雷寮ヲ原料トシテ砂糖ヲ製造スルトキニ生スル糖蜜

甲　糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量ノ百分ノ五十ヲ超エサルモノ　百斤ニ付　五十錢

乙　其ノ他ノモノ　百斤ニ付　一圓二十五錢

第三種　其ノ他ノ糖蜜

甲　糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量ノ百分ノ六十ヲ超エサルモノ　百斤ニ付　一圓

乙　其ノ他ノモノ　百斤ニ付　二圓五十錢

三　糖水　百斤ニ付　七圓三十五錢

第二條　消費稅ハ製造場又ハ保稅地域ヨリ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ引取ルトキ引取人之ヲ納ムヘシ

第三條　消費稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルトキハ六月以內消費稅ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ擔保ヲ提供シタル者期限內ニ稅金ヲ納付セサルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及消費稅ニ充テ不足アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

擔保ノ種類ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第四條　砂糖、糖蜜又ハ糖水ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ消費稅ヲ納付セシテ製造場又ハ保稅地域ヨリ藏置場ニ搬出スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ消費稅ノ納付ニ付テハ藏置場ヲ以テ製造場又ハ保稅地域ト看做ス

第五條　第三條第一項又ハ前條第一項ニ該當スル場合ヲ除クノ外消費稅納付前ニ於テハ製造場又ハ保稅地域ヨリ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ引取ルコトヲ得ス

第六條　輸出ノ砂糖、糖蜜若ハ糖水又ハ移出ノ糖蜜ニハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ消費稅ヲ免除ス

砂糖、糖水其ノ他朝鮮總督ノ指定スル物品ノ製造ノ用ニ供スル砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ付亦前項ニ同シ

前二項ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造場、保稅地域又ハ藏置場ヨリ引取リタル後六月內ニ輸出若ハ移出ヲ爲サス又ハ砂糖、糖水其ノ他朝鮮總督ノ指定スル物品ノ製造ノ用ニ供セサルトキハ直ニ其ノ消費稅ヲ徵收ス但シ天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルモノニシテ稅務官吏ノ承認ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第一項及第二項ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ付必要アリト認ムルトキハ消費稅ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第三條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ擔保ニ之ヲ準用ス

第七條　朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ飲食スヘカラサル處置ヲ施シタル糖蜜ニハ消費稅ヲ免除ス

第八條　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所每ニ免許ヲ受クヘシ

前項ノ免許ヲ受ケタル者其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造業ヲ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ相續人ニ於テ之ヲ承繼スルトキハ所有又ハ所持スル砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ付テハ第一條ノ制合ニ依リ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ販賣者ニ消費稅ヲ課ス

前項ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ所有又ハ所持スル者ハ其ノ種別、數量及所在ヲ申告スヘシ

第二項ノ消費稅ハ大正八年六月三十日迄ニ之ヲ納ムヘシ但シ消費稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルトキハ三月以內消費稅ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第三條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ擔保ニ付之ヲ準用ス

詐欺其ノ他不正ノ行爲ヲ以テ第二項ノ消費稅ヲ徵收スル但シ罰金ハ二十圓ニ滿タサルトキハ其ノ罰金ハ二十圓トス

一　第五條ノ規定ニ違反シタルトキ

二　前號ニ該當スル場合ヲ除クノ外詐欺其ノ他不正ノ行爲ヲ以テ消費稅ヲ逋脫シタルトキ

第十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第九條ノ規定ニ違反シタルトキ

二　砂糖、糖蜜若ハ糖水ヲ製造スル者又ハ第六條第二項ノ規定ニ依リ指定シタル物品ヲ製造場ヲ移轉シタル者又ハ第十二條ノ規定ニ依リ指定シタル物品ヲ製造スル者第十二條ノ帳簿ヲ備ヘス又ハ其ノ記載ヲ僞リ若ハ怠リタルトキ

三　稅務官吏ノ等問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ之ヲ妨ケ若ハ忌避シタルトキ

第十八條　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ免許ヲ取消スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ免許ヲ取消サレタル者又ハ其ノ相續人ニ對シ必要アリト認ムルトキハ一定ノ期間內製造其ノ他必要ナル行爲ヲ繼續セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本令ヲ適用ス

前項ノ規定ハ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ノ相續人其ノ製造業ヲ承繼セサル場合ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ販賣者カ所有又ハ所持スル砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ付テハ第一條ノ制合ニ依リ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ販賣者ニ消費稅ヲ課ス

前項ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ所在、種別、數量、搬出入ノ名稱、運搬通路及設置者ノ住所、氏名又ハ名稱、藏置場ノ位置、構造及坪數ヲ記載シタル申請書ニ土地建物ノ詳細ナル圖面及製造用器具、機械ノ目錄ヲ調製シ事業著手前ニ府尹郡守島司ニ提出スヘシ但シ製造スヘキモノノ種類變更ノ場合ニ於テ製造場又ハ器具、機械ニ變更ナキモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ無免許製造者ノ所有シ又ハ所持スル砂糖、糖蜜又ハ糖水ハ之ヲ沒收ス其ノ之ヲ讓渡シ又ハ消費シタルモノニ付テハ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ追徵ス

第十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ消費稅五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ消費稅ヲ徵收ス但シ罰金ハ二十圓ニ滿タサルトキハ其ノ罰金ハ二十圓トス

一　第五條ノ規定ニ違反シタルトキ

二　前號ニ該當スル場合ヲ除クノ外詐欺其ノ他不正ノ行爲ヲ以テ消費稅ヲ逋脫シタルトキハ其ノ逋脫セムトシタル糖水ノ數量ニ付テハ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ追徵ス

第十五條　免許ヲ受ケシテ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ造脫シタル消費稅ノ直ノ之ヲ徵收ス

前項ノ場合ニ於テ無免許製造者ノ所有シ又ハ所持スル砂糖、糖蜜又ハ糖水ハ之ヲ沒收ス其ノ之ヲ讓渡シ又ハ消費シタルモノニ付テハ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ追徵ス

第十四條　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者又ハ第六條第二項ノ規定ニ依リ指定シタル物品ヲ製造スル者ハ其ノ都度府尹郡守島司ニ申告スヘシ

第六條　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者製造場ヲ移轉セムトスル場合ニ於テハ移轉先ノ府尹郡守島司ノ許可ヲ受クヘシ但シ他ノ府郡島ニ移轉セムトスル場合ニ於テハ移轉先ノ府尹郡守島司ニ申告スヘシ

第四條　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造セムトスル者ハ每年十二月二十八日限翌年ニ於ケル製造著手及終了時期、製造スヘキモノノ種類別見込數量、製品ノ記號ヲ府尹郡守島司ニ申告スヘシ

新ニ免許ヲ受ケタル者ハ事業著手前ニ前項ノ申告ヲ爲スヘシ

前二項ノ規定ニ依リ申告シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ都度申告スヘシ

第五條　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者其ノ住所、氏名又ハ名稱ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度府尹郡守島司ニ申告スヘシ

第六條　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者製造場ヲ移轉セムトスルトキハ府尹郡守島司ノ許可ヲ受クヘシ但シ他ノ府郡島ニ移轉セムトスル場合ニ於テハ移轉先ノ府尹郡守島司ノ許可ヲ受クヘシ

第三條ノ規定ハ前項但書ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七條　砂糖消費稅令第八條第三項ノ規定ニ依リ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造業ヲ承繼セムトスル者ハ戶籍又ハ民籍ノ事務ヲ取扱フ官吏又ハ公吏ニ相續ノ屆出又ハ申告ヲ爲シタル日ヨリ三十日內ニ府尹郡守島司ニ申告スヘシ

前項ノ申告ニハ相續開始ノ事實ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ同順位ノ相續人數人アル場合ニ於テ其ノ中ノ一人又ハ數人カ業務ヲ承繼セムトスルトキハ他ノ相續人ノ承諾書ヲ添附スヘシ

第一項ノ申告アリタル場合ニ於テハ相續開始ノ日ニ於テ業務ヲ承繼シタルモノト看做ス

第三條　砂糖、糖蜜又ハ糖水製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ製造場每ニ土地建物ノ詳細ナル圖面及製造用器具、機械ノ目錄ヲ調製シ事業著手前ニ府尹郡守島司ニ提出スヘシ但シ製造スヘキモノノ種類變更ノ場合ニ於テ製造場又ハ器具、機械ニ變更ナキモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ無免許製造者ノ所有シ又ハ所持スル砂糖、糖蜜又ハ糖水ハ之ヲ沒收ス其ノ之ヲ讓渡シ又ハ消費シタルモノニ付テハ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ追徵ス

第十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ消費稅五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ消費稅ヲ徵收ス但シ罰金ハ二十圓ニ滿タサルトキハ其ノ罰金ハ二十圓トス

一　第五條ノ規定ニ違反シタルトキ

二　前號ニ該當スル場合ヲ除クノ外詐欺其ノ他不正ノ行爲ヲ以テ消費稅ヲ逋脫シタルトキハ其ノ逋脫セムトシタル糖水ノ數量ニ付テハ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ追徵ス

第十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第九條ノ規定ニ違反シタルトキ

二　砂糖、糖蜜若ハ糖水ヲ製造スル者又ハ第六條第二項ノ規定ニ依リ指定シタル物品ヲ製造場ヲ移轉シタル者又ハ第十二條ノ規定ニ依リ指定シタル物品ヲ製造スル者第十二條ノ帳簿ヲ備ヘス又ハ其ノ記載ヲ僞リ若ハ怠リタルトキ

三　稅務官吏ノ等問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ之ヲ妨ケ若ハ忌避シタルトキ

第十八條　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ免許ヲ取消スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ免許ヲ取消サレタル者又ハ其ノ相續人ニ對シ必要アリト認ムルトキハ一定ノ期間內製造其ノ他必要ナル行爲ヲ繼續セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本令ヲ適用ス

前項ノ規定ハ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ノ相續人其ノ製造業ヲ承繼セサル場合ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ販賣者カ所有又ハ所持スル砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ付テハ第一條ノ制合ニ依リ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ販賣者ニ消費稅ヲ課ス

前項ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ所在、種別、數量、搬出入ノ名稱、運搬通路及設置者ノ住所、氏名又ハ名稱、藏置場ノ位置、構造及坪數ヲ記載シタル申請書ニ土地建物ノ詳細ナル圖面及製造用器具、機械ノ目錄ヲ調製シ事業著手前ニ府尹郡守島司ニ提出スヘシ但シ製造スヘキモノノ種類變更ノ場合ニ於テ製造場又ハ器具、機械ニ變更ナキモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ無免許製造者ノ所有シ又ハ所持スル砂糖、糖蜜又ハ糖水ハ之ヲ沒收ス其ノ之ヲ讓渡シ又ハ消費シタルモノニ付テハ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ追徵ス

第十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ消費稅五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ消費稅ヲ徵收ス但シ罰金ハ二十圓ニ滿タサルトキハ其ノ罰金ハ二十圓トス

一　第五條ノ規定ニ違反シタルトキ

二　前號ニ該當スル場合ヲ除クノ外詐欺其ノ他不正ノ行爲ヲ以テ消費稅ヲ逋脫シタルトキハ其ノ逋脫セムトシタル糖水ノ數量ニ付テハ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ追徵ス

第十五條　免許ヲ受ケシテ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ造脫シタル消費稅ノ直ノ之ヲ徵收ス

前項ノ場合ニ於テ無免許製造者ノ所有シ又ハ所持スル砂糖、糖蜜又ハ糖水ハ之ヲ沒收ス其ノ之ヲ讓渡シ又ハ消費シタルモノニ付テハ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ追徵ス

第十四條　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者又ハ第六條第二項ノ規定ニ依リ指定シタル物品ヲ製造スル者ハ其ノ都度府尹郡守島司ニ申告スヘシ

第六條　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者製造場ヲ移轉セムトスル場合ニ於テハ移轉先ノ府尹郡守島司ノ許可ヲ受クヘシ但シ他ノ府郡島ニ移轉セムトスル場合ニ於テハ移轉先ノ府尹郡守島司ニ申告スヘシ

第四條　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造セムトスル者ハ每年十二月二十八日限翌年ニ於ケル製造著手及終了時期、製造スヘキモノノ種類別見込數量、製品ノ記號ヲ府尹郡守島司ニ申告スヘシ

新ニ免許ヲ受ケタル者ハ事業著手前ニ前項ノ申告ヲ爲スヘシ

前二項ノ規定ニ依リ申告シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ都度申告スヘシ

第五條　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者其ノ住所、氏名又ハ名稱ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度府尹郡守島司ニ申告スヘシ

第六條　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者製造場ヲ移轉セムトスル場合ニ於テハ移轉先ノ府尹郡守島司ノ許可ヲ受クヘシ但シ他ノ府郡島ニ移轉セムトスル場合ニ於テハ移轉先ノ府尹郡守島司ニ申告スヘシ

第三條ノ規定ハ前項但書ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七條　砂糖消費稅令第八條第三項ノ規定ニ依リ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造業ヲ承繼セムトスル者ハ戶籍又ハ民籍ノ事務ヲ取扱フ官吏又ハ公吏ニ相續ノ屆出又ハ申告ヲ爲シタル日ヨリ三十日內ニ府尹郡守島司ニ申告スヘシ

前項ノ申告ニハ相續開始ノ事實ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ同順位ノ相續人數人アル場合ニ於テ其ノ中ノ一人又ハ數人カ業務ヲ承繼セムトスルトキハ他ノ相續人ノ承諾書ヲ添附スヘシ

第一項ノ申告アリタル場合ニ於テハ相續開始ノ日ニ於テ業務ヲ承繼シタルモノト看做ス

第八條　砂糖消費稅令第四條ノ規定ニ依リ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造ヲ廢止シタルトキハ其ノ旨府尹郡守島司ニ申告スヘシ

第九條　砂糖消費稅令第四條ニ規定スル藏置場ヲ設置セムトスル者ハ藏置場一箇所每ニ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ藏置場ノ位置、構造及坪數ヲ記載シタル申請書ニ土地建物ノ詳細ナル圖面ヲ添附シ藏置場ノ所在ヲ管轄スル府尹郡守島司ニ提出スヘシ

藏置場ノ位置、構造又ハ坪數ヲ變更セムトスルトキハ許可ヲ受クヘシ但シ藏置場ヲ他ノ府郡島ニ移轉セムトスル場合ニ於テハ移轉先ノ府尹郡守島司ノ許可ヲ受クヘシ

第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

藏置場設置者ノ住所、氏名又ハ名稱ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ旨府尹郡守島司ニ申告スヘシ

第十條　藏置場ニ藏置スヘキ貨物ノ種類、數量及藏置ノ方法ニ付テハ稅務官吏ノ指揮ニ從フヘシ

第十一條　府尹郡守島司ニ於テ必要アリト認ムルトキハ藏置場ニ於ケル藏置期間ヲ指定スルコトヲ得

第十二條　朝鮮內ニ於テ製造シタル砂糖、糖蜜若ハ糖水ヲ輸出スル朝鮮內ニ於ケル製造シタル砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ消費稅ノ免除ヲ受ケ製造場又ハ藏置場ヨリ之ヲ引取ラムトスルトキハ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ所在、種別、數量、引取ノ日、輸移出地、輸移出豫定日及輸移出先ヲ記載シタル申請書ヲ府尹郡守島司ニ提出シ其ノ承認ヲ受クヘシ

消費稅ノ免除ヲ受ケタル砂糖、糖蜜若ハ糖水ヲ輸出シ又ハ消費稅ノ免除ヲ受ケタル砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ移出シタル者ハ其ノ製造場每

製造場又ハ藏置場ヨリ引取リタル後八月内ニ輸移出免狀及輸出免ニ於ケル稅關ノ輸入免狀又ハ之ニ代ハルヘキ書類ヲ前項ノ規定ニ依リ引取ヲ承認シタル府尹郡守島司ニ提出スヘシ

第十二條ノ二　保稅地域ニ在ル輸出糖蜜ヲ移出スル爲消費稅ノ免除ヲ受ケ保稅地域ヨリ之ヲ引取ラムトスルトキハ其ノ所在、種別、數量、引取ノ日、移出地、移出豫定日及移出先ヲ記載シタル申請書ヲ稅關長ニ提出シ其ノ承認ヲ受クヘシ

前條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十三條　砂糖消費稅令第六條第二項ノ物品ハ酒精、煉乳及輸出菓子又ハ糖果トス但シ煉乳及輸出菓子又ハ砂糖色相和爾標本第十五號以上ノ砂糖又ハ糖水ヲ其ノ製造ノ用ニ供スルモノニ限ル

第十四條　砂糖消費稅令第六條第二項ノ規定ニ依リ消費稅ノ免除ヲ受ケ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造場、保稅地域又ハ藏置場ヨリ引取ラムトスルトキハ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ所在、種別、數量、引取ノ日及使用ノ目的、場所竝日時ヲ記載シタル申請書ヲ府尹郡守島司又ハ稅關長ニ提出シ其ノ承認ヲ受クヘシ

第十五條　砂糖又ハ糖水ヲ輸出菓子又ハ糖果ノ製造ノ用ニ供スル爲消費稅ノ免除ヲ受ケタル者ハ製造場、保稅地域又ハ藏置場ヨリ引取リタル後八月内ニ輸出免狀及輸出先ニ於ケル稅關ノ輸入免狀又ハ之ニ代ハルヘキ書類ヲ第十四條ノ規定ニ依リ引取ヲ承認シタル府尹郡守島司又ハ稅關長ニ提出スヘシ

前項ノ期限内ニ前項ノ書類ヲ提出セサルトキハ輸移出セサルモノト看做ス

第十六條　府尹郡守島司又ハ稅關長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ第十四條ノ引取ニ付毎回ノ引取數量ノ最少限度ヲ定ムルコトヲ得

第十七條　砂糖消費稅令第七條ノ規定ニ依リ消費稅ノ免除ヲ受ケ糖蜜ヲ製造場、保稅地域又ハ藏置場ヨリ引取ラムトスルトキハ府尹郡守島司又ハ稅關長ニ引取ノ日ヲ府尹郡守島司又ハ稅關長ニ豫告スヘシ

第十八條　消費稅ヲ課セラレタル砂糖ヲ以テ糖水ヲ製造セムトスル者ハ豫メ糖水ノ製造方法ヲ定メ製造場ノ所在ヲ管轄スル府尹郡守島司ニ申告スヘシ

第十九條　第八條、第十二條、第十四條及第十七條ノ場合ヲ除クノ外製造場、保稅地域又ハ藏置場ヨリ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ所在、種別、數量及引取ノ日ヲ府尹郡守島司又ハ稅關長ニ申告スヘシ

第二十條　日本銀行ノ代理店若ハ遞信官署ノ取扱時間外ニ於テハ稅務官吏ノ砂糖消費稅ニ付口頭ヲ以テ納稅告知ヲ爲シ收入官吏ニ納付セシムルコトヲ得

旅客ノ携帶ニ係ル砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ消費稅ヲ徵收スル場合亦同シ

第二十一條　擔保ノ種類ハ左ニ揭クルモノニ限ル

一　金錢

二　國債

三　工場財團

擔保物ノ擔保價格ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外府尹、郡守、島司又ハ稅關長ノ指定スル所ニ依ル

擔保トシテ金錢又ハ無記名國債證券ヲ提出スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ府尹、郡守、島司又ハ稅關長ニ提出スヘシ

擔保トシテ登錄國債ヲ提出スルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ府尹、郡守、島司又ハ稅關長ニ提出スヘシ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ倘記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ

擔保トシテ工場財團ヲ提供シタル者アルトキハ府尹、郡守、島司又ハ稅關長ハ抵當權ノ登記ヲ登記所ニ囑託スヘシ

第二十二條　砂糖消費稅令第三條第一項ノ規定ニ依リ提供シタル擔保物ヲ變更スル必要アリト認メタルトキ又ハ其ノ價格減少シタルトキハ府尹郡守島司又ハ稅關長ハ更ニ相當ノ擔保物ノ提供ヲ命スルコトヲ得

前項ニ依リ擔保物ノ提供ヲ命セラレタル者之ヲ提供セサルトキハ府尹郡守島司又ハ稅關長ハ直ニ消費稅ヲ徵收スヘシ

砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ引取リタル後ニ於テ其ノ變更ヲ府尹郡守島司又ハ稅關長ニ申請スルコトヲ得

第二十四條　當時砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ引取ヲ爲ス者ハ府尹郡守島司又ハ稅關長ノ承認ヲ受ケ豫メ擔保物ヲ提供スルコトヲ得

第二十五條　第八條又ハ第十四條ノ規定ニ依リ搬出又ハ引取ヲ承認スル場合ニ於テ府尹郡守島司又ハ稅關長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ見本ヲ提出セシムルコトヲ得

第二十六條　砂糖、糖水、酒精、煉乳又ハ輸出菓子若ハ糖果製造ノ用ニ供スル爲引取リタル砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ他ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ト區別シテ之ヲ保管スヘシ

第二十七條　第十四條ノ規定ニ依リ府尹郡守島司又ハ稅關長ノ承認ヲ受ケ引取リタル砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ使用セムトスルトキハ引取人ハ稅務官吏ニ申告シ其ノ檢査ヲ受クヘシ

第二十八條　前條ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ原料トシテ砂糖、糖水、酒精、煉乳又ハ輸出菓子若ハ糖果ノ製造ヲ終リタルトキハ引取人ハ直ニ其ノ使用シタル砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ引取ノ日、種別、數量及製造シタル物品ノ種類、種別、數量ヲ稅務官吏ニ申告シ其ノ檢査ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ製造場ノ所在カ引取ヲ承認シタル府尹郡守島司ノ管轄外ナルトキハ引取人ハ前項ノ稅務官吏ヨリ使用ノ事實ヲ證スヘキ書類ノ交付ヲ受ケ引取ヲ承認シタル府尹郡守島司又ハ稅關長ニ之ヲ提出スヘシ

第二十九條　第八條、第十二條又ハ第十四條ノ規定ニ依リ承認ヲ受ケ搬出又ハ引取リタル砂糖、糖蜜又ハ糖水カ天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルトキハ搬出人又ハ引取人ハ直ニ其ノ事實ヲ稅務官吏ニ申告シ其ノ承認ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ亡失シタル場所ノ所在カ搬出又ハ引取ヲ承認シタル府尹郡守島司ノ管轄外ナルトキ、保稅地域ナルトキ又ハ亡失シタル砂糖、糖蜜若ハ糖水カ保稅地域ヨリ搬出若ハ引取リタルモノナルトキハ搬出人又ハ引取人ハ前項ノ稅務官吏ヨリ亡失ノ事實ヲ證スヘキ書類ノ交付ヲ受ケ搬出又ハ引取ヲ承認シタル府尹郡守島司又ハ稅關長ニ之ヲ提出スヘシ

第三十條　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者砂糖消費稅令第九條但書ノ規定ニ依リ砂糖、糖蜜若ハ糖水ノ販賣業又ハ砂糖、糖蜜若ハ糖水ヲ原料トスル酒精、煉乳又ハ輸出菓子若ハ糖果ノ製造業ヲ營營セムトスルトキハ府尹郡守島司ニ申請シ其ノ許可ヲ受クヘシ

第三十一條　砂糖、糖蜜若ハ糖水ヲ製造スル者又ハ砂糖、糖蜜若ハ糖水ヲ原料トシテ酒精、煉乳又ハ輸出菓子若ハ糖果ノ製造業ヲ營營スル者ハ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　原料ノ種類、種別、數量、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱

二　使用シタル原料ノ種類、種別、數量及使用ノ日

三　製造シタル砂糖、糖蜜若ハ糖水又ハ砂糖、糖蜜若ハ糖水ヲ原料トシテ製造シタル物品ノ種類、種別、記號、數量及製造ノ日

四　他ニ引渡シタル砂糖、糖蜜若ハ糖水又ハ砂糖、糖蜜若ハ糖水ヲ原料トシテ製造シタル物品ノ種類、種別、記號、數量、價格、引渡ノ日及其ノ引取人ノ住所、氏名

又ハ名稱

第三十二條　砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造出入ノ事項ニ關シ稅務官吏カ必要ト認メテ承認ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキ又ハ砂糖、糖蜜若ハ糖水ヲ製造スル者又ハ砂糖、糖蜜若ハ糖水ヲ原料トシテ砂糖、糖水、酒精、煉乳又ハ輸出菓子若ハ糖果ヲ製造スル者ハ其ノ承認ヲ受クヘシ

第三十三條　稅務官吏ハ砂糖、糖蜜若ハ糖水ヲ製造スル者、之ヲ取實スル者又ハ砂糖、糖蜜若ハ糖水ヲ原料トシテ砂糖、糖水、酒精、煉乳又ハ輸出菓子若ハ糖果ヲ製造スル者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第三十四條　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者許可ヲ受クヘシテ製造場ヲ移轉シタルトキハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第三條第二項乃至第五條、第九條第五項第六項又ハ第十八條ニ規定シタル申告ヲ怠リ又ハ不實ノ申告ヲ爲シタルトキ

二　第三條第一項、第二十六條、第二十八條第二項又ハ第二十九條第二項ノ規定ニ違反シタルトキ

三　第九條第三項、第二十七條又ハ第二十八條第一項ノ規定ニ依リ許可若ハ檢査ヲ受クヘキ場合ニ之ヲ受ケサリシトキ又ハ事實ヲ詐リ許可若ハ檢査ヲ受ケタルトキ

附　則

本令ハ砂糖消費稅令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

砂糖消費稅令附則第三項ノ規定ニ依リ申告ハ大正八年四月五日迄ニ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ所在ヲ管轄スル府尹郡守島司ニ之ヲ爲スヘシ

附　則（大正十年朝府令第四號）

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ擔保トシテ國債以外ノ有價證券ヲ提供スル者ハ本令施行ノ日ヨリ五年ヲ限リ引續キ其ノ有價證券ヲ以テ擔保ト爲スコトヲ得

止期間ヲ申告スヘシ

第三條　前二條ノ申告事項及圖面ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度所轄官廳ニ申告スヘシ

第四條　砂糖、糖蜜、糖水ノ製造者其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨所轄官廳ニ申告スヘシ

第四條ノ二　舊式糖廊ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄官廳ニ屆出ツヘシ

相續ノ場合ヲ除クノ外舊式糖廊ヲ承繼シタルトキハ前糖廊主ト連署シテ所轄官廳ニ屆出ツヘシ此ノ場合ニ於テ前糖廊主ニ對シ指定シタル設立條件アリタルトキハ承繼者ニ受繼アリタルモノト看做ス

第五條　收稅官吏ハ隨時砂糖、糖蜜、糖水ノ製造場、販賣場、運送取扱場、砂糖消費稅法第八條ノ二但書ニ依リ認許ヲ得タル物品ノ製造場、砂糖、糖蜜、糖水ノ運搬迄中又ハ之ヲ積載スル船舶等ニ就キ砂糖、糖蜜、糖水、其ノ原料品、殘滓、製造用器具、器械又ハ帳簿書類ヲ檢査スヘシ

收稅官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ製品若ハ其ノ原料品ノ藏置、運搬其ノ他ニ關シ事項ヲ指定シテ命令ヲ爲シ又ハ製造、其ノ貯藏場、製造用器具、器械其ノ他ノ物件ニ封印ヲ施スコトヲ得

第六條　砂糖、糖蜜、糖水ノ製造者ハ其ノ製品ヲ包裝シ又ハ之ヲ容器ニ收メタルトキハ移出、引渡ノ區分ヲ定メ收稅官吏ニ申告シテ種別、斤量ノ檢定ヲ受クヘシ但シ豫定シタル貯藏容器ニ收容シタル砂糖蜜ニ限リ移出又ハ引渡ノ區分、島内移出場ニ移出シ包裝ヲ改裝スヘキ砂糖ニ限リ種別ノ檢定ヲ要セス

前項但書ニ依リ檢定ヲ受ケタル砂糖ニシテ包裝ヲ改裝ヲ廢止シタルトキハ收稅官吏ニ申告シテ種別ノ檢定ヲ受クヘシ

第七條　收稅官吏ハ砂糖、糖蜜、糖水ヲ檢定シタルトキハ檢定濟證ヲ交付シ仍砂糖ニ在リテハ其ノ包裝一箇毎ニ一定ノ檢印ヲ押捺スヘシ但シ全部新式器械ニ依ル製造場ニ於テ製造シタル分蜜糖ニシテ外國輸出又ハ原料トシテ引取ラルルモノ及移出場ニ移出スルモノニ在リテハ檢印ノ押捺ヲ要セス

移出場ニ移出シタル砂糖、糖蜜、糖水ニシテ移入檢査ヲ爲シタルトキハ前項ニ準シ更ニ檢定濟證ヲ交付スヘシ但シ所轄官廳ニ於テ檢定濟證交付ノ必要ナシト認ムルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第八條　砂糖消費稅法第七條第二項ノ適用ヲ受ケムトスル者ハ豫メ一定ノ移出場ヲ設ケ其ノ設置承認申請書ニ土地建物ノ圖面ヲ添ヘ其ノ場所カ搬出港ナルトキハ臺灣總督府稅關ニ搬出港以外ナルトキハ州又ハ廳ニ提出シ承認ヲ受クヘシ但シ大藏大臣ノ指定シタル內地ノ移入場ニ移出スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ依リ移出場ノ承認ヲ受ケタル者國面ニ異動ヲ生シ又ハ其ノ移出場ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨臺灣總督府稅關、州又ハ廳ニ申告スヘシ

移出場ノ相續及承繼ニ付テハ第四條ノ二ノ規定ヲ準用ス

第八條ノ二　製造場ヨリ砂糖、糖蜜、糖水ヲ移出セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記シタル申告書及製造者ノ交付ヲ受ケタル檢定濟證ヲ州又ハ廳若ハ收稅官吏ニ提出シ其ノ一檢定屆分全量ヲ移出スルモノニ在リテハ檢定濟證ニ移出承認ノ證明ヲ受ケ其ノ幾部ヲ移出スルモノニ在リテハ移出證明書ノ下付ヲ受クヘシ但シ州又ハ廳ニ於テ承認ヲ受ケタル場合ノ同時ニ移出承認書ノ下付ヲ受クヘシ

一　檢定濟證番號

二　種別、種類、記號、斤量、箇數

三　移出先（製造場ヨリ直接內地ニ移出セシトキハ其ノ移出港）

四　移出先到著期間

前項ニ依リ承認ヲ受ケタル砂糖、糖蜜、糖水ニシテ已ムコトヲ得サル事由ニ因リ期間內ニ移出先ニ到著スル能ハサルトキハ其ノ旨移出承認ヲ受ケタル官廳ニ申告シ期間變更ノ承認ヲ受クルコトヲ得

第八條ノ三　前條ニ依リ砂糖、糖蜜、糖水ノ移出承認ヲ受ケタル者砂糖消費稅令第七條ノ規定ニ依リ檢定濟證交付ノ必要ナシト認ムルモノニ在リテハ檢印ノ押捺ヲ要セス

移出場ニ移出シタル砂糖、糖蜜、糖水ニシテ移入檢査ヲ爲シタルトキハ前項ニ準シ更ニ檢定濟證ヲ交付スヘシ但シ所轄官廳ニ於テ檢定濟證交付ノ必要ナシト認ムルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

●砂糖消費稅法施行規則

大正二年十月二十三日
臺灣總督府令第九十二號

改正　大正三年第三七號、五年第二九號、第五三號、六年第七一號、七年第七〇號、九年第六六號、一一年第七四號、一二年第一六號、一三年第七號、一五年第七七號

昭和二年第五四號

明治四十二年七月令第五十二號　砂糖消費稅法施行規則ヲ改正ス

砂糖消費稅法施行規則

第一條　砂糖、糖蜜、糖水ノ製造セムトスル者ハ一製造場毎ニ左ノ事項ヲ記シ所轄官廳ニ申告スヘシ

一　製造場ノ位置及名稱

二　製造スヘキモノノ種類

三　製糖器械ノ種類、能力及漂白裝置ヲ有スルモノニ在リテハ其ノ裝置ノ種類、漂白能力

四　製造者ノ住所、氏名又ハ名稱

製糖場取締規則ニ依リ限定セル原料採取區域外ニ舊式糖廊ヲ設立シ又ハ其ノ位置ノ變更ヲ爲サムトスル者ハ豫メ所轄官廳ノ承認ヲ受クヘシ

舊式糖廊ノ設立ニ關シ州又ハ廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ取締上ノ事項ヲ指定シ設立承認ノ條件ト得ラスコトヲ得

第二條　砂糖、糖蜜、糖水ノ製造者ハ毎年製造著手十日前ニ左ノ事項ヲ記シ所轄官廳ニ申告スヘシ

一　製造著手及終了豫定月日

二　製造スヘキモノノ種類別見込高

三　製品ノ記號

四　一包裝ノ實量

五　一日ノ作業時間及一期間作業豫定日數

六　舊式糖廊ニ在リテハ分蜜ノ割合、牛掛數、一日ノ桶搾數、一桶搾ノ藍汁石數、藍汁貧薄用苧數、組數、壓搾用牛ノ頭數

七　共同組織ノ舊式糖廊ニ在リテハ各出資者ノ住所、氏名及出資組織ノ內容

製造ヲ休止セムトスルトキハ其ノ事由竝休

第九條　島內消費トシテ製造場ヨリ砂糖、糖蜜、糖水ヲ引取ラムトスル者ハ左ノ事項ヲ記シタル申告書及製造者ノ交付ヲ受ケタル檢定濟證ヲ所轄官廳ニ提出シ其ノ一檢定區分全量ヲ引取ルモノニ在リテハ檢定濟證ニ引取承認ノ證明ヲ受ケ其ノ幾部ヲ引取ルモノ又ハ移出場ヨリ引取ルモノニシテ檢定濟證ノ交付ヲ受ケサルモノニ在リテハ引取承認書ノ下付ヲ受クヘシ

一　種別、種類、記號、斤量、箇數及所在
二　稅金額及擔保ヲ提供スル場合ハ其ノ擔保竸收猶豫期間

第九條ノ二　外國輸出トシテ製造場ヨリ砂糖、糖蜜、糖水ヲ引取リ砂糖消費稅法第五條第一項ノ適用ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ記シタル申告書及製造者ノ交付ヲ受ケタル檢定濟證ヲ所轄官廳ニ提出シ其ノ一檢定區分全量ヲ引取ルモノニ在リテハ檢定濟證ニ引取承認ノ證明ヲ受ケ其ノ幾部ヲ引取ルモノニシテハ檢定濟證ノ交付ヲ受ケサルモノニ在リテハ引取承認書ノ下付ヲ受クヘシ

一　種別、種類、記號、斤量、箇數及所在
二　稅金相當金額及擔保ノ提供ヲ命シタル場合ハ其ノ擔保
三　輸出先及輸出者ノ住所、氏名又ハ名稱

前項ノ引取承認ニ關シ必要アルトキハ引取事項證明書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第十條　內地移出ノ爲砂糖、糖蜜、糖水ヲ船積セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記シタル申告書ヲ最寄臺灣總督府稅關ニ提出シテ內地移出承認書ノ下付ヲ受クヘシ

一　種別、種類、記號、斤量、箇數、包裝ノ種類、包裝區分、用途
二　移出者ノ住所、氏名又ハ名稱
三　內地ニ於ケル移入者ノ住所、氏名又ハ名稱
四　積載船名、移出ノ日及出港豫定月日
五　移出港及內地ニ於ケル移入場
六　移入地到著豫定月日

第十一條　內地ニ移出スル砂糖、糖蜜、糖水ヲ船積シタルトキハ船長ハ移出者、移出港及移入場ノ異ナル毎ニ前條各號ノ事項及內地移出承認書番號ヲ記シタル積載明細書ヲ最寄臺灣總督府稅關ニ提出シテ其ノ證明ヲ受クヘシ

船積證明後移入地到著前ニ於テ海難其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ積換ヲ爲サムトスルトキハ船長ハ其ノ旨最寄臺灣總督府稅關、州又ハ廳ニ申告シ積載明細書ヲ提出シテ其ノ承認ヲ受クヘシ

第十二條　島內ニ於ケル砂糖、糖水又ハ酒精製造ノ原料トシテ製造場ヨリ砂糖又ハ糖蜜ヲ引取リ砂糖消費稅法第十一條ノ一第一項ノ適用ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ記シタル申告書及製造者ノ交付ヲ受ケタル檢定濟證ヲ所轄官廳ニ提出シ其ノ一檢定區分全量ヲ引取ルモノニ在リテハ檢定濟證ニ引取承認ノ證明ヲ受ケ其ノ幾部ヲ引取ルモノ又ハ移出場ヨリ引取ルモノニシテ檢定濟證ノ交付ヲ受ケサルモノニ在リテハ引取承認書ノ下付ヲ受クヘシ

一　種別、種類、記號、斤量、箇數及所在
二　稅金相當金額及擔保ノ提供ヲ命シタル場合ハ其ノ擔保
三　製造スヘキモノノ種類
四　製造ノ場所
五　引取者ト製造者ト異ナルトキハ製造者ノ住所、氏名又ハ名稱

製造ノ場所ヲ變更セムトスルトキハ所轄官廳ノ承認ヲ受クヘシ

第十二條ノ二　砂糖、糖蜜、糖水ノ移出又ハ引取申告アリタルトキ其ノ提出ニ係ル檢定濟證記載數量ノ內幾部ヲ移出シ又ハ引取ルモノニ在リテハ當該檢定濟證裏面ニ其ノ移出又ハ引取高及年月日ヲ記載認印シテ還付スヘシ

第十三條　砂糖消費稅法第十一條ノ二ノ適用ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ記シタル申告書ヲ所轄官廳又ハ收稅官吏ニ提出シ承認ヲ受クヘシ

一　種別、種類、記號、斤量、箇數及所在
二　稅金相當金額及擔保ノ提供ヲ命シタル場合ハ其ノ擔保
三　製造ノ場所
四　引取者ト製造者ト異ナルトキハ製造者ノ住所、氏名又ハ名稱
五　前各號ノ外必要ナル事項

擔保提供ノ場合ニ於テハ前項第一號ノ事項ハ記載ヲ要セス

第十四條　移出承認書、引取承認書又ハ引取證明書ノ下付ヲ受ケタル者ハ製造場ヨリ現品ヲ移出シ又ハ引取ルトキ之ヲ製造者ニ交付スヘシ

前項ノ書類ハ之ヲ製造場ニ保管スヘシ

第十五條　砂糖、糖蜜、糖水ノ製造者又ハ移入者其ノ製造又ハ移入ニ係ル砂糖、糖蜜、糖水ノ存在セサルコトニ關シ其ノ事由ヲ證明シ能ハサルトキハ製造者又ハ移入者ニ於テ引取リタルモノト看做ス

第十五條ノ二　犯則其ノ他ノ事故ニ因リ引取申告ニ依ラシテ砂糖、糖蜜、糖水ノ稅金ヲ徵收スル場合ニ於ケル種別、斤量ノ查定ハ所轄官廳ノ認定スル所ニ依ル

第十六條　第九條、第九條ノ二又ハ第十二條ノ申告アリタルトキハ州又ハ廳ハ砂糖、糖蜜、糖水ノ種別及斤量ヲ查定シ稅金ヲ徵收スヘキモノハ之ヲ提供セシメ引取承認ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ニ依リ承認ヲ爲シタルトキハ其ノ承認ノ日ニ於テ引取ノ事實アリタルモノト看做ス

第十七條　擔保ノ種類ハ左ニ揭クルモノニ限ル

一　金錢
二　國債
三　臺灣ニ於ケル工場財團
四　土地

擔保ノ價格ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外知事又ハ廳長ノ指定スル所ニ依ル

第十八條　擔保ヲ提供セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記シタル提供書ヲ州又ハ廳ニ提出スヘシ

一　砂糖、糖蜜、糖水ノ種別及斤量
二　稅金額又ハ稅金相當金額
三　擔保ノ種類、數量、價格及所在
四　名稱

五　前各號ノ外必要ナル事項

擔保提供ノ場合ニ於テハ前項第一號ノ事項ハ記載ヲ要セス

金錢、國債證券ヲ擔保ニ提供セムトスル者ハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ但シ登錄國債ヲ擔保ニ提供セムトスル者ハ擔保ノ登錄ヲ爲シタル登錄證濟通知書又ハ登錄簿ノ謄本ヲ提出スヘシ

土地、工場財團ヲ擔保ニ提供セムトスル者ハ土地登記簿謄本、工場財團登記簿謄本其ノ他其ノ權利ヲ證スヘキ書類ヲ提出スヘシ

土地、工場財團ヲ擔保ニ提供シタル者ハ其ノ知事又ハ廳長ノ抵當權設定登記ノ嘱託ヲ爲スヘシ

第十九條　知事又ハ廳長ニ於テ擔保物ノ價格減少シタリト認ムルトキハ增擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

擔保トシテ提供シタル國債ノ償却ヲ受クルニ至リタルトキハ知事又ハ廳長ハ擔保提供者ヲシテ直ニ之ニ代ハルヘキ擔保ヲ提供セシムヘシ

前二項ニ依リ擔保ノ提供ヲ命セラレタル者之ヲ提供セサルトキハ直ニ消費稅ヲ徵收スヘシ

第二十條　砂糖消費稅法第五條ノ規定ニ依リ砂糖、糖蜜、糖水ヲ外國ニ輸出シタルトキハ其ノ事實ヲ證明スヘキ書類ヲ引取後六月以內ニ所轄官廳ニ提出スヘシ

一　輸出免狀又ハ之ニ代ルヘキ書類
二　外國輸入港稅關ノ輸入免狀又ハ外國ニ陸揚シタルコトヲ證スヘキ書類

砂糖消費稅法第五條第二項又ハ同第十一條ノ一第二項ニ依リ擔保ヲ提供シタル者ハ擔保解除ノ原因生シタルトキ其ノ解除申請書ヲ所轄官廳ニ提出スヘシ

第二十一條　擔保物又ハ擔保タル國債ノ公賣ニ關シテハ臺灣國稅徵收規則施行規則ヲ準用ス

擔保物又ハ擔保タル國債公賣ノ結果擔保提供者ニ還付スヘキ殘金アルトキハ之ヲ供託スルコトヲ得

第二十二條　砂糖、糖蜜、糖水ノ製造又ハ移出承認書番號ヲ記シタル積載明細書ヲ最寄臺灣總督府稅關、州又ハ廳ニ提出シテ其ノ證明ヲ受クヘシ

船積證明後移入地到著前ニ於テ海難其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ積換ヲ爲サムトスルトキハ船長ハ其ノ旨最寄臺灣總督府稅關、州又ハ廳ニ申告シ積載明細書ヲ提出シテ其ノ承認ヲ受クヘシ

第十二條　島內ニ於ケル砂糖、糖水又ハ酒精製造ノ原料トシテ製造場ヨリ砂糖又ハ糖蜜ヲ引取リ砂糖消費稅法第十一條ノ一第一項ノ適用ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ記シタル申告書及製造者ノ交付ヲ受ケタル檢定濟證ヲ所轄官廳ニ提出シ其ノ一檢定區分全量ヲ引取ルモノニ在リテハ檢定濟證ニ引取承認ノ證明ヲ受ケ其ノ幾部ヲ引取ルモノ又ハ移出場ヨリ引取ルモノニシテ檢定濟證ノ交付ヲ受ケサルモノニ在リテハ引取承認書ノ下付ヲ受クヘシ

一　種別、種類、記號、斤量、箇數及所在
二　稅金相當金額及擔保ノ提供ヲ命シタル場合ハ其ノ擔保
三　製造スヘキモノノ種類
四　製造ノ場所
五　引取者ト製造者ト異ナルトキハ製造者ノ住所、氏名又ハ名稱

製造ノ場所ヲ變更セムトスルトキハ所轄官廳ノ承認ヲ受クヘシ

第十二條ノ二　砂糖、糖蜜、糖水ノ移出又ハ引取申告アリタルトキハ其ノ提出ニ係ル檢定濟證記載數量ノ內幾部ヲ移出シ又ハ引取ルモノニ在リテハ當該檢定濟證裏面ニ其ノ移出又ハ引取高及年月日ヲ記載認印シテ還付スヘシ

第十三條　砂糖消費稅法第十一條ノ二ノ適用ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ記シタル申告書ヲ所轄官廳又ハ收稅官吏ニ提出シ承認ヲ受クヘシ

一　種別、種類、記號、斤量、箇數及所在
二　稅金相當金額及擔保ノ提供ヲ命シタル場合ハ其ノ擔保
三　製造ノ場所
四　引取者ト製造者ト異ナルトキハ製造者ノ住所、氏名又ハ名稱
五　前各號ノ外必要ナル事項

擔保提供ノ場合ニ於テハ前項第一號ノ事項ハ記載ヲ要セス

金錢、國債證券ヲ擔保ニ提供セムトスル者ハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ但シ登錄國債ヲ擔保ニ提供セムトスル者ハ擔保ノ登錄ヲ爲シタル登錄證濟通知書又ハ登錄簿ノ謄本ヲ提出スヘシ

土地、工場財團ヲ擔保ニ提供セムトスル者ハ土地登記簿謄本、工場財團登記簿謄本其ノ他其ノ權利ヲ證スヘキ書類ヲ提出スヘシ

土地、工場財團ヲ擔保ニ提供シタル者ハ其ノ知事又ハ廳長ノ抵當權設定登記ノ嘱託ヲ爲スヘシ

第十九條　知事又ハ廳長ニ於テ擔保物ノ價格減少シタリト認ムルトキハ增擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

擔保トシテ提供シタル國債ノ償却ヲ受クルニ至リタルトキハ知事又ハ廳長ハ擔保提供者ヲシテ直ニ之ニ代ハルヘキ擔保ヲ提供セシムヘシ

前二項ニ依リ擔保ノ提供ヲ命セラレタル者之ヲ提供セサルトキハ直ニ消費稅ヲ徵收スヘシ

第二十條　砂糖消費稅法第五條ノ規定ニ依リ砂糖、糖蜜、糖水ヲ外國ニ輸出シタルトキハ其ノ事實ヲ證明スヘキ書類ヲ引取後六月以內ニ所轄官廳ニ提出スヘシ

一　輸出免狀又ハ之ニ代ルヘキ書類
二　外國輸入港稅關ノ輸入免狀又ハ外國ニ陸揚シタルコトヲ證スヘキ書類

砂糖消費稅法第五條第二項又ハ同第十一條ノ一第二項ニ依リ擔保ヲ提供シタル者ハ擔保解除ノ原因生シタルトキ其ノ解除申請書ヲ所轄官廳ニ提出スヘシ

第二十一條　擔保物又ハ擔保タル國債ノ公賣ニ關シテハ臺灣國稅徵收規則施行規則ヲ準用ス

擔保物又ハ擔保タル國債公賣ノ結果擔保提供者ニ還付スヘキ殘金アルトキハ之ヲ供託スルコトヲ得

第二十二條　砂糖、糖蜜、糖水ノ製造者又ハ移出承認書番號ヲ記シタル積載明細書ヲ最寄臺灣總督府稅關ニ提出シテ其ノ證明ヲ受クヘシ

船積證明後移入地到著前ニ於テ海難其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ積換ヲ爲サムトスルトキハ船長ハ其ノ旨最寄臺灣總督府稅關、州又ハ廳ニ申告シ積載明細書ヲ提出シテ其ノ證明ヲ受クヘシ

糖、糖蜜、糖水若ハ糖汁貯藏用容器及「タンク」ヲ其ノ使用前所轄官廳又ハ收稅官吏ニ「タンク」ヲ修理シタルヲ以容量ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第二十二條　砂糖、糖蜜、糖水ノ製造者ハ其ノ製造場內ニ藏置スル既製品ニ關シテハ適宜ノ方法ニ依リ常ニ左ノ區分ヲ設ケ之ニ標札ヲ附スヘシ

一　檢定未濟
二　檢定濟
三　引取承認濟
四　移出承認濟

第二十四條　砂糖、糖蜜、糖水ノ製造者又ハ其ノ仲買者ハ左ニ揭クル場合ニ於テハ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ

一　砂糖ノ包裝ヲ改裝セムトスルトキ
二　檢印アル包裝ヲ再用セムトスルトキ
三　糖蜜、糖水ノ貯藏用容器又ハ「タンク」ヲ變換セムトスルトキ

第二十五條　砂糖消費稅法第八條ノ二但書ニ依リ砂糖、糖蜜、糖水ノ販賣榮又ハ砂糖、糖蜜、糖水ヲ原料トスル砂糖、糖蜜、糖水以外ノ物品ノ製造業ヲ營ミセムトスル者ハ所轄官廳ニ申請シテ其ノ認許ヲ受クヘシ

第二十五條ノ二　砂糖消費稅法第十二條ニ依リ糖水ヲ製造セムトスル者ハ所轄官廳ニ申請シテ其ノ承認ヲ受クヘシ

第二十六條　砂糖、糖蜜、糖水又ハ其ノ半製品天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルトキハ砂糖、糖蜜、糖水ノ製造者、移入者又ハ引取者ハ事實ヲ具シ直ニ所轄官廳又ハ臺灣總督府稅關ニ申告シテ其ノ承認ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テ亡失ノ場所カ州又ハ廳ノ管轄ヲ異ニスルトキハ仍其ノ事實ヲ亡失現場ノ所轄官廳ニ申告スヘシ

內地移出ノ爲船積シタル砂糖、糖蜜、糖水ニ已ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルトキハ船長又ハ移出者ニ於テ其ノ事實ヲ直ニ最寄臺灣總督府稅關、州又ハ廳ニ申告シテ證明書ノ下付ヲ受クヘシ

第二十七條　砂糖、糖蜜、糖水ノ製造者又ハ砂糖消費稅法第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品ノ製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ別ニ調製シタル帳簿ニ記載スヘシ

一　原料ノ種別、種類、斤量他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ其ノ價格、引取ノ日及引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱
二　使用シタル原料ノ種別、種類、斤量及使用ノ日
三　製造シタル砂糖、糖蜜、糖水又ハ砂糖、糖蜜、糖水ヲ原料トスル物品ノ種別、種類、記號、斤量、箇數及製造ノ日
四　他ニ引渡シタル砂糖、糖蜜、糖水又ハ砂糖、糖蜜、糖水ヲ原料トスル物品ノ種別、種類、記號、斤量、箇數、價格、引渡ノ日及引取人ノ住所、氏名又ハ名稱
五　移出場ニ移出シタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種別、種類、記號、斤量、箇數及移出ノ日

第二十八條　砂糖、糖蜜、糖水ノ製造者又ハ砂糖、糖蜜、糖水ヲ原料トスル物品ノ種別、種類、記號、斤量、箇數、價格、販賣ノ日及買受人ノ住所、氏名又ハ名稱

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號買受人ノ住所、氏名又ハ名稱ノ記載ヲ要セス

第二十八條ノ二　砂糖、糖蜜、糖水ノ運送取扱者ハ少クトモ左ノ事項ヲ別ニ調製シタル帳簿ニ記載スヘシ

一　引渡ヲ受ケタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、記號、斤量、箇數、引渡ヲ受ケタル日及託送人ノ住所、氏名又ハ名稱
二　引渡シタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、記號、斤量、箇數、引渡ノ日及引取人ノ住所、氏名又ハ名稱

第二十九條　砂糖消費稅法第十二條ノ二ノ規定ニ依リ砂糖、糖蜜、糖水ノ製造ヲ營ム者ハ其ノ製造場ニ於テ左ノ帳簿ヲ備ヘ置キ之ニ記載スヘシ

一　砂糖、糖蜜、糖水ノ種別及斤量
二　稅金額又ハ稅金相當金額
三　擔保ノ種類、數量、價格及所在
四　名稱

第三十條　全部又ハ一部新式器械ニ依ル砂糖製造者ハ每年七月十五日迄ニ原料採取區域內ノ作付甘蔗ニ付甘度ノ作付甲數、甘蔗ノ種類、株數、新植若ハ株出ノ別、收穫見込高ヲ郡、市、支廳ノ區分ニ依リ所轄官廳ニ屆出ヘシ

第三十一條　舊式糖廊ニ依ル砂糖製造者及其ノ原料甘蔗耕作者ハ每年七月十五日迄ニ作付地一筆每ニ座落、地番、地目、甲數、甘蔗ノ種類、株數、新植若ハ株出ノ別及收穫見込高ヲ所轄官廳ニ達署屆出ヲヘシ

第三十二條　前二條ノ屆出人ハ其ノ年十月中ニ於テ屆出事項ノ異動及其ノ事由ヲ調查シ同月末日迄ニ所轄官廳ニ屆出ヘシ十一月一日以後ニ於テ屆出ノ收穫見込高ニ異動アリト認メタルトキハ其ノ事實及事由ヲ屆出ヘシ

第三十三條　甘蔗耕作者ハ其ノ耕作地一區域每ニ左ノ事項ヲ記シタル標木ヲ建ツヘシ

一　甘蔗ノ種類、株數
二　耕作者ノ氏名
三　耕作者ノ住所

第三十四條　收穫官吏庶園ニ就キ製糖原料ノ檢查ヲ爲ストキハ甘蔗耕作者及砂糖製造者之ニ立會フヘシ

第三十五條　第三十條乃至第三十二條ノ屆出ヲ詐リ若ハ怠リタル者又ハ第十四條、第二十九條及第三十三條ノ規定ニ違反シタル者又ハ收稅官吏ノ指定命令ニ違反シ若ハ所轄官廳又ハ收稅官吏ノ承認ヲ受ケスシテ第十一條ニ依ル積載證明後天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルトキハ船長又ハ移出者ニ於テ其ノ事實ヲ直ニ最寄臺灣總督府稅關、州又ハ廳ニ申告シテ證明書ノ下付ヲ受クヘシ

第三十六條　前條ノ處罰ヲ受クヘキ者カ無能力者ナルトキハ其ノ罰則ノ之ヲ法定代理人ニ適用ス

砂糖、糖蜜、糖水ノ製造者、販賣者、運送取扱者又ハ砂糖消費稅法第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品製造者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ前條ノ處罰ヲ受クヘキ行爲アリタル場合ハ製造者、販賣者又ハ運送取扱者ヲ

存スヘシ

第三十條　全部又ハ一部新式器械ニ依ル砂糖製造者ハ每年七月十五日迄ニ原料採取區域內ノ作付甘蔗ニ付甘度ノ作付甲數、甘蔗ノ種類、株數、新植若ハ株出ノ別、收穫見込高ヲ郡、市、支廳ノ區分ニ依リ所轄官廳ニ屆出ヘシ

第三十一條　舊式糖廊ニ依ル砂糖製造者及其ノ原料甘蔗耕作者ハ每年七月十五日迄ニ作付地一筆每ニ座落、地番、地目、甲數、甘蔗ノ種類、株數、新植若ハ株出ノ別及收穫見込高ヲ所轄官廳ニ達署屆出ヲヘシ

第三十二條　前二條ノ屆出人ハ其ノ年十月中ニ於テ屆出事項ノ異動及其ノ事由ヲ調查シ同月末日迄ニ所轄官廳ニ屆出ヘシ十一月一日以後ニ於テ屆出ノ收穫見込高ニ異動アリト認メタルトキハ其ノ事實及事由ヲ屆出ヘシ

第三十三條　甘蔗耕作者ハ其ノ耕作地一區域每ニ左ノ事項ヲ記シタル標木ヲ建ツヘシ

一　甘蔗ノ種類、株數
二　耕作者ノ氏名
三　耕作者ノ住所

第三十四條　收穫官吏庶園ニ就キ製糖原料ノ檢查ヲ爲スニ當リテハ甘蔗耕作者及砂糖製造者之ニ立會フヘシ

第三十五條　第三十條乃至第三十二條ノ屆出ヲ詐リ若ハ怠リタル者又ハ第十四條、第二十九條及第三十三條ノ規定ニ違反シタル者又ハ收稅官吏ノ指定命令ニ違反シ若ハ所轄官廳又ハ收稅官吏ノ承認ヲ受ケスシテ第十一條ニ依ル積載證明後天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルトキハ船長又ハ移出者ニ於テ其ノ事實ヲ直ニ最寄臺灣總督府稅關、州又ハ廳ニ申告シテ證明書ノ下付ヲ受クヘシ

第三十六條　前條ノ處罰ヲ受クヘキ者カ無能力者ナルトキハ其ノ罰則ノ之ヲ法定代理人ニ適用ス

砂糖、糖蜜、糖水ノ製造者、販賣者、運送取扱者又ハ砂糖消費稅法第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品製造者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ前條ノ處罰ヲ受クヘキ行爲アリタル場合ハ製造者、販賣者又ハ運送取扱者ヲ

砂糖消費稅

●輸出菓子糖果原料砂糖戾稅法施行方

（改正、大正十三年第八〇號）（大正五年十二月十四日臺總督府令第六十七號）

輸出菓子糖果原料砂糖戾稅法ノ施行ニ關シテハ明治四十二年勅令第六十四號輸出菓子糖果原料砂糖戾稅法施行規則ニ依ル但シ同施行規則第三條ノ開港ハ基隆、淡水、安平、高雄トシ同第五條ノ所轄稅務署ノ所轄州又ハ廳トス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十一條及第二十六條第二項ノ規定ハ大正三年四月一日以前ニ在リテハ同日以後ニ於テ內地ニ到著スヘキ見込ノ砂糖、糖蜜、糖水ニ限リ之ヲ適用ス

●砂糖消費稅織物消費稅等ノ徵收ニ關スル法律

（明治四十四年三月二十九日）（法律第四十五號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル砂糖消費稅織物消費稅等ノ徵收ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（大正十年勅令第八四號）

第一條　砂糖消費稅法、織物消費稅法、石油消費稅法又ハ骨牌稅法ニ於テ稅關保稅倉庫トアルハ關稅法ニ於テ稱スル保稅地域ト謂フ

第二條　關稅法第三十九條ノ規定ニ依ル運送ハ砂糖消費稅法、織物消費稅法、石油消費稅

法又ハ骨牌稅法ノ引取ト看做サス但シ其ノ運送ニ付必要アリト認ムルトキハ稅金ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第三條　砂糖消費稅法、織物消費稅法、石油消費稅法又ハ骨牌稅法ニ依リ稅金ヲ徵收スル場合ノ外砂糖、糖蜜、糖水、織物、石油又ハ骨牌ニ付關稅ヲ徵收スル場合ニ於テ勅令ノ定ムル所ニ依リ關稅納付義務者ヨリ其ノ稅金ヲ徵收スル但シ骨牌稅法ニ依リ骨牌ヲ沒收スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（明治四十四年勅令第百八十二號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行）

●砂糖消費稅織物消費稅等ノ徵收ニ關スル件

（明治四十四年六月十六日　明治四十四年六月十六日　勅令百八十六號　改正　大正九年第五九〇號　廢止シ其ノ一部ヲ改正シ大藏省ニ移管ス　大正十年勅令第二百七十號）

第一條　砂糖消費稅法施行規則、織物消費稅法施行規則又ハ石油消費稅法施行規則ニ於テ稅關又ハ保稅倉庫トアルハ關稅法ニ於テ稱スル保稅地域ヲ謂フ

第二條　明治四十四年法律第四十五號第三條ノ規定ニ依リ徵收スル稅金ハ關稅ヲ徵收スルトキ稅關ヲ徵收スル骨牌稅金ノ徵收ニ付テハ骨牌稅法第五條ノ規定ヲ適用セス

第三條　關稅法ニ依リ砂糖、糖蜜、糖水、織物、石油又ハ骨牌ヲ運送セムトスルトキハ砂糖、糖蜜、糖水ノ種別及數量、織物ノ價格又ハ石油、骨牌ノ數量ヲ記載シタル書面ヲ稅關ニ提出スヘシ但シ關稅法ニ依リ提出スヘキ運送申告書ニ依リ明瞭ナル場合ニ於テハ之ヲ省略スルコトヲ得

第四條　擔保物ノ種類ハ金錢又ハ國債ニ限ル金錢又ハ無記名國債證券ヲ擔保ニ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ稅關ニ提出スヘシ

登錄國債ヲ擔保トシテ提供スルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ稅關ニ提出スヘシ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ倘記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ

第五條　削除

第六條　擔保物ヲ提供シタル場合ニ於テ貨物運送先ニ到達シタルトキ、稅金納付濟ニ至リタルトキ又ハ稅金納付ノ義務ナキニ至リタルトキハ稅關ハ擔保物返付ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條　擔保物ヲ提供シタル場合ニ於テ徵收スヘキ稅金ヲ納付セサルトキハ擔保物ヲ以テ之ニ充ツ

前項ノ場合ニ於テ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ順次ニ公賣ノ費用及稅金ニ充ツ

前二項ノ場合ニ於テ不足アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

附　則

本令ハ明治四十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●砂糖消費稅織物消費稅等ノ徵收方

（明治四十四年六月三十日　關稅局訓令第五十號）

砂糖消費稅、織物消費稅等ノ徵收ニ關シテハ明治四十四年勅令第百八十六號ニ依ル但シ擔保物ノ種類及其ノ取扱ニ付テハ本令ニ依ルノ外仍砂糖消費稅法施行規則、織物消費稅法施行規則及石油消費稅法施行規則ノ規定ヲ準用ス

本令ハ明治四十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十八款　織物消費稅

●織物消費稅法

（明治四十二年三月二十五日　法律第八號　改正　大正八年第三三號、一一年第一七號、一二年第一二號）

歿帝國議會ノ協賛ヲ經タル織物消費稅法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

第一條　織物ニ付テハ本法ニ依リ消費稅ヲ課ス但シ綿織物ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第一條ノ二　本法ニ於テ織物ト稱スルハ全重量百分中九十五以上ノ綿ヲ以テ組成シ絹人造絹、金屬絲、金屬箔、漆絲又ハ漆箔ヲ交ヘサル織物ヲ謂フ

絹紡絲絲、芭蕉絲其ノ他命令ヲ以テ定ムル原料ヲ以テ組成スル織物ニシテ命令ノ定ムルモノハ之ヲ綿織物ト看做ス

第二條　消費稅ノ稅率ハ織物ノ價格百分ノ十

第三條　左ニ揭クルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費稅ヲ免除ス

一　外國ニ輸出スル織物又ハ製品ト爲シテ外國ニ輸出セムトスル織物ニ付消費稅ノ免除ヲ得ムトスル者ハ製造場ヨリ之ヲ引取ルカ若ハ保稅倉庫ニ入レ又ハ保稅運送ヲ爲スヘシ但シ輸出ノ目的ヲ以テ製造場ニシテ所轄稅務署ニ於テ取締上不都合ナシト認メタル場合ニ於テハ承認ヲ受ケ外國ニ輸出セムトスル織物ノ省略ヲ爲シ又ハ製品ト爲シテ外國ニ輸出セムトスル織物ノ製造場ニシテ所轄稅務署ニ於テ取締上不都合ナシト認メタルトキハ其ノ製品ノ運搬、藏置其ノ他ノ事項ニ付條件ヲ指定シタルトキハ其ノ條件ニ從フニ非サレハ消費稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ス

二　製造者自己又ハ其ノ家族ノ用ニ供スル爲自ラ製造シタル織物

消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費稅額ニ相當スル金額ヲ交付ス

第四條　消費稅ヲ製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ織物ヲ引取ル人之ヲ納付スルトキハ擔保物ヲ以テ之ニ充ツ

前項ノ場合ニ於テ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ順次ニ公賣ノ費用及稅金ニ充ツ

前二項ノ場合ニ於テ不足アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

附　則

本令ハ明治四十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●砂糖消費稅織物消費稅等ノ徵收方

（明治四十四年六月三十日　關稅局訓令第五十號）

砂糖消費稅、織物消費稅等ノ徵收ニ關シテハ明治四十四年勅令第百八十六號ニ依ル但シ擔保物ノ種類及其ノ取扱ニ付テハ本令ニ依ルノ外仍砂糖消費稅法施行規則、織物消費稅法施行規則及石油消費稅法施行規則ノ規定ヲ準用ス

本令ハ明治四十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十八款　織物消費稅

●織物消費稅法

（明治四十二年三月二十五日　法律第八號　改正　大正八年第三三號、一一年第一七號、一二年第一二號）

歿帝國議會ノ協賛ヲ經タル織物消費稅法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

第一條　織物ニ付テハ本法ニ依リ消費稅ヲ課ス但シ綿織物ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第一條ノ二　本法ニ於テ織物ト稱スルハ全重量百分中九十五以上ノ綿ヲ以テ組成シ絹人造絹、金屬絲、金屬箔、漆絲又ハ漆箔ヲ交ヘサル織物ヲ謂フ

絹紡絲絲、芭蕉絲其ノ他命令ヲ以テ定ムル原料ヲ以テ組成スル織物ニシテ命令ノ定ムルモノハ之ヲ綿織物ト看做ス

第二條　消費稅ノ稅率ハ織物ノ價格百分ノ十

第三條　左ニ揭クルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費稅ヲ免除ス

一　外國ニ輸出スル織物又ハ製品ト爲シテ外國ニ輸出セムトスル織物ニ付消費稅ノ免除ヲ得ムトスル者ハ製造場ヨリ之ヲ引取ルカ若ハ保稅倉庫ニ入レ又ハ保稅運送ヲ爲スヘシ但シ輸出ノ目的ヲ以テ製造場ニシテ所轄稅務署ニ於テ取締上不都合ナシト認メタル場合ニ於テハ承認ヲ受ケ外國ニ輸出セムトスル織物ノ製造場ニシテ所轄稅務署ニ於テ取締上不都合ナシト認メタルトキハ其ノ製品ノ運搬、藏置其ノ他ノ事項ニ付條件ヲ指定シタルトキハ其ノ條件ニ從フニ非サレハ消費稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ス

二　製造者自己又ハ其ノ家族ノ用ニ供スル爲自ラ製造シタル織物

消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費稅額ニ相當スル金額ヲ交付ス

第四條　消費稅ヲ製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ織物ヲ引取ル人之ヲ納付スルトキハ擔保物ヲ以テ之ニ充ツ

前項ノ場合ニ於テ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ順次ニ公賣ノ費用及稅金ニ充ツ

前二項ノ場合ニ於テ不足アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

附　則

本令ハ明治四十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●砂糖消費稅織物消費稅等ノ徵收方

（明治四十四年六月三十日　關稅局訓令第五十號）

砂糖消費稅、織物消費稅等ノ徵收ニ關シテハ明治四十四年勅令第百八十六號ニ依ル但シ擔保物ノ種類及其ノ取扱ニ付テハ本令ニ依ルノ外仍砂糖消費稅法施行規則、織物消費稅法施行規則及石油消費稅法施行規則ノ規定ヲ準用ス

本令ハ明治四十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十八款　織物消費稅

●織物消費稅法

（明治四十二年三月二十五日　法律第八號　改正　大正八年第三三號、一一年第一七號、一二年第一二號）

歿帝國議會ノ協賛ヲ經タル織物消費稅法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

第一條　織物ニ付テハ本法ニ依リ消費稅ヲ課ス但シ綿織物ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第一條ノ二　本法ニ於テ織物ト稱スルハ全重量百分中九十五以上ノ綿ヲ以テ組成シ絹人造絹、金屬絲、金屬箔、漆絲又ハ漆箔ヲ交ヘサル織物ヲ謂フ

絹紡絲絲、芭蕉絲其ノ他命令ヲ以テ定ムル原料ヲ以テ組成スル織物ニシテ命令ノ定ムルモノハ之ヲ綿織物ト看做ス

第二條　消費稅ノ稅率ハ織物ノ價格百分ノ十

第三條　左ニ揭クルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費稅ヲ免除ス

一　外國ニ輸出スル織物又ハ製品ト爲シテ外國ニ輸出セムトスル織物ニ付消費稅ノ免除ヲ得ムトスル者ハ製造場ヨリ之ヲ引取ルカ若ハ保稅倉庫ニ入レ又ハ保稅運送ヲ爲スヘシ但シ輸出ノ目的ヲ以テ製造場ニシテ所轄稅務署ニ於テ取締上不都合ナシト認メタル場合ニ於テハ承認ヲ受ケ外國ニ輸出セムトスル織物ノ製造場ニシテ所轄稅務署ニ於テ取締上不都合ナシト認メタルトキハ其ノ製品ノ運搬、藏置其ノ他ノ事項ニ付條件ヲ指定シタルトキハ其ノ條件ニ從フニ非サレハ消費稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ス

二　製造者自己又ハ其ノ家族ノ用ニ供スル爲自ラ製造シタル織物

消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費稅額ニ相當スル金額ヲ交付ス

第四條　消費稅ヲ製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ織物ヲ引取ル人之ヲ納付スルトキハ擔保物ヲ以テ之ニ充ツ

前項ノ場合ニ於テ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ順次ニ公賣ノ費用及稅金ニ充ツ

前二項ノ場合ニ於テ不足アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

附　則

本令ハ明治四十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●砂糖消費稅織物消費稅等ノ徵收方

（明治四十四年六月三十日　關稅局訓令第五十號）

砂糖消費稅、織物消費稅等ノ徵收ニ關シテハ明治四十四年勅令第百八十六號ニ依ル但シ擔保物ノ種類及其ノ取扱ニ付テハ本令ニ依ルノ外仍砂糖消費稅法施行規則、織物消費稅法施行規則及石油消費稅法施行規則ノ規定ヲ準用ス

本令ハ明治四十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

ノ物件ニ封印ヲ施スコトヲ得

第十六條　收稅官吏ハ運搬中ニ在ル織物ヲ檢查シ其ノ出所及到著先ヲ質問スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ監督上必要ト認ムルトキハ收稅官吏ハ其ノ運搬ヲ停止シ又ハ荷物若ハ船車ニ封印ヲ施スコトヲ得

第十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ消費稅五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ消費稅ヲ徵收スル但シ消費稅四圓未滿ナルトキハ罰金額ハ二十圓トス

一　第十二條但書ニ該當スル場合ヲ除クノ外政府ニ申告セシテ織物ヲ製造シタルトキ

二　外國ニ輸出スル爲若ハ製品ト爲シテ外國ニ輸出スル爲消費稅ヲ免除セラレタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ內地ニ於テ消費シ又ハ內地ニ於テ消費スル目的ヲ以テ讓渡シタルトキ

三　消費稅納付前又ハ擔保提供前ニ於テ織物ヲ消費シタルトキ

四　第七條ニ依リ引取リタル織物ヲ其ノ定メラレタル場所ニ移入セサルトキ

五　第十條又ハ第十一條ノ規定ニ違反シタルトキ

第十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ第一號ノ場合ニ於テ織物ヲ原料トスル製品ヲ製造シタル者ニ對スル消費稅ノ倘ホ徵收セラレサル金額アルトキハ其ノ金額ヲ追徵ス

一　織物ノ製造者、販賣者又ハ第十三條ノ規定ニ違反シタルトキ

二　織物ノ製造者、販賣者又ハ第十三條但書ノ場合ニ於テケル製品ノ製造者織物又ハ製品ノ製造出入ニ關スル帳簿ヲ調製セス又ハ其ノ記載ヲ詐リ若ハ怠リタルトキ

三　命令ノ定ムル方法ニ依リ織物ニ價格ヲ表記セス又ハ印紙ヲ貼用セサルトキ

四　收稅官吏ノ職務執行ヲ拒ミタルトキ

第十九條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者ニハ刑法ノ刑ノ減免及刑法第四十八條第二項ノ例ヲ用ヒ第二十條　織物ノ製造者、販賣者又ハ第十三條但書ノ場合ニ於ケル製品ノ製造者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ本人ニ適用スヘキ罰則ノ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條　織物ノ製造者、販賣者又ハ第十三條但書ノ場合ニ於ケル製品ノ製造者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ織物ノ製造者、販賣者又ハ第十三條但書ノ場合ニ於ケル製品ノ製造者ヲ處罰ス

第二十二條　政府ハ織物ノ製造者又ハ販賣者ノ組織スル組合ニ對シ營稅上必要ナル設備ヲ爲シ又ハ徵收事務ノ補助ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

前項ノ組合ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ交付金ヲ交付スルコトヲ得

第二十三條　第十二條、第十四條乃至第十六條、第十八條第二號第四號及第十九條乃至第二十一條ノ規定ハ綿織物ニモ之ヲ適用ス

政府ニ申告セシテ綿織物ヲ製造シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附　則

本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

左ニ揭ケル綿織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

一　本法施行前消費稅ヲ課スヘカリシモノ

二　本法施行前外國輸出若ハ朝鮮移出ノ目的ヲ以テ又ハ織物消費稅ニ依リ消費稅ヲ納付シテ製造シタル物品ヲ本法施行後外國ニ輸出シ又ハ朝鮮ニ移出シタルモノ

第八條　織物製造業又ハ販賣業ヲ相續シタル者ハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

織物製造業又ハ販賣業ヲ讓渡シタル者ハ讓受人ト連署シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第九條　織物製造者又ハ販賣者其ノ製造又ハ販賣ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十條　織物ノ製造者、販賣者又ハ第十三條但書ノ場合ニ於ケル製品ノ製造者ハ帳簿ヲ備ヘ織物又ハ製品ノ製造出入ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ

第十四條　織物ノ製造者、販賣者及前條但書ニ該當スル製品ノ製造者ハ帳簿ヲ備ヘ織物又ハ製品ノ製造出入ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ

第十五條　收稅官吏ハ織物ノ製造場、販賣場又ハ第十三條但書ニ該當スル製品ノ製造場ニ立入リ織物、原料、織物ヲ原料トシテ製造シタル物品、器具、機械、建築物又ハ帳簿書類ヲ檢查スルコトヲ得

販賣ヲ禁止セムトスルトキハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十七條　外國ニ輸出スル織物又ハ製品ト爲シテ外國ニ輸出セムトスル織物ニ付消費稅ノ免除ヲ得ムトスル者ハ製造場ヨリ之ヲ引取ルカ若ハ保稅倉庫ニ入レ又ハ保稅運送ヲ爲スヘシ但シ輸出ノ目的ヲ以テ製造場ニシテ所轄稅務署ニ於テ取締上不都合ナシト認メタル場合ニ於テハ承認ヲ受ケ外國ニ輸出セムトスル織物ノ製造場ニシテ所轄稅務署ニ於テ取締上不都合ナシト認メタルトキハ其ノ製品ノ運搬、藏置其ノ他ノ事項ニ付條件ヲ指定シタルトキハ其ノ條件ニ從フニ非サレハ消費稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ス

第十一條　織物ノ製造者、販賣者又ハ第十三條但書ノ場合ニ於ケル製品ノ製造者ハ其ノ營業ヲ廢止シ又ハ休業セムトスルトキハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十二條　織物ノ製造者自己又ハ其ノ家族ノ用ニ供スル爲織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費稅額ニ相當スル金額ヲ交付ス

第十三條　擔保物ヲ提供シタル場合ニ於テ消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第十四條　擔保物ヲ提供シタル場合ニ於テ消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第十五條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第十六條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第十七條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第十八條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第十九條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第二十條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第二十一條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第二十二條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第二十三條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第二十四條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第二十五條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第二十六條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第二十七條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第二十八條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第二十九條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第三十條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第三十一條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第三十二條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第三十三條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第三十四條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第三十五條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第三十六條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第三十七條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第三十八條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第三十九條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第四十條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第四十一條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第四十二條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第四十三條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第四十四條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第四十五條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第四十六條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第四十七條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第四十八條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第四十九條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第五十條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第五十一條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第五十二條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第五十三條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第五十四條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第五十五條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第五十六條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第五十七條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第五十八條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第五十九條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第六十條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第六十一條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第六十二條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第六十三條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第六十四條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第六十五條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第六十六條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第六十七條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第六十八條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第六十九條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第七十條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第七十一條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第七十二條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第七十三條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第七十四條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第七十五條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第七十六條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第七十七條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第七十八條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第七十九條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第八十條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第八十一條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第八十二條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第八十三條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第八十四條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第八十五條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第八十六條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第八十七條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第八十八條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第八十九條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第九十條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第九十一條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第九十二條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第九十三條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第九十四條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第九十五條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第九十六條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第九十七條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第九十八條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第九十九條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第百條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ擔保物ヲ還付ス

第十五條　織物消費稅法第九條第一項ニ依ル價格ノ申告ノ所轄稅務署ニ之ヲ爲スヘシ

第十六條　織物消費稅法第四條第一項但書ノ規定ニ依リ織物ニ印紙ヲ貼用シテ消費稅ノ納付ニ代ヘムトスル者ハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告シ承認ヲ受クヘシ

第十七條　織物ニ其ノ價格及製造者ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ表記シ相當印紙ヲ貼用シ織物面ト印紙トノ彩紋トニカケテ之ニ消印スヘシ但シ印紙貼用者ハ結目ナキ絲ヲ以テ紙片ヲ織物ニ縫著シ紙片ニ價格及住所、氏名又ハ名稱ヲ表記シ其ノ絲ノ結束シタル場所ニ相當印紙ヲ貼用シ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ之ニ消印スルコトヲ得

第十八條　消費稅ヲ納付シ又ハ消費稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタル者其ノ織物ニ納稅濟證印ノ押捺ヲ受ケ又ハ納稅濟證ノ貼付ヲ受ケムトスル者ハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ此ノ場合ニ於テハ所轄稅務署ノ織物又ハ織物ニ縫著シタル紙片ニ納稅濟ノ旨ヲ記載シタル切符ヲ貼付シ又ハ納稅濟ノ證印ヲ押捺スヘシ

前項ノ規定ニ依リ納稅濟證印ノ押捺ヲ受ケ又ハ納稅濟證ノ貼付ヲ受ケタル織物ニ加工セムトスル場合ニ於テハ所轄稅務署ノ承認ヲ受クタルトキハ加工後更ニ納稅濟證印ノ押捺又ハ納稅濟證ノ貼付ヲ請求スルコトヲ得

第十九條　日本銀行ノ本店、支店若ハ代理店ノ所在地外又ハ日本銀行營業時間後ニ於テハ收稅官吏ハ消費稅金ノ領收ヲ爲スコトヲ得

第二十條　擔保物ノ種類ハ金錢又ハ國債ニ限ルモノトス

金錢又ハ無記名國債證券ヲ擔保トシテ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

登錄國債ヲ擔保トシテ提供スルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ倘記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ

第二十一條　削除

第二十二條　擔保物ヲ提供シタル場合ニ於テ消費稅納付濟ニ至リタルトキハ又ハ消費稅免除ノ確定シタルトキハ所轄稅務署ハ擔保物返付ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十三條　消費稅ヲ徵收スヘキ場合ニ於テハ消費稅ニ相當スル擔保ヲ提供シタル織物ニ付テハ之ヲ消費稅ノ納付ニ充ツ

前項ノ場合ニ於テ擔保物ノ價格ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ順次ニ公賣ノ費用及稅金ニ充ツ

前二項ノ場合ニ於テ不足アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第二十四條　織物製造者又ハ織物消費稅法第十三條但書ニ該當スル製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　原料ノ種類、數量、他ヨリ引取リタル者ニ在リテハ引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱

二　使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日

三　製造シタル種類、數量及製造ノ日

四　他ニ引渡シタル種類、數量、引渡ノ日及其ノ引取人ノ住所、氏名又ハ名稱

第二十五條　織物販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　引取リタル種類、數量、價格、引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱

二　販賣シタル種類、數量、價額、販賣ノ日及其ノ買受人ノ住所、氏名又ハ名稱

小賣人ノ場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記載スルコトヲ要セス

第二十六條　本令ニ依リ所轄稅務署ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受クヘキ場合ニ於テ製造場ニ出張シタル稅務官吏ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受ケタルトキハ稅務署ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受ケタルモノト看做ス

第二十七條　收稅官吏ハ織物ノ製造者、販賣者又ハ織物消費稅法第十三條但書ニ該當スル製品ノ製造者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第二十八條　本令中稅務署ニ屬スル事務ハ稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ラルル織物ニ關シテハ稅關之ヲ行フ

第二十九條　織物消費稅法第二十二條第一項ノ規定ニ依リ稅務署長ハ織物組合ニ對シ徵稅上必要アルニ付設備ヲ設ケシメ又ハ徵收事務ノ補助ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

前項ノ織物組合ニ對シテハ左ノ二期ニ分ケ特期間內ニ於テ其ノ取扱ヒタル織物中消費稅ヲ徵收シ又ハ消費稅ニ相當スル金額及其ノ點數毎五百點ニ付一圓ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ノ交付金ヲ交付ス此ノ場合ニ於テ五百點未滿ノ端數アルトキハ之ヲ五百點トシテ計算ス

前期　其ノ年四月ヨリ翌年三月迄

後期　其ノ年十月ヨリ翌年三月迄

前項ノ規定ニ依ル點數ノ計算方法ニ付テハ個及長ザノ長短ニ拘ラス一個又ハ一反ノ織物ニシテ之ニ納稅濟證印ノ押捺又ハ納稅濟證ノ貼付ヲ受クルモノヲ一點トス但シ數個又ハ數反ノ織物ヲ一括シタル納稅濟證印ノ押捺又ハ納稅濟證ノ貼付ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ一括毎ニ之ヲ一點トス

織物組合カ一集合査定場ニ於テ一年度間毎月少クトモ六回以上織物消費稅査定ノ爲査定場ノ開設ヲ爲シタル場合ニ於テ當該査定場ノ取扱ニ係ル織物ニ付第二項ノ規定ニ依リ計算シタル一年度ノ交付金額カ百圓ニ滿タサルトキハ該査定場ニ對スル後期交付金トシテ前期交付金ト合シテ百圓ニ滿ツル迄金額ヲ交付ス

第三十條　前條ノ織物組合同條第一項ノ命令ニ違反シタルトキハ交付金ノ全部又ハ一部ヲ交付セサルコトヲ得

第三十一條　左ニ揭ケル原料ノミヲ以テ組成スル織物ハ織物消費稅法第一條ノ二第二項ノ規定ニ依リ綿織物ト看做ス

一　英式番手二十八號ヲ超エサル絹紡絲絲

二　芭蕉絲

三　黃麻

四　苧

五　藤

六　棉

八　鳳梨

九　科竹

十　紙

十一　蔴

十二　前各號ノ一種又ハ數種ト綿トノ混紡絲

十三　前各號ノ一種又ハ數種ト全重量百分中五未滿ノ毛又ハ黃麻以外ノ麻

十四　前各號ノ一種又ハ數種ト全重量百分

附則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令ノ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

非常特別稅法施行規則ニ依リ爲シタル處分又ハ行爲ハ本令ニ依リ爲シタルモノト看做ス

●織物消費稅法施行規則

明治四十三年四月一日
勅令第百四十四號
改正　明治四三年勅令第三五號
大正一年第七三號、一五年第三三號

織物消費稅法施行規則左ノ通相定ム

第一條　本令ニ於テ製造者又ハ製造セムトスル者トハ稅法ノ自己又ハ其ノ家族ノ用ニ供スルモノノミヲ製造シ又ハ製造セムトスル者ヲ包含セス

第二條　織物ヲ製造セムトスル者ハ製造場及製造スヘキ種類ヲ定メ其ノ製造場所轄稅務署ハ廳ニ申告スヘシ但シ綿織物ニ付テハ組成原料ノ（織物消費稅法第一條ノ二第一項ノ綿織物中綿ト綿以外ノ原料トヲ以テ組成スルモノヲ又ハ本令第二十八條第十四號ノ原料ノミヲ以テ組成スル織物ニ付テハ組成原料及其ノ重量ノ割合ヲ併セ申告スヘシ

販賣場ヲ有セスシテ織物ヲ販賣セムトスル者ハ其ノ居所所轄稅務署ハ廳ニ其ノ旨申告スヘシ

第三條　製造場ノ其ノ數地ノ連續セサル場合ニ於テモ之ヲ一製造場ト認ムルコトヲ得

第四條　織物製造者ハ製造場毎ニ製造場ノ圖面及製造用器具機械ノ目錄ヲ調製シ所轄稅務署又ハ廳ニ提出スヘシ

第五條　織物製造者製造場ヲ移轉セムトスルトキハ其ノ製造場ヲ定メ移轉先ノ所轄稅務署又ハ廳ニ申告スヘシ

織物販賣者ニシテ販賣場ヲ有スル者販賣場ヲ移轉セムトスルトキハ其ノ販賣場ヲ定メ移轉先ノ所轄稅務署又ハ廳ニ申告スヘシ

織物販賣者ハ販賣場ヲ有スル者販賣場ヲ移轉セムトスルトキハ其ノ旨移轉先ノ所轄稅務署又ハ廳ニ申告スヘシ

第六條　織物製造者ニシテ期間ヲ定メテ製造ヲ爲ストキハ製造ニ著手スル每ニ著手及終了ノ時期ヲ臨ノ所轄稅務署又ハ廳ニ申告スヘシ

第七條　第二條若ハ前條ニ依リ申告シタル事項又ハ第四條ニ依リ提出シタル圖面若ハ前條ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ所轄稅務署又ハ廳ニ申告スヘシ

第八條　織物製造業又ハ販賣業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署又ハ廳ニ申告スヘシ

織物製造業又ハ販賣業ヲ讓渡セムトスルトキハ讓受人ト連署シ所轄稅務署又ハ廳ニ申告スヘシ

第九條　織物製造者又ハ販賣者其ノ製造又ハ販賣ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨所轄稅務署又ハ廳ニ申告スヘシ

第十條　外國ニ輸出スル織物又ハ製品ハ爲シテ外國ニ輸出セムトスル織物ニ付消費稅ノ免除ヲ得ムトスル者ハ製造場ヨリ之ヲ引取ル都度所轄稅務署又ハ廳ニ申告シ承認ヲ受クヘシ但シ輸出ノ目的ヲ以テ製造セラルル織物ノミヲ製造スル製造場ニシテ所轄稅務署又ハ廳ニ於テ取締上不都合ナシト認メタル場合ニ於テハ所轄稅務署又ハ廳ノ承認ノ省略ヲ爲スコトヲ得製品ト爲シテ外國ニ輸出セムトスル織物ノミヲ製造スル製造場ニシテ所轄稅務署又ハ廳ニ於テ取締上不都合ナシト認メタルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ所轄稅務署又ハ廳ハ織物又ハ其ノ製品ノ運搬、藏置其ノ他ノ事項ニ付條件ヲ指定シタルトキハ其ノ條件ニ從フニ非ラサレハ消費稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ス

第十一條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シ其ノ消費稅ニ相當スル金額ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ消費稅ヲ納付シタルコトノ證憑ヲ具シ輸出港稅關ニ、其ノ郵便ニ依リ輸出シタル場合ニ於テハ所轄稅務署又ハ廳ニ之ヲ申請スヘシ

前項ノ規定ニ依リ交付金ヲ受ケムトスル者ハ輸出ノ際豫メ輸出港稅關ニ其ノ旨申告スヘシ但シ郵便ニ依リ輸出スルモノハ所轄稅務署又ハ廳ノ承認ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

消費稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタル者其ノ織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタル場合ニ於テ消費稅ノ免除ヲ受ケムトスルトキハ

（編輯大意ムニ依リ削除）

關東州煙草稅令

第一條　煙草ヲ耕作セムトスル者ハ當該官廳ノ免許ヲ受クヘシ

煙草ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ當該官廳ノ免許ヲ受クヘシ

煙草ヲ販賣セムトスル者ハ店舖其ノ他ノ營業場一箇所毎ニ卸賣及小賣ニ付各別ニ當該官廳ノ免許ヲ受クヘシ

第二條　前條ノ免許ヲ受ケタル者耕作、製造又ハ販賣ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

煙草ノ耕作、製造又ハ販賣ハ關東長官ノ定ムル所ニ依リ相續人ニ於テ之ヲ承繼スルコトヲ得

第三條　煙草ニハ左ノ割合ニ依リ煙草稅ヲ課ス

一　製造煙草

口附紙卷煙草及刻煙草　小賣定價　百分ノ二十五

其ノ他ノ製造煙草　小賣定價　百分ノ三十

二　葉煙草　小賣價格　百分ノ二十五

業屑、刻屑其ノ他ノ屑煙草ハ之ヲ葉煙草ト看做ス

第四條　煙草稅ハ保稅地域又ハ郵便局ヨリ煙草ヲ引取ルトキ引取人ヨリ之ヲ徵收ス

保稅地域ト稱スルハ葉煙草貯藏場、煙草製造場、保稅倉庫其ノ他當該官廳カ課稅物件ヲ藏置シ得ヘキ場所トシテ指定シ又ハ特許シタル場所ヲ謂フ

第五條　煙草稅額ニ相當スル擔保物ヲ提供シタルトキハ三月以內煙草稅ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ監督上必要ト認ムルトキハ當該官廳ハ其ノ運搬ヲ停止シ又ハ貨物若ハ船車ニ封印シ其ノ他相當ノ措置ヲ爲スコトヲ得

第二十三條　第一條又ハ第十五條第一項ノ規定ニ依リ煙草ノ耕作、製造又ハ販賣ノ免許ヲ受ケタル者本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第二十四條　左ニ揭クル場合ニ於テハ直ニ煙草稅ヲ徵收ス

一　免許ヲ受ケシテ煙草ヲ耕作、製造又ハ販賣シタルトキ

二　詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ因リ煙草稅又ハ自家用煙草稅ヲ逋脫シ又ハ逋脫セムトシタルトキ

三　第八條ノ規定ニ違反シタルトキ

四　輸出スル爲煙草稅ヲ免除セラレタル煙草ヲ關東州內ニ於テ消費シ又ハ關東州內ニ於テ消費スル目的ヲ以テ他人ニ讓渡シタルトキ

五　製造煙草ノ原料ニ使用スル爲煙草稅ヲ免除セラレタル葉煙草ヲ其ノ以外ノ用ニ供シタルトキ

第二十五條　本令ニ定ムルモノヲ除クノ外煙草稅ニ關シ必要ナル規定ハ關東長官之ヲ定ム

附　則

第二十六條　本令ハ大正十一年四月二十日ヨリ之ヲ施行ス

第二十七條　本令施行ノ際現ニ煙草ヲ耕作、製造又ハ販賣スル者ニシテ引續キ煙草ヲ耕作、製造又ハ販賣セムトスル者ハ本令施行後三十日內ニ當該官廳ニ免許ヲ申請スヘシ其ノ申請ニ對シ許否ノ處分ヲ受ケル迄ハ本令ニ依リ免許ヲ受ケタルモノト看做ス

第二十八條　本令施行ノ際現ニ煙草ヲ所有又ハ所持スル者ハ本令施行後二十日內ニ其ノ煙草ノ種類、數量及所在ヲ申告シ仍製造煙草ニ付テハ其ノ品目及小賣定價ヲ申告シ且容器又ハ包裝ニ小賣定價ヲ記載スヘシ但シ本令施行ノ際所有又ハ所持スル煙草カ葉煙草ニ在リテハ十斤以下、製造煙草ニ在リテハ見積小賣價額十圓以下ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條　前條ノ規定ニ依リ申告スヘキ煙草ニ付テハ關東長官ノ定ムル所ニ依リ第三條第一項ノ割合ニ依リ煙草稅ヲ課ス

●關東州煙草稅令施行規則

大正十一年四月十九日　關東廳令第二十五號

第一條　煙草耕作ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ每年耕作地ノ位置及面積、耕作ニムトスル者ノ種類竝葉煙草貯藏場ノ位置及設備ヲ記載シタル免許申請書ヲ耕作地ノ所在ヲ管轄スル民政署ニ提出スヘシ

見易キ場所ニ第三號樣式ノ標札ヲ揭クヘシ

第十三條　煙草販賣者免許ヲ取消サレタルトキハ免許證及出賣鑑札ヲ返納スヘシ

第十四條　煙草耕作者、煙草製造者又ハ煙草販賣者ノ相續人ハ相續開始ノ日ヨリ六十日內ニ民政署長ニ申告シ其ノ耕作、製造又ハ販賣ヲ承繼スルコトヲ得

前項ノ申告書ニハ相續開始ノ事實及相續人タルコトヲ證スル書面竝第九條ノ免許證又ハ第十一條ノ出賣鑑札ヲ添附スヘシ

第一項ノ申告ヲ爲シタルトキハ相續開始ノ日ニ於テ耕作、製造又ハ販賣ヲ承繼シタルモノト看做ス

第十五條　煙草耕作者ハ耕作地一箇所毎ニ其ノ面積、耕作煙草ノ種類及耕作者ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記載シタル標木ヲ樹ツヘシ

第十六條　煙草耕作者ハ移植ヲ爲シタル場合ニ在リテハ移植後三十日內ニ、實播ヲ爲シタル場合ニ在リテハ七月十五日迄ニ每年耕作地ノ位置及煙草ノ種類、株數ヲ民政署長ニ申告スヘシ

前項ノ申告後災害其ノ他ノ事由ニ因リ耕作煙草ニ損害アリタルトキハ被害ノ狀況ヲ民政署長ニ申告スヘシ

第十七條　煙草耕作者ハ葉煙草ノ乾燥調理ヲ了シタルトキハ直ニ其ノ種類及數量ヲ民政署長ニ申告スヘシ

第十八條　關東長官ハ葉煙草ノ品位ニ依リ其ノ等級及小賣價格ヲ定メ之ヲ公示ス

第十九條　葉煙草ノ等級ハ引取前民政署長ニ於テ品位ヲ鑑定シ之ヲ査定ス

前項ノ規定ニ依リ等級ヲ査定シタル葉煙草カ引取前災害ニ因リ著シク變質スルニ至リタルトキハ請求ニ依リ其ノ等級ヲ改定スルコトヲ得

第二十條　前條ノ規定ニ依リ葉煙草ノ等級ヲ査定又ハ改定シタルトキハ民政署長ハ煙草耕作者若ハ葉煙草輸入者、其ノ承繼人又ハ改定請求者ニ之ヲ通知スヘシ但シ査定又ハ改定ノ際異議ヲ述ヘサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條　葉煙草ノ等級ノ査定又ハ改定ニ對シ不服アル者ハ民政署長ニ申請シ其ノ再鑑定ヲ求ムルコトヲ得

再鑑定ノ申請ハ前條ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ十日以內ニ之ヲ爲スヘシ但シ煙草ヲ引取リタル後ハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十二條　前條ノ規定ニ依ル再鑑定ノ申請アリタルトキハ民政署長ハ鑑定人ヲ選定シ葉煙草ノ等級ヲ評定セシムヘシ

前項ノ鑑定人ハ二人以上トシ其ノ半數ハ再鑑定申請者ノ推薦シタル者ノ中ヨリ之ヲ選定スヘシ

評定ニ付鑑定人ノ意見一致セサルトキハ民政署長ヨリ關東長官ニ申請シ其ノ裁定ヲ請フヘシ

評定又ハ裁定シタル等級ハ民政署長ヨリ之ヲ再鑑定申請者ニ通知スヘシ

第二十三條　再鑑定ニ要スル費用ハ再鑑定申請人ノ推薦ニ依リ選定シタル鑑定人ニ關スルモノハ再鑑定申請者ノ負擔トス

第二十四條　稅令第三條ノ製造煙草ノ小賣定價ハ販賣ヲ目的トセサルモノニ在リテハ小賣定價ニ相當スル金額トス

第二十五條　保稅地域ヨリ煙草ヲ引取ラムトスルトキハ民政署長ニ申告スヘシ但シ第四十條及第四十九條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條　煙草ヲ保稅地域ヨリ搬出若ハ搬入スルハ日出ヨリ日沒迄ノ間ニ限ル但シ特ニ必要アル場合ニ於テ民政署長ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條　旅客ノ携帶スル輸入煙草ニ付テハ輸入ノ際旅客ヨリ其ノ煙草稅ヲ徵收ス

第二十八條　日本銀行代理店執務時間外ニ於テハ稅務官吏ハ口頭ヲ以テ納稅告知ヲ爲シ煙草稅ヲ領收スルコトヲ得旅客ノ携帶セル煙草ニ付煙草稅ヲ徵收スル場合亦同シ

第二十九條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場又ハ蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第三十條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第三十一條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第三十二條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第三十三條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第三十四條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第三十五條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第三十六條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第三十七條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第三十八條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第三十九條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第四十條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第四十一條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第四十二條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第四十三條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第四十四條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第四十五條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第四十六條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第四十七條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第四十八條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第四十九條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第五十條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第五十一條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第五十二條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第五十三條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第五十四條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第五十五條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第五十六條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第五十七條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第五十八條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第五十九條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第六十條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第六十一條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第六十二條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第六十三條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第六十四條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第六十五條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第六十六條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第六十七條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第六十八條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第六十九條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第七十條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第七十一條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第七十二條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第七十三條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第七十四條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第七十五條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第七十六條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第七十七條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第七十八條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第七十九條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第八十條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第八十一條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第八十二條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第八十三條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第八十四條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第八十五條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第八十六條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第八十七條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第八十八條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第八十九條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第九十條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第九十一條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第九十二條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第九十三條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第九十四條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第九十五條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第九十六條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第九十七條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第九十八條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第九十九條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第百條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第百一條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第百二條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第百三條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第百四條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第百五條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第百六條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第百七條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第百八條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第百九條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第百十條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第百十一條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

第百十二條　保稅地域タル蔵置場又ハ乾燥場ニ設置シタル每ニ民政署長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ位置、構造及坪數、收容能力、煙草ノ種類及數量ヲ具シ關東長官ニ申請スヘシ

數ヲ記載シタル申請書ニ土地建物ノ詳細ナル圖面ヲ添附シ其ノ所在地ヲ管轄スル民政署長ニ提出スヘシ

前項ノ申請書ニ記載シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ民政署長ノ許可ヲ受クヘシ但シ圖面記載ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ圖面ヲ提出スヘシ

藏置場又ハ乾燥場ノ設置ハ關東長官ノ指定スル地域内ニ非サレハ之ヲ特許セス

藏置場又ハ乾燥場ヲ廢止セムトスルトキハ民政署長ニ申請シテ特許ノ取消ヲ求ムヘシ

第三十條　民政署長ハ保稅地域タル藏置場又ハ乾燥場設置ノ特許ヲ與フル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ保證金ヲ提供セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル保證金ノ提供ニ付テハ第三十三條ノ規定ヲ準用ス

第三十一條　藏置場ニ藏置スヘキ貨物ノ種類、數量及藏置ノ方法ニ付テハ稅務官吏ノ指揮ニ從フヘシ

第三十二條　稅令第五條第一項又ハ第六條第一項ノ規定ニ依リ煙草稅ノ徵收猶豫ヲ請ハムトスル者ハ擔保物提供書又ハ納稅保證書ヲ提出シ民政署長ニ其ノ旨申請スヘシ

第三十三條　稅令第五條第一項ノ規定ニ依ル擔保物ノ種類ハ左ニ揭ケタルモノニ限ルシ

一　金錢

二　國債證券

三　關東長官ノ指定シタル銀行ニ於テ支拂ノ保證ヲ爲シタル有價證券

四　火災保險ニ附シタル建物

五　關東長官ノ指定シタル有價證券

擔保物ノ擔保價格ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外民政署長ノ指定スル所ニ依ル

第一項第一號乃至第三號及第五號ノ擔保物ヲ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ民政署ニ提出スヘシ但シ登錄國債ヲ擔保物トシテ提供スルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ提出シ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ仍當該國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ

第一項第四號ノ擔保物ヲ提供シタルトキハ民政署長ニ於テ抵當繼設定登記ヲ爲スヘシ

第三十四條　擔保物ノ價格減少シタルトキ又ハ擔保物ヲ變更スル必要アリト認メタルトキハ民政署長ハ更ニ相當ノ擔保物ノ提供ヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ擔保物ノ提供ヲ命セラレタル者之ヲ提供セサルトキハ民政署長ハ直ニ煙草稅ヲ徵收ス

第三十五條　稅令第六條第一項ノ規定ニ依ル納稅保證人ハ民政署長ニ於テ納稅ニ堪フル資力アリト認メタル者ニ限ル

民政署長ハ納稅保證人ノ資力納稅保證ニ堪ヘサルニ至リタリト認メタルトキハ之ヲ變更セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ納稅保證人ノ變更ヲ命セラレタル者之ヲ變更セサルトキハ直ニ煙草稅ヲ徵收ス

第三十六條　民政署長ハ引取人稅令第六條第一項ノ期間内ニ煙草稅ヲ納付セサルトキハ納稅保證人ニ通知シ其ノ煙草稅ヲ納付セシムヘシ

第三十七條　煙草稅納付濟ニ至リタルトキハ民政署長ハ遲滯ナク擔保物又ハ納稅保證書ヲ還付ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十八條　當時煙草ノ引取ヲ爲ス者ハ民政署長ノ承認ヲ受ケ擔保物ヲ提供シ又ハ納稅保證人ヲ立ツルコトヲ得

第三十九條　民政署長ノ承認ヲ受ケ關東州外ニ輸出スル煙草ニ付テハ煙草稅ハ之ヲ免除ス

第四十條　前條ノ承認ヲ受ケムトスル者ハ輸出スヘキ煙草ヲ保稅地域又ハ郵便局ヨリ引取リタル日ヨリ三日以内ニ民政署長ニ申請シ檢査ヲ求ムルコトヲ得

第四十一條　前條ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ民政署長ハ煙草稅額ニ相當スル擔保物ヲ提供セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル擔保物ノ提供ニ付テハ第三十二條、第三十三條及三十四條第一項ノ規定ヲ準用ス

第四十二條　承認ヲ受ケ關東州外ヘ輸出シタル煙草ニ付煙草稅ノ免除ヲ受クヘシ但シ仕向先ニ於ケル稅關ノ輸入免狀其ノ他輸出ノ事實ヲ證明スヘキ書類ト共ニ民政署ニ申請書ヲ提出スヘシ

第四十三條　承認ヲ受ケ關東州外ニ煙草ヲ輸出シタル後相當ト認ムル期間内ニ前條ノ書類ヲ提出セサルトキハ煙草稅ハ之ヲ免除セス

前項ノ規定ニ依リ煙草稅ヲ免除セサルニ至リタルトキハ煙草ハ之ヲ輸出セサルモノト看做シ引取人ヨリ煙草稅ヲ徵收ス

第四十四條　第四十條ノ規定ニ依リ保稅地域又ハ郵便局ヨリ引取ル以前ニ於テ輸出ノ承認ヲ受ケサル煙草ト雖民政署長ニ於テ其ノ煙草ニ付左記各號ノ事實アルコトヲ確認シタルトキハ其ノ煙草稅ヲ免除スルコトヲ得

一　引取後容器又ハ包裹ノ改裝ナキコト

二　引取タル日ヨリ一年ヲ經過セサルコト

三　煙草稅納付濟又ハ煙草稅徵收猶豫中ナルコト

前項ノ規定ハ煙草稅徵收猶豫中ノモノヲ除クノ外免除スヘキ煙草稅ヲ爾後納付スヘキ煙草稅ニ充ツルコトヲ得ル場合ニ限リ之ヲ適用ス

第四十五條　前條ノ規定ニ依リ煙草稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ輸出スヘキ煙草ノ所在、種類、數量、輸出地、輸出先及輸出日時ヲ記載シタル申請書ヲ民政署ニ提出シ其ノ承認ヲ受クヘシ

第四十六條　第四十二條及第四十三條第一項ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十七條　第四十條又ハ第四十五條ノ規定ニ依リ輸出ノ承認ヲ受ケタル煙草ニ煙草封緘紙ノ之ヲ貼附シ且製造者ノ氏名又ハ名稱及小賣定價又ハ小賣定價ノ別ヲ記載シタル封緘紙ヲ貼附シタルトキハ封緘紙ハ之ヲ除去シ又ハ之ニ消印スヘシ

第四十八條　民政署長ハ承認ヲ受ケ煙草製造人ノ變更ヲ命セラレタル者之ヲ變更セサルトキハ直ニ煙草稅ヲ徵收ス

第四十九條　擔保物ヲ提供シタルトキハ民政署長ニ於テ抵當繼設定登記ヲ爲スヘシ

第五十條　擔保物ノ價格減少シタルトキ又ハ擔保物ヲ變更スル必要アリト認メタルトキハ民政署長ハ更ニ相當ノ擔保物ノ提供ヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ擔保物ノ提供ヲ命セラレタル者之ヲ提供セサルトキハ民政署長ハ直ニ煙草稅ヲ徵收ス

第五十一條　稅令第六條第一項ノ規定ニ依ル納稅保證人ハ民政署長ニ於テ納稅ニ堪フル資力アリト認メタル者ニ限ル

民政署長ハ納稅保證人ノ資力納稅保證ニ堪ヘサルニ至リタリト認メタルトキハ之ヲ變更セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ納稅保證人ノ變更ヲ命セラレタル者之ヲ變更セサルトキハ直ニ煙草稅ヲ徵收ス

第五十二條　民政署長ハ引取人稅令第六條第一項ノ期間内ニ煙草稅ヲ納付セサルトキハ納稅保證人ニ通知シ其ノ煙草稅ヲ納付セシムヘシ

第五十三條　煙草稅納付濟ニ至リタルトキハ民政署長ハ遲滯ナク擔保物又ハ納稅保證書ヲ還付ノ手續ヲ爲スヘシ

第五十四條　當時煙草ノ引取ヲ爲ス者ハ民政署長ノ承認ヲ受ケ擔保物ヲ提供シ又ハ納稅保證人ヲ立ツルコトヲ得

第五十五條　民政署長ノ承認ヲ受ケ關東州外ニ輸出スル煙草ニ付テハ煙草稅ハ之ヲ免除ス

第五十六條　前條ノ承認ヲ受ケムトスル者ハ輸出スヘキ煙草ヲ保稅地域又ハ郵便局ヨリ引取リタル日ヨリ三日以内ニ民政署長ニ申請シ檢査ヲ求ムルコトヲ得

第五十七條　第五十條ノ規定ニ依ル擔保物ノ提供ニ付テハ第五十一條ノ規定ニ依ル納稅保證人ニ通知シ其ノ煙草稅ヲ納付セシムヘシ

第五十八條　第五十二條及第五十三條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十九條　民政署長ハ引取人稅令第六條第一項ノ期間内ニ煙草稅ヲ納付セサルトキハ納稅保證人ニ通知シ其ノ煙草稅ヲ納付セシムヘシ

第六十條　當時煙草ノ引取ヲ爲ス者ハ民政署長ノ承認ヲ受ケ擔保物ヲ提供シ又ハ納稅保證人ヲ立ツルコトヲ得

第六十一條　民政署長ハ引取人稅令第六條第一項ノ規定ニ依ル納稅保證人ノ變更ヲ命セラレタル者之ヲ變更セサルトキハ直ニ煙草稅ヲ徵收ス

第六十二條　民政署長ハ引取人稅令第六條第一項ノ規定ニ依ル納稅保證人ノ變更ヲ命セラレタル者之ヲ變更セサルトキハ直ニ煙草稅ヲ徵收ス

第六十三條　前條ノ規定ニ依ル製造煙草小賣定價ノ指定ニ對シ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ民政署長ニ申請シ審査ヲ求ムルコトヲ得

第六十四條　第二十二條及第二十三條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十五條　郵便物中煙草稅ヲ課スヘキ煙草アリタルトキハ民政署長ハ其ノ稅金額ヲ郵便局ヘ通知スヘシ

第六十六條　郵便局前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ當該郵便物ノ郵便官署ニ留置シ到著通知書ヲ名宛人ニ交付スル名宛人ハ通知書ノ日附ヨリ二十日以内ニ郵便官署ニ稅金ヲ納付シテ其ノ郵便物ヲ受取ルヘシ

前項ノ煙草稅ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付セシム

第六十七條　名宛人前條ノ手續ヲ履行セサルトキハ該郵便物ハ之ヲ配達不能ノモノトシテ取扱フヘシ

第六十八條　郵便局ニ於テ前條ノ取扱ヲ爲シタルトキハ之ヲ民政署長ニ通知スヘシ

第六十九條　左ニ揭ケル場合ニ於テ民政署長ハ當該煙草ヲ保留地域外ニ置去リタルトキ

一　輸入煙草ヲ保稅地域外ニ置去リタルトキ

二　保稅倉庫以外ノ保稅地域ニ搬入シタル煙草ニシテ其ノ荷主不明ナルトキ

三　旅客ノ携帶品ヲ輸入煙草ニ付輸入ノ際煙草稅ヲ納付セサルトキ

前項ノ場合ニ於テ民政署長ハ其ノ費用及危險ヲ負擔セシム

第七十條　前條ノ規定ニ依リ煙草ヲ保留シタルトキハ三日以内ニ其ノ旨ヲ揭示スヘシ

第七十一條　保留煙草ノ引渡ヲ求メムトスル者ハ民政署長ニ申出テ其ノ煙草ニ關スル一切ノ費用ヲ納付スヘシ

第七十二條　前條ノ申出アリタルトキハ民政署長ハ其ノ煙草ヲ引渡スヘシ

第七十三條　保留煙草ニ付腐敗其ノ他損傷ノ虞アルトキハ前條ノ期間ニ拘ラス公告シテ之ヲ公賣スルコトヲ得但シ急速ヲ要スルトキハ公賣シタル後之ヲ公告スルコトヲ得

第七十四條　保留煙草ヲ公賣シタルトキハ其ノ賣得金ヲ以テ稅金數料其ノ他其ノ煙草ニ關スル一切ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ之ヲ被保留者ニ交付スヘシ

第七十五條　保留煙草ニ付腐敗其ノ他損傷ノ虞アルトキハ前條ノ期間ニ拘ラス公告シテ之ヲ公賣シタル後之ヲ公告スルコトヲ得

第七十六條　保留煙草ヲ公賣シタルトキハ其ノ賣得金ヲ以テ稅金數料其ノ他其ノ煙草ニ關スル一切ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ之ヲ被保留者ニ交付スヘシ

第七十七條　保留煙草ヲ公賣シタル場合ニ於テ其ノ賣得金ヲ以テ稅金數料及其ノ他必要ノ費用ヲ支拂ヒ尚不足アルトキハ被保留者ニ其ノ不足額ヲ納付セシムヘシ

第七十八條　保留煙草ヲ公賣シタル場合ニ於テ其ノ賣得金ヲ以テ稅金數料及其ノ他必要ノ費用ヲ支拂ヒ尚不足アルトキハ被保留者ニ其ノ不足額ヲ納付セシムヘシ

第七十九條　保留煙草ヲ公賣シタル場合ニ於テ其ノ賣得金ヲ以テ稅金數料及其ノ他必要ノ費用ヲ支拂ヒ尚不足アルトキハ被保留者ニ其ノ不足額ヲ納付セシムヘシ

第八十條　保留煙草ヲ公賣シタル場合ニ於テ其ノ賣得金ヲ以テ稅金數料及其ノ他必要ノ費用ヲ支拂ヒ尚不足アルトキハ被保留者ニ其ノ不足額ヲ納付セシムヘシ

第八十一條　保留煙草ヲ公賣シタル場合ニ於テ其ノ賣得金ヲ以テ稅金數料及其ノ他必要ノ費用ヲ支拂ヒ尚不足アルトキハ被保留者ニ其ノ不足額ヲ納付セシムヘシ

第八十二條　保留煙草ヲ公賣シタル場合ニ於テ其ノ賣得金ヲ以テ稅金數料及其ノ他必要ノ費用ヲ支拂ヒ尚不足アルトキハ被保留者ニ其ノ不足額ヲ納付セシムヘシ

第八十三條　自家用煙草ニ關スル煙草稅ハ會社ニ於テ之ヲ取締ムヘシ

第八十四條　第十四條及第八十一條ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタル者ニ付相當ト認ムル期間内ニ自家用煙草耕作ノ免許ヲ受ケタル者ニ付相續開始アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第八十五條　第九條、第十一條又ハ第十二條ノ免許證又ハ出廠證ヲ亡失若ハ毀損シタルトキハ其ノ記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ遲滯ナク其ノ再交付又ハ書換ヲ申請スヘシ

第八十六條　前條ノ規定ニ依リ免許證又ハ出廠證ノ再交付ヲ受ケル者ハ手數料トシテ一枚ニ付二十錢ヲ納付スヘシ

第八十七條　煙草販賣者ハ稅令第一條ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタル煙草耕作者、煙草製造者又ハ煙草卸賣者ニ非サル者ヨリ煙草ヲ讓受クルコトヲ得但シ關東州外ヨリ輸入スルトキ又ハ特ニ民政署長ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八十八條　煙草販賣者ハ製造煙草ノ容器又ハ包裹ヲ開披又ハ改裝シテ之ヲ販賣スルコトヲ得ス但シ民政署長ノ承認ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八十九條　保稅地域又ハ郵便局ニ在ル煙草ニシテ腐敗其ノ他ノ事由ニ因リ喫用ニ適セサルモノヲ廢棄セムトスルトキハ民政署長ニ申告シ其承認ヲ受クヘシ

第九十條　煙草製造者ハ帳簿ヲ備ヘ左ノ事項ヲ之ニ記載スヘシ

一　原料又ハ材料ノ種類及製盡但シ他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ仍引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所氏名又ハ名稱

二　使用ノ日

三　製造シタル煙草ノ種類、品名、數量及製造但シ日時

四　他ニ引渡シタル製造煙草ノ種類、品名、數量及引渡ノ日及其ノ引取人ノ住所、氏名又ハ名稱但シ小賣ニ付テハ引取人ノ住所、氏名又ハ名稱ハ之ヲ記載セサルコトヲ得

第九十一條　煙草販賣者ハ帳簿ヲ備ヘ左ノ事

ラス

第五十七條　製造煙草ヲ郵便局ヨリ引取リタル者ハ引取リタル日ヨリ三日以内ニ之ヲ民政署ニ提出シ煙草封緘紙ノ貼附及小賣定價ノ刷記ニ付其ノ承認ヲ受ケ又ハ第五十二條第一項ノ檢印ヲ受クヘシ

第五十八條　製造煙草ノ容器若ハ包裹ヲ改裝シ、製造煙草ノ容器若ハ包裹ニ刷記セル製造者ノ氏名、名稱若ハ小賣定價ヲ改刷シ又ハ製造煙草ノ容器若ハ包裹ニ貼附セル煙草封緘紙ヲ改貼セムトスルトキハ民政署長ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケムトスル者ハ其ノ理由、煙草ノ種類、品名、數量竝改裝若ハ改刷若ハ改貼ヲ爲ス場所及日時ヲ記載シタル申請書ヲ民政署ニ提出スヘシ

第五十九條　前條第一項ノ許可ヲ受ケ改裝、改刷又ハ改貼ヲ爲サムトスルトキハ稅務官吏ノ檢査ヲ受クヘシ

煙草封緘紙ハ小賣定價ニ增減アリタル場合ニ於テハ其ノ增差額ニ對シ煙草稅ヲ徵收シ但シ其ノ減差額ニ對シテハ煙草稅ヲ減額又ハ還付セス

前項ノ場合ニ於テ前ニ刷記シタル小賣定價不明ナルトキハ民政署長ハ證憑物件ニ表リ其ノ小賣定價ヲ査定スヘシ

第六十條　稅令第七條第二項又ハ本令第四十三條第二項ノ規定ニ依リ煙草稅ヲ徵收スル場合ニ於テ現存スル製造煙草ニ係ルトキハ運送申告者ハ其ノ種類、品名及數量ヲ民政署長ニ申告シ其ノ指揮ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ民政署長ハ製造者ノ氏名又ハ名稱及小賣定價ヲ刷記セシメ且煙草封緘紙ノ貼附等ノ措置ヲ爲サシムヘシ

第六十一條　屑煙草ハ容器又ハ包裹「ボール」箱ニ容ルル等ノ方法ニ依リ製造煙草ト紛ハシキ裝置ヲ施シテ販賣スルコトヲ得ス

第六十二條　民政署長ハ稅令第十二條ノ規定ニ依リ製造煙草ノ小賣定價ヲ指定シタルトキハ之ヲ引取人ニ通知スヘシ

第六十三條　前條ノ規定ニ依ル製造煙草小賣定價ノ指定ニ對シ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ民政署長ニ申請シ審査ヲ求ムルコトヲ得

第六十四條　第二十二條及第二十三條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十五條　郵便物中煙草稅ヲ課スヘキ煙草アリタルトキハ民政署長ハ其ノ稅金額ヲ郵便局ヘ通知スヘシ

第六十六條　郵便局前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ當該郵便物ノ郵便官署ニ留置シ到著通知書ヲ名宛人ニ交付ス名宛人ハ通知書ノ日附ヨリ二十日以内ニ郵便官署ニ稅金ヲ納付シテ其ノ郵便物ヲ受取ルヘシ

前項ノ煙草稅ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付セシム

第六十七條　名宛人前條ノ手續ヲ履行セサルトキハ該郵便物ハ之ヲ配達不能ノモノトシテ取扱フヘシ

第六十八條　郵便局ニ於テ前條ノ取扱ヲ爲シタルトキハ之ヲ民政署長ニ通知スヘシ

第六十九條　左ニ揭ケル場合ニ於テ民政署長ハ當該煙草ヲ保留地域外ニ置去リタルトキ

一　輸入煙草ヲ保稅地域外ニ置去リタルトキ

二　保稅倉庫以外ノ保稅地域ニ搬入シタル煙草ニシテ其ノ荷主不明ナルトキ

三　旅客ノ携帶品ヲ輸入煙草ニ付輸入ノ際煙草稅ヲ納付セサルトキ

前項ノ場合ニ於テ民政署長ハ其ノ費用及危險ヲ負擔セシム

第七十條　前條ノ規定ニ依リ煙草ヲ保留シタルトキハ三日以内ニ其ノ旨ヲ揭示スヘシ

第七十一條　保留煙草ノ引渡ヲ求メムトスル者ハ民政署長ニ申出テ其ノ煙草ニ關スル一切ノ費用ヲ納付スヘシ

第七十二條　前條ノ申出アリタルトキハ民政署長ハ其ノ煙草ヲ引渡スヘシ

第七十三條　保留煙草ニ付腐敗其ノ他損傷ノ虞アルトキハ前條ノ期間ニ拘ラス公告シテ之ヲ公賣スルコトヲ得但シ急速ヲ要スルトキハ公賣シタル後之ヲ公告スルコトヲ得

第七十四條　保留煙草ヲ公賣シタルトキハ其ノ賣得金ヲ以テ稅金數料其ノ他其ノ煙草ニ關スル一切ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ之ヲ被保留者ニ交付スヘシ

第七十五條　保留煙草ヲ公賣シタル場合ニ於テ其ノ賣得金ヲ以テ稅金數料及其ノ他必要ノ費用ヲ支拂ヒ尚不足アルトキハ被保留者ニ其ノ不足額ヲ納付セシムヘシ

第七十六條　保留煙草ヲ公賣シタル場合ニ於テ其ノ賣得金ヲ以テ稅金數料及其ノ他必要ノ費用ヲ支拂ヒ尚不足アルトキハ被保留者ニ其ノ不足額ヲ納付セシムヘシ

第七十七條　保留煙草ヲ公賣シタル場合ニ於テ其ノ賣得金ヲ以テ稅金數料及其ノ他必要ノ費用ヲ支拂ヒ尚不足アルトキハ被保留者ニ其ノ不足額ヲ納付セシムヘシ

第七十八條　保留煙草ヲ公賣シタル場合ニ於テ其ノ賣得金ヲ以テ稅金數料及其ノ他必要ノ費用ヲ支拂ヒ尚不足アルトキハ被保留者ニ其ノ不足額ヲ納付セシムヘシ

第七十九條　保留煙草ヲ公賣シタル場合ニ於テ其ノ賣得金ヲ以テ稅金數料及其ノ他必要ノ費用ヲ支拂ヒ尚不足アルトキハ被保留者ニ其ノ不足額ヲ納付セシムヘシ

第八十條　保留煙草ヲ公賣シタル場合ニ於テ其ノ賣得金ヲ以テ稅金數料及其ノ他必要ノ費用ヲ支拂ヒ尚不足アルトキハ被保留者ニ其ノ不足額ヲ納付セシムヘシ

第八十一條　保留煙草ヲ公賣シタル場合ニ於テ其ノ賣得金ヲ以テ稅金數料及其ノ他必要ノ費用ヲ支拂ヒ尚不足アルトキハ被保留者ニ其ノ不足額ヲ納付セシムヘシ

第八十二條　保留煙草ヲ公賣シタル場合ニ於テ其ノ賣得金ヲ以テ稅金數料及其ノ他必要ノ費用ヲ支拂ヒ尚不足アルトキハ被保留者ニ其ノ不足額ヲ納付セシムヘシ

第八十三條　自家用煙草ニ關スル煙草稅ハ會社ニ於テ之ヲ取締ムヘシ

第八十四條　第十四條及第八十一條ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタル者ニ付相當ト認ムル期間内ニ自家用煙草耕作ノ免許ヲ受ケタル者ニ付相續開始アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第八十五條　第九條、第十一條又ハ第十二條ノ免許證又ハ出廠證ヲ亡失若ハ毀損シタルトキハ其ノ記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ遲滯ナク其ノ再交付又ハ書換ヲ申請スヘシ

第八十六條　前條ノ規定ニ依リ免許證又ハ出廠證ノ再交付ヲ受ケル者ハ手數料トシテ一枚ニ付二十錢ヲ納付スヘシ

第八十七條　煙草販賣者ハ稅令第一條ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタル煙草耕作者、煙草製造者又ハ煙草卸賣者ニ非サル者ヨリ煙草ヲ讓受クルコトヲ得但シ關東州外ヨリ輸入スルトキ又ハ特ニ民政署長ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八十八條　煙草販賣者ハ製造煙草ノ容器又ハ包裹ヲ開披又ハ改裝シテ之ヲ販賣スルコトヲ得ス但シ民政署長ノ承認ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八十九條　保稅地域又ハ郵便局ニ在ル煙草ニシテ腐敗其ノ他ノ事由ニ因リ喫用ニ適セサルモノヲ廢棄セムトスルトキハ民政署長ニ申告シ其承認ヲ受クヘシ

第九十條　煙草製造者ハ帳簿ヲ備ヘ左ノ事項ヲ之ニ記載スヘシ

一　原料又ハ材料ノ種類及製盡但シ他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ仍引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所氏名又ハ名稱

二　使用ノ日

三　製造シタル煙草ノ種類、品名、數量及製造但シ日時

四　他ニ引渡シタル製造煙草ノ種類、品名、數量及引渡ノ日及其ノ引取人ノ住所、氏名又ハ名稱但シ小賣ニ付テハ引取人ノ住所、氏名又ハ名稱ハ之ヲ記載セサルコトヲ得

第九十一條　煙草販賣者ハ帳簿ヲ備ヘ左ノ事

項ヲ之ニ記載スヘシ
一　引取リタル煙草ノ種類、品名、數量、價額、引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱
二　販賣シタル煙草ノ種類、品名、數量、價額、販賣ノ日及其ノ買受人ノ住所、氏名又ハ名稱

葉煙草ニ付テハ品名ノ之ヲ記載スルコトヲ要セス

製造煙草ニ付テハ價額ハ小賣定價ヲ記載スヘシ

煙草小賣者ニ付テハ第一項第二號ノ買受人ノ之ヲ記載セサルコトヲ得

第九十二條　煙草製造者又ハ引取人ハ帳簿ヲ備ヘ煙草封緘紙ノ受拂ヲ爲シタル日及其ノ數量ヲ記載スヘシ

第九十三條　煙草ノ製造又ハ出入ノ事項ニ關シ稅務官吏ノ必要ト認メテ其ノ承認ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ煙草製造者ハ其ノ指揮ニ從フヘシ

第九十四條　稅務官吏檢査上ノ必要ニ依リ煙草ノ容器又ハ包裹ヲ開披スヘキコトヲ命シタルトキハ煙草所持者ハ其ノ指揮ニ從ヒ之ヲ開披スヘシ

第九十五條　本令ニ依リ民政署長ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受クヘキ場合ニ於テ保稅地域又ハ郵便局ニ出張シタル稅務官吏ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受ケタルトキハ民政署長ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受ケタルモノト看做ス

第九十六條　稅務官吏ハ煙草製造者又ハ煙草販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第九十七條　免許ヲ受ケスシテ煙草ノ耕作、製造又ハ販賣ヲ爲シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第九十八條　詐欺又ハ不正ノ行爲ニ依リ煙草稅ヲ逋脫シ又ハ逋脫セムトシタル者ハ其ノ煙草稅ノ七倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ罰金額二百圓ヲ超ユルトキハ二百圓トス

備考　木製　縱三寸、橫二寸トス

第三號樣式

免許番號第　號

○煙草卸賣（小賣）營業

何

某

第二號樣式

第　號

營業場……

卸賣（小賣）者　何　某

何民政署印

備考　厚質紙　縱六寸、橫四寸トス

裏

注意

一……

一……

一……

譯文

一……

一……

一……

表

煙草出賣鑑札

大正　年　月　日

何民政署印

第一號樣式

免許番號第　號

煙草卸賣（小賣）免許證

大正　年　月　日

住所……

營業場……

何　某

何民政署印

裏

注意

一……

一……

一……

譯文

一……

一……

一……

表

自家用煙草耕作免許證

大正　年　月　日

住所……

何　某

何民政署印

第二十款　製茶稅

●製茶稅則　明治二十九年十月二十四日律令第九號

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル製茶稅則勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ發布ス

製茶稅則

第一條　凡ソ製茶ヲ業トスル者ハ此稅則ニ從ヒ製茶稅ヲ納ムヘシ

第二條　製茶稅率ハ製茶百斤ニ付金二圓四十錢トス

第三條　製茶業者ハ製茶ヲ販賣若ハ運搬スル以前ニ於テ租稅檢査所ニ到リ現品ノ檢査ヲ受ケ前條ノ製茶稅ヲ納付シ其納濟證書ヲ申受クヘシ

製茶ヲ貸渡シ又ハ買入書入若ハ讓與スルトキ亦同シ

第四條　製茶ヲ運搬スルトキハ納濟證書ヲ現品ニ添付シ租稅檢査所ノ檢査ヲ受ケ其納濟證書ハ最後ノ檢査所ニ納付スヘシ

第五條　製茶業者若ハ製茶ノ仲買運送等ヲ營業トスル者ノ家屋倉庫其他ノ場所及營業ニ關スル簿書物品ハ當該官吏之ヲ檢査スルコトアルヘシ

第六條　第三條ヲ犯シタルトキハ當事者雙方ヲ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ尙現在ノ製茶ヲ沒收シ但賣渡シタル場合ニ於テハ其代金ヲ追徵ス

第七條　第四條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條　本稅則ノ施行細則ハ府令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第九條　製茶業者ニ於テ此稅則施行以前ヨリ持越シタル製茶ニ對シテモ仍此稅則ヲ適用ス

第十條　本稅則ハ明治三十年一月一日ヨリ施行ス

●製茶稅則施行細則　明治四十年一月二十六日　臺灣總督府令第一號

製茶稅則施行細則左ノ通相定ム

第一條　製茶稅ヲ納付セムトスル者ハ製茶ノ種類、箇數、斤量及稅額ヲ記載シタル書面ヲ稅關又ハ稅關支署ニ差出スヘシ

第二條　製茶檢査ノ際斤量ニ於テ斤位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ切捨テ斤位ニ止ム

第三條　納濟證書下付ノ申請ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

纔出若ハ出港ノ場合ハ納濟證書下付ノ申請ヲ要セス

第四條　納濟證書ニハ製茶ノ種類、箇數、斤量及貨主ノ住所、氏名ヲ記載スヘシ

附則

本令ハ明治四十年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年三月府令第十八號製茶稅則施行細則ハ之ヲ廢止ス

第二十一款　地方諸稅

●地方稅ニ關スル法律

不正ノ行爲ニ依リ煙草稅ヲ逋脫シ又ハ逋脫セムトシタルトキハ煙草稅ノ十倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ罰金額二百圓ヲ超ユルトキハ二百圓トシ科料額十圓ヲ下ルトキハ十圓トス

前條ノ規定ニ該當スル者ハ第一項及第二項ノ規定ハ之ヲ適用セス

第九十九條　煙草稅納付前ニ於テ煙草ヲ消費シ又ハ保稅地域若ハ郵便局ヨリ煙草ヲ引取リタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ稅令第五條第一項又ハ同令第六條第一項ノ規定ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第百條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ煙草稅ノ五倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ罰金額二百圓ヲ超ユルトキハ二百圓トシ科料額五圓ヲ下ルトキハ五圓トス

一　關東州外ニ輸出スル爲煙草稅ヲ免除セラレタル煙草ヲ關東州內ニ於テ消費シ又ハ關東州內ニ於テ消費スル目的ヲ以テ他人ニ之ヲ讓渡シタル者

二　製造煙草ノ原料ニ使用スル爲煙草稅ヲ免除セラレタル葉煙草ヲ原料以外ノ用ニ供シタル者

第百一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第一條第二項、第三條第三項、第二十九條第一項若ハ第三項、又ハ第五十八條第一項ノ規定ニ依ル特許若ハ許可ヲ受ケス又ハ事實ヲ詐リテ其ノ特許又ハ許可ヲ受ケサリシトキ

二　第八條、第四十七條、第五十條、第五十一條、第五十五條、第六十條第一項、第六十一條、第八十七條又ハ第八十八條ノ規定ニ違反シタルトキ

三　煙草製造者製造煙草ノ容器又ハ包裹ニ其ノ氏名又ハ名稱ヲ刷記セサルトキ但シ關東州外ニ輸出スル爲煙草稅ヲ免除セラレタルモノハ此ノ限ニ在ラス

四　煙草引取人製造煙草ノ容器又ハ包裹ニ小賣定價ヲ刷記セス、煙草封緘紙ヲ貼付セス又ハ第五十二條第一項及第百五條第一項ノ檢印ヲ受ケサルトキ但シ關東州外ニ輸出スル爲煙草稅ヲ免除セラレタルモノハ此ノ限ニ在ラス

五　煙草製造者製造場ニ於テ煙草ヲ販賣シタルトキ但シ許可ヲ受ケ販賣ノ場所ヲ區劃シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

六　自家用煙草耕作ノ免許ヲ受ケタル者制限面積ヲ超過シテ煙草ヲ耕作シタルトキ

七　自家用煙草耕作者其ノ耕作ニ係ル煙草ヲ他人ニ讓渡シタルトキ

八　煙草製造者、煙草販賣者又ハ煙草引取人煙草ノ製造、販賣又ハ煙草封緘紙ノ受拂ニ關スル事項ヲ記載スヘキ帳簿ヲ調製セス又ハ其ノ記載ヲ僞リ若ハ怠リタルトキ又ハ其ノ帳簿ヲ隱匿シタルトキ

九　稅務官吏ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シタルトキ

第百二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ科料ニ處ス

一　本令ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ申告ニ付不實ノ陳述ヲ爲シタル者

二　第六條、第十一條乃至第十三條、第十五條、第二十六條、第八十二條第二項、第五十七條、第八十二條、第八十五條又ハ第百五條第二項ノ規定ニ違反シタル者

三　製造煙草ノ容器又ハ包裹ニ小賣定價ヲ刷記セサル製造煙草又ハ第五十二條第一項又ハ第百五條第一項ノ檢印ヲ受ケタル製造煙草ヲ他人ヨリ讓受ケタル者

第百三條　本令中民政署又ハ民政署長トアルハ民政支署ノ管內ニ在リテハ民政支署又ハ民政支署長トス

附則

第百四條　本令ハ關東州煙草稅令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第百五條　本令施行ノ際現ニ製造煙草ヲ所有又ハ所持スル者ハ本令施行後二十日以內ニ其ノ製造煙草ノ容器又ハ包裹ニ販賣ヲ目的トスルモノニ在リテハ煙草封緘紙ノ貼附ヲ爲シ販賣ヲ目的トセサルモノニ在リテハ稅務官吏ノ檢印ヲ受ケタル製造煙草ハ之ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得ス

第百六條　稅令第二十九條、煙草稅ハ本令施行ノ際之ヲ徵收スル但シ保稅地域ニ在ル煙草ニ付テハ之ヲ製造場ヨリ煙草ヲ引取ル際其ノ煙草稅ヲ徵收ス

前項ノ煙草稅ニ付申告者稅金額ニ相當スル擔保物ヲ提供シタルトキ又ハ相當ノ納稅保證人ヲ立テタルトキハ六月以內煙草稅ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第三十三條乃至第三十七條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第百七條　本令施行ノ際現ニ煙草ノ製造ヲ爲ス者其ノ所有又ハ所持スル葉煙草ヲ製造煙草ノ原料ニ使用セムトスルトキハ本令施行後二十日以內ニ民政署長ニ申請シ其ノ承認ヲ受クヘシ

大正十五年三月二十七日
法律第二十四號

股帝國議會ノ協賛ヲ經タル地方稅ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務、大藏大臣副署）

第一條　北海道、府縣ハ本法ニ依リ特別地稅、家屋稅、營業稅及雜種稅ヲ賦課スルコトヲ得

第二條　特別地稅ハ地租條例第十三條ノ二ノ規定ニ依リテ地租ヲ徵收セサル田畑ニ對シ地租條例第一條ノ地價ヲ標準トシテ之ヲ賦課ス

特別地稅ノ徵收ニ關シテハ地租條例第十三條ノ規定ヲ準用ス

第三條　特別地稅ノ賦課率ハ北海道ニ在リテハ地價百分ノ二・六以內、府縣ニ在リテハ地價百分ノ三・七以內トス

特別地稅ニ對シ市町村其ノ他ノ公共團體ニ於テ賦課スヘキ附加稅ノ賦課率ハ前項ニ規定スル制限ノ百分ノ八十以內トス

第四條　府縣費ノ全部ノ分賦ヲ受クタル市ハ第二條ノ例ニ依リ地價百分ノ二・九ノ外其ノ分賦金額以內ニ限リ前條第一項ニ規定スル制限ニ達スル迄特別地稅ヲ賦課スルコトヲ得

北海道地方費又ハ府縣費ノ一部ノ分賦ヲ受ケタル市町村ハ前條第二項ニ規定スル制限ノ外其ノ分賦金額以內ニ限リ特別地稅附加稅ヲ賦課スルコトヲ得但シ北海道、府縣ノ賦課額ト市町村ノ賦課額トノ合算額ハ前條第一項ニ規定スル制限ヲ超ユルコトヲ得ス

第五條　特別地稅又ハ其ノ附加稅ト段別割トヲ併課スル場合ニ於テハ段別割ノ總額ハ第三條又ハ前條ノ規定ニ依リテ其ノ地目ノ土地ニ對シ賦課シ得ヘキ制限額ト特別地稅額又ハ其ノ附加稅額トノ差額ヲ超ユルコトヲ得ス

第六條　特別地稅又ハ其ノ附加稅ノ賦課カ第三條乃至前條ニ規定スル制限ニ違シタル場合ニ非サレハ明治四十一年法律第三十七號第五條ノ規定ニ依ル地租、營業收益稅又ハ所得稅ノ附加稅ノ制限外課稅ヲ爲スコトヲ得ス

特別地稅又ハ其ノ附加稅ト段別割トヲ併課シタル場合ニ於テ一地目ニ對スル賦課カ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ特別地稅又ハ其ノ附加稅カ制限ニ違シタルトキハ前項ノ規定ニ依リ特別地稅又ハ其ノ附加稅ノ必要アル場合ニ於テハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ第三條乃至第五條ニ規定スル制限ヲ超過シ其ノ百分ノ十二以內ニ於テ特別地稅又ハ其ノ附加稅ヲ賦課スルコトヲ得

左ニ揭ケル場合ニ於テハ特ニ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ前項ニ規定スル制限ヲ超過シテ課稅スルコトヲ得

一　內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ起シタル負債ノ元利償還ノ爲費用ヲ要スル場合

二　非常ノ災害ニ因リ復舊工事ノ爲費用ヲ要スルトキ

三　水利ノ爲費用ヲ要スルトキ

四　傳染病豫防ノ爲費用ヲ要スルトキ

前二項ノ規定ニ依リ制限ヲ超過シテ課稅スル場合ニ於テハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ前項ニ規定スル制限ヲ超過シテ課稅スルコトヲ得

第七條　特別地稅ノ賦課率ハ府縣費ノ全部ノ分賦ヲ受ケタル市ニ於テハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ第三條乃至第五條ニ規定スル制限ヲ超過シ其ノ百分ノ十二以內ニ於テ特別地稅又ハ其ノ附加稅ヲ賦課スルコトヲ得

左ニ揭ケル場合ニ於テハ特ニ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ前項ニ規定スル制限ヲ超過シテ課稅スルコトヲ得

一　內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ起シタル負債ノ元利償還ノ爲費用ヲ要スルトキ

二　非常ノ災害ニ因リ復舊工事ノ爲費用ヲ要スルトキ

三　水利ノ爲費用ヲ要スルトキ

四　傳染病豫防ノ爲費用ヲ要スルトキ

前二項ノ規定ニ依リ制限ヲ超過シテ課稅スル場合ニ於テハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ第三條乃至第五條ニ規定スル制限ヲ超過シ其ノ百分ノ十二以內ニ於テ特別地稅又ハ其ノ附加稅ヲ賦課スルコトヲ得

左ニ揭ケル場合ニ於テハ特ニ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ前項ニ規定スル制限ヲ超過シテ課稅スルコトヲ得

一　內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ起シタル負債ノ元利償還ノ爲費用ヲ要スルトキ

二　非常ノ災害ニ因リ復舊工事ノ爲費用ヲ要スルトキ

三　水利ノ爲費用ヲ要スルトキ

四　傳染病豫防ノ爲費用ヲ要スルトキ

前二項ノ規定ニ依リ制限ヲ超過シテ課稅スル場合ニ於テハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ前項ニ規定スル制限ヲ超過シテ課稅スルコトヲ得

第八條　特別地稅及其ノ附加稅ノ賦課率ハ當該年度ノ豫算ニ於テ定メタル田畑ニ對スル地租附加稅額ノ當該田畑ノ地價ニ對スル比率ヲ超ユルコトヲ得ス

第九條　家屋稅ハ家屋ノ貸貸價格ヲ標準トシテ家屋ノ所有者ニ之ヲ賦課ス

第十條　家屋ノ貸貸價格ハ家屋稅調査委員ノ調査ニ依リ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ在リテハ府縣知事之ヲ決定ス

第十一條　左ニ揭ケル家屋ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ家屋稅ヲ賦課セサルコトヲ得

一　一時ノ使用ニ供スル家屋

二　貸貸價格一定額以下ノ家屋

三　公益上其ノ他ノ事由ニ因リ課稅ヲ不適當トスル家屋

第十二條　府縣費ノ全部ノ分賦ヲ受ケタル市ハ第九條乃至前條ノ例ニ依リ家屋稅ヲ賦課スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ府縣知事ノ職務ハ市長之ヲ行フ

第十三條　家屋稅及其ノ附加稅ノ賦課率及賦課ノ制限竝家屋ノ貸貸價格ノ算定及家屋稅調查委員ノ組織ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條　營業稅ハ營業收益稅ノ賦課ヲ受クサル營業者及營業收益稅ヲ賦課セサル營業ヲ爲ス者ニ之ヲ賦課ス

第十五條　營業收益稅法第二條ニ揭クルモノ及勅令ヲ以テ定ムルモノニ限ル

第十六條　府縣費ノ全部ノ分賦ヲ受クタル市ハ第十四條及前條ノ例ニ依リ營業稅ヲ賦課スルコトヲ得

第十七條　第十一條第三號ノ規定ハ營業稅ニ之ヲ準用ス

第十八條　營業稅ノ課稅標準竝營業稅及其ノ附加稅ノ賦課ノ制限ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條　雜種稅ヲ賦課スルコトヲ得ヘキモノノ種類ハ勅令ヲ以テ定ムルモノ竝內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クタルモノニ限ル

第二十條　第十一條第三號ノ規定ハ雜種稅ニ之ヲ準用ス

第二十一條　雜種稅ノ課稅標準竝雜種稅及其ノ附加稅ノ賦課ノ制限ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條　市町村ハ本法ニ依リ戶數割ヲ賦課スルコトヲ得

第二十三條　戶數割ハ一戶ヲ構フル者ニ之ヲ賦課ス

戶數割ハ一戶ヲ構ヘサルモ獨立ノ生計ヲ營ム者ニ之ヲ賦課スルコトヲ得

第二十四條　戶數割ハ納稅義務者ノ資力ヲ標準トシテ之ヲ賦課ス

第二十五條　戶數割ノ課稅標準タル資力ハ納稅義務者ノ所得額及資產ノ狀況ニ依リ之ヲ算定ス

第二十六條　第十一條第三號ノ規定ハ戶數割ニ之ヲ準用ス

第二十七條　市町村ハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ別ノ賦課方法ニ依リ家屋稅ヲ賦課スルコトヲ得

第二十八條　北海道府縣以外ノ公共團體ニ對スル第七條ノ許可ノ職權ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

附　則

本法ハ大正十五年度分ヨリ之ヲ適用ス但シ家屋稅營業稅及雜種稅其ノ附加稅竝戶數割ニ關スル規定ハ大正十六年度分ヨリ之ヲ適用ス

明治十三年第十六號布告及同年第十七號布告ハ大正十五年度分限リ之ヲ廢止ス

第六條及第七條中營業收益稅トアルハ大正十五年度分特別地稅及其ノ附加稅ニ付テハ國稅營業稅トス

家屋稅ハ大正十八年度分迄ニ限リ第九條乃至第十二條ノ規定ニ拘ラス別ニ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ賦課スルコトヲ得

●地方稅ニ關スル法律施行ニ關スル件

大正十五年十一月十七日
勅令第三百三十九號

玆ニ大正十五年法律第二十四號地方稅ニ關スル法律施行ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務、大藏大臣副署）

第一條　大正十五年法律第二十四號第九條ノ家屋トハ住家、倉庫、工場其ノ他各種ノ建物ヲ謂フ

第二條　家屋ノ貸貸價格ハ貸主ガ公課、修繕費其ノ他家屋ノ維持ニ必要ナル經費ヲ負擔スル條件ヲ以テ家屋ヲ貸貸スル場合ニ於テ賦課期日ノ現狀ニ依リ貸主ノ取得スヘキ金額ノ年額ヲ以テ之ヲ算定ス

第三條　第一項及第二項ノ場合ニ於テハ其ノ家屋ノ貸貸價格ハ前項ノ規定ニ依リテ算定シタル類似ノ他ノ家屋ノ貸貸價格ニ比準シテ之ヲ定ム

第三條　家屋稅ノ賦課期日後建築セラレタル家屋稅ヲ付テハ工事竣成ノ翌月ヨリ月割ヲ以テ家屋稅ヲ賦課ス

大正十五年法律第二十四號第十一條ノ規定ニ基キテ家屋稅ヲ賦課セザル家屋又ハ法律ニ依リテ家屋稅ヲ賦課スルコトヲ得ザル家屋ノ貸貸價格ハ同法ニ依ル個人ノ營業收益稅額ノ最低額未滿トス

屋カ家屋稅ノ賦課期日後之ヲ賦課スルコトヲ得ヘキモノト認メタル市町村ニ於テ賦課スヘキ家屋稅附加稅ハ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ズ

一　市ニ在リテハ其ノ總額當該年度ニ於ケル市稅豫算總額ノ百分ノ三十六但シ明治四十一年法律第三十七號第三條第三項ノ規定ニ依リテ所得稅附加稅ヲ賦課スル場合ニ於テハ當該年度ニ於ケル市稅豫算總額ノ百分ノ三十

二　町村ニ在リテハ其ノ總額當該年度ニ於ケル町村稅豫算總額ノ百分ノ六十但シ明治四十一年法律第三十七號第三條第三項ノ規定ニ依リテ所得稅附加稅ヲ賦課スル場合ニ於テハ當該年度ニ於ケル町村稅豫算總額ノ百分ノ五十五

特別ノ必要アル場合ニ於テハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ前項ニ規定スル制限ヲ超過シテ課稅スルコトヲ得

第十二條　大正十五年法律第二十四號第十五條ノ規定ニ依リ營業稅ヲ賦課スヘキ營業ノ種類ヲ定ムルコト左ノ如シ

遊興業　　撞球業
料理業　　船舶碇繫場業
待合業　　貨物陸揚場業
湯屋業　　兩替業
理髮業　　遊技場業
寄席業　　遊覽所業
藝妓置屋業　　活版印刷業
第十三條　營業收益稅法第二條ニ揭ケル營業ニ對スル營業稅ノ賦課額ハ同法ニ依ル個人ノ營業收益稅額ノ最低額未滿トス

第十四條　營業稅ノ課稅標準ハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケタル別ノ賦課方法ニ依リ家屋稅ヲ賦課スルコトヲ得

第十五條　年稅又ハ期稅タル營業稅ノ賦課期日後納稅義務ノ發生シタル者ニ對シテハ其ノ發生ノ翌月ヨリ月割ヲ以テ營業稅ヲ賦課ス

前項ノ營業稅ノ賦課期日後納稅義務ノ消滅シタル者ニ對シテハ其ノ消滅シタル月迄月割ヲ以テ營業稅ヲ賦課ス

第一項ノ營業稅ニ付テハ其ノ賦課後營業ノ承繼アリタル場合ニ於テハ前營業者ノ納稅ト看做シ前二項ノ規定ヲ適用セズ

第十六條　營業稅ノ賦課期日後其ノ月十五日迄ニ納稅義務發生シタルトキハ其ノ營業稅ノ全額、十六日以後納稅義務發生シタルトキ又ハ十五日迄ニ納稅義務消滅シタルトキハ其ノ半額ヲ賦課ス

前二項ノ場合ニ一ノ府縣ニ於テ納稅義務消滅シ他ノ府縣ニ於テ納稅義務發生シタルトキハ納稅義務ノ發生シタル府縣ハ納稅義務ノ消滅シタル府縣ニ於テ賦課シタル部分ニ付テハ營業稅ヲ賦課スルコトヲ得ズ

第十六條　營業稅附加稅ノ賦課率ハ本稅百分ノ八十以內トス

特別ノ必要アル場合ニ於テハ府縣知事ノ許可ヲ受ケ前項ニ規定スル制限ヲ超過シテ課稅スルコトヲ得

第十七條　大正十五年法律第二十四號第十九條ノ規定ニ依リ雜種稅ヲ賦課スルコトヲ得ヘキモノノ種類ヲ定ムルコト左ノ如シ

船　　車
水車　　市場
電柱　　金庫

牛馬
犬
狩獵
屠畜
不動產取得
漁業
遊藝師匠、遊藝人、相撲、俳優、藝妓其ノ他之ニ類スル者
演劇其ノ他ノ興行
遊興

前項ニ揭ゲル課目ハ府縣ニ於テ之ヲ取捨スルコトヲ得

特別ノ必要アル場合ニ於テ第一項ノ種類以外ノモノニ對シ雜種稅ヲ賦課セントスルトキハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クベシ

第十八條　第十五條ノ規定ハ雜種稅ノ賦課ニ之ヲ準用ス

第十九條　雜種稅ノ課稅標準及其ノ制限率其ノ他賦課ニ關シ必要ナル事項ハ內務大臣及大藏大臣之ヲ定ム

第二十條　雜種稅附加稅ノ總額ハ本稅總額ノ百分ノ八十九以內トス

特別ノ必要アル場合ニ於テハ府縣知事ノ許可ヲ受ケ前項ニ規定スル制限ヲ超過シテ賦課スルコトヲ得

第二十一條　戶數割總額中納稅義務者ノ資產ノ狀況ニ依リ資力ヲ算定シテ賦課スベキ額ハ戶數割總額ノ十分ノ二ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二十二條　戶數割納稅義務者ト生計ヲ共ニスル同居者ノ所得ハ之ヲ其ノ納稅義務者ノ所得ト看做ス但シ其ノ納稅義務者ヨリ受ケル所得ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十三條　同一人ニ對シ數市町村ニ於テ戶數割ヲ賦課スル場合ニ於テハ各其ノ市町村ニ於ケル所得ヲ以テ其ノ者ノ資力算定ノ標準タル所得トス其ノ所得ニ關シテハ府縣知事ノ許可ヲ受ケ前項ニ規定スル制限ヲ超過シテ賦課スルコトヲ得

第二十四條　所得ニ依ル資力算定方法ニ關シテハ第二十一條乃至前條ニ定ムルモノノ外內務大臣及大藏大臣之ヲ定ム

第二十五條　戶數割ノ賦課期日後納稅義務ノ發生シタル者ニ對スル賦課額ハ大正十五年法律第二十四號第二十四條乃至第二十七條及本令第二十一條（又ハ附則第六項）乃至前條ノ規定ニ依リテ定マリタル他ノ納稅義務者ノ賦課額ニ比準シテ之ヲ定ム

第十五條第一項、第二項及第五項ノ規定ハ戶數割ノ賦課ニ之ヲ準用ス但シ戶數割ノ賦課後納稅義務消滅スルモ其ノ賦課額ハ之ヲ變更セズ

第二十六條　市町村長ハ其ノ市町村住民ニ非ザル者（法人ヲ除ク）ノ當該市町村內ニ於テ生ズル其ノ年度分所得及其ノ所得ノ基本タル事實ヲ每年四月末日迄ニ其ノ住所地市町村長ニ通報スベシ但シ當該市町村ニ於テ其ノ者ニ戶數割ヲ賦課スルトキ又ハ其ノ住所地市町村ニ於テ戶數割ヲ賦課スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十七條　戶數割ハ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ズ

一　市ニ在リテハ其ノ總額當該年度ニ於ケル市稅豫算總額ノ百分ノ三十七

二　町村ニ在リテハ其ノ總額當該年度ニ於ケル町村稅豫算總額ノ百分ノ六十

特別ノ必要アル場合ニ於テハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ前項ニ規定スル制限ヲ超過シテ賦課稅スルコトヲ得

第二十八條　本令中市町村ニ對スル許可ノ職權ハ內務大臣及大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ府縣知事ニ委任スルコトヲ得

第二十九條　本令中府縣、府縣知事又ハ町村ニ關スル規定ハ北海道ニ付テハ各北海道、北海道廳長官又ハ町村ニ準ズルモノニ之ヲ適用ス

町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部ヲ共同處理スルモノハ第五條ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村ト看做ス

第三十條　北海道移住民ニシテ主トシテ耕作又ハ牧畜ノ事業ニ引續キ從事シ移住ノ日ヨリ三年ヲ經過セザル者ニ對シテハ戶數割ヲ賦課スルコトヲ得ズ

附　則

本令ハ大正十六年度分ヨリ之ヲ適用ス

明治三十二年勅令第二百七十六號、府縣稅戶數割規則及大正十一年勅令第二百八十二號ハ大正十五年度分限リ之ヲ廢止ス

明治十三年第十七號布告第九條ノ規定ニ依リテ爲シタル處分ニシテ第十七條第一項ノ課目ニ該當セザルモノニ對スルモノハ本令施行ノ際內務大臣及大藏大臣ノ指定スル雜種稅ノ課目ニ對スルモノニ限リ之ヲ第十七條第三項ノ規定ニ依リテ爲シタル許可ト看做ス

本令施行ノ際現ニ府縣稅家屋稅附加稅ヲ賦課スル市町村ハ第十一條ノ規定ニ依ル承認ヲ受ケタルモノト看做ス

市町村特別稅家屋稅及之ニ類スル特別稅ニ關スル條例ニシテ本令施行ノ際內務大臣及大藏大臣ノ指定スルモノハ大正十五年度分限リ其ノ效力ヲ失フ

北海道	札幌市	特別稅建物割條例
同	小樽市	同上
同	旭川市	同上
同	釧路市	同上
同	上磯郡	特別稅建物價格割條例
同	松前郡	特別稅建物割條例
同	同	福島村
同	高島郡	特別稅建物坪數割條例
同	宗谷郡	特別稅建物割條例
同	有珠郡	同上
同	厚岸郡	同上
同	根室郡	同上
青森縣	多野郡	特別稅條例
群馬縣	新　町	特別稅建物稅條例
同	八幡村	建物稅條例
同	富岡町	特別稅建物稅條例
富山縣	伏木町	特別稅條例
福井縣	敦賀町	特別稅法人建物稅條例
山梨縣	中巨摩郡	特別稅營業條例
長野縣	北佐久郡	特別稅別莊稅條例
同	下伊那郡	特別稅家屋稅賦課條例
靜岡縣	靜岡市	特別稅家屋稅條例
同	濱松市	特別稅家屋稅賦課法
滋賀縣	日野町	特別稅家屋稅條例
京都府	西院村	特別稅條例
同	葛野郡	同上
同	川岡村	家屋割條例
同	上鳥羽村	家屋稅條例
同	紀伊郡	家屋稅賦課條例
同	伏見町	家屋稅賦課條例
同	同	吉祥院村
同	加佐郡	特別稅家屋割條例
同	中舞鶴町	舞鶴町
同	同	新舞鶴町
同	同	神戶村
奈良縣	宇陀郡	特別稅家屋稅條例
岡山縣	英田郡	特別稅家屋稅條例
廣島縣	尾道市	特別稅建家稅條例
德島縣	阿部村	村稅家屋稅條例
香川縣	高松市	特別稅ニ關スル條例（營業稅ニ關スル部分）
同	丸龜市	特別稅家屋稅條例
福岡縣	若松市	特別稅特別家屋稅條例
同	千代町	同上
同	三角町	特別稅別莊稅條例
同	戶鰐村	同上
熊本縣	林野町	特別稅家屋稅條例
同	筑紫郡	特別稅家屋稅條例
同	宇土郡	特別稅別莊稅條例

●地方稅ニ關スル法律施行規則

（大正十五年十一月二十七日　內務省令）

大正十五年法律第二十四號地方稅ニ關スル法律施行規則左ノ通定ム

地方稅ニ關スル法律施行規則

第一條　大正十五年法律第二十四號第十一條各號ノ家屋ノ範圍ハ府縣ニ於テ之ヲ定ムベシ

第二條　營業稅ハ營業ノ純益ヲ標準トシ又ハ營業ノ收入金額（資本金額、請負金額、報償金額ノ類ヲ含ム）資本金額、營業用建物ノ賃貸價格若ハ從業者ノ數ヲ標準トシテ之ヲ賦課シ又ハ定額ヲ以テ之ヲ賦課ス

前項ノ課稅標準其ノ他營業稅ノ賦課方法ニ付テハ當分ノ間內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クベシ

第三條　營業收益稅法第七條ノ規定ハ營業稅ノ賦課ニ之ヲ準用ス

專ラ行商又ハ露店營業ヲ爲ス者ニ對シテハ營業稅ヲ賦課スルコトヲ得ズ

大正十五年法律第二十四號第十七條ノ規定ニ基キ營業稅ヲ賦課スルヲ不適當トスルモノハ前二項ニ定ムルモノノ外府縣ニ於テ之ヲ定ムベシ

第四條　船ニ對シテハ主タル碇繫場所在ノ府縣ニ於テ其ノ所有者ニ雜種稅ヲ賦課ス

前項ノ主タル碇繫場ナキトキ又ハ主タル碇繫場ノ所在地ニ付關係府縣ニ於テ異議アルトキハ內務大臣及大藏大臣之ヲ定ム

第五條　車ニ對シテハ主タル定置場所在ノ府縣ニ於テ其ノ所有者ニ雜種稅ヲ賦課ス

第六條　水車、電柱及倉庫ニ對シテハ所在地府縣ニ於テ其ノ所有者ニ雜種稅ヲ賦課ス

第七條　市場ニ對シテハ所在地府縣ニ於テ其ノ經營者ニ雜種稅ヲ賦課ス

第八條　牛馬及犬ニ對シテハ飼育地府縣ニ於テ其ノ所有者ニ雜種稅ヲ賦課ス

第九條　狩獵ノ免許ヲ受ケル者ニ對シテハ其ノ住所地府縣ニ於テ雜種稅ヲ賦課ス

第十條　屠畜ニ對シテハ屠殺地府縣ニ於テ其ノ家畜ノ所有者ニ雜種稅ヲ賦課ス

第十一條　不動產所在ノ府縣ニ於テ雜種稅ヲ賦課ス

第十二條　左ニ揭ゲル不動產ノ取得ニ對シテハ雜種稅ヲ賦課スルコトヲ得ズ

一　家督相續又ハ遺產相續ニ因ル不動產ノ取得

二　法人ノ合併ニ因ル不動產ノ取得

三　信託財產ニシテ委託者ガ信託行爲ニ依リ信託利益ノ全部ヲ享受スベキ不動產ヲ

委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル不動產ノ取得但シ當該不動產ニ付其ノ後受益者ヲ變更シタル場合及信託法第二十二條ノ規定ニ依リ固有財產ト爲シタル場合ニ於テハ其ノ時ニ不動產ノ取得アリタルモノト看做シ雜種稅ヲ賦課ス

四　信託ニ付受益者又ハ歸屬權利者ノ不動產ノ取得

五　信託ノ受託者交迭ノ場合ニ於ケル新受託者ノ不動產ノ取得

第十三條　漁業ニ對スル雜種稅ハ當分ノ間從來ノ例ニ依リ之ヲ賦課ス

新ニ漁業ニ對シ雜種稅ヲ賦課セントスルトキ又ハ其ノ賦課率若ハ賦課方法ヲ變更ヲ爲サントスルトキハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クベシ但シ其ノ舊慣ヲ改メ其ノ他賦課方法ヲ變更スルコトナクシテ賦課率ヲ低減スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十四條　遊藝師匠、遊藝人、相撲、俳優、藝妓其ノ他之ニ類スル者ニ對シテハ其ノ住所地府縣ニ於テ雜種稅ヲ賦課ス其ノ住所地府縣ニ於テ之ヲ課セザルトキハ三月以上滯在ノ府縣ニ於テ之ヲ賦課ス

第十五條　同一人ニシテ遊藝師匠、遊藝人、相撲、俳優、藝妓其ノ他之ニ類スル者ノ二以上ニ該當スルトキハ其ノ一ニ就キ雜種稅ヲ賦課ス其ノ稅額異ルトキハ多キニ從フ

第十六條　演劇其ノ他ノ興行ヲ爲ス者及遊興ヲ爲ス者ニ對シテハ其ノ行爲地府縣ニ於テ雜種稅ヲ賦課ス

第十七條　遊興ニ對シ消費金額ノ全部ヲ標準トシテ賦課スル雜種稅ハ遊興者一人當一回ノ消費金額二圓ニ滿チザルモノニ之ヲ賦課スルコトヲ得ズ

第十八條　第四條乃至前條ニ定ムルモノノ外雜種稅ノ課稅標準及其ノ賦課率又ハ賦課額其ノ他賦課ニ關シ必要ナル事項ハ府縣ニ於テ之ヲ定ムベシ

第十九條　第三條第三項ノ規定ハ雜種稅ノ賦課ニ之ヲ準用ス

第二十條　戶數割納稅義務者ノ資力算定ノ標準タル所得額ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ計算ス

一　營業ニ非ザル貸金ノ利子竝公債、社債、預金及貯金ノ利子ハ前年中ノ收入金額

二　山林ノ所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額

三　賃與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日迄ノ收入金額

四　法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日迄ノ收入金額但シ無記名株式ノ配當ニ付テハ開期間內ニ於テ支拂ヲ受ケタル金額

株式ノ消却ニ因リ支拂ヲ受クル金額又ハ退社ニ因リ持分ノ拂戻トシテ受クル金額ガ其ノ株式ノ拂込濟金額又ハ出資金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ之ヲ法人ヨリ受クル利益ノ配當ト看做ス

五　俸給、給料、歲費、年金、恩給、退隱料及此等ノ性質ヲ有スル給與ハ前年中ノ收入金額但シ前年一月一日ヨリ引續キ支給ヲ受ケタルニ非ザルモノニ付テハ其ノ年ノ雜算年額

六　前各號以外ノ所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額但シ前年一月一日ヨリ引續キ有シタルニ非ザル資產、營業又ハ職業ノ所得ニ付テハ其ノ年ノ雜算年額

信託財產ニ付生ズル所得ニ關シテハ其ノ所得ヲ信託ノ利益トシテ享受スベキ受益者ガ信託財產ヲ有スルモノト看做シテ所得ヲ計算ス

第二十一條　前條第一項第二號及第六號ノ規定ニ依リ總收入金額ヨリ控除スベキ經費ハ時ニ算定シタル所得額ヲ以テ其ノ資力算定ノ標準トス但シ未タ其ノ所得ノ算定ヲカリシ者ニ關シテハ年度開始ノ日ノ屬スル年ヲ基準トシ第一項各號ノ規定ニ依リ之ヲ算定ス

第二十二條　前條第一項第二號及第六號ノ規定ニ依リ總收入金額ヨリ控除スベキ經費ハ種苗置種肥料ノ購買費、家畜其ノ他ノモノノ飼養料、仕入品ノ原價、原料品ノ代價、場所物件ノ修繕料又ハ借入料、場所物件又ハ業務ニ係ル公課、雇人ノ給料其ノ他收入ヲ得ルニ必要ナルモノニ限ル但シ家事上ノ費用及之ニ關聯スルモノハ之ヲ控除セズ

第二十三條　第二十條第一項第六號ノ規定ニ依ル所得計算ニ付損失アルトキハ同條第一項第五號ノ規定ニ依ル所得ヨリ之ヲ差引キ計算ス

第二十四條　第二十條乃至前條ノ規定ニ依リ算出シタル金額一萬二千圓以下ナルトキハ其ノ所得中俸給、給料、旅費、年金、恩給、退隱料、賞與及此等ノ性質ヲ有スル給與ニ付テハ其ノ十分ノ一、六千圓以下ナルトキハ同十分ノ二、三千圓以下ナルトキハ同十分ノ三、千五百圓以下ナルトキハ同十分ノ四、八百圓以下ナルトキハ同十分ノ五ニ相當スル金額ヲ控除ス

第二十四條　第二十條乃至前條ノ規定ニ依リ算出シタル金額三千圓以下ナル場合ニ於テハ第一項第一號、第二號及第四號ノ所得ニ付テハ被相續人ノ所得ノ之ヲ相續人ノ所得ト看做シ第六號ノ所得ニ付テハ相續シタル資產又ハ營業ハ相續人ヲ引續キ之ヲ有シタルモノト看做シテ其ノ所得額ヲ計算スト雖シ被相續人ノ資力算定ノ標準タル所得額ニ算入シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

年度開始ノ日ノ屬スル年ノ翌年ニ戶數割ヲ賦課スル場合ニ於テハ最近ノ戶數割賦課ノ時ニ算定シタル所得額ヲ以テ其ノ資力算定ノ標準トス但シ未タ其ノ所得ノ算定ヲカリシ者ニ關シテハ年度開始ノ日ノ屬スル年ヲ基準トシ第一項各號ノ規定ニ依リ之ヲ算定ス

第二十五條　戶數割納稅義務者及之ト生計ヲ共ニスル同居者中年度開始ノ日ニ於テ年齡十四歲未滿若ハ六十歲以上ノ者又ハ不具癈疾者アルトキハ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ所得ヨリ左ノ各號ノ規定ニ依ル金額ヲ控除ス

一　所得千圓以下ナルトキ

年齡十四歲未滿若ハ六十歲以上ノ者又ハ不具癈疾者　一人ニ付　百圓以內

二　所得二千圓以下ナルトキ　一人ニ付　七十圓以內

三　所得三千圓以下ナルトキ　一人ニ付　五十圓以內

前項ノ不具癈疾者トハ心神喪失ノ常況ニ在ル者、聾者、唖者、盲者其ノ他重大ナル傷痍ヲ受ケ又ハ不治ノ疾患ニ罹リ常ニ介護ヲ要スル者ヲ謂フ

第二十六條　戶數割納稅義務者第二十條第一項第五號及第六號ノ所得額ニ分ノ一以上ヲ減損シタルトキハ年度開始ノ日ノ屬スル年ノ翌年一月三十一日迄ニ戶數割ノ賦課額ノ更訂ヲ請求スルコトヲ得但シ第二十條第四項但書ニ該當スル者ハ賦課後十四日迄ニ賦課額ノ更訂ヲ請求スルコトヲ得

市町村前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ者ノ當該所得額ヲ査覈シ其ノ二分ノ一以上ノ減損アルトキハ所得額ヲ更訂シ之ヲ基準ト

シテ更ニ其ノ者ノ資力ヲ算定シ其ノ者ニ付テノミ戶數割ノ賦課額ヲ減ズルコトヲ得

年度開始ノ日ノ屬スル年ノ翌年ニ戶數割ヲ賦課スル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ依リ更訂シタル所得額ニ依リ其ノ者ノ資力ヲ算定シ戶數割賦課後前二項ノ事實ヲ生ジタルトキハ其ノ者ニ付テノミ戶數割ノ賦課額ヲ減ズルコトヲ得

第二十七條　大正十五年勅令第三百三十九號第二十八條ノ規定ニ依リ左ニ揭ゲル事項ニ付テノ許可ノ職權ハ府縣知事ニ之ヲ委任ス

一　同令第十條第二項ノ規定ニ依リ制限ヲ超過シ課稅スルコト

二　同令第十條第三項ノ規定ニ依リ同條第二項ノ制限ヲ超過シ同條第一項ノ制限率ノ百分ノ五十以內ニ於テ課稅スルコト

三　同令第二十七條第二項ノ規定ニ依リ同條第一項ノ制限ヲ超過シ市ニ於テ戶數割總額ヲ當該年度ノ市稅總算總額ノ百分ノ四十七以內ニ於テ課稅スルコト

四　同令第二十七條第二項ノ規定ニ依リ同條第一項ノ制限ヲ超過シ町村ニ於テ戶數割總額ヲ當該年度ノ町村稅總算總額ノ百分ノ七十以內ニ於テ課稅スルコト

第二十九條　本令中府縣、府縣知事又ハ町村ニ關スル規定ハ北海道ニ付テハ各北海道、北海道廳長官又ハ町村ニ準ズルモノニ之ヲ適用ス

附　則

本令ハ大正十六年度分ヨリ之ヲ適用ス

府縣稅戶數割規則施行細則ハ大正十五年度分限リ之ヲ廢止ス

●地方稅ニ關スル法律第二十八條ニ依ル委任ノ件

大正十五年六月三日　勅令第百四十三號

股大正十五年法律第二十四號地方稅ニ關スル法律第二十八條ニ依ル委任ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（編註、內務、大藏、大臣副署）

大正十五年法律第二十四號第二十八條ノ規定ニ依リ左ニ揭ゲル事項ニ付テノ許可ノ職權ハ北海道廳長官又ハ府縣知事ニ之ヲ委任ス

一　同法第七條第二項ノ規定ニ依リ同法第七條第一項ノ制限ヲ超過シ同法第三條乃至第五條ニ規定スル制限率又ハ制限額ノ百分ノ五十以內ニ於テ課稅スルコト

附　則

本令ハ大正十五年度分ヨリ之ヲ適用ス

●地方稅制限ニ關スル法律

明治四十一年三月三十一日　法律第二十七號

改正　明治四三年第二七號、四四年第三二號、大正九年第三七號、一二年第三〇號、一五年第二五號

股帝國議會ノ協賛ヲ經タル地方稅制限ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（編註、大藏、內務大臣副署）

第一條　北海道、府縣其ノ他ノ公共團體ハ左ノ制限以內ノ地租附加稅又ハ段別割ヲ課スル外ノ土地ニ對シテ課稅スルコトヲ得ス

一　北海道、府縣

附加稅ノミヲ課スルトキ

宅地地租百分ノ三十四

其ノ他ノ土地地租百分ノ八十三

段別割ノミヲ課スルトキ

一段歩ニ付　每地目平均金一圓

附加稅及段別割ヲ併課スルトキハ其ノ地目ノ地租額ニ左ノ百分ノ二十八、其ノ他ノ土地ニ在リテハ百分ノ六十六ト附加稅額トノ差額ヲ超エルコトヲ得ス

第二條　北海道、府縣ハ其ノ他ノ公共團體ハ左ノ制限以內ノ所得稅附加稅ヲ課スルノ外所得稅ヲ納ムル者ノ所得ニ對シ課稅スルコトヲ得ス

一　北海道、府縣

營業收益稅百分ノ四十一

二　其ノ他ノ公共團體

營業收益稅百分ノ六十

營業收益稅附加稅ノ賦課ニ付テハ營業收益稅法第十條第二項ノ規定ニ依ル資本利子稅額ノ控除ヲ爲サザルモノヲ以テ營業收益稅額ト看做ス

第三條　北海道、府縣ハ所得稅百分ノ二十四以內ノ所得稅附加稅ヲ課スルノ外所得稅ヲ納ムル者ノ所得ニ對シ課稅スルコトヲ得ス

北海道府縣以外ノ公共團體ハ府縣費ノ全部又ハ一部ノ分賦ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外所得稅ヲ納ムル者ノ所得ニ對シ課稅スルコトヲ得ス

戶數割ヲ賦課シ難キ市町村ニ於テハ前項ノ規定ニ拘ラス內務大藏兩大臣ノ許可ヲ受ケ所得稅附加稅ヲ課スルコトヲ得但シ其ノ賦課率ハ所得稅百分ノ七ヲ超ユルコトヲ得ス

第四條　府縣費ノ全部ヲ市ニ分賦シタル場合ニ於テハ市ハ前三條ノ市稅制限ノ外其ノ分賦金額以內ニ限リ府縣稅制限ニ達スル迄課稅スルコトヲ得

府縣費ノ一部ヲ市町村ニ分賦シタル場合ニ於テハ市町村ハ前三條ノ市町村稅制限ノ外其ノ分賦金額以內ニ限リ課稅スルコトヲ得但シ府縣ノ賦課額ト市町村ノ賦課額トノ合算額ハ府縣稅ノ制限ヲ超過スルコトヲ得ス

第五條　特別ノ必要アル場合ニ於テハ內務大藏兩大臣ノ許可ヲ受ケ第一條乃至第三條ノ制限ヲ超過シ其ノ百分ノ十二以內ニ於テ課稅スルコトヲ得

府縣費ノ全部ヲ市ニ分賦シタル場合ニ於テハ市ハ前三條ノ市稅制限ノ外其ノ分賦金額以內ニ限リ府縣稅制限ニ達スル迄課稅スルコトヲ得

第六條　北海道府縣以外ノ公共團體ニ對スル前條ノ許可ノ職權ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第七條　本法ノ規定ハ特ニ賦課率ヲ定メタル

特別法令ノ適用ヲ妨ケス

附　則

本法ハ明治四十一年度ヨリ之ヲ施行ス

非常特別稅法中地租、營業稅及所得稅ノ地方稅制限ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

附　則（大正九年法律第三十七號）

本法ハ大正九年度分ヨリ之ヲ適用ス

大正八年法律第二十九號ハ大正八年度分限リ其ノ效力ヲ失フ

大正九年七月三十一日迄ニ制限外課稅ノ許可ヲ受ケタル大正九年度分ノ地租附加稅、營業稅附加稅、所得稅附加稅又ハ段別割ノ賦課率又ハ賦課額ハ從前ノ規定ニ依ル制限率又ハ制限額ヲ通シテ本法ニ依ル制限ヲ超過セサルキハ之ヲ制限內ノ賦課率又ハ賦課額ト看做シ其ノ制限ヲ超過スルトキハ其ノ超過部分ニ限リ之ヲ本法ニ依リ許可ヲ受ケタル制限外ノ賦課率又ハ賦課額ト看做ス但シ大正八年法律第二十九號ニ依リ制限外課稅ノ許可ヲ受ケタル所得稅附加稅ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用ス

附　則（大正十二年法律第三十號）

本法ハ大正十二年度分ヨリ之ヲ適用ス

本法公布ノ日迄ニ北海道、府縣其ノ他ノ公共團體カ營業稅附加稅ニ付制限外課稅ノ許可ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ制限外ノ賦課率ハ之ヲ本法ニ依リテ許可ヲ受ケタル制限外賦課率ト看做ス

附　則（大正十五年法律第二十五號）

本法ハ大正十六年度分ヨリ之ヲ適用ス但シ第三條第一項ノ改正規定中第四項ノ規定及附則第二項ノ規定ハ大正十五年度分ヨリ之ヲ適用ス

營業稅法廢止法律ニ依リテ免除セラルル營業稅額ハ大正十五年度分營業稅附加稅ノ賦課ニ付テハ免除セラレサルモノト看做ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●地方稅制限ニ關スル法律第六條ノ規定ニ依ル委任ノ件

大正九年八月二十日
勅令第二百八十二號

改正　大正十五年勅令第二百十二號

朝鮮總督府官制ヲ廢止ス

明治四十一年法律第三十七號第六條ノ規定ニ依リ左ニ掲ク事項ニ付テノ許可ノ職權ハ北海道廳長官又ハ府縣知事ニ之ヲ委任ス

一　同法第五條第一項ノ規定ニ依リ制限ヲ超過シ課稅スルコト

二　同法第五條第二項ノ規定ニ依リ同法第五條第一項ノ制限ヲ超過シ同法第一條乃至第三條ニ規定スル制限率又ハ制限額ノ百分ノ五十以內ニ於テ課稅スルコト

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●貸座敷引手茶屋娼妓賦金賦課竝處分方

明治二十一年八月　日
勅令第十二號

改正　明治二十二年第二八號

貸座敷引手茶屋娼妓ノ賦金ハ府縣知事ニ於テ適宜ニ之ヲ賦課シ【地方稅】雜收入ニ編入スヘシ

警察機密費（高等警察ニ關スルモノヲ除ク）ハ警察費中ノ一科目トシ檢査費ハ衞生病院費中ノ一科目トシ【地方稅】ヨリ支辨スヘシ

（明治二十一年閣令第十三號ヲ以テ明治二十二年度ヨリ施行）

●町村制ニ代ル制ヲ施行スル地ノ町村稅ノ徵收ニ關スル件

大正十五年八月二十一日
勅令第二百八十六號

改正　大正一〇年第五〇號、第六九號、一年第三七號、第一三二號、一二年第四一號、昭和三年第七號

臨時（內閣）

廢止ニ關スル法律ニ依リ廢止ス

町村制ニ代ル制ヲ施行スル地ノ町村稅ノ徵收ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

（總理、內務大臣副署）

町村制ニ代ル制ヲ施行スル地ノ町村稅ノ徵收ニ付テハ市制町村制施行令第四十三條乃至第五十八條ノ規定ヲ準用ス

●府稅及面賦課金ノ賦課ニ關スル件

昭和二年四月一日
朝鮮總督府令第三十五號

府稅及面賦課金ノ賦課ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　府面ノ內外ニ於テ營業場ヲ設ケ營業ヲ爲ス者ニシテ其ノ營業ニ對スル營業稅ヲ分別シテ納メサル者ニ對シ營業稅ノ附加稅又ハ營業稅割ヲ賦課セントスルトキハ府尹又ハ面長ハ關係府尹又ハ面長ト協議ノ上其ノ本稅額ノ歩合ヲ定ムヘシ

前項ノ協議調ハサルトキハ其ノ郡又ハ其ノ島內ニ止マルモノニ付テハ郡守又ハ島司之ヲ定メ他ノ府、郡、島ニ渉ルモノニ付テハ道知事之ヲ定メ他ノ道ニ渉ルモノニ付テハ朝鮮總督之ヲ定ム

第二條　府尹又ハ面長ハ其ノ府面內ノ住民ニ非サル者（法人ヲ除ク）ノ當該府面內ニ於テ生スル其ノ年度分所得及其ノ所得ノ基本タル事實ヲ每年九月一日現在ニ依リ其ノ月末日迄ニ其ノ住所地所轄ノ府尹又ハ面長ニ通報スヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●地方稅課率制限

昭和四年二月二日
朝鮮總督府訓令第一號

道知事

地方稅課率制限左ノ通定ム

地方稅中地稅附加稅、所得稅附加稅、特別所得稅、不動產取得稅、戶稅及家屋稅ノ課率ハ左ノ制限內ニ於テ之ヲ定ムヘシ但シ特別ノ事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

地稅附加稅	平安南道、平安北道、江原道、咸鏡南道及咸鏡北道
	地稅ノ百分ノ七十
	其ノ他ノ道
	地稅ノ百分ノ六十
所得稅附加稅	所得稅ノ百分ノ十七
特別所得稅	本店又ハ主タル事務所ノ所在地ニ於ケル所得稅ノ課率ノ百分ノ十七
不動產取得稅	不動產價格ノ千分ノ十
戶稅	納入義務者平均一人ニ付一圓五十錢
家屋稅	現住戶數平均一戶ニ付二圓

附　則

本令ハ昭和四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十五年朝鮮總督府訓令第三十五號ハ之ヲ廢止ス

●南滿洲鐵道株式會社ニ府稅、面賦課金賦課制限ノ件

大正六年十二月二十八日
朝鮮總督府令第百二號

改正　大正八年第三七號、一〇年第一三〇號

南滿洲鐵道株式會社ニ於テ政府ノ委託ニ依リ朝鮮ニ於ケル國有鐵道及其ノ附帶業務ヲ處理スル爲所有シ使用シ若ハ占有スル土地家屋物件又ハ委託業務ノ處理ニ屬スル行爲、營業若ハ其ノ收入ニ對シ地方稅、府稅又ハ面賦課金ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ委託業務ノ經營ヨリ生スル所得ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣州稅規則

種類	課稅標準及稅率
物品販賣業	年稅　收入金額　千分ノ八、五以內
運送業	年稅　（運送取扱人）收入金額　千分ノ八、五以內 （運送取扱人）報償金額　千分ノ二十五以內
周旋業	年稅　報償金額　千分ノ二十五以內
代理商業	年稅　報償金額　千分ノ二十五以內
仲立業	年稅　報償金額　千分ノ二十五以內
問屋業	年稅　報償金額　千分ノ二十五以內
信託業	年稅　報償金額　千分ノ二十五以內
兩替業	年稅　報償金額　千分ノ十八以內
席貸業	月稅　（收入金額 （建物貸貸價格 （從業者　千分ノ八以內 千分ノ四十以內 一人一圓五十錢以內
貸座敷業	月稅　（收入金額 （建物貸貸價格 （從業者　千分ノ八以內 千分ノ四十以內 一人一圓五十錢以內 娼妓一人二圓以內
旅人宿業	月稅　（收入金額 （建物貸貸價格 （從業者　（旅宿屋、旅籠屋、木賃宿）千分ノ六以內 （旅宿屋、旅籠屋、木賃宿）千分ノ三十五以內 一人一圓以內 千分ノ二十五以內
料理店業	月稅　（收入金額 （建物貸貸價格 （從業者　千分ノ八以內 千分ノ四十以內 一人一圓五十錢以內
飮食店業	月稅　（收入金額 （建物貸貸價格 （從業者　千分ノ六以內 千分ノ三十五以內 一人一圓以內
倉庫業	年稅　收入金額　千分ノ八、五以內
運送業	年稅　（運送取扱人）收入金額　千分ノ八、五以內 （運送取扱人）報償金額　千分ノ二十五以內
周旋業	年稅　報償金額　千分ノ二十五以內
代理商業	年稅　報償金額　千分ノ二十五以內
仲立業	年稅　報償金額　千分ノ二十五以內
問屋業	年稅　報償金額　千分ノ二十五以內
信託業	年稅　報償金額　千分ノ二十五以內
兩替業	年稅　報償金額　千分ノ十八以內
席貸業	月稅　（收入金額 （建物貸貸價格 （從業者　千分ノ八以內 千分ノ四十以內 一人一圓五十錢以內
貸座敷業	月稅　（收入金額 （建物貸貸價格 （從業者　千分ノ八以內 千分ノ四十以內 一人一圓五十錢以內 娼妓一人二圓以內
旅人宿業	月稅　（收入金額 （建物貸貸價格 （從業者　（旅宿屋、旅籠屋、木賃宿）千分ノ六以內 （旅宿屋、旅籠屋、木賃宿）千分ノ三十五以內 一人一圓以內 千分ノ二十五以內
料理店業	月稅　（收入金額 （建物貸貸價格 （從業者　千分ノ八以內 千分ノ四十以內 一人一圓五十錢以內
飮食店業	月稅　（收入金額 （建物貸貸價格 （從業者　千分ノ六以內 千分ノ三十五以內 一人一圓以內

物品販賣業中米、砂糖、石油、肥料ノ卸賣ニ對シテハ甲ノ稅率ニ依リ其ノ他ノ卸賣ニ對シテハ乙ノ稅率ニ依リ賦課ス

製造業中精米ニ對シテハ甲ノ稅率ニ依リ砂糖製造ニ對シテハ乙ノ稅率ニ依リ其ノ他ノ製造ニ對シテハ丙ノ稅率ニ依リ賦課ス

第二條ノ三　左ノ營業ハ物品販賣業ト看做ス

一　一定ノ製造場ヲ設ケス原料ヲ供給シ物品ヲ製造セシメテ販賣ヲ爲スモノ

二　物品ヲ製造シテ小賣ヲ爲スモノ

三　動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セサルモノノ販賣ヲ爲スモノ

第三條　左ノ營業ハ貸付業ト看做ス

一　普通ニ物品ト稱セサルモノノ貸付ヲ爲スモノ

二　建物ノ貸付ヲ爲スモノ

第四條　左ノ營業ハ請負業ト看做ス

一　代書、洗濯、點燈ヲ爲スモノ

二　他人ヨリ原料ノ供給ヲ受ケ裁斷、精米其ノ他物品ノ加工ヲ爲シ專ラ賃錢ヲ得ルヲ目的ト爲スモノ

三　他人ヨリ供給ヲ受ケタル物品ニ製作ヲ加ヘ專ラ賃錢ヲ得ルヲ目的ト爲スモノ

四　埋火葬ノ取扱ヲ爲スモノ

第五條　請負ニ依リテ爲ス營業カ他ノ種類ノ業態ニ屬スルトキハ其ノ種類ノ營業トシ請負業トセス

第六條　左ノ營業ハ製造業ト看做ス

一　物品製造ノ一部ノ助成ヲ爲スモノ

二　瓦斯電氣ノ供給ヲ爲スモノ

三　器具、器械ノ修理ヲ爲スモノ

四　精米、染物、裁縫、鍍金等物品ノ加工ヲ爲スモノ

第七條　第二條ノ三第二號、第四條第二號及第三號ノ製造ニ對シテハ之ヲ製造業トシテ課稅スルコトヲ得ス

第八條　營業稅ノ課稅標準中資上金額、保險料額、無盡掛金額、收入金額、請負金額、報償金額ハ前年中ノ總額ニ依ル但シ季節營業以外ノモノニシテ前年中開業シタルモノ又ハ一箇月以上ニ渉リ休業シタルモノハ開業又ハ休業ノ月カ一月ニ滿タサルトキハ日割ヲ以テ其ノ月分ヲ算定シ一年ニ滿タサルトキハ月割ヲ以テ其ノ年分ヲ算定ス

前年中資上金額、保險料額、無盡掛金額、收入金額、請負金額又ハ報償金額ナキトキハ其ノ會計年度內ノ見積金額ニ依ル前年中ノ營業期間短カキモノ又ハ季節營業ニシテ前項ニ依リ算定シタル課稅標準カ著シク不適當ナリト認ムルトキ亦同シ

其ノ年開業シタルモノハ其ノ會計年度內ノ見積金額ニ依ル

月稅ニ屬スルモノハ前各項ニ依リ計算シタル金額ノ月割平均ニ依ル

代價ヲ以テ得タル物品又ハ行爲ハ相當價格ヲ見積リ前各項ノ場合ニ於ケル課稅標準トシテ計算ス

第九條　營業稅ノ課稅標準中資本金額ハ會社ニ在リテハ前年中各月末ニ於ケル拂込株式金額、出資金額竝資本ノ用ニ供スル借入金額、積立金額、繰越金額其ノ他名義ノ何タルヲ問ハス積立金ノ性質ヲ有スル資產金額ノ月割平均ニ依ル但シ保險會社ニ於ケル保險責任準備金、保險約款上確定セル義務ニ基キ積立タタル配當準備金及保險支拂備金ハ之ヲ除算ス

二箇所以上ノ營業場ヲ有スルモノハ資本金額ヲ各營業場ニ見積リ分別シタル額ニ依ル

前項ノ營業場二以上ノ州、廳ニ渉ル場合ハ關係アル州知事又ハ廳長協議ノ上其ノ資本金額ヲ定ムル

本島外ニ本店ヲ有スル會社ニシテ州內ニ營業場アルモノハ借入ニ係ル否トヲ問ハス直接其ノ營業ノ用ニ供スル固定資本及運轉資本ノ見積額ニ依ル

其ノ年開業ニ係ルモノハ見積資本金額ニ依ル

會社資本金額ヲ課稅標準ト爲サヌル營業ヲ兼營スルトキハ前各項ニ依リ計算シタル資本金額ヨリ其ノ兼營スル營業ニ對スル見積資本金額ヲ控除シタルモノニ依ル

個人ニ在リテハ借入ニ係ルト否トヲ問ハス直接其ノ營業ノ用ニ供スル固定資本及運轉資本ノ見積額ニ依ル

本條ノ固定資本ハ土地、建物、建物附屬物及器具等ノ價格ヲ計算ス

第十條　營業稅ノ課稅標準中預金額ハ前年中各月末ノ月割平均ニ依ル

前年中預金額ナキモノ及其ノ年開業シタルモノハ見積額ニ依ル

第十一條　營業稅ノ課稅標準中建物貸貸價格ハ前年中ノ平均一月分ノ賃貸時價ニ依ル

其ノ年開業シタルモノハ見積時價ニ依ル

建物貸貸價格ハ店舖其ノ他營業ノ用ニ供スル土地、建物及建物附屬物ニ付之ヲ算定ス

同一區域內ニ在リテ自己ノ使用ニ供スルモノハ營業ノ用ニ供スルモノト看做ス

第十二條　營業稅ノ課稅標準中從業者、娼妓、自轉車ハ每月一日ノ現在數ニ依ル但シ第四十三條第二項ノ場合ニ該當スルモノハ翌月以後ノ現在數ヨリ之ヲ控除スルコトヲ得

從業者ハ營業者ノ家族タルト否トヲ問ハス

種類別課稅標準及稅率

湯屋	年稅	（湯槽每一坪　六圓以內 一坪未滿ノ端數ハ一坪ニ計算ス
理髮	年稅	店營業者　五圓以內 使用人一人ヲ增ス每ニ二圓以內ヲ加フ 行營業者　二圓以內 使用人一人ヲ增ス每ニ一圓以內ヲ加フ
市場	年稅	一等　收入金額千圓以上二千圓未滿百圓以內 二等　收入金額五百圓以上千圓未滿五十圓以內ヲ加フ 三等　收入金額二百圓以上五百圓未滿二十圓以內 四等　收入金額百圓以上二百圓未滿十圓以內 五等　收入金額百圓未滿五圓以內
私法人建物	年稅	建物貸貸價格　千分ノ四十以內
年稅		（蒸汽船、機械船每一噸七十錢以內 一噸未滿ノ端數ハ一噸ニ計算ス 西洋形船（蒸汽船、機械船ヲ除ク）每一噸五十錢以內 一噸未滿ノ端數ハ一噸ニ計算ス 長三間以上日本形、支那形船每一石八錢以內 一石未滿ノ端數ハ一石ニ計算ス 十石未滿ノモノハ八十錢以內 長三間未滿日本形、支那形船八十錢以內 長三間未滿迄八十錢以內ヲ增ス每ニ十五錢以內ヲ加ス 以上一間迄ヲ增ス每ニ十五錢以內ヲ加フ
筏		自用馬車　一頭立十五圓以內 一頭ヲ增ス每ニ八圓以內ヲ加フ 營業馬車　一頭立八圓以內 一頭ヲ增ス每ニ五圓以內ヲ加フ 自用人力車　三圓以內 營業人力車　五圓以內 自轉車　三圓以內 自動自轉車　五圓以內
年稅		客車　有蓋車五圓以內 無蓋車三圓以內 貨車　一輛　一圓五十錢以內

第十三條　法人ニ對スル營業稅年稅ノ課稅標準ノ計算ハ前年十二月迄ニ終了スヘキ事業年度ノ最近一箇年ノ金額ニ依ルコトヲ得個人ノ砂糖製造業ニ付テモ亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ第八條乃至第十條ノ規定ヲ準用ス

第十三條ノ二　貯蓄銀行法第七條又ハ第二十八條ノ規定ニ依リ繼續スル業務ノ之ヲ貯蓄銀行ノ營業トシテ課稅標準ヲ算定ス

第十四條　保險業ノ課稅標準ハ保險料額ハ保險業者ノ收入シタル額ニ依リ之ヲ算定ス

第十五條　無盡業ノ課稅標準ハ無盡掛金額ハ無盡業者ノ收入シタル無盡掛金額ヨリ解約ニ依ル返戻額ヲ控除シタル額ニ依リ之ヲ算定ス

第十六條　製造業中砂糖及酒精製造ノ課稅標準ハ砂糖消費稅及酒精稅ヲ控除シタル收入金額ニ依リ之ヲ算定ス

第十七條　請負業、鑛業及製造業ノ課稅標準ニ付テハ第九條第二項乃至第四項ノ規定ヲ準用ス

第十八條　雜種稅ハ左ノ種類、課稅標準及稅率ニ依リ賦課ス

自動車	年稅	（一等　四輪及三輪牛、馬車六圓以內 二等　二輪牛、馬車三圓以內 三等　其ノ他一圓五十錢以內
		自用自動車　五馬力以上百二十圓以內 五馬力未滿六十圓以內 五馬力以上六十圓以內 五馬力未滿十圓以內
		營業自動車　十圓以內
		貨物自動車　一噸積以下增ス每ニ五圓以內ヲ加フ 一噸積ヲ增ス每ニ十五圓以內ヲ加フ
轎	年稅	三圓以內
遊藝師匠	年稅	六圓以內
遊藝稼人	年稅	五圓以內
俥	年稅	十圓以內
俥夫	年稅	十三年未滿ノ者及本島人ハ半額
藝妓	月稅	（六圓以內 十三年未滿ノ者ハ半額
酌婦	月稅	一圓以內
遊技場	月稅	（玉突臺一臺ニ付　二圓以內 其ノ他遊技一種類每ニ五十錢以內
興行	日稅	（一等　收入見込金額五十圓以上百圓未滿一圓以內 二等　收入見込金額五圓以上五十圓未滿五十錢以內 三等　收入見込金額五圓未滿十錢以內
特別所得遊興		所得稅額百分ノ十五以內 消費金額百分ノ八以內
屠畜		（牛一頭ニ付三圓以內 馬一頭ニ付二圓八十錢以內 豚一頭ニ付一圓六十錢以內 羊一頭ニ付六十錢以內

第十九條　前條ノ課稅標準ハ左ノ區別ニ從ヒ計算ス

一　湯屋ノ湯槽坪數ハ內側ノ上部ノ面積ニ依ル但シ上リ湯槽ノ坪數ハ之ヲ算入セス

二　理髮ノ使用人ハ家族タルト否トヲ問ハス理髮ニ從事スル者ノ數ニ依ル但シ見習中ノ者ハ之ヲ算入セス

三　私法人建物ノ建物貸貸價格ハ私法人ノ直接事業ノ用ニ供スル土地、建物、建物附屬物ニ付前年中ノ平均一年分ノ賃貸時價ニ依ル新ニ使用スルモノハ見積時價ニ依ル

四　登簿噸數ニ依ル

五　特別所得稅ノ所得稅額ハ法人ノ各事業年度ノ總所得金額ニ對スル州稅內ニ於ケル資產又ハ營業ノ見積所得稅額ノ割合ヲ其ノ總所得稅額ニ乘シタルモノニ依ル

六　遊興ノ消費金額ハ飮食、遊興及之ニ伴ヒ消費シタル金額ニ依ル但シ旅人宿營業者ニ對スル計算ヲ以テ飮食、遊興ヲ爲シタル場合ハ宿泊料其ノ他旅客トシテ消費シタル金額ヲ控除シタル金額ニ依ル

前項第五號ノ事業年度ノ法人カ事業年度中ニ解散若ハ合併ニ因リテ消滅シ又ハ資產若ハ營業ヲ州外ニ移轉シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散、合併又ハ移轉ノ日ニ至ル迄ノ期間ヲ、資產又ハ營業ヲ州外ヨリ移轉シタル場合ニ於テハ移轉ノ翌日ヨリ其ノ事業年度ノ終迄ノ期間ヲ一事業年度ト看做ス

資產又ハ營業ノ見積所得金額ノ割合ヲ其ノ總所得稅額ニ乘シタルモノニ依ル

遊興ノ消費金額ハ飮食、遊興及之ニ伴ヒ消費シタル金額ニ依ル但シ旅人宿營業者ニ對スル計算ヲ以テ飮食、遊興ヲ爲シタル場合ハ宿泊料其ノ他旅客トシテ消費シタル金額ヲ控除シタル金額ニ依ル

前項第五號ノ事業年度ノ法人カ事業年度中ニ解散若ハ合併ニ因リテ消滅シ又ハ資產若ハ營業ヲ州外ニ移轉シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散、合併又ハ移轉ノ日ニ至ル迄ノ期間ヲ、資產又ハ營業ヲ州外ヨリ移轉シタル場合ニ於テハ移轉ノ翌日ヨリ其ノ事業年度ノ終迄ノ期間ヲ一事業年度ト看做ス

市場稅ノ課稅標準ノ計算ニ付テハ第八條ノ規定ヲ準用ス

第二十條　特別ノ必要アル場合ニ於テハ州知事ハ臺灣總督ノ許可ヲ受ケ第二條ノ二及第十八條ノ最高稅率ノ百分ノ三十以內ニ於テ之ヲ增課スルコトヲ得

州制施行令第三十三條ノ規定ニ依リ營造物ノ設置維持其ノ他必要ナル費用ヲ州稅ヲ以テ賦課スル場合ニ於テハ州知事ハ臺灣總督ノ許可ヲ受ケ前項ノ制限ヲ超過シテ增課スルコトヲ得

第二十一條　營利ノ業ニ屬シ營業稅、雜種稅中ノ課稅種類ニ類似スル業體ノモノハ州知事ニ於テ適當ト認ムル種類ニ依リ賦課ス

第二十二條　營業稅、雜種稅中ノ二種以上ノ種類ヲ兼ヌル者ハ各別ニ賦課ス但シ同一營業場ニ於テ貸座敷業ト料理店業トヲ兼ヌル者ハ貸座敷業トシ遊藝師匠、遊藝稼人、俥夫、幇間ヲ交互ニ兼ヌル者ハ稅率ノ重キニ依リ賦課ス

第二十三條　左ノ場合ニ於テハ其ノ一ニ賦課シ稅率ノ異ナルトキハ重キニ依リ賦課ス

一　建物、營業者ヲ二種以上ノ營業ニ共通使用スルトキ

二　理髮ノ店營業ト行營業ヲ兼ヌルトキ

三　理髮ノ使用人ヲ店營業ト行營業ニ使用スルトキ

四　車ヲ稅率ノ異ナルモノニ共通使用スルトキ

第二十四條　營業稅、特別所得稅、遊興稅以外ノ雜種稅ハ營業場アルモノハ其ノ營業場、營業場ナキモノハ其ノ住所又ハ居所、船筏ハ其ノ在籍地、建物又ハ物件ニ在リテハ其ノ所在地、屠畜ハ其ノ屠殺地ニ於テ賦課ス但シ前項ノ場合ニ於テ營業場ニ關スル者ハ營業場每ニ賦課ス

第二十五條　營業稅、私法人建物稅、遊興稅以外ノ雜種稅ハ各其種類ノ營業若ハ稼業其ノ他ノ行爲ヲ爲ス者又ハ物件ヲ所有スル者ニ之ヲ賦課ス

第二十六條　私法人建物稅ハ建物ヲ所有スルト否トヲ問ハス之ヲ使用スル私法人ニ賦課ス

第二十七條　特別所得稅ハ所得稅法施行地、朝鮮、關東州、樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有シ州內ニ資產又ハ營業ヲ有スル法人ニ對シ其ノ資產又ハ營業ノ所在地ニ於テ賦課ス

第二十八條　遊興稅ハ席貸、貸座敷旅人宿、料理店及飮食店ノ營業者ニ對スル計算ヲ以テ是等稼業者又ハ遊藝稼人若ハ之ニ類スル者ヲ招キ飮食、遊興ヲ爲シ一回ノ金額五圓以上ノ消費ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ飮食又ハ遊興地ニ於テ賦課ス

第二十九條　前條ノ場合ニ於テ一人又ハ二人以上共同ノ者カ連續シテ飮食、遊興ヲ爲シタルトキハ一回ト見做ス二人以上共同ノ者ト連續シテ飮食、遊興ヲ爲シタル場合ニ於テ一人又ハ二人以上共同ノ者ト連續シテ飮食、遊興ヲ爲シタルトキ亦同シ

第三十條　二人以上共同シテ飮食、遊興ヲ爲シタルトキハ第二十八條ノ金額ハ其ノ總額ニ付之ヲ定ム

第三十一條　年稅ニ屬スル營業稅、雜種稅ハ每會計年度九月三十日以前ニ開始シ翌年三月一日以後ニ廢止シタル場合ニ於テハ其ノ年度ノ稅額ノ二分ノ一ヲ賦課ス

左ノ場合ニ於テハ一時ニ全額ヲ賦課ス

一　時日ヲ限リ短期間ノ營業ヲ爲ストキ

二　後期中納稅義務ノ發生シタルトキ但シ營業稅及雜種稅中ノ市場稅ニ限ル

第三十二條　月稅ニ屬スル營業稅及雜種稅ハ每月之ヲ賦課ス但シ稅額五十錢未滿ノ營業稅ハ納稅義務者ニ於テ其ノ會計年度內ヲ限リ二箇月分以上ヲ前納スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ納稅義務ノ消滅ニ因リ過納ヲ生スルモノヲ還付ス

第三十三條　興行稅ハ每日之ヲ賦課ス但シ納稅義務者ニ於テ二日分以上前納スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ納稅義務ノ消滅ニ因リ過納ヲ生スルモノヲ還付ス

第二十一條ノ二　興行稅ノ納稅義務者ニ於テ興行ヲ爲ス者ニシテ州知事ニ於テ確實ト認ムル保證人ヲ立ツルトキハ十日以內ヲ限リ其ノ期間ノ終日ニ於テ一時ニ賦課スルコトヲ得

第三十三條ノ二　特別所得稅ハ法人ノ事業年度毎ニ之ヲ賦課ス

第三十四條　屠畜稅ハ屠殺ノ都度之ヲ賦課ス

州知事ハ於テ確實ト認ムル保證人ヲ立ツルトキハ市及郡役所所在地ノ屠畜場ニ於テ屠殺スルモノニ對シテハ毎月十日、二十日、末日迄ノ分ヲ、其ノ他ノ屠畜場ニ於テ屠殺スルモノニ對シテハ毎月分ヲ各其ノ期限後三日以内ニ一時ニ之ヲ賦課スルコトヲ得

第三十五條　納稅義務者ノ戶主又ハ家族ニ非サル者其ノ營業ヲ繼承シタルトキハ納稅義務ヲ發生シタルモノト看做ス

第三十六條　時日ヲ限リ短期間ノ營業ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ時日ヲ經過シ尙營業ヲ繼續スルトキハ新ニ納稅義務ヲ發生シタルモノト看做ス

第三十七條　營業稅中各種類ノ業目ノ增減變更ニ因リ課稅標準ニ著シキ增減アルトキハ其ノ增減ノ部分ニ對シテハ納稅義務ヲ發生シ又ハ消滅シタルモノト看做スコトヲ得

第三十八條　營業稅ノ課稅標準中從業者又ハ組織增加シタルトキハ其ノ增加ニ對シテハ納稅義務ヲ發生シタルモノト看做ス

第三十九條　雜種稅中ノ課稅標準ニ增減アルトキハ其ノ增減ノ部分ニ對シテハ納稅義務ヲ發生シ又ハ消滅シタルモノト看做ス其ノ變更ニ因リ稅率ニ增減アルトキ亦同シ

市場稅及私法人建物稅ニ付テハ前項ヲ適用セス

第四十條　資本金額、出金額ヲ課稅標準トスル營業又ハ私法人建物ニシテ五月以後納稅義務ノ發生ニ係ルモノハ其ノ會計年度末迄ノ月數ニ應シ稅額ヲ算定シテ之ヲ賦課ス

第四十一條　同一ノ州管內ニ於ケル船舶、車、輛ニシテ州制施行令第三十二條第一號乃至第三號ニ該當セサルモノ所有者變更シタルトキハ其ノ稅金ハ納期終日ニ於ケル所有者ニ賦課ス但シ前所有者ニ於テ稅金ヲ納付シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十二條　營業稅及年稅又ハ月稅ニ屬スル雜種稅ヲ賦課スヘキ私法人建物ニシテ五月以後納稅義務ノ發生ニ係ルモノハ其ノ會計年度末迄ノ月數ニ應シ稅額ヲ算定シテ之ヲ賦課ス

第四十三條　月稅ニ屬スル營業稅及雜種稅ニ屬スル營業者又ハ營業者カ營業又ハ雜業ヲ全月ニ亘リ停止シタルトキハ其ノ月分ノ稅金ハ之ヲ賦課セス

組紋全月ニ渉リ休業ヲ命セラレタルトキハ之ニ相當スル稅金ヲ賦課セス

第四十四條　州制施行令第三十二條ニ定ムル者ノ外左ニ揭クルモノニハ州稅ヲ賦課セス

一　政府ノ發行スル印紙、切手類ノ賣捌

二　新聞紙ノ發行及販賣

三　營利ヲ目的トセサル興行

四　營業ニ非サル畜牧場

五　住家、倉庫、營業場等一區域內ニ限リ使用スル軌道臺車、建設及保線專用ノ軌道臺車

本條ニ附屬スル編纂及小舟ノ類

第四十四條ノ二　所得稅法施行地、朝鮮、關東州又ハ樺太ノ法令ニ依リ所得稅ヲ課セラレサル法人ニ對シテハ特別所得稅ヲ賦課セス

第四十四條ノ三　相互保險會社、產業組合、漁業組合聯合會及農業倉庫業者ニハ營業稅ヲ賦課セス

第四十四條ノ四　貯蓄銀行業ヲ營ム者ニハ其ノ營業稅額ノ二分ノ一ヲ免除ス

第四十五條　所得稅附加稅ノ賦課ヲ受クヘキ納稅義務者ニシテ州ノ內外ニ渉リ資產又ハ營業ヲ有スルトキハ資產又ハ營業ノ所在地每ニ本稅ノ申告ト同時ニ左ノ事項ヲ所轄稅務官署ニ申告スヘシ

一　州ノ內外ニ於ケル資產、營業ノ所在地、名稱

二　前號ノ資產、營業ノ所得ノ種類、見積所得金額及其ノ算出ノ明細

三　納稅義務者ノ住所、名稱

第四十六條　營業稅及年稅又ハ月稅ニ屬スル雜種稅ノ納稅義務ヲ發生シタルトキハ其ノ納稅義務者ハ十日以內ニ左ノ事項ヲ所轄稅務官署ニ申告スヘシ

一　種類、業目又ハ物件ノ名稱、價數

二　私法人使用ノ建物ニ付テハ其ノ所在地、構造、種類、棟數、建坪數及建物敷地ノ坪數

三　課稅地

四　他ノ州、廳管內ヨリ移轉シタルトキハ其ノ期分又ハ月分ノ營業稅、雜種稅ニシテ他ノ州、廳管內ヨリ移轉シタルトキハ其ノ期分又ハ月分ノ營業稅及雜種稅ニ屬スル營業者又ハ營業又ハ雜業ヲ全月ニ渉リ停止シタルトキハ其ノ月分ノ稅金ハ之ヲ賦課セス

第四十七條　營業稅中各種類ノ業目ノ增減變更ニ因リ課稅標準ニ著シキ增減アルトキハ其ノ增減ノ部分ニ對シテハ納稅義務ヲ發生シ又ハ消滅シタルモノト看做スコトヲ得

第四十八條　營業稅ノ課稅標準中從業者又ハ組織增加シタルトキハ其ノ增加ニ對シテハ納稅義務ヲ發生シタルモノト看做ス

第四十九條　雜種稅中ノ課稅標準ニ增減アルトキハ其ノ增減ノ部分ニ對シテハ納稅義務ヲ發生シ又ハ消滅シタルモノト看做ス其ノ變更ニ因リ稅率ニ增減アルトキ亦同シ

市場稅及私法人建物稅ニ付テハ前項ヲ適用セス

第五十條　營業稅及年稅又ハ月稅ニ屬スル雜種稅ヲ賦課スヘキ私法人建物ニシテ五月以後納稅義務ノ發生ニ係ルモノハ其ノ會計年度末迄ノ月數ニ應シ稅額ヲ算定シテ之ヲ賦課ス

第五十一條　同一ノ州管內ニ於ケル船舶、車、輛ニシテ州制施行令第三十二條第一號乃至第三號ニ該當セサルモノ所有者變更シタルトキハ其ノ稅金ハ納期終日ニ於ケル所有者ニ賦課ス但シ前所有者ニ於テ稅金ヲ納付シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條　營業稅及年稅又ハ月稅ニ屬スル雜種稅ヲ賦課スヘキ營業、物件其ノ他ノモノニシテ他ノ州、廳管內ヨリ移轉シタルトキハ其ノ期分又ハ月分ノ營業稅、雜種稅ハ之ヲ賦課セス

第五十三條　屠畜稅ハ屠殺ノ都度之ヲ賦課ス

州知事ハ於テ確實ト認ムル保證人ヲ立ツルトキハ市及郡役所所在地ノ屠畜場ニ於テ屠殺スルモノニ對シテハ每月十日、二十日、末日迄ノ分ヲ、其ノ他ノ屠畜場ニ於テ屠殺スルモノニ對シテハ每月分ヲ各其ノ期限後三日以內ニ一時ニ之ヲ賦課スルコトヲ得

第五十四條　納稅義務者ノ戶主又ハ家族ニ非サル者其ノ營業ヲ繼承シタルトキハ納稅義務ヲ發生シタルモノト看做ス

第五十五條　時日ヲ限リ短期間ノ營業ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ時日ヲ經過シ尙營業ヲ繼續スルトキハ新ニ納稅義務ヲ發生シタルモノト看做ス

第五十六條　營業稅中各種類ノ業目ノ增減變更ニ因リ課稅標準ニ著シキ增減アルトキハ其ノ增減ノ部分ニ對シテハ納稅義務ヲ發生シ又ハ消滅シタルモノト看做スコトヲ得

第五十七條　營業稅ノ課稅標準中從業者又ハ組織增加シタルトキハ其ノ增加ニ對シテハ納稅義務ヲ發生シタルモノト看做ス

第五十八條　雜種稅中ノ課稅標準ニ增減アルトキハ其ノ增減ノ部分ニ對シテハ納稅義務ヲ發生シ又ハ消滅シタルモノト看做ス其ノ變更ニ因リ稅率ニ增減アルトキ亦同シ

市場稅及私法人建物稅ニ付テハ前項ヲ適用セス

第五十九條　資本金額、出金額ヲ課稅標準トスル營業又ハ私法人建物ニシテ五月以後納稅義務ノ發生ニ係ルモノハ其ノ會計年度末迄ノ月數ニ應シ稅額ヲ算定シテ之ヲ賦課ス

第六十條　同一ノ州管內ニ於ケル船舶、車、輛ニシテ州制施行令第三十二條第一號乃至第三號ニ該當セサルモノ所有者變更シタルトキハ其ノ稅金ハ納期終日ニ於ケル所有者ニ賦課ス但シ前所有者ニ於テ稅金ヲ納付シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十一條　營業稅及年稅又ハ月稅ニ屬スル雜種稅ヲ賦課スヘキ私法人建物ニシテ五月以後納稅義務ノ發生ニ係ルモノハ其ノ會計年度末迄ノ月數ニ應シ稅額ヲ算定シテ之ヲ賦課ス

第六十二條　月稅ニ屬スル營業稅及雜種稅ニ屬スル營業者又ハ營業者カ營業又ハ雜業ヲ全月ニ渉リ停止シタルトキハ其ノ月分ノ稅金ハ之ヲ賦課セス

組紋全月ニ渉リ休業ヲ命セラレタルトキハ之ニ相當スル稅金ヲ賦課セス

第六十三條　州制施行令第三十二條ニ定ムル者ノ外左ニ揭クルモノニハ州稅ヲ賦課セス

一　政府ノ發行スル印紙、切手類ノ賣捌

二　新聞紙ノ發行及販賣

三　營利ヲ目的トセサル興行

四　營業ニ非サル畜牧場

五　住家、倉庫、營業場等一區域內ニ限リ使用スル軌道臺車、建設及保線專用ノ軌道臺車

本條ニ附屬スル編纂及小舟ノ類

第六十四條　所得稅法施行地、朝鮮、關東州又ハ樺太ノ法令ニ依リ所得稅ヲ課セラレサル法人ニ對シテハ特別所得稅ヲ賦課セス

第六十五條　相互保險會社、產業組合、漁業組合聯合會及農業倉庫業者ニハ營業稅ヲ賦課セス

第六十六條　貯蓄銀行業ヲ營ム者ニハ其ノ營業稅額ノ二分ノ一ヲ免除ス

第六十七條　所得稅附加稅ノ賦課ヲ受クヘキ納稅義務者ニシテ州ノ內外ニ渉リ資產又ハ營業ヲ有スルトキハ資產又ハ營業ノ所在地每ニ本稅ノ申告ト同時ニ左ノ事項ヲ所轄稅務官署ニ申告スヘシ

一　州ノ內外ニ於ケル資產、營業ノ所在地、名稱

二　前號ノ資產、營業ノ所得ノ種類、見積所得金額及其ノ算出ノ明細

三　納稅義務者ノ住所、名稱

第六十八條　營業稅及年稅又ハ月稅ニ屬スル雜種稅ノ納稅義務ヲ發生シタルトキハ其ノ納稅義務者ハ十日以內ニ左ノ事項ヲ所轄稅務官署ニ申告スヘシ

一　種類、業目又ハ物件ノ名稱、價數

二　私法人使用ノ建物ニ付テハ其ノ所在地、構造、種類、棟數、建坪數及建物敷地ノ坪數

三　課稅地

四　他ノ州、廳管內ヨリ移轉シタルトキハ其ノ期分又ハ月分ノ營業稅、雜種稅ニシテ他ノ州、廳管內ヨリ移轉シタルモノニ付テハ其ノ移轉又ハ取得前ノ課稅地

五　課稅標準額

六　納稅義務發生年月日又ハ時日ヲ限リ期間ノ營業ヲ爲スモノハ其ノ期間

七　本籍及住所、氏名

翌年度引續キ營業稅及雜種稅中ノ市場稅ヲ納ムヘキ義務者ハ其ノ年一月三十一日迄ニ前項第一號、第三號及第五號（組紋及從業者ヲ除ク）ノ事項ヲ申告スヘシ但シ其ノ課稅標準額前年度分ノモノニ對シ增減ナキトキハ申告ヲ爲ササルコトヲ得

其ノ年一月以降三月迄ノ開業ニ係ルモノハ第一項ニ依ル申告ト同時ニ第二項ニ依ル申告ヲ爲スヘシ

第六十九條　營業稅中各種類ノ業目ノ增減變更ニ因リ課稅標準ニ著シキ增減アルトキハ其ノ增減ノ部分ニ對シテハ納稅義務ヲ發生シ又ハ消滅シタルモノト看做スコトヲ得

第七十條　營業稅ノ課稅標準中從業者又ハ組織增加シタルトキハ其ノ增加ニ對シテハ納稅義務ヲ發生シタルモノト看做ス

第七十一條　雜種稅中ノ課稅標準ニ增減アルトキハ其ノ增減ノ部分ニ對シテハ納稅義務ヲ發生シ又ハ消滅シタルモノト看做ス其ノ變更ニ因リ稅率ニ增減アルトキ亦同シ

市場稅及私法人建物稅ニ付テハ前項ヲ適用セス

第七十二條　資本金額、出金額ヲ課稅標準トスル營業又ハ私法人建物ニシテ五月以後納稅義務ノ發生ニ係ルモノハ其ノ會計年度末迄ノ月數ニ應シ稅額ヲ算定シテ之ヲ賦課ス

第七十三條　同一ノ州管內ニ於ケル船舶、車、輛ニシテ州制施行令第三十二條第一號乃至第三號ニ該當セサルモノ所有者變更シタルトキハ其ノ稅金ハ納期終日ニ於ケル所有者ニ賦課ス但シ前所有者ニ於テ稅金ヲ納付シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七十四條　營業稅及年稅又ハ月稅ニ屬スル雜種稅ヲ賦課スヘキ私法人建物ニシテ五月以後納稅義務ノ發生ニ係ルモノハ其ノ會計年度末迄ノ月數ニ應シ稅額ヲ算定シテ之ヲ賦課ス

第七十五條　月稅ニ屬スル營業稅及雜種稅ニ屬スル營業者又ハ營業者カ營業又ハ雜業ヲ全月ニ渉リ停止シタルトキハ其ノ月分ノ稅金ハ之ヲ賦課セス

組紋全月ニ渉リ休業ヲ命セラレタルトキハ之ニ相當スル稅金ヲ賦課セス

第七十六條　州制施行令第三十二條ニ定ムル者ノ外左ニ揭クルモノニハ州稅ヲ賦課セス

一　政府ノ發行スル印紙、切手類ノ賣捌

二　新聞紙ノ發行及販賣

三　營利ヲ目的トセサル興行

四　營業ニ非サル畜牧場

五　住家、倉庫、營業場等一區域內ニ限リ使用スル軌道臺車、建設及保線專用ノ軌道臺車

本條ニ附屬スル編纂及小舟ノ類

第七十七條　營業稅中各種類ノ業目ノ增減變更ニ因リ課稅標準ニ著シキ增減アルトキハ其ノ增減ノ部分ニ對シテハ納稅義務ヲ發生シ又ハ消滅シタルモノト看做ス

第七十八條　雜種稅中ノ課稅標準ニ增減アルトキハ其ノ增減ノ部分ニ對シテハ納稅義務ヲ發生シ又ハ消滅シタルモノト看做ス其ノ變更ニ因リ稅率ニ增減アルトキ亦同シ

市場稅及私法人建物稅ニ付テハ前項ヲ適用セス

第七十九條　資本金額、出金額ヲ課稅標準トスル營業又ハ私法人建物ニシテ五月以後納稅義務ノ發生ニ係ルモノハ其ノ會計年度末迄ノ月數ニ應シ稅額ヲ算定シテ之ヲ賦課ス

第八十條　同一ノ州管內ニ於ケル船舶、車、輛ニシテ州制施行令第三十二條第一號乃至第三號ニ該當セサルモノ所有者變更シタルトキハ其ノ稅金ハ納期終日ニ於ケル所有者ニ賦課ス但シ前所有者ニ於テ稅金ヲ納付シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八十一條　營業稅及年稅又ハ月稅ニ屬スル雜種稅ヲ賦課スヘキ私法人建物ニシテ五月以後納稅義務ノ發生ニ係ルモノハ其ノ會計年度末迄ノ月數ニ應シ稅額ヲ算定シテ之ヲ賦課ス

第八十二條　月稅ニ屬スル營業稅及雜種稅ニ屬スル營業者又ハ營業者カ營業又ハ雜業ヲ全月ニ渉リ停止シタルトキハ其ノ月分ノ稅金ハ之ヲ賦課セス

組紋全月ニ渉リ休業ヲ命セラレタルトキハ之ニ相當スル稅金ヲ賦課セス

第八十三條　州制施行令第三十二條ニ定ムル者ノ外左ニ揭クルモノニハ州稅ヲ賦課セス

一　政府ノ發行スル印紙、切手類ノ賣捌

二　新聞紙ノ發行及販賣

三　營利ヲ目的トセサル興行

四　營業ニ非サル畜牧場

五　住家、倉庫、營業場等一區域內ニ限リ使用スル軌道臺車、建設及保線專用ノ軌道臺車

本條ニ附屬スル編纂及小舟ノ類

第八十四條　所得稅法施行地、朝鮮、關東州又ハ樺太ノ法令ニ依リ所得稅ヲ課セラレサル法人ニ對シテハ特別所得稅ヲ賦課セス

第八十五條　相互保險會社、產業組合、漁業組合聯合會及農業倉庫業者ニハ營業稅ヲ賦課セス

第八十六條　貯蓄銀行業ヲ營ム者ニハ其ノ營業稅額ノ二分ノ一ヲ免除ス

第八十七條　所得稅附加稅ノ賦課ヲ受クヘキ納稅義務者ニシテ州ノ內外ニ渉リ資產又ハ營業ヲ有スルトキハ資產又ハ營業ノ所在地每ニ本稅ノ申告ト同時ニ左ノ事項ヲ所轄稅務官署ニ申告スヘシ

一　州ノ內外ニ於ケル資產、營業ノ所在地、名稱

二　前號ノ資產、營業ノ所得ノ種類、見積所得金額及其ノ算出ノ明細

三　納稅義務者ノ住所、名稱

第八十八條　營業稅及年稅又ハ月稅ニ屬スル雜種稅ノ納稅義務ヲ發生シタルトキハ其ノ納稅義務者ハ十日以內ニ左ノ事項ヲ所轄稅務官署ニ申告スヘシ

一　種類、業目又ハ物件ノ名稱、價數

二　私法人使用ノ建物ニ付テハ其ノ所在地、構造、種類、棟數、建坪數及建物敷地ノ坪數

三　課稅地

四　他ノ州、廳管內ヨリ移轉シタルトキハ其ノ期分又ハ月分ノ營業稅、雜種稅ニシテ他ノ州、廳管內ヨリ移轉シタルモノニ付テハ其ノ移轉又ハ取得前ノ課稅地

五　課稅標準額

六　納稅義務發生年月日又ハ時日ヲ限リ期間ノ營業ヲ爲スモノハ其ノ期間

七　本籍及住所、氏名

翌年度引續キ營業稅及雜種稅中ノ市場稅ヲ納ムヘキ義務者ハ其ノ年一月三十一日迄ニ前項第一號、第三號及第五號（組紋及從業者ヲ除ク）ノ事項ヲ申告スヘシ但シ其ノ課稅標準額前年度分ノモノニ對シ增減ナキトキハ申告ヲ爲ササルコトヲ得

其ノ年一月以降三月迄ノ開業ニ係ルモノハ第一項ニ依ル申告ト同時ニ第二項ニ依ル申告ヲ爲スヘシ

第八十九條　營業稅中各種類ノ業目ノ增減變更ニ因リ課稅標準ニ著シキ增減アルトキハ其ノ增減ノ部分ニ對シテハ納稅義務ヲ發生シ又ハ消滅シタルモノト看做ス

第九十條　營業稅ノ課稅標準中從業者又ハ組織增加シタルトキハ其ノ增加ニ對シテハ納稅義務ヲ發生シタルモノト看做ス

第九十一條　雜種稅中ノ課稅標準ニ增減アルトキハ其ノ增減ノ部分ニ對シテハ納稅義務ヲ發生シ又ハ消滅シタルモノト看做ス其ノ變更ニ因リ稅率ニ增減アルトキ亦同シ

市場稅及私法人建物稅ニ付テハ前項ヲ適用セス

第九十二條　資本金額、出金額ヲ課稅標準トスル營業又ハ私法人建物ニシテ五月以後納稅義務ノ發生ニ係ルモノハ其ノ會計年度末迄ノ月數ニ應シ稅額ヲ算定シテ之ヲ賦課ス

第九十三條　同一ノ州管內ニ於ケル船舶、車、輛ニシテ州制施行令第三十二條第一號乃至第三號ニ該當セサルモノ所有者變更シタルトキハ其ノ稅金ハ納期終日ニ於ケル所有者ニ賦課ス但シ前所有者ニ於テ稅金ヲ納付シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九十四條　營業稅及年稅又ハ月稅ニ屬スル雜種稅ヲ賦課スヘキ私法人建物ニシテ五月以後納稅義務ノ發生ニ係ルモノハ其ノ會計年度末迄ノ月數ニ應シ稅額ヲ算定シテ之ヲ賦課ス

第九十五條　月稅ニ屬スル營業稅及雜種稅ニ屬スル營業者又ハ營業者カ營業又ハ雜業ヲ全月ニ渉リ停止シタルトキハ其ノ月分ノ稅金ハ之ヲ賦課セス

組紋全月ニ渉リ休業ヲ命セラレタルトキハ之ニ相當スル稅金ヲ賦課セス

第九十六條　州制施行令第三十二條ニ定ムル者ノ外左ニ揭クルモノニハ州稅ヲ賦課セス

一　政府ノ發行スル印紙、切手類ノ賣捌

二　新聞紙ノ發行及販賣

三　營利ヲ目的トセサル興行

四　營業ニ非サル畜牧場

五　住家、倉庫、營業場等一區域內ニ限リ使用スル軌道臺車、建設及保線專用ノ軌道臺車

本條ニ附屬スル編纂及小舟ノ類

第九十七條　所得稅法施行地、朝鮮、關東州又ハ樺太ノ法令ニ依リ所得稅ヲ課セラレサル法人ニ對シテハ特別所得稅ヲ賦課セス

第九十八條　相互保險會社、產業組合、漁業組合聯合會及農業倉庫業者ニハ營業稅ヲ賦課セス

第九十九條　貯蓄銀行業ヲ營ム者ニハ其ノ營業稅額ノ二分ノ一ヲ免除ス

第百條　所得稅附加稅ノ賦課ヲ受クヘキ納稅義務者ニシテ州ノ內外ニ渉リ資產又ハ營業ヲ有スルトキハ資產又ハ營業ノ所在地每ニ本稅ノ申告ト同時ニ左ノ事項ヲ所轄稅務官署ニ申告スヘシ

一　州ノ內外ニ於ケル資產、營業ノ所在地、名稱

二　前號ノ資產、營業ノ所得ノ種類、見積所得金額及其ノ算出ノ明細

三　納稅義務者ノ住所、名稱

第百一條　營業稅及年稅又ハ月稅ニ屬スル雜種稅ノ納稅義務ヲ發生シタルトキハ其ノ納稅義務者ハ十日以內ニ左ノ事項ヲ所轄稅務官署ニ申告スヘシ

一　種類、業目又ハ物件ノ名稱、價數

二　私法人使用ノ建物ニ付テハ其ノ所在地、構造、種類、棟數、建坪數及建物敷地ノ坪數

三　課稅地

四　他ノ州、廳管內ヨリ移轉シタルトキハ其ノ期分又ハ月分ノ營業稅、雜種稅ニシテ他ノ州、廳管內ヨリ移轉シタルモノニ付テハ其ノ移轉又ハ取得前ノ課稅地

五　課稅標準額

六　納稅義務發生年月日又ハ時日ヲ限リ期間ノ營業ヲ爲スモノハ其ノ期間

七　本籍及住所、氏名

翌年度引續キ營業稅及雜種稅中ノ市場稅ヲ納ムヘキ義務者ハ其ノ年一月三十一日迄ニ前項第一號、第三號及第五號（組紋及從業者ヲ除ク）ノ事項ヲ申告スヘシ但シ其ノ課稅標準額前年度分ノモノニ對シ增減ナキトキハ申告ヲ爲ササルコトヲ得

其ノ年一月以降三月迄ノ開業ニ係ルモノハ第一項ニ依ル申告ト同時ニ第二項ニ依ル申告ヲ爲スヘシ

第百二條　營業稅中各種類ノ業目ノ增減變更ニ因リ課稅標準ニ著シキ增減アルトキハ其ノ增減ノ部分ニ對シテハ納稅義務ヲ發生シ又ハ消滅シタルモノト看做ス

第百三條　雜種稅中ノ課稅標準ニ增減アルトキハ其ノ增減ノ部分ニ對シテハ納稅義務ヲ發生シ又ハ消滅シタルモノト看做ス其ノ變更ニ因リ稅率ニ增減アルトキ亦同シ

市場稅及私法人建物稅ニ付テハ前項ヲ適用セス

第百四條　資本金額、出金額ヲ課稅標準トスル營業又ハ私法人建物ニシテ五月以後納稅義務ノ發生ニ係ルモノハ其ノ會計年度末迄ノ月數ニ應シ稅額ヲ算定シテ之ヲ賦課ス

第百五條　同一ノ州管內ニ於ケル船舶、車、輛ニシテ州制施行令第三十二條第一號乃至第三號ニ該當セサルモノ所有者變更シタルトキハ其ノ稅金ハ納期終日ニ於ケル所有者ニ賦課ス但シ前所有者ニ於テ稅金ヲ納付シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百六條　營業稅及年稅又ハ月稅ニ屬スル雜種稅ヲ賦課スヘキ私法人建物ニシテ五月以後納稅義務ノ發生ニ係ルモノハ其ノ會計年度末迄ノ月數ニ應シ稅額ヲ算定シテ之ヲ賦課ス

第百七條　月稅ニ屬スル營業稅及雜種稅ニ屬スル營業者又ハ營業者カ營業又ハ雜業ヲ全月ニ渉リ停止シタルトキハ其ノ月分ノ稅金ハ之ヲ賦課セス

組紋全月ニ渉リ休業ヲ命セラレタルトキハ之ニ相當スル稅金ヲ賦課セス

第百八條　州制施行令第三十二條ニ定ムル者ノ外左ニ揭クルモノニハ州稅ヲ賦課セス

一　政府ノ發行スル印紙、切手類ノ賣捌

二　新聞紙ノ發行及販賣

三　營利ヲ目的トセサル興行

四　營業ニ非サル畜牧場

五　住家、倉庫、營業場等一區域內ニ限リ使用スル軌道臺車、建設及保線專用ノ軌道臺車

本條ニ附屬スル編纂及小舟ノ類

第百九條　所得稅法施行地、朝鮮、關東州又ハ樺太ノ法令ニ依リ所得稅ヲ課セラレサル法人ニ對シテハ特別所得稅ヲ賦課セス

第百十條　相互保險會社、產業組合、漁業組合聯合會及農業倉庫業者ニハ營業稅ヲ賦課セス

第百十一條　貯蓄銀行業ヲ營ム者ニハ其ノ營業稅額ノ二分ノ一ヲ免除ス

第百十二條　所得稅附加稅ノ賦課ヲ受クヘキ納稅義務者ニシテ州ノ內外ニ渉リ資產又ハ營業ヲ有スルトキハ資產又ハ營業ノ所在地每ニ本稅ノ申告ト同時ニ左ノ事項ヲ所轄稅務官署ニ申告スヘシ

一　州ノ內外ニ於ケル資產、營業ノ所在地、名稱

二　前號ノ資產、營業ノ所得ノ種類、見積所得金額及其ノ算出ノ明細

三　納稅義務者ノ住所、名稱

第百十三條　營業稅及年稅又ハ月稅ニ屬スル雜種稅ヲ賦課スヘキ營業、物件其ノ他ノモノニシテ他ノ州、廳管內ヨリ移轉シタルトキハ其ノ期分又ハ月分ノ營業稅、雜種稅ニシテ他ノ州、廳管內ヨリ移轉シタルモノニ付テハ其ノ移轉又ハ取得前ノ課稅地

五　課稅標準額

六　納稅義務發生年月日又ハ時日ヲ限リ期間ノ營業ヲ爲スモノハ其ノ期間

七　本籍及住所、氏名

翌年度引續キ營業稅及雜種稅中ノ市場稅ヲ納ムヘキ義務者ハ其ノ年一月三十一日迄ニ前項第一號、第三號及第五號（組紋及從業者ヲ除ク）ノ事項ヲ申告スヘシ但シ其ノ課稅標準額前年度分ノモノニ對シ增減ナキトキハ申告ヲ爲ササルコトヲ得

其ノ年一月以降三月迄ノ開業ニ係ルモノハ第一項ニ依ル申告ト同時ニ第二項ニ依ル申告ヲ爲スヘシ

第百十四條　營業稅中各種類ノ業目ノ增減變更ニ因リ課稅標準ニ著シキ增減アルトキハ其ノ增減ノ部分ニ對シテハ納稅義務ヲ發生シ又ハ消滅シタルモノト看做ス

第百十五條　營業稅ノ課稅標準中從業者又ハ組織增加シタルトキハ其ノ增加ニ對シテハ納稅義務ヲ發生シタルモノト看做ス

第百十六條　雜種稅中ノ課稅標準ニ增減アルトキハ其ノ增減ノ部分ニ對シテハ納稅義務ヲ發生シ又ハ消滅シタルモノト看做ス其ノ變更ニ因リ稅率ニ增減アルトキ亦同シ

市場稅及私法人建物稅ニ付テハ前項ヲ適用セス

第百十七條　資本金額、出金額ヲ課稅標準トスル營業又ハ私法人建物ニシテ五月以後納稅義務ノ發生ニ係ルモノハ其ノ會計年度末迄ノ月數ニ應シ稅額ヲ算定シテ之ヲ賦課ス

第百十八條　同一ノ州管內ニ於ケル船舶、車、輛ニシテ州制施行令第三十二條第一號乃至第三號ニ該當セサルモノ所有者變更シタルトキハ其ノ稅金ハ納期終日ニ於ケル所有者ニ賦課ス但シ前所有者ニ於テ稅金ヲ納付シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百十九條　營業稅及年稅又ハ月稅ニ屬スル雜種稅ヲ賦課スヘキ私法人建物ニシテ五月以後納稅義務ノ發生ニ係ルモノハ其ノ會計年度末迄ノ月數ニ應シ稅額ヲ算定シテ之ヲ賦課ス

第百二十條　月稅ニ屬スル營業稅及雜種稅ニ屬スル營業者又ハ營業者カ營業又ハ雜業ヲ全月ニ渉リ停止シタルトキハ其ノ月分ノ稅金ハ之ヲ賦課セス

組紋全月ニ渉リ休業ヲ命セラレタルトキハ之ニ相當スル稅金ヲ賦課セス

第百二十一條　州制施行令第三十二條ニ定ムル者ノ外左ニ揭クルモノニハ州稅ヲ賦課セス

一　政府ノ發行スル印紙、切手類ノ賣捌

二　新聞紙ノ發行及販賣

三　營利ヲ目的トセサル興行

四　營業ニ非サル畜牧場

五　住家、倉庫、營業場等一區域內ニ限リ使用スル軌道臺車、建設及保線專用ノ軌道臺車

本條ニ附屬スル編纂及小舟ノ類

第百二十二條　所得稅附加稅ノ課稅地外ニ居住スル者ノ賦課徵收及廢止前ノ事實ニ對スル地方稅ノ徵收ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

地方稅ニ關スル從前ノ規定ニ依リ其ノ廢止前既ニ賦課シタル事實ニ對シテハ本令ニ依リ州稅ヲ賦課セス

●地租附加稅及所得稅附加稅制限

大正九年十一月一日
臺灣總督府令第百四十號

地租附加稅及所得稅附加稅制限左ノ通相定ム

第一條　州ハ地租百分ノ五十以內ノ地租附加稅ヲ課スルノ外土地ニ對シテ賦稅スルコトヲ得ス

第二條　州ハ所得稅百分ノ十七以內ノ所得稅附加稅ヲ課スルノ外所得稅ヲ納ムル者ノ所得ニ對シ課稅スルコトヲ得ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣州戶稅規則

大正九年十一月十日
臺灣總督府令第百六十七號
改正　大正一〇年第七四號、第一一五號、一二年第四二號

臺灣州戶稅規則左ノ通相定ム

臺灣州戶稅規則

第一條　同居者タルト寄寓者タルトヲ問ハス獨立ノ生計ヲ營ム者ヲ以テ構戶者ト看做ス

第二條　戶稅ハ每年四月一日ノ現在ニ依リ賦課ス

四月二日以後納稅義務ヲ發生シタルトキハ隨時之ヲ賦課ス

第三條　戶稅ハ四月一日現在ニ依ルモノハ各市街庄ニ配賦シ市尹又ハ街庄長チシテ賦課セシメ隨時賦課ニ係ルモノハ州知事之ヲ賦課ス

第四條　戶稅總額ハ豫算ノ屬スル年度ノ前年四月一日現在ニ於ケル戶稅納稅義務者ノ數及其ノ納稅義務者ニ對シ賦課標準トシテ爲シタル總生產額ヲ標準トシテ各市街庄ニ配賦ス但シ戶稅納稅義務者ノ數ヲ標準トスル配賦額ハ戶稅總額ノ十分ノ三ヲ超ユルコトヲ得ス

第十條　州ハ所得稅百分ノ十七以內ノ所得稅附加稅ヲ課スルノ外所得稅ヲ納ムル者ノ所得ニ對シ課稅スルコトヲ得ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●地租附加稅及所得稅附加稅制限

大正九年十一月一日
臺灣總督府令第百四十號

地租附加稅及所得稅附加稅制限左ノ通相定ム

第一條　州ハ地租百分ノ五十以內ノ地租附加稅ヲ課スルノ外土地ニ對シテ賦稅スルコトヲ得ス

第二條　州ハ所得稅百分ノ十七以內ノ所得稅附加稅ヲ課スルノ外所得稅ヲ納ムル者ノ所得ニ對シ課稅スルコトヲ得ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣州戶稅規則

大正九年十一月十日
臺灣總督府令第百六十七號
改正　大正一〇年第七四號、第一一五號、一二年第四二號

臺灣州戶稅規則左ノ通相定ム

臺灣州戶稅規則

第一條　同居者タルト寄寓者タルトヲ問ハス獨立ノ生計ヲ營ム者ヲ以テ構戶者ト看做ス

第二條　戶稅ハ每年四月一日ノ現在ニ依リ賦課ス

四月二日以後納稅義務ヲ發生シタルトキハ隨時之ヲ賦課ス

第三條　戶稅ハ四月一日現在ニ依ルモノハ各市街庄ニ配賦シ市尹又ハ街庄長チシテ賦課セシメ隨時賦課ニ係ルモノハ州知事之ヲ賦課ス

第四條　戶稅總額ハ豫算ノ屬スル年度ノ前年四月一日現在ニ於ケル戶稅納稅義務者ノ數及其ノ納稅義務者ニ對シ賦課標準トシテ爲シタル總生產額ヲ標準トシテ各市街庄ニ配賦ス但シ戶稅納稅義務者ノ數ヲ標準トスル配賦額ハ戶稅總額ノ十分ノ三ヲ超ユルコトヲ得ス

第十條　州ハ所得稅百分ノ十七以內ノ所得稅附加稅ヲ課スルノ外所得稅ヲ納ムル者ノ所得ニ對シ課稅スルコトヲ得ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

サルコトヲ得

前項ニ依リ市街庄ニ於テ賦課セサル者アルモ戶稅ノ配賦額ハ之ヲ減少セス

第十三條ノ二　納稅義務者ト生計ヲ共ニスル同居者カ九月三十日以前ニ別居シタルトキハ納稅義務者ニ對スル後期分ノ戶稅ハ其ノ別居者ノ生產額ニ相當スル後期分ノ稅額ヲ減額賦課ス

納稅義務者又ハ之ト生計ヲ共ニスル同居者カ九月三十日以前ニ他ノ納稅義務者ト同居シ生計ヲ共ニシタルトキハ他ノ納稅義務者ニ對スル後期分ノ戶稅ハ其ノ同居者ノ生產額ニ相當スル後期分ノ稅額ヲ合算賦課ス

第十四條　九月三十日以前ニ納稅義務ノ消滅シタルトキハ後期分ノ戶稅ハ之ヲ賦課セス

第十五條　戶稅ノ納稅義務者他ノ州又ハ臨地方費內ヨリ移轉シタルトキハ其ノ期分ノ戶稅ハ之ヲ賦課セス

第十六條　戶稅ノ賦課徵收ニ關シテハ本令ニ定ムルモノノ外州稅規則第三十一條、第五十四條、第五十四條ノ二、第五十七條、第五十八條及第六十三條乃至第六十六條ヲ準用ス

第十七條　本令施行ニ關シ必要ナル細則ハ州知事之ヲ定ム

附則

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十年度ニ於テハ第四條ノ配賦標準ハ州知事ノ定ムル所ニ依ル

州知事ハ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ當分ノ內特別ノ事情アル場合ニ限リ第五條ノ見積生產額中資產ヨリ生スル生產額ノ割酌ヲ加ヘシムルコトヲ得

●臺灣廳地方費稅規則

大正九年十月一日
臺灣總督府令第百四十六號

改正　大正一〇年　第四八號、第七〇號、一一年第三八號、第二二八號、一二年　第四七號、一五年第四一號、第六一號
昭和二年第一八號、三年第八號

臺灣廳地方費稅規則左ノ通相定ム

臺灣廳地方費稅規則

第一章　總則

第一條　廳地方費稅ハ特別ノ規定アルモノノ外本令ニ依リ廳長之ヲ賦課徵收ス

第二條　數人又ハ廳地方費ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ其ノ數人若ハ廳地方費ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲スコトヲ得

第二章　賦課

第三條　地租附加稅ハ地租ノ納稅義務者ニ對シ地租ノ百分ノ五十ヲ賦課ス

第四條　所得稅附加稅ハ臺灣所得稅令ニ依ル第一種ノ所得ニ對スル所得稅ノ納稅義務者ニ對シ所得稅ノ百分ノ十五ヲ賦課ス

第五條　廳ノ內外ニ涉ル者ノ所得ニシテ土地、家屋、物件又ハ營業所ヲ定メテ爲ス營業ヨリ生スル所得ニ付所得稅附加稅ヲ賦課セムトスルトキハ關係アル州知事又ハ廳長協議ノ上步合ヲ定ム若協議調ハサルトキハ臺灣總督之ヲ定ム

第六條　營業稅ハ左ノ種類、課稅標準及稅率ニ依リ賦課ス

種類	課稅標準及稅率	
物品販賣業	年稅	賣上金額（甲）萬分ノ十四（乙）萬分ノ十七（小賣）萬分ノ四十
銀行業	年稅	資本金額 萬分ノ十四
保險業	年稅	資本金額 萬分ノ十四、保險料額 萬分ノ六、三
無盡業	年稅	資本金額 萬分ノ十四、無盡掛金額 萬分ノ一、六
貸付業	年稅	資本金額 千分ノ九、貸付金額 千分ノ八、其ノ他ノ貸付 千分ノ八
諸負業	年稅	土木、勞力諸負 請負金額 萬分ノ二十七、其ノ他ノ諸負 請負金額 萬分ノ十八
鑛業	年稅	牧入金額 萬分ノ十八、（石炭鑛業）萬分ノ十八、（其ノ他ノ鑛業）萬分ノ七
印刷業	年稅	牧入金額 萬分ノ四十六
富籤業	年稅	牧入金額 千分ノ十一
製造業	年稅	牧入金額（甲）萬分ノ十八（乙）萬分ノ三十二（丙）萬分ノ二十七
倉庫業	年稅	牧入金額 千分ノ八
運送業	年稅	（運送取扱人）牧入金額 千分ノ八、報償金額 千分ノ二十二
周旋代理商業	年稅	報償金額 千分ノ二十五
仲立業	年稅	報償金額 千分ノ二十五
問屋業	年稅	報償金額 千分ノ二十五
信託業	年稅	報償金額 千分ノ二十五
兩替業	年稅	報償金額 千分ノ十六
席貸業	月稅	牧入金額（建物貸貸價格）千分ノ七、（從業者）千分ノ三十六、一人一圓三十五錢
貨座敷業	月稅	牧入金額（建物貸貸價格）千分ノ七、（從業者）千分ノ三十六、一人一圓三十五錢、（娼妓）一人一圓八十錢

第三章　課稅標準及稅率

第七條　左ノ營業ハ物品販賣業ト看做ス

一　一定ノ製造場ヲ設ケス原料ヲ供給シ物品ヲ製造セシメテ販賣ヲ爲スモノ

二　物品ヲ製造シテ小賣ヲ爲スモノ

三　動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セサルモノノ販賣ヲ爲スモノ

第八條　左ノ營業ハ貸付業ト看做ス

一　普通ニ物品ト稱セサルモノノ貸付ヲ爲スモノ

二　建物ノ貸付ヲ爲スモノ

第九條　左ノ營業ハ請負業ト看做ス

一　代書、洗濯、點燈又ハ埋火葬ノ取扱ヲ爲スモノ

二　他人ヨリ物品ノ供給ヲ受ケ製造、精米ノ加工ヲ爲スモノ

三　他人ヨリ物品ノ供給ヲ受ケ製造、精米其ノ他加工ヲ爲シ專ラ賃錢ヲ得ルヲ目的トスルモノ

第十條　請負ニ依リテ爲ス營業カ他ノ種類ノ業態ニ屬スルトキハ其ノ種類ノ營業ト看做ス

第十一條　左ノ營業ハ製造業ト看做ス

一　瓦斯、電氣ノ供給ヲ爲スモノ

二　物品製造ノ一部ノ助成ヲ爲スモノ

三　器具器械ノ修理ヲ爲スモノ

四　精米、染物、裁縫、鍛冶等物品ノ加工ヲ爲スモノ

第十二條　第七條第二號、第九條第二號及第三號ノ製造ニ對シテハ之ヲ製造業トス

第十三條　營業稅ノ課稅標準中資本金額、保險料額、無盡掛金額、牧入金額、請負金額、報償金額以外ノモノニシテ前年中開業シタルモノ又ハ一箇月以上ニ渉リ休業シタルモノノ開業又ハ休業ノ月カ一月ニ滿タサルトキハ日割ヲ以テ其ノ月分ヲ算定シ一年ニ滿タサルトキハ月割ヲ以テ其ノ年分ヲ算定ス

前年中資本金額、保險料額、無盡掛金額、牧入金額、請負金額又ハ報償金額ナキトキハ其ノ會計年度內ノ見積金額ニ依ル

前年中ノ營業期間短キモノ又ハ季節營業ニシテ前項ノ規定ニ依リ算定シタル課稅標準カ著シク不適當ナリト認ムルトキ亦同シ

其ノ年開業シタルモノハ其ノ會計年度內ノ見積金額ニ依ル

月稅ニ屬スルモノハ前各項ノ規定ニ依リ計算シタル金額ノ月割平均ニ依ル

代償トシテ得タル物品又ハ行爲ハ相當價格ヲ見積リ前各項ノ場合ニ於ケル課稅標準トシテ計算ス

第十四條　營業稅ノ課稅標準中資本金額ハ會社ニ在リテハ前年中各月末ニ於ケル拂込株式金額、積立金金額、出資金額竝資本ノ用ニ供スル借入金額、積立金ノ性質ヲ有スル他名義ノ何タルヲ問ハス積立金ノ性質ヲ有スル資產金額ノ月割平均ニ依ル但シ保險會社ニ於ケル保險責任準備金、保險約款上疑定セル義務ニ基キ積立テタル配當準備金及保險支拂備金ハ之ヲ除算ス

二箇所以上ノ營業場ヲ有スルモノハ資本金額ヲ各營業場ニ見積リ分別シタル額ニ依ル

前項ノ營業場ニ以上ノ州、廳ニ涉ル場合ハ關係アル州知事又ハ廳長協議ノ上其ノ資本金額ヲ定ムル協議調ハサルトキハ臺灣總督之ヲ定ム

本島外ニ本店ヲ有スル會社ニシテ廳管內ニ營業場アルモノハ借入ニ係ルト否トヲ問ハス直接其ノ營業ノ用ニ供スル固定資本及運轉資本ノ見積額ニ依ル

其ノ年開業ニ係ルモノハ見積資本金額ニ依ル

會社資本金額ヲ課稅標準ト爲ササル營業ヲ營ミ營業スルトキハ前各項ノ規定ニ依リ計算シタル見積資本金額ヨリ其ノ營業スル營業ニ對スル見積資本金額ヲ控除シタル金額ノ二箇人ニ在リテハ借入ニ係ルト否トヲ問ハス直接其ノ營業ノ用ニ供スル固定資本及運轉資本ノ見積額ニ依ル

本條ノ固定資本ハ土地、建物、建物附屬物及器具等ノ價格ヲ計算ス

第十五條　營業稅ノ課稅標準中預金額ハ前年中各月末ノ月割平均ニ依ル

前年中預金額ナキモノ及其ノ年開業シタルモノハ見積額ニ依ル

第十六條　營業稅ノ課稅標準中建物貸貸價格ハ前年中ノ平均一月分ノ貸貸時價ニ依ル

其ノ年開業シタルモノハ見積時價ニ依ル

建物貸貸價格ハ店舖其ノ他營業ノ用ニ供スル土地、建物及建物附屬物ニ付之ヲ算定ス

同一區域內ニ在リテ自己ノ使用ニ供スルモノハ營業ノ用ニ供スルモノト看做ス

第十七條　營業稅ノ課稅標準中從業者、娼妓ハ每月一日ノ現在數ニ依ル但シ第四十八條第二項ノ場合ニ該當スルモノハ翌月以後ノ從業者ハ營業者ノ家族タルト否トヲ問ハス仲居、酌婦、妓夫、客引其ノ他客席ニ侍シ又ハ給仕等ヲ爲スモノヲ云フ

第十八條　法人ニ對スル營業稅年稅ノ課稅標準ノ計算ハ前年十二月迄ニ終了スヘキ事業年度ノ最近一箇年ノ金額ニ依ルコトヲ得個人ノ砂糖製造業ニ付テモ亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ第十三條乃至第十五條ノ規定ヲ準用ス

第十八條ノ二　貯蓄銀行法第七條又ハ第二十八條ノ規定ニ依リ繼續スル業務ハ之ヲ貯蓄銀行ノ營業トシテ課稅標準ヲ算定ス

第十九條　保險業ノ課稅標準タル保險料額ハ保險業者ノ收入シタル額ニ依リ之ヲ算定ス

第二十條　無盡業者ノ課稅標準タル無盡掛金額ハ無盡業者ノ收入シタル無盡掛金額ヨリ解約ニ依ル返戻額ヲ控除シタル額ニ依リ之ヲ算定ス

第二十一條　製造業中砂糖及酒精製造ノ課稅標準ノ砂糖消費稅及酒精稅ヲ控除シタル收入金額ニ依リ之ヲ算定ス

第二十二條　請負業、鑛業及製造業ノ課稅標準ニ付テハ第十四條第二項乃至第四項ノ規定ヲ準用ス

第二十三條　雜種稅ハ左ノ種類、課稅標準及稅率ニ依リ賦課ス

種類	課稅標準及稅率	
湯屋	年稅	（湯槽每一坪五圓五十錢、一坪未滿ノ端數ハ一坪ニ計算ス
理髮	年稅	（店營業者 四圓五十錢、使用人一人ヲ增ス每ニ一圓八十錢ヲ加フ、行營業者 一圓八十錢、使用人一人ヲ增ス每ニ九十錢ヲ加フ
一等	（牧入金額 千圓以上二千圓未滿九十圓以上千圓迄ヲ增ス每ニ九十圓ヲ加フ	

種類	課稅標準及稅率	
旅人宿業	年稅	（牧入金額（旅宿屋）千分ノ五、六、（下旅宿屋）千分ノ四、四、（木賃宿屋）千分ノ三十二、一人千分ノ二十三
料理店業	月稅	（牧入金額 千分ノ七、建物貸貸價格 千分ノ三十六、從業者 一人一圓三十五錢
飲食店業	月稅	（牧入金額 千分ノ五、六、建物貸貸價格 千分ノ三十二、從業者 一人千分ノ九十錢

物品販賣業中米、砂糖、石油、肥料ノ卸賣ニ對シテハ甲ノ稅率ニ依リ其ノ他ノ卸賣ニ對シテハ乙ノ稅率ニ依リ其ノ他ノ製造業中粗揩、精米ニ對シテハ甲ノ稅率ニ依リ砂糖製造ニ對シテハ乙ノ稅率ニ依リ其ノ他ノ製造ニ對シテハ丙ノ稅率ニ依リ賦課ス

第七條　左ノ營業ハ物品販賣業ト看做ス

一　一定ノ製造場ヲ設ケス原料ヲ供給シ物品ヲ製造セシメテ販賣ヲ爲スモノ

二　物品ヲ製造シテ小賣ヲ爲スモノ

三　動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セサルモノノ販賣ヲ爲スモノ

第八條　左ノ營業ハ貸付業ト看做ス

一　普通ニ物品ト稱セサルモノノ貸付ヲ爲スモノ

二　建物ノ貸付ヲ爲スモノ

第九條　左ノ營業ハ請負業ト看做ス

一　代書、洗濯、點燈又ハ埋火葬ノ取扱ヲ爲スモノ

二　他人ヨリ物品ノ供給ヲ受ケ製造、精米ノ加工ヲ爲スモノ

三　他人ヨリ物品ノ供給ヲ受ケ製造、精米其ノ他加工ヲ爲シ專ラ賃錢ヲ得ルヲ目的トスルモノ

第十條　請負ニ依リテ爲ス營業カ他ノ種類ノ業態ニ屬スルトキハ其ノ種類ノ營業ト看做ス

第十一條　左ノ營業ハ製造業ト看做ス

一　瓦斯、電氣ノ供給ヲ爲スモノ

二　物品製造ノ一部ノ助成ヲ爲スモノ

三　器具器械ノ修理ヲ爲スモノ

四　精米、染物、裁縫、鍛冶等物品ノ加工ヲ爲スモノ

第十二條　第七條第二號、第九條第二號及第三號ノ製造ニ對シテハ之ヲ製造業トス

第十三條　營業稅ノ課稅標準中資本金額、保險料額、無盡掛金額、牧入金額、請負金額、報償金額以外ノモノニシテ前年中開業シタルモノ又ハ一箇月以上ニ渉リ休業シタルモノノ開業又ハ休業ノ月カ一月ニ滿タサルトキハ日割ヲ以テ其ノ月分ヲ算定シ一年ニ滿タサルトキハ月割ヲ以テ其ノ年分ヲ算定ス

前年中資本金額、保險料額、無盡掛金額、牧入金額、請負金額又ハ報償金額ナキトキハ其ノ會計年度內ノ見積金額ニ依ル前年中ノ營業期間短キモノ又ハ季節營業ニシテ前項ノ規定ニ依リ算定シタル課稅標準カ著シク不適當ナリト認ムルトキ亦同シ

其ノ年開業シタルモノハ其ノ會計年度內ノ見積金額ニ依ル

月稅ニ屬スルモノハ前各項ノ規定ニ依リ計算シタル金額ノ月割平均ニ依ル

代償トシテ得タル物品又ハ行爲ハ相當價格ヲ見積リ前各項ノ場合ニ於ケル課稅標準トシテ計算ス

第十四條　營業稅ノ課稅標準中資本金額ハ會社ニ在リテハ前年中各月末ニ於ケル拂込株式金額、積立金金額、出資金額竝資本ノ用ニ供スル借入金額、積立金ノ性質ヲ有スル他名義ノ何タルヲ問ハス積立金ノ性質ヲ有スル資產金額ノ月割平均ニ依ル但シ保險會社ニ於ケル保險責任準備金、保險約款上疑定セル義務ニ基キ積立テタル配當準備金及保險支拂備金ハ之ヲ除算ス

二箇所以上ノ營業場ヲ有スルモノハ資本金額ヲ各營業場ニ見積リ分別シタル額ニ依ル

前項ノ營業場ニ以上ノ州、廳ニ涉ル場合ハ關係アル州知事又ハ廳長協議ノ上其ノ資本金額ヲ定ムル協議調ハサルトキハ臺灣總督之ヲ定ム

本島外ニ本店ヲ有スル會社ニシテ廳管內ニ營業場アルモノハ借入ニ係ルト否トヲ問ハス直接其ノ營業ノ用ニ供スル固定資本及運轉資本ノ見積額ニ依ル

其ノ年開業ニ係ルモノハ見積資本金額ニ依ル

會社資本金額ヲ課稅標準ト爲ササル營業ヲ營ミ營業スルトキハ前各項ノ規定ニ依リ計算シタル見積資本金額ヨリ其ノ營ミ營業スル營業ニ對スル見積資本金額ヲ控除シタル金額ノ二箇人ニ在リテハ借入ニ係ルト否トヲ問ハス直接其ノ營業ノ用ニ供スル固定資本及運轉資本ノ見積額ニ依ル

本條ノ固定資本ハ土地、建物、建物附屬物及器具等ノ價格ヲ計算ス

第十五條　營業稅ノ課稅標準中預金額ハ前年中各月末ノ月割平均ニ依ル

前年中預金額ナキモノ及其ノ年開業シタルモノハ見積額ニ依ル

第十六條　營業稅ノ課稅標準中建物貸貸價格ハ前年中ノ平均一月分ノ貸貸時價ニ依ル

其ノ年開業シタルモノハ見積時價ニ依ル

建物貸貸價格ハ店舖其ノ他營業ノ用ニ供スル土地、建物及建物附屬物ニ付之ヲ算定ス

同一區域內ニ在リテ自己ノ使用ニ供スルモノハ營業ノ用ニ供スルモノト看做ス

第十七條　營業稅ノ課稅標準中從業者、娼妓ハ每月一日ノ現在數ニ依ル但シ第四十八條第二項ノ場合ニ該當スルモノハ翌月以後ノ從業者ハ營業者ノ家族タルト否トヲ問ハス仲居、酌婦、妓夫、客引其ノ他客席ニ侍シ又ハ給仕等ヲ爲スモノヲ云フ

第十八條　法人ニ對スル營業稅年稅ノ課稅標準ノ計算ハ前年十二月迄ニ終了スヘキ事業年度ノ最近一箇年ノ金額ニ依ルコトヲ得個人ノ砂糖製造業ニ付テモ亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ第十三條乃至第十五條ノ規定ヲ準用ス

第十八條ノ二　貯蓄銀行法第七條又ハ第二十八條ノ規定ニ依リ繼續スル業務ハ之ヲ貯蓄銀行ノ營業トシテ課稅標準ヲ算定ス

第十九條　保險業ノ課稅標準タル保險料額ハ保險業者ノ收入シタル額ニ依リ之ヲ算定ス

第二十條　無盡業者ノ課稅標準タル無盡掛金額ハ無盡業者ノ收入シタル無盡掛金額ヨリ解約ニ依ル返戻額ヲ控除シタル額ニ依リ之ヲ算定ス

第二十一條　製造業中砂糖及酒精製造ノ課稅標準ノ砂糖消費稅及酒精稅ヲ控除シタル收入金額ニ依リ之ヲ算定ス

第二十二條　請負業、鑛業及製造業ノ課稅標準ニ付テハ第十四條第二項乃至第四項ノ規定ヲ準用ス

第二十三條　雜種稅ハ左ノ種類、課稅標準及稅率ニ依リ賦課ス

種類	課稅標準及稅率	
湯屋	年稅	（湯槽每一坪五圓五十錢、一坪未滿ノ端數ハ一坪ニ計算ス
理髮	年稅	（店營業者 四圓五十錢、使用人一人ヲ增ス每ニ一圓八十錢ヲ加フ、行營業者 一圓八十錢、使用人一人ヲ增ス每ニ九十錢ヲ加フ
一等	（牧入金額 千圓以上二千圓未滿九十圓以上千圓迄ヲ增ス每ニ九十圓ヲ加フ	

市場	年稅	一等	敷入金額五百圓以上千圓未滿
		二等	敷入金額二百圓以上五百圓未滿
		三等	敷入金額百圓以上二百圓未滿
		四等	敷入金額百圓未滿
私法人建物	年稅	五等	敷入金額百圓未滿
船筏	年稅	建物貸貨價格千分ノ二十	
		蒸汽船、機械船每一噸六十錢	
		西洋形船（蒸汽船、機械船ヲ除ク）每一噸四十五錢	
		一噸未滿ノ端數ハ一噸ニ計算ス	
		長三間以上日本形、支那形船每一石七錢	
		一石未滿ノ端數ハ一石ニ計算ス	
		十石未滿ノモノハ七十錢	
		長三間未滿日本形、支那形船七十錢	
筏		一長三間迄七十錢	
		以上一間迄ヲ增ス毎ニ十五錢ヲ加フ	
自用馬車		一頭立	一頭ヲ增ス毎ニ七圓ヲ加フ
營業馬車		一頭立	一頭ヲ增ス毎ニ四圓ヲ加フ
自用人力車		四圓五十錢	
營業人力車		二圓七十錢	
自轉車		二圓七十錢	
自動自轉車		四圓五十錢	
車	年稅	貨車	四圓五十錢
		客車 七圓	有蓋車 四圓五十錢
			無蓋車 二圓七十錢
軌道蓋車		一圓四十錢	
藉車		一等	四輪及三輪牛馬車 五圓五十錢
		二等	二輪牛馬車 二圓七十錢
		三等	其ノ他 一圓四十錢
輔	年稅	二圓七十錢	
遊藝師匠	年稅	五圓五十錢	
遊藝稼人	年稅	四圓五十錢	
俳優	年稅	九圓	十三年未滿ノ者及本島人ハ二圓三十錢
藝妓	月稅	五圓五十錢	
		十三年未滿ノ者ハ二圓八十錢	
幇間	月稅	九十錢	
遊技場	月稅	突臺一臺ニ付二圓	
		其ノ他遊技一種類毎ニ五十錢	
自動車	年稅	自用自動車	五馬力以上 二十七圓
			五馬力未滿十四圓
營業自動車		五馬力以上	十八圓
		五馬力未滿	九圓
貨物自動車		一噸積以下	五圓五十錢
		一噸ヲ增ス毎ニ一圓四十錢ヲ加フ	
興行	日稅	一等	敷入見込金額五十圓以上百圓未滿一圓
		二等	敷入見込金額百圓以上五百圓未滿五十錢
		三等	敷入見込金額五百圓未滿十錢

特別所得		所得稅額百分ノ十五	
遊興		消費金額百分ノ八	
屠畜		牛一頭	三圓
		馬一頭	二圓二十錢
		豚一頭	一圓八十錢
		羊一頭	六十錢

第二十四條　前條ノ課稅標準ハ左ノ區別ニ從ヒ計算ス

一　湯屋ノ湯槽坪數ハ內側ノ上部ノ面積ニ依リ但シ上リ湯槽ノ坪數ハ之ヲ算入セス

二　理髮ノ使用人ハ家族タルト否トヲ問ハス理髮ニ從事スル者ノ數ニ依ル但シ見習中ノ者ハ之ヲ算入セス

三　私法人建物ノ建物貸貸價格ハ私法人ノ直接事業ノ用ニ供スル土地、建物、建物附屬物ニ付前年中ノ平均一年分ノ貸貸時價ニ依リ新ニ使用スルモノハ見積時價ニ依ル

四　船筏中蒸汽船、機械船、西洋形船ノ噸數ハ登簿噸數ニ依ル

五　特別所得ノ所得稅額ハ法人ノ各事業年度ノ總所得金額ニ對スル區內ニ於ケル資產又ハ營業ノ見積所得金額ノ割合ヲ其ノ總所得稅額ニ乘ジタルモノニ依ル

六　遊興ノ消費金額ハ飲食、遊興及之ニ伴ヒ消費シタル金額ニ依ル但シ旅人宿營業者ニ對スル計算ヲ以テ飲食、遊興ヲ爲シタル場合ハ宿泊料其ノ他旅客ヨリ消費シタル金額ヲ控除シタル金額ニ依ル

前項第五號ノ事業年度ハ法人カ事業年度中ニ解散若ハ合併ニ因リテ消滅シ又ハ資產若ハ營業ヲ區外ニ移轉シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始リヨリ解散、合併又ハ移轉ノ日ニ至ル迄ノ期間ヲ、資產又ハ營業ヲ區外ヨリ移轉シタル場合ニ於テハ移轉ノ翌日ヨリ其ノ事業年度ノ終迄ノ期間ヲ一事業年度ト看做ス

市場稅ノ課稅標準ニ付テハ第十三條ノ規定ヲ準用ス

第二十五條　特別ノ必要アル場合ニ於テハ第六條及第二十三條ノ稅率ノ百分ノ三十以內ニ於テ之ヲ增課スルコトヲ得

前項ニ依リ增課スル稅率ハ臺灣總督之ヲ定ム

第二十六條　營利ノ業ニ屬シ營業稅、雜種稅中ノ課稅種類ニ類似スル業盤ノモノハ區長ニ於テ適當ト認ムル種類ニ依リ賦課ス

第二十七條　營業稅、雜種稅中ノ二種以上ノ種類ヲ兼ヌル者ハ各別ニ賦課ス但シ同一營業場ニ於テ貸座敷業ト料理店業トヲ兼ヌル者ハ貸座敷業トシ遊藝師匠、遊藝稼人、俳優、幇間ヲ交互ニ兼ヌル者ハ稅率ノ重キニ依リ賦課ス

第二十八條　左ノ場合ニ於テハ其ノ一ニ賦課シ稅率ノ異ナルトキハ重キニ依リ賦課ス

一　建物、從業者ヲ二種以上ノ營業ニ共通使用スルトキ

二　理髮ノ店營業ト行營業ヲ兼ヌルトキ

三　理髮ノ使用人ヲ店營業ト行營業ニ使用スルトキ

四　事ヲ稅率ノ異ナルモノニ共通使用スルトキ

第二十九條　營業稅及特別所得稅、遊興稅以外ノ雜種稅ハ營業場ノ所在地ニ於テ賦課ス但シ營業場ヲ有セサル場合ニ於テハ其ノ住所又ハ居所、船筏ニ在リテハ其ノ在籍地、建物又ハ物件ニ在リテハ其ノ所在地ニ於テ賦課ス

第三十條　營業稅及私法人建物稅、遊興稅以外ノ雜種稅ハ各其ノ種類ノ營業若ハ稼業其ノ他ノ行爲ヲ爲ス者又ハ物件ヲ所有スル者ノ之ヲ賦課ス

第三十一條　私法人建物稅ハ建物ヲ所有スルト否トヲ問ハス之ヲ使用スル私法人ニ賦課ス

第三十二條　特別所得稅ハ所得稅法施行地、朝鮮、關東州、樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有シ區內ニ資產又ハ營業ノ所在地ニ於テ賦課ス

第三十三條　遊興稅ハ席貸、貸座敷、旅人宿、料理店、飮食店ノ營業者又ハ藝妓、娼妓、酌

婦ノ稼業者ニ對スル計算ヲ以テ是等稼業者又ハ遊藝稼人若ハ之ニ類スル者ヲ招キ飮食、遊興ヲ爲シ一回ノ金額五圓以上ノ消費ヲ爲シタル者ニ之ヲ賦課ス

第三十四條　前條ノ場合ニ於テ一人又ハ二人以上共同ノ者カ連續シテ飮食、遊興ヲ爲シタルトキハ一回ト看做ス二人以上共同ノ者ト其ノ中ノ一人又ハ二人以上共同ノ者ト連續シテ飮食、遊興ヲ爲シタル場合ニ於テ一計算トシタルトキ亦同シ

第三十五條　二人以上共同シテ飮食、遊興ヲ爲シタルトキハ第三十三條ノ金額ハ其ノ總額ニ付之ヲ定ム

第三十六條　年稅ニ屬スル營業稅、雜種稅ハ每會計年度九月三十日以前ヲ前期トシテ十月一日以後ヲ後期トシ每期ニ其ノ半額ヲ賦課ス

左ノ場合ニ於テハ一時ニ全額ヲ賦課ス

一　時日ヲ限リ短期間ノ營業ヲ爲ストキ

二　後期中納稅義務ノ發生シタルトキ但シ營業稅及雜種稅中ノ市場稅ニ限ル

第三十七條　月稅ニ屬スル營業稅及雜種稅ハ每月之ヲ賦課ス但シ稅額五十錢未滿ノ營業稅ハ納稅義務者ニ於テ其ノ會計年度內ヲ限リ二箇月分以上前納スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ納稅義務ノ消滅ニ因リ過納ヲ生スルモ之ヲ還付セス

第三十八條　興行稅ハ每日之ヲ賦課ス但シ納稅義務者ニ於テ二日分以上前納スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ納稅義務ノ消滅ニ因リ過納ヲ生スルモ之ヲ還付セス

十日以上ニ渉リ興行ヲ爲ス者ニシテ廳長ニ於テ確實ト認ムル保證人ヲ立ツルトキハ十日以內ニ限リ其ノ期間ノ終日ニ於テ一時ニ賦課スルコトヲ得

第三十九條　特別所得稅ハ法人ノ事業年度每ノ之ヲ賦課ス

第三十九條ノ二　屠畜稅ハ屠殺ノ都度之ヲ賦課ス但シ廳長ニ於テ確實ト認ムル保證人ヲ立ツルトキハ支廳所在地ノ屠畜場ニ於テ屠殺スルモノニ對シテハ每月十日、二十日、末日迄ノ分ヲ、其ノ他ノ屠畜場ニ於テ屠殺スルモノニ對シテハ每月分ヲ各其ノ期限後三日以內ニ一時ニ之ヲ賦課スルコトヲ得

第四十條　納稅義務者ノ戶主又ハ家族ニ非サル者其ノ營業ヲ繼承シタルトキハ納稅義務ヲ發生シタルモノト看做ス

第四十一條　時日ヲ限リ短期間ノ營業ヲ爲ス場合ニ於テハ一時ニ全額ヲ賦課ス

左ノ場合ニ於テハ一時ニ全額ヲ賦課ス

一　時日ヲ限リ短期間ノ營業ヲ爲ストキ但シ營業稅及雜種稅中ノ市場稅ニ限ル

二　後期中納稅義務ノ發生シタルトキ但シ營業稅及雜種稅中ノ市場稅ニ限ル

第三十七條　月稅ニ屬スル營業稅及雜種稅ハ每月之ヲ賦課ス但シ稅額五十錢未滿ノ營業稅ハ納稅義務者ニ於テ其ノ會計年度內ヲ限リ二箇月分以上前納スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ納稅義務ノ消滅ニ因リ過納ヲ生スルモ之ヲ還付セス

第三十八條　興行稅ハ每日之ヲ賦課ス但シ納稅義務者ニ於テ二日分以上前納スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ納稅義務ノ消滅ニ因リ過納ヲ生スルモ之ヲ還付セス

十日以上ニ渉リ興行ヲ爲ス者ニシテ廳長ニ於テ確實ト認ムル保證人ヲ立ツルトキハ十日以內ニ限リ其ノ期間ノ終日ニ於テ一時ニ賦課スルコトヲ得

第三十九條　特別所得稅ハ法人ノ事業年度每ノ之ヲ賦課ス

第三十九條ノ二　屠畜稅ハ屠殺ノ都度之ヲ賦課ス但シ廳長ニ於テ確實ト認ムル保證人ヲ立ツルトキハ支廳所在地ノ屠畜場ニ於テ屠殺スルモノニ對シテハ每月十日、二十日、末日迄ノ分ヲ、其ノ他ノ屠畜場ニ於テ屠殺スルモノニ對シテハ每月分ヲ各其ノ期限後三日以內ニ一時ニ之ヲ賦課スルコトヲ得

第四十條　納稅義務者ノ戶主又ハ家族ニ非サル者其ノ營業ヲ繼承シタルトキハ納稅義務ヲ發生シタルモノト看做ス

第四十一條　時日ヲ限リ短期間ノ營業ヲ爲ス場合ニ於テハ一時ニ全額ヲ賦課ス

左ノ場合ニ於テハ一時ニ全額ヲ賦課ス

一　時日ヲ限リ短期間ノ營業ヲ爲ストキ但シ營業稅及雜種稅中ノ市場稅ニ限ル

二　後期中納稅義務ノ發生シタルトキ但シ營業稅及雜種稅中ノ市場稅ニ限ル

第四十二條　營業稅中各種類ノ業目ノ增減變更ニ因リ課稅標準ニ著シキ增減アルトキハ其ノ增減ノ部分ニ對シテハ納稅義務ヲ發生シ又ハ消滅シタルモノト看做スコトヲ得

第四十三條　營業稅課稅標準中從業者又ハ雇入者ノ增減ニ因リ稅率ニ增減アルトキハ其ノ增加ニ對シテハ納稅義務ヲ發生シタルモノト看做ス

第四十四條　雜種稅中ノ課稅標準ニ增減アルトキハ其ノ增減ノ部分ニ對シテハ納稅義務ヲ發生シ又ハ消滅シタルモノト看做ス其ノ變更ニ因リ稅率ニ增減アルトキ亦同シ

第四十五條　資本金額、預金額ヲ課稅標準トスル營業又ハ私法人建物ニシテ五月以後納稅義務ノ發生ニ係ルモノハ其ノ會計年度末迄ノ月數ニ應シ稅額ヲ算定シテ之ヲ賦課ス

第四十六條　營業稅及雜種稅ニシテ第四十九條第一號乃至第三號ニ該當セサルモノハ所有者ノ變更シタルトキハ其ノ稅金ハ納期終日ニ於ケル所有者ニ賦課ス但シ前所有者ニ於テ稅金ヲ納付シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十七條　營業稅及雜種稅ニ屬スル營業又ハ稼業者カ營業又ハ稼業ヲ全月ニ渉リ停止シタルトキハ其ノ月分ノ稅金ハ之ヲ減免ス

第四十八條　月稅ニ屬スル營業稅及雜種稅ニ屬スル營業者又ハ稼業者カ營業又ハ稼業ヲ全月ニ渉リ停止シ又ハ廢業シタルトキハ其ノ月分ノ稅金ハ之ヲ減免ス

第四十九條　左ニ揭クルモノニハ廳地方費稅ヲ賦課セス

一　國ノ事業及國有ノ家屋、物件

二　國、廳地方費、街庄其ノ他公共團體ニ於テ公用ニ供スル土地、家屋、物件及營造物但シ有料ニテ使用セシムル者及使用者カ營利ノ目的ヲ以テ使用スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

三　納稅義務發生年月日又ハ其ノ期間

四　本籍及住所氏名

第五十條　營業稅及年稅又ハ月稅ニ屬スル雜種稅ノ納稅義務者他ノ廳管內ヨリ課稅地ヲ移轉シ又ハ課稅物件ヲ取得シタルトキハ十日以內ニ左ノ事項ヲ所轄廳ニ申告スヘシ

一　課稅地

二　他ノ州ヨリ廳管內ヨリ課稅地ヲ移轉シタル場合ニ於テハ其ノ移轉又ハ取得前ノ課稅標準及課稅地

三　新聞紙ノ發行及販賣

四　營利ヲ目的トセサル興行

五　住家、倉庫、營業場等一區域內ニ限リ使用スル軌道臺車、建設及架線專用ノ軌道臺車

六　本船ニ附屬スル短艇及小舟ノ類

第四十九條ノ二　所得稅法施行地、朝鮮、關東州又ハ樺太ノ法令ニ依リ所得稅ヲ課セラレサル法人ニ對シテハ特別所得稅ヲ賦課セス

第四十九條ノ三　相互保險會社、產業組合、產業組合聯合會及農業倉庫業者ニハ營業稅ヲ賦課セス

第四十九條ノ四　貯蓄銀行業ヲ營ム者ニハ其ノ營業稅額ノ二分ノ一ヲ免除ス

第五十條　廳長ハ特別ノ事情アル者ニ對シテ廳地方費稅ヲ減免スルコトヲ得

第五十一條　廳長ハ街庄長又ハ區長ヲシテ廳地方費稅ヲ賦課セシムルコトヲ得

第五十二條　所得稅附加稅ノ賦課ヲ受クヘキ納稅義務者ニシテ廳ノ內外ニ渉リ資產又ハ營業ヲ有スルトキハ資產又ハ營業ノ所在地每ニ本稅ノ申告ト同時ニ左ノ事項ヲ所轄廳ニ申告スヘシ

一　事業年度

二　廳ノ內外ニ於ケル資產、營業ノ所在地、名稱

三　前號ノ資產、營業ノ所得ノ種類、見積所得金額及其ノ算出ノ明細

四　納稅義務者ノ住所、名稱

第五十三條　營業稅及年稅又ハ月稅ニ屬スル雜種稅ノ納稅義務ヲ發生シタルトキハ其ノ納稅義務者ハ十日以內ニ左ノ事項ヲ所轄廳ニ申告スヘシ

一　種類、業目又ハ物件ノ名稱、箇數

二　私法人使用ノ建物ニ付テハ其ノ所在地、構造、種類、棟數、建坪數及建物敷地ノ坪數

三　課稅地

四　州管內ヨリ課稅地ヲ移轉シ又ハ課稅物件ヲ取得シタルモノニ付テハ其ノ移轉又ハ取得前ノ課稅標準及課稅地

五　納稅義務發生年月日又ハ時日ヲ限リ短期間ノ營業ノ種類

六　本籍及住所氏名

第五十四條　營業稅及年稅又ハ月稅ニ屬スル雜種稅ノ納稅義務消滅シ又ハ前條申告ノ事項ニ異動アリタルトキハ其ノ都度所轄廳ニ申告スヘシ

前項ノ場合ニ於テ納稅義務者死亡、失踪其ノ他ノ事故ニ依リ本人ヨリ申告スル能ハサルカ又ハ申告ヲ爲ササルトキハ其ノ家族又ハ管理人之ヲ申告スヘシ

第五十五條　營業稅及年稅又ハ月稅ニ屬スル雜種稅ノ納稅義務者他ノ廳管內ヨリ課稅地ヲ移轉シ又ハ課稅物件ヲ取得シタルトキハ十日以內ニ左ノ事項ヲ所轄廳ニ申告スヘシ

一　第五十三條第一項第一號乃至第七號ノ事項

二　當期分又ハ當月分迄ノ納稅ノ濟否

第五十六條　興行稅、屠畜稅ノ納稅義務者ハ第三十九條ノ二但書ノ場合ニ在リテハ賦課期間內ニ其ノ他ノ者ニ在リテハ納稅義務發生ノ時左ノ事項ヲ所轄廳ニ申告スヘシ

一　興行場又ハ屠畜場ノ所在地、名稱

二　課稅標準額

三　納稅義務發生年月日又ハ其ノ期間

四　本籍及住所氏名

第五十六條ノ二　特別所得稅ノ納稅義務者ハ每事業年度終了ノ日ヨリ三十日以內ニ左ノ事項ヲ所轄廳ニ申告スヘシ

ル場合ハ其ノ移轉前ノ課稅地

三　事業年度

四　廳內ニ於ケル資產、營業ノ所在地、名稱

五　前號ノ資產、營業ノ所得ノ種類、見積所得金額及其ノ算出ノ明細

六　總所得金額及總所得稅額又ハ見積總所得稅額

七　課稅標準額

八　新ニ納稅義務發生ノ場合ハ其ノ年月日

九　納稅義務者ノ住所、名稱

前項ノ規定ハ特別所得稅ヲ課セラルヘキ法人ニ付其ノ所得ナキ場合又ハ廳內ニ於ケル資產、營業ノ見積所得ナキ場合ニ之ヲ準用ス

第五十七條　遊興稅ノ徵收義務者ハ遊興稅取繼期限後五日以內ニ左ノ事項ヲ所轄廳ニ申告スヘシ

一　取繼期間

二　課稅標準額

三　稅額

第五十八條　第四十八條第二項ノ場合ニ於テハ貸座敷營業者ハ休業ノ翌月五日迄ニ其ノ旨所轄廳ニ申告スヘシ

第五十九條　取締規則ニ依リ廳長又ハ支廳長ニ額出若ハ屆出ツヘキ事項中第五十三條及第五十四條ノ規定ニ依リ申告ヲ爲スヘキ事項ヲ具備シタルモノハ同條ノ申告ヲ要セス

第六十條　第五十二條、第五十三條、第五十六條、第五十六條ノ二及第五十七條ノ申告ヲ爲サス又ハ申告ヲ爲スモ之ヲ不相當ト認ムルトキハ廳長ハ其ノ課稅標準額又ハ稅額ヲ査定ス

第三章　徵收

第六十一條　地租附加稅ハ地租ノ納期ニ依リ徵收ス

所得稅附加稅、特別所得稅ハ課稅標準決定ノ都度廳長其ノ納期ヲ定メ之ヲ徵收ス

第六十二條　營業稅及特別所得稅遊興稅以外ノ雜種稅ハ左ノ期限內ニ於テ廳長納期ヲ定メテ之ヲ徵收ス

一　年稅　前期　六月一日ヨリ八月三十一日迄

後期　十一月一日ヨリ翌年一月三十一日迄

二　月稅　四月ハ其ノ月三十日其ノ他ノ月ハ二十五日迄

三　新ニ納稅義務ノ發生シタル年稅及月稅　十日以內

四　興行稅、屠畜稅　三日以內

廳長ハ地方ノ情況ニ依リ前期ノ納期ニ於テ年稅ヲ一時ニ徵收スルコトヲ得

臺灣總督必要ト認ムルトキハ年稅ノ納期ヲ延長スルコトヲ得

第一項第一號、第二號及第二項ノ規定ニ依リ一定ノ納期ヲ定メ又ハ一時ニ徵收ヲ爲ストキハ廳長之ヲ公示シ第三項ノ規定ニ依リ納期ヲ延長シタルトキハ廳長ヲシテ之ヲ公示セシム

第六十三條　遊興稅ハ席貸、貸座敷、旅人宿、料理店、飮食店ノ營業者及藝妓、娼妓、酌婦ノ稼業者之ヲ徵收スヘシ但シ稼業者ノ徵收スル場合ハ消費者カ其ノ者ニ對スル計算ヲ以テ消費シタルトキニ限ル

前項ノ遊興稅ハ第三十三條ノ消費アリタル月分ヲ取纏メ翌月二十五日迄ニ納付セシム但シ必要ト認ムル者ニ對シテハ適宜分割納付セシムルコトヲ得

前項徵收ノ費用トシテ廳地方費ハ廳ニ納入シタル稅金ノ百分ノ三ヲ其ノ徵收義務者ニ交付ス

第六十四條　特別ノ事情アル者ニ對シテハ廳長ハ延納ヲ許スコトヲ得

第六十五條　廳地方費稅ヲ徵收シ又ハ納付セシムルトキハ廳長ハ各納人ニ對シ別記樣式ノ徵收告知書ヲ發スヘシ但シ地租附加稅ハ地租ヲ金庫ニ納付セシムル場合ノ外地租ノ納稅告知書ニ附記シ別ニ徵收告知書ヲ發セス

第六十六條　街庄ハ廳長ノ指定シタル其ノ街庄內ノ廳地方費稅ヲ徵收シ納入スル義務ヲ負フ

前項徵收ノ費用トシテ廳地方費ハ廳ニ納入シタル稅金百分ノ三以內ヲ其ノ街庄ニ交付ス

第六十七條　廳長ハ區長ヲシテ稅金ノ取纏ヲ爲サシムルコトヲ得

前項取纏ノ費用トシテ廳地方費ハ廳ニ納入シタル稅金ノ百分ノ三以內ヲ其ノ區長ニ交付ス

第一項ノ規定ニ依リ稅金ノ取纏ヲ爲サシムル場合ハ廳長之ヲ公示スヘシ

第六十八條　納稅義務者納期終日以前稅金ヲ納付セスシテ他ノ廳管內ヨリ課稅地ヲ移轉シタルトキハ轉入地所轄廳ニ於テ其ノ稅金ヲ徵收ス

第六十九條　第三十八條第二項及第三十九條ノ二但書ノ規定ニ依リ保證人ヲ立テタル場合ニ於テ納稅義務者稅金ヲ納付セサルトキハ保證人ヨリ之ヲ徵收ス

前項ノ場合ニ於テ保證人稅金ヲ納付セサルトキハ納稅義務者ニ對シ滯納處分ヲ行ヒ仍不足アルトキハ保證人ニ對シ滯納處分ヲ行フ

第七十條　遊興稅ノ徵收義務者第六十三條ノ規定ニ依リ徵收スヘキ遊興稅ヲ納付セサルトキハ其ノ徵收義務者ヨリ之ヲ徵收ス

第七十一條　廳地方費稅ノ徵收ニ付テハ廳地方費令及本令ニ定ムルモノノ外國稅徵收ノ例ニ依ル

第七十二條　廳地方費稅ハ郵便爲替又ハ臺灣總督ニ於テ確實ト認ムル銀行ノ支拂保證アル小切手ヲ以テ納付スルコトヲ得

第四章　雜則

第七十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル納稅義務者又ハ遊興稅ノ徵收義務者ハ廳地方費稅ノ申告、納稅及之ニ關スル一切ノ事項ヲ處理セシムル爲代理人ヲ定メ連署ヲ以テ所轄廳ニ申告スヘシ其ノ代理人ヲ變更シタルトキ亦同シ

一　營業場、建物若ハ物件ノ所在地又ハ在籍地ノ街庄又ハ區外ニ居住スル者

二　所得稅附加稅ノ課稅地外ニ居住スル者

三　特別所得稅ノ納稅義務ヲ有スル者

四　滿三箇月以上ニ渉ル旅行又ハ不在ノ者

五　廳長ニ於テ必要ト認ムル者

前項ノ代理人其ノ住所、氏名ヲ變更シタルトキハ其ノ旨ヲ所轄廳ニ申告スヘシ

地租附加稅ノ納稅義務者地租ニ付納稅管理人ヲ定メタルトキハ其ノ者ヲ以テ代理人ト看做ス

第七十四條　第六條ノ營業者、市場稅若ハ特別所得稅ノ納稅義務者又ハ遊興稅ノ徵收義務者ハ帳簿ヲ調製シ業務ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

前項ノ帳簿ハ使用後滿三年間保存スヘシ

第七十五條　廳地方費稅ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ當該官吏ハ日出ヨリ日沒マテノ間、營業ニ關シテハ仍其ノ營業時間外ト雖モ營業所、住宅ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ檢查ヲ爲スコトヲ得

第七十六條　廳長ハ廳地方費稅調查委員ヲ置キ第六十條ノ場合ニ關スル調查ヲ爲サシムルコトヲ得

第七十七條　戶稅ノ賦課徵收ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

第七十八條　本令施行ニ關シ必要ナル細則ハ廳長之ヲ定ム

第五章　罰則

第七十九條　廳地方費稅ヲ逋脫シタル者ハ脫稅高五倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス其ノ金額二百圓ヲ超ユルトキハ二百圓トス

第八十條　第七十五條ノ規定ニ依ル臨檢又ハ檢查ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シタルモノハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第八十一條　第五十二條乃至第五十八條、第七十三條及第七十四條ノ規定ニ背キ若ハ其ノ事實ヲ詐リタル者ハ科料ニ處ス

第八十二條　廳地方費稅ノ滯納者又ハ滯納者ノ財產ヲ占有スル者其ノ財產ヲ藏匿脫漏シ又ハ虛僞ノ契約ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス差押物件ノ保管者其ノ保管ニ係ル物件ヲ藏匿毀損若ハ故意ニ毀損シタルトキ亦同シ

第八十三條　第七十九條乃至第八十條ノ犯罪ニ關スル物件ハ犯人ノ所有ト否トヲ問ハス之ヲ沒收ス

第八十四條　第七十九條乃至第八十一條ノ犯罪ニ關スル物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ犯人ヨリ追徵ス

第八十五條　第七十九條乃至第八十一條ノ犯罪ニ關スル物件ノ沒收又ハ追徵ハ犯人ノ情ヲ知ラサル第三者ノ權利ヲ害セス

第八十六條　第七十九條乃至第八十一條ノ犯罪ニ關スル物件ノ沒收又ハ追徵ハ時效ニ因リテ消滅シタル後ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得

第八十七條　第七十九條乃至第八十一條ノ犯罪ニ關スル物件ノ沒收又ハ追徵ハ公訴ノ提起アリタル後犯人ノ死亡又ハ法人ノ消滅ニ因リ公訴ヲ受ケサルニ至リタル場合ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得

第八十八條　第七十九條乃至第八十一條ノ犯罪ニ關スル物件ノ沒收又ハ追徵ハ犯人ノ相續人ニ對シテハ之ヲ爲サス

第八十九條　第七十九條乃至第八十一條ノ犯罪ニ關スル物件ノ沒收又ハ追徵ハ犯人ノ相續人ニ對シテハ之ヲ爲サス

第九十條　第七十九條乃至第八十一條ノ犯罪ニ關スル物件ノ沒收又ハ追徵ハ犯人ノ相續人ニ對シテハ之ヲ爲サス

第九十一條　第七十九條乃至第八十一條ノ犯罪ニ關スル物件ノ沒收又ハ追徵ハ犯人ノ相續人ニ對シテハ之ヲ爲サス

第九十二條　第七十九條乃至第八十一條ノ犯罪ニ關スル物件ノ沒收又ハ追徵ハ犯人ノ相續人ニ對シテハ之ヲ爲サス

第九十三條　第七十九條乃至第八十一條ノ犯罪ニ關スル物件ノ沒收又ハ追徵ハ犯人ノ相續人ニ對シテハ之ヲ爲サス

第九十四條　第七十九條乃至第八十一條ノ犯罪ニ關スル物件ノ沒收又ハ追徵ハ犯人ノ相續人ニ對シテハ之ヲ爲サス

第九十五條　第七十九條乃至第八十一條ノ犯罪ニ關スル物件ノ沒收又ハ追徵ハ犯人ノ相續人ニ對シテハ之ヲ爲サス

第九十六條　第七十九條乃至第八十一條ノ犯罪ニ關スル物件ノ沒收又ハ追徵ハ犯人ノ相續人ニ對シテハ之ヲ爲サス

第九十七條　第七十九條乃至第八十一條ノ犯罪ニ關スル物件ノ沒收又ハ追徵ハ犯人ノ相續人ニ對シテハ之ヲ爲サス

第九十八條　第七十九條乃至第八十一條ノ犯罪ニ關スル物件ノ沒收又ハ追徵ハ犯人ノ相續人ニ對シテハ之ヲ爲サス

第九十九條　第七十九條乃至第八十一條ノ犯罪ニ關スル物件ノ沒收又ハ追徵ハ犯人ノ相續人ニ對シテハ之ヲ爲サス

第百條　第七十九條乃至第八十一條ノ犯罪ニ關スル物件ノ沒收又ハ追徵ハ犯人ノ相續人ニ對シテハ之ヲ爲サス

保ル物件ヲ藏匿毀棄消若ハ故意ニ毀損シタルトキ亦同シ

第八十三條　第七十九條乃至第八十一條ノ場合ニ於テハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條、第六十六條ノ例ヲ用ヰス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ雜種稅中私法人建物稅ニ關スル規定ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣地方稅規則廢止前ノ事實ニ對スル地方稅ノ賦課徵收及廢止前既ニ賦課シタル地方稅ノ徵收ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

地方稅ニ關スル從前ノ規定ニ依リ其ノ廢止前既ニ賦課シタル事實ニ對シテハ本令ニ依リ廳地方費稅ヲ課セス

附　則（昭和二年臺灣總督府令第一八號）

本令ハ昭和二年度分ヨリ之ヲ適用ス

雜種稅中特別所得稅ニ關スル規定ハ昭和二年四月一日以後ニ於テ終了スル法人ノ事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

大正十五年府令第五十三號ハ昭和元年度分限リ之ヲ廢止ス

（別記）

樣式

第　號　何年度　廳地方費稅　納人住所　氏名

廳地方費稅　（項）（目）　（何期分）（何月分）　（何月何日ヨリ何月何日迄）　何日分）

徵收告知書交付後紛失等ノ事故ニ依リ再發スル場合ハ總テ前發行ノ儘ヲ記載シ餘白ニ再發ノ押印ヲ爲サヘシ

二　現金受領者ハ徵收告知書及領收證ニ認印ヲ押捺スヘシ

徵收

第　號　何年度　廳地方費稅　納人住所　氏名

廳地方費稅　（項）（目）　（何期分）（何月分）　（何月何日ヨリ何月何日迄）　何日分）

一金

領收

一金

右　年　月　日限リ何何ニ納付スヘシ

年　月　日

官職　氏名　官印

知書

●臺灣廳地方費戶稅規則

大正九年十二月九日　臺總督府令第百七十七號　改正　大正一〇年第五八號、第一一六號、一二年第四八號

臺灣廳地方費戶稅規則左ノ通相定ム

臺灣廳地方費戶稅規則

第一條　戶稅ハ同居者タルト寄寓者タルトヲ問ハス廳管內ニ住所ヲ有シ又ハ三箇月以上滯在シ獨立ノ生計ヲ營ム者ニ賦課シ其ノ三箇月以上滯在スル者ハ滯在ノ初ニ溯リ賦課ス

第二條　戶稅ハ每年四月一日ノ現在ニ依リ賦課ス

四月二日以後納稅義務ヲ發生シタルトキハ隨時之ヲ賦課ス

第三條　各廳管內ニ於ケル每會計年度ノ戶稅負擔額ハ臺灣總督之ヲ定ム

第四條　四月一日現在ニ依リ賦課スル戶稅ニ付テハ廳長ハ各街庄區ニ配賦シ街庄長又ハ區長ヲシテ之ヲ賦課セシム

隨時ノ賦課ニ係ルモノハ廳長之ヲ賦課ス

第五條　戶稅總額ハ豫算ノ屆スル年度ノ前年四月一日現在ニ於ケル戶稅納稅義務者ノ數及其ノ納稅義務者ニ對シ賦課標準ヲ爲シタル總生產額ヲ標準トシテ各街庄區ニ配賦ス但シ戶稅納稅義務者ノ數ヲ標準トスル配賦額ハ戶稅總額ノ十分ノ三ヲ超ユルコトヲ得ス

特別ノ事情アル場合ニ於テハ廳長ハ臺灣總督ノ許可ヲ得テ前項標準ニ斟酌ヲ加ヘ又ハ別ニ標準ヲ設クルコトヲ得

第六條　各街庄區ニ於テ賦課スヘキ戶稅ハ納稅義務者ノ其ノ會計年度內ノ見積生產額ヲ標準トシテ賦課ス但シ山林ノ伐採又ハ立竹木ノ譲渡ノ生產額ハ伐採又ハ讓渡ノ翌年度ノ賦課標準ニ計算ス

特別ノ事情アル場合ニ於テハ前項標準額ノ十分ノ二以內ニ於テ斟酌ヲ加フルコトヲ得

第七條　特別ノ事情アル場合ニ於テハ廳長ハ街庄長又ハ區長ヲシテ前條ノ規定ニ依ラス別ニ標準ヲ設ケ賦課セシムルコトヲ得

第八條　隨時ノ賦課ニ係ル戶稅ハ納稅義務發生後其ノ會計年度內ノ見積生產額ヲ標準トシ各街庄區ニ於テ定メタル賦課率ニ依リ賦課ス但シ九月三十日以前ニ州管內ヨリ移轉シタル者ニ對シテハ十月一日以後ノ見積生產額ヲ標準トシテ賦課ス

前項ノ課稅標準ニ付テハ第六條第二項ノ規定ヲ準用ス

第九條　戶稅賦課ノ標準トスヘキ生產額ハ總生產額ヨリ生產ヲ得ルニ直接必要ナル經費ヲ控除シタルモノトス但シ左ニ揭クルモノハ收入金額ヲ以テ生產額トス

一　俸給、給料、年金、恩給、退隱料、賞與及此等ノ性質ヲ有スル給與

二　營業ニ非サル貸金ノ利子

三　公債、社債及預金ノ利子

四　法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配

第十條　納稅義務者ト生計ヲ共ニスル同居者ノ生產額ハ其ノ納稅義務者ノ生產額ニ合算ス但シ其ノ納稅義務者ヨリ受クル生產額ハ

此限ニ在ラス

第十一條　生産額中俸給、給料、年金、恩給、退隱料、賞與及此等ノ性質ヲ有スル給與ニ付テハ其ノ十分ノ四ヲ控除シタルモノヲ以テ賦課標準トス

第十一條ノ二　第六條ノ規定ニ依リ調査シタル見積生産額二千圓以下ナル場合又ハ第八條ノ規定ニ依リ調査シタル見積生産額ノ換算年額二千圓以下ナル場合ニ於テ納稅義務者及之ト生計ヲ共ニスル同居者中其ノ年四月一日現在ニ於テ年齡十四歳未滿若ハ六十歳以上ノ者又ハ不具癈疾者アルトキハ納稅義務者ノ申請ニ依リ一人毎ニ八十圓以内ノ金額ヲ其ノ生産額ヨリ控除シ但シ第八條ノ規定ニ依リ賦課スルモノノ控除額ハ月割ヲ以テ計算ス

前項ノ不具癈疾者トハ心神喪失ノ常況ニ在ル者、聾者、唖者、盲者其ノ他重大ナル傷痍ヲ受ケ又ハ不治ノ疾患ニ罹リ常ニ介護ヲ要スルモノヲ謂フ

第十二條　左ニ掲クルモノハ戶稅賦課ノ標準タル生産額ニ算入セス

一　軍人從軍中ノ俸給及手當

二　扶助料、傷痍疾病者ノ恩給及退隱料

三　旅費、學資金、宿舍料、法定扶養料及救助金

四　營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ生産

五　日本ノ國籍ヲ有セサル者ノ外國ニ於ケル資産、營業又ハ職業ヨリ生スル生産

六　乘馬ヲ有スル義務アル軍人力政府ヨリ受ケル馬糧聚斎料及馬匹保續料

第十三條　戶稅ヲ賦課スル廳以外ノ地ニ於ケル生産額ハ納稅義務者ノ住所地廳ニ合算ス

同一人ニ對シ州又ハ他ノ廳ニ於テ戶稅ヲ賦課スルトキハ其ノ廳ニ於ケル生産額ヲ以テ其ノ者ノ生産額トス但シ生産額ニシテ分別シ難キトキハ之ヲ平分ス

廳管內ノ數街庄區內ニ於テ戶稅ヲ賦課スルトキハ其ノ生産額ノ分別方法ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス

前三項ニ規定スル生産額計算ニ付廳管內關係街庄區異議アル場合ニ於テハ廳長之ヲ定メ關係街庄長ノ意見ヲ聽キ之ヲ公示シ別記樣式ノ縱覽傳令書ニ依リ縱覽ヲ爲スヘシ

第十八條　廳長ハ廳地方費稅調查委員ヲシテ戶稅ノ賦課額ヲ調查セシムルコトヲ得

第十九條　戶稅ノ賦課縱覽ニ關シテハ本令ニ定ムルモノノ外臺灣總地方費稅規則第二條、第三十六條、第三十四條、第六十三條ノ二、第六十四條乃至第六十八條、第七十一條乃至第七十三條、第七十五條、第七十八條乃至第八十三條ヲ準用ス

第十六條　市街庄稅ヲ滯納シタル者ハ脫稅高五倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス其ノ金額二百圓ヲ超ユルトキハ二百圓トス

第十七條　市街庄稅ノ滯納者又ハ滯納者ノ財產ヲ占有スル者其ノ財產ヲ藏匿脫漏シ又ハ虛僞ノ契約ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス差押物件ノ保管者其ノ保管ニ依ル物件ヲ破壞、脫漏、費消若ハ故意ニ毀損シタルトキ亦同シ

第十八條　第十一條第一項ノ規定ニ依リ申告ヲ爲サス若ハ其ノ事實ヲ詐リタル者ハ科料ニ處ス

第十九條　第十六條、第十八條ノ場合ニ於テハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條、第六十六條ノ例ヲ用ヰス

第二十條　本令施行ニ關シ必要ナル細則ハ州知事又ハ廳長ノ認可ヲ受ケ市尹又ハ街庄長之ヲ定ム

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ興行稅、遊興稅及屠畜稅ニ對スル雜種稅割ハ大正九年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

營業稅割及雜種稅割中年稅ニ屬スルモノハ大正十年三月三十一日迄之ヲ賦課セス

●州、廳地方費、市、街庄及學租財團所屬財產ニ對スル納稅方

大正二年八月十日臺灣總督府令第七十九號
改正　大正九年第一五四號

州、廳地方費、市、街庄及學租財團所屬財產ニ對スル納稅ニ付テハ當分ノ內納稅管理人ヲ設置セス

●樺太ニ於ケル租稅ニ關スル法

メ關係州知事又ハ廳長異議アル場合ニ於テハ臺灣總督之ヲ定ム

第十四條　貸間ニシテ戶稅ノ負擔ニ堪ヘスト認ムル者ニ對シテハ街庄區ニ於テ賦課スヘキモノニ在リテハ街庄長又ハ區長ハ廳長ノ認可ヲ受ケ其ノ他ハ廳長ニ於テ賦課セサルコトヲ得

前項ニ依リ街庄區ニ於テ賦課セサル者ハ戶稅ノ配賦額ハ之ヲ減少セス

第十四條ノ二　納稅義務者ト生計ヲ共ニスル同居者九月三十日以前ニ別居シタルトキハ納稅義務者ニ對スル後期分ノ戶稅ハ其ノ別居者ノ生産額ニ相當スル後期分ノ稅額ヲ減額賦課ス

納稅義務者又ハ之ト生計ヲ共ニスル同居者九月三十日以前ニ他ノ納稅義務者ト同居シ生計ヲ共ニシタルトキハ他ノ納稅義務者ニ對スル後期分ノ戶稅ハ其ノ同居者ノ生産額ニ相當スル後期分ノ稅額ヲ合算賦課ス

第十五條　九月三十日以前ニ納稅義務ノ消滅シタルトキハ後期分ノ戶稅ハ之ヲ賦課セス

第十六條　戶稅ノ納稅義務者州管內ヨリ移轉シタルトキハ其ノ期分ノ戶稅ハ之ヲ賦課セス

第十七條　廳長ニ於テ第四條第一項ニ依リ戶稅ノ配賦ヲ爲ス場合ニ於テハ街庄長又ハ區長ニ對シ徵收告知書ヲ發スヘシ

街庄長又ハ區長前項ノ徵收告知書ヲ受ケタルトキハ人別賦課額ヲ定メ之ヲ公示シ別記樣式ノ縱覽傳令書ニ依リ縱覽ヲ爲スヘシ

第十八條　廳長ハ廳地方費稅調查委員ヲシテ戶稅ノ賦課額ヲ調查セシムルコトヲ得

第十九條　戶稅ノ賦課徵收ニ關シテハ本令ニ定ムルモノノ外臺灣總地方費稅規則第二條、第三十六條、第三十四條、第六十三條ノ二、第六十四條乃至第六十八條、第七十一條乃至第七十三條、第七十五條、第七十八條乃至第八十三條ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十年度ニ於ケル第五條ノ配賦標準ハ廳長ノ定ムル所ニ依ル

廳長ハ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ當分ノ內特別ノ事情アル場合ニ限リ第六條ノ見積生產額中資產ヨリ生スル生產額ニ斟酌ヲ加ヘシムルコトヲ得

樣式

第　號　何年度　廳地方費稅　戶稅　納人住所氏名

廳地方費稅　戶稅　（何期分）

徵收傳令書

一金

右年月日限リ當役場ニ納付スヘシ

年月日

（何區長氏名）　職印

領收證

第　號　何年度　廳地方費稅　戶稅　納人住所氏名

廳地方費稅　戶稅　（何期分）

一金

備考

現金受領者ハ徵收傳令書及領收證ニ認印ヲ押捺スヘシ

●臺灣廳地方費夫役現品規則

大正九年十月一日　臺灣總督府令第百四十九號

臺灣廳地方費夫役現品規則左ノ通相定ム

臺灣廳地方費夫役現品規則

第一條　夫役又ハ現品ハ本令ニ依リ廳長之ヲ賦課徵收ス

第二條　夫役又ハ現品ハ廳管內一部ノ街庄若ハ一部ノ納稅義務者ニ賦課スルコトヲ得但シ學藝美術及手工ニ關スル勞役ニ付テハ夫役ヲ賦課スルコトヲ得ス

第三條　前條ノ規定ニ依リ廳長區內ノ納稅義務者ニ對シ夫役又ハ現品ヲ賦課スル場合ニ於テハ其ノ區內ノ總額ヲ定メ區長ヲシテ之ヲ賦課セシムルコトヲ得

第四條　夫役又ハ現品ハ街庄ニ在リテハ直接街庄區ニ在リテハ直接廳地方費稅ヲ準率トシ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課スヘシ但シ臺灣總督ノ認可ヲ受クルトキハ此ノ準率ニ依ラサルコトヲ得

夫役ヲ賦課セラレタル者ハ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得

夫役又ハ現品ハ金錢ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第一項及前項ノ規定ハ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役ニ付テハ之ヲ適用セス

第五條　夫役現品ノ賦課ヲ受ケタル者期限內ニ其ノ履行ヲ爲サス又ハ夫役現品ニ代フル金錢ヲ納メサルトキハ廳長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ急迫ノ場合ニ賦課シタル夫役ニ付テハ更ニ之ヲ金額ニ算出シ期限ヲ指定セスシテ其ノ納付ヲ命スヘシ

第六條　夫役現品ノ徵收ニ關シテハ本令ニ定ムルモノノ外臺灣地方費稅徵收ノ例ニ依ル但シ徵收告知書ハ特別ノ形式ニ依ルコトヲ得

第七條　本令施行ニ關シ必要ナル細則ハ廳長之ヲ定ムルコトヲ得

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣市街庄稅規則

改正　大正一〇年第二號、第七一號、一一年第九二號、一二年第四五號

臺灣市街庄稅規則左ノ通相定ム

臺灣市街庄稅規則

第一條　市街庄稅トシテ賦課シ得ル附加稅ノ稅目左ノ如シ

一　地租割

二　第一種ノ所得稅割

三　戶稅割

四　營業稅割

五　雜種稅割

第二條　附加稅ハ左ノ範圍內ニ於テ之ヲ賦課スヘシ

一　地租割　地租百分ノ二十

二　所得稅割　所得稅百分ノ二

三　營業稅割　營業稅百分ノ三十八

四　雜種稅割

特別所得稅ニ對スルモノ　百分ノ十三

其ノ他ニ對スルモノ　百分ノ三十

第三條　第一條ノ附加稅ハ均一ノ稅率ヲ以テ之ヲ徵收スヘシ但シ州知事又ハ廳長ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條　市街庄ハ地租割ヲ課スルノ外土地ニ對シ課稅スルコトヲ得ス

第五條　市街庄ハ所得稅割ヲ課スルノ外所得稅ヲ納ムル者ノ所得ニ對シ課稅スルコトヲ得ス

第六條　市街庄ハ營業稅割ヲ課スルノ外營業稅ヲ納ムル者ノ營業ニ對シ課稅スルコトヲ得ス

第七條　遊興稅ニ對スル雜種稅割ハ遊興稅ヲ徵收スル義務アル者之ヲ徵收シ所轄市街庄ニ納付スヘシ

前項ノ徵收義務者其ノ徵收スヘキ遊興稅割ヲ納付セサルトキハ該義務者ヨリ市尹又ハ街庄長之ヲ徵收ス

第八條　市街庄ハ營業稅割ヲ課スルノ外營業稅ヲ納ムル者ニ對シ營業稅百分ノ三十ヲ超エサル範圍內ニ於テ興行稅ヲ課スルコトヲ得

興行稅ニ對スル雜種稅割ヲ除クノ外本稅ノ納期ニ依ル但シ市尹又ハ街庄長ハ知事又ハ廳長ノ認可ヲ受ケ別ニ納期ヲ定メ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項以外ノ市街庄稅ノ納期ハ市尹又ハ街庄長之ヲ定ム

第九條　市街庄稅ヲ徵收セムトスルトキハ市尹又ハ街庄長ハ納稅令書ヲ發スヘシ

第十條　市街庄稅ノ徵收ニ付テハ市制第二十四條、街庄制第二十七條、市制施行令第三章、街庄制施行令第三章及本令ニ定ムルモノノ外臺灣國稅徵收ノ例ニ依ル

前項ノ徵收義務者其ノ徵收スヘキ遊興稅割ヲ納付セサルトキハ該義務者ヨリ市尹又ハ街庄長之ヲ徵收ス

第十一條　市尹又ハ街庄長ハ市街庄稅ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲納稅義務者ヲシテ其ノ納入シタル稅金ノ百分ノ三以內ヲ其ノ徵收義務者ニ交付スヘシ

第七條ノ二　遊興稅ニ對スル雜種稅割ノ徵收義務者ハ避クヘカラサル災害ニ因リ徵收ノ稅金ヲ失ヒタルトキハ其ノ稅金納入義務ノ免除ヲ市尹又ハ街庄長ニ申請スルコトヲ得

第八條　特別稅ハ特ニ必要アル場合ニ限リ別ニ稅目ヲ起シテ之ヲ賦課ス

第九條　特別ノ必要アル場合ニ於テハ臺灣總督ノ許可ヲ受ケ第二條ノ附加稅ノ制限ヲ超過シ其ノ百分ノ三十以內ニ於テ之ヲ增課スルコトヲ得

市制施行令第三十三條及街庄制施行令第三十一條ノ規定ニ依リ營造物ノ設置維持其ノ他必要アル費用竝市稅又ハ街庄稅ヲ以テ賦課スル場合ニ於テハ臺灣總督ノ許可ヲ受ケ營業稅割及雜種稅割ニ限リ前項ノ制限ヲ超過シテ增課スルコトヲ得

第十條　市尹又ハ街庄長ハ第二條、第三條、第八條及前條ノ規定ニ依リ稅率ヲ定メタルトキハ之ヲ公示スヘシ

第十一條　市尹又ハ街庄長ハ市街庄稅ニ關シ納稅義務者ヲシテ課稅標準其ノ他必要アル申告ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ申告ヲ爲サス又ハ申告ヲ爲スモ之ヲ不相當ト認ムルトキハ市尹又ハ街庄長ハ其ノ課稅標準ヲ査定ス

第十二條　附加稅ノ納期ハ所得稅割及特別所得稅ニ對スル雜種稅割ヲ除クノ外本稅ノ納期ニ依ル但シ市尹又ハ街庄長ハ知事又ハ廳長ノ認可ヲ受ケ別ニ納期ヲ定メ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項以外ノ市街庄稅ノ納期ハ市尹又ハ街庄長之ヲ定ム

第十三條　市街庄稅ヲ徵收セムトスルトキハ市尹又ハ街庄長ハ納稅令書ヲ發スヘシ

第十四條　市街庄稅ノ徵收ニ付テハ市制第二十四條、街庄制第二十七條、市制施行令第三章、街庄制施行令第三章及本令ニ定ムルモノノ外臺灣國稅徵收ノ例ニ依ル

前項ノ徵收義務者其ノ徵收スヘキ遊興稅割ヲ納付セサルトキハ該義務者ヨリ市尹又ハ街庄長之ヲ徵收ス

第十五條　市尹又ハ街庄長ハ市街庄稅ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲納稅義務者ヲシテ其ノ納入シタル稅金ノ百分ノ三以內ヲ其ノ徵收義務者ニ交付スヘシ

第七條ノ二　遊興稅ニ對スル雜種稅割ノ徵收義務者ハ避クヘカラサル災害ニ因リ徵收ノ稅金ヲ失ヒタルトキハ其ノ稅金納入義務ノ免除ヲ市尹又ハ街庄長ニ申請スルコトヲ得

第八條　特別稅ハ特ニ必要アル場合ニ限リ別ニ稅目ヲ起シテ之ヲ賦課ス

第九條　特別ノ必要アル場合ニ於テハ臺灣總督ノ許可ヲ受ケ第二條ノ附加稅ノ制限ヲ超過シ其ノ百分ノ三十以內ニ於テ之ヲ增課スルコトヲ得

市制施行令第三十三條及街庄制施行令第三十一條ノ規定ニ依リ營造物ノ設置維持其ノ他必要アル費用竝市稅又ハ街庄稅ヲ以テ賦課スル場合ニ於テハ臺灣總督ノ許可ヲ受ケ營業稅割及雜種稅割ニ限リ前項ノ制限ヲ超過シテ增課スルコトヲ得

第十條　市尹又ハ街庄長ハ第二條、第三條、第八條及前條ノ規定ニ依リ稅率ヲ定メタルトキハ之ヲ公示スヘシ

第十一條　市尹又ハ街庄長ハ市街庄稅ニ關シ納稅義務者ヲシテ課稅標準其ノ他必要アル申告ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ申告ヲ爲サス又ハ申告ヲ爲スモ之ヲ不相當ト認ムルトキハ市尹又ハ街庄長ハ其ノ課稅標準ヲ査定ス

第十二條　附加稅ノ納期ハ所得稅割及特別所得稅ニ對スル雜種稅割ヲ除クノ外本稅ノ納期ニ依ル但シ市尹又ハ街庄長ハ知事又ハ廳長ノ認可ヲ受ケ別ニ納期ヲ定メ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項以外ノ市街庄稅ノ納期ハ市尹又ハ街庄長之ヲ定ム

第十三條　市街庄稅ヲ徵收セムトスルトキハ市尹又ハ街庄長ハ納稅令書ヲ發スヘシ

第十四條　市街庄稅ノ徵收ニ付テハ市制第二十四條、街庄制第二十七條、市制施行令第三章、街庄制施行令第三章及本令ニ定ムルモノノ外臺灣國稅徵收ノ例ニ依ル

前項ノ徵收義務者其ノ徵收スヘキ遊興稅割ヲ納付セサルトキハ該義務者ヨリ市尹又ハ街庄長之ヲ徵收ス

第十五條　市尹又ハ街庄長ハ市街庄稅ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲納稅義務者ヲシテ其ノ納入シタル稅金ノ百分ノ三以內ヲ其ノ徵收義務者ニ交付スヘシ

律

（明治四十年三月二十七日法律第二十一號、改正　大正九年第一三號、一〇年第七號、一一年第二一號、一二年第二一號、昭和二年第一〇號）

於帝國議會ノ協賛ヲ經タル樺太ニ於ケル租稅ニ關スル法律ヲ裁可シ�some之ヲ公布セシム

（御璽、大臣、內務大臣副署）

第一條　樺太ニ於テハ左ニ揭ケル租稅ヲ賦課徵收ス

一　市街宅地稅
二　所得稅
三　營業收益稅
四　酒造稅
五　漁業稅

前項租稅ノ種類及課率ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條　本法ニ規定スルモノノ外租稅ノ賦課徵收其ノ他必要ナル事項ニ關スル規程ハ樺太廳長官之ヲ定ム

附　則

本法ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和二年四月一日法律第十號）

本法ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第一條第一項第三號ノ改正規定ハ昭和三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和二年分以前ノ營業稅ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

本法施行前造石數ヲ査定シタル醬油及査定スヘカリシ醬油ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

●樺太ニ於ケル租稅ノ種類及課率

（昭和二年四月十九日閣令第三號）

大正十年閣令第三號樺太ニ於ケル租稅ノ種類及課率左ノ通改正ス

第一條　營業收益稅ノ種類及課率ハ左ノ區分ニ依ル

法人　純益金額　百分ノ三・六
個人　純益金額　百分ノ二・八

第二條　市街宅地稅ノ課率ハ左ノ區分ニ依ル

一級　地價千分ノ五
二級　地價千分ノ三

第三條　酒造稅ノ種類及課率ハ左ノ區分ニ依ル

第一種　酒精分三十度以下ノ酒類一石ニ付二十二圓五十錢

第二種　酒精分三十度ヲ超ユル酒類一石ニ付酒精分一度毎ニ七十五錢

酒精分ト稱スルハ攝氏檢溫器十五度ノ時ニ於ケル原容量百分中ニ含有スル〇・七九四七ノ比重ヲ有スル酒精ノ容量トス

酒類ノ造石高ハ犯則ニ係ルモノヲ除クノ外清酒ニ在リテハ百分ノ七、味淋ニ在リテハ百分ノ二ノ淨引減量又ハ貯藏減量ヲ控除シテ計算ス

一酒造年度ノ製造高清酒百石未滿ナルトキハ百石、濁酒五十石未滿ナルトキハ五十石トシテ之ヲ計算ス但シ同一ノ製造場ニ於テ清酒及濁酒ヲ製造スル者ニハ濁酒製造ノ切上計算ニ關スル規定ヲ適用セズ

第四條　漁業稅ノ種類及課率ハ左ノ區分ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第一條ノ改正規定ハ昭和三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四條ノ改正規定ハ昭和二年分漁業稅ヨリ之ヲ適用ス

昭和二年分以前ノ營業稅ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

本令施行前造石數ヲ査定シタル醬油及査定スヘカリシ醬油ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

●樺太漁業稅規則

（昭和二年七月三日樺太廳令第二十三號）

樺太漁業稅規則左ノ通改正ス

樺太漁業稅規則

第一條　樺太ニ於ケル免許漁業ニハ本令ニ依リ漁業權益漁獲價額ニ對シ漁業稅ヲ課ス

第二條　漁業權ニ對スル漁業稅ハ其ノ年四月五日現在ノ漁業權者ニ之ヲ賦課ス

四月六日以後漁業時期終了迄ニ新ニ免許シタル漁業權ニ付テハ其ノ漁業權者ニ之ヲ賦課ス

第三條　漁獲價額ニ對スル漁業稅ハ其ノ年四月五日現在ノ漁業權者ニ之ヲ賦課ス但シ漁業組合又ハ土人ヲ漁業權者トスル定置漁業又ハ區劃漁業ニ付テハ其ノ貸借權者ニ之ヲ賦課ス

第四條　漁獲價額ハ前二年ノ平均價額ニ依ル但シ前二年間引續キ營ムタルニ非サル漁業ニ付テハ前年若ハ前々年ノ漁獲價額ニ依ル

漁業者ニ變更アリタルトキト雖一漁業權ニ依ル漁獲價額ハ通シテ之ヲ計算ス

第五條　每年ノ漁獲價額ハ一漁業權每ニ漁獲物ノ總價額ニ依ル

第六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ漁獲價額ニ對スル漁業稅ヲ減免ス

一　定置漁業又ハ區劃漁業ニシテ漁獲價額千五百圓未滿ナルトキ

二　漁業免許後其ノ年四月五日迄ニ漁業時期一年ヲ經過セサルトキ

三　樺太ニ於ケル漁業法施行規則第九條第一項第一號ニ依リ免許シタル漁業ニ在リテハ免許後其ノ年四月五日迄ニ漁業時期三年ヲ經過セサルトキ

本令ニ於テ漁業時期一年トハ各免許漁業ニ付其ノ漁業時期開始ヨリ終了迄ノ期間ヲ謂フ

第七條　專用漁業ニ在リテハ左ノ各號ノ一ニ該當スル組合員ノ漁獲價額ハ課稅ノ標準タル漁獲總價額ヨリ之ヲ控除ス

一　漁獲價額五百圓未滿ノ者

二　漁業時期一年ヲ通シテ休業スル者

三　漁業時期開始前組合ヲ脫退シタル者

四　組合ニ加入後其ノ年四月五日迄ニ漁業時期一年ヲ經過セサル者

前項第三號及第四號ノ規定ハ組合脫退後漁業時期一年ヲ經過セシテ再ヒ其ノ組合ニ加入シタル者ニハ之ヲ適用セス家督相續ニ因リ組合員ト爲リタル者亦同シ

第八條　前條第一項第二號ニ揭ケル者ノ漁獲價額ニ付控除ヲ受ケムトスルトキハ組合ハ漁業時期開始前ニ其ノ旨所轄樺太廳支廳長ニ屆出ツヘシ

第九條　專用漁業ニ在リテハ組合ハ組合員異動ノ都度十日以內ニ左ノ事項ヲ所轄樺太廳支廳長ニ屆出ツヘシ

一　住所氏名
二　異動ノ年月日
三　異動ノ原因
四　其ノ屬スル漁業權ノ免許番號

第十條　左ノ場合ニ於テハ漁業稅ヲ減免スルコトヲ得

一　漁業法第二十四條第一項又ハ第二十五條ノ規定ニ依リ漁業ノ制限、停止又ハ免許ノ取消アリタルトキ

二　漁業時期開始前漁業權ヲ拋棄シタルトキ

三　漁業時期一年ヲ通シテ休業スルトキ

前項第三號ノ場合ニ於テハ漁業時期開始前納稅義務者ヨリ之ヲ樺太廳長官ニ屆出ツルコトヲ要ス但シ休業認可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　樺太廳長官ハ每年四月三十日迄ニ前年ノ漁獲價額ヲ査定シ樺太廳支廳長ニ之ヲ通知ス

第十二條　前條ノ通知アリタルトキハ樺太廳支廳長ハ課稅ノ標準タル漁獲價額ヲ決定シ七月三十一日迄ニ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第十三條　漁業稅ハ年額ヲ二分シ左ノ二期ニ於テ之ヲ徵收ス

第一期　其ノ年九月一日ヨリ三十日限
第二期　其ノ年十一月一日ヨリ三十日限

漁業權消滅シタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス一時ニ之ヲ徵收ス第三條但書ノ場合ニ於テ其ノ貸借權消滅シタルトキ亦同シ

第十四條　左ノ場合ニ於テハ前條第一項ノ規定ニ拘ラス隨時漁業稅ヲ徵收スルコトヲ得

一　第二條第二項ニ依リ漁業稅ヲ賦課スルトキ

二　漁業時期一年ヲ過シテ休業スルノ認可ヲ受ケ又ハ其ノ屆出ヲ爲シタル者其ノ漁業時期中ニ漁業ヲ爲シタルトキ

三　第七條第二項前段ニ揭ケル者ノ漁獲價額ハ之ヲ變更セス其ノ新ニ住所ヲ有シ又ハ滯在スル町村ニ於テハ賦課ナキ部分ニノミ賦課スヘシ

第二條　樺太町村制第五十三條第二項ノ規定ニ依リ數町村ニ涉リ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲ス者ニシテ其ノ營業又ハ收入ニ對スル本稅ヲ分別シテ納メサルモノニ對シ附加稅ヲ賦課スル場合ニ於テハ町村長ハ關係町村長ト協議ノ上其ノ本稅額ノ歩合ヲ定ムヘシ

前項ノ協議調ハサルトキハ其ノ支廳管內ニ止マルモノニ在リテハ樺太廳支廳長之カ歩合ヲ定メ其ノ支廳管外ニ涉ルモノニ在リテハ樺太廳支廳長官之カ歩合ヲ定ム

第一項ノ場合ニ於テ直接ニ收入ヲ生スルコトナキ營業所アルトキハ他ノ營業所ト收入ヲ通算スルモノト認メ前二項ノ規定ニ依リ本稅額ノ歩合ヲ定ムヘシ

第三條　鑛區（砂鑛區域ヲ含ム以下之ニ倣フ）カ各町村ノ內外ニ涉ル場合ニ於テ其ノ鑛區ニ對スル國稅ノ附加稅ヲ賦課セムトスルトキハ鑛區ノ屬スル地表ノ面積ニ依リ其ノ本稅額ヲ分割シテ其ノ一部ニツキ賦課スヘシ

町村ノ內外ニ於テ鑛業ニ關スル事務所其ノ他ノ營業所ヲ設ケタル場合ニ於テ鑛產稅ノ附加稅ヲ賦課セムトスルトキハ前條ノ例ニ依ル鑛區カ營業所所在ノ町村ノ內外ニ涉ル場合亦同シ

第四條　町村ハ樺太廳長官ノ指定シタル町村稅ニ付テハ其ノ徵收ノ便宜ヲ有スル者ヲシテ之ヲ徵收セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル徵收義務者ハ徵收スヘキ町村稅ヲ町村長ノ指定シタル期日迄ニ町村ニ拂込ムヘシ

第五條　町村ハ前條ノ規定ニ依ル徵收ノ費用トシテ拂込金額ノ百分ノ四ヲ徵收義務者ニ交付スヘシ

第六條　第四條第一項ノ規定ニ依ル徵收義務者遲タヘカラサル災害ニ依リ既收ノ稅金ヲ拂込義務免除ヲ町村長ニ申請スルコトヲ得

町村長前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ町村評議會ノ諮問ヲ經テ之ヲ決定スヘシ

前項ノ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ樺太廳支廳長ニ異議ノ申立ヲ爲シ其ノ決定ニ不服アルトキハ樺太廳長官ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ決定ニ付テ町村長ヨリモ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ異議ノ申立ハ決定書ノ交付ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ起算シ十四日以內ニ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第七條　町村稅ノ徵收ニ關シテハ國稅徵收法第四條ノ一及第四條ノ三乃至第四條ノ八ノ規定並國稅徵收法施行規則第十一條ノ二ノ規定ヲ準用ス

第四條第二項ノ拂込金ニ關シテハ國稅徵收法第四條ノ一第四條ノ三及第四條ノ四規定ハ國稅徵收法施行規則第十一條ノ二ノ規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●町村特別稅ノ種類及制限ニ關スル規程

（昭和三年三月三十一日樺太廳令第八號）

町村特別稅ノ種類及制限ニ關スル規程左ノ通改正ス

町村特別稅ノ種類及制限ニ關スル規程

第一條　町村ハ左ノ特別稅ヲ賦課スルコトヲ得

一　戶別割
二　建物割
三　所得割
四　土地割
五　營業稅
六　雜種稅

第二條　戶別割ハ一戶ヲ構フル者ニ之ヲ賦課スヘシ

戶別割ハ一戶ヲ構ヘサルモ獨立ノ生計ヲ營ム者ニ之ヲ賦課スルコトヲ得

第三條　戶別割ハ納稅義務者ノ資力ヲ標準トシテ之ヲ賦課スヘシ

第四條　戶別割ノ課稅標準タル資力ハ納稅義務者ノ所得額及資產ノ狀況ニ依リ之ヲ算定スヘシ

第五條　戶別割總額中納稅義務者ノ資產ノ狀況ニ依リ資力ヲ算定シテ賦課スヘキ額ハ戶別割總額ノ十分ノ四ヲ超ユルコトヲ得ス

第六條　建物割ハ法人及其ノ町村住民ニ非スシテ其ノ町村ニ建物ヲ所有スル者ニ之ヲ賦課スヘシ但シ其ノ建物賃權ノ目的タルトキハ賃權者ニ之ヲ賦課スヘシ

第七條　建物割ハ建物ノ構造、用途及數地ノ地位ニ依リ等級ヲ設ケ坪數ヲ標準トシテ之ヲ賦課スヘシ

第八條　建物割ノ課率ハ其ノ町村內ノ賦課總坪數ニ割當テ平均一坪ニ付一年度一圓ヲ超エルコトヲ得ス但シ二階以上ノ一坪ハ五合トシテ之ヲ計算スヘシ

第九條　所得割ハ棒太ニ住所又ハ一年以上居所ヲ有セル者ニシテ棒太ニ資產又ハ營業ヲ有スル者ニ之ヲ賦課スヘシ但シ居住地ノ法令ニ依リ所得稅ヲ課セラレサル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第十條　所得割ノ課率ハ居住地ノ法令ニ依リ賦課セラレタル所得稅額中棒太ニ於ケル資產又ハ營業ヨリ生スル所得ニ對スル所得稅相當額ヲ見積リ之ヲ課稅標準トシ法人ニ在リテハ其ノ十分ノ五、其ノ他ニ在リテハ十分ノ三ヲ超エルコトヲ得ス

前項ノ課稅標準額ハ法人ニ在リテハ當該事業年度、其ノ他ニ在リテハ當該年度ノ總所得金額ニ對スル棒太ニ於ケル資產又ハ營業ヨリ生スル見積所得金額ノ割合ヲ其ノ總所得稅額ニ乘シ之ヲ算定スヘシ

第十一條　土地割ハ左ニ揭ケル課目ニ依リ土地臺帳又ハ土地貸付登記帳名ノ土地ノ所有者又ハ貸付ヲ受ケタル者若ハ國有地ヲ使用スル者ニ之ヲ賦課スヘシ其ノ課率ハ一年度各別記ノ制限ヲ超エルコトヲ得ス

一　船舶ノ所有者ニ之ヲ賦課スヘシ

第十二條　土地割ハ國ヨリ貸付（使用ヲ含ム）、讓與又ハ資拂ヲ受ケタル後五年ヲ經サル土地ニハ之ヲ賦課スルコトヲ得ス

前項ノ年限ハ貸付（使用ヲ含ム）、讓與、資拂ヲ通シテ之ヲ計算ス

第十三條　營業稅ハ棒太ニ營業場ヲ有シ左ニ揭ケル營業ヲ爲ス者ニ之ヲ賦課スヘシ但シ營業取益稅ノ賦課ヲ受ケル者ハ此ノ限ニ在ラス

一　物品販賣業（動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セサルモノノ販賣ヲ含ム）

二　無盡業

三　金錢貸付業

四　物品貸付業（動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セサルモノノ貸付ヲ含ム）

五　製造業（瓦斯電氣ノ供給、物品ノ加工修理ヲ含ム）

六　運送業（運送取扱ヲ含ム）

七　倉庫業

八　請負業

九　印刷業

十　出版業

十一　寫眞業

十二　席貸業

十三　旅人宿業（下宿ヲ含ミ木賃宿ヲ含マス）

十四　料理店業（飲食店ヲ含ム）

十五　周旋業

十六　代理業

十七　仲立業

十八　問屋業

十九　兩替業

二十　湯屋業

二十一　理髮業

二十二　寄席業（劇場ヲ含ム）

二十三　遊戲場業（弓場、玉突場、室內射的、吹矢、圍碁、將棋ノ集會場等ノ類）

二十四　藝妓置屋業（藝妓、酌婦ヲ寄寓セシメ其ノ營業ヲ爲サシムル者又ハ自家ニ居住シテ其ノ營業ヲ爲ス者）

二十五　貸座敷業

第十四條　營業稅ハ營業ノ純益ヲ標準トシテ之ヲ賦課スヘシ但シ藝妓置屋業ニ在リテハ藝妓又ハ酌婦、貸座敷業ニ在リテハ藝業者及娼妓ノ數ヲ標準トシテ之ヲ賦課スヘシ

第十五條　營業ノ純益ニ付賦課スヘキ課率ハ純益金額百分ノ二、八ヲ超ユルコトヲ得ス

第十六條　藝妓置屋業及貸座敷業ニ對シテハ左ノ課率ニ依リ之ヲ賦課スヘシ

一　藝妓置屋業　月稅

藝妓（村ニ在リテハ半額）　一人ニ付　十四歲以上二圓　十四歲未滿一圓

酌婦（村ニ在リテハ半額）　一人ニ付　一圓

二　貸座敷業者　月稅

娼妓　一人ニ付　一圓五十錢

第十七條　雜種稅ハ左ノ種類及課稅標準ニ依リ之ヲ賦課スヘシ其ノ課率ハ各別記ノ制限ヲ超エルコトヲ得ス

一船（專ラ渡船ニ使用スルモノ及漁船ヲ除ク）

日本形船　年稅　積石數五十石以下ノモノ　五圓

積石數五十石ヲ超エルモノ　一石ニ付十錢

一石未滿ノ端數ハ之ヲ一石トシテ計算スヘシ

西洋形船　年稅（蒸汽船（機械船、帆船）　一噸ニ付　七十錢

一噸未滿ノ端數ハ之ヲ一噸トシテ計算スヘシ　一噸ニ付　五十錢

二　車

乘用車　年稅　一輛ニ付　五圓

荷積車　年稅（農民ノ專ラ農耕ニ使用スルモノヲ除ク）　一輛ニ付　五圓

人力車　年稅　一輛ニ付　二圓

荷積車　年稅（農民ノ專ラ農耕ニ使用スルモノヲ除ク）　一輛ニ付　二圓

自轉車　年稅（發動機ヲ有スルモノ、三輪以上ノ車及娼妓ノ乘用ニ供スルモノヲ除ク）　一輛ニ付　七圓五十錢

三輪以上ノ車及娼妓ノ乘用ニ供スルモノ　一輛ニ付　五圓

其ノ他　一輛ニ付　二圓五十錢

三　橇

乘用馬橇　年稅　一臺ニ付　二圓

荷積馬橇（農民ノ專ラ農耕ニ使用スルモノヲ除ク）　年稅　一臺ニ付　二圓

四　電柱　金庫　年稅　一本ニ付　一圓

年稅　高サ（外法）三尺迄一箇ニ付　三圓

三尺以上五寸迄ヲ加フル毎ニ二圓ヲ增ス

五　畜犬　年稅　一頭ニ付　三圓

六　狩獵　手數料額ノ百分ノ十

七　不動產取得　不動產價格ノ千分ノ十

八　藝妓　月稅　一人ニ付十四歲以上三圓　十四歲未滿一圓

九　酌婦　月稅　一人ニ付（村ニ在リテハ半額）　一圓

五十錢

（村ニ在リテハ半額）

十一　興行　日稅　最高木戶錢、場代等ノ合計十人分

一日二回以上興行スルモノハ一回ニ付七人分

十二　遊興消費金額ノ百分ノ八

十三　流木

用材一石ニ付　三錢

薪ノ他　五錢

二等地　二十錢

三等地　十錢

十四　漁業

漁船　年稅

日本形船　滿船ノモノ　船長三間未滿　一艘ニ付　二圓

船長三間以上ノモノ　一艘ニ付　三圓

捕鯨船　一艘ニ付　百圓

西洋形船　二十噸以下ノモノ　一艘ニ付二圓

機械船　二十噸ヲ超エルモノ　一噸ニ付十錢

帆船　一噸未滿ノ端數ハ之ヲ一噸トシテ計算スヘシ

漁具　年稅

總配繩　一鉢ニ付　六錢

鰐配繩　一鉢ニ付　六錢

鰾配繩　一鉢ニ付　三錢

簀建網　一統ニ付　十圓

鰊漁業用　二十尋ニ付　二十錢

流網　其ノ他　一把ニ付　五錢

鰊漁業用　二十尋ニ付　六錢

刺網　其ノ他　一把ニ付　六錢

大謀網　一統ニ付　三十圓

揚繰網　一統ニ付　五圓

巾著網　一統ニ付　五圓

地曳網　一統ニ付　三圓

船曳網　一統ニ付　三圓

底曳網　機械船ヲ使用スルモノ　一統ニ付　五圓

其ノ他　一統ニ付　三圓

底網　一統ニ付　三圓

卷網　一統ニ付　三圓

桁網　一統ニ付　二圓

水下網　一統ニ付　一圓

數網　一統ニ付　一圓

雜網（揷網、投網ノ類ヲ除ク）　一統ニ付　一圓

昆布漁獲稅

年稅　漁獲物價格ノ千分ノ五

第十八條　船稅ハ主タル碇繫場所在ノ町村ニ於テ其ノ所有者ニ之ヲ賦課スヘシ

第十九條　車稅及繰稅ハ主タル定置場所在ノ町村ニ於テ其ノ所有者ニ之ヲ賦課スヘシ

第二十條　電柱稅及金庫稅ハ所在地町村ニ於テ其ノ所有者ニ之ヲ賦課スヘシ

第二十一條　畜犬稅ハ飼育地町村ニ於テ其ノ所有者ニ之ヲ賦課スヘシ

第二十二條　狩獵稅ハ狩獵ノ免許ヲ受ケタル者ニ對シ其ノ住所地町村ニ於テ之ヲ賦課スヘシ

第二十三條　不動產取得稅ハ不動產ヲ取得スル者ニ對シ其ノ不動產所在ノ町村ニ於テ之ヲ賦課スヘシ

第二十四條　藝妓稅及酌婦稅ハ其ノ住所地町村ニ於テ之ヲ賦課スヘシ其ノ住所地町村ニ於テ之ヲ課セサルトキハ三月以上滯在ノ町村ニ於テ之ヲ賦課スヘシ

第二十五條　興行稅ハ興行ヲ爲ス者ニ對シ其ノ行爲地町村ニ於テ之ヲ賦課スヘシ

第二十六條　遊興稅ハ料理店、飲食店、席貸及貨座敷等ノ營業者又ハ藝妓、酌婦、娼妓ノ稼業者ニ對スル計算ヲ以テ是等ノ稼業者又ハ遊藝稼人若ハ之ニ類スル者ヲ招キ飲食、歡樂ヲ爲シタル者ニ對シ其行爲地町村ニ於テ之ヲ賦課スヘシ但シ遊興者一人當一回ノ消費金額三圓ニ滿チサルモノニ之ヲ賦課スルコトヲ得ス

第二十七條　流木稅ハ河川又ハ湖沼ニ於テ流送ヲ爲ス木材ノ所有者ニ對シ其ノ行爲地町村ニ於テ之ヲ賦課スヘシ

第二十八條　漁業稅中漁船稅及漁具稅ニ在リテハ其ノ物件所在地、町村昆布漁獲割ニ在リテハ其ノ行爲地町村ニ於テ漁業ヲ爲ス者ニ對シ之ヲ賦課スヘシ

第二十九條　左ニ揭ケル場合ニ於テハ町村ハ特ニ棒太廳長官ノ認可ヲ受ケ第八條、第十條、第十一條及第十七條ニ規定スル制限ヲ超過シテ賦課スルコトヲ得

一　棒太廳長官ノ認可ヲ受ケテ爲シタル借入金ノ元利償還ノ爲費用ヲ要スルトキ

二　非常ニ災害ニ因リ復舊工事ノ爲費用ヲ要スルトキ

三　傳染病豫防ノ爲費用ヲ要スルトキ

四　永久ノ利益トナルヘキ事業ノ爲費用ヲ要スルトキ

附　則

本令ハ昭和三年度分ヨリ之ヲ適用ス

●棒太ニ於ケル租稅ノ賦課徵收ニ關スル件

大正十一年三月三十日　棒太廳令第二十三號

棒太ニ於ケル租稅ノ賦課徵收ニ關スル件左ノ通定ム

棒太ニ於ケル租稅ノ賦課徵收ハ別段ノ定メアル場合ヲ除クノ外所轄棒太廳支廳長之ヲ賦課徵收ス

前項租稅ノ賦課徵收ハ所轄棒太廳支廳出張所長ヲシテ之ヲ分掌セシムルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●棒太租稅徵收規則

大正五年五月棒太廳令第十八號　改正　大正十一年三月號、第五四號

第一條　租稅ヲ徵收セムトスルトキハ納稅義務者ニ對シ第一號樣式ノ納稅告知書又ハ棒太廳郵便局現金受拂規則第一號書式ノ納稅告知書ヲ發スヘシ但シ收入官吏ニ納付セシムル場合ニ於テハ口頭ヲ以テ告知スルコトヲ得

第二條　國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ徵收スルコトヲ得ル國稅ハ左ニ揭クルモノニシテ納期ニ到リ稅金ノ徵收ヲ完ウスルコト能ハスト認ムルモノニ限ル

一　納稅ノ告知ヲ爲シタル諸稅

二　造石數査定濟ノ酒類及醬油ノ造石稅

國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ納期ノ到ラサル稅金ヲ徵收セムトスルトキハ收稅官吏ハ納期日ヲ定メ前條ノ規定ニ依リ納稅告知書ヲ發シ且納期繰上ノ事由ヲ通告スヘシ但シ納稅告知書ヲ發シタル後ナルトキハ納期日ノ變更ヲ告知スヘシ

前項ノ國稅ニシテ町村ノ徵收スルモノナルトキハ納稅人ニ告知スルト同時ニ其ノ旨町村ニ通知スヘシ

第三條　町村ノ徵收スヘキ國稅ハ棒太廳支廳長ニ於テ第十二號樣式ノ納額通知書ヲ調製シ之ヲ町村ニ送付スヘシ其ノ異動ヲ生シタルトキハ更ニ其ノ旨通知スヘシ

第三條ノ二　町村前條ノ納額通知書ヲ受ケタルトキハ第十三號樣式ノ納稅告知書ヲ調製シ之ヲ納稅義務者ニ交付スヘシ町村ニ於テ稅金ヲ徵收シタルトキハ領收證ヲ納人ニ交付スヘシ

第三條ノ三　町村ニ於テ徵收シタル稅金ハ漸次之ヲ日本銀行又ハ棒太廳郵便局ニ送付スヘシ但シ納期後三日ヲ過クルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ依リ稅金ヲ日本銀行ニ送付スルトキハ第十四號樣式ノ送付書ヲ棒太廳郵便局ニ納附スルトキハ棒太廳郵便局現金受拂規則第三號書式ノ納付書ヲ添附スヘシ

第三條ノ四　町村ハ納期內ニ稅金ノ納付ヲ了ラサル者アルトキハ直ニ第十五號樣式ノ滯納報告書ヲ調製シ棒太廳支廳長ニ送付スヘシ送付後ニ其ノ報告書ニ異動ヲ生シタルトキハ直ニ其ノ旨通知スヘシ

第三條ノ五　町村ニ於テ國稅徵收法第八條ニ依リ稅金送付ノ責任ノ免除ヲ請ハムトスルトキハ棒太廳支廳長ヲ經テ棒太廳長官ニ申

請書ヲ提出スヘシ

第四條　納稅義務者納稅告知書ヲ受ケタルトキハ稅金ニ納稅告知書ヲ添ヘ指定ノ場所ニ納付スヘシ

第五條　國稅徵收法第九條ノ規定ニ依リ納稅ノ督促ヲ爲サムトスルトキハ納稅義務者ニ對シ延滯金ヲ徵收セサルモノニ付テハ第二號樣式、延滯金ヲ徵收スルモノニ付テハ第三號樣式ノ督促狀ヲ發スヘシ

督促狀ニハ第四號樣式ノ納付書又ハ樺太廳郵便局現金受拂規則第三號書式ノ納付書ヲ添附スヘシ

第六條　納稅義務者前條ノ督促ヲ受ケ稅金及督促手數料ヲ納付スル場合ニ於テハ其ノ納稅告知書及納付書ヲ添附スヘシ

延滯金ハ稅金及督促手數料ト共ニ之ヲ納付スヘシ

第六條ノ二　督促狀ニ記載スヘキ納付場所ヲ樺太廳支廳又ハ樺太廳郵便局ト指定シタル場合ニ於テ町村ノ納稅告知書ヲ發シタル稅金ナルトキハ收稅官吏又ハ出納官吏ハ其ノ納稅告知書ヲ以テ稅金ヲ領收スルコトヲ得

第六條ノ三　前三條ノ規定ハ滯納報告後督促狀發付前稅金ヲ領收スル場合ニ之ヲ準用ス

第七條　滯納者ノ財產差押ヲ命シタル官吏ニハ第五號樣式ノ證票ヲ交付スヘシ

第八條　收稅官吏財產ヲ差押ヘタルトキハ第六號樣式ノ差押調書ヲ作リ之ニ署名捺印スヘシ

國稅徵收法第二十一條ノ場合ニ於テハ收稅官吏ハ立會人ト共ニ差押調書ニ署名捺印スヘシ但シ立會人ニ於テ署名捺印ヲ拒ミ又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其ノ理由ヲ附記スヘシ

第九條　收稅官吏ハ差押調書ノ謄本ヲ滯納者及立會人ニ交付スヘシ但シ債權及所有權以外ノ財產權ノミヲ差押ヘタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十條　收稅官吏債權ノ差押ヲ爲ストキハ債務者ニ對シ第七號樣式ノ債權差押通知書ヲ發スヘシ

第十一條　收稅官吏質權又ハ抵當權ノ設定セラレタル財產ノ差押ヲ爲ストキハ其ノ權利者ニ對シ第八號樣式ノ財產差押通知書ヲ發スヘシ

國稅ニ對シ先取權ヲ有スル債權者前項ノ通知ヲ受ケ其ノ權利ヲ行使セムトスルトキハ證憑書類ヲ添ヘ其ノ事實ヲ證明スヘシ

第十二條　收稅官吏債權及所有權以外ノ財產權ノ差押ヲ爲ストキハ權利者ニ對シ第九號樣式ノ財產差押通知書ヲ發スヘシ

第十三條　民事訴訟法ニ依リ假差押又ハ假處分ヲ受ケタル財產ヲ差押ヘタルトキハ之ヲ執行裁判所又ハ執達吏若ハ强制管理人ニ通知スヘシ

第十四條　差押フヘキ財產管轄區域外ニ在ルトキハ收稅官吏ハ其ノ財產所在地ヲ管轄スル官署ノ收稅官吏ニ滯納處分ノ引繼ヲ爲スヘシ

第十五條　差押フヘキ財產數人ノ共有ニ係ルトキハ滯納者ニ屬スル持分ニ就キ滯納處分ヲ爲シ其ノ持分ノ定メナキトキハ持分相均キモノトシテ處分スヘシ

第十六條　左ノ場合ニ於テハ收稅官吏ハ財產ノ差押ヲ解クヘシ

一　差押物件滯納者ノ權利ニ屬セサルコト判明シタルトキ

二　公賣期日ノ前日迄ニ滯納者又ハ第三者ヨリ督促手數料、延滯金、滯納處分費及稅金ヲ完納シタルトキ

三　財產ヲ差押ヘタル後國稅徵收法第十二條ノ規定ニ依リ滯納處分ノ執行ヲ止ムヘキコトヲ發見シタルトキ

第十七條　公賣財產ニシテ其ノ評價ヲ見積リ難キモノアルトキハ適當ナル鑑定人ヲ選ヒ其ノ價格ヲ爲サシムルコトヲ得

第十八條　入札ノ方法ヲ以テ財產ヲ公賣スル場合ニハ買受希望人ハ其ノ住所、氏名、買受財產ノ種類、員數及入札價格ヲ記シタル入札書ヲ封緘シテ差出スヘシ

第十九條　入札及開札ハ公告ニ示シタル場所、日時ニ入札人ノ前面ニ於テ之ヲ行フヘシ但シ入札人又ハ其ノ代理人出席セサルトキハ其ノ立會ヲ要セシテ之ヲ行フコトヲ得

第二十條　競賣ノ方法ヲ以テ財產ヲ公賣スルトキハ競賣人ヲ選ヒ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第二十一條　財產公賣ノ場合ニ於ケル加入保證金ハ買受希望人各自ノ見積價格百分ノ五以上、契約保證金ハ買受價格百分ノ十以上トシ公賣ノ時之ヲ定ム

第二十二條　國稅徵收法第二十五條ノ規定ニ依リ隨意契約ヲ以テ財產ヲ賣却セムトスルトキハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外二人以上ノ買受希望人ヨリ價格見積書ヲ徵シ最高價格ノ見積書ヲ提出シタル者ニ之ヲ賣却スヘシ但シ買受希望人ノ價格見積書ノ金額カ見積價格ニ達セサルトキハ更ニ價格見積書ヲ徵スルコトヲ得

第二十三條　國稅徵收法第四條ノ一第二號乃至第六號ニ該當スル場合ニ於テハ收稅官吏ハ當該官廳、公共團體、執行裁判所、執達吏、强制管理人、破產主任官又ハ精算人ニ督促手數料、延滯金、滯納處分費及滯納稅金ノ交付ヲ求ムヘシ但シ他ニ差押フヘキ財產アルトキハ之ヲ差押フルコトヲ妨ケス

第二十四條　滯納處分ヲ結了シタルトキハ收稅官吏ハ第十號樣式ノ計算書ヲ作リ之ヲ滯納者ニ交付スヘシ

資却シタル財產ニ對シ質權又ハ抵當權ヲ有スル者ハ其ノ計算ニ關スル記錄ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第二十五條　公賣財產ノ買受人又ハ競賣人ハ納付書ヲ添ヘ其ノ代金ヲ納付スヘシ

第二十六條　收稅官吏ハ債權者又ハ滯納者ニ交付スヘキ金錢ヲ供託シタルトキハ其ノ旨債權者又ハ滯納者ニ通知スヘシ

第二十七條　租稅ノ徵收ニ關スル書類ノ送達ハ使丁又ハ郵便ニ依ルヘシ

督促又ハ滯納處分ニ關シ使丁ヲ以テ書類ノ送達ヲ爲ストキハ第十一號樣式ノ送達書ニ受取人ヲシテ記名捺印セシムヘシ

第二十八條　納稅ノ告知、督促及滯納處分ニ關スル公告ハ收稅官署ノ揭示場其ノ他適當ノ場所ニ揭示シテ之ヲ爲スヘシ但シ必要ト認ムルトキハ他ノ方法ニ依ルコトヲ得

第二十九條　納稅義務者租稅ノ納付ニ關シ管理人ヲ定メ又ハ之ヲ變更シタルトキハ其ノ氏名、住所若ハ居所ヲ所轄收稅官署ニ申告スヘシ管理人其ノ氏名住所若ハ居所ヲ變更シタルトキ亦同シ

町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ニ係ルトキハ前項ノ申告ハ其ノ町村ヲ經由スヘシ

第三十條　本令ハ國稅徵收法ノ規定ヲ準用スル租稅外諸收入ノ徵收ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式　用紙適宜　輪廓寸法　縱四寸五分ノモノ二枚縱四寸五分ノモノ一枚接續　橫三寸三分ノモノ二枚橫二寸五分ノモノ一枚接續

第「何」號　「何」郡「何」町(村)大字「何」「何」番地某」納

內務省主管	樺太廳特別會計	「何」年度	樺太歲入(款)	租稅	稅(項)
			「何」年「何」期分		
一金「何」程			「何」稅(目)		

右「何」年「何」月「何」日限日本銀行「何」店「又ハ日本銀行本店支店又ハ代理店」(又ハ何支廳)ヘ納付スヘシ

備考

一　同一納期ノモノハ並記スヘシ

二　本書ハ納付書達接セシムルコトヲ得

第三號樣式　用紙適宜　注意　稅金納付ノ際ハ納稅告知書及納付書ヲ持參スヘシ

督促	樺太廳特別會計	「何」年度	樺太歲入(款)	租稅	稅(項)
			「何」年「何」期分		
一金「何」程			「何」稅(目)		
一金拾錢			督促手數料		
一納期限ノ翌日ヨリ稅金額百圓ニ付一日參錢ノ割合ニ依ル金額			延滯金		

右「何」年「何」月「何」日限日本銀行「何」店「又ハ日本銀行本店支店又ハ代理店」(「何」郡「何」町(村)大字「何」「何」番地某」納付スヘシ

指定期限ヲ過キ完納セサルトキハ直ニ財產差押ノ處分ヲ爲スヘシ

大正「何」年「何」月「何」日

「何」郡「何」町(村)大字「何」「何」番地某」納

內務省主管	樺太廳特別會計	「何」年度	樺太歲入(款)	租稅	稅(項)
			「何」年「何」期分		
一金「何」程			「何」稅(目)		

右「何」年「何」月「何」日限日本銀行「何」店「又ハ日本銀行本店支店又ハ代理店」(「何」郡「何」町(村)大字「何」「何」番地某」納付

「何」郡「何」町(村)大字「何」「何」番地
棒太廳特別會計　「何」　廳　「何」　(款)　「何」　(項)
内務省主管

通知書

一金「何　程」
大正「何」年「何」月「何」日
日本銀行何店」又ハ日本銀行本店支店又ハ代理店」
(又ハ)
收入官吏「官　氏　名」印

領收證書

「何」年「何」期分
一金「何　程」　稅　(目)
大正「何」年「何」月「何」日
日本銀行何店」日本銀行本店支店又ハ代理店」
(又ハ)
收入官吏「官　氏　名」

備考

一　本書式中ノ金額、年度、科目等ハ納付書發行者ニ於テ記入スヘシ
二　收入官吏本書ニ依リ稅金ヲ領收スルトキハ大正十一年大藏省令第二十號ノ現金領收證書ヲ發行スルコトヲ要セス
三　收入官吏ニ於テ稅金ノ領收ヲ爲ストキハ本書式納付書中條自ニ領收濟年月日ヲ記シ檢印ヲ爲シ領收濟通知書ヲ省略スルコトヲ得

第五號樣式　用紙厚紙　縱二寸二分　濶一寸五分

第「何」號
租稅滯納者
表　財產差押
證　票

收稅官署印

裏

「何廳屬」
「官　氏　名」

第六號樣式

差押調書

「何」郡「何」町(村)大字「何」「何」番地
滯納者「何　某」
一　差押財產ノ表示
(名稱、數量、性質、所在其ノ他重要ナル事項)

右大正「何」年度「何」稅「何」期分滯納金「何程」「督促手數料(延滯金、滯納處分費)」「何程」徵收ノ爲大正「何」年「何」月「何」日本人(又ハ本人不在ニ付何某)立合ノ上前記ノ財產ヲ差押フルモノ也
大正「何」年「何」月「何」日「何所」ニ於テ
此ノ調書ヲ作ル
「何廳屬」
「官　氏　名」印

第七號樣式　債權差押通知書

「何」郡「何」町(村)大字「何」「何」番地
債權者「何　某」
「何」郡「何」町(村)大字「何」「何」番地
債務者「何　某」

一金「何　程」
內
金「何　程」「何」稅但シ大正「何」年度「何」期分
金「何　程」督促手數料
金「何　程」延滯金
金「何　程」滯納處分費

右債收ノ爲大正「何」年「何」月「何」日債務者ヨリ支拂フヘキ「何々」金「何程」(又ハ金何程ノ內金何程)ヲ差押フルニ付大正「何」年「何」月「何」日迄ニ本官ニ支拂フヘシ
此ノ通知ヲ受ケタル後債權者ニ對シ支拂ヲ爲スモ其ノ支拂ハ無效タルヘシ
右通知ス
大正「何」年「何」月「何」日
「何廳屬」
「官　氏　名」印

「住所」
「何某宛」

第八號樣式　財產差押通知書

「何」郡「何」町(村)大字「何」「何」番地
滯納者「何　某」

一金「何　程」
內
金「何　程」「何」稅但シ大正「何」年度「何」期分
金「何　程」督促手數料
金「何　程」延滯金

右滯納ニ付大正「何」年「何」月「何」日左記財產ヲ差押ヘタリ(之ニ對シ先取權ヲ行ハムトスルトキハ公正證書及其書類ヲ添附シ此ノ通知書ヲ受領シタル日ヨリ七日以內ニ其ノ事實ヲ證明セラルヘシ)
右通知ス
大正「何」年「何」月「何」日
「何廳屬」
「官　氏　名」印

「住所」
「何某宛」

第九號樣式　「何々」權差押通知書

一差押財產ノ表示
(名稱、數量、性質、所在其ノ他重要ナル事項)

左記
一差押財產ノ表示
(名稱、數量、性質、所在其ノ他重要ナル事項)

第十號樣式

計算書

「何」郡「何」町(村)大字「何」「何」番地
滯納者「何　某」

收入支出	種目	金額
收	通貨	一圓 一〇〇
收	何々公賣代金	三九〇〇〇
收	何々公賣代金	一〇〇〇〇
收	債權者(優先權者)ヘ交付	一〇〇〇〇
收	稅金	三四〇〇〇
收	債權者ヘ交付	五五〇〇
收	滯納者ヘ還付	五〇〇
收	計	五〇〇〇〇
入	督促手數料	一〇〇
入	延滯金	二〇〇
入	滯納處分費	二〇〇
入	債權者(優先權者)ヘ交付	一〇〇〇〇
入	稅金	三四〇〇〇
入	債權者ヘ交付	五五〇〇
入	滯納者ヘ還付	五〇〇
入	計	五〇〇〇〇
出	督促手數料	一〇〇
出	延滯金	二〇〇
出	滯納處分費	二〇〇

右ノ通
大正「何」年「何」月「何」日
「何廳屬」
「官　氏　名」印

第十一號樣式

送達書

送達シタル書名通數
名宛人ノ住所又ハ居所及
氏名
受取人ノ署名捺印
送達シタル日時
受取人ナキトキ又ハ受取
若ハ署名捺印ヲ拒ミタル
トキハ其ノ理由

使丁　何　某㊞

第十二號樣式

第「何」號
「何」町(村)分
納額　「何」年度　棒太廳特別會計　棒太歲入(款)　租稅　(項)　「何」年「何」月「何」日限
大藏省主管

日本銀行「何」店拂(又ハ「何」扇扱)

第十三號樣式

第「何」號　「何」年度棒太廳特別會計　「何」郡「何」町(村)大字「何」「何」番地　納
大藏省主管　棒太歲入(款)　租稅　(項)

「何」年「何」期分
收稅告知書

一金「何　程」
右「何」年「何」月「何」日限「何」町(村)役場ヘ納付スヘシ
「何」町(村)長「何　某」㊞

通知書

一金「何　程」
右通知候也
大正「何」年「何」月「何」日
「何」支廳長
「官　氏　名」㊞

備考

一　一人別納額ノ通知ヲ要スル場合ニ於テハ一人別納額調書ヲ添附スルモノトス但シ人員少キトキハ金額ノ左傍ニ記入スルモ妨ナシ

第十四號樣式

領收證書

「何」年度棒太廳特別會計　何　町　(村)
大藏省主管　「何」支廳　棒太歲入(款)　租稅　(項)

一金「何　程」
大正「何」年「何」月「何」日領收
(領收者氏名)㊞

「何」年「何」期分
「何」稅　(目)

付記
右送付候也

書

大正「何」年「何」月「何」日

納入済書

「何」年度樺太廳特別會計　大藏省主管　「何」支廳　何町（村）　樺太歳入（款）　租稅（項）

一金「何　程」　「何」稅（目）

大正「何」年「何」月「何」日納入済

「何」年「何」期分

日本銀行「何」店㊞

領収証書

「何」年度樺太廳特別會計　何町（村）

一金「何　程」　「何」稅（目）

大正「何」年「何」月「何」日領収

「何」年「何」期分

日本銀行「何」店㊞

備考

一　納入済書及領収證書用紙ノ金額年度科目等ハ總テ町村ニ於テ記入スルモノトス

第十五號樣式

大正「何」年「何」月「何」日

「何」支廳長氏名宛

「何」年度第「何」期「何」稅（目）滯納報告書

稅額	事由	住所又ハ居所	氏名
圓	何々	何町村大字何何番地	何某
	何々	何郡何町村大字何何番地何町村大字何何番地	何某管理人何某
計			

●樺太ニ於テ徴收スル租稅ノ督促手數料及延滯金等ニ關スル件

（大正五年五月五日勅令第百二十一號）

樺太ニ於テ徴收スル租稅ノ督促手數料及延滯金等ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（樺太廳內務大臣同樣）

樺太ニ於テ徴收スル租稅ノ督促手數料及延滯金ニ關シテハ國稅徴收法施行規則第十一條第二項及第十一條ノ二ノ規定ヲ準用ス

樺太ニ於テ租稅徴收ノ爲差押ヘタル動産、有價證券、不動產其ノ他ノ物件ノ公賣ニ關シテハ國稅徴收法施行規則第十八條乃至第二十八條ノ規定ヲ準用ス

本令ニ定ムルモノノ外前項公賣ノ手續ニ關シ必要ナル規定ハ樺太廳長官之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●關東廳租稅其ノ他ノ公課徴收ノ件

（明治四十年三月二十六日勅令第五十號）

（總理、外務大臣同樣）

關東【都督府】ニ於ケル租稅其ノ他ノ公課ノ徴收ニ關シテハ國稅徴收法ノ規定ヲ準用ス

本令ノ施行ニ必要ナル事項ハ關東【都督】之ヲ定ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●租稅其ノ他ノ公課徴收ニ關スル細則

（明治四十年四月一日關東都督府令第十七號）

改正　明治四十二年第四號

大正九年同廳令第五〇號、十二年第二五號、十五年第二八號

租稅其ノ他ノ公課徴收ニ關スル細則左ノ通相定ム

第一條　租稅其ノ他ノ公課徴收ニ關スル細則トキハ納人ニ對シ第一號樣式ノ納額告知書ヲ發スヘシ但シ日本銀行又ハ其ノ支店、代理店ニ納付セシムル場合ノ外口頭ヲ以テ告知スルコトヲ得

第二條　國稅徴收法第四條ノ二ニ該當スル場合ニ於テ租稅其ノ他ノ公課ヲ徴收セムトスルトキハ第一條ノ告知ヲ爲スト同時ニ其ノ旨納人ニ通知スヘシ

納額告知ヲ爲シタル後國稅徴收法第四條ノ二ニ依リ納期日前ニ之ヲ徴收セムトスルトキハ納期日ノ變更ヲ納人ニ告知スヘシ

第三條　納人納額告知書ヲ受ケタルトキハ納金ニ納額告知書ヲ添ヘ指定ノ場所ニ納付スヘシ

第四條　納人納付ニ關シ管理人ヲ定メ若ハ變更シタルトキハ其ノ氏名及住所若ハ居所ヲ所轄官署ニ申告スヘシ

管理人其ノ氏名住所又ハ居所ヲ變更シタルトキハ之ヲ所轄官署ニ申告スヘシ

第五條　本令ニ依ル書類ノ送達ハ使丁又ハ郵便ニ依ル

第六條　納金ノ督促ヲ爲サムトスルトキハ納人ニ對シ第二號樣式ノ督促狀ヲ發スヘシ但シ督促狀ニ指定スヘキ期限ハ督促狀ヲ發スル日ヨリ七日以上アルトキハ其ノ期限

第七條　督促狀ニ指定シタル期日迄ニ納金及督促手數料ヲ完納シタルトキ又ハ前項ニ依リ計算シタル金額未滿ナルトキハ延滯金ヲ徴收セス

第八條　延滯金ヲ納付スヘキ場合ニ於テハ納金及督促手數料ト共ニ之ヲ當該官署ニ納付スヘシ

第九條　滯納者ノ財產差押ヲ命シタル官吏ニハ第三號樣式ノ證票ヲ交付スヘシ

第十條　滯納者ノ財產ニ付滯納者ヨリ權利移轉ノ手續ヲ爲サシムル必要アルトキハ期限ヲ指定シテ其ノ手續ヲ爲サシムヘシ

前項ノ期間內ニ滯納者其ノ手續ヲ爲ササルトキハ當該官吏ハ滯納者ニ代ハリテ之ヲ爲スコトヲ得

第十一條　差押フヘキ財產ノ種別ハ左ノ順序ニ依ル但シ特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　現金、有價證券

二　貴金屬、寶石、書畫、骨董

三　船舶、鑛業權、漁業權、電氣事業權、特許ヲ受ケタル發明ニ關スル權利、著作權、版權、地上權、永小作權、賃借權、採石權、鑛業權ノ目的タル土地ノ定著物

四　前三號ニ掲ケサル動產

五　不動產

第十二條　差押ヘタルトキハ第五號樣式ノ差押調書ヲ作リ之ニ署名捺印スヘシ

一　滯納者ノ氏名及住所又ハ居所

二　差押財產ノ名稱、數量、性質、所在其ノ他重要ナル事項

三　差押ノ事由

四　調書ヲ作リタル場所及年月日

第十三條　財產ヲ差押ヘタル場合ニ於テ滯納者又ハ第三者ヨリ督促手數料、延滯金、滯納處分費及納金ヲ完納シタルトキハ其ノ財產ノ差押ヲ解クヘシ

第十四條　公賣ハ入札又ハ競賣ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ見積價格十圓以下ノモノハ隨意契約ヲ以テ賣却スルコトヲ得

入札又ハ競賣ノ場所、日時

四　開札ノ場所、日時

五　保證金ヲ要スルトキハ其ノ金額

六　代金納付ノ期限

第十六條　公賣ハ公告ノ初日ヨリ七日ヲ過キタル後之ヲ執行スヘシ但シ其ノ物件不相當ノ保存費ヲ要スルモノ若ハ著シク其ノ價格ヲ減損スル虞アルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十七條　財產公賣ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ加入保證金又ハ契約保證金ヲ徴スヘシ

第二號樣式ノ二ニ依ルヘシ

督促狀ヲ發シタルトキハ手數料トシテ金二十錢ヲ徴收ス

第六條ノ二　前條ニ依リ督促ヲ爲シタル場合ニ於テハ納金額百圓ニ付一日金三錢ノ割合ヲ以テ納期日ノ翌日ヨリ納金完納又ハ財產差押ノ日ノ前日迄ノ日數ニ依リ計算シタル延滯金ヲ徴收ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スルカ又ハ滯納ニ付酌量スヘキ情狀アリト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　納期日ヲ繰上ケ徴收ヲ爲ストキ

二　納人ノ住所若ハ居所カ內地、朝鮮、臺灣、樺太、關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ在ラサルカ又ハ其ノ住所、居所共ニ不明ナル爲公示送達ノ方法ニ依リ納金ノ告知又ハ督促ヲ爲シタルトキ

督促ヲ爲シタルトキ指定シタル期日迄ニ納金及督促手數料ヲ完納シタルトキ又ハ前項ニ依リ計算シタル金額カ十錢未滿ナルトキハ延滯金ヲ徴收セス

第六條ノ三　延滯金ヲ納付スヘキ場合ニ於テハ納金及督促手數料ト共ニ之ヲ當該官署ニ納付スヘシ

第七條　滯納者ノ財產差押ヲ命シタル官吏ニハ第三號樣式ノ證票ヲ交付スヘシ

第八條　債權ノ差押ヲ爲ストキハ債務者ニ對シ第四號樣式、債權及所有權以外ノ財產權ノ差押ヲ爲ストキハ債務者ニ對シ第四號樣式ノ二ノ差押通知書ヲ發スヘシ

第九條　裁判上ノ假差押又ハ假處分ヲ受ケタル財產ヲ差押フルトキハ之ヲ執行法院ニ通知スヘシ

第十條　差押フヘキ財產管轄區域外ニ在ルトキハ財產所在地ノ所轄官署ニ滯納處分ノ引繼ヲ爲スヘシ

第十一條　差押フヘキ財產數人共有ニ係ルトキハ滯納者ノ持分ニ就キ滯納處分ヲ爲シ其ノ持分ノ定メナキモノハ持分相均シキモノトシテ處分スヘシ

第十二條　財產ヲ差押ヘタルトキハ第五號樣式ノ差押調書ヲ作リ之ニ署名捺印スヘシ

一　滯納者ノ氏名及住所又ハ居所

二　差押財產ノ名稱、數量、性質、所在其ノ他重要ナル事項

三　差押ノ事由

四　調書ヲ作リタル場所及年月日

第十三條　財產ヲ差押ヘタル場合ニ於テハ滯納者又ハ第三者ヨリ督促手數料、延滯金、滯納處分費及納金ヲ完納シタルトキハ其ノ財產ノ差押ヲ解クヘシ

第十四條　公賣ハ入札又ハ競賣ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ見積價格十圓以下ノモノハ隨意契約ヲ以テ賣却スルコトヲ得

入札又ハ競賣ノ場所、日時

四　開札ノ場所、日時

五　保證金ヲ要スルトキハ其ノ金額

六　代金納付ノ期限

第十六條　公賣ハ公告ノ初日ヨリ七日ヲ過キタル後之ヲ執行スヘシ但シ其ノ物件不相當ノ保存費ヲ要スルモノ若ハ著シク其ノ價格ヲ減損スル虞アルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十七條　財產公賣ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ加入保證金又ハ契約保證金ヲ徴スヘシ

第十八條　財產ヲ公賣シタルトキハ其ノ財產ノ見積價格百分ノ十以內ニ於テ適宜其ノ金額ヲ定ムルモノトス

落札人又ハ買受人義務ヲ履行セサルトキハ其ノ保證金ハ之ヲ政府ノ所得トス

第十八條　財產ヲ公賣セムトスルトキハ其ノ財產ノ見積價格ヲ定メ之ヲ封書トシテ公賣ノ場所ニ置クヘシ

第十九條　賣却シタル財產ニ付滯納者ヨリ權利移轉ノ手續ヲ爲サシムル必要アルトキハ期限ヲ指定シテ其ノ手續ヲ爲サシムヘシ

前項ノ期間內ニ滯納者其ノ手續ヲ爲ササルトキハ當該官吏ハ滯納者ニ代ハリテ之ヲ爲スコトヲ得

第二十條　入札ノ方法ヲ以テ公賣ニ付スル場合ニハ落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者二名以上アルトキハ其ノ同價ノ入札人ヲシテ追加入札ヲ爲サシメ落札者ヲ定ム但シ追加入札ノ價格仍ホ同シキトキハ抽籤ヲ以テ落札者ヲ定ム

第二十一條　財產ヲ公賣ニ付スルモ買受人ナキトキ又ハ其ノ價格見積價格ニ達セサルトキハ更ニ公賣ヲ爲スコトアルヘシ

第二十二條　公賣財產ノ買受人代金納付ノ期限ニマテニ其ノ代金ヲ完納セサルトキハ其ノ賣買ヲ解除シ更ニ之ヲ公賣ニ付スヘシ

第二十三條　前二條ニ依リ再公賣ヲ爲ス場合ニ於テハ第十六條ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得

第二十四條　公賣ヲ結了シタルトキハ第六號樣式ノ賣却調書二通ヲ作リ其ノ一通ヲ買受人ニ交付スヘシ

第二十五條　賣却物件ノ買受人ハ第九號樣式ノ納付書ヲ添ヘ其ノ代金ヲ納付スヘシ

第二十六條　國稅徴收法第四條ノ一第一號乃至第六號ニ該當スル場合ニ於テハ公共團體、執行法院、強制管理人、破產主任官又ハ清算人ニ督促手數料、延滯金、滯納處分費及納金ノ交付ヲ求ムヘシ但シ他ニ差押フヘキ財產アルトキハ之ヲ差押フルコトヲ妨クス

第二十七條　督促又ハ滯納處分ニ關シ使丁ヲ以テ書類ノ送達ヲ爲ストキハ第七號樣式ノ送達書受取人ノ署名捺印ヲ求ムヘシ

第二十八條　滯納處分ヲ結了シタルトキハ第八號樣式ニ依リ其ノ處分ニ關スル計算書ヲ作リ之ヲ滯納者ニ交付スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（第一號樣式）

用紙適宜（縱四寸五分ヨリモノ二枚（縱四寸五分ノモノ一枚接續

第　號　「何」關東廳特別會計年度　「何　所」

納額	告知書
何々（款）	何々（項）　「何」年「何」月分（又ハ「何年「何」月分）

大藏省主管　（取扱廳名）

一金何　程　何々（目）

右【明治】何年「何」月「何」日迄ニ日本銀行何店（又ハ當廳）ヘ納付スヘシ

【明治】何年「何」月「何」日　官氏名㊞

（第一號樣式）

知書

第　號

「何」關東廳特別會計部「何」年度「何所」「何　某」納

何々（款）何々「項」「何」（又ハ「何」年「何」月分）分

大藏省主管（取扱廳名）

一金何　程

【明治】「何」年「何」月「何」日領收

日本銀行何店扱

（又ハ收入官吏官氏名㊞）

（第二號樣式）

第　號　納人住所氏名

督「何」年度　何々（款）　何々（項）　「何」（又ハ「何」年「何」月分）分

一金「何　程」　何々（目）

一金貳拾錢　督促手數料

右「何」月「何」日限日本銀行何店（又ハ「當廳」）ニ納付スヘシ若シ其ノ期日迄ニ完納セサルトキハ直ニ財產差押ノ處分ヲ爲スヘシ

大正「何」年「何」月「何」日　何廳

歲入徵收官　官氏　名㊞

（第二號樣式ノ二）

第　號　納人住所氏名

「何」年度　何々（款）　何々（項）　「何」（又ハ「何」年「何」月分）分

一金「何　程」　何々（目）

一金貳拾錢　督促手數料

一金　程　延滯金

納期日ノ翌日ヨリ納金額百圓ニ付日三錢ノ割合ニ依ル金額

右「何」月「何」日限日本銀行何支店（又ハ「當廳」）ニ納付スヘシ

指定期日迄納金及督促手數料ヲ完納シタルトキハ延滯金ヲ徵收セス

指定期日ヲ過キ完納セサルトキハ直ニ財產差押ノ處分ヲ爲スヘシ

大正「何」年「何」月「何」日　何廳

歲入徵收官　官氏　名㊞

（第三號樣式）

用紙厚紙　縱三寸　橫一寸八分

領收書

第　號

「何」關東廳特別會計「何」年度「何所」「何　某」納

（取扱廳名）何々（款）何々「項」「何」（又ハ「何」年「何」月分）分

一金何　程　何々（目）

【明治】「何」年「何」月「何」日領收

日本銀行何店扱

（又ハ收入官吏官氏名㊞）

備考

一　領收證書及通知書用紙ノ納入金額、納入年度等ハ總テ納額告知書發行者ニ於テ之ヲ記入スルモノトス

二　收入官吏本書ニ依リ納金ノ領收ヲ爲ス場合ニ於テ督促手數料、延滯金ヲ徵收スル必要アルトキハ科目、金額ヲ竝記シ納付書ヲ省略スルコトヲ得但シ所屬年度ヲ異ニスルトキハ此ノ限ニ在ラス

三　收入官吏本書ニ依リ納金ノ領收ヲ爲ストキハ大正十一年大藏省令第二十號ノ現金領收證書ヲ發行スルコトヲ要セス又納額告知書ノ餘白ニ領收濟年月日ヲ記入シ檢印ヲ爲シ領收濟通知書ヲ省略スルコトヲ得

四　納額告知書ノ右傍欄外ニ左ノ注意ヲ附記スルモノトス

五　一般會計ノ場合ハ「關東廳特別會計部」ノ記入ヲ爲ササルモノト

注意

一　納金ノ際ハ必ス本書ヲ添附スヘシ

二　指定期日迄ニ完納セサルトキハ督促ヲ受ケ金二十錢ノ督促手數料ヲ徵收セラルルノ外納金額百圓ニ付一日金三錢ノ割合ヲ以テ納期日ノ翌日ヨリ納金完納ノ前日迄ノ日數ニ依リ計算シタル延滯金ヲ徵收セラルルコトアルヘシ

注意

一　繳納此稅金者必須將此票一併繳上

二　指定限期內如有不完納時卽行發給督促狀並除徵收金二十錢之手數料外尙有徵收自限期之第二日起至完納前一日止每一百圓每日金三錢之延滯金時

（第四號樣式）

債權差押通知書

第　號

表

滯納者財產差押證票

取扱廳

臨印

裏

何廳

官氏名

徵收金額

一金「何　程」

前記金額徵收ノ爲「何」年「何」月「何」日（納稅期限又ハ賦課ノ日）債務者ヨリ支拂フヘキ「何々」金「何程」ノ內「何程」ヲ差押フルニ付大正「何」年「何」月「何」日迄ニ本官ニ支拂フヘキモノトス此ノ通知ヲ受ケタル後債權者ニ對シ支拂ヲ爲スモ其ノ支拂ハ無效タルヘシ

右通知候也

大正「何」年「何」月「何」日　何々（目）稅（又ハ「何々」）督促手數料、延滯金及滯納處分費

何　某宛　債務者（又ハ「何々」）

住所

債權者氏名

住所

債務者氏名

歲入徵收官　官氏　名㊞

（第五號樣式）

財產差押調書

一差押財產ノ表示

（名稱、數量、性質、所在其ノ他重要ナル事項）

一金「何　程」

一差押財產權ノ表示

（名稱、數量、性質、所在其ノ他重要ナル事項）

「何」年度「何」稅（又ハ「何々」）（何期分又ハ何月分）滯納金「何程」、督促手數料、滯納處分費及延滯金「何程」徵收ノ爲前記ノ財產ヲ差押フルモノナリ

右通知ス

大正「何」年「何」月「何」日　何所

（權利者）何　某宛　滯納者何　某

歲入徵收官　官氏　名㊞

住所

（第六號樣式）用紙美濃罫紙

財產差押調書

一何　々　何　程

此落札代金

何　程

右ハ何所何某所有財產滯納處分ニ依リ前記ノ代價ヲ以テ何所何某ニ賣却ス

【明治】何年何月何日限

代金納付期日

大正「何」年「何」月「何」日　何所

滯納者何　某

立會人　何所　何　某㊞

（差押執行官吏）　何廳　官氏　名㊞

（第七號樣式）用紙半紙半截

送達書

送達シタル書名通數	「督促狀」「一通」
名宛人ノ住所又居所氏名	
受取人ノ署名捺印	々
送達シタル日時	々
受取人ナキトキ又ハ受取人受取若ハ署名捺印ヲ拒ミタルトキハ其ノ事由	

右ノ通取扱候也

使丁　何　某㊞

歲入徵收官　官氏　名㊞

買受人氏名㊞

（第八號樣式）用紙美濃罫紙

計算書

一金何　程

何所　滯納者何　某

收入高

内
金何程　何々公費代金
金何程　何々公費代金
一金何程　支拂高
内
内
金何程　督促手數料
金何程　滯納處分費
金何程　滯納金
内金何程　何稅又ハ何々
金何程　何々收入
殘金何程　滯納者ヘ還付スヘキ分
右ノ通候也
【明治】何年何月何日

住所
氏名㊞

宛

何廳歲入徵收官　官氏　名殿

（第九號樣式）用紙美濃紙
納付書
一金何程　物件買受代金
內
金何程　何々
金何程　何々
右納付候也

年月日

●關東州地方稅規則

明治四十五年四月十五日
關東都督府令第十一號

改正　大正二年第二六號、四年第二號、五年第一三號、第一九號、六年第二二號、七年第二二號、八年勅令第三四號、第二五號、九年第七號、第四四號、一〇年第四號、第一八號、一一年第七號、第四九號、第一九號、一二年第六五號、一四年第一〇號、第三七號

明治四十年四月府令第十八號關東州地方稅規則左ノ通改正ス

關東州地方稅規則

第一條　關東州地方稅ハ此ノ規則ノ定ムル所ニ依リ民政署長、民政支署長之ヲ課稅ス

第二條　營業稅ハ左ノ種目、課稅標準及稅率ニ依リ之ヲ課稅ス

種目	課稅標準	稅率
物品販賣業	資上金額（卸賣（甲千分ノ〇・九五、乙千分ノ一・三五）、小賣（甲千分ノ二・六五、乙千分ノ四・〇〇））	
銀行業（保險業、無盡業）	資本金額	千分ノ三
金錢貸付業	收入金額	千分ノ四十八
倉庫業	收入金額（從業者一人）	千分ノ二十
運送業	收入金額（從業者一人）	千分ノ七
請負業	收入金額（從業者一人）	千分ノ三・三
取引所信託業　周旋業　取扱業　仲立業　替業　信託業　代理業　代書業	收入金額（從業者一人）	千分ノ二十
運送取扱業	收入金額（從業者一人）	千分ノ二
周旋業	收入金額（從業者一人）

ユ左ノ事項ヲ所轄署ニ申告スヘシ
一　營業種目
二　營業場ノ所在地
三　課稅標準ノ數額
四　原籍、營業所又ハ住所、氏名

第十四條ノ二第一項ニ揭ケル期間内ニ在ル銀行業及保險業以外ノ營業ヲ爲ス者ハ前項ノ申告ト同時ニ前年中ノ各月末ニ於ケル固定資本金ノ調書ヲ提出スヘシ但シ該固定資本金ノ月割平均額カ五千圓未滿ナルトキハ單ニ其ノ旨ヲ申告スルヲ以テ足ル

第一項ノ規定ハ貸家稅及自轉車稅納稅義務者ニ之ヲ準用ス

第八條　月稅納稅義務者ハ每月一日現況ニ依リ其ノ月五日迄ニ左ノ事項ヲ所轄署ニ申告スヘシ但シ異動ナキモノハ此ノ限ニ在ラス

一　營業ノ種目又ハ課稅物件ノ名稱
二　營業場又ハ課稅物件ノ所在地
三　課稅標準ノ數額
四　住所氏名

日稅納稅義務者ハ其ノ當日、取引所信託業納稅義務者ハ每月一日前項ニ準シ申告スヘシ

第九條　削除

第十條　新ニ納稅義務ヲ生シタルトキハ第七條又ハ第八條ノ規定ニ準シ年稅又ハ月稅納稅義務者ニ在リテハ五日以内ニ日稅納稅義務者ニ在リテハ即日申告スヘシ

第十四條ノ二第一項ニ揭ケル銀行業及保險業以外ノ營業ヲ爲ス者ハ前項ノ申告ト同時ニ營業開始ノ際ニ於ケル固定資本金ノ調書ヲ提出スヘシ但シ固定資本金額五千圓未滿ノモノニ在リテハ單ニ其ノ旨ヲ申告スルヲ以テ足ル

第十條ノ二　不動產ニ關スル權利取得ニ付納稅義務アル者ハ權利取得ノ日ヨリ十日以内ニ左ノ事項ヲ所轄署ニ申告スヘシ

一　不動產ノ所在地、種類、數額
二　權利取得ノ對價額及時價ノ見積價額
三　讓渡人及讓受人ノ住所氏名

第十條ノ三　屠畜納稅義務者ハ屠畜前左ノ事項ヲ所轄署ニ申告スヘシ

一　屠場ノ位置
二　屠畜ノ種類及頭數
三　屠畜年月日
四　住所、氏名

第十一條　納稅義務者ハ第七條、第八條、第十條ノ二又ハ前條ノ規定ニ依リ課稅標準額ヲ更訂シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十二條　納稅義務者他管内ニ轉居シタルトキハ十日以内ニ左ノ事項ヲ轉居地所轄署ニ申告スヘシ

一　營業場又ハ課稅物件ノ前所在地
二　第七條、第八條ノ申告事項
三　當期又ハ當月迄ノ納稅濟否

第十二條ノ二　納稅義務者ハ營業場又ハ課稅物件ノ所轄署管外ニ居住スル者

二　滿一箇月以上ニ渉ル旅行ヲ爲ス者

第十三條　營業稅納稅義務者ハ帳簿ヲ調製シ營業ニ關スル事項ヲ詳細ニ記載スヘシ

第十四條　當該官吏ハ納稅義務者ノ住所營業所又ハ其ノ他ノ場所ニ就キ營業ニ關スル帳簿又ハ課稅物件ヲ調査スルコトヲ得

第十五條　第七條乃至第十一條又ハ第十四條ノ五ノ申告ヲ怠リ若ハ虛僞ノ申告ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス其ノ脫稅ヲ爲シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十六條　第十條ノ二ノ申告ヲ怠リ若ハ虛僞ノ申告ヲ爲シ第二十二條ノ記帳ヲ怠リ若ハ虛僞ノ記載ヲ爲シタル者ハ五圓以下ノ科料ニ處ス

第十七條　本令ノ罰則ハ納稅義務者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　明治三十三年法律第五十二條ノ規定ハ本令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

ス

第十九條ノ三　前條ノ申請アリタルトキハ關東長官ハ地方稅審查委員會ニ之ヲ諮問シ其ノ課稅標準ヲ審查決定ス

第十九條ノ四　地方稅審查委員會ハ關東廳ニ之ヲ置ク

第十九條ノ五　審查委員會ハ會長及委員六人ヲ以テ之ヲ組織ス

會長ハ關東廳高等官中ヨリ關東長官之ヲ命ス

委員ハ關東廳高等官中ヨリ二人及地方稅納稅義務者中ヨリ四人ヲ關東長官ニ於テ之ヲ命シ又ハ囑託ス

第十九條ノ六　審查委員ノ任期ハ一年トス但シ補闕ノ審查委員ノ任期ハ其ノ前任者ノ殘任期間トス

第十九條ノ七　審查委員會ハ關東長官ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第十九條ノ八　審查委員會ノ會長事故アルトキハ關東長官ノ指名スル委員之ヲ代理スヘシ

第十九條ノ九　審查委員會ハ委員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第十九條ノ十　審查委員ハ自己又ハ自己ト同一戶籍内ニ在ル者及自己ノ代表スル法人ノ課稅標準ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス

第十九條ノ十一　年稅納稅者ハ課稅標準タル賣上金額、收入金額、請負金額、報償金額、資本金額、建物賃貸價格、貸付用建物賃貸價格又ハ從業者二分ノ一未滿ニ減シタルトキハ民政署長又ハ民政支署長ニ其ノ由ヲ申出ツルコトヲ得

民政署長又ハ民政支署長ハ前項ノ申出ニ依リ納稅者ノ狀況ニ照シ當該稅金ヲ減額スルノ必要アリト認ムルトキハ稅金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第十九條ノ十二　民政署長、民政支署長ハ前條第一項ノ申出ニ對シ翌年一月ニ於テ課稅標準ヲ查覈シ當年分課稅標準額決定シタル課稅標準ヲ查覈シ當年分課稅標準額ニ對シ二分ノ一ニ達セサルトキ

條及第十條ノ二ノ申告事項ニ異動ヲ生シ又ハ納稅義務ノ消滅シタルトキハ年稅又ハ月稅納稅義務者ニ在リテハ五日以内ニ、日稅又ハ屠畜納稅義務者ニ在リテハ即日其ノ旨ヲ所轄署ニ申告スヘシ但シ異動ナキモノハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　第七條第十條、第十條ノ二及第十條ノ三ノ申告ヲ爲サントキ又ハ其ノ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ民政署長、民政支署長ハ其ノ課稅標準ヲ決定ス

第十三條　年稅ノ納期ハ左ノ二期トス

第一期（同年額二分ノ一）　五月

第二期（同　上）　十一月

月稅ノ納期ハ其ノ月末日迄トス但シ所轄民政署長、民政支署長ニ於テ便宜ト認ムルトキハ六箇月以内ニ限リ納期後ニ之ヲ徵收スルコトヲ得

納稅義務消滅シタルトキハ未納ノ稅金ハ即納トス

第十三條ノ二　自轉車稅ハ新ニ納稅義務ヲ生シタル翌月ヨリ之ヲ課ス

自轉車稅ハ第七條及第十條第一項ノ申告又ハ第十二條ノ決定ヲ爲シタルトキノ之ヲ徵收ス但シ納稅後ニ於テ自轉車ノ使用ヲ廢止スルモ既納ノ稅金ハ之ヲ還付セス

第十三條ノ三　自轉車ヲ使用セムトスル者ハ一臺每ニ每年別記樣式ノ納稅濟證ノ下付ヲ受ケ當該自轉車ニ之ヲ定著スヘシ

第十四條　營業稅年稅ハ營業ヲ開始シタル翌月ヨリ之ヲ課シ但シ營業稅ヲ課セラレタル營業者其ノ義務ヲ廢止シタル後六月以内ニ其ノ營業者ノ營業場ト同一ノ場所ニ於テ其ノ營業ト同種ノ業務ヲ開始シタル者ニ付テハ開業ノ月ヨリ營業稅ヲ課ス

前項ノ營業稅年稅ハ營業者廢業シタルトキハ廢業ノ月迄營業稅ヲ課ス

第一項但書ヲ除ク外前二項ノ規定ハ貸家稅ニ之ヲ準用ス

第十四條ノ二　左ニ揭ケル營業ニ付テハ營業開始シタル翌月ヨリ各其ノ所定ノ區分ニ依ル期間營業稅ヲ課ス

銀行業（保險業）　一年

製造業　固定資本金　二十萬圓以上ノモノ　二年

十萬圓以上ノモノ　一年

五千圓以上六月

倉庫業　運送業　印刷業　出版業　旅人宿業　固定資本金　五千圓以上ノモノ　六月

固定資本金ハ他ヨリ借入タルト否トヲ問ハス營業開始ノ際ニ於テ直接營業用ニ供スル土地、家屋、築造物、船舶、機械及器具等ノ時價ノ見積價格ニ依ル

第十四條ノ三　前條第二項ノ規定ニ依リ計算シタル固定資本金額カ前條第一項ニ揭ケル期間中各月末ニ於ケル固定資本金ノ月割平均額ト差異アルトキハ民政署長又ハ民政支署長ハ其ノ狀況ニ依リ之ヲ更訂スルコトヲ得前條第一項ニ揭ケル營業ヲ爲ス者同項ニ揭ケル期間滿了前ニ廢業シタル場合ニ於テ前條第二項ノ規定ニ依リ計算シタル固定資本金額カ當該期間中廢業ノ前月迄ノ各月末ニ於ケル固定資本金ノ月割平均額ト差異アルトキ亦同シ

第十四條ノ四　第十四條ノ二第一項ノ規定ハ同一ノ營業者同種ノ營業ニ付其ノ營業場ヲ增設シタル場合ニ在リテハ其ノ增設シタル營業場ニ付テハ之ヲ適用セス但シ從前ノ營業場ノ同項ノ規定ニ該當スル期間ト同一ノ部分ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十四條ノ五　第十四條ノ二第一項ニ揭ケル銀行業及保險業以外ノ營業ヲ爲ス者ハ同項ニ揭ケル各期間滿了ノ翌月十日迄ニ當該期間中各月末ニ於ケル固定資本金ノ調書ヲ提出スヘシ但シ當該期間滿了前ニ廢業シタル者ニ在リテハ廢業ノ際當該期間中廢業ノ前月迄ノ各月末ニ於ケル固定資本金ノ調書ヲ提出スヘシ

前項ノ規定ニ依リ計算シタル固定資本金ノ月割平均額カ五千圓未滿ナルトキハ單ニ其ノ旨ヲ以テ足ル

第十四條ノ六　第十四條ノ三ノ規定ニ依リ固定資本金額ヲ更訂シタル場合ニ於テ未タ稅金ヲ徵收セサルモノアルトキ又ハ徵收シタル稅金ニ不足アルトキハ之ヲ追徵シ徵收シタル稅金ニ過剩アルトキハ之ヲ還付ス

第十五條　月稅ハ每月一日ノ現在ニ依リ課稅ス但シ一日以後納稅義務ノ發生シタルトキハ隨時之ヲ課稅ス

第十六條　藝妓、娼妓及酌婦ノ各稅ハ抱主、雇主ヲ納稅義務者ト看做シ之ヲ徵收スルコトヲ得

第十七條　日稅及屠畜稅ハ申告ノ際課稅ス但シ所轄署長ニ於テ便宜ト認ムルトキハ一日以内ニ限リ事後ニ之ヲ課稅スルコトヲ得

第十八條　營業又ハ課稅物件ヲ讓渡シ若ハ讓渡アリトト認ムヘキトキハ納期ニ於テ現ニ營業スル者又ハ課稅物件ノ所有者ヨリ稅金ヲ徵收ス

第十八條ノ二　前條ノ規定ニ依ル讓渡アリト認メタル場合ニ於テ從前ノ營業者第十四條ノ二第一項ニ揭ケル期間内ニ在ルモノナルトキハ其ノ殘存スル期間ハ後ノ營業者ノ之ヲ繼承ス

前項ノ規定ハ第十四條第一但書ノ規定ニ依ル營業ヲ開始シタル者ニ之ヲ準用ス但シ期間ノ計算ニ付テハ後ノ營業者其ノ營業ヲ開始スル迄從前ノ營業者其ノ營業ヲ繼續シタルモノト看做ス

第十八條ノ三　不動產ニ關スル權利取得稅ハ課稅標準決定ノ際之ヲ徵收ス

第十九條　民政署長、民政支署長ハ納稅ニ堪ヘスト認ムル者ニハ關東長官ノ認可ヲ得テ地方稅ヲ減免スルコトヲ得

第十九條ノ二　納稅義務者、民政署長、民政支署長ノ通知シタル課稅標準ニ對シ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ詳具シ證憑書類ヲ添ヘ所轄民政署長又ハ民政支署長ヲ經由シ關東長官ニ申出審議ヲ請フコトヲ得此ノ場合ニ於テ民政署長、民政支署長ハ稅金ノ徵收ヲ猶豫セ

ハ之ヲ更訂シ稅金ヲ減額スルコトヲ得

第十九條ノ十三　第十四條ノ六ノ規定ハ前條ノ規定ニ依リ課稅標準額ヲ更訂シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十條　納稅義務者他管内ニ轉居シタルトキハ十日以内ニ左ノ事項ヲ轉居地所轄署ニ申告スヘシ

一　營業場又ハ課稅物件ノ前所在地
二　第七條、第八條ノ申告事項
三　當期又ハ當月迄ノ納稅濟否

第二十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル納稅義務者ハ納稅管理人ヲ定メ連署シテ所轄署ニ申告スヘシ

一　營業場又ハ課稅物件ノ所轄署管外ニ居住スル者

二　滿一箇月以上ニ渉ル旅行ヲ爲ス者

第二十二條　營業稅納稅義務者ハ帳簿ヲ調製シ營業ニ關スル事項ヲ詳細ニ記載スヘシ

第二十三條　當該官吏ハ納稅義務者ノ住所營業所又ハ其ノ他ノ場所ニ就キ營業ニ關スル帳簿又ハ課稅物件ヲ調查スルコトヲ得

第二十四條　第七條乃至第十一條又ハ第十四條ノ五ノ申告ヲ怠リ若ハ虛僞ノ申告ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス其ノ脫稅ヲ爲シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十五條　本令ノ罰則ハ納稅義務者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條　明治三十三年法律第五十二條ノ規定ハ本令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

第二十七條　本令ハ明治四十五年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十八條　第一項但書ノ規定ハ本令施行前ノ關業ニシテ其ノ期間ヲ經過セサルモノニ之ヲ準用ス

（樣式略ス）

附　則（大正十年關東廳令第四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ年稅營業稅ノ稅率ニ關スル規定ハ大正十年分ヨリ、月稅營業稅ノ稅率ニ關スル規定ハ大正十年二月分ヨリ之ヲ適用ス

本令施行ノ際開業ノ翌月ヨリ起算シ第十四條ノ二第一項ニ揭ケル營業ヲ爲ス者ニシテ同規定ノ期間内ニ在ル者ニ付テハ本令ノ規定ヲ適用ス但シ營業稅ヲ課セサル期間ハ本令施行ノ際ニ於テ殘存スル期間ニ限ル

本令施行ノ際從前ノ規定ニ依リ現ニ課稅ノ猶豫ヲ受ケタル營業者ニシテ同規定ニ依ル課稅猶豫期間ノ滿了セサルモノニ付テハ前項ノ規定ニ依ルノ外其ノ期間ノ滿了スル迄仍從前ノ前二項ノ規定ニ該當スル營業者ハ開業ノ際ニ於ケル固定資本金及前年中各月末ニ於ケル固定資本金ノ調書ヲ本令施行後十日以内ニ提出スヘシ但シ銀行業又ハ保險業ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

（樣式）　用紙寸法適宜

領收證書	年度（何ノ款）（何ノ項）（何ノ目）
第　一金　（何）車	
年　月分	

領收濟通知書	年度（何ノ款）（何ノ項）（何ノ目）
第　一金　（何）車	
年　月分	

納付書	年度（何ノ款）（何ノ項）（何ノ目）
第　一金　（何）車	
年　月分	

（第二五號、一一年第一七號、一二年第一九號）

明治四十五年四月府令第十一號地方稅規則第二條特殊製造業ノ種目左ノ通定メ明治四十五年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

一　豆粕及豆油製造業
二　セメント製造業
三　高粱酒釀造業
四　醬油釀造業
五　石鹼製造業
六　硝子製造業
七　ソーライト製造業
八　人造肥料製造業
九　粉條子製造業
十　脂肪酸、グリセリン製造業
十一　礦物精煉業
十二　硬化油製造業
十三　トラスト製造業
十四　ビール製造業
十五　硫酸バリユーム製造業
十六　澱粉製造業
十七　ペイント製造業
十八　清酒製造業

●地方稅中車稅ノ徵收ニ付納付書使用方

（大正四年七月二十六日關東都督府令第二十一號）

地方稅中車稅ノ徵收ニ付テハ口頭ヲ以テ納都ヲ告知シ左記樣式ノ納付書ヲ使用スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（明治四十五年四月十五日關東都督府告示第四十七號　改正　大正二年第一〇四號、第一四三號、三年第一四號、五年第七八號、六年第一四號、第六五號、第一二五號、八年關東廳告示

（表）

右ニ同シ	右ニ同シ	右ニ同シ	右ニ同シ	右ニ同シ	右ニ同シ
右ニ同シ	右ニ同シ	右ニ同シ	右ニ同シ	右ニ同シ	右ニ同シ
右ニ同シ	右ニ同シ	右ニ同シ	右ニ同シ	右ニ同シ	右ニ同シ
右ニ同シ	右ニ同シ	右ニ同シ	右ニ同シ	右ニ同シ	右ニ同シ
右ニ同シ	右ニ同シ	右ニ同シ	右ニ同シ	右ニ同シ	右ニ同シ

注意事項

一、事稅ハ本票ヲ添ヘ毎月二十五日迄ニ關東州地方費現金取扱所（又ハ當署收入役）ニ納付スヘシ但シ六箇月分ヲ前納スルモ妨ケナシ

二、納期迄ニ完納セサルトキハ督促狀ヲ發セラレ金二十錢ノ手數料ヲ徵收セラルヘシ

三、車輛使用中ハ必ス本票ヲ携帶スヘシ

四、本票ヲ亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ再下付ヲ願出ツヘシ

右翻譯文

注意事項

一、凡車稅及本票俱限於每月二十五日以前徵納關東州地方費現金取扱所或本署收入役

但先徵六箇月份者亦可

二、對於已屆期尚未完納致發督促狀時卽徵收金二十錢之手數料

三、凡車輛使用中必須携帶本票

四、凡本票如有燈失時須申明事由再請領發

（何）車稅領收證	（何）民政支署
第　號	
何某	
（年月日交付）	

●關東州船舶稅規則

大正三年三月二十九日
關東都督府令第五號
改正　大正四年第三號

關東州船舶稅規則左ノ通定ム

第一條　第二條　削除

第三條　船舶稅ハ每年四月一日ノ現在ニ依リ之ヲ課ス

第四條　新ニ納稅義務ヲ生シタルトキハ九月三十日以前ニ於テハ年稅ノ全額ヲ、十月一日以後ニ於テハ其ノ半額ヲ課ス

第五條　納稅義務九月三十日以前ニ消滅シタルトキハ後期分ヲ免除ス

第六條　登簿噸數ニ增減ヲ生シタルトキハ其ノ增減噸數ニ對シテハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第七條　船舶所有者ハ每年四月一日ノ現在ニ依リ四月十五日迄ニ別記樣式ニ從ヒ所有船舶ノ登錄噸數ヲ所轄民政署ニ申告スヘシ

納稅義務四月一日以後ニ生シタルトキハ前項ニ準シ十日以內ニ申告スヘシ

第八條　納稅義務消滅シタルトキハ十日以內ニ之ヲ所轄民政署ニ申告スヘシ

第九條　船舶稅ノ納期ハ左ノ二期トス

前期（年額二分ノ一）　其ノ年九月

後期（年額二分ノ一）　翌年三月

納期終日前ニ於テ納稅義務消滅シタルトキハ其ノ未納ニ屬スル稅金ハ納期日ニ拘ラス之ヲ徵收ス

第十條　納稅義務者ニシテ關東州ニ住所又ハ主タル事務所ヲ有セサルトキハ關東州ニ現住スル納稅管理人ヲ定メ遞署ヲ以テ所轄民政署ニ申告スヘシ

第十一條　船舶所有者ニシテ第七條、第八條、第十條ノ申告ヲ怠リ又ハ虛僞ノ申告ヲ爲シ

タルトキハ科料ニ處スル其ノ記稅シタルモノハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十二條　本令ノ罰則ハ納稅義務者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ之ヲ法定代理人ニ適用シ會社其ノ他ノ法人ニ在リテハ其ノ代表者ニ適用ス但シ營業ニ關シ未成年者カ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

附　則

第十三條　本令ハ大正三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條　大正三年度ノ船稅ハ七月一日ノ現在ニ依リ之ヲ課シ其ノ前期納額ハ年額ノ四分ノ一トス

第十五條　本令發布ノ年ニ限リ第七條第一項ノ申告ハ七月一日ノ現在ニ依リ七月十五日迄ニ之ヲ爲スヘシ

（別記樣式）

船舶噸數申告書

船名	義務發生ノ年月日	登簿噸數	船籍港	所有者住所氏名

右之通候也

年　月　日

商號

氏名

民政署御中

備考　所有者法人ナルトキハ住所氏名欄ニ主タル事務所ノ所在地及名稱ヲ記載スヘシ

●市稅徵收ニ關スル件

大正十四年三月二十三日
關東廳令第十三號

市稅徵收ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　市稅滯納者ニ對シ關東州市制施行規則第七十條第一項ニ依リ督促ヲ爲シタル場合ニ於テハ一日ニ付稅金額百圓ニ付金三錢ノ割合ヲ以テ納期限ノ翌日ヨリ稅金完納又ハ財產差押ノ日ノ前日迄ノ日數ニ依リ計算シタル延滯金ヲ徵收スル但シ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキ又ハ督促狀ノ指定期限迄ニ稅金及督促手數料ヲ完納シタルトキ若ハ市長ニ於テ滯納ニ付酌量スヘキ情狀アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　令書一通ノ稅金額五圓未滿ナルトキ

二　納期ヲ繰上ケ徵收ヲ爲ストキ

三　納稅者ノ住所、居所カ關東州內ニ在ラサル爲又ハ其ノ住所、居所共ニ不明ナル爲公示送達ノ方法ニ依リ納稅ノ告知又ハ督促ヲ爲シタルトキ

第二條　納稅人左ノ場合ニ該當スルトキハ徵稅令書ヲ交付シタル市稅ニ限リ納期前ト雖之ヲ徵收スルコトヲ得

一　國稅徵收法ニ依ル滯納處分ヲ受クルトキ

二　强制執行ヲ受クルトキ

三　破產ノ宣告ヲ受ケタルトキ

四　競賣ノ開始アリタルトキ

五　法人カ解散ヲ爲シタルトキ

六　納稅人脫稅又ハ逋稅ヲ謀ルノ所爲アリト認ムルトキ

第三條　相續開始ノ場合ニ於テハ市稅、督促手數料、延滯金及滯納處分費ハ相續財團又ハ相續人ヨリ之ヲ徵收ス但シ戶主ノ死亡以外ノ原因ニ依リ家督相續ノ開始アリタルトキハ被相續人ヨリモ之ヲ徵收スルコトヲ得

國籍喪失ニ因ル相續人又ハ限定承認ヲ爲シタル相續人ノ相續ニ因リテ得タル財產ヲ限度トシテ市稅、督促手數料及滯納處分費ヲ納付スルノ義務ヲ有ス

第四條　共有物、共同事業、共同事業ニ因リ生シタル物件又ハ共同行爲ニ係ル市稅、督促手數料、延滯金及滯納處分費ハ納稅者連帶シテ其ノ義務ヲ負擔ス

第五條　同一年度ノ市稅ニシテ既納ノ稅金過納ナルトキハ爾後ノ納期ニ於テ徵收スヘキ同一稅目ノ稅金ニ充ツルコトヲ得

第六條　納稅義務者納稅地ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ納稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲納稅管理人ヲ定メ市長ニ申告スヘシ其ノ納稅管理人ヲ變更シタルトキ亦同シ

第七條　徵稅令書、督促狀及滯納處分ニ關スル書類ハ名宛人ノ住所又ハ居所ニ送達ス名宛人カ相續財團ニシテ財產管理人アルトキハ財產管理人ノ住所又ハ居所ニ送達ス

納稅管理人アルトキハ納稅ノ告知及督促ニ關スル書類ニ限リ其ノ住所又ハ居所ニ送達ス

第八條　書類ノ送達ヲ受クヘキ者其ノ住所又ハ居所ニ於テ書類ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ關東州內ニ住所、居所在ラサルトキ若ハ其ノ住所、居所共ニ不明ナルトキハ書類ノ要旨ヲ公告シ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ此ノ書類ノ送達アリタルモノト看做ス

第九條　市ハ關東長官ノ指定シタル市稅ニ付テハ其ノ徵收ノ便宜ヲ有スル者ヲシテ之ヲ徵收セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル徵收義務者ハ徵收スヘキ市稅ヲ市長ノ指定シタル期日迄ニ市ニ拂込ムヘシ

第十條　市ハ前條ノ規定ニ依ル徵收ノ費用トシテ拂込金額ノ百分ノ四ヲ徵收義務者ニ交付スヘシ

第十一條　第九條第一項ノ規定ニ依ル徵收義務者選ク（カラサル）災害ニ依リ既收ノ稅金ヲ失ヒタルトキハ其ノ稅金拂込義務ノ免除ヲ市長ニ申請スルコトヲ得

市長ハ前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ之ヲ市參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ決定書ノ交付アリタル日ヨリ起算シ十日以內ニ民政署長ニ不服ノ申立ヲ爲シ裁定ヲ請フコトヲ得

第十二條　第一條乃至第四條ノ規定ハ第九條第二項ノ規定ニ依ル拂込金ニ關シ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十四年三月二十三日
關東廳令第十四號

大正十四年關東廳令第十三號第九條第一項ノ規定ニ依リ左ノ市稅ヲ指定ス

遊興稅

附　則

本令ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十一年八月一日
勅令第三百五十六號

●南洋群島ニ於テ徵收スル租稅其ノ他ノ公課ノ徵收ニ關スル件

脫南洋群島ニ於テ徵收スル租稅其ノ他ノ公課ノ徵收ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシ

（編理大臣訓令）

南洋群島ニ於ケル租稅其ノ他ノ公課ノ徵收ニ關シテハ國稅徵收法第五條及第八條ノ規定ヲ除クノ外同法ニ依ル但シ同法中法律ヲ以テ定ムヘキ事項ニ關スル部分ハ勅令、帝國トアルハ南洋群島、市町村長トアルハ南洋廳支廳長、市町村吏員トアルハ南洋廳屬トス

南洋群島ニ於テ徵收スル租稅其ノ他ノ公課ノ督促手數料及延滯金ニ關シテハ國稅徵收法施行規則第十一條第二項及第十一條ノ二ノ規定ニ依ル但シ第十一條ノ二中帝國トアルハ南洋群島トス

南洋群島ニ於テ租稅其ノ他ノ公課ノ徵收ノ爲差押ヘタル動產、有價證券、不動產其ノ他ノ物件ノ公賣ニ關シテハ國稅徵收法施行規則第十八條乃至第二十八條ノ規定ニ依ル但シ第二十一條中市區町村內トアルハ南洋廳支廳管內トス

本令施行ニ關シ必要ナル規定ハ南洋廳長官之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●南洋群島租稅其ノ他ノ公課徵收規則

大正十一年九月一日南洋廳令第二十五號

南洋群島租稅其ノ他ノ公課徵收規則左ノ通定ム

第一條　南洋群島租稅其ノ他ノ公課徵收規則第十條支廳長租稅ヲ徵收セムトスルトキハ納稅義務者ニ對シ第一號樣式ノ納稅告知書ヲ發スヘシ但シ收入官吏ニ納付セシメル場合ニ於テハ口頭ヲ以テ告知スルコトヲ得

第二條　國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ納期ノ到ラサル稅金ヲ徵收セムトスルトキハ支廳長ハ納期日ヲ定メ前條ノ規定ニ依リ納稅告知書ヲ發シ且納期繰上ノ事由ヲ通知スヘシ但シ納稅告知書ヲ發シタル後ナルトキハ納期ノ變更ヲ通知スヘシ

第三條　納稅義務者納稅告知ヲ受ケタルトキハ稅金ニ納稅告知書ヲ添ヘ指定ノ場所ニ納付スヘシ

第四條　納稅義務者租稅ノ納付ニ關シ管理人ヲ定メ又ハ之ヲ變更シタルトキハ其ノ氏名、住所若ハ居所ヲ所轄支廳ニ申告スヘシ管理人其ノ氏名、住所若ハ居所ヲ變更シタルトキ亦同シ

第五條　支廳長國稅徵收法第九條ノ規定ニ依リ納稅ノ督促ヲ爲サムトスルトキハ納稅義務者ニ對シ延滯金ヲ徵收セサルモノニ付テハ第二號樣式、延滯金ヲ徵收スルモノニ付テハ第三號樣式ノ督促狀ヲ發スヘシ

督促狀ニハ第四號樣式ノ納付書ヲ添付スヘシ

第六條　納稅義務者前條ノ督促ヲ受ケ稅金及督促手數料ヲ納付スル場合ニ於テハ其ノ納稅告知書及納付書ヲ添附スヘシ

延滯金ハ稅金及督促手數料ト共ニ之ヲ納付スヘシ

第七條　支廳長ハ租稅滯納者ノ財產差押ヲ命ジタル官吏ニハ第五號樣式ノ證票ヲ交付スヘシ

第八條　收稅官吏財產ヲ差押ヘタルトキハ第六號樣式ノ差押調書ヲ作リ之ニ署名捺印スヘシ

國稅徵收法第二十一條ノ場合ニ於テハ收稅官吏ハ立會人ト共ニ差押調書ニ署名捺印スヘシ但シ立會人ニ於テ署名捺印ヲ拒ミ又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其ノ理由ヲ附記スヘシ

第九條　收稅官吏ハ差押調書ノ謄本ヲ滯納者及立會人ニ交付スヘシ但シ債權及所有權以外ノ財產權ノミヲ差押ヘタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十條　支廳長債權ノ差押ヲ爲ストキハ債務者ニ對シ第七號樣式ノ債權差押通知書ヲ發スヘシ

第十一條　支廳長質權又ハ抵當權ノ設定セラレタル財產ノ差押ヲ爲ストキハ其ノ權利者ニ對シ第八號樣式ノ財產差押通知書ヲ發スヘシ

國稅ニ對シ先取權ヲ有スル債權者前項ノ通知ヲ受ケ其ノ權利ヲ行使セムトスルトキハ證憑書類ヲ添ヘ其ノ事實ヲ證明スヘシ

第十二條　支廳長債權及所有權以外ノ財產權ノ差押ヲ爲ストキハ權利者ニ對シ第九號樣式ノ財產差押通知書ヲ發スヘシ

第十三條　差押フヘキ財產管轄區域外ニ在ルトキハ支廳長ハ其ノ財產所在地ヲ管轄スル支廳長ニ滯納處分ノ引繼ヲ爲スヘシ

第十四條　差押フヘキ財產數人ノ共有ニ係ルトキハ滯納者ニ屬スル持分ニ就キ滯納處分ヲ爲シ其ノ持分ノ定メナキトキハ持分相均キモノトシテ處分スヘシ

第十五條　左ノ場合ニ於テハ收稅官吏ハ財產ノ差押ヲ解クヘシ

一　差押物件滯納者ノ權利ニ屬セサルコト判明シタルトキ

二　公賣期日ノ前日迄ニ滯納者又ハ第三者ヨリ督促手數料、延滯金、滯納處分費及稅金ヲ完納シタルトキ

三　財產ヲ差押ヘタル後國稅徵收法第十二條ノ規定ニ依リ滯納處分ノ執行ヲ止ムヘキコトヲ發見シタルトキ

第十六條　公賣財產ノ見積價額ハ時價ニ依リ之ヲ定ムヘシ

公賣財產ニシテ其ノ價格ヲ見積リ難キモノアルトキハ適當ナル鑑定人ヲ選ヒ其ノ評價ヲ爲サシムルコトヲ得

第十七條　入札ノ方法ヲ以テ財產ヲ公賣スル場合ニハ買受望人ハ其ノ住所、氏名、買受財產ノ種類、員數及入札價格ヲ記シタル入札書ヲ封緘シテ差出スヘシ

第十八條　入札及開札ハ公告ニ示シタル場所、日時ニ入札人又ハ其ノ代理人出席セサルトキハ其立會ヲ要セスシテ之ヲ行フコトヲ得

第十九條　競賣ノ方法ヲ以テ財產ヲ公賣スルトキハ競賣人ヲ選ヒ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第二十條　財產公賣ノ場合ニ於ケル加入保證金ハ買受望人各自ノ見積價格百分ノ五以上契約保證金ハ買受價格百分ノ十以上トシ公賣ノ時時之ヲ定ム

第二十一條　國稅徵收法第二十五條ノ規定ニ依リ隨意契約ヲ以テ財產ヲ賣却セムトスルトキハ特別ノ事由アル場合ヲ除ク外二人以上ノ買受望人ヨリ價格見積書ヲ提出シタル者ニ之ヲ賣却スヘシ但シ買受望人ノ金額カ見積價格ニ達セサルトキハ更ニ價格見積書ヲ徵スルコトヲ得

第二十二條　滯納處分ヲ結了シタルトキハ支廳長ハ第十一號樣式ノ計算書ヲ作リ之ヲ滯納者ニ交付スヘシ

賣却シタル財產ニ對シ賣權又ハ抵當權ヲ有スル者ハ其ノ計算ニ關スル記錄ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第二十三條　公賣財產ノ買受人又ハ競賣人ハ納付書ヲ添ヘ其ノ代金ヲ納付スヘシ

第二十四條　租稅ノ徵收ニ關スル書類ノ送達ハ使丁ニ依ルヘシ

督促又ハ滯納處分ニ關シ使丁ヲ以テ書類ノ送達ヲ爲ストキハ第十一號樣式ノ送達書ニ受取人ヲシテ記名捺印セシムヘシ

第二十五條　納稅ノ告知、督促及滯納處分ニ關スル公告ハ支廳ノ揭示場其ノ他適當ノ場所ニ揭示シテ之ヲ爲スヘシ但シ必要ト認ムルトキハ他ノ方法ニ依ルコトヲ得

第二十六條　本令ハ租稅以外ノ公課ノ徵收ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一樣式　用紙適宜輪郭寸法縱四寸五分ノモノ二枚續二寸三分ノモノ一枚接續

納稅告知書

第「何」號

大藏省主管　南洋廳特別會計　南洋廳歲入(款)　租　稅(項)

一金「何　程」

右大正「何」年「何」月「何」日限何支廳(又ハ日本銀行)ヘ納付スヘシ

大正「何」年「何」月「何」日

「何」支廳長　官氏　名　印

通知書

第「何」號

大藏省主管　南洋廳特別會計　「何」年度　南洋廳歲入(款)　「何」島「何」「何」番地　某　納　租　稅(項)

一金「何　程」

大正「何」年「何」月「何」日領收

歲入徵收官(又ハ歲入徵收分掌官)官氏名　印

領收證書

第「何」號

南洋廳特別會計　「何」年度　「何」島「何」「何」番地　某　納　租　稅(項)

一金「何　程」

大正「何」年「何」月「何」日領收

「何」支廳收入官吏　官氏　名　印

(又ハ)　日本銀行　印

備考

一、領收證書及通知書用紙ノ金額、年度科目等ノ總テ納稅告知書發行者ニ於テ記入スヘシ

二、收入官吏本書ニ依リ稅金ヲ領收スルトキハ大正十一年大藏省令第二十號ノ現金領收證書ヲ發行スルコトヲ要ス

三、收入官吏ニ於テ稅金ノ領收ヲ爲ストキ督促手數料延滯金ノ收入ヲ要スルモノアルトキハ本書中ニ科目金額ヲ益記シ第四號樣式ノ納付書ヲ省略スルコトヲ得

但シ所屬年度ヲ異ニスルトキハ此限ニ在ラス

四、收入官吏ニ於テ稅金ノ領收ヲ爲ストキハ本書式納稅告知書中條白ニ領收濟年月日ヲ記入シ檢印ヲ爲シ領收濟通知書ヲ省略スルコトヲ得

注意　稅金納付ノ際ハ納稅告知書ヲ持參スヘシ

第二號樣式　用紙適宜

督促狀

第「何」號

南洋廳特別會計　「何」年度　南洋廳歲入(款)　「何」島「何」「何」番地　某　納　租　稅(項)

一金「何　程」

一金　拾　錢

右大正「何」年「何」月「何」日限「何」支廳ヘ納付スヘシ

若シ其ノ期限ヲ過キ完納セサルトキハ直ニ財產差押ノ處分ヲ爲スヘシ

大正「何」年「何」月「何」日

「何」支廳長「官氏　名」印

備考

一、同一納期ノモノハ竝記スヘシ

二、本書ハ納付書ト連接セシムルコトヲ得

第三號樣式　用紙適宜

督促狀

第「何」號

南洋廳特別會計　「何」年度　南洋廳歲入(款)　「何」島「何」「何」番地　某　納　租　稅(項)

一金「何　程」

一金　拾　錢

一納期限ノ翌日ヨリ稅金百圓ニ付一日三錢ノ割合ニ依ル金額

延滯金

右大正「何」年「何」月「何」日限「何」支廳ヘ納付スヘシ

指定期限迄ニ稅金及督促手數料ヲ完納シタルトキハ延滯金ヲ徵收セス

指定期限ヲ過キ完納セサルトキハ直ニ財產ノ差押ノ處分ヲ爲スヘシ

大正「何」年「何」月「何」日

「何」支廳長「官氏　名」印

備考

一、同一納期ノモノハ竝記スヘシ

二、本書ハ納付書ト連接セシムルコトヲ得

第四號樣式　用紙適宜輪廓寸法縦四寸五分横三寸三分ノモノ二枚縦四寸五分横二寸五分ノモノ一枚接續

納付書

「何」年度南洋廳特別會計			「何」島「何」「何」番地「某」納
大藏省主管	「何」	廳	「何」（款）	「何」（項）

「何」年「何」期分

一金「何程」　「何」稅（目）

大正「何」年「何」月「何」日

通知書

「何」年度南洋廳特別會計			「何」島「何」「何」番地「某」納
大藏省主管	「何」	廳	「何」（款）	「何」（項）

「何」年「何」期分

一金「何程」　「何」稅（目）

大正「何」年「何」月「何」日

「何」支廳收入官吏　官氏　名㊞

（又ハ）

日本銀行㊞

歲入徵收官（又ハ歲入徵收分掌官）官氏名宛

領收書

「何」年「何」期分

一金「何程」　「何」稅（目）

大正「何」年「何」月「何」日

「何」支廳收入官吏　官氏　名㊞

（又ハ）

日本銀行㊞

備考

一、本書式中ノ金額、年度、科目等ハ納付書發行者ニ於テ記入スヘシ

二、收入官吏本書ニ依リ稅金ヲ領收スルトキハ大正十一年大藏省令第二十號ノ現金領收證書ヲ發行スルコトヲ要セス

三、收入官吏ニ於テ稅金ノ領收ヲ爲ストキハ本書式納付書中餘白ニ領收濟年月日ヲ記シ檢印ヲ爲シ領收濟通知書ヲ省略スルコトヲ得

第五號樣式　用紙厚紙輪廓寸法縦四寸五分横三寸五分

第「何」號

租稅滯納者財產差押票

表

支廳印

裏

「何支廳」

官氏名

第六號樣式

差押調書

「何」島「何」「何」番地

滯納者「何」　某」

一、差押財產ノ表示

（名稱、數量、性質、所在其ノ他重要ナル事項）

右大正「何」年度「何」稅「何」期分滯納金「何程」督促手數料（延滯金滯納處分費）「何程」徵收ノ爲大正「何」年「何」月「何」日本人（又ハ本人不在ニ付何某）立會ノ上前記ノ財產ヲ差押フルモノ也

大正「何」年「何」月「何」日「何所」ニ於テ此ノ調書ヲ作ル

「何」支廳「官氏」名」㊞

「何」島「何」「何」番地

立會人「何」某」㊞

備考

滯納者又ハ立會人ニ本書ノ謄本ヲ交付シ若ハ差押財產ノ保管ヲ爲サシムルトキハ本書ノ末尾ニ受領又ハ保管ノ旨ヲ記入シ署名捺印セシメ受領又ハ保管證ニ代用スルコトヲ得

第七號樣式

債權差押通知書

「何」島「何」「何」番地

債權者「何　某」

「何」島「何」「何」番地

債務者「何　某」

一金「何程」

內

金「何程」

（名稱、數量、性質、所在其ノ他ノ重要ナル事項）

大正「何」年度「何」稅「何」期分滯納金「何程」督促手數料及延滯金「何程」徵收ノ爲前記ノ財產ヲ差押フルモノ也

右通知ス

大正「何」年「何」月「何」日

「何」支廳長

「官氏　名」㊞

第十號樣式

計算書

「何」島「何」「何」番地

滯納者「官　某」

收入支出額		種目	金額
通貨		督促手數料	一〇〇
何何公賣代金	三九〇〇	延滯金	二〇〇
何何公賣代金	一〇〇〇〇	滯納處分費	二〇〇
		債權者（債務者）ヘ交付	一〇〇〇
		稅金	三四〇〇〇
		債權者ヘ交付	五五〇〇
		滯納者ヘ還付	五〇〇
計	五〇〇〇	計	五〇〇〇

右ノ通

大正「何」年「何」月「何」日

「何」支廳長

「官氏　名」㊞

第十一號樣式

送達書

送達シタル書名通數

名宛人ノ住所又ハ居所及氏名

受取人ノ署名捺印

送達シタル日時	
受取人ナキトキ又ハ受取若ハ署名捺印ヲ拒ミタルトキハ其ノ理由	

使丁「何」某㊞

●南洋群島人頭稅規則

大正十一年七月十八日
勅令第三百五十五號
改正　大正十一年勅令第三五號

南洋群島人頭稅規則左ノ通定ム

第一條　島民ニ非サル十六歲以上ノ男子ニシテ南洋群島ニ居住スル者ニハ本令ニ依リ人頭稅ヲ課ス

第二條　人頭稅ハ年額十圓以內トス

支廳長ハ土地ノ狀況及舊慣ニ依リ南洋廳長官ノ認可ヲ得テ其ノ稅額ヲ定ム

支廳長ハ資產ヲ有スル島民ニ對シテハ南洋廳長官ノ認可ヲ得テ年額四十圓迄ノ人頭稅ヲ賦課スルコトヲ得

第三條　人頭稅ハ所轄支廳長之ヲ賦課徵收ス

第四條　人頭稅ハ每年四月一日現在ニ依リ之ヲ賦課ス

第五條　左ニ揭ク者ニハ人頭稅ヲ課セス但シ資產ヲ有スル島民ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一、十六歲未滿ノ兒童五人以上ヲ扶養スル者

二、老衰又ハ不具廢疾ニ依リ勞動ニ堪エサル者

第六條　人頭稅ノ納期ハ六月下旬但シ支廳長ハ土地ノ狀況ニ依リ南洋廳長官ノ認可ヲ得テ納期ヲ變更シ又ハ年二期ニ分割徵收スルコトヲ得

第六條ノ二　支廳長ハ災害ニ罹リタル地域ニ居住スル者其ノ他特別ノ事情アリト認ムル者ニハ南洋廳長官ノ認可ヲ得人頭稅ヲ免除スルコトヲ得

第七條　支廳長ハ管內村長ニ諮問シ人頭稅ヲ賦課スヘシ

第八條　村長ハ各管內ノ納稅義務者ヨリ人頭稅ヲ徵收シ之ヲ所轄支廳長ニ納付スヘシ

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正四年十月南洋群島民政令第四號南洋群島人頭稅規則ハ之ヲ廢止ス

大正十一年度ノ納期ハ前期分ニ限リ九月下旬ト

●南洋群島島民人頭稅規則

大正十一年七月十八日
南洋廳令第十六號
改正　大正十一年第三六號

南洋群島島民人頭稅規則左ノ通定ム

第一條　島民ニシテ南洋群島內ニ居住スル十六歲以上ノ男子

票樣式左ノ通相定ム

樣式　用紙厚質白紙縦四寸　横二寸五分

第何號

何稅務監督局（又ハ何稅務署）

官氏名

何設置監督局

敎稅官吏章

（又ハ何稅務署）

大正何年何月何日交付

何稅務監督局（又ハ何稅務署）

●間接國稅犯則者處分法施行上ノ心得

明治三十三年三月二十四日大藏省訓令第八號改正　明治四十一年第七號

【稅務管理局】

間接國稅犯則者處分法施行上左ノ通心得ヘシ

第一條　敎稅官吏臨檢捜索ヲ爲スハ犯則ノ嫌疑ヲ起ニ足ルヘキ事實アリタルトキニ於テノミ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二條　敎稅官吏犯則嫌疑者參考人ヲ尋問スルハ犯則ノ現場又ハ尋問ヲ受ケヘキ者ノ所在ニ就テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三條　差押物件ニハ當ニ注意ヲ爲シ腐敗其ノ他損傷ノ虞アルトキハ時機ヲ失セス公賣ニ付シ其ノ代金ノ供託ヲ爲スコトヲ要ス但急速ヲ要スル場合ノ外ハ成ルヘク公賣前差押當時ノ所持者ノ意見ヲ聞クコトヲ要ス

第四條　敎稅官吏證憑ヲ他ノ稅務署ノ敎稅官吏ニ引繼ク場合ニ於テハ所屬稅務署長ヲ經由スルコトヲ要ス

第五條　犯則事件ノ調査及處分ハ速ニ結了スルコトヲ要ス故ナク遲滯スルカ如キコトアルヘカラス

第六條　稅務署長通告ヲ爲ス場合ニ於テハ成ルヘク犯則者ノ住所地又ハ居所地所轄ノ稅務署ヲ指定シテ金錢物品ノ納付所ト爲スコトヲ要ス但シ沒收品ニ該當スル物品ニ付テハ特ニ場所ヲ指定シテ納付セシムル必要アル場合ヲ除クノ外納付ノ申出ノミヲ爲スヘキ旨ヲ通告スルコトヲ要ス

第七條　通告書ハ金錢物品ノ納付所ト指定シタル稅務署ヲ經由シテ送達スルコトヲ要ス

第八條　稅務署長犯則事件ヲ調査シ犯則ノ心證ヲ得サルトキハ速ニ其ノ旨ヲ犯則嫌疑者ニ通知シ且ツ差押物件ノ解除ヲ當該官吏ニ命スルコトヲ要ス

差押解除ノ命合ヲ受ケタル當該官吏ハ直ニ之レカ解除ヲ爲スコトヲ要ス

右訓令ス

●法人ニ於テ租稅ニ關シ事犯アリタル場合ニ關スル法律

明治三十三年三月十三日法律第五十二號

改正　大正八年第三九號第五八號、一〇年第五九號

朝鮮總督府令第百二十二號

朝鮮間接國稅犯則者處分令施行規則左ノ通定ム

第一條　朝鮮間接國稅犯則者處分令施行規則ハ左ノ國稅トス

一　酒稅

二　煙草稅

三　取引稅

四　印紙稅

五　砂糖消費稅

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮間接國稅犯則者處分令

大正三年八月二十一日朝鮮總督府令第百二十二號改正　大正八年第三九號第五八號、一〇年第五九號

朝鮮間接國稅犯則者處分令施行規則ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正八年八月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮間接國稅犯則者處分令

大正三年八月二十一日制令第二十四號改正　大正二年第八號

朝鮮間接國稅犯則者處分令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

朝鮮間接國稅犯則者處分令

第一條　朝鮮間接國稅犯則者ノ處分ニ關シテハ朝鮮間接國稅犯則者處分法ニ依ル

第二條　朝鮮間接國稅犯則者處分法中敎稅官吏ニ屬スル職務ノ府郡島ノ稅務官吏、稅務署長ニ屬スル職務ノ府尹郡守島司之ヲ行フ但シ輸入又ハ移入ノ酒類ノ酒稅竝砂糖、糖蜜及糖水ノ消費稅ニ關スル犯則事件ニ付テハ敎稅官吏ニ屬スル職務ハ稅關官吏、稅務署長ニ屬スル職務ハ稅關長之ヲ行フコトヲ得

第三條　間接國稅犯則者處分法中勅令トアルハ朝鮮總督府令、稅務署ト、アルハ府郡島又ハ稅關トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮間接國稅犯則者處分令施行規則

大正三年八月二十一日朝鮮總督府令第百二十二號改正　大正八年　第三九號第五八號、一〇年第五九號

朝鮮間接國稅犯則者處分令施行規則左ノ通定ム

第一條　朝鮮間接國稅犯則者處分令施行規則ハ左ノ國稅トス

一　酒稅

二　煙草稅

三　取引稅

四　印紙稅

五　砂糖消費稅

第二條　稅務官吏、物件、帳簿、書類等ヲ差押ヘタル場合ニ於テ所有者、所持者又ハ府面ヲシテ保管セシムルトキハ封印其ノ他ノ方法ヲシテ間接國稅犯則者處分法施行規則第一條及第十四條ノ規定ニ依ル

第二條　朝鮮、臺灣又ハ南洋群島ヨリ內地又ハ樺太ニ移出スル物品ニ關シ移出地ノ法令ニ關スル法律ヲ準用ス

第三條　朝鮮、臺灣又ハ南洋群島ニ於テ第一條ニ該當スル罪ニ付處分又ハ處罰セラレタルトキハ同一事件ニ付本法ニ依ル處分又ハ處罰ヲ受クルコトナシ

第四條　朝鮮、臺灣又ハ南洋群島ニ於テ第一條ニ該當スル罪ニ付處分又ハ處罰セラレタルトキハ同一事件ニ付本法ニ依ル處分又ハ處罰ヲ受クルコトナシ

第五條　間接國稅犯則者處分法及明治三十三年法律第五十二號ノ本法ニ依ル犯則事件ニ付之ヲ準用ス但シ間接國稅犯則者處分法ニ定メタル職務ヲ行フヘキ官吏ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本法ハ大正九年八月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

●大正九年法律第五十二號施行ニ關スル件

大正九年八月二十六日勅令第三百二號

大正九年法律第五十二號施行ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（樞密大顧問署名）

駿大正九年法律第五十二號施行ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（樞密大顧問署名）

大正九年法律第五十二號施行ニ關スル件

第一條　法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ租稅【及葉煙草專賣】ニ關スル法規ヲ犯シタル場合ニ於テハ各法規ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用スル外其ノ罰則ニ於テ罰金科料以外ノ刑ニ處スヘキコトヲ規定シタルトキハ法人ヲ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條　【法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス】

第三條　法人ヲ處罰スルノ裁判確定シタル日ヨリ罰金ニ關シテハ一月以內科料ニ關シテハ十日以內ニ之ヲ納完セサルトキハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ其ノ執行ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ檢事ノ命令ヲ以テ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ效力アルモノトス

前項ニ依リ執行ヲ爲スニハ執行前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

●朝鮮臺灣又ハ南洋群島ヨリ移出シタル物品ノ內地又ハ樺太ニ於ケル取締ニ關スル法律

駿帝國議會ノ協賛ヲ經タル朝鮮又ハ臺灣ヨリ移出シタル物品ノ內地又ハ樺太ニ於ケル取締ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（樞密大顧問署名）

第一條　朝鮮、臺灣又ハ南洋群島ヨリ內地又ハ樺太ニ移出スル物品ニ關シ移出地ノ法令ニ依リテ課セラルヘキ出港稅ヲ通脫シタル者ハ其ノ出港稅ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ出港稅ニ相當スル金額ヲ徵收スル但シ罰金額ハ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ出港稅ニ相當スル金額ノ徵收ニ付テハ國稅徵收ノ例ニ依ル

第二條　前條ノ出港稅ヲ逋脫シタル物品ノ運搬、寄藏、收受、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三條　第一條ノ罪ニ付テハ刑法第三十八條及第六十六條ノ例ヲ用ヰス

第四條　朝鮮、臺灣又ハ南洋群島ニ於テ第一條ニ該當スル罪ニ付處分又ハ處罰セラレタルトキハ同一事件ニ付本法ニ依ル處分又ハ處罰ヲ受クルコトナシ

第五條　間接國稅犯則者處分法及明治三十三年法律第五十二號ノ本法ニ依ル犯則事件ニ付之ヲ準用ス但シ間接國稅犯則者處分法ニ定メタル職務ヲ行フヘキ官吏ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本法ハ大正九年八月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

●大正九年法律第五十二號施行ニ關スル件

大正九年八月二十六日勅令第三百二號

駿大正九年法律第五十二號施行ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（樞密大顧問署名）

大正九年法律第五十二號施行ニ關スル件

第一條　法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ租稅【及葉煙草專賣】ニ關スル法規ヲ犯シタル場合ニ於テハ各法規ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用スル外其ノ罰則ニ於テ罰金科料以外ノ刑ニ處スヘキコトヲ規定シタルトキハ法人ヲ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條　【法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス】

第三條　法人ヲ處罰スルノ裁判確定シタル日ヨリ罰金ニ關シテハ一月以內科料ニ關シテハ十日以內ニ之ヲ納完セサルトキハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ其ノ執行ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ檢事ノ命令ヲ以テ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ效力アルモノトス

前項ニ依リ執行ヲ爲スニハ執行前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

●朝鮮臺灣又ハ南洋群島ヨリ移出シタル物品ノ內地又ハ樺太ニ於ケル取締ニ關スル法律

駿帝國議會ノ協賛ヲ經タル朝鮮又ハ臺灣ヨリ移出シタル物品ノ內地又ハ樺太ニ於ケル取締ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（樞密大顧問署名）

第一條　朝鮮、臺灣又ハ南洋群島ヨリ內地又ハ樺太ニ移出スル物品ニ關シ移出地ノ法令ニ依リテ課セラルヘキ出港稅ヲ通脫シタル者ハ其ノ出港稅ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ出港稅ニ相當スル金額ヲ徵收スル但シ罰金額ハ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ出港稅ニ相當スル金額ノ徵收ニ付テハ國稅徵收ノ例ニ依ル

第二條　前條ノ出港稅ヲ逋脫シタル物品ノ運搬、寄藏、收受、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三條　第一條ノ罪ニ付テハ刑法第三十八條及第六十六條ノ例ヲ用ヰス

第四條　朝鮮、臺灣又ハ南洋群島ニ於テ第一條ニ該當スル罪ニ付處分又ハ處罰セラレタルトキハ同一事件ニ付本法ニ依ル處分又ハ處罰ヲ受クルコトナシ

第五條　間接國稅犯則者處分法及明治三十三年法律第五十二號ノ本法ニ依ル犯則事件ニ付之ヲ準用ス但シ間接國稅犯則者處分法ニ定メタル職務ヲ行フヘキ官吏ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本法ハ大正九年八月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

●大正九年法律第五十二號施行ニ關スル件

大正九年八月二十六日勅令第三百二號

駿大正九年法律第五十二號施行ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（樞密大顧問署名）

大正九年法律第五十二號施行ニ關スル件

第一條　法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ租稅【及葉煙草專賣】ニ關スル法規ヲ犯シタル場合ニ於テハ各法規ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用スル外其ノ罰則ニ於テ罰金科料以外ノ刑ニ處スヘキコトヲ規定シタルトキハ法人ヲ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條　【法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス】

第三條　法人ヲ處罰スルノ裁判確定シタル日ヨリ罰金ニ關シテハ一月以內科料ニ關シテハ十日以內ニ之ヲ納完セサルトキハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ其ノ執行ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ檢事ノ命令ヲ以テ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ效力アルモノトス

前項ニ依リ執行ヲ爲スニハ執行前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

●朝鮮臺灣又ハ南洋群島ヨリ移出シタル物品ノ內地又ハ樺太ニ於ケル取締ニ關スル法律

駿帝國議會ノ協賛ヲ經タル朝鮮又ハ臺灣ヨリ移出シタル物品ノ內地又ハ樺太ニ於ケル取締ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（樞密大顧問署名）

第一條　朝鮮、臺灣又ハ南洋群島ヨリ內地又ハ樺太ニ移出スル物品ニ關シ移出地ノ法令ニ依リテ課セラルヘキ出港稅ヲ通脫シタル者ハ其ノ出港稅ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ出港稅ニ相當スル金額ヲ徵收スル但シ罰金額ハ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ出港稅ニ相當スル金額ノ徵收ニ付テハ國稅徵收ノ例ニ依ル

第二條　前條ノ出港稅ヲ逋脫シタル物品ノ運搬、寄藏、收受、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三條　第一條ノ罪ニ付テハ刑法第三十八條及第六十六條ノ例ヲ用ヰス

第四條　朝鮮、臺灣又ハ南洋群島ニ於テ第一條ニ該當スル罪ニ付處分又ハ處罰セラレタルトキハ同一事件ニ付本法ニ依ル處分又ハ處罰ヲ受クルコトナシ

第五條　間接國稅犯則者處分法及明治三十三年法律第五十二號ノ本法ニ依ル犯則事件ニ付之ヲ準用ス但シ間接國稅犯則者處分法ニ定メタル職務ヲ行フヘキ官吏ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本法ハ大正九年八月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

チ以テ差押チ明白ニスヘシ

第三條　差押目錄ニハ物件ノ品名、數量、帳簿、書類ノ名稱、員數、差押ノ場所及時、所持者ノ住所又ハ居所、氏名チ記載スヘシ

第四條　稅務官吏物件、帳簿、書類等チ差押ヘタル場合ニ於テ之チ官廳又ハ府面ニ送致スルトキハ差押目錄ノ謄本チ其ノ所持者ニ交付スヘシ

第五條　稅務官吏府面チシテ差押物件ノ保管チ爲サシムルトキハ其ノ旨チ差押當時ノ所持者ニ通知スヘシ

第六條　府尹又ハ郡守間接國稅犯則者處分法第七條第三項ニ依リ差押物件チ公賣スルトキハ物件ノ品名、數量、公賣ノ事由、公賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項チ公告スヘシ

第七條　府尹又ハ郡守間接國稅犯則者處分法第七條第三項ニ依リ差押物件ノ公賣代金チ供託シタルトキハ其ノ金額ト共ニ其ノ旨チ差押當時ノ所持者ニ通知スヘシ

第八條　稅務官吏臨檢、捜索、尋問又ハ差押チ爲シタルトキ調製スル顚末書ニハ臨檢、捜索、尋問又ハ差押ノ事實、場所及時竝供述ノ要領チ記載スヘシ

第九條　間接國稅犯則者處分法第十四條第一項ノ通告ハ通告書チ送達シテ之チ爲スヘシ

第十條　通告書ノ送達ハ使丁ニ依リテ之チ爲シ其ノ受領證チ徵スヘシ但シ配達證明郵便チ以テ送達チ爲スコトチ得

第十一條　府尹又ハ郡守間接國稅犯則者處分法第十九條ニ依リ犯則ノ心證チ得サル旨チ通知スル場合ニ於テ同法第七條第三項ニ依リ供託シタル金額アルトキハ供託受領證ニ供託金チ受取ルヘキ事由チ記載スヘキ書面チ添附シ之チ差押當時ノ所持者ニ交付スヘシ

第十二條　稅務官吏臨檢、捜索、尋問又ハ差押チ爲スニ當リ通譯チ介シタルトキハ間接國稅犯則者處分法第十條ニ依リ作成スル顚末書チ通譯ニ讀ミ聞カセ之ニ署名捺印セシムヘシ其ノ通譯署名捺印スルコト能ハサルトキハ其ノ旨チ附記スヘシ

第十三條　犯則事件ノ調査及處分ニ關スル書類ニハ每葉契印スヘシ文字ノ挿入、削除又ハ欄外ノ記入チ爲シタルトキハ之ニ認印スヘシ文字チ削除スルトキハ其ノ字體チ存シ置キ其ノ字數チ記載スヘシ

第十四條　稅務官吏ハ直接ト間接トチ問ハス

●間接國稅犯則者處分法施行ニ關スル件

大正十一年一月一日勅令第二號

【稅務管理局】

第一條　間接國稅犯則者處分法第十四條第一項ノ通告ハ通告書チ送達シテ之チ爲スヘシ

第二條　間接國稅犯則者處分法第十四條第一項ノ通告書ハ犯則者ノ住所又ハ居所ニ於テ之チ交付スヘシ

第三條　犯則者ノ住所又ハ居所ニ於テ通告書チ送達スルコト能ハサルトキハ其ノ住所又ハ居所ノ門戶ニ通告書ノ要領チ揭示スヘシ

第四條　犯則者ノ住所又ハ居所ニ於テ通告書チ送達シタル場合ニ於テハ其ノ旨チ犯則者ノ雇主又ハ其ノ代理人ニ通知スヘシ

第五條　犯則者ノ住所又ハ居所ニ於テ通告書チ送達スルコト能ハサル場合ニ於テハ其ノ旨チ犯則者ノ住所又ハ居所ノ門戶ニ揭示スヘシ

第六條　犯則者ノ住所又ハ居所ニ於テ通告書チ送達シタル場合ニ於テハ其ノ旨チ犯則者ノ雇主又ハ其ノ代理人ニ通知スヘシ

第七條　通告書ハ金錢物品ノ納付所ト指定シタル稅務署ヲ經由シテ送達スルコトチ要ス

第八條　稅務署長犯則事件チ調査シ犯則ノ心證チ得サルトキハ速ニ其ノ旨チ犯則嫌疑者ニ通知シ且ツ差押物件ノ解除チ當該官吏ニ命スルコトチ要ス

差押解除ノ命合チ受ケタル當該官吏ハ直ニ之レカ解除チ爲スコトチ要ス

右訓令ス

●法人ニ於テ租稅ニ關シ事犯アリタル場合ニ關スル法律

明治三十三年三月十三日法律第五十二號

改正　大正八年第三九號第五八號、一〇年第五九號

朝鮮總督府令第百二十二號

朝鮮間接國稅犯則者處分令施行規則左ノ通定ム

第一條　朝鮮間接國稅犯則者處分令施行規則ハ左ノ國稅トス

一　酒稅

二　煙草稅

三　取引稅

四　印紙稅

五　砂糖消費稅

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮間接國稅犯則者處分令

大正三年八月二十一日制令第二十四號改正　大正二年第八號

朝鮮間接國稅犯則者處分令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁チ得テ玆ニ之チ公布ス

朝鮮間接國稅犯則者處分令

第一條　朝鮮間接國稅犯則者ノ處分ニ關シテハ朝鮮間接國稅犯則者處分法ニ依ル

第二條　朝鮮間接國稅犯則者處分法中敎稅官吏ニ屬スル職務ノ府郡島ノ稅務官吏、稅務署長ニ屬スル職務ノ府尹郡守島司之ヲ行フ但シ輸入又ハ移入ノ酒類ノ酒稅竝砂糖、糖蜜及糖水ノ消費稅ニ關スル犯則事件ニ付テハ敎稅官吏ニ屬スル職務ハ稅關官吏、稅務署長ニ屬スル職務ハ稅關長之ヲ行フコトヲ得

第三條　間接國稅犯則者處分法中勅令トアルハ朝鮮總督府令、稅務署ト、アルハ府郡島又ハ稅關トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮間接國稅犯則者處分令施行規則

大正三年八月二十一日朝鮮總督府令第百二十二號改正　大正八年　第三九號第五八號、一〇年第五九號

朝鮮間接國稅犯則者處分令施行規則ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正八年八月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮間接國稅犯則者處分令

大正三年八月二十一日制令第二十四號改正　大正二年第八號

朝鮮間接國稅犯則者處分令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁チ得テ玆ニ之チ公布ス

朝鮮間接國稅犯則者處分令

第一條　朝鮮間接國稅犯則者ノ處分ニ關シテハ朝鮮間接國稅犯則者處分法ニ依ル

第二條　朝鮮間接國稅犯則者處分法中敎稅官吏ニ屬スル職務ノ府郡島ノ稅務官吏、稅務署長ニ屬スル職務ノ府尹郡守島司之ヲ行フ但シ輸入又ハ移入ノ酒類ノ酒稅竝砂糖、糖蜜及糖水ノ消費稅ニ關スル犯則事件ニ付テハ敎稅官吏ニ屬スル職務ハ稅關官吏、稅務署長ニ屬スル職務ハ稅關長之ヲ行フコトヲ得

第三條　間接國稅犯則者處分法中勅令トアルハ朝鮮總督府令、稅務署ト、アルハ府郡島又ハ稅關トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮間接國稅犯則者處分令施行規則

大正三年八月二十一日朝鮮總督府令第百二十二號改正　大正八年　第三九號第五八號、一〇年第五九號

朝鮮間接國稅犯則者處分令施行規則左ノ通定ム

第一條　朝鮮間接國稅犯則者處分令施行規則ハ左ノ國稅トス

一　酒稅

二　煙草稅

三　取引稅

四　印紙稅

五　砂糖消費稅

第二條　稅務官吏、物件、帳簿、書類等ヲ差押ヘタル場合ニ於テ所有者、所持者又ハ府面ヲシテ保管セシムルトキハ封印其ノ他ノ方法ヲシテ間接國稅犯則者處分法施行規則第一條及第十四條ノ規定ニ依ル

第二條　朝鮮、臺灣又ハ南洋群島ヨリ內地又ハ樺太ニ移出スル物品ニ關シ移出地ノ法令ニ關スル法律ヲ準用ス

第三條　朝鮮、臺灣又ハ南洋群島ニ於テ第一條ニ該當スル罪ニ付處分又ハ處罰セラレタルトキハ同一事件ニ付本法ニ依ル處分又ハ處罰ヲ受クルコトナシ

第四條　朝鮮、臺灣又ハ南洋群島ニ於テ第一條ニ該當スル罪ニ付處分又ハ處罰セラレタルトキハ同一事件ニ付本法ニ依ル處分又ハ處罰ヲ受クルコトナシ

第五條　間接國稅犯則者處分法及明治三十三年法律第五十二號ノ本法ニ依ル犯則事件ニ付之ヲ準用ス但シ間接國稅犯則者處分法ニ定メタル職務ヲ行フヘキ官吏ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本法ハ大正九年八月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

●大正九年法律第五十二號施行ニ關スル件

大正九年八月二十六日勅令第三百二號

駿大正九年法律第五十二號施行ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（樞密大顧問署名）

大正九年法律第五十二號施行ニ關スル件

第一條　法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ租稅【及葉煙草專賣】ニ關スル法規ヲ犯シタル場合ニ於テハ各法規ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用スル外其ノ罰則ニ於テ罰金科料以外ノ刑ニ處スヘキコトヲ規定シタルトキハ法人ヲ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條　【法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス】

第三條　法人ヲ處罰スルノ裁判確定シタル日ヨリ罰金ニ關シテハ一月以內科料ニ關シテハ十日以內ニ之ヲ納完セサルトキハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ其ノ執行ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ檢事ノ命令ヲ以テ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ效力アルモノトス

前項ニ依リ執行ヲ爲スニハ執行前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

●朝鮮臺灣又ハ南洋群島ヨリ移出シタル物品ノ內地又ハ樺太ニ於ケル取締ニ關スル法律

駿帝國議會ノ協賛ヲ經タル朝鮮又ハ臺灣ヨリ移出シタル物品ノ內地又ハ樺太ニ於ケル取締ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（樞密大顧問署名）

第一條　朝鮮、臺灣又ハ南洋群島ヨリ內地又ハ樺太ニ移出スル物品ニ關シ移出地ノ法令ニ依リテ課セラルヘキ出港稅ヲ通脫シタル者ハ其ノ出港稅ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ出港稅ニ相當スル金額ヲ徵收スル但シ罰金額ハ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ出港稅ニ相當スル金額ノ徵收ニ付テハ國稅徵收ノ例ニ依ル

第二條　前條ノ出港稅ヲ逋脫シタル物品ノ運搬、寄藏、收受、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三條　第一條ノ罪ニ付テハ刑法第三十八條及第六十六條ノ例ヲ用ヰス

第四條　朝鮮、臺灣又ハ南洋群島ニ於テ第一條ニ該當スル罪ニ付處分又ハ處罰セラレタルトキハ同一事件ニ付本法ニ依ル處分又ハ處罰ヲ受クルコトナシ

第五條　間接國稅犯則者處分法及明治三十三年法律第五十二號ノ本法ニ依ル犯則事件ニ付之ヲ準用ス但シ間接國稅犯則者處分法ニ定メタル職務ヲ行フヘキ官吏ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本法ハ大正九年八月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

●關東州又ハ南洋群島ニ於ケル租稅ニ關シ事犯アリタルトキノ處罰ニ關スル件

大正十一年四月十五日勅令第二百號改正　大正十二年第二七號

駿關東州ニ於ケル租稅ニ關シ事犯アリタルトキノ處罰ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（樞密大顧問署名）

第一條　關東州又ハ南洋群島ニ於ケル租稅ニ關スル法令ニ規定スル罰金又ハ科料ニ該ル罰則ヲ犯シタル者ニ付テハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十六條ノ例ヲ用ヰス

第二條　關東州又ハ南洋群島ニ於ケル租稅ニ關シ間接國稅ヲ納ムヘキ者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者其ノ業務ニ關シ間接國稅ヲ納ムヘキ者ヲ處罰スル法令ニ違反シタルトキハ其ノ間接國稅ヲ納ムヘキ者ヲ處罰ス

前項ノ場合ニ於テ納稅者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ヲ處罰ス但シ業務ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三條　法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ租稅ニ關スル法令ニ違反シタルトキハ其ノ法定代理人ヲ處罰ス但シ業務ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四條　第二條ノ間接國稅ハ朝鮮總督ノ定ム

第三條　法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ東州又ハ南洋群島ニ於ケル租稅ニ關スル法令ニ違反シタル場合ニ於テハ明治三十三年法律第五十二號ニ依ル但シ關東州ニ在リテハ同法中檢事トアルハ檢察官トス

第四條　第二條ノ間接國稅ヲ關東州ニ在リテハ關東長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依ル

附　則

本令ハ大正十一年四月二十日ヨリ之ヲ施行ス

●關東州間接國稅犯則者處分令

（明治三十七年四月一日法律第十四號）

（改正　明治四〇年四二號、關五〇號、大正八年第三〇號、一〇年第一九號、一二年第一三號、一四年第二三號）

關東州間接國稅犯則者處分令施行規則

（大正十一年四月十八日關東廳令第二十六號）

關東州間接國稅犯則者處分令施行規則左ノ通定ム

關東州間接國稅犯則者處分令施行規則

第一條　關東州ニ於ケル間接國稅犯則者ノ處分ニ關シテハ間接國稅犯則者處分令中稅務監督局トアルハ關東廳、稅務署トアルハ民政支署、稅務署長トアルハ民政署長又ハ民政支署長、稅務署トアルハ民政署長又ハ民政支署長、裁判所トアルハ關東廳ニ於ケル法院、勅令トアルハ關東廳令トス

附　則

本令ハ大正十一年四月二十日ヨリ之ヲ施行ス

●關東州間接國稅犯則者處分令施行規則

（大正十一年四月十八日關東廳令第二十六號）

關東州間接國稅犯則者處分令施行規則左ノ通定ム

關東州間接國稅犯則者處分令施行規則

第一條　關東州ニ於ケル間接國稅犯則者ノ處分ニ關シテハ間接國稅犯則者處分令中稅務監督局トアルハ關東廳、稅務署トアルハ民政支署、稅務署長トアルハ民政署長又ハ民政支署長、裁判所トアルハ關東廳ニ於ケル法院、勅令トアルハ關東廳令トス

第二條　間接國稅犯則者處分令ニ於テ左ノ國稅トスル

一　酒稅
二　煙草稅
三　鹽稅
四　取引所稅

第二條　稅務官吏ノ物件、帳簿、書類等ヲ差押ヘタル場合ニ於テハ物件ノ所有者若ハ所持者又ハ其ノ代理人、同居ノ親族、雇人若ハ同居人ヲシテ之ニ立會ハシムルトキハ封印其ノ他ノ方法ヲ以テ其ノ差押ヲ明白ニスヘシ

第三條　差押目錄ニハ物件ノ品名、數量、帳簿、書類ノ名稱、箇數、差押ノ場所及時、物件所持者ノ住所又ハ居所並氏名ヲ記載スヘシ

第四條　稅務官吏物件、帳簿、書類等ヲ差押ヘタル場合ニ於テハ之ヲ官廳ニ送致スルトキハ差押目錄ノ謄本ヲ其ノ所有者ニ交付スヘシ

第五條　稅務官吏ハ差押ノ事實、場所及時竝供述ノ要領ヲ之ニ記載スヘシ

第六條　支廳長間接國稅犯則者處分法第十四條第一項ノ通告ハ通告書ヲ送達シテ之ヲ爲スヘシ

第七條　通告書ノ送達ハ使丁又ハ其ノ他ノ方法ニ依リテ之ヲ爲シ配達證明郵便ニ依リタル場合ヲ除クノ外受領書ヲ徵スヘシ

第八條　稅務官吏臨檢、捜索、尋問又ハ差押ヲ爲シタルトキ調製スル類未書ニハ臨檢、捜索、尋問又ハ差押ノ事實、場所及時竝供述ノ要領ヲ之ニ記載スヘシ

第九條　間接國稅犯則者處分法第十四條第一項ノ通告ハ通告書ヲ送達シテ之ヲ爲スヘシ

第十條　通告書ノ送達ハ使丁又ハ其ノ他ノ方法ニ依リテ之ヲ保管セシムルトキハ封印其ノ他ノ方法ヲ以テ其ノ差押ヲ明白ニスヘシ

第十一條　當該官廳間接國稅犯則者處分法第十九條ノ規定ニ依リ犯則ノ心證ヲ得サル旨ノ通告ヲ爲シタル場合ニ於テ同法第七條第三項ノ規定ニ依リ供託シタル金額ノ領收證ニ供託受領證ニ關スル書面ヲ添附シ之ヲ差押當時ノ物件所持者ニ交付スヘシ

第十二條　稅務官吏臨檢、捜索、尋問又ハ差押ヲ爲シタルトキハ間接國稅犯則者處分法第十條ノ規定ニ依リ作成スル顛末書ヲ通譯ニ讀ミ聞カセ之ニ署名捺印セシムヘシ其ノ通譯署名捺印スルコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ之ニ附記スヘシ

第十三條　犯則事件ノ調査及處分ニ關スル書類ニハ每葉契印シ且文字ヲ挿入若ハ削除シ又ハ欄外記入ヲ爲シタル箇所ニ認印スヘシ但シ文字ヲ削除シタル場合ニハ其ノ字體ハ之ヲ存シ置キ削除字數ヲ欄外上部ニ記載スヘシ

第十四條　稅務官吏ハ直接ト間接トヲ問ハス差押物件又ハ沒收物件ヲ買受クルコトヲ得ス

第十五條　當該官廳ハ間接國稅犯則者處分法第十四條ノ規定ニ依リ稅務官吏ノ携帶スヘキ證票ヲ別記樣式ニ依リ調製シ之ヲ當該官吏ニ交付スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別記樣式略ス）

第三章　專賣

第一款　煙草

●煙草專賣法

（明治三十七年四月一日法律第十四號）

（改正　明治四〇年四二號、關五〇號、大正八年第三〇號、一〇年第一九號、一二年第一三號、一四年第二三號）

（關東廳令第二號）

煙草專賣法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

（勅令第一四號）

（大正八年四月一日）

煙草專賣法

第一條　煙草ノ製造ハ政府ノ專屬ス

第二條　煙草ハ政府及政府ノ命ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ輸入スルコトヲ得ス

第三條　煙草ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ耕作スルコトヲ得ス

第四條　煙草耕作者ノ收穫シタル葉煙草ハ政府之ヲ收納ス

第五條　煙草耕作區域ハ政府之ヲ定ム

第六條　政府ハ每年耕作スヘキ煙草ノ種類、耕作段別及葉煙草ノ賠償價格ヲ定メ豫メ之ヲ公示ス

第七條　煙草ヲ耕作セムトスル者ハ每年煙草苗床ノ位置及坪數、煙草耕作地ノ位置及段別、煙草ノ種類、本數、乾燥場及藏置場ヲ定メ政府ニ申請シ許可ヲ受ケヘシ其ノ之ヲ變更シ又ハ耕作ヲ廢止セムトスルトキ亦同シ

第八條　相續ニ因ル耕作煙草ノ承繼セントスルトキハ政府ノ許可ヲ受ケヘシ

相續ニ依リ煙草ノ耕作ヲ承繼シタルトキハ政府ニ屆出ヘシ

第九條　煙草耕作者ニ非サレハ煙草苗ヲ育成スルコトヲ得ス

煙草苗ノ讓渡及譲受ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クヘシ

第十條　煙草耕作者ハ政府ノ定ムル方法及手續ニ依リ其ノ耕作ヲ完成スル義務ヲ負フ

第十一條　政府ハ收穫前ニ於テ葉煙草ノ收穫量ヲ査定シ但シ必要アルトキハ收穫後ニ於テ之ヲ査定スルコトヲ得

前項査定ノ場合ニ於テハ煙草耕作者ハ之ニ立會フヘシ若立會ハサルトキハ其ノ査定ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十二條　煙草耕作者ハ前條ノ量目ノ査定ニ不服アルトキハ即時異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

異議ノ申立アリタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ二人以上ノ鑑定人ヲ選定シ其ノ意見ヲ徵シ政府之ヲ決定ス

異議申立人ノ主張ニ係ル葉煙草ノ量目ト前項決定額トノ差ヨリ大ナルトキハ鑑定ニ關スル費用ハ異議申立人ノ負擔トス

第十三條　煙草耕作者第十一條ノ査定ヲ受クヘキ場合ニ於テハ政府ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ其ノ査定前ニ於テ葉煙草ヲ採取シ又ハ幹根ヲ掘除スルコトヲ得ス第十二條ニ依リ異議ノ申立ヲ爲シタル者ハ其ノ決定前ニ於テ亦同シ

第十四條　煙草耕作者一番葉ノ收穫ヲ終リタルトキハ直ニ其ノ幹根ヲ掘除シ其ノ幹ニ附著スル葉煙草又ハ其ノ之ヲ廢棄スヘシ

前項ノ場合ニ於テ政府ノ許可ヲ受ケヘシ

第十五條　輸出ノ爲葉煙草又ハ製造煙草ノ賣渡ヲ請求スル者アルトキハ政府ハ特ニ定メタル製造煙草ノ包裝ヲ開披シ若ハ之ヲ改裝シ又ハ包裝ノ破損シタル製造煙草ヲ販賣スルコトヲ得ス

第二十條　煙草耕作者ハ耕作ヲ終リタル後收穫前ニ於テ風害、水害、雹害、旱害又ハ病害ニ罹リ被リタルトキハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ煙草耕作者ニ損害ノ一部ニ對スル補償金ヲ交付スルコトヲ得

第二十一條　公共團體又ハ私人ニ於テ試作場ヲ特設シ煙草ノ試作ヲ爲サムトスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ試作ニ關シテハ第四條、第七條、第九條、第十五條、第十六條第一項及第十九條ノ規定ヲ準用ス

第二十二條　製造煙草ハ政府又ハ政府ノ指定シタル煙草元賣捌人若ハ煙草小賣人ニ非サレハ之ヲ賣渡シ又ハ賣捌人及煙草小賣人ハ政府ノ定メタル價格ニ依リ政府ノ許可ヲ受クルニ非サレハ製造煙草ヲ消費者ニ販賣スルコトヲ得ス

第二十三條　煙草小賣人ハ政府ノ定メタル價格ヲ以テスルニ非サレハ製造煙草ヲ消費者ニ販賣スルコトヲ得ス

第二十四條　煙草賣捌人ハ政府ノ封緘ヲ施シタル製造煙草ノ包裝ヲ開披シ若ハ之ヲ改裝シ又ハ包裝ノ破損シタル製造煙草ヲ販賣スルコトヲ得ス

第二十五條　輸出ノ爲葉煙草又ハ製造煙草ノ賣渡ヲ請求スル者アルトキハ政府ハ特ニ定メタル葉煙草又ハ製造煙草ノ賣渡ヲ受クタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ銀錢ヲ調製シ其ノ營業ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

輸出ニ供スル煙草ノ製造ヲ爲ス者ハ政府ノ指定スル地域ニ於テ煙草自由倉庫ヲ設置シ又ハ其ノ設置ヲ特許スルコトヲ得

第二十六條　前條ニ依リ輸出ノ爲葉煙草又ハ製造煙草ヲ賣受ケタル者ハ政府ノ指定シタル期間內ニ輸出免狀ニ外國仕向港ニ陸揚ヲ爲シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添ヘ政府ニ差出スヘシ

正當ノ事由ナクシテ前項ノ免狀及書類ヲ差出ササルトキハ政府ハ葉煙草ニ付テハ第二十九條製造煙草ニ付テハ第三十條ノ規定ニ依リ相當金額ヲ納付セシム

第二十七條　輸出ノ爲政府ヨリ買受ケタル葉煙草又ハ製造煙草ヲ輸出前之ヲ他ニ讓渡シ又ハ消費スルコトヲ得ス但シ其ノ使用ニ適セサルニ至リタルモノニ付政府ノ許可ヲ受ケテ之ヲ廢棄スルコトヲ得

第十五條　煙草耕作者ノ收穫シタル葉煙草ハ乾燥調理ノ後政府ニ納付スヘシ

納付ノ期日及場所ハ政府之ヲ定ム

第十六條　煙草耕作者ノ葉煙草ニシテ政府ノ收納ニ適セサルモノハ政府ノ承認ヲ經テ之ヲ廢棄スヘシ

第十七條　煙草耕作者ノ納付シタル葉煙草ハ鑑定人ヲシテ之ヲ鑑定セシメ其ノ等級ニ依リ賠償金ヲ交付ス

煙草耕作者前項ノ鑑定ニ不服アルトキハ再鑑定ヲ求ムルコトヲ得但シ賠償金ノ請求ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

再鑑定申立人ノ主張ニ係ル葉煙草ノ等級ト再鑑定等級トノ差カ第一項ノ鑑定等級ト等級ノ差ヨリ大ナルトキハ再鑑定ニ關スル費用ハ其ノ申立人ノ負擔トス

再鑑定ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條　煙草耕作者正當ノ事由ナクシテ政府ノ査定若ハ決定シタル量目以上ノ葉煙草ヲ納付セサルトキハ政府ハ其ノ不足額ニ對シ第十八條第二項ノ規定ニ準シテ算定シタル金額ノ三倍以下ノ納付セシムルコトヲ得

第十九條　煙草耕作者私ニ耕作段別ヲ減少シ又ハ耕作ヲ廢止シタルトキハ政府ハ其ノ減作地又ハ廢止地ニ生産スヘキ葉煙草ノ價格ニ相當スル金額ヲ納付セシムルコトヲ得

前項葉煙草ノ價格ハ其ノ年ニ於ケル近傍類似煙草耕作地ノ葉煙草生産額及之ニ對スル賠償金額ヲ標準トシ之ヲ算定ス

第二十條　煙草耕作者ノ葉煙草ハ其ノ耕作地、乾燥場、藏置場又ハ現存ス

煙草耕作者ノ葉煙草ハ其ノ耕作ニ係ル煙草ニ非サレハ之ヲ廢棄セシムルコトヲ得

第二十一條　煙草耕作者ノ組織スル組合又ハ其ノ聯合組合ニ對シ專賣事務執行上必要アル施設ヲ爲シ又ハ其ノ補助ヲ爲スヘキコトヲ得

前項ノ組合又ハ聯合組合ニ對シ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條　煙草耕作者ハ耕作ヲ終リタル後ニ於テ風害、水害、雹害、旱害又ハ病害ニ罹リ被リタルトキハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ煙草耕作者ニ損害ノ一部ニ對スル補償金ヲ交付スヘシ

第二十三條　煙草ノ耕作區域ハ政府之ヲ定ム

第二十四條　政府ハ每年耕作スヘキ煙草ノ種類、耕作段別及葉煙草ノ賠償價格ヲ定メ豫メ之ヲ公示ス

第二十五條　煙草ヲ耕作セムトスル者ハ每年煙草苗床ノ位置及坪數、煙草耕作地ノ位置及段別、煙草ノ種類、本數、乾燥場及藏置場ヲ定メ政府ニ申請シ許可ヲ受ケヘシ其ノ之ヲ變更シ又ハ耕作ヲ廢止セムトスルトキ亦同シ

第二十六條　相續ニ因ル耕作煙草ノ承繼セントスルトキハ政府ノ許可ヲ受ケヘシ

相續ニ依リ煙草ノ耕作ヲ承繼シタルトキハ政府ニ屆出ヘシ

第二十七條　煙草耕作者ニ非サレハ煙草苗ヲ育成スルコトヲ得ス

煙草苗ノ讓渡及譲受ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クヘシ

第二十八條　煙草耕作者ハ政府ノ定ムル方法及手續ニ依リ其ノ耕作ヲ完成スル義務ヲ負フ

第二十九條　政府ハ收穫前ニ於テ葉煙草ノ收穫量ヲ査定シ但シ必要アルトキハ收穫後ニ於テ之ヲ査定スルコトヲ得

前項査定ノ場合ニ於テハ煙草耕作者ハ之ニ立會フヘシ若立會ハサルトキハ其ノ査定ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三十條　煙草耕作者ハ前條ノ量目ノ査定ニ不服アルトキハ即時異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

異議ノ申立アリタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ二人以上ノ鑑定人ヲ選定シ其ノ意見ヲ徵シ政府之ヲ決定ス

異議申立人ノ主張ニ係ル葉煙草ノ量目ト前項決定額トノ差ヨリ大ナルトキハ鑑定ニ關スル費用ハ異議申立人ノ負擔トス

第三十一條　煙草耕作者第二十九條ノ査定ヲ受クヘキ場合ニ於テハ政府ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ其ノ査定前ニ於テ葉煙草ヲ採取シ又ハ幹根ヲ掘除スルコトヲ得ス第三十條ニ依リ異議ノ申立ヲ爲シタル者ハ其ノ決定前ニ於テ亦同シ

第三十二條　煙草耕作者一番葉ノ收穫ヲ終リタルトキハ直ニ其ノ幹根ヲ掘除シ其ノ幹ニ附著スル葉煙草又ハ其ノ之ヲ廢棄スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ政府ノ許可ヲ受ケヘシ

第三十三條　輸出ノ爲葉煙草又ハ製造煙草ノ賣渡ヲ請求スル者アルトキハ政府ハ特ニ定メタル葉煙草又ハ製造煙草ノ賣渡ヲ受クタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ銀錢ヲ調製シ其ノ營業ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

輸出ニ供スル煙草ノ製造ヲ爲ス者ハ政府ノ指定スル地域ニ於テ煙草自由倉庫ヲ設置シ又ハ其ノ設置ヲ特許スルコトヲ得

第三十四條　前條ニ依リ輸出ノ爲葉煙草又ハ製造煙草ヲ賣受ケタル者ハ政府ノ指定シタル期間內ニ輸出免狀ニ外國仕向港ニ陸揚ヲ爲シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添ヘ政府ニ差出スヘシ

正當ノ事由ナクシテ前項ノ免狀及書類ヲ差出ササルトキハ政府ハ葉煙草ニ付テハ第二十九條製造煙草ニ付テハ第三十條ノ規定ニ依リ相當金額ヲ納付セシム

第三十五條　輸出ノ爲政府ヨリ買受ケタル葉煙草又ハ製造煙草ヲ輸出前之ヲ他ニ讓渡シ又ハ消費スルコトヲ得ス但シ其ノ使用ニ適セサルニ至リタルモノニ付政府ノ許可ヲ受ケテ之ヲ廢棄スルコトヲ得

第二十八條　輸出ノ爲政府ヨリ買受ケタル葉煙草又ハ製造煙草ノ輸出手續ニ關シ必要ナル事項ハ財務大臣之ヲ定ム

第三十五條　何人ト雖營業ノ目的ヲ以テ煙草ニ代用スヘキ物品ヲ製造シ又ハ販賣スルコトヲ得ス

第三十六條　煙草製造專用ノ器具機械及卷紙ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ製作シ、販賣シ又ハ藏置スルコトヲ得ス

第三十七條　煙草耕作者、試作者又ハ煙草製造專用ノ器具機械及卷紙ノ製作者、販賣者若ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ政府ハ煙草ノ苗床、耕作地、試作地、乾燥場、藏置場又ハ煙草苗、煙草若ハ煙草製造器具機械及卷紙ノ所在ト認ムル場所又ハ煙草苗、煙草若ハ煙草製造器具機械及卷紙ヲ檢査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

當該官吏ハ前項ノ檢査ニ際シ必要ト認ムルトキハ關係人ヲシテ之ニ立會ハシムルコトヲ得

第三十九條　行政執行ノ手續ニ依リ費用ヲ納付セシムル場合ニ於テ義務者ニ交付スヘキ金額アルトキハ之ヲ差引スルコトヲ得

第四十條　本法ノ規定ニ依リ納付セシムヘキ金額ノ徵收ニ關シテハ國稅徵收法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第四十一條　政府ノ命令又ハ許可ヲ受ケシテ煙草ノ輸入ヲ爲リタル者ハ其ノ輸入ノ價格ノ十倍ニ相當スル罰金ニ處シ其ノ煙草ノ沒收又ハ其ノ價格ノ十倍ニ相當スル罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草又ハ其ノ價格ノ十倍ニ相當スル罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草ノ全部又ハ一部ヲ沒收スヘキトキハ其ノ沒收スヘカラサル部分ノ價格ヲ犯人ヨリ追徵ス

前項ノ價格ハ其ノ煙草ノ生產地又ハ仕入地ニ於ケル原價ニ荷造費、運送費、保險料其ノ他輸入地ニ到著スル迄ノ諸費及輸入稅ニ相當スル金額ヲ加ヘタルモノトス

第四十一條ノ二　第三條又ハ第九條第一項ニ違反シタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草又ハ煙草苗ハ之ヲ沒收ス

第五十七條　第三十六條ニ違反シタル者又ハ權利者不明ノ煙草製造專用ノ器具機械及卷紙ヲ所持シタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十八條　私ニ煙草ヲ製造シ又ハ製造ノ準備ヲ爲シタル者ハ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草及煙草製造器具機械及卷紙ハ之ヲ沒收ス

第五十九條　第三十五條ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル物品竝其ノ原料、製造器具機械及卷紙ハ之ヲ沒收ス

第六十條　第三十六條ニ違反シタル者又ハ權利者不明ノ煙草製造專用ノ器具機械及卷紙ヲ所持シタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十一條　煙草檢出者帳簿ヲ調製セス又ハ其ノ記載ヲ怠リ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十二條　第二十七條ニ違反シタル者ハ三十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草ハ之ヲ沒收ス之ヲ讓受ケタル者亦同シ

第五十三條　第三十一條第二項ニ違反シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ煙草ヲ讓受ケタル者亦同シ

第五十四條　第三十二條ニ依リ輸入シタル煙草ヲ他ニ讓渡シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草ハ之ヲ沒收ス

第五十五條　第三十三條ニ違反シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス情ヲ知リテ藏置ノ場所ヲ供與シタル者亦同シ

第五十六條　許可ヲ受ケサル者ノ耕作若ハ試作シタル葉煙草又ハ煙草耕作者ニ非サル者ノ育成シタル煙草苗又ハ權利者ノ不明ナル葉煙草若ハ煙草苗ヲ所持シタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙草若ハ煙草苗ハ之ヲ沒收ス

第五十七條　第三十四條第一項ニ違反シテ製造煙草ノ賣渡ヲ爲シタル者ハ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草ハ之ヲ沒收ス

第五十八條　私ニ煙草ヲ製造シ又ハ製造ノ準備ヲ爲シタル者ハ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草及煙草製造器具機械及卷紙ハ之ヲ沒收ス

第五十九條　第三十五條ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル物品竝其ノ原料、製造器具機械及卷紙ハ之ヲ沒收ス

第六十條　第三十六條ニ違反シタル者又ハ權利者不明ノ煙草製造專用ノ器具機械及卷紙ヲ所持シタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十一條　煙草檢出者帳簿ヲ調製セス又ハ其ノ記載ヲ怠リ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十二條　第二十七條ニ違反シタル者ハ三十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草ハ之ヲ沒收ス之ヲ讓受ケタル者亦同シ

第五十三條　第三十一條第二項ニ違反シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ煙草ヲ讓受ケタル者亦同シ

第五十四條　第三十二條ニ依リ輸入シタル煙草ヲ他ニ讓渡シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草ハ之ヲ沒收ス

第五十五條　第三十三條ニ違反シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス情ヲ知リテ藏置ノ場所ヲ供與シタル者亦同シ

第五十六條　許可ヲ受ケサル者ノ耕作若ハ試作シタル葉煙草又ハ煙草耕作者ニ非サル者ノ育成シタル煙草苗又ハ權利者ノ不明ナル葉煙草若ハ煙草苗ヲ所持シタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙草若ハ煙草苗ハ之ヲ沒收ス

第五十七條　第三十四條第一項ニ違反シテ製造煙草ノ賣渡ヲ爲シタル者ハ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草及煙草製造器具機械ハ之ヲ沒收ス

第五十八條　私ニ煙草ヲ製造シ又ハ製造ノ準備ヲ爲シタル者ハ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草及煙草製造器具機械ハ之ヲ沒收ス

第五十九條　第三十五條ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル物品竝其ノ原料、製造器具機械及卷紙ハ之ヲ沒收ス

第六十條　第三十六條ニ違反シタル者又ハ權利者不明ノ煙草製造專用ノ器具機械及卷紙ヲ所持シタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十二條　煙草耕作者許可ヲ受ケサル土地ニ煙草ヲ耕作シ若ハ煙草苗ヲ育成シ又ハ許可ヲ受ケサル種類ノ煙草苗ヲ讓渡シ若ハ讓受ケタルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ煙草ハ之ヲ沒收ス

第四十三條　煙草耕作者許可ヲ受ケサル場所ニ煙草苗ヲ育成シ又ハ許可ヲ受ケサル種類ノ煙草苗ヲ育成シ若ハ許可ヲ受ケタル數量ヲ超エテ煙草苗ヲ育成シタルトキハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ煙草苗ハ之ヲ沒收ス

第四十四條　第十三條ニ違反シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙草ハ之ヲ沒收ス

第四十五條　第十四條及第十九條ニ依リ葉煙草ヲ廢棄スヘキ者其ノ葉煙草ヲ收穫シ又ハ種子ヲ採取シタルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙草又ハ種子ハ之ヲ沒收ス

第四十六條　天災其ノ他避クヘカラサル事變ニ依ルニ非スシテ第二十條第一項ニ違反シ又ハ政府ノ指定シタル通路若ハ時間ニ依ラスシテ葉煙草ヲ運送シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草ハ之ヲ沒收ス

第四十七條　煙草耕作者正當ノ事由ナクシテ政府ノ指定シタル納付期日ニ葉煙草ヲ納付セサルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十八條　政府ニ納付スヘキ葉煙草ヲ他ニ讓渡シ又ハ消費シ又ハ隱蔽シタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙草ハ之ヲ沒收ス之ヲ讓受ケタル者亦同シ

情ヲ知リテ葉煙草隱藏ノ場所ヲ供與シタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十九條　煙草栽培人ニ非ルニ拘ラス製造煙草ヲ販賣シ又ハ販賣ノ準備ヲ爲シタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル製造煙草ハ之ヲ沒收ス

第五十條　第二十三條又ハ第二十四條ニ違反シタル者ハ五圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ煙草製造業者ニ在リテハ明治三十七年六月三十一日以前ヨリ明治三十七年六月三十日ニ至ル迄、刻煙草製造業者ニ在リテハ明治三十七年六月三十一日以前ヨリ明治三十八年三月三十一日ニ至ル迄、煙草耕作者ニ在リテハ明治三十八年三月三十一日以前ヨリ明治三十八年三月三十一日ニ至ル迄ノ間ニ於ケル煙草ノ賣渡代金ニ百分ノ五ノ割合ヲ以テ之ヲ定ム

第五十一條　煙草檢出者帳簿ヲ調製セス又ハ其ノ記載ヲ怠リ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十二條　第二十七條ニ違反シタル者ハ三十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草ハ之ヲ沒收ス之ヲ讓受ケタル者亦同シ

第五十三條　第三十一條第二項ニ違反シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ煙草ヲ讓受ケタル者亦同シ

第五十四條　第三十二條ニ依リ輸入シタル煙草ヲ他ニ讓渡シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草ハ之ヲ沒收ス

第五十五條　第三十三條ニ違反シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス情ヲ知リテ藏置ノ場所ヲ供與シタル者亦同シ

第五十六條　許可ヲ受ケサル者ノ耕作若ハ試作シタル葉煙草又ハ煙草耕作者ニ非サル者ノ育成シタル煙草苗又ハ權利者ノ不明ナル葉煙草若ハ煙草苗ヲ所持シタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙草若ハ煙草苗ハ之ヲ沒收ス

第五十七條　第三十四條第一項ニ違反シテ製造煙草ノ賣渡ヲ爲シタル者ハ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草及煙草製造器具機械ハ之ヲ沒收ス

第五十八條　私ニ煙草ヲ製造シ又ハ製造ノ準備ヲ爲シタル者ハ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草及煙草製造器具機械ハ之ヲ沒收ス

第五十九條　第三十五條ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル物品竝其ノ原料、製造器具機械及卷紙ハ之ヲ沒收ス

第六十條　第三十六條ニ違反シタル者又ハ權利者不明ノ煙草製造專用ノ器具機械及卷紙ヲ所持シタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條　輸出ノ爲政府ヨリ買受ケタル葉煙草又ハ製造煙草ノ輸出手續ニ關シ必要ナル事項ハ財務大臣之ヲ定ム

第三十五條　何人ト雖營業ノ目的ヲ以テ煙草ニ代用スヘキ物品ヲ製造シ又ハ販賣スルコトヲ得ス

第三十六條　煙草製造專用ノ器具機械及卷紙ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ製作シ、販賣シ又ハ藏置スルコトヲ得ス

第三十七條　煙草耕作者、試作者又ハ煙草製造專用ノ器具機械及卷紙ノ製作者、販賣者若ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ政府ハ煙草ノ苗床、耕作地、試作地、乾燥場、藏置場又ハ煙草苗、煙草若ハ煙草製造器具機械及卷紙ノ所在ト認ムル場所又ハ煙草苗、煙草若ハ煙草製造器具機械及卷紙ヲ檢査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

當該官吏ハ前項ノ檢査ニ際シ必要ト認ムルトキハ關係人ヲシテ之ニ立會ハシムルコトヲ得

第三十九條　行政執行ノ手續ニ依リ費用ヲ納付セシムル場合ニ於テ義務者ニ交付スヘキ金額アルトキハ之ヲ差引スルコトヲ得

第四十條　本法ノ規定ニ依リ納付セシムヘキ金額ノ徵收ニ關シテハ國稅徵收法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第四十一條　政府ノ命令又ハ許可ヲ受ケシテ煙草ノ輸入ヲ爲リタル者ハ其ノ輸入ノ價格ノ十倍ニ相當スル罰金ニ處シ其ノ煙草ノ沒收又ハ其ノ價格ノ十倍ニ相當スル罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草又ハ其ノ價格ノ十倍ニ相當スル罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草ノ全部又ハ一部ヲ沒收スヘキトキハ其ノ沒收スヘカラサル部分ノ價格ヲ犯人ヨリ追徵ス

前項ノ價格ハ其ノ煙草ノ生產地又ハ仕入地ニ於ケル原價ニ荷造費、運送費、保險料其ノ他輸入地ニ到著スル迄ノ諸費及輸入稅ニ相當スル金額ヲ加ヘタルモノトス

第四十一條ノ二　第三條又ハ第九條第一項ニ違反シタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草又ハ煙草苗ハ之ヲ沒收ス

第五十七條　第三十六條ニ違反シタル者又ハ權利者不明ノ煙草製造專用ノ器具機械及卷紙ヲ所持シタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十八條　私ニ煙草ヲ製造シ又ハ製造ノ準備ヲ爲シタル者ハ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草及煙草製造器具機械ハ之ヲ沒收ス

第五十九條　第三十五條ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル物品竝其ノ原料、製造器具機械及卷紙ハ之ヲ沒收ス

第六十條　第三十六條ニ違反シタル者又ハ權利者不明ノ煙草製造專用ノ器具機械及卷紙ヲ所持シタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條　輸出ノ爲政府ヨリ買受ケタル葉煙草又ハ製造煙草ノ輸出手續ニ關シ必要ナル事項ハ財務大臣之ヲ定ム

第三十五條　何人ト雖營業ノ目的ヲ以テ煙草ニ代用スヘキ物品ヲ製造シ又ハ販賣スルコトヲ得ス

第三十六條　煙草製造專用ノ器具機械及卷紙ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ製作シ、販賣シ又ハ藏置スルコトヲ得ス

第三十七條　煙草耕作者、試作者又ハ煙草製造專用ノ器具機械及卷紙ノ製作者、販賣者若ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ政府ハ煙草ノ苗床、耕作地、試作地、乾燥場、藏置場又ハ煙草苗、煙草若ハ煙草製造器具機械及卷紙ノ所在ト認ムル場所又ハ煙草苗、煙草若ハ煙草製造器具機械及卷紙ヲ檢査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

當該官吏ハ前項ノ檢査ニ際シ必要ト認ムルトキハ關係人ヲシテ之ニ立會ハシムルコトヲ得

第三十九條　行政執行ノ手續ニ依リ費用ヲ納付セシムル場合ニ於テ義務者ニ交付スヘキ金額アルトキハ之ヲ差引スルコトヲ得

第四十條　本法ノ規定ニ依リ納付セシムヘキ金額ノ徵收ニ關シテハ國稅徵收法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第四十一條　政府ノ命令又ハ許可ヲ受ケシテ煙草ノ輸入ヲ爲リタル者ハ其ノ輸入ノ價格ノ十倍ニ相當スル罰金ニ處シ其ノ煙草ノ沒收又ハ其ノ價格ノ十倍ニ相當スル罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草又ハ其ノ價格ノ十倍ニ相當スル罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草ノ全部又ハ一部ヲ沒收スヘキトキハ其ノ沒收スヘカラサル部分ノ價格ヲ犯人ヨリ追徵ス

前項ノ價格ハ其ノ煙草ノ生產地又ハ仕入地ニ於ケル原價ニ荷造費、運送費、保險料其ノ他輸入地ニ到著スル迄ノ諸費及輸入稅ニ相當スル金額ヲ加ヘタルモノトス

第四十一條ノ二　第三條又ハ第九條第一項ニ違反シタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草又ハ煙草苗ハ之ヲ沒收ス

第五十七條　第三十六條ニ違反シタル者又ハ權利者不明ノ煙草製造專用ノ器具機械及卷紙ヲ所持シタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十八條　私ニ煙草ヲ製造シ又ハ製造ノ準備ヲ爲シタル者ハ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草及煙草製造器具機械ハ之ヲ沒收ス

第五十九條　第三十五條ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル物品竝其ノ原料、製造器具機械及卷紙ハ之ヲ沒收ス

第六十條　第三十六條ニ違反シタル者又ハ權利者不明ノ煙草製造專用ノ器具機械及卷紙ヲ所持シタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十一條　本法ノ犯罪ニ係ル物件ヲ他ニ讓渡シ若ハ消費シタルトキ又ハ其ノ物件ニ付テ他ニ所有者アル爲沒收スルコトヲ得サルトキハ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ追徵ス

第六十二條　當該官吏ノ臨問ニ對シ虛僞ノ答辭ヲ爲シ又ハ當該官吏ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第六十三條　煙草耕作者、試作者、煙草賣捌人、煙草製造專用ノ器具機械及卷紙ノ製作者、販賣者若ハ藏置者又ハ煙草輸出者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

第六十五條　煙草耕作者、試作者、煙草賣捌人、煙草製造專用ノ器具機械及卷紙ノ製作者、販賣者若ハ藏置者又ハ煙草輸出者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人、其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

第六十六條　明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ノ之ヲ準用ス

第六十七條　閒接國稅犯則者處分法ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ違反事件ニ之ヲ準用ス但シ同法ニ定メタル職務ヲ行フ官吏ハ勳合ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

第六十八條　本法ハ明治三十七年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第二十二條第二項及第七十三條ハ本法發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行ノ際ニ於ケル煙草製造業者ハ明治三十三年三月三十一日迄刻煙草ノ製造ニ限リ從前ノ器具機械及卷紙ノ製造ヲ繼續スルコトヲ得

前項ノ物件ハ本法ニ依リ沒收スル場合ノ外ハ其ノ買上ノ時ニ於テ之ヲ沒收ス

第六十一條　本法ノ犯罪ニ係ル物件ヲ他ニ讓渡シ若ハ消費シタルトキ又ハ其ノ物件ニ付テ他ニ所有者アル爲沒收スルコトヲ得サルトキハ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ追徵ス

第六十二條　當該官吏ノ臨問ニ對シ虛僞ノ答辭ヲ爲シ又ハ當該官吏ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第六十三條　煙草耕作者、試作者、煙草賣捌人、煙草製造專用ノ器具機械及卷紙ノ製作者、販賣者若ハ藏置者又ハ煙草輸出者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

第六十五條　煙草耕作者、試作者、煙草賣捌人、煙草製造專用ノ器具機械及卷紙ノ製作者、販賣者若ハ藏置者又ハ煙草輸出者カ其ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

第六十六條　明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

第六十七條　閒接國稅犯則者處分法ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ違反事件ニ之ヲ準用ス但シ同法ニ定メタル職務ヲ行フ官吏ハ勳合ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

第六十八條　本法ハ明治三十七年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第二十二條第二項及第七十三條ハ本法發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行ノ際ニ於ケル煙草製造業者ハ明治三十三年三月三十一日迄刻煙草ノ製造ニ限リ從前ノ器具機械及卷紙ノ製造ヲ繼續スルコトヲ得

前項ノ物件ハ本法ニ依リ沒收スル場合ノ外ハ其ノ買上ノ時ニ於テ之ヲ沒收ス

第七十條　本法ノ規定ニ依リ沒收スヘキ物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價格ヲ犯人ヨリ追徵ス

第七十一條　本法ノ犯罪ニ係ル物件ヲ他ニ讓渡シ若ハ消費シタルトキ又ハ其ノ物件ニ付テ他ニ所有者アル爲沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ追徵ス

第七十二條　當該官吏ノ臨問ニ對シ虛僞ノ答辭ヲ爲シ又ハ當該官吏ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第七十三條　煙草耕作者、試作者、煙草賣捌人、煙草製造專用ノ器具機械及卷紙ノ製作者、販賣者若ハ藏置者又ハ煙草輸出者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第七十四條　煙草耕作者、試作者、煙草賣捌人、煙草製造專用ノ器具機械及卷紙ノ製作者、販賣者若ハ藏置者又ハ煙草輸出者カ其ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

第七十五條　煙草製造業者ニシテ煙草元賣捌人ニ指定セラレタルモノニ對シテハ前項ノ規定ヲ適用セス

第一項ニ依リ交付スヘキ金額ハ總計金九百十萬圓ヲ以テ限度トス若此ノ金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ヲ各自ニ按分シテ之ヲ減少ス

第二項ニ依リ交付スヘキ金額ハ總計金二百萬圓ヲ以テ限度トス若此ノ金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ヲ各自ニ按分シテ之ヲ減少ス

第一項及第二項ノ賣渡代金ハ明治三十五年ヨリ明治三十六年ニ至ル二箇年間ノ賣渡代金ノ平均高ニ依リ明治三十五年二月以後ニ其ノ營業ヲ開始シタル者ハ明治三十六年ノ賣渡高ニ依ル

第七十六條　第七十條第三號ノ物件ヲ所有スル者ハ明治三十八年四月五日迄ニ其ノ種類ノ煙草製造業者ニ在リテハ明治三十七年六月三十一日以前ヨリ明治三十七年六月三十日ニ至ル迄、刻煙草製造業者ニ在リテハ明治三十七年六月三十一日以前ヨリ明治三十八年三月三十一日ニ至ル迄、煙草耕作者ニ在リテハ明治三十八年三月三十一日以前ヨリ明治三十八年三月三十一日ニ至ル迄ノ間ニ於テ製造シ且商標ヲ有スル煙草ノ全國一手販賣業者ニ對シ其ノ請求ニ依リ煙草賣渡代金ノ一割ニ相當スル金額ヲ交付シ其ノ額金二百五十圓ニ滿タサル者ニ對シテハ金二百五十圓ヲ交付ス

第七十七條　政府ハ煙草製造業者ニ對シ其ノ請求ニ依リ煙草賣渡代金ノ二割ニ相當スル金額ヲ交付シ其ノ額金五百圓ニ滿タサル者ニ對シテハ金五百圓ヲ交付スル但シ煙草製造用ノ建物及其ノ敷地ヲ所有スル者ニシテ其ノ建物及敷地ノ全部ノ價格又ハ買上ヲ受ケサル者ニ對シテハ尙交付金ニ相當スル金額ノ六分ノ一ヲ增給ス

政府ハ葉煙草賣買業者又ハ外國產原料ヲ以テ外國若ハ內地ニ於テ製造シ且商標ヲ有スル煙草ノ全國一手販賣業者ニ對シ其ノ請求ニ依リ煙草賣渡代金ノ一割ニ相當スル金額ヲ交付シ其ノ額金二百五十圓ニ滿タサル者ニ對シテハ金二百五十圓ヲ交付ス但シ煙草製造業者ニ在リテハ明治三十七年六月三十日ニ現在スルモノニ限リ刻煙草製造業者ニ在リテハ明治三十七年六月三十一日ニ現在スルモノニ限リ刻煙草製造業者ニ在リテハ明治三十八年三月三十一日ニ現在スルモノニ限リ買上ヲ請求シ得ヘキ物件ノ種類數量竝器具機械ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十五條　政府ハ煙草製造業者ニ對シ其ノ請求ニ依リ煙草賣渡代金ノ二割ニ相當スル金額ヲ交付シ其ノ額金五百圓ニ滿タサル者ニ對シテハ金五百圓ヲ交付スル但シ煙草製造用ノ建物及敷地ヲ所有スル者ニシテ其ノ建物及敷地ノ全部ノ價格又ハ買上ヲ受ケサル者ニ對シテハ尙交付金ニ相當スル金額ノ六分ノ一ヲ增給ス

政府ハ葉煙草賣買業者又ハ外國產原料ヲ以テ外國若ハ內地ニ於テ製造シ且商標ヲ有スル煙草ノ全國一手販賣業者ニ對シ其ノ請求ニ依リ煙草賣渡代金ノ一割ニ相當スル金額ヲ交付シ其ノ額金二百五十圓ニ滿タサル者ニ對シテハ金二百五十圓ヲ交付ス

數量ヲ政府ニ申告スヘシ此ノ期限ヲ過キ申告ヲ爲ササルトキハ其ノ物件ノ竅置ニ關シテハ第五十六條ノ例ニ依リ處分ス

第八十條　第七十四條ニ依ル物件買上ノ請求ハ刻煙草以外ノ煙草製造業者ニ在リテハ明治三十七年七月五日迄ニ、刻煙草製造業者ニ在リテハ明治三十八年四月五日迄ニ之ヲ爲スヘシ

第八十一條　第七十五條ニ依ル交付金ノ請求ハ刻煙草以外ノ煙草製造業者ニ在リテハ明治三十七年九月三十日迄ニ、刻煙草製造業者ニ在リテハ明治三十八年六月三十日迄ニ煙草製造業者又ハ外國産原料ヲ以テ外國若ハ內地ニ於テ製造シ且商標ヲ有スル煙草ノ全國一手販賣業者ニ在リテハ明治四十年十二月三十一日迄ニ之ヲ爲スヘシ

第八十二條　本法施行ノ際現在スル製造煙草又ハ刻煙草製造業者ノ明治三十八年三月三十一日迄ニ製造シタル刻煙草以外ノ製造煙草ノ種類數量ヲ明治三十七年七月十日迄ニ政府ニ申告スヘシ

刻煙草製造業者ハ明治三十八年三月三十一日ニ於テ現ニ其ノ所持ニ係ル刻煙草ノ種類數量ヲ翌月十日迄ニ政府ニ申告スヘシ

第八十四條　本法施行後政府ノ實護サルル製造煙草ヲ販賣スル者ハ營業ニ關スル帳簿ヲ調製シ明治三十七年七月以後每月末日ニ於ケル製造煙草ノ種類數量及其ノ月ノ受拂高ヲ翌月五日迄ニ政府ニ申告スヘシ

第八十五條　第八十三條及第八十四條ノ規定ニ違反シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十六條　葉煙草專賣法ニ違反シタル者ニハ本法施行後ト雖仍同法ヲ適用ス

第八十七條　本法ハ勅令ヲ以テ指定シタル島嶼ニハ之ヲ施行セス

本法ヲ施行セサル地ト本法施行地トノ間ニ於ケル煙草ノ移入移出ニ關シテハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ム

政府ノ外本法ヲ施行セサル地ヨリ煙草ヲ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ス犯シタル者ハ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草ハ之ヲ沒收ス

第八十八條　明治三十八年ニ於テハ煙草製造業者及葉煙草賣買業者ニ係ル免許料ハ之ヲ明治三十七年ニ於ケル刻煙草以外ノ製造業者ニ係ル免許料ハ其ノ十二分ノ六ヲ還付ス

第八十九條　第七十條、第七十三條ノ補償金、第七十二條、第七十四條ノ買上金及第七十五條ノ交付金ニ充ツル爲政府ハ國庫債券ヲ發行スルコトヲ得

第七十五條ノ交付金ハ國庫債券ヲ以テ之ヲ給付ス但シ五十圓未滿ノ端數ハ現金ヲ以テ之ヲ給付ス

第七十條、第七十三條ノ補償金及第七十二條、第七十四條ノ買上金ハ本人ノ請求ニ依リ國庫債券ヲ以テ給付スルコトアルヘシ

國庫債券ニ對シテハ一箇年百分ノ五ノ利子ヲ附シ發行ノ年ヨリ七箇年以內ニ之ヲ償還ス但シ第七十五條第二項ニ依リ交付スル國庫債券ニ關リ發行ノ年ヨリ十箇年以內ニ之ヲ償還ス

國庫債券ニ關シテハ本條ニ規定スルモノノ外整理公債條例ニ準據ス

附則（大正十四年法律第二十三號）

本法ハ大正十四年四月一日以後ニ生シタル損害ニ關スル分ヨリ之ヲ適用ス

●煙草專賣法施行細則

明治三十七年五月二十八日大藏省令第十九號

改正　明治三十七年第四四號、四〇年第一九號、四一年第三七號、四二年第四五號、四三年第三一號、第四三號、大正一〇年第四一號、一一年第四九號、一二年第九號

煙草專賣法施行細則左ノ通相定ム

煙草專賣法施行細則

第一條　煙草ヲ耕作セムトスル者ハ地方專賣局長ノ定ムル期間內ニ第一號書式ノ申請書ヲ所管地方專賣局ニ差出シ許可ヲ受クヘシ

前項耕作ノ許可ヲ受ケタル者ニハ第二號書式ノ許可證ヲ交付スヘシ

第二條　地方專賣局長ハ左ノ順序ニ依リ煙草ノ耕作ヲ許可スヘシ

一　前年ニ於テ煙草ノ耕作、乾燥、調理、包裝、品質等他ノ模範トナルヘキモノト認メラレタル者

二　前年迄煙草ノ耕作ヲ繼續シタル者

三　本年新規耕作ヲ申請セル者

第三條　地方專賣局長ハ耕作許可申請ニ係ル段別カ申請者ノ資力及其ノ耕作上ノ設備ニ比シテ過當ナリト認ムルトキハ其ノ段別ヲ減少シテ許可スルコトアルヘシ

第四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ煙草耕作者タルコトヲ得ス

一　煙草製造專用ノ器具機械又ハ卷紙ノ製作者、販賣者又ハ藏置者

二　煙草ノ輸出又ハ移出ヲ業トスル者

三　前各號ノ一ニ該當スル者ト同一ノ家ニ在ル者又ハ其ノ同居者

第五條　地方專賣局長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ煙草耕作ヲ許可セサルコトアルヘシ

一　煙草ニ關スル法令ニ違反シタル者

二　煙草耕作ノ成績不良ナリシ者

三　不適當ト認ムル場所ニ煙草ヲ耕作セムトスル者

四　取締上不便ト認ムル場所ニ煙草ノ耕作、乾燥又ハ藏置ヲ爲サムトスル者

五　段別五畝歩未滿ノ土地ニ煙草ヲ耕作セムトスル者

六　其ノ他煙草耕作者タルニ不適當ナリト認ムル者

第六條　煙草耕作者苗床ノ場所、坪數、煙草耕作地ノ場所、段別、煙草ノ種類、本數、乾燥場及藏置場ヲ變更若減シ又ハ耕作ヲ廢止セムトスルトキハ第一號書式ニ準シ所管地方專賣局ニ申請シ許可ヲ受クヘシ

第七條　相續ニ因ル外煙草ノ耕作ヲ承繼セムトスル者ハ其ノ耕作許可證竝第三號書式ノ申請書ヲ所管地方專賣局ニ差出シ許可ヲ受クヘシ

相續ニ因リ其ノ耕作ヲ承繼シタルトキハ其ノ耕作許可證竝第四號書式ノ申告書ヲ所管地方專賣局ニ差出シ耕作許可證ノ交付ヲ受クヘシ

第八條　煙草耕作者其ノ耕作段別ノ減少又ハ耕作廢止ノ許可ヲ受ケタルトキ其ノ現存スル煙草又ハ煙草苗ハ當該官吏ノ承認ヲ受ケ相當ノ處置ヲ爲スヘシ煙草專賣法第三十七條ニ依リ耕作ノ許可ヲ取消サレタルトキ亦同シ

第九條　煙草耕作者煙草苗ノ讓渡又ハ讓受ヲ爲サムトスルトキハ第五號書式ノ申請書ヲ所管地方專賣局ニ差出シ許可ヲ受クヘシ

第十條　煙草耕作者其ノ許可證ヲ亡失シタルトキハ直ニ事由ヲ具シ之カ再交付ヲ所管地方專賣局ニ申請スヘシ

第十一條　左ニ掲クル事項ハ地方專賣局長ノ指示スル所ニ從フヘシ

一　種子ノ採取

二　苗床ノ設備及其ノ管理

三　播種期

四　移植期

五　畦間株間ノ距離

六　脫芽ノ摘採

七　心止

八　其ノ他ノ耕作方法

九　葉分ノ選別

十　乾燥方法

十一　葉莖ノ方法

十二　一把ノ葉數

十三　一包ノ把數又ハ量目

十四　結束材料

十五　包裝ノ方法

第十二條　煙草ノ移植ヲ了シタルトキハ殘存セル煙草苗ハ直ニ廢棄スヘシ但シ移植後三週間ヲ限リ殘個苗トシテ必要ノ本數ノ保存スルコトヲ得

第十三條　煙草耕作者ハ其ノ耕作地一箇所每ニ字、地番、氏名及許可番號ヲ記シタル目標ヲ設クヘシ

第十四條　煙草專賣法第十一條ノ規定ニ依リ葉煙草ノ收穫量目ヲ査定セムトスルトキハ地方專賣局長ハ査定ヲ受クヘキ煙草耕作者、煙草耕作區域及査定期日ヲ定メ豫メ之ヲ公示スヘシ

査定ヲ省略スヘキ煙草耕作者アルトキハ地方專賣局長ハ之ヲ公示スヘシ

第十五條　煙草耕作者當該官吏ノ査定シタル量目ニ對シ異議ノ申立ヲ爲サムトスルトキハ即時異議申立簿ニ其ノ不服ノ要領ヲ記入シ捺印スヘシ

第十六條　煙草專賣法第十二條第二項ニ依リ選定スヘキ鑑定人ハ地方專賣局長ニ於テ少クトモ其ノ半數ヲ專賣局員以外ヨリ選定スルモノトス

第十七條　地方專賣局長煙草專賣法第十二條第二項ニ依リ決定ヲ爲シタルトキハ第六號書式ノ決定書ヲ其ノ耕作煙草ニ損害ヲ受ケタルトキハ其ノ事由ヲ具シ所管地方專賣局ニ屆出ツヘシ

第十九條　枯葉、不熟葉、饑損葉、立枯等アルトキハ煙草耕作者ハ當該官吏ニ申出テ其ノ指揮ヲ受ケ相當ノ處置ヲ爲スヘシ

第二十條　煙草耕作者種子採取ノ爲母木ヲ保存セムトスルトキハ其ノ種類、本數ヲ定メ豫メ所管地方專賣局長ノ許可ヲ受クヘシ

第二十一條　葉煙草ハ其ノ種類、乾燥法、葉分、品質、葉莖ニ依リ區分調理スヘシ

第二十二條　前條ノ葉分ハ總テ左ノ區分ニ依ルヘシ

一　土葉

二　中葉

三　本葉

四　天葉

前項ノ葉分ニ依リ難キモノハ雜葉トスヘシ

第二十三條　乾燥調理ノ際生シタル葉屑等ニシテ敎納ニ適セサルモノハ當該官吏ノ承認ヲ受ケ廢棄セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ

週間ヲ限リ殘個苗トシテ必要ノ本數ノ保存スルコトヲ得

第十三條　煙草耕作者ハ其ノ耕作地一箇所每ニ字、地番、氏名及許可番號ヲ記シタル目標ヲ設クヘシ

第十四條　煙草專賣法第十一條ノ規定ニ依リ葉煙草ノ收穫量目ヲ査定セムトスルトキハ地方專賣局長ハ査定ヲ受クヘキ煙草耕作者、煙草耕作區域及査定期日ヲ定メ豫メ之ヲ公示スヘシ

査定ヲ省略スヘキ煙草耕作者アルトキハ地方專賣局長ハ之ヲ公示スヘシ

第十五條　煙草耕作者當該官吏ノ査定シタル量目ニ對シ異議ノ申立ヲ爲サムトスルトキハ即時異議申立簿ニ其ノ不服ノ要領ヲ記入シ捺印スヘシ

第十六條　煙草專賣法第十二條第二項ニ依リ選定スヘキ鑑定人ハ地方專賣局長ニ於テ少クトモ其ノ半數ヲ專賣局員以外ヨリ選定スルモノトス

第十七條　地方專賣局長煙草專賣法第十二條第二項ニ依リ決定ヲ爲シタルトキハ第六號書式ノ決定書ヲ異議申立人ニ交付スヘシ

第十八條　煙草耕作者災害其ノ他ノ事故ニ因リ其ノ耕作煙草ニ損害ヲ受ケタルトキハ其ノ事由ヲ具シ所管地方專賣局ニ屆出ツヘシ

第十九條　枯葉、不熟葉、饑損葉、立枯等アルトキハ煙草耕作者ハ當該官吏ニ申出テ其ノ指揮ヲ受ケ相當ノ處置ヲ爲スヘシ

第二十條　煙草耕作者種子採取ノ爲母木ヲ保存セムトスルトキハ其ノ種類、本數ヲ定メ豫メ所管地方專賣局長ノ許可ヲ受クヘシ

第二十一條　葉煙草ハ其ノ種類、乾燥法、葉分、品質、葉莖ニ依リ區分調理スヘシ

第二十二條　前條ノ葉分ハ總テ左ノ區分ニ依ルヘシ

一　土葉

二　中葉

三　本葉

四　天葉

前項ノ葉分ニ依リ難キモノハ雜葉トスヘシ

第二十三條　乾燥調理ノ際生シタル葉屑等ニシテ敎納ニ適セサルモノハ當該官吏ノ承認ヲ受ケ廢棄セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ

第二十四條　葉煙草納付ノ場所及期日ハ地方專賣局長之ヲ定メ豫メ公示スヘシ

第二十五條　煙草耕作者ハ納付ノ際之ヲ携帶スヘシ

前項ノ許可證ハ納付ノ際之ヲ所管地方專賣局ニ提出シ葉煙草ノ納付量目、賠償金等ノ記入ヲ受クヘシ

第二十六條　煙草耕作者ノ納付セムトスル葉煙草ハ當該官吏ニ於テ乾燥、調理、包裝ノ不完全ナルモノハ耕作者ヲシテ更ニ相當ノ處理ヲ爲サシムヘシ

第二十七條　煙草耕作者ハ煙草專賣法第十六條ニ依リ再鑑定ヲ求メムトスルトキハ賠償金ノ請求前ニ於テ第七號書式ニ依リ其ノ不服ノ要領ヲ所管地方專賣局長ニ申出ツヘシ

第二十八條　第二十七條ニ依リ再鑑定ノ申立アリタルトキハ地方專賣局長ハ二人以上ノ鑑定人ヲ選定シ其ノ意見ヲ徵シ之ヲ決定シ第八號書式ノ決定書ヲ申立人ニ交付スヘシ

前項ノ鑑定人ハ少クトモ其ノ半數ヲ專賣局員以外ヨリ選定スヘシ

第二十九條　地方專賣局長ハ取締上必要ト認メタルトキハ標本耕作者ニシテ乾燥、調理、包裝ノ不完全ナルモノハ耕作者ヲシテ更ニ相當ノ處理ヲ爲サシムヘシ

第二十七條　煙草耕作者煙草專賣法第十六條ニ依リ再鑑定ヲ求メムトスルトキハ賠償金ノ請求前ニ於テ第七號書式ニ依リ其ノ不服ノ要領ヲ所管地方專賣局長ニ申出ツヘシ

第二十八條　煙草專賣法第十六條ニ依リ再鑑定ノ申立アリタルトキハ地方專賣局長ハ二人以上ノ鑑定人ヲ選定シ其ノ意見ヲ徵シ之ヲ決定シ第八號書式ノ決定書ヲ申立人ニ交付スヘシ

前項ノ鑑定人ハ少クトモ其ノ半數ヲ專賣局員以外ヨリ選定スヘシ

第二十九條　地方專賣局長ハ取締上必要ト認メタルトキハ標本耕作者ニシテ乾燥、調理、包裝ノ不完全ナルモノハ耕作者ヲシテ更ニ相當ノ處理ヲ爲サシムヘシ

第三十條　公共團體又ハ私人ニ於テ試作場ヲ特設シ煙草ノ試作ヲ爲サムトスルトキハ第一號書式ニ準シ申請書ヲ所管地方專賣局ニ差出シ許可ヲ受クヘシ

前項試作ノ許可ヲ受ケタル者ニハ第二號書式ニ準シタル許可證ヲ交付スヘシ

第三十一條　輸出ノ爲ノ葉煙草又ハ製造煙草ノ貨渡ヲ請求セムトスル者ハ第九號書式ノ輸出煙草專賣貨渡申請書ヲ專賣局長官ニ差出シ其ノ指定スル煙草專賣官署ニ代金ヲ納付シ現品ヲ引取ルヘシ若シ十日以內ニ現品ヲ引取ラサルトキハ相當保管料ヲ徵ス

輸出ノ爲買受タル葉煙草又ハ製造煙草ニシテ其ノ使用ニ適セサルニ至リタル者ハ代金納付ノ際ニ於テ又ハ其ノ後ニ於テ其ノ事由ヲ具シ

第三十二條　輸出ノ爲ノ葉煙草又ハ製造煙草ヲ買受ケタル者ハ其ノ買受ケタル葉煙草又ハ製造煙草ヲ輸出スルニ非サレハ之ヲ他ニ讓渡シ又ハ消費スルコトヲ得ス

第三十三條　輸出ノ爲葉煙草又ハ製造煙草ヲ買受ケタル者ハ郵船ヲ調製シ少クトモ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　葉煙草ノ買入年月日、拂出（輸出、納付又ハ廢棄）年月日、包裝番號、種類、葉分、量目、代金及仕向先

二　葉煙草ノ改裝年月日、元包裝番號、元量目、改裝番號及改裝量目

三　製造煙草ノ買受年月日、拂出（輸出、納付又ハ廢棄）年月日、種類、名稱、數量（本數又ハ量目）、代金及仕向先

第三十四條　輸出ノ爲買受タル葉煙草又ハ製造煙草ニシテ其ノ使用ニ適セサルニ至リタル者ハ代金納付ノ際ニ於テ又ハ其ノ後ニ於テ其ノ事由ヲ具シ

第四十條ノ四　移出ノ爲買受ケタル葉煙草又ハ製造煙草ハ政府ノ許可ヲ受ケタル場所ニ非サレハ之ヲ藏置スルコトヲ得ス

前項ニ違反シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス情ヲ知リテ藏置ノ場所ヲ供與シタル者亦同シ

第四十一條　移出ノ爲ニ葉煙草又ハ製造煙草ヲ買受ケタル者ハ移出免狀竝仕向地ニ陸揚ヲ爲シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ買受後專賣局長官ノ指定シタル期間内ニ其ノ買受ヲ爲シタル煙草專賣官署ニ差出スヘシ

正當ノ事由ナクシテ仕向地ニ陸揚ヲ爲シタル數量カ買受ヲ爲シタル數量ヨリ少キトキハ移出者ヲシテ其ノ不足額ニ對シ葉煙草ニ付テハ第三十九條ノ賣渡價格ニ相當スル金額ノ四倍以下製造煙草ニ付テハ其ノ定價第三十九條ノ賣渡價格トノ差額ニ相當スル金額ノ二倍以下ヲ其ノ煙草ノ代金ヲ納付シタル專賣官署ニ納付セシム

第四十二條　移出者ハ第三十三條ノ規定ニ準シ帳簿ノ調製記載ヲ爲スヘシ

移出者帳簿ヲ調製セス又ハ其ノ記載ヲ怠リ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十二條ノ二　第三十四條及第三十四條ノ二ノ規定ハ移出ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十三條　煙草製造專用ノ器具機械又ハ卷紙ヲ製作シ販賣シ又ハ藏置セムトスル者ハ第十四號又ハ第十五號書式ノ申請書ヲ所管地方專賣局ニ差出シ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタル者其ノ業ヲ廢セムトスルトキハ其ノ旨所管地方專賣局ニ屆出ツヘシ

第四十四條　煙草製造專用ノ器具機械又ハ卷紙ノ製作者又ハ販賣者ハ帳簿ヲ調製シ少クトモ器具機械又ハ卷紙ノ種類、數量、代金、製作月日又ハ買受月日、買受先、賣渡月日、賣渡先ヲ記載スヘシ

第四十五條　煙草、煙草製造專用ノ器具機械又ハ卷紙ノ運送ヲ委託セラレタル者ハ其ノ運送中ノ委託者ノ代理人トナリタルモノト看做ス

附　則

第四十六條　本省令ハ煙草專賣法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十七條　明治三十年大藏省令第十六號葉煙草再鑑定規程及明治三十四年大藏省令第四號葉煙草專賣法施行細則ハ本省令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス但シ煙草專賣法附則第六十八條第二項ニ依リ刻煙草ノ製造ヲ業トスル者及葉煙草ノ賣買ヲ業トスル者ニ對シテハ仍葉煙草專賣法施行細則ヲ適用ス

第四十八條　煙草專賣法第八十三條ニ依ル申告書ハ第十六號書式ニ依リ所管地方專賣局ニ差出スヘシ

第四十九條　煙草專賣法第八十四條ニ依リ調製スヘキ帳簿ニ關シテハ第三十三條ノ規定ヲ準用ス

明治三十七年七月以後ニ於ケル每月末日現在製造煙草ノ種類、數量及其ノ月ノ受拂高ハ第十七號書式ニ依リ翌月五日迄ニ所管地方專賣局ニ申告スヘシ

（第一號書式）

煙草耕作許可申請書

前年許可番號第　　號

年　月　日

住所
職業氏名　㊞
生年月

地方專賣局長宛

町村	大字	字	地番	段別	畦間	株間	本數	事由

（第二號書式）

【明治】　年

煙草耕作許可

第　號

住所
氏名

印割

許可事項									査定	
町村	大字	字	地番	段別	畦間	株間	本數	量目	事由
計									

（第一面）

（第二面）

一種類	何
一乾燥區分	何干（何々葉ハ何干何葉ハ同干）
一苗床所在地及坪數	町（村）大字、字、地番（何誰所有）何建物） （居宅構内又ハ町（村）大字、字、地番（何誰所有）何建物）
一貯藏場何々	
一乾燥場何々	
要　例	
一	一筆ノ土地ニシテ煙草ノ耕作二箇所以上ニ分ルルモノハ地番ノ下ニ（ノ内イ、ロ等）適宜ノ符號ヲ附シ仍段別以下各欄共區別記載シ又數筆ノ土地ニシテ其ノ耕作一箇所トナルモノハ其ノ地番ヲ列記シ本數、段別ハ合計シテ記載スヘシ
二	耕作ノ場所ニ依リ種類ノ異ルモノハ種類ノ項ヲ除キ地番ノ下ニ「種類」ノ一欄ヲ增設シ之カ區分ヲ爲スヘシ
三	耕作ノ場所ニ依リ乾燥法ノ異ルモノハ其ノ旨事由欄ニ記載スヘシ
四	田ニ耕作セムトスルモノハ段別ノ上ニ「地目」ノ一欄ヲ增設シ之カ區分ヲ爲スヘシ
五	實播ノトキハ苗床所在地及坪數ノ項ヲ除キ單ニ實播ト記載スヘシ
六	二番葉ノ收穫ヲ爲サムトスルモノハ事由欄ニ箇所每ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ
七	會社ノ申請ニ付テハ氏名ノ箇所ニハ會社名ヲ記載シ且代表者之ニ署名捺印スヘシ
八	未成年者、禁治産者ニ在リテハ法定代理人之ニ連署捺印スヘシ

（第二號書式）

許可事項									査定	
町村	大字	字	地番	段別	畦間	株間	本數	量目	事由
計									

（第一面）

（第二面）

（第三號書式）

煙草耕作承繼許可申請書

一事由　何々

住所

年　月　日

地方專賣局長宛

町村	大字	字	地番	段別	本數
計				何箇所	

（第三面）

領收月日	包數	量目	賠償金
月　日㊞	三	二、五〇〇	九七五〇
、　、㊞	、	、、、、、	、、、、、

（第四面）

注　意

一　耕作許可條件ノ變更ヲ申請スル場合ニハ其ノ申請書ニ本證ヲ添付スヘシ

二　査定ノ際ハ本證ヲ當該官吏ニ提出シ其ノ査定量目ノ記入ヲ受クヘシ若シ異議ノ申立ヲ爲シタルトキハ更ニ其決定額ノ記入ヲ受クヘシ

三　納付ノ爲葉煙草ヲ運送スルトキハ本證ヲ携帶スヘシ

四　葉煙草納付ノ際ハ實印ヲ携帶シ仍本證ヲ提出シ其ノ月日、包數、量目、賠償金ノ記入ヲ受クヘシ

五　本證ハ官吏臨檢ノ際何時ニテモ提出シ得ル樣保管シ置クヘシ

六、、、、、

一事由　何々ニ依リ譲渡譲受サ爲シタシ
一種類　何々　何本

年　月　日　　住所　譲渡者　氏　名㊞
　　住所　譲受者　氏　名㊞

地方專賣局長宛

（第六號書式）

決定書

住所　煙草耕作者　氏　名

大正何年何月何日葉煙草ノ量目査定ニ對シ異議申立ニ付審議ヲ遂ケ左ノ通リ決定ス

何郡何町（村）大字、字、地番
耕作段別　何　畝歩
此量目　何　程
、、、、、、、、、、、、
、、、、、、、、、、、、
、、、、、、、、、、、、

年　月　日　　地方專賣局長　官　氏　名㊞

要例　異議申立人ニ於テ鑑定ニ關スル費用ヲ負擔スヘキ場合ニ於テハ其ノ旨及其ノ金額ヲ本書ニ附記スヘシ

（第七號書式）

葉煙草再鑑定請求書

納付年月日	包裝番號	種類	乾燥法	葉分	鑑定等級	自己申立等級	不服ノ事由

年　月　日　　住所　煙草耕作者　氏　名㊞

地方專賣局長宛

（第八號書式）

決定書

住所　煙草耕作者　氏　名

本年何月何日葉煙草ノ鑑定ニ對シ再鑑定請求ニ付審議ヲ遂ケ左ノ通リ決定ス

納付月日	包裝番號	種類	乾燥法	葉分	等級	量目

年　月　日　　地方專賣局長　官　氏　名㊞

要例　異議申立人ニ於テ再鑑定ノ費用ヲ負擔スル場合ニ於テハ其ノ旨及其ノ金額ヲ本書ニ附記スヘシ

（第九號書式）

輸出煙草賣渡申請書

一葉煙草何百何拾貫匁
　內譯

種類	葉分等級	量目

一製造煙草　量目又ハ本數
　內譯

種類	名稱	一箇ノ量目（一箇ノ本數）	箇數

一輸出先　何國何々
一輸出見込期日　何月何日
一貯藏場

年　月　日　　住所　職業　氏　名㊞

專賣局長官宛

（第十號書式）

標本葉煙草交付申請書

種類	葉分等級	數量

一事由　何々

年　月　日　　住所　職業　氏　名㊞

地方專賣局長宛

（第十一號書式）

標本葉（製造）煙草輸入許可申請書

一産地種類（名稱）
一數　量
一原　價　格
一事　由　何々

年　月　日　　住所　職業　氏　名㊞

專賣局長官宛

（第十二號書式）

標本葉（製造）煙草譲渡譲受許可申請書

一産地種類（名稱）
一數　量
一事　由

年　月　日　　住所　譲渡者　氏　名㊞
　　住所　譲受者　職業　氏　名㊞

地方專賣局長宛

（第十三號書式）

製造煙草輸入許可申請書

一種　類
一名　稱
一數　量
一原價格
一仕入地
一事由何々

年　月　日　　住所　專賣局長官宛

（第十四號書式）

煙草製造專用ノ器具（機械、卷紙）製作（販賣）營業許可申請書

一種　類
一一箇年間ノ製造見込高（取扱見込高）
一營業ノ場所
一營業期間　自何年至何年
一事　由　何々

年　月　日　　住所　地方專賣局長宛

職業　氏　名㊞

要例　會社ノ申請ニ付キテハ氏名ノ箇所ニハ會社名ヲ記載シ且代表者之ニ署名捺印スヘシ

（第十五號書式）

煙草製造專用ノ器具（機械卷紙）藏置許可申請書

一種　類
一所有者住所氏名
一藏置事由

年　月　日　　住所　氏　名㊞

地方專賣局長宛

（第十六號書式）

刻煙草以外ノ製造煙草（刻煙草）現在高申告書

明治三十七年六月三十日（明治三十八年三月三十一日）ニ於テ所持スル製造煙草左ノ通

種類	一箇ノ本數（一箇ノ）	箇數	本數（量目）
ヒンヘツト			
吉野			
金天狗			
、、、、、			
、、、、、			
計			

營業場所在地
煙草販賣者（製造業者）　氏　名㊞

年　月　日

地方專賣局長宛

（第十七號書式）

【明治】年　月製造煙草受拂現在高申告書

種類	一箇ノ量目（一箇ノ本數）	受拂現在 箇數	本數（量目）	箇數	本數（量目）	箇數	本數（量目）
梅ノ花	五十匁						
松ノ葉	百匁						
竹ノ葉	五十匁						
、、、							
、、、							
計							

専業場所在地
煙草販賣者（製造業者）氏名㊞

年　月　日
地方專賣局長宛

要例　本表ハ刻煙草、口付紙巻煙草、両切紙巻煙草、葉巻煙草毎ニ別紙ニ調製スヘシ

●煙草耕作組合交付金下付規則

大正八年四月一日
大蔵省令第八號

改正　大正一一年第四九號

煙草耕作組合交付金下付規則左ノ通定ム

煙草專賣法第二十條ノ二ノ規定ニ依リ地方專賣局長ハ煙草耕作者ノ組織スル組合又ハ其ノ聯合組合ニ對シ專賣事務執行上必要ナル施設ヲ爲シ又ハ其ノ補助ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

前項ノ組合又ハ聯合組合ニ對シテハ本令ノ定ムル所ニ依リ交付金ヲ交付ス

第一條　煙草耕作組合交付金下付規則

第二條　前條ノ組合又ハ聯合組合ニ對シ交付スヘキ金額ハ地方專賣局長之ヲ定メ一回又ハ數回ニ分割シ地方專賣局長ノ適當ト認ムル時期ニ之ヲ交付ス

第三條　地方專賣局長ハ第一條ノ組合又ハ聯合組合ニ對シ交付金ノ用途ヲ指定スルコトヲ得

第四條　第一條ノ組合又ハ聯合組合ニシテ同條第一項ノ命令ニ違反シタルトキハ交付金ノ全部若ハ一部ヲ交付セス又ハ既ニ交付シタル交付金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命スルコトアルヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●煙草罹災補償金交付規則

大正十年三月三十一日
大蔵省令第九號

改正　大正一一年第四九號、一四年第四號

煙草罹災補償金交付規則左ノ通定ム

第一條　煙草專賣法第二十條ノ三ニ依ル補償金ハ罹災ノ年ニ耕作シタル葉煙草ノ賠償金カ平年賠償金ノ十分ノ七ニ達セサル煙草耕作者ニ對シ其ノ申請ニ依リ平年賠償金ノ十分ノ七ト其ノ賠償金トノ差額ノ二分ノ一ニ相當スル金額以内ニ於テ地方專賣局長之ヲ決定交付ス

前項ノ賠償金ハ法定ノ災害カ法定外ノ災害ト認合シタル場合ニ在リテハ法定外ノ災害ナカリシ場合ニ於テ當該煙草耕作者カ收得スヘカリシ賠償金ニ相當スル金額ヲ以テ其ノ金額トス

第一項ノ平年賠償金ハ當該煙草耕作者ノ引續キ前三年ヲ通シ耕作又ハ試作シタル葉煙草ノ一段歩當賠償金ニ其ノ年ノ耕作段別ヲ乘シ之ヲ算定ス但シ葉煙草賠償價格ニ改定アリタルトキハ罹災ノ年ニ於ケル賠償價格ニ比準シ換算ス

前項ノ耕作段別ハ耕作ヲ繼續シ得ルニ拘ラス自己ノ便宜ニ依リ減少シ又ハ耕作ヲ廢止シタル段別ヲ含マス

當該煙草耕作者ノ前三年ヲ通シタル一段歩當賠償金ヲ算定シ難キトキハ地方專賣局長之ヲ決定ス

第二條　煙草耕作ノ承繼アリタル場合ニ於テ被承繼者ノ被リタル災害ハ承繼者ノ被害ト看做ス

補償金ヲ受クヘキ者死亡シタルトキハ其ノ相續人ニ之ヲ交付ス

第三條　煙草耕作者罹災補償金ノ交付ヲ受ケントスルトキハ被害後遲滯ナク別記樣式ニ依リ申請書ヲ所轄地方專賣局ニ提出スヘシ

前項ノ申請アリタルトキハ地方專賣局長ハ專賣官吏ヲ派遣シ實地ヲ調査セシムヘシ

前項實地調査ノ場合ニ於テハ煙草耕作者ハ之ニ立會フヘシ若正當ノ事由ナクシテ之ニ立會ハサルトキハ第一項ノ申請ヲ取消シタルモノト看做ス

煙草耕作ノ承繼アリタル場合ニ於テ被承繼者ノ認シタル第一項ノ申請ハ之ヲ承繼者ノ爲シタルモノト看做ス

第四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ補償金ヲ交付セス

一罹災ノ年ニ耕作シタル煙草ニ關シ煙草專賣法ニ違反シ處罰ヲ受ケタル者又ハ耕作ノ許可ヲ取消サレタル者

二罹災ノ年ニ耕作シタル煙草ニ對シ適當ノ管理ヲ怠リ又ハ被害程度ヲ大ナラシムル行爲アリト認メラルル者

第五條　補償金交付後一年以内ニ於テ前條各號ノ一ニ該當スル事實ヲ發見シタルトキハ地方專賣局長ハ第一條第一項ノ決定ヲ取消シ煙草耕作者ヲシテ其ノ受ケタル補償金ヲ返還セシム

附　則

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

別記

煙草罹災補償金交付申請書

年　月　日

住所
耕作者　氏名㊞

許可番號第　號

地方專賣局長宛

區分	災害ノ種類	耕作地 町村大字	字地番	段別	災害ノ日時	被害程度	摘要
被害地	風害	何村大字	一〇〇	九〇〇歩	自何月何日何時至何月何日何時	約六、〇分	
〃	〃	〃	一一〇	九〇〇	〃	八、〇	
〃	水害	〃	一一〇	九〇〇	〃	八、〇	
無被害地				四〇〇			一筆所
計（平均）				三、一〇〇		六、四	

備考

一本申請書ハ總耕作段別ニ對スル被害程度カ三割ヲ超過シタル場合ニ限リ提出スヘシ

二段別ハ總テ許可段別ヲ記載スヘシ

三被害程度欄ニハ箇所毎ニ被害後適當ナル管理ヲ施シ作柄ヲ回復シ得ル程度ヲ勘案シ平年作柄ニ對スル被害歩合ヲ記載スヘシ

四申請前法定ノ災害ニ因リ收穫ノ見込ナク政府ノ許可ヲ受ケ耕作段別ヲ減少シ又ハ耕作ヲ廢止シタル者アルトキハ其ノ廢減作地ニ對スル事實ハ之ヲ被害地欄ニ記載シ摘要欄ニ其ノ廢減作ノ事由ヲ生シタル月日及移植月日ヲ附記スヘシ

五無被害地ニハ被害ナキ箇所ノ合計段別ノミヲ記載シ摘要欄ニ其ノ箇所數ヲ附記スヘシ

六總耕作段別ニ對スル被害程度ハ被害箇所毎ノ段別ニ各其ノ歩合ヲ乘シ之ヲ集計シ總段別ニテ除シ算出スヘシ

●葉煙草耕作地區域

明治三十三年十一月十二日
勅令第三百九十六號

專業煙草耕作地區域ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（大蔵大臣臨時署理）

【葉煙草專賣法第五條】ニ依リ葉煙草耕作地區域別表ノ通之ヲ定ム

（別表）

葉煙草耕作地區域表

區域内各都市區町村

千葉縣

安房郡ノ内

御木澤村　高野村　逢隈村　河内村　佐都村　國府村　健田村　千歳村　豊田村　君津郡ノ内　中村　小糸村　秋元村　三島村　夷隅郡ノ内　千町村　古澤村　長生郡ノ内　一宮町　土睦村　東葛飾郡ノ内　野田町　關宿町　梅郷村　福田村　七福村　川間村　旭村　木間ヶ瀬村　二川村

埼玉縣

北葛飾郡ノ内　豊岡村　栗橋町　小野村　八幡村　美土里村　平井村　日野村　入野村

北甘樂郡ノ内　大宮町　小鹿野町　横瀬村　高篠村　原谷村　皆野村　三澤村　白鳥村　樋口村　野上村　下吉田村　大田村　尾田蒔村　長若村　影森村　久那村

群馬縣

多野郡ノ内　藤岡町　新町　吉井町　小野村　鬼石町　神流村　美土里村　八幡村　平井村　美九里村　多胡村　日野村　入野村

北甘樂郡ノ内　富岡町　福島町　黒岩村　高瀬村　額部村　秋畑村　小幡村　新屋村　岩平村

群馬郡ノ内　片岡村　勢多郡ノ内　敷島村　利根郡ノ内　桃野村　湯ノ原村　久賀村

川田村　芝原村　中里村　賀美村　小里村　宮川村　生瀬村　黒澤村　依上村　佐原村　上小川村　下小川村　多賀郡ノ内　豊浦町　河原子町　國分村　鮎川村　日立村　坂上村　高鈴村

栃木縣

那須郡　河内郡ノ内　上三川町　横川村　平石村　瑞穂野村　本郷村　明治村　釜宮村　委川村　國本村　富屋村　篠井村　羽黒村　細島村　古里村　豊郷村

那須郡ノ内　南犬飼村　委　村

芳賀郡ノ内　真岡町　釜子町　茂木町　中村　物部村　山前村　田野村　七井村　逆川村　中川村　小貝村　市羽村　南高根澤村　須藤村　細母井村　水橋村　清原村　大内村

鹽谷郡ノ内　矢板町　氏家町　喜連川町　泉　村　篠根村　船生村　玉生村　大宮村　阿久津村　北高根澤村　塾田村　片岡村

石川郡　石川郡ノ内　鮫川村　竹貫村　宮本村　東白川郡ノ内　石城郡ノ内　川前村　三坂村　田村郡ノ内　三春町　小野新町　常葉町

福島縣

域別表ノ通之ヲ定ム

（別表）

葉煙草耕作地區域表

區域内各都市區町村

千葉縣

安房郡ノ内

御木澤村　高野村　逢隈村　河内村　佐都村　國府村　健田村　千歳村　豊田村　君津郡ノ内　中村　小糸村　秋元村　三島村　夷隅郡ノ内　千町村　古澤村　長生郡ノ内　一宮町　土睦村　東葛飾郡ノ内　野田町　關宿町　梅郷村　福田村　七福村　川間村　旭村　木間ヶ瀬村　二川村

埼玉縣

北葛飾郡ノ内　豊岡村　栗橋町　小野村　八幡村　美土里村　平井村　日野村　入野村

北甘樂郡ノ内　大宮町　小鹿野町　横瀬村　高篠村　原谷村　皆野村　三澤村　白鳥村　樋口村　野上村　下吉田村　大田村　尾田蒔村　長若村　影森村　久那村

群馬縣

多野郡ノ内　藤岡町　新町　吉井町　小野村　鬼石町　神流村　美土里村　八幡村　平井村　美九里村　多胡村　日野村　入野村

北甘樂郡ノ内　富岡町　福島町　黒岩村　高瀬村　額部村　秋畑村　小幡村　新屋村　岩平村

群馬郡ノ内　片岡村　勢多郡ノ内　敷島村　利根郡ノ内　桃野村　湯ノ原村　久賀村

雲田村　佐都村　河内村　中里村　賀美村　小里村　生瀬村　宮川村　黒澤村　依上村　佐原村　上小川村　下小川村　多賀郡ノ内　豊浦町　河原子町　國分村　鮎川村　日立村　坂上村　高鈴村

栃木縣

那須郡　河内郡ノ内　上三川町　横川村　平石村　瑞穂野村　本郷村　明治村　釜宮村　委川村　國本村　富屋村　篠井村　羽黒村　細島村　古里村　豊郷村

那須郡ノ内　南犬飼村　委　村

芳賀郡ノ内　真岡町　釜子町　茂木町　中村　物部村　山前村　田野村　七井村　逆川村　中川村　小貝村　市羽村　南高根澤村　須藤村　細母井村　水橋村　清原村　大内村

鹽谷郡ノ内　矢板町　氏家町　喜連川町　泉　村　篠根村　船生村　玉生村　大宮村　阿久津村　北高根澤村　塾田村　片岡村

石川郡　石川郡ノ内　鮫川村　竹貫村　宮本村　東白川郡ノ内　石城郡ノ内　川前村　三坂村　田村郡ノ内　三春町　小野新町　常葉町

福島縣

御木澤村　高野村　逢隈村　中泉村　晨江村　中妻村　宮城村　高瀬村　守山村　谷田川村　二瀬村　御館村　中郷村　蘆澤村　七郷村　飯豊村　夏井村　灌根村　片曾根村　溜川村　文珠村　要田村　安達郡ノ内　白岩村　小濱村　和木澤村　新殿村　旭村　南會津郡ノ内　田島町　旭田村　檜原村　檜澤村　大花羽村　西豊田村　北相馬郡ノ内　菅生村　原村　豊岡村　東茨城郡ノ内　上中妻村　坂手村　妻里村　石塚村　小松村　内守谷村　下妻村　飯富村　中妻村　西郷村　山根村　岩船村　澤山村　北會津郡ノ内　川南村　大戸村　門田村　大沼郡ノ内　高田町　永井野村　藤川村　本郷村　赤澤村　新鶴村　田川村　永玉岡村　川路村　河沼郡ノ内　若宮村　坂本村　倉戸村　飯谷村　片門村　東松村　千咲村　新郷村　宮城縣　登米郡ノ内　来川村　錦織村　来谷村　嚴手縣　東磐井郡ノ内　千厩町　折壁村　矢越村　小梨村　八澤村　大津保村　藤澤村　薄衣村　奥玉村　弊清水村　門崎村　長坂村　猿澤村　摺澤村　澁民村　興田村　江刺郡ノ内　来里村　大原村　稗貫郡ノ内

大迫町　内川目村　外川目村
亀ヶ森村
紫波郡ノ内　赤澤村　佐比内村
上閉伊郡ノ内　宮守村　達曾部村
二戸郡ノ内　金田一村
青森縣
三戸郡ノ内　名久井村　留崎村
三戸町　向村　平良崎村
北海道
親別郡ノ内　幌別村
秋田縣
雄勝郡ノ内　東成瀬村　西成瀬村　駒形村
川連村　三梨村　稲庭村
皆瀬村　須川村　小野村
平鹿郡ノ内　山内村
由利郡ノ内　直根村　川内村　笹子村
山形縣
米澤市　北村山郡ノ内　楯岡町　東根町　西郷村
大倉村　東郷村　高畑村
山口村　田麥野村　大富村
小田島村　長瀞村
東村山郡ノ内　天童町　成生村　津山村
干布村
東田川郡ノ内　黒川村　手向村　廣瀬村　泉
南置賜郡ノ内　南原村　萬世村　山上村
上長井村
新潟縣
北蒲原郡ノ内

水原町　安田村　大和村
分田村　小島村　堀越村
安野村　京ヶ瀬村　駒林村
長場村　越岡村
中蒲原郡ノ内　五泉町　新津町　新關村
満日村　阿賀浦村　巣本村
木津村　横越村　深海村
西蒲原郡ノ内　赤塚村　五十嵐澤村　木山村
西川村　仁ヶ村
松野尾村　越前濱村
角田濱村
三島郡ノ内　岩田村　飯塚村　深澤村
才津村　大島村　日越村
王寺川村　關原村　宮本村
大積村　日吉村　上岩井村
天津村
中魚沼郡ノ内　秋成村　赤崎村　倉俣村
中深見村　谷内村　上郷村
下船渡村　馬場村　田澤村
宮野原村
中頸城郡ノ内　新井町　鳥坂村　原通村
妙高村　矢代村　中郷村
境村　水原村　泉村
平丸村　瑞穂村　豊莘村
關山村　關川村　大鹿村
長澤村　小出雲村
長野縣
上高井郡ノ内　川田村　綿内村
保科村　井上村　高甫村
豊丘村　仁礼村
埴科郡ノ内　南條村　中之條村　坂城村
東筑摩郡ノ内　錦部村　會田村　五常村
中川村　本城村　坂北村
生坂村　東川手村

上川手村
更級郡ノ内　牧鄉村　大岡村　日原村
北安曇郡ノ内　社村　池田町村　會染村
七貴村　陸鄉村　廣津村
八坂村
下伊那郡ノ内　清内路村　根羽村
山梨縣
中巨摩郡ノ内　龍王村　玉幡村　松島村
池田村　貢川村　國母村
大鏸田村　二川村　稻積村
三町村　西條村　常永村
小井川村　花輪村　忍村
御影村　田之岡村　源村
飯野村　百田村　豐村
在家塚村　今諏訪村
三恵村　藤田村
明穂村　野々澤村
落合村　大井村　平林村
南湖村
南巨摩郡ノ内　增穗村
神奈川縣
中郡　北下浦村　南下浦村
三浦郡ノ内　三崎町　初聲村　北下浦村
長井村　武山村　中西浦村
足柄上郡ノ内　曾我村　金田村
中村　上秦野村　川村
松田村　南足柄村　福澤村
北足柄村　岡本村
酒田村　櫻井村　井ノ口村
上中村　山田村
吉田島村
寄村
足柄下郡ノ内　二川村　富水村
豐川村　上府中村　下府中村
下曾我村　前羽村

酒匂村　大野村　田島村
國府津村
愛甲郡ノ内　玉川村
靜岡縣
富士郡ノ内　富士根村　富丘村
大宮町　上井出村　白糸村
北山村　芝富村
上野村
楠野村
小笠郡ノ内　大須賀村　大淵村　大坂村
三笠村　千濱村
朝比奈村　北木村
新野村　南山村
磐田郡ノ内　見付町　中泉町　掛塚町
幸浦村　東淺羽村　豐濱村
西淺羽村　上淺羽村
御厨村　福島村　於保村
南御厨村　西貝村　梅原村
長野村　袖浦村
井通村　池田村
富岡村　向笠村
岩田村　今井村　三川村
敷地村　野部村
濱名郡ノ内　笠井町　曳馬村
三方原村　天神町村　白脇村
淺場村　新津村　櫛村
北庄内村　和地村
南庄内村　伊佐見村　神久呂村
吉野村　入野村　富塚村
堆踏村　小野田村　平貴村
有玉村　赤佐村　中瀬村
美島村　豐西村　中郡村
龍池村　天王村　蒲村
市野村　中ノ町村　飯田村
和田村　河輪村　五島村
芳川村
愛知縣
寶飯郡ノ内　國分町　三谷町
御馬村　御津村
蒲郡町
大塚村

豐岡村　靜里村　神ノ鄉村
寶津村　形原村　西浦村
額田郡ノ内　相見村　深溝村
碧海郡ノ内　知立町　刈谷町　上重原村
重原村　牛高村　元刈谷村
小垣江村　箕輪村　野田村
長崎村　里村　今村
牛橋村　若園村　和會村
横根村　北崎村　共和村
竹村　堤村　駒場村
長草村　名和村　蔓尾村
大田村
寶飯郡ノ内　富木島村
西加茂郡ノ内　擧母町　梅坪村　宮口村
邊妻村　明越村　三好村
葡生村　伊保村　橋見村
根川村
東加茂郡ノ内　生駒村　廣瀬村
知多郡ノ内　有松町　大高町
緒川村
吉田村　森岡村　大府村
横根村　北崎村　共和村
長草村　名和村　蔓尾村
大田村
愛知郡ノ内　鳴海町　鳥野村　彌富村
廣路村　千種村　鍋屋上野村
田代村　高社村　猪子石村
植田村　平針村　香久山村
諸和村　春木村　沓掛村
豐明村　白山村　岩崎村
岩作村　長湫村　上郷村
上郷村　片山村　味岡村
東春日井郡ノ内　勝川町　小牧町　味美村
春日井村　外山村
岩崎村　久保一色村
池林村　大野村　大草村
陶村　田樂村　下原村
小木田村　和智良村

静里村　神ノ鄉村
豐津村　形原村　西浦村
額田郡ノ内　相見村　深溝村
碧海郡ノ内　知立町　刈谷町　上重原村
重原村　牛高村　元刈谷村
小垣江村　箕輪村　野田村
長崎村　里村　今村
牛橋村　若園村　和會村
竹村　堤村　駒場村
長草村　名和村　蔓尾村
大田村
寶飯郡ノ内　富木島村
西加茂郡ノ内　擧母町　梅坪村　宮口村
邊妻村　明越村　三好村
葡生村　伊保村　橋見村
根川村
東加茂郡ノ内　生駒村
知多郡ノ内　有松町　大高町
緒川村
吉田村　森岡村　大府村
横根村　北崎村　共和村
長草村　名和村　蔓尾村
大田村
愛知郡ノ内　鳴海町　鳥野村　彌富村
廣路村　千種村　鍋屋上野村
田代村　高社村　猪子石村
植田村　平針村　香久山村
諸和村　春木村　沓掛村
豐明村　白山村　岩崎村
岩作村　長湫村　上郷村
上郷村　片山村　味岡村
東春日井郡ノ内　勝川町　小牧町　味美村
春日井村　外山村
岩崎村　久保一色村
池林村　大野村　大草村
陶村　田樂村　下原村
八幡村　小木田村　和智良村

柏井村　小野村　志談村
上志談味村　雄五村　不二村
玉川村　神坂村　内津村
高間村　二城村　小幡村
大森村　印場村　新居村
八白村　水野村　掛川村
丹羽郡ノ内　富成村　樂田村
犬山町　羽黒村　岩田村　今井村
池野村　善師野村　岩橋村
高雄村
北設樂郡ノ内　稻橋村　武節村
岐阜縣
海津郡　惠那郡ノ内　上村　下原田村　串原村
可兒郡ノ内　帷子村　池田村
稻葉郡ノ内　南長森村　北長森村
那加村　更木村　日野村
前宮村　鵜沼村　各務村
芥見村　岩村
三重縣
度會郡ノ内　宇治山田【町】　田丸町　宮本村
御薗村　豐濱村　北濱村
小俣村　有田村　東外城村
城田村　下外城田村　内城田村
多氣郡ノ内　明星村　五ヶ谷村
飯南郡ノ内　茅廣江村　大石村　弥見村
宮前村　一志郡ノ内　竹原村　八知村　太郎生村
伊勢地村　八幡村　多氣村
名賀郡ノ内　名張町　蔵持村　薦原村
古山村　猪田村
花垣村　依那古村　神戸村　美濃波多村

阿山郡ノ内　上野町　小田村　城南村
花之木村　長田村　新居村
三田村　中ノ瀨村　府中村
山田村　友生村
鈴鹿郡ノ内　高津瀨村
井田川村　深伊澤村　久間田村
川崎村　椿村　庄内村
三重郡ノ内　水澤村
小山田村　千種村　保々村
員辨郡ノ内　櫻村
治田村　東藤原村
滋賀縣
愛知郡ノ内　西小椋村　角井村
神崎郡ノ内　八日市町　御園村
蒲生郡ノ内　安土村　老蘇村
中野村　玉緒村
野洲郡ノ内　遠野村　中洲村
中里村　北里村
福井縣
大野郡ノ内　大野町　勝山町　小山村
乾側村　下庄村　上庄村
飯谷村　富田村　平泉寺村
猪野瀨村　岡村　水谷村
野向村　荒土村　北谷村
鹿谷村　遲羽村　北鄉村
吉田郡ノ内　淨法寺村　上志比村
石川縣
江沼郡ノ内　西谷村　河野村
能美郡ノ内　別宮村　吉原村
尾口村　中海村　宮内村

石川郡ノ内　藏山村　河内村
鶴來町　額村　富樫村
吉野谷村　崎浦村
富山縣
婦負郡ノ内　細入村
西吳羽村
上新川郡ノ内　新保村　大久保村
下ヶ村　船峪村　大澤野村
下新川郡ノ内　舟見町　下立村　内山村
愛本村　山崎村
京都府
相樂郡ノ内　上狛村　高麗村　棚倉村
南桑田郡ノ内　龜岡町　篠村　曾我部村
北桑田郡ノ内　周山村　神吉村
宇津村　山國村　弓削村
宮島村　大野村
船井郡ノ内　下和知村　上和知村
世木村　五ヶ莊村
天田郡ノ内　曾我井村　下豐富村
金山村　下川口村　上川口村
大阪府
北河内郡ノ内　枚方町　友呂岐村
水本村　星田村　讃良村
津田村　交野村　川越村
氷室村　菅原村　磐船村
甲可村　豐野村　山田村
南河内郡ノ内　錦郡村　市新野村
川西村　狹山村　神村
三都村　大鉢村
日置莊村　野田村
泉北郡ノ内　八田莊村　深井村
鶴田村　東陶器村
久世村

西陶器村　北上神村　上神谷村
美木多村　北池田村
泉南郡ノ內
日根野村　長濱村　上之鄉村
南中通村　大土村　田尻村
新家村　東信達村　北信達村
西信達村　嗚濱村　樽井村
雄信達村　尾崎村　東鳥取村
奈良縣
高市郡
宇陀郡ノ內
松山町　神戶村　政始村
宇太村　宇賀志村　伊那佐村
內牧村　宮生村　曾爾村
御杖村
磯城郡ノ內
城島村　平野村
櫻井町　香久山村　安倍村
多村
多武峰村
北葛城郡ノ內
高田町　新庄村　浮孔村
磐園村　陵西村　王寺村
瀨南村　馬見村　百濟村
箸尾村　河合村　土庫村
松塚村
南葛城郡ノ內
忍海村　穩羅村　檢原村
宇智郡ノ內
大阿太村　南阿太村
吉野郡ノ內
下市町　大淀村　秋野村
南芳野村　白銀村　賀名生村
宗檜村　上能門村　十津川村
和歌山縣
伊都郡ノ內
笠田村　大谷村
妙寺村　四鄉村
那賀郡ノ內　紀見村　隅田村
上名手村
日高郡ノ內
名田村
東牟婁郡ノ內

香川郡ノ內
安原村　安原上東村　安原上西村
綾歌郡ノ內
西分村　枌所村　長炭村
造田村　美合村
仲多度郡ノ內
吉野村　十鄉村　七箇村
三豐郡ノ內
豐濱町　神田村
財田村　河內村　栗井村
紀伊村　中姥村　萩原村
五鄉村　和田村　大野原村
愛媛縣
宇摩郡ノ內
金田村　川滻村　富鄉村
金砂村　新立村　上山村
周桑郡ノ內
千足山村　櫻樹村　中川村
田野村　德田村
溫泉郡ノ內
川上村　三內村
上浮穴郡ノ內
父二峰村　小田町村　田渡村
伊豫郡ノ內
原町村　砥部村　廣田村
出淵村　中山村　佐禮谷村
下灘村　南山崎村
喜多郡ノ內
濕穗村　田所村　御澤村
喜多山村　瀧川村
高知縣
長岡郡ノ內
東本山村　西豐永村　東豐永村
福岡縣
朝倉郡ノ內
秋月町　甘木町
松末村　把木村　寶珠山村
高木村　宮野村　久喜宮村
福成村　大庭村　朝倉村
三奈木村　蠶城村　志波村
金川村　福田村
安川村　立石村　上秋月村

香川郡ノ內
安原村　安原上東村　安原上西村
綾歌郡ノ內
西分村　枌所村　長炭村
造田村　美合村
仲多度郡ノ內
吉野村　十鄉村　七箇村
三豐郡ノ內
豐濱町　神田村
財田村　河內村　栗井村
紀伊村　中姥村　萩原村
五鄉村　和田村　大野原村
愛媛縣
宇摩郡ノ內
金田村　川滻村　富鄉村
金砂村　新立村　上山村
周桑郡ノ內
千足山村　櫻樹村　中川村
田野村　德田村
溫泉郡ノ內
川上村　三內村
上浮穴郡ノ內
父二峰村　小田町村　田渡村
伊豫郡ノ內
原町村　砥部村　廣田村
出淵村　中山村　佐禮谷村
下灘村　南山崎村
喜多郡ノ內
濕穗村　田所村　御澤村
喜多山村　瀧川村
高知縣
長岡郡ノ內
東本山村　西豐永村　東豐永村
福岡縣
朝倉郡ノ內
秋月町　甘木町
松末村　把木村　寶珠山村
高木村　宮野村　久喜宮村
福成村　大庭村　朝倉村
三奈木村　蠶城村　志波村
金川村　福田村
安川村　立石村　上秋月村

浮羽郡ノ內
吉井町　田主丸町　大石村
山春村　慈子村　浮羽村
千年村　福富村　江南村
船越村　水分村　川會村
榮刈村　水縄村　竹野村
宗像郡ノ內
赤間町　津屋崎町　吉武村
河東村　神湊村
田島村　卿村　東鄉村
宮田村　野坂村　神興村
上西鄉村　宮地村　下西鄉村
肄浦村
佐賀縣
藝津郡ノ內
南鹿島村　能古見村
八本木村　七浦村　古枝村
西鶴野村　東鶴野村　北鹿島村
長崎縣　吉田村
北松浦郡ノ內
田平村　星鹿村　御厨村
南高來郡ノ內
島原町　湊町　島原村
杉谷村　三會村　大三東村
湯江村　多比良村　千々岩村
小濱村　北串山村　南串山村
加津佐村　口ノ津村　南有馬村
北有馬村　西有家村　東有家村
堂崎村　布津村　深江村
安中村
熊本縣
球磨郡ノ內
人吉町　西村　一武村
兎田村　大村　要田村
川村　中原村
木上村　上村
葦北郡ノ內
水俣村
上益城郡ノ內
木山町　秋津村
津森村　白水村
飽託郡ノ內

龍田村　黑髮村　清水村
川上村　大江村　供合村
廣畑村　小山戶鳥村　鏈軍村
菊池郡ノ內
大津町　津田村　原水村
濱田村　陳內村　平眞城村
護川村　合志村　西合志村
阿蘇郡ノ內
高森町　馬見原町　古城村
南小國村　北小國村
錦野村　野尻村　山西村
乾部村　白水村　色見村
波野村　產山村　菅尾村
柏村
大分縣
日田郡ノ內
豆田町　隈町　三花村
大鶴村　夜明村　光岡村
朝日村　三芳村　五和村
高瀨村
直入郡ノ內
竹田町　豐岡村　岡本村
玉來村　松本村　入田村
螺嶽村　宮砥村　柏原村
荻村　菅生村　宮城村
城原村　明治村　白丹村
久住村　郡野村　長湯村
下竹田村
大野郡ノ內
川登村　田野村　野津市村
戶上村　南野津村　菅尾村
百枝村　新田村　新田村
白山村　三重村　牧口村
南緒方村　合川村　上緒方村
小富士村　長谷川村　上井田村
西大野村　今市村　田中村
中井田村　糞老村　大野村
榮原村　井田村　犬飼村
長谷村　土師村
北海部郡ノ內
臼杵町　海邊村
下ノ江村　中臼杵村
下北津留村　上北津留村

上南津留村　下南津留村　市濱村
上浦村　下浦村　青江村
津組村
大分郡ノ內
戶次村　吉野村
東國東郡ノ內
竹田津村　上伊美村
西國東郡ノ內
上眞玉村　中眞玉村
臼野村　三浦村　岬村
三重村
宇佐郡ノ內
橫山村　豐川村
宮崎縣
西臼杵郡ノ內
高千穗村　上野村　岩戶村
三ヶ所村　田原村
兒湯郡ノ內
下穗北村　都於郡村　上穗北村
東諸縣郡ノ內
高岡村　穗佐村　倉岡村
木脇村　本庄村　八代村
宮崎郡ノ內
生目村
瓜生野村
鹿兒島縣
鹿兒島郡
日置郡
川邊郡
揖宿郡
大島郡
出水郡ノ內
阿久根村　野田村　高尾野村
上出水村　大川內村　中出水村
下出水村
薩摩郡ノ內
隈之城村　入來村
高江村　平佐村　樋脇村
上東鄉村　東水引村
高城村　山崎村
宮之城村　大村
佐志村　黑木村
永野村
永利村
西水引村
下東鄉村
木山村
蘭牟田村

北上神村　上神谷村
北池田村
泉南郡ノ內
日根野村　長濱村　上之鄉村
南中通村　大土村　田尻村
新家村　東信達村　北信達村
西信達村　鳴濱村　樽井村
雄信達村　尾崎村　東鳥取村
奈良縣
高市郡
宇陀郡ノ內
松山町　神戶村　政始村
宇太村　宇賀志村　伊那佐村
內牧村　宮生村　曾爾村
御杖村
磯城郡ノ內
城島村　平野村
櫻井町　香久山村　安倍村
多村
多武峰村
北葛城郡ノ內
高田町　新庄村　浮孔村
磐園村　陵西村　王寺村
瀨南村　馬見村　百濟村
箸尾村　河合村　土庫村
松塚村
南葛城郡ノ內
忍海村　穩羅村　檢原村
宇智郡ノ內
大阿太村　南阿太村
吉野郡ノ內
下市町　大淀村　秋野村
南芳野村　白銀村　賀名生村
宗檜村　上能門村　十津川村
和歌山縣
伊都郡ノ內
笠田村　大谷村
妙寺村　四鄉村
那賀郡ノ內　紀見村　隅田村
上名手村
日高郡ノ內
名田村
東牟婁郡ノ內

兵庫縣
加古郡
明石郡ノ內
平野村　神出村　岩岡村
大久保村　魚住村　林崎村
永上郡ノ內
上久下村　小川村　神樂村
和田村　久下村　葛野村
養父郡ノ內
口大屋村　大屋村　西谷村
南谷村
宍粟郡ノ內
葛澤村　千種村　三河村
土萬村　皆野村
揖保郡ノ內
西栗栖村
佐用郡ノ內
中安村　德久村　大廣村
三日月村
岡山縣
上房郡
眞庭郡
川上郡
久米郡ノ內
大井西村　儀文西村　西川村
吉岡村　福岡村　豐岡村
赤磐郡ノ內
山方村
苫田郡ノ內
富村　草間村　豐永村
阿哲郡ノ內
美袋村　刑部村　上刑部村
丹治郡村　矢神村　新砥村
萬歲村　野馳村　石蟹鄉村
御津郡ノ內
宇甘西村　加茂村　福山村
上田村　富津村
長田村　豐岡村　江與味村
吉備郡ノ內
下倉村　水內村　新山村
秦村

鳥取縣
西伯郡
八頭郡ノ內
登米村　小畑村　若櫻村
赤松村　菅野村　池田村
日野郡ノ內
野上村　黑坂村
二部村　眞住村
安井村　江尾村
渡村　神奈川村
根雨村　溝口村
金岩村　米原村
榮村　旭村　吉壽村
吉田村
島根縣
八束郡ノ內
波入村　二子村
大原郡ノ內
日登村　佐世村
仁多郡ノ內
三澤村　溫泉村
布施村
飯石郡ノ內
一宮村　三刀屋村
飯石村　鍋山村
中野村　田井村
掛合村　多根村
松笠村
德島縣
三好郡
美馬郡
麻植郡ノ內
木屋平村
名西郡ノ內
上分上山村　下分上山村
香川縣

給良郡ノ內　加治木村　重富村　蒲生村
山田村　帖佐村　西襲山村
東襲山村　國分村　敷根村
清水村　西國分村　東國分村
囎唹郡ノ內　大崎村　東志布志村　西志布志村
肝屬郡ノ內　花岡村　新城村　鹿屋村
姶良村　大姶良村　高山村
西串良村　東串良村　垂水村
牛根村　佐多村　大根占村
小根占村　田代村
薩毛郡ノ內　北種子村　中種子村　南種子村
沖繩縣　那覇區　首里區
島尻郡　中頭郡
國頭郡　八重山郡

●專賣局官吏携帶證票樣式

明治四十年九月二十七日大藏省令第三十九號
改正　大正一年第四九號

專賣局官吏ニ於テ檢查、取締其ノ他監督上必要ノ處分ヲ爲ス際携帶スヘキ證票ノ樣式左ノ通相定ム

用紙　厚紙　縱　曲尺三寸　橫　曲尺二寸

（表）

（何）第　號

專賣局官吏證票

專賣局印

（裏）

（何）地方專賣局在勤

官氏名

附則

本令ハ明治四十年十月一日ヨリ施行ス

明治三十六年九大藏省令第二十三號煙草製造營業ニ關スル件ハ廢止ス

煙草製造營業ニ關スル件廢止ニ伴フ經過規定

第一條　煙草製造營業ニ關スル件廢止ノ際現ニ煙草製造營業ヲ爲ス者ハ本令施行ノ日ヨリ三箇月以內ニ煙草製造營業ノ許可ヲ受クヘシ

第二條　煙草製造營業ニ關スル件廢止ノ際現ニ煙草製造營業ヲ爲ス者ハ本令施行ノ日ヨリ三箇月以內ニ煙草製造營業ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ營業所ノ位置又ハ煙草自働發賣機ノ構造若ハ位置ヲ變更スルコトヲ得ス

第三條　煙草製造營業ニ關スル件廢止ノ際現ニ煙草製造營業ヲ爲ス者ハ本令施行ノ日ヨリ三箇月以內ニ煙草製造營業ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ營業所ノ位置又ハ煙草自働發賣機ノ構造若ハ位置ヲ變更スルコトヲ得ス

第四條　煙草製造營業ニ關スル件廢止ノ際現ニ煙草製造營業ヲ爲ス者ハ本令施行ノ日ヨリ三箇月以內ニ煙草製造營業ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得ス

第五條　煙草製造營業ニ關スル件廢止ノ際現ニ煙草製造營業ヲ爲ス者ハ本令施行ノ日ヨリ三箇月以內ニ煙草製造營業ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得ス

第六條　煙草製造營業ニ關スル件廢止ノ際現ニ煙草製造營業ヲ爲ス者ハ本令施行ノ日ヨリ三箇月以內ニ煙草製造營業ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得ス

第七條　煙草製造營業ニ關スル件廢止ノ際現ニ煙草製造營業ヲ爲ス者ハ本令施行ノ日ヨリ三箇月以內ニ煙草製造營業ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得ス

第八條　煙草製造營業ニ關スル件廢止ノ際現ニ煙草製造營業ヲ爲ス者ハ本令施行ノ日ヨリ三箇月以內ニ煙草製造營業ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得ス

第九條　煙草製造營業ニ關スル件廢止ノ際現ニ煙草製造營業ヲ爲ス者ハ本令施行ノ日ヨリ三箇月以內ニ煙草製造營業ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得ス

第十條　煙草製造營業ニ關スル件廢止ノ際現ニ煙草製造營業ヲ爲ス者ハ本令施行ノ日ヨリ三箇月以內ニ煙草製造營業ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得ス

煙草賣捌規則

明治四十二年四月二十一日大藏省令第二十七號
改正　明治四十二年第三五號、第四二號、第五八號、四三年第二號、第四一號、四四年第六號、第三五號、四五年第一號、第一七號、大正二年第二四號、四年第二五號、五年第五四號、六年第三五號、七年第二八號、八年第五一號、第一〇年第二二號、第二六號、一一年第二三號、第二五號、第四九號、一二年第二〇號、一三年第一七號、第三二號、一五年第二九號、第三七號

第一條　煙草賣捌人ハ政府ヨリ製造煙草ヲ買受ケ之ヲ專賣局長官ノ指定シタル區域內ノ煙草小賣人ニ賣渡スモノトス但シ專賣局長官ノ認許ヲ得テ他ノ煙草元賣捌人ヨリ製造煙草ヲ買受クルコトヲ得

政府ハ必要ト認ムルトキハ煙草元賣捌人ニ指定セラレタル者ニ對シ其ノ指定期間開始前製造煙草ヲ賣渡ニ付テハ本令中煙草元賣捌人ニ關スル規定ヲ準用ス

煙草小賣人ハ煙草元賣捌人ヨリ製造煙草ヲ買受ケタル者ニ賣渡スモノトス

政府ハ特殊ノ場合ニ於テ製造煙草ヲ特定價格ヲ以テ煙草小賣人又ハ消費者ニ賣渡スコトアルヘシ

第二條　煙草元賣捌人及煙草小賣人ハ必要ニ應シ五年以內ノ期間ヲ以テ專賣局長官之ヲ指定ス

煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人タラムトスル者ハ第一號書式ニ依リ申請スヘシ

煙草元賣捌人タル法人其ノ定款ヲ變更セムトスルトキハ專賣局長官ノ許可ヲ受クヘシ

煙草小賣人タル法人其ノ定款ヲ變更シタルトキハ其ノ旨專賣局長官ニ屆出ツヘシ

第三條　煙草賣捌人死亡又ハ隱居ノ場合ニ於テハ其ノ相續人ハ專賣局長官ニ申告シ發期間其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得但シ第四條ニ依リ煙草賣捌人ニ指定セラルルコトヲ得サル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ申告ハ煙草賣捌人死亡ノ場合ニ在リテハ死亡ノ日ヨリ一月以內ニ、隱居ノ場合ニ在リテハ隱居者ノ連署ヲ以テ隱居ノ日ヨリ二月以內ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四條　左ニ揭ケル者ハ煙草元賣捌人ニ指定セラルルコトヲ得ス

一　煙草耕作者、之ト同一ノ家ニ在ル者又ハ煙草耕作者ノ同居者

二　削除

三　煙草專賣法第四十一條乃至第四十六條第四十八條乃至第五十條第五十二條第五十四條乃至第六十條ニ依リ處罰又ハ處分ヲ受ケ二年ヲ經サル者

四　第二十六條第二十七條ニ依リ煙草賣捌人ノ指定ヲ取消サレ二年ヲ經サル者

五　身代限處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者又ハ家資分散若ハ破產ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ復權ノ確定ヲ經サル者

六　國稅滯納處分又ハ之ニ準シタル處分ヲ受ケ一年ヲ經サル者

七　懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者若ハ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判ノ確定スルニ至ル迄ノ者

前項第二號乃至第四號ノ一ニ該當スル者ハ煙草小賣人ニ指定セラルルコトヲ得ス

法人ノ代表スル者ニ付之ヲ定ム

未成年者又ハ禁治產者ノ場合ニ於テハ第一項各號ノ事實ノ有無ハ未成年者禁治產者又ハ其ノ法定代理人ニ付之ヲ定ム但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四條ノ二　專賣局長官煙草小賣人ヲ指定スルニ方リテハ左ノ順序ニ依ル

一　戰鬪又ハ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ法律ニ依リ恩給ヲ受クル者

二　戰鬪又ハ公務ノ爲死亡シタル者ノ遺族ニシテ法律ニ依リ扶助料ヲ受クル者

三　專賣局職工ニシテ職務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退職シ專賣局現業員共濟組合規則ニ依リ救濟金ヲ受ケタル者又ハ專賣局職工ノ遺族ニシテ同規則ニ依リ救濟金ヲ受ケタル者

四　專賣局職工ニシテ十年以上勤續セシ者引續キ三年以上煙草賣捌人タリシ者

五　公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ法律ニ依リ退隱料ヲ受クル者又ハ公務ノ爲死亡シタル者ノ遺族ニシテ同一ノ法律ニ依リ扶助料ヲ受クル者

六　其ノ他ノ者

第五條　削除

第六條　煙草元賣捌人ト煙草小賣人トハ互ニ相並ヌルコトヲ得ス又其ノ營業所ヲ同シクスルコトヲ得ス

第七條　煙草元賣捌人他ノ營業ヲ兼ヌルトキハ其ノ營業所ト他ノ營業所トノ間ニ相當ノ區劃ヲ設クヘシ

第八條　煙草小賣人ノ營業所ハ一人一箇所トス

專賣局長官ハ必要ト認ムル場合ニ於テ煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人ニ對シ二箇所以上ノ營業所ノ設置ヲ許可シ又ハ命スルコトアルヘシ

第八條ノ二　煙草自働發賣機ヲ設置セムトスル煙草小賣人ハ其ノ構造、設置スヘキ位置及發賣スヘキ種類、名稱ヲ定メ第一號書式ノ二ニ依リ專賣局長官ニ申請シ其ノ無ハ法人、法人ノ業務ヲ執行スル社員又ハ法人ノ代表スル者ニ付之ヲ定ム

煙草賣捌人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ生シタルトキ又ハ引替若ハ買戻ノ爲煙草小賣人ヨリ引渡ヲ受ケタル製造煙草ニシテ其ノ引替ノ原因カ煙草小賣人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ生シタルトキハ煙草小賣人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ生シタルトキハ煙草小賣人ノ製造煙草ノ價格減少ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

前二項ノ規定ハ第一條第五項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條　製造煙草ニシテ品質ノ惡變シ又ハ包裝ノ破損若ハ汚染シタルモノアルトキハ煙草小賣人ハ其ノ買受先ニ之カ引替ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該官吏ノ檢查證明書ヲ買受先ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ引替ノ原因カ煙草小賣人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ生シタルトキハ煙草小賣人ハ製造煙草ノ價格減少ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第二十四條　煙草小賣人前條ニ依リ製造煙草ノ引替ヲ請求シ又ハ第三十條ニ依リ製造煙草ノ買戻ヲ請求シタルトキハ煙草元賣捌人ノ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十五條　煙草元賣捌人其ノ營業ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ廢止ノ日ヨリ三十日以前ニ其ノ旨ヲ專賣局長官ニ申告スヘシ二箇所以上ノ營業所ヲ有スル煙草元賣捌人其ノ一箇所又ハ數箇所ヲ廢止セムトスルトキ亦同シ

第二十六條　左ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ヲ準用ス

煙草自働發賣機設置者其ノ設置ヲ撤廢セムトスル場合ニ於テハ前項ノ規定ヲ準用ス

煙草元賣捌人ニ賣渡ス製造煙草ハ煙草販賣官署又ハ其ノ貯藏所ニ於テ之ヲ引渡スモノトス

煙草販賣官署又ハ其ノ貯藏所ヨリ煙草元賣捌人ノ營業所ニ至ル迄ノ製造煙草運搬費ハ一定ノ割合ヲ以テ政府之ヲ支給ス

地方專賣局長官ハ必要アリト認メタルトキハ前項ニ依リ運搬費ヲ支給ス場合ニ於テハ其ノ製造煙草ノ運送業者ヲ指定スルコトアルヘシ

前三項ノ規定ハ第一條第五項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十六條　煙草元賣捌人ノ煙草小賣人ニ賣渡ヲ爲ササルトキ又ハ其ノ買受代金ニ年五十圓未滿ナルトキ

法人カ煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人ニ指定セラレタル場合ニ於テ前項第一號又ハ第四號ノ事實ノ有無ハ法人、法人ノ業務ヲ執行スル者又ハ法人ヲ代表スル者ニ付之ヲ定ム

第二十七條　煙草賣捌人左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　煙草元賣捌人第一條第一項ニ違反シテ他ノ煙草元賣捌人ヨリ製造煙草ヲ買受ケ又ハ情ヲ知テ之ヲ賣渡シタルトキ又ハ煙草賣捌人第九條ニ違反シタルトキ又ハ許可ヲ受クシテ營業所ヲ新設シタルトキ

二　煙草元賣捌人第十六條ノ制限ヲ超エテ製造煙草ヲ賣渡シタルトキ

三　煙草賣捌人本令又ハ煙草販賣官署長カ本令ニ依リ指示シタル事項ニ違反シ當該官吏ノ注意ヲ受クルモ尙之ニ從ハサルトキ

前項第一號乃至第四號ノ場合ニ於テハ罰金又ハ科料ニ處セス直ニ煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人ノ指定ヲ取消スコトヲ得

第二十八條　左ノ場合ニ於テ專賣局長官ハ煙草元賣捌人ノ營業區域ニ指定シタル地ニ營業所ヲ設期間ヲ限リ其ノ區域ノ全部ヲ他ノ煙草元賣捌人ノ營業區域ニ指定スルコトヲ得

一　專賣局長官ノ命シタル地ニ營業所ヲ設

置セサルトキ

二　出資人ノ數又ハ出資ノ口數其ノ他製造煙草ノ供給方ニ付煙草販賣官署長ノ指示ニ從ハサルトキ

第二十八條ノ二　左ノ場合ニ於テ專賣局長官ハ煙草自働發賣機設置ノ許可ヲ取消スコトヲ得

一　煙草自働發賣機設置ノ許可ヲ受ケタル煙草小賣人其ノ設備ヲ爲サス又ハ其ノ設備不完全ナルトキ

二　煙草自働發賣機ニ對スル煙草ノ供給方ニ付煙草販賣官署長ノ指示ニ從ハサルトキ

第二十九條　煙草元賣捌人死亡シ其ノ營業ヲ承繼スルモノナキトキ、指定期間滿了シ引續キ指定セラレサルトキ其ノ指定ヲ取消サレタルトキ又ハ其ノ營業ヲ廢止シタルトキハ現存スル製造煙草ハ賣賣ノ發生後三十日以内ニ專賣局長官ノ指定シタル煙草販賣官署ニ之カ買戻ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ煙草元賣捌人ヘノ現行割引歩合ニ相當スル金額ヲ控除シタルモノトス

前項ノ場合ニ於テ煙草元賣捌人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ製造煙草ノ品質惡變シ又ハ包裝ノ破損若ハ汚染シタルモノアルトキハ引若若ハ買戻ノ爲ニ煙草小賣人ヨリ引渡ヲ受ケタル製造煙草ニシテ煙草小賣人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ品質惡變シ又ハ包裝ノ破損若ハ汚染シタルモノアルトキハ拂戻スヘキ金額ヨリ其ノ價格減少ニ相當スル金額ヲ控除ス

第三十條　煙草小賣人死亡シ其ノ營業ヲ承繼スル者ナキトキ、指定期間滿了シ引續キ指定セラレサルトキ其ノ指定ヲ取消サレタルトキ又ハ其ノ營業ヲ廢止シタルトキハ現存スル製造煙草ハ事實ノ發生後三十日以内ニ其ノ買受先ニ之カ買戻ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ第一條第五項ニ依リ政府ヨリ直接ニ賣渡シタル製造煙草ノ買戻價格ハ煙草小賣人ヘノ現行賣渡價格ヲ以テス

前項ノ場合ニ於テ煙草小賣人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ品質惡變シ又ハ包裝ノ破損若ハ汚染シタルモノアルトキハ拂戻スヘキ金額ヨリ其ノ價格減少ニ相當スル金額ヲ控除ス

第三十一條　本令中專賣局長官ニ提出スヘキ書類ハ別表ノ區域ニ依リ關係ノ煙草販賣官署ヲ經由スヘシ

附　則

本令ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年二大藏省令第四號煙草賣捌規則ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

明治四十二年七月一日以降煙草元賣捌人タラムトスル者ハ第一號書式ニ依リ明治四十二年五月二十日迄ニ申請スヘシ

現ニ煙草小賣人タル者ニシテ明治四十二年七月一日以降引續キ煙草小賣人タラシムヘキ者ハ其ノ申請ヲ俟タス明治四十二年六月二十日迄ニ專賣局長官之ヲ指定ス

（第一號書式）

煙草元賣捌人（煙草小賣人）指定申請書

一現在營業ノ種類

何々業

一煙草賣捌營業所豫定位置

府縣　郡市　町村　字　番地

前記營業所ニ於テ煙草元賣捌人（煙草小賣人）ニ指定相成度申請候也

年　月　日　住所　氏名　生年月日

專賣局長官宛

備考

一會社ヲ組織セムトスル者煙草元賣捌人ノ指定ヲ受ケタル年月日及其ノ營業期間私共煙草元賣捌營業ヲ目的トスル會社ヲ組織致度候ニ付許可相成度申請候也

年　月　日　住所　氏名　生年月日

同　同

同　同

專賣局長官宛

備考

一現ニ煙草元賣捌人タル者ハ住所ノ箇所ニ現在ノ營業所位置ヲ及氏名ノ上ニ煙草元賣捌人ト記載スヘシ

（第三號雛形）

二尺

七寸

○煙草小賣所

煙草小賣人　何某

（第二號書式）

會社組織許可申請書

一會社豫定ノ定款

一會社ヲ組織セムトスル各煙草元賣捌人ノ指定ヲ受タル年月日及其ノ營業期間私共煙草元賣捌營業ヲ目的トスル會社ヲ組織致度候ニ付許可相成度申請候也

年　月　日　住所　氏名　生年月日

同　同

同　同

專賣局長官宛

備考

一設置ノ場所ハ最詳細ニ記述シ記述ノ足ラサル所ハ地圖ヲ附スヘシ

二　構造設計書ハ別紙トシテ添附スヘシ

三　無能力者ノ申請ニ付テハ法定代理人之ニ連署捺印スヘシ

（第四號書式）

煙草買受帳

年月日	箱數	代金	摘要
一月一日	一〇〇	八、五〇〇圓	何製造所ヨリ買受
一月五日	五〇	四、三〇〇	煙草元賣捌人何某ヨリ買受
一月三〇日	三〇		何支店ヨリ受入
月計	(五〇)		（本店ヨリ受入）
内	三〇〇		
二月五日	二二〇	一八、七〇〇圓	何製造所ヨリ買受
二月三〇日	五〇	四、三〇〇	同業者ヨリ買受
月計	三〇		支店ヨリ受入
累計	(五〇)		（本店ヨリ受入）
本月拂高	五〇〇		
翌月ヘ越高	二〇〇		
	一〇〇		

備考

一　本帳ハ口付紙卷煙草、兩切紙卷煙草、刻煙草、內國製葉卷及輸入煙草ノ四冊トシ各稱、包裝別ニ口座ヲ設クヘシ

二　本帳ハ例示ノ通每月月計二月目ヨリ累計ヲ付シ尙煙草賣渡帳ノ月計ヲ箱數ニ換算記入シ翌月ヘノ越高ヲ調査記載スヘシ

但シ一本箱未滿ノ端數ハ包裝數ヲ以テ箱數ノ左傍ニ附記スヘシ

三　本帳ハ營業所一箇所每ニ調製整理スヘシ

四　本帳ハ便宜橫式ト爲スヲ妨クス

（第五號書式）

煙草賣渡帳

年月日	包裝數	代金	摘要
一月一日	五〇〇	四四〇圓	何部　何村、煙草小賣人何某ヘ
一月五日	五〇、〇〇〇	〇〇〇	賣渡
一月三〇日	三〇、〇〇〇	四、三〇〇、〇〇〇	煙草元賣捌人何某ヘ賣渡
月計	(五〇、〇〇〇)		何支店ヘ拂出
内	二〇〇、〇〇〇		（本店ヘ拂出）
二月五日	一二〇、〇〇〇	一〇、五六〇、〇〇〇圓	煙草小賣人ヘ賣渡
二月三〇日	五〇、〇〇〇	四、三〇〇、〇〇〇	同業者ヘ賣渡
月計	三〇、〇〇〇		支店ヘ拂出
累計	(五〇、〇〇〇)		（本店ヘ拂出）
	三〇〇、〇〇〇		

備考

一　本帳ハ口付紙卷煙草、兩切紙卷煙草、刻煙草、內國製葉卷及輸入煙草ノ四冊トシ各稱、包裝別ニ口座ヲ設クヘシ

二　賣渡先煙草小賣人ノ氏名ハ他ノ帳簿書類等ニ依リ之ヲ明カニシ得ヘキトキハ本帳ニハ之ヲ區分セス一日分以內一括シテ之ヲ記載スルコトヲ得

三　本帳ニハ例示ノ通每月月計二月目ヨリ累計ヲ付スヘシ

四　本帳ニハ營業所一箇所每ニ調製整理スヘシ

五　本帳ハ便宜橫式ト爲スヲ妨クス

六　本帳ハ便宜賣受帳ト併合シ現在高欄ヲ設クルコトヲ妨クス

（別表）

煙草販賣官署

區域	名稱
東京地方專賣局	東京府（南多摩郡（町田町、南村）、埼玉縣（秩父郡（大門村、槻川村、大河原村）ヲ除ク）、兒玉郡、大里郡ヲ除ク）、千葉縣、茨城縣（鹿島郡（若松村、矢田部村、東下村）、稻敷郡（本新島村ヲ除ク）、結城郡、猿島郡、北相馬郡）
同　横濱出張所	神奈川縣（足柄上郡（清水村大字川西、湯觸、谷ケ）ヲ除ク）、沖繩縣（島尻郡（沖大東島））
同　甲府出張所	山梨縣
水戶地方專賣局	茨城縣（那珂郡（檜澤村、八里村、隆鄉村）、鹿島郡（若松村、矢田部村、東下村）、稻敷郡（本新島村）、結城郡、猿島郡、北相馬郡ヲ除ク）、埼玉縣（秩父郡（大門村、槻川村、大河原村ヲ除ク）、兒玉郡、大里郡）、群馬縣（利根郡（赤城根村大字根利字低澤、東村大字平川）、山田郡（矢場川村、毛里田村）、邑樂郡）、栃木縣（足利郡（菱村））
同　前橋出張所	群馬縣（利根郡（赤城根村大字根利字低澤、東村大字平川）、山田郡（矢場川村、毛里田村）、邑樂郡）、栃木縣（足利郡（菱村）ヲ除ク）
宇都宮地方專賣局	群馬縣（利根郡（赤城根村大字根利字低澤、東村大字平川）、山田郡（矢場川村、毛里田村）、邑樂郡）、茨城縣（猿島郡（石喰郡（川前村、三坂村ヲ除ク））
高崎地方專賣局	埼玉縣（秩父郡（大門村、槻川村、大河原村ヲ除ク）、兒玉郡、大里郡）、群馬縣（利根郡（赤城根村大字根利字低澤、東村大字平川字平瀧）、山田郡（矢場川村、毛里田村）、邑樂郡ヲ除ク）、栃木縣（足利郡（菱村））
同　松本出張所	長野縣（松本市、諏訪郡、上伊那郡、下伊那郡、西筑摩郡、東筑摩郡、南安曇郡、北安曇郡、更級郡、埴科郡、（坂城町、中之條村、南條村ヲ除ク）、上水內郡（北小川村、南小川村、津和村、水內村、栄村））
同　新潟出張所	新潟縣（新潟市、北蒲原郡、中蒲原郡、西蒲原郡（國上村ノ內信濃川分水路以南ヲ除ク）、東蒲原郡、岩船郡、佐渡郡、三島郡（大河津村ノ內信濃川分水路以北）、山形縣（西置賜郡（小國本村、津川村、南小國村、北小國村））
同　長岡出張所	新潟縣（長岡市、南蒲原郡、三島郡（大河津村ノ內信濃川分水路以北ヲ除ク）、古志郡、北魚沼郡、南魚沼郡、中魚沼郡、刈羽郡、東頸城郡（沖見村、牧村ヲ除ク）、西蒲原郡（國上村ノ內信濃川分水路以南））
同　小出雲出張所	新潟縣（高田市、東頸城郡（沖見村）、牧村）、中頸城郡、西頸城郡）、長野縣（長野市、上高井郡、下高井郡、上水內郡（北小川村）、南小川村、津和村、水內村、栄村ヲ除ク）、下水內郡）
同　所	福島縣（石城郡（川面村、三坂村ヲ除ク）、雙葉郡（川內村ヲ除ク）、相馬郡（飯曾村、石橋村、新館村ヲ除ク）ヲ除ク）
郡山地方專賣局	

仙臺地方專賣局	宮城縣、福島縣（雙葉郡、川内村ヲ除ク）、相馬郡（飯曾村、石橋村、新館村ヲ除ク）、巖手縣（磐澤郡、江刺郡、西磐井郡、東磐井郡、氣仙郡）	
同　盛岡出張所	巖手縣（磐澤郡、江刺郡、西磐井郡、東磐井郡、氣仙郡ヲ除ク）、青森縣（三戸郡）	
同　青森出張所	青森縣（三戸郡ヲ除ク）、秋田縣（北秋田郡、鹿角郡）	
同　山形出張所	山形縣（西置賜郡、南小國村、北小國村）ヲ除ク	
同　土崎出張所	秋田縣（北秋田郡、鹿角郡ヲ除ク）	
函館地方專賣局	北海道（函館市、室蘭市、磯谷郡、歌棄郡、瀬部郡、島牧郡、濱禰部、久遠郡、奥尻郡、檜志郡、檜山郡、上磯郡、龜田郡、茅部郡、山越郡、松前郡、虻田郡（虻田村、洞爺村、辨邊村）、有珠郡（德舜辨村字オロウエンシリベツ、ソーシユオマベツヲ除ク）、幌別郡、白老郡、勇拂郡（占冠村、似湾村大字穗別村、字下穗別ヲ除ク）ヲ除ク）、沙流郡（右左府村ヲ除ク）、新冠郡、靜内郡、三石郡、浦河郡、様似郡、幌泉郡、廣尾郡）	
同　小樽出張所	北海道（札幌市、小樽市、旭川市、札幌郡、石狩郡、厚田郡、濱益郡、千歳郡、空知郡、夕張郡、樺戸郡、雨龍郡、上川郡（石狩國）上川郡（天塩國）、中川郡（天塩國）、小樽郡、高島郡、忍路郡、余市郡、古平郡、美國郡、積丹郡、古宇郡、岩内郡、虻田郡（虻田村、洞爺村、辨邊村ヲ除ク）、有珠郡（德舜辨村字オロウエンシリベツ、ソーシユオマベツ）、勇拂郡（占冠村、似湾村大字穗別村、字下穗別ヲ除ク）、沙流郡（右左府村大字穗別村、字下穗別ヲ除ク）、利尻郡、礼文郡、天塩郡、留萌郡、增毛郡）	
同　釧路出張所	北海道（釧路市、十勝郡、中川郡（十勝國）、河西郡、河東郡、上川郡（十勝國）、川上郡、阿寒郡、足寄郡、白糠郡、釧路郡、厚岸郡、花咲目梨郡、斜里郡、網走郡、常呂郡、紋別郡）	
同　樺太出張所	樺太	
名古屋地方專賣局	三重縣（津市、四日市市、桑名郡、員辨郡、三重郡、鈴鹿郡）、愛知縣（豐橋市、北設樂郡、南設樂郡、八名郡ヲ除ク）、岐阜縣（大野郡、山ノ口村ヲ除ク）吉城郡（朝日村、高根村ヲ除ク）	
同　豐橋出張所	靜岡縣（濱名郡（浦川村大字、浦川字川上、吉澤）、愛知縣（豐橋市、北設樂郡、南設樂郡、寶飯郡、渥美郡、八名郡）	
同　見付出張所	靜岡縣（賀茂郡、田方郡（熱海町、多賀村、網代町、伊東町、宇佐美村、小川村、對島村）、磐田郡（浦川村大字浦川字川上、吉澤）ヲ除ク）	
同　宮崎出張所	宮崎縣（都城市、南那珂郡、北諸縣郡、西諸縣郡）、鹿兒島縣（出水郡（東長島村、西長島村）ヲ除ク）	
同　宮崎出張所	宮崎縣（宮崎市、宮崎郡、東諸縣郡）、鹿兒島縣（兒湯郡、東臼杵郡）	
同　那覇出張所	沖繩縣（島尻郡（沖大東島、南大東島、北大東島）ヲ除ク）	

同　松山出張所	愛媛縣（宇和島市、新居郡、宇摩郡、周桑郡、西宇和郡、東宇和郡、北宇和郡、南宇和郡ヲ除ク）	
德島地方專賣局	德島縣	
同　高知出張所	高知縣	
坂出地方專賣局高松出張所	香川縣、愛媛縣（新居郡、宇摩郡、周桑郡）	
福岡地方專賣局	長崎縣（壹岐郡、上縣郡、下縣郡）、福岡縣（門司市、小倉市、若松市、八幡市、戶畑市、三池郡、企救郡、田川郡）、大分縣（玖珠郡、日田郡）、佐賀縣（佐賀郡（大字、京都郡、築上郡ヲ除ク	
同　門司出張所	山口縣（大島郡、玖珂郡、熊毛郡、都濃郡、佐波郡、阿武郡（田萬崎村、小川村、彌富村、嘉年村、德佐村、地福村）ヲ除ク）、福岡縣（鞍手郡、小倉市、若松市、八幡市、戶畑市、遠賀郡、嘉穗郡、企救郡、田川郡、京都郡、築上郡）、大分縣（下毛郡）	
同　大分出張所	愛媛縣（宇和島市、西宇和郡、北宇和郡、南宇和郡）、東宇和郡）、大分縣（玖珠郡、日田郡、下毛郡ヲ除ク	
同　長崎出張所	長崎縣（北松浦郡（福島村）、南高來郡、壹岐郡、上縣郡、下縣郡ヲ除ク）	
同　佐賀出張所	佐賀縣（佐賀郡（大託間村）ヲ除ク）、長崎縣（北松浦郡（福島村））	
熊本地方專賣局	長崎縣（南高來郡）、福岡縣（大牟田市、三池郡）、熊本縣、宮崎縣（西臼杵郡）、鹿兒島縣（出水郡（東長島村、西長島村））	
鹿兒島地方專賣局	宮崎縣（都城市、南那珂郡、北諸縣郡、西諸縣郡）、鹿兒島縣（出水郡（東長島村、西長島村）ヲ除ク）	
同　宮崎出張所	宮崎縣（宮崎市、宮崎郡、東諸縣郡）、鹿兒島縣（兒湯郡、東臼杵郡）	
同　那覇出張所	沖繩縣（島尻郡（沖大東島、南大東島、北大東島）ヲ除ク）	

●煙草專賣法ニ依リ國稅徵收法準用ノ場合其施行細則準用方

明治三十七年六月十七日大藏省令第二十六號
改正　明治三十年第一五號
大正一一年第四九號

煙草專賣法第四十條ニ依リ國稅徵收法ノ規定ヲ準用スル場合ニハ其ノ施行ニ關シ國稅徵收法施行細則ヲ準用ス

國稅徵收法施行細則ニ依リ稅務署長ニ屬スル職務ヲ行フヘキ官吏ハ地方專賣局長トス

附　則

本令ハ明治三十七年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●煙草專賣法第四十條ニ依リ國稅徵收法ヲ準用スル場合ニ關スル件

明治三十七年六月十六日勅令第百六十九號

煙草專賣法第四十條ニ依リ國稅徵收法ノ規定ヲ準用スル場合ニハ其ノ施行ニ關シ國稅徵收法施行規則ヲ準用ス

附　則

本令ハ明治四十年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十年勅令第百六十四號、明治三十八年勅令第百三十六號ハ之ヲ廢止ス

●煙草專賣法第四十條ニ依リ國稅徵收法ヲ準用スル場合ニ關スル件

明治三十七年六月十六日勅令第百六十九號

改正　明治四十年九月三十日勅令第三百十一號

煙草專賣法第四十條ニ依リ國稅徵收法ノ規定ヲ準用スル場合ニハ其ノ施行ニ關シ國稅徵收法施行規則ヲ準用ス

附　則

本令ハ明治四十年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年勅令第百六十四號、明治三十八年勅令第百三十六號ハ之ヲ廢止ス

●煙草專賣法ニ依リ國稅徵收法準用ノ場合其施行細則準用方

明治三十七年六月十七日大藏省令第二十六號
改正　明治三十年第一五號
大正一一年第四九號

煙草專賣法第四十條ニ依リ國稅徵收法ノ規定ヲ準用スル場合ニハ其ノ施行ニ關シ國稅徵收法施行細則ヲ準用ス

國稅徵收法施行細則ニ依リ稅務署長ニ屬スル職務ヲ行フヘキ官吏ハ地方專賣局長トス

附　則

本令ハ明治三十七年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●煙草專賣法第四十條ニ依リ國稅徵收法準用ノ場合ニ關スル件

明治三十七年六月十六日勅令第百六十九號

改正　大正一一年第四〇三號

煙草專賣法第四十條ニ依リ國稅徵收法ノ規定ヲ準用スル場合ニハ其ノ施行ニ關シ國稅徵收法施行規則ヲ準用ス

附　則

本令ハ明治四十年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年勅令第百六十四號、明治三十八年勅令第百三十六號ハ之ヲ廢止ス

●煙草專賣法ニ依リ國稅徵收法準用ノ場合ニ關スル件

明治三十七年六月十六日勅令第百六十九號

改正　明治四十年九月三十日勅令第三百十一號

煙草專賣法第四十條ニ依リ國稅徵收法ノ規定ヲ準用スル場合ニハ其ノ施行ニ關シ國稅徵收法施行規則ヲ準用ス

附　則

本令ハ明治四十年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年勅令第百六十四號、明治三十八年勅令第百三十六號ハ之ヲ廢止ス

●煙草專賣法ヲ施行セサル地方

明治三十七年四月二十九日勅令第百三十三號
改正　大正一一年第七六號

煙草專賣法ヲ施行セサル地方ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（大藏大臣臨署）

煙草專賣法第八十七條ニ依リ左ノ島嶼ニハ當分ノ內同法ヲ施行セス

北海道廳管下得撫郡、新知郡、古宇郡、紗那郡、振別郡、擇捉郡、蘂取郡

東京府管下南鳥島

鹿兒島縣管下硫黃島、黑島、竹島、口之島、臥蛇島、中之島、惡石島、寶島、諏訪之瀨島、沖永良部島、與論島

沖繩縣管下伊平屋島、伊是名島、具志川島、野甫島、久米島、前慶良間島、後慶良間島、阿嘉島、慶留間島、渠國島、渡名喜島、鳥島、多良間島、水納島、波照間島、與那國島

●朝鮮煙草專賣令

大正十年四月一日勅令第五號

改正　大正一〇年第一號
昭和二年第一號

朝鮮煙草專賣令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

朝鮮煙草專賣令

第一條　煙草ノ製造ハ政府ニ專屬ス

第二條　煙草ハ政府及政府ノ命ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ輸入スルコトヲ得ス

第三條　煙草ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ耕作スルコトヲ得ス

第四條　煙草ノ耕作區域ハ朝鮮總督之ヲ指定ス

第五條　政府ハ每年耕作スヘキ煙草ノ種類、耕作面積及葉煙草ノ賠償價格ヲ定メ豫メ之ヲ公示ス

第六條　煙草ヲ耕作セムトスル者ハ每年煙草ノ種類、苗床及耕作地ノ位置面積、乾燥場竝貯藏場ヲ定メ政府ノ許可ヲ受クヘシ之ヲ變更シ又ハ耕作ヲ廢止セムトスルトキ亦同シ

第七條　煙草ノ耕作ヲ開始シ又ハ耕作ヲ廢止セムトスルトキハ遲滯ナク政府ニ屆出ツヘシ

前項ノ場合ヲ除クノ外煙草ノ耕作ヲ承繼セムトスル者ハ政府ノ許可ヲ受クヘシ

ムトスルトキハ政府ノ許可ヲ受クヘシ

第八條　煙草苗ノ讓渡及讓受ハ政府ノ許可ヲ受クヘシ

第九條　煙草耕作者ハ政府ノ定ムル方法及手續ニ依リ其ノ耕作ヲ完成スヘシ

第十條　煙草耕作者ハ政府ニ於テ煙草ノ收穫ノ種數量ヲ調査シタル後ニ非サレハ葉煙草ヲ採取シ又ハ幹根ヲ拔除スルコトヲ得ス但シ病蟲害其ノ他ノ事由ニ因リ政府ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　煙草耕作者ノ收穫シタル葉煙草ハ政府ノ定ムル方法ニ依リ之ヲ乾燥調理ノ後政府ニ納付スヘシ

納付ノ期日及場所ハ政府之ヲ定ム

第一項ノ葉煙草ニシテ收納ニ適セサルモノハ之ヲ廢棄セシム

第十二條　煙草耕作者ノ納付シタル葉煙草ハ鑑定人ヲシテ之ヲ鑑定セシメ其ノ等級ニ依リ賠償金ヲ交付ス

煙草耕作者鑑定ニ不服アルトキハ再鑑定ヲ求ムルコトヲ得但シ賠償金ノ請求ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

再鑑定ニ關スル規定ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第十三條　煙草耕作者耕作面積ヲ減少シ又ハ耕作ヲ廢止シタル場合ニ於テ耕作ヲ永續スル者アリトキハ政府ハ現ニ存スル煙草ヲ廢棄セシムルコトヲ得

第十四條　煙草耕作者ノ葉煙草ハ其ノ耕作地、乾燥場、貯藏場及其ノ收納官署ノ外他ニ之ヲ運送スルコトヲ得ス但シ天災其ノ他避クヘカラサル事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　政府ハ煙草耕作者ノ組織スル組合ニ對シ專賣事務執行上必要ナル施設ヲ爲シ又ハ其ノ補助ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

前項ノ組合ニ對シテハ豫算ノ範圍内ニ於テ交付金ヲ下付スルコトヲ得

第十六條　第四條、第五條、第九條及第十條ノ規定ハ試驗ノ爲ニスル煙草ノ耕作ニ付之ヲ適用セス

第十七條　削除

第十八條　製造煙草ハ政府又ハ政府ノ指定シタル煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人ニ非サレハ之ヲ販賣スルコトヲ得ス

煙草賣捌人及製造煙草ノ販賣ニ關スル規定ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第十九條　煙草小賣人ハ政府ノ定メタル價格ヲ以テスルニ非サレハ製造煙草ヲ消費者ニ販賣スルコトヲ得ス

第二十條　煙草賣捌人ハ政府ノ封緘ヲ施シタル製造煙草ノ包裝ヲ開披シ若ハ之ヲ改裝シ又ハ包裝ノ破損シタル製造煙草ヲ販賣スルコトヲ得ス

第二十一條　輸出ニ供スル煙草ヲ製造セムトスル者ハ朝鮮總督ノ特許ヲ受クヘシ

前項ノ煙草ノ製造及輸出ニ關スル規定ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第二十二條　葉煙草ノ輸出ニ關スル規定ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第二十三條　健康上又ハ習慣上缺クヘカラサル煙草ハ自用ニ供スルモノニ限リ自用者ニ於テ政府ノ許可ヲ受ケ輸入ヲ爲スコトヲ得

第二十四條　煙草製造專用ノ器具、機械及卷紙ノ輸入ニ付テハ政府ノ許可ヲ受クヘシ

第二十五條　本令ニ於テ認ムル場合ヲ除クノ外葉煙草、政府ノ證標ヲ附セサル製造煙草竝煙草製造專用ノ器具機械及卷紙ヲ所持シ、讓渡シ又ハ讓受クルコトヲ得ス

第二十六條　營業ノ目的ヲ以テ煙草ニ代用スヘキ物品ヲ製造シ又ハ販賣スルコトヲ得ス

第二十七條　煙草耕作者、輸出煙草製造者又ハ煙草製造專用ノ器具機械若ハ卷紙ノ製作者販賣者若ハ藏置者本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ政府ハ許可又ハ特許ヲ取消スコトヲ得

第二十八條　當該官吏ハ煙草ノ苗床耕作地、乾燥場、貯藏場、輸出煙草製造場又ハ煙草製造專用ノ器具機械若ハ卷紙ノ製作場若ハ藏置場其ノ他必要ノ場所ニ立入リ煙草、原料、材料、製品、器具、機械、建物、帳簿書類ヲ檢査シ又ハ取締上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

當該官吏ハ前項ノ檢査ニ際シ必要ト認ムルトキハ關係人ヲシテ之ニ立會ハシムルコトヲ得

第二十九條　私ニ煙草ヲ製造シ又ハ製造ノ準備ヲ爲シタル者ハ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條　政府ノ命令又ハ許可ヲ受ケスシテ煙草ノ輸入ヲ爲リ又ハ輸入ヲ爲シタル者ハ其ノ煙草ノ價格ノ十倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ其ノ罰金額ハ百圓ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ價格ハ其ノ煙草ノ生產地又ハ仕入地ニ於ケル原價ニ荷造費、運送費、保險料其ノ他輸入地ニ到著スル迄ノ諸費及輸入稅ニ相當スル金額ヲ加ヘタルモノトス

第三十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　許可ヲ受ケシテ煙草ヲ耕作シタル者

二　第二十四條又ハ第二十五條ノ規定ニ違反シタル者

三　政府ニ納付スヘキ葉煙草ヲ讓渡シ、消費シ又ハ隱藏シタル者

四　煙草賣捌人ニ非スシテ製造煙草ヲ販賣シ又ハ販賣ノ準備ヲ爲シタル者

第二十一條第二項又ハ第二十二條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者ノ罰亦前項ニ同シ

第三十二條　第十九條又ハ第二十條ノ規定ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　許可ヲ受ケシテ煙草ノ種類、苗床若ハ耕作地ノ位置面積又ハ乾燥場若ハ貯藏場ノ位置ヲ變更シタル者

二　許可ヲ受ケシテ煙草ノ耕作ヲ廢止シ又ハ煙苗ヲ讓渡シ若ハ讓受ケタル者

三　第七條第一項ノ屆出ヲ怠リタル者

四　第十條、第十四條又ハ第二十六條ノ規定ニ違反シタル者

五　正當ノ事由ナクシテ政府ニ納付スヘキ葉煙草ヲ廢棄シ又ハ政府ノ定メタル期日ニ之ヲ納付セサル者

第十七條　削除

第十八條　製造煙草ハ政府又ハ政府ノ指定シタル煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人ニ非サレハ之ヲ販賣スルコトヲ得ス

煙草賣捌人及製造煙草ノ販賣ニ關スル規定ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第十九條　煙草小賣人ハ政府ノ定メタル價格ヲ以テスルニ非サレハ製造煙草ヲ消費者ニ販賣スルコトヲ得ス

第二十條　煙草賣捌人ハ政府ノ封緘ヲ施シタル製造煙草ノ包裝ヲ開披シ若ハ之ヲ改裝シ又ハ包裝ノ破損シタル製造煙草ヲ販賣スルコトヲ得ス

第二十一條　輸出ニ供スル煙草ヲ製造セムトスル者ハ朝鮮總督ノ特許ヲ受クヘシ

前項ノ煙草ノ製造及輸出ニ關スル規定ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第二十二條　葉煙草ノ輸出ニ關スル規定ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第二十三條　健康上又ハ習慣上缺クヘカラサル煙草ハ自用ニ供スルモノニ限リ自用者ニ於テ政府ノ許可ヲ受ケ輸入ヲ爲スコトヲ得

第二十四條　煙草製造專用ノ器具、機械及卷紙ノ輸入ニ付テハ政府ノ許可ヲ受クヘシ

第二十五條　本令ニ於テ認ムル場合ヲ除クノ外葉煙草、政府ノ證標ヲ附セサル製造煙草竝煙草製造專用ノ器具機械及卷紙ヲ所持シ、讓渡シ又ハ讓受クルコトヲ得ス

第二十六條　營業ノ目的ヲ以テ煙草ニ代用スヘキ物品ヲ製造シ又ハ販賣スルコトヲ得ス

第二十七條　煙草耕作者、輸出煙草製造者又ハ煙草製造專用ノ器具機械若ハ卷紙ノ製作者販賣者若ハ藏置者本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ政府ハ許可又ハ特許ヲ取消スコトヲ得

第二十八條　當該官吏ハ煙草ノ苗床耕作地、乾燥場、貯藏場、輸出煙草製造場又ハ煙草製造專用ノ器具機械若ハ卷紙ノ製作場若ハ藏置場其ノ他必要ノ場所ニ立入リ煙草、原料、材料、製品、器具、機械、建物、帳簿書類ヲ檢査シ又ハ取締上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

取リタル葉煙草ノ消費稅ニ關シ亦同シ

本令施行ノ際現ニ製造場若ハ藏置場ニ存スル製造煙草又ハ本令施行前消費稅ヲ納付セスシテ製造場若ハ保稅地域ヨリ搬出シタル製造煙草ハ其ノ所有者ニ於テ之ヲ引取リタルモノト看做ス

前項ノ製造煙草及本令施行前消費稅ヲ納付セスシテ製造場、藏置場又ハ保稅地域ヨリ引取リタル製造煙草ノ消費稅ニ關シテハ仍舊令ニ依ル輸出ノ爲製造場又ハ藏置場ヨリ引取リタル製造煙草ノ消費稅ニ關シ亦同シ

第四十三條　本令公布ノ際現ニ存スル煙草ハ製造用ノ建物、其ノ數地及製造場備付ノ煙草製造用器具機械ハ政府ニ於テ之ヲ徵收スルコトヲ得

政府ハ煙草製造者ノ營業場ニ就キ前項ノ規定ニ依リ徵收スヘキ物件ヲ調査シ徵收目錄ヲ作成ス

徵收目錄ハ本令公布後三十日内ニ之ヲ所有者ニ交付ス

徵收目錄ノ交付ヲ受ケタル後ハ所有者ハ政府ノ承認ヲ受クルニ非サレハ徵收目錄ニ記載シタル物件ヲ處分スルコトヲ得ス

第四十四條　大正十年六月三十日ニ於テ現ニ存スル煙草製造專用ノ器具機械、卷紙及煙草製造者ノ所有スル葉煙草ハ政府之ヲ徵收ス但シ第四十一條ニ規定スル煙草製造用器具及葉煙草ハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ規定スルモノノ外朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

第四十五條　前二條ノ規定ニ依リ徵收シタル物件ニ對シテハ補償金ヲ交付ス

補償價格ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ政府之ヲ決定ス

鑑定人ニ關スル規定ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第四十六條　第四十四條ニ規定スル物件ヲ所有スル者ハ大正十年七月五日迄ニ其ノ種類及數量ヲ政府ニ申告スヘシ

第四十四條第一項ニ規定スル物件ニシテ前項ノ規定ニ依リ申告ヲ爲シタルモノハ其ノ徵收ヲ終ル迄第二十四條及第二十五條ノ規定ニ掲ケラスト雖第四十四條第一項ノ規定ニ依リ徵收スヘキ物件ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四十六條　削除

第四十七條　第四十四條第一項第二項及第四十五條ノ交付金ハ額面金額ニ依リ五十五年内ニ償還スヘキ五分利附國債證券ヲ以テ之ヲ交付ス但シ五十圓未滿ノ端數ハ現金ヲ以テ之ヲ交付ス

第四十五條ノ補償金ハ徵收期日前一年間ニ於ケル平均相場ニ依リ五十五年内ニ償還スヘキ五分利附國債證券ヲ以テ之ヲ交付ス但シ葉煙草ニ對スル補償金及五十圓未滿ノ端數ハ現金ヲ以テ之ヲ交付ス

第五十四條　本令施行ノ際現ニ存スル煙草ハ第四十四條第一項ノ規定ニ依リ徵收スヘキ物件ヲ調査シ徵收目錄ヲ作成シ又ハ其ノ徵收ヲ終リタル後ハ政府ニ於テ之ヲ保管スヘシ

第五十五條　第四十七條第一項第二項及第四十八

二　煙草製造專用ノ器具機械又ハ卷紙ノ製作者、販賣者又ハ藏置者
三　荒剝煙草製造者
四　煙草ノ輸出ヲ業トスル者
五　輸出煙草製造者
六　前各號ノ一ニ該當スル者ノ同居者

第四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ煙草ノ耕作ヲ許可セサルコトアルヘシ
一　煙草ニ關スル法令ニ違反シタル者
二　煙草耕作ノ成績不良ナリシ者
三　不適當ト認ムル場所ニ煙草ヲ耕作セムトスル者
四　取締上不便ト認ムル場所ニ煙草ノ耕作、乾燥又ハ藏置ヲ爲サムトスル者
五　面積百坪未滿ノ土地ニ煙草ヲ耕作セムトスル者
六　其ノ他煙草耕作者タルニ不適當ト認ムル者

第五條　煙草ノ苗床若ハ耕作地ノ位置、面積、煙草ノ種類、乾燥場若ハ貯藏場ノ變更又ハ煙草耕作ノ廢止ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ第一號樣式ニ準シタル申請書ヲ提出スヘシ此ノ場合ニ於テハ申請書ニ煙草耕作許可證ヲ添附スヘシ

第六條　相續ニ因リ煙草ノ耕作ヲ承繼シタルトキハ第三號樣式ニ依リ煙草耕作許可證ノ書換ヲ申請スヘシ
相續ニ因ルノ外煙草耕作承繼ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ第四號樣式ノ申請書ニ煙草耕作許可證ヲ添附シ之ヲ提出スヘシ

第七條　煙草ノ耕作者其ノ耕作面積ノ減少又ハ耕作廢止ノ許可ヲ受ケタルトキハ其ノ現存スル煙草ニハ當該官吏ノ承認ヲ受ケ相當ノ處置ヲ爲スヘシ朝鮮煙草專賣令第二十七條ノ規定ニ依リ煙草耕作ノ許可ヲ取消サレタルトキ亦同シ

第八條　煙草苗ノ讓渡又ハ讓受ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ第五號樣式ノ申請書ヲ提出スヘシ

第九條　煙草耕作者煙草耕作許可證ヲ亡失若ハ毀損シ又ハ住所氏名若ハ名稱ヲ變更シタルトキハ直ニ煙草耕作許可證ノ再交付又ハ書換ヲ受クヘシ

第十條　朝鮮煙草專賣令第二十七條ノ規定ニ依リ煙草耕作ノ許可ヲ取消サレタルトキハ直ニ煙草耕作者死亡シタル場合ニ於テ相續人其ノ耕作ヲ承繼セサルトキハ相續人、相續人在ラサルトキハ管理人ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第十一條　煙草ノ栽培、乾燥調理及包裝ニ關シテハ專賣支局長ノ指示スル所ニ從フヘシ

第十二條　煙草耕作者煙草ノ移植ヲ終リタルトキハ殘存セル煙草苗ニハ直ニ相當ノ處置ヲ爲スヘシ但シ移植後三週間ヲ限リ豫備苗トシテ必要ノ本數ヲ保存スルコトヲ得

第十三條　煙草耕作者ハ耕作地一筆毎ニ位置、面積、耕作者ノ住所氏名又ハ名稱及許可番號ヲ記載シタル標木ヲ樹ツヘシ

第十四條　煙草耕作者災害其ノ他ノ事故ニ因リ煙草ニ損害ヲ受ケタルトキハ其ノ事實ヲ具シ屆出ツヘシ

第十五條　朝鮮煙草專賣令第十條ノ規定ニ依リ葉煙草ノ數種數量ヲ調査セムトスルトキハ專賣支局長ハ其ノ期日ヲ定メ豫メ之ヲ公示スヘシ

第十六條　朝鮮煙草專賣令第十條但書ノ事由ニ因リ葉煙草ノ採取又ハ幹根ノ拔除ニ付許可ヲ受ケムトスル者ハ事由ヲ具シ申請スヘシ
前項ノ採取葉煙草ニハ當該官吏ノ承認ヲ受ケ相當ノ處置ヲ爲スヘシ

第十七條　煙草耕作者煙草ノ數種ヲ終リタルトキハ幹根ヲ拔除シ其ノ幹ニ附著スル葉煙草ハ之ヲ廢棄スヘシ
煙草耕作者種子採取ノ爲母木ヲ保存セムトスルトキハ其ノ種類、本數ヲ定メ專賣支局長ノ許可ヲ受クヘシ
前項ノ規定ニ依リ種子採取ノ爲母木ヲ保存シタル場合ニ於テ其ノ採取ヲ終リタルトキハ第一項ノ處置ヲ爲スヘシ

第十八條　乾燥調理ノ際生シタル葉屑等ニシテ數納ニ適セサルモノハ當該官吏ノ承認ヲ受ケタル後廢棄スヘシ

第十九條　葉煙草納付ノ場所及期日ハ專賣支局長之ヲ定メ豫メ公示スヘシ

第二十條　煙草耕作者納付ノ爲葉煙草ヲ運送スルトキハ煙草耕作許可證ヲ携帶スヘシ
葉煙草ヲ納付スルトキハ煙草耕作許可證ヲ專賣官署ニ提出シ葉煙草ノ納付數量、賠償金額等ノ記入ヲ受クヘシ

第二十一條　煙草耕作者ノ納付セムトスル葉煙草ニシテ乾燥調理及包裝不完全ナリト認ムルトキハ耕作者ヲシテ更ニ相當ノ處理ヲ爲サシムヘシ

第二十二條　煙草耕作者賠償金ヲ請求セムトスルトキハ第二十條第二項ノ規定ニ依リ賠償金額ノ記入ヲ受ケタル煙草耕作許可證ヲ專賣官署ニ呈示スヘシ

第二十三條　煙草耕作者朝鮮煙草專賣令第十二條第二項ノ規定ニ依リ再鑑定ヲ求メムトスルトキハ賠償金ノ請求前ニ於テ第六號樣式ニ依リ其ノ不服ノ要領ヲ申立ツヘシ

第二十四條　前條ノ規定ニ依リ再鑑定ノ申立アリタルトキハ專賣支局長ハ二人以上ノ鑑定人ヲ選定シ其ノ意見ヲ徵シ之ヲ決定シ第七號樣式ノ決定書ヲ請求人ニ交付スヘシ
前項ノ鑑定人ハ少クトモ其ノ半數ハ專賣局職員以外ノ者ヨリ之ヲ選定スヘシ

第二十五條　朝鮮煙草專賣令第十四條但書ノ規定ニ依リ葉煙草ヲ運送シタルトキハ遲滯ナク其ノ事由、種類、數量及其ノ運送先ヲ屆出ツヘシ

第二十六條　第一條乃至第二十五條ノ規定ニ依ル申請、屆出其ノ他ノ手續ハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外耕作地ノ所在ヲ管轄スル專賣支局長ニ之ヲ爲スヘシ

第二十七條　專賣支局長ハ煙草耕作者ノ組織スル組合ニ對シ朝鮮煙草專賣令第十五條第二項ノ規定ニ依リ下付スヘキ金額ハ專賣支局長之ヲ定メ一回又ハ數回ニ分割シ適當ト認ムル時期ニ之ヲ下付ス
專賣支局長ハ前項交付金ノ用途ヲ指定スルコトヲ得

第二十八條　前條ノ規定ニ依リ交付金ノ下付ヲ受クル組合ニシテ朝鮮煙草專賣令第十五條第一項ノ命令又ハ前條第三項ノ指定ニ違反シタルトキハ交付金ノ全部若ハ一部ヲ下付セス又ハ既ニ下付シタル交付金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命スルコトアルヘシ

第二十九條　第四條第二號、第三號及第五號、第十一條、第十五號並第十六條ハ試驗ノ爲ニスル煙草耕作ニ付之ヲ適用セス

第三十條　削除

第三十一條　削除

第三十二條　削除

第三十三條　削除

第三十四條　削除

第三十五條　削除

第三十六條　朝鮮煙草專賣令第二十三條ノ規定ニ依リ煙草輸入ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ第九號樣式ノ申請書ヲ專賣局長ニ提出スヘシ

第三十七條　煙草製造專用ノ器具機械又ハ卷紙ノ製作、販賣又ハ藏置ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ第十號樣式ノ申請書ヲ專賣局長ニ提出スヘシ
前項ノ許可ヲ受ケタル者其ノ業ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨屆出ツヘシ

第三十八條　煙草製造專用ノ器具機械又ハ卷紙ノ製作者又ハ販賣者ハ帳簿ヲ備ヘ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一　製作シタル器具機械又ハ卷紙ノ種類、數量、代金及製作年月日
二　買受ケタル器具機械又ハ卷紙ノ種類、數量、代金、買受年月日及買受先

三　賣渡シタル器具機械又ハ卷紙ノ種類、數量、代金、賣渡年月日及賣渡先

第三十九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
一　第七條、第九條、第十條、第十二條、第十三條、第十六條第二項、第十七條、第十八條又ハ第二十條第一項ノ規定ニ違反シタル者
二　本令ニ依ル屆出ヲ怠リ又ハ事實ヲ僞リテ屆出タル者
三　煙草製造專用ノ器具機械若ハ卷紙ノ製作者又ハ販賣者第三十八條ノ帳簿ヲ備ヘス又ハ其ノ記載ヲ僞リ若ハ怠リタル者

第四十條　朝鮮間接國稅犯則者處分令ニ定メタル犯稅官吏ニ關スル職務ハ專賣局官吏、府郡島稅務官吏、稅關官吏又ハ道警察官吏、稅務署長ニ關スル職務ハ專賣局官吏又ハ道警察官吏ノ發見ニ係ル犯罪事件ニ在リテハ犯罪事件發見地ヲ管轄スル專賣支局長又ハ專賣支局出張所長、府郡島稅務官吏ノ發見ニ係ル犯罪事件ニ在リテハ犯罪事件發見地ヲ管轄スル府尹、郡守又ハ島司、稅關官吏ノ發見ニ係ル犯罪事件ニ在リテハ犯罪事件發見地ヲ管轄スル稅關長之ヲ行フ
朝鮮煙草專賣令及同令ニ基キテ發スル命令ノ犯罪事件ニ關シテハ朝鮮間接國稅犯則者處分令施行規則ヲ準用ス

第四十一條　本令中輸入又ハ輸出ニ關スル規定ハ內地、臺灣若ハ樺太ヨリ移入シ又ハ內地、臺灣若ハ樺太ニ移出スル場合ニ之ヲ準用ス

附　則

第四十二條　本令ハ朝鮮煙草專賣令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十三條　舊令ニ依リ免許ヲ受ケタル煙草耕作者ハ大正十年七月十五日迄ニ第一號樣式ニ揭ケル事項ヲ耕作地ノ所在ヲ管轄スル專賣支局長ニ申告スヘシ
舊令ニ依リ免許ヲ受ケタル自家用煙草耕作者ハ大正十年七月三十日迄ニ煙草ノ種類、耕作地ノ位置及面積ヲ耕作地ノ所在ヲ管轄スル府尹、郡守又ハ島司ニ申告スヘシ

第四十四條　舊令ニ依リ免許ヲ受ケタル販賣者ハ朝鮮煙草專賣令施行ノ際所持ニ係ル煙草ノ種類、名稱、數量、價格及其ノ所在ヲ大正十年七月十日迄ニ店舖ノ所在ヲ管轄スル專賣支局長ニ申告スヘシ
前項ニ依リ申告シタル者ハ其ノ所持スル煙草ニ限リ同令施行後當分ノ內小賣又ハ卸賣ヲ爲スコトヲ得

（第一號樣式）

煙草耕作許可申請書

一　苗床ノ位置及面積（郡面里洞地番何坪）
一　貯藏場（自宅構內又ハ郡面洞里地番所在何唯所有建物何坪）
一　乾燥場（自宅構內又ハ郡面洞里地番所在何唯所有建物何坪）

耕作地ノ位置									
郡	面	里洞	地番	種類	乾燥區分	面積	畝	畝	歩
計									

年月日　住所　職業　氏名㊞

專賣支局長殿

（第一號樣式）

煙草耕作許可申請書

請年許可番號第　號

年月日　住所　職業　氏名㊞

專賣支局長殿

耕作地ノ位置									
郡	面	里洞	地番	種類	乾燥區分	面積	畝	畝	歩
計									

備考
一　地番ノ土地ニシテ煙草ノ耕作二箇所以上ニ分ルルモノハ地番ノ下ニ（ノ內イ、ロ等）適宜ノ符號ヲ附シ仍面積以下各欄共區分記載シ又數地番ノ土地ニシテ其ノ耕作一箇所トナルモノハ其ノ地番ヲ列記シ面積ハ合計シテ記載スヘシ
二　種類ハ水府、栗野、龍仁、寧越、黃色種、土耳其種等ノ區分ニ依リ記載スヘシ
三　乾燥區分ハ幹干、半干、火干等ノ區分ニ依リ記載スヘシ
四　同一耕作地ニ於テ乾燥法ノ異ルモノハ其ノ面積ヲ區分記載スヘシ
五　實播ノトキハ苗床ノ位置及面積ノ箇所ニ實播ト記載スヘシ
六　二番葉ノ數種ヲ爲サムトスルトキハ耕作地毎ニ其ノ旨ヲ事由欄ニ記載スヘシ

（第二號樣式）

許可事項	年　煙草耕作許可　印證　第　號　住所　氏名
耕作地ノ位置	郡　面　里洞　地番
種類	
乾燥區分	
面積	畝　歩
株間	
事由	

（第一面）

領取月日	包	數量	目	賠償金
月　日㊞				
月　日㊞				

（第二面）　（第三面）　（第四面）

注意
一　耕作ノ許可條件ノ變更ヲ申請スル場合ニハ其ノ申請書ニ本證ヲ添附スヘシ
二　調査ノ際ハ本證ヲ當該官吏ニ提出スヘシ
三　納付ノ爲葉煙草ヲ運送スルトキハ本證ヲ携帶スヘシ
四　葉煙草納付ノ際ハ印章ヲ携帶シ仍本證ヲ提出シ其ノ月日、包數、原目、賠償金ノ記入ヲ受クヘシ
五　本證ハ官吏臨檢ノ際何時ニテモ提出シ得ル樣保管シ置クヘシ

備考
一　試驗ノ爲ニスル煙草耕作ヲ許可シタルトキハ第一面ニ「試驗耕作」ト朱記スヘシ
二　二番葉ノ栽種ヲ爲ス者ハ其ノ旨ヲ第二面事由欄ニ記載シ其ノ面積ハ當該欄ノ左側ニ併記スヘシ
二ノ二　調査數量ノ記載ヲ必要ト認ムルモノハ其ノ數量ヲ第二面事由欄ニ記載スヘシ
三　耕作許可條件ノ變更ヲ許可シタルトキハ其ノ旨ヲ第二面事由欄ニ記載スヘシ
四　第一號樣式備考第一號乃至第五號ハ本樣式ニ之ヲ準用ス

（第三號樣式）　煙草耕作承繼申告書

一事由　前煙草耕作者何誰家督（遺產）相續

年　月　日　　住所　職業　承繼者　氏　名㊞

專賣支局長宛

許可番號

耕作地ノ位置					
郡	面	里洞	地番	面積	
					畝
計					畝歩

一貯藏場（自宅構內又ハ郡面里洞地番所在何誰所有建物何坪）
一乾燥場（自宅構內又ハ郡面里洞地番所在何誰所有建物何坪）

備考
耕作ノ全部ヲ承繼シ貯藏場及乾燥場ヲ變更セサル場合ニ在リテハ許可六〇番號ノミヲ記載シ耕作地、貯藏場、乾燥場等ノ記載ヲ要セス耕作ノ一部ヲ承繼シ又ハ貯藏場若ハ乾燥場ヲ變更スル場合ニ在リテハ許可番號及其ノ變更ニ係ル事項ノミヲ記載スヘシ

（第四號樣式）　煙草耕作承繼許可申請書

一事由

年　月　日　　住所　煙草耕作者　氏　名㊞
　　住所職業　承繼者　氏　名㊞

專賣支局長宛

許可番號

耕作地ノ位置					
郡	面	里洞	地番	面積	
					畝
					畝歩

（第五號樣式）　煙草苗讓渡、讓受許可申請書

一事由
一種類
一本數

年　月　日　　住所　讓渡者　氏　名㊞
　　住所職業　讓受者　氏　名㊞

專賣支局長宛

（第六號樣式）　葉煙草再鑑定請求書

納付年月日	包裝番號	種類	乾燥區分	鑑定等級	自己申立等級	不服ノ事由

年　月　日　　住所　煙草耕作者　氏　名㊞

專賣支局長宛

（第七號樣式）　煙草再鑑定請求ニ付審議ヲ遂ケ左ノ通決定ス

決定書

年　月　日葉煙草ノ鑑定ニ對シ再鑑定請求ニ付審議ヲ遂ケ左ノ通決定ス

納付年月日	包裝番號	種類	乾燥區分	等級

（第八號樣式）　煙草輸入許可申請書　削除

年　月　日

專賣支局長　官　氏　名㊞

一種類
一名稱
一數量
一原價格
一仕入地
一事由

年　月　日　　住所　職業　氏　名㊞

專賣局長宛

備考　會社ノ申請ニ在リテハ氏名ノ箇所ニハ會社名ヲ記載シ且代表者署名捺印スヘシ

（第九號樣式）　煙草製造專用ノ器具機械（煙草製造用ノ卷紙）製作（販賣）營業許可申請書

一種類　一年間ノ製造見込高（取扱見込高）
一營業ノ場所
一事由

年　月　日　　住所　職業　氏　名㊞

專賣局長宛

備考　會社ノ申請ニ在リテハ氏名ノ箇所ニハ會社名ヲ記載シ且代表者署名捺印スヘシ

（第十號樣式ノ二）

煙草製造專用ノ器具機械（煙草製造用ノ卷紙）藏置許可申請書

一藏置物ノ種類
二藏置場ノ位置構造及坪數
三藏置場所有者住所職業氏名
四藏置事由

年　月　日　　住所　氏　名㊞

專賣局長宛

朝鮮煙草專賣令施行規則中左ノ通改正ス　（昭和二年三月九日朝鮮總督府令第十一號）

第三條第三號　削除
第三十條乃至第三十五條　削除
第八號樣式　削除

附　則

本令ハ昭和四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス但シヨリ之ヲ施行ス
第三條第三號ノ改正規定ハ昭和五年一月一日
昭和二年制令第一號附則第二項ノ規定ニ依リ自家用煙草ノ耕作ヲ繼續スルコトヲ得ル者ニ對シテハ昭和四年十二月三十一日迄仍從前ノ例ニ依ル

●朝鮮總督府專賣局官吏携帶證

（大正十年八月二日朝鮮總督府令第百二十一號）

票

朝鮮總督府專賣局官吏ニ於テ朝鮮煙草專賣令第十條ニ依リ調査ヲ爲シ同第二十八條ニ依リ檢査又ハ取締上必要ノ處分ヲ爲ス際及朝鮮間接國稅犯則者處分令ニ依リ臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲ス際携帶スヘキ證票ノ樣式左ノ通定ム

表

第　號

朝鮮總督府專賣局官吏證　票

何專賣支局（何出張所）印

裏面

何專賣支局（何出張所）在勤

官　氏　名

用紙厚紙綴三寸横二寸

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●煙草賣捌規則

（大正十年五月六日朝鮮總督府令第七十八號改正　大正一一年第六五號、第一三四號、一五年第三四號、昭和二年第一三號、第一一六號）

煙草賣捌規則左ノ通定ム

第一條　煙草賣捌人ハ政府ヨリ製造煙草ヲ買受ケ之ヲ煙草小賣人ニ賣渡スモノトス但シ煙草販賣官署ノ認許ヲ得タルトキハ他ノ煙草元賣捌人ヨリ之ヲ買受クルコトヲ得
政府ハ必要ト認ムルトキハ煙草元賣捌人ニ指定セラレタル者ニ對シ其ノ指定期間開始前製造煙草ヲ賣渡スコトアルヘシ
前項ノ賣渡ニ付テハ煙草元賣捌人ニ關スル規定ヲ準用ス
煙草小賣人ハ煙草元賣捌人ヨリ製造煙草ヲ買受ケ之ヲ消費者ニ賣渡スモノトス
政府ハ特殊ノ場合ニ於テハ製造煙草ヲ特定價格ヲ以テ煙草小賣人又ハ消費者ニ賣渡スコトアルヘシ

第二條　煙草元賣捌人及煙草小賣人ハ三年內ノ期間ヲ以テ專賣局長之ヲ指定ス
專賣局長必要ト認ムルトキハ前項ノ指定ニ條件ヲ附スルコトヲ得
煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人ノ指定ヲ受ケムトスル者ハ第一號樣式ノ申請書ヲ專賣局長ニ提出スヘシ但シ煙草小賣人ノ指定ヲ受ケタル者期間滿了後引續キ煙草小賣人タラントスル場合ニ在リテハ其ノ申請書ノ提出ヲ俟タズ之ヲ指定スルコトヲ得

第三條　煙草小賣人死亡ノ場合ニ於テハ相續人ハ專賣局長ニ屆出テ殘期間營業ヲ繼續スルコトヲ得但シ第四條第二項ノ規定ニ依リ煙草小賣人ニ指定セラルルコトヲ得サル者ハ此ノ限ニ在ラス
前項ノ屆出ハ煙草小賣人死亡ノ日ヨリ一月內ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四條　煙草元賣捌人ハ株式會社タルコトヲ要ス但シ會社ノ役員又ハ會社ノ業務ヲ執行スル者ニ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノアルトキハ煙草元賣捌人ニ指定セラルルコトヲ得ズ會社カ第一號又ハ第四號ニ該當スルモノナルトキ亦同シ
一　朝鮮煙草專賣令第二十九條乃至第三十三條ノ規定ニ依リ處罰又ハ處分ヲ受ケ二年ヲ經ザル者
二　第二十八條第一項第一號又ハ第六號ノ規定ニ依リ指定ヲ取消サレタル煙草元賣捌人タル會社ノ取消當時ノ役員又ハ其ノ業務ヲ執行スル者ニシテ取消ノ時ヨリ二年ヲ經ザル者
三　破產者ニシテ復權ヲ得ザル者
四　國稅滯納處分又ハ之ニ準ジタル處分ヲ受ケ一年ヲ經ザル者
五　禁錮以上ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リタルトキヨリ二年ヲ經ザル者又ハ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

前項第一號ニ該當スル者及第二十八條第一項第四號乃至第六號ノ規定ニ依リ煙草小賣人ノ指定ヲ取消サレ二年ヲ經ザル者ハ煙草小賣人ニ指定セラルルコトヲ得ズ
法人タル煙草小賣人ノ場合ニ於テハ前項ノ事實ノ有無ハ法人、法人ノ業務ヲ執行スル者又ハ法人ヲ代表スル者ニ付之ヲ定ム

第五條　煙草元賣捌人ト煙草小賣人トハ之ヲ

發スルコトヲ得又其ノ營業場（本店、支店及營業所ヲ含ム以下同ジ）ヲ同ジクスルコトヲ得ス

第六條　煙草元賣捌人其ノ支店若ハ營業所ヲ增設若ハ廢止シ又ハ其ノ營業場ノ位置ヲ變更セントスルトキハ專賣局長ノ許可ヲ受クヘシ煙草小賣人ノ營業所ノ增設又ハ其ノ位置ノ變更ニ付亦同シ

第七條　削除

第八條　煙草元賣捌人ノ所持スル製造煙草ハ其ノ營業所又ハ專賣局長ノ許可ヲ受ケタル荷置場ニ非サレハ之ヲ設置スルコトヲ得ス

煙草元賣捌人荷置場設置ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ荷置場ノ位置、建物ノ構造及坪數竝管理人ノ住所氏名ヲ記載シタル申請書ヲ專賣局長ニ提出スヘシ

煙草元賣捌人荷置場ヲ廢止シ又ハ之ヲ移轉セムトスルトキハ專賣局長ノ許可ヲ受クヘシ

第十條　專賣局長必要ト認ムルトキハ煙草元賣捌人ニ對シ其ノ支店、營業所若ハ荷置場ノ設置若ハ廢止又ハ其ノ位置ノ變更ヲ命ズルコトアルヘシ

第十一條　煙草小賣人ハ營業所ノ見易キ場所ニ製造煙草ノ定價表及煙草小賣人タルコトヲ表示シタル標札ヲ掲クヘシ

第十二條　煙草元賣捌人ハ其ノ出賣人チシテ自己ノ出賣人タルコトヲ證スル證票ヲ携帶セシムヘシ

煙草小賣人製造煙草ノ出賣ヲ爲シ又ハ家族若ハ雇人チシテ之ヲ爲サシメントスルトキハ煙草販賣官署ニ申請シ出賣許可證ヲ受ケ之ヲ携帶セシムヘシ

第十三條　煙草元賣捌人ハ其ノ營業場ニ帳簿ヲ備ヘ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　買受、引替、買戻又ハ他ノ營業場若ハ荷置場ヨリ受入レタル製造煙草ノ種類、名稱、數量、受入年月日及受入先

二　賣渡、引替又ハ他ノ營業場若ハ荷置場ヘ拂出シタル製造煙草ノ種類、名稱、數量、拂出年月日及拂出先

荷置場ヲ設置シタル煙草元賣捌人ハ荷置場毎ニ別ニ帳簿ヲ備ヘ前項ニ準シ其ノ受拂ヲ明ニスヘシ

第十四條　煙草小賣人ハ帳簿ヲ備ヘ製造煙草ヲ買受ケタルトキハ其ノ買受年月日竝製造煙草ノ種類、名稱、數量、代金及買受先ヲ記載スヘシ

第十五條　政府ヨリ賣渡ス製造煙草ノ代金ハ別ニ定ムル煙草元賣捌人ノ營業場ノ等級及製造煙草ノ種類ニ從ヒ其ノ定價ニ對シ一定ノ割引歩合ニ依リ之ヲ定ム

第十六條　製造煙草ノ賣渡ヲ受ケムトスル者ハ毎月五日迄ニ其ノ翌月ニ於テ賣渡ヲ受クヘキ製造煙草ノ種類、名稱及數量ヲ記載シタル賣渡請求書ヲ專賣局長ノ指定シタル煙草販賣官署ニ提出スヘシ但シ特別ノ事由ニ依リ臨時ニ製造煙草ノ賣渡ヲ請求セムトスル者ハ其ノ都度請求ヲ爲スコトヲ得

專賣局長必要ト認ムルトキハ請求ニ係ル製造煙草ノ種類又ハ數量ヲ査定シテ賣渡スコトアルヘシ

第十七條　削除

第十八條　煙草賣渡請求者賣渡ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ代金ヲ納付シ又ハ擔保ヲ提供シテ現品ヲ引取ラサルトキハ專賣局長ノ定ムル保管料ヲ徴ス但シ交通杜絶其ノ他已ムヲ得サル事由アルトキハ保管料ヲ減免スルコトヲ得

第十九條　製造煙草ヲ買受ケタル者代金納付ノ期日迄ニ買受代金ヲ納付セサルトキハ百圓ニ付日歩三錢ノ割合ヲ以テ遲延利息ヲ徵スルコトアルヘシ

第二十條　政府ヨリ煙草元賣捌人ニ賣渡ス製造煙草ハ專賣官署又ハ貯藏所ニ於テ之ヲ引渡ス

煙草小賣人ハ製造煙草ノ價格ノ減少ニ相當スル金額ヲ拂償スヘシ

第二十六條　煙草小賣人前條ノ規定ニ依リ製造煙草ノ引替ヲ請求シ又ハ第三十條及第三十一條ノ規定ニ依リ製造煙草ノ買戻ヲ請求シタルトキハ煙草元賣捌人ノ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十六條ノ二　製造煙草ノ値下アリタル場合ニ於テハ煙草小賣人ハ値下實施ノ初日ニ於テ所持スル舊價格ノ製造煙草ヲ其ノ買受金額ト同價額ノ製造煙草ト引替ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ煙草小賣人ヨリ引替ノ請求アリタルトキハ煙草元賣捌人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第一項ノ規定ニ依リ引替ヲ爲シタル場合ニ於テ計算上製造煙草一包裹ノ價額未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ煙草元賣捌人ハ現金ヲ以テ拂戻ヲ爲スヘシ

第二十六條ノ三　製造煙草ノ値下アリタル場合ニ於テハ煙草元賣捌人ハ値下實施ノ初日ニ於テ所持シ又ハ前條ノ規定ニ依リ煙草小賣人ヨリ引替ヘタル舊價格ノ製造煙草ヲ政府ヨリ買受ケタル金額ト同價額ノ製造煙草トノ引替ヲ專賣局長ノ指定シタル煙草販賣官署ニ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ引替ヲ爲シタル場合ニ於テ計算上製造煙草一包裹ノ價額未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ煙草元賣捌人ハ現金ヲ以テ拂戻ヲ爲スヘシ

第二十六條ノ四　前二條ニ依ル引替ノ請求ハ値下實施ノ初日ヨリ煙草小賣人ニ在リテハ六十日以內ニ、煙草元賣捌人ニ在リテハ六十日以內ニノミ之ヲ爲スヘシ

第二十七條　煙草元賣捌人其ノ營業ヲ廢止セムトスルトキハ廢止スヘキ日ヨリ九十日前ニ其ノ旨專賣局長ニ屆出ツヘシ

煙草小賣人ノ營業ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨專賣局長ニ屆出ツヘシ二箇所以上ノ營業所ヲ有スル場合ニ於テ一箇所又ハ數箇所ノ營業所ヲ廢止セムトスルトキ亦同シ

第二十八條　左ノ場合ニ於テハ專賣局長ハ煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人ノ指定ヲ取消スコトヲ得

一　煙草元賣捌人タル會社又ハ其ノ役員若ハ其ノ業務ヲ執行スル者第四條第一項第一號又ハ第三號乃至第五號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキ

二　煙草元賣捌人納付期日ヲ過ギ仍製造煙草買受代金ヲ完納セザルトキ

三　煙草小賣人第四號第一項第一號ニ該當スルニ至リタルトキ

四　煙草小賣人一月以上引續キ其ノ營業ヲ爲サザルトキ但シ一月ニ滿タザル場合ト雖其ノ行方不明ナルトキ

五　煙草小賣人ノ製造煙草買受代金一年五十圓未滿ナルトキ

六　煙草賣捌人本令、本令ニ基キテ爲ス指示又ハ指定ニ附シタル條件ニ違反シタルトキ

法人タル煙草小賣人ニ付テハ前項第三號ノ事實ノ有無ハ法人、法人ノ業務ヲ執行スル者又ハ法人チ代表スル者ニ付之ヲ定ム

第二十九條　煙草元賣捌人指定期間滿了シ引續キ指定セラレサルトキ、指定ヲ取消サレタルトキ其ノ他營業ヲ廢止スルニ至リタルトキハ現存スル製造煙草ハ專賣官署ニ之ヲ賣渡スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ煙草元賣捌人ノ賣ニ歸スヘキ事由ニ因リ品質惡變シ又ハ包裹破損シ若ハ汚染シタルモノアルトキハ現存スル製造煙草ハ專賣官署ニ之ヲ賣渡スコトヲ得ス

第三十條　煙草小賣人死亡シ其ノ營業ヲ承繼スルモノナキトキ、指定期間滿了シ引續キ指定セラレサルトキ、指定ヲ取消サレタルトキハ其ノ他營業ヲ廢止スルニ至リタルトキハ現存スル製造煙草ハ專賣官署ニ之ヲ賣渡スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ煙草元賣捌人ノ賣ニ歸スヘキ事由ニ因リ品質惡變シ又ハ包裹破損シ若ハ汚染シタルモノアルトキハ現存スル製造煙草ハ專賣官署ニ之ヲ賣渡スコトヲ得ス

第三十一條　煙草小賣人死亡シタル場合ニ於テハ其ノ相續人、相續人在ラサルトキハ其ノ管理人ニ於テ前二條ノ請求ヲ爲スヘシ

第三十二條　煙草賣捌人タリシ者又ハ其ノ相續人若ハ管理人ニ於テ賣戻ノ請求ヲ爲シ又ハ其ノ相續人若ハ管理人ニ於テ賣戻ノ請求ヲ爲ササル製造煙草ニ付テハ當該官吏ノ承認ヲ經テ相當ノ處置ヲ爲スヘシ

第三十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　煙草元賣捌人認許ヲ受ケスシテ他ノ煙草元賣捌人ヘノ現行割引歩合ニ相當スル金額ヲ控除シタルモノトス

二　煙草小賣人ハ製造煙草ノ價格ノ減少ニ相當スル金額ヲ控除シタルモノトス

煙草販賣官署若ハ貯藏所又ハ煙草元賣捌人ノ營業場（本店、支店及營業所ヲ含ム以下同ジ）ヲ同ジクスルコトヲ得ス

第六條　煙草元賣捌人其ノ支店若ハ營業所ヲ增設若ハ廢止シ又ハ其ノ營業場ノ位置ヲ變更セントスルトキハ專賣局長ノ許可ヲ受クヘシ煙草小賣人ノ營業所ノ增設又ハ其ノ位置ノ變更ニ付亦同シ

第七條　削除

第八條　煙草元賣捌人ノ所持スル製造煙草ハ其ノ營業所又ハ專賣局長ノ許可ヲ受ケタル荷置場ニ非サレハ之ヲ設置スルコトヲ得ス

煙草元賣捌人荷置場設置ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ荷置場ノ位置、建物ノ構造及坪數竝管理人ノ住所氏名ヲ記載シタル申請書ヲ專賣局長ニ提出スヘシ

煙草元賣捌人荷置場ヲ廢止シ又ハ之ヲ移轉セムトスルトキハ專賣局長ノ許可ヲ受クヘシ

第十條　專賣局長必要ト認ムルトキハ煙草元賣捌人ニ對シ其ノ支店、營業所若ハ荷置場ノ設置若ハ廢止又ハ其ノ位置ノ變更ヲ命ズルコトアルヘシ

第十一條　煙草小賣人ハ營業所ノ見易キ場所ニ製造煙草ノ定價表及煙草小賣人タルコトヲ表示シタル標札ヲ掲クヘシ

第十二條　煙草元賣捌人ハ其ノ出賣人チシテ自己ノ出賣人タルコトヲ證スル證票ヲ携帶セシムヘシ

煙草小賣人製造煙草ノ出賣ヲ爲シ又ハ家族若ハ雇人チシテ之ヲ爲サシメントスルトキハ煙草販賣官署ニ申請シ出賣許可證ヲ受ケ之ヲ携帶セシムヘシ

第十三條　煙草元賣捌人ハ其ノ營業場ニ帳簿ヲ備ヘ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　買受、引替、買戻又ハ他ノ營業場若ハ荷置場ヨリ受入レタル製造煙草ノ種類、名稱、數量、受入年月日及受入先

二　賣渡、引替又ハ他ノ營業場若ハ荷置場ヘ拂出シタル製造煙草ノ種類、名稱、數量、拂出年月日及拂出先

荷置場ヲ設置シタル煙草元賣捌人ハ荷置場毎ニ別ニ帳簿ヲ備ヘ前項ニ準シ其ノ受拂ヲ明ニスヘシ

第十四條　煙草小賣人ハ帳簿ヲ備ヘ製造煙草ヲ買受ケタルトキハ其ノ買受年月日竝製造煙草ノ種類、名稱、數量、代金及買受先ヲ記載スヘシ

第十五條　政府ヨリ賣渡ス製造煙草ノ代金ハ別ニ定ムル煙草元賣捌人ノ營業場ノ等級及製造煙草ノ種類ニ從ヒ其ノ定價ニ對シ一定ノ割引歩合ニ依リ之ヲ定ム

第十六條　製造煙草ノ賣渡ヲ受ケムトスル者ハ毎月五日迄ニ其ノ翌月ニ於テ賣渡ヲ受クヘキ製造煙草ノ種類、名稱及數量ヲ記載シタル賣渡請求書ヲ專賣局長ノ指定シタル煙草販賣官署ニ提出スヘシ但シ特別ノ事由ニ依リ臨時ニ製造煙草ノ賣渡ヲ請求セムトスル者ハ其ノ都度請求ヲ爲スコトヲ得

專賣局長必要ト認ムルトキハ請求ニ係ル製造煙草ノ種類又ハ數量ヲ査定シテ賣渡スコトアルヘシ

第十七條　削除

第十八條　煙草賣渡請求者賣渡ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ代金ヲ納付シ又ハ擔保ヲ提供シテ現品ヲ引取ラサルトキハ專賣局長ノ定ムル保管料ヲ徴ス但シ交通杜絶其ノ他已ムヲ得サル事由アルトキハ保管料ヲ減免スルコトヲ得

第十九條　製造煙草ヲ買受ケタル者代金納付ノ期日迄ニ買受代金ヲ納付セサルトキハ百圓ニ付日歩三錢ノ割合ヲ以テ遲延利息ヲ徵スルコトアルヘシ

第二十條　政府ヨリ煙草元賣捌人ニ賣渡ス製造煙草ハ專賣官署又ハ貯藏所ニ於テ之ヲ引渡ス

煙草小賣人ハ製造煙草ノ價格ノ減少ニ相當スル金額ヲ拂償スヘシ

第二十六條　煙草小賣人前條ノ規定ニ依リ製造煙草ノ引替ヲ請求シ又ハ第三十條及第三十一條ノ規定ニ依リ製造煙草ノ買戻ヲ請求シタルトキハ煙草元賣捌人ノ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十六條ノ二　製造煙草ノ値下アリタル場合ニ於テハ煙草小賣人ハ値下實施ノ初日ニ於テ所持スル舊價格ノ製造煙草ヲ其ノ買受金額ト同價額ノ製造煙草ト引替ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ煙草小賣人ヨリ引替ノ請求アリタルトキハ煙草元賣捌人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第一項ノ規定ニ依リ引替ヲ爲シタル場合ニ於テ計算上製造煙草一包裹ノ價額未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ煙草元賣捌人ハ現金ヲ以テ拂戻ヲ爲スヘシ

第二十六條ノ三　製造煙草ノ値下アリタル場合ニ於テハ煙草元賣捌人ハ値下實施ノ初日ニ於テ所持シ又ハ前條ノ規定ニ依リ煙草小賣人ヨリ引替ヘタル舊價格ノ製造煙草ヲ政府ヨリ買受ケタル金額ト同價額ノ製造煙草トノ引替ヲ專賣局長ノ指定シタル煙草販賣官署ニ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ引替ヲ爲シタル場合ニ於テ計算上製造煙草一包裹ノ價額未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ煙草元賣捌人ハ現金ヲ以テ拂戻ヲ爲スヘシ

第二十六條ノ四　前二條ニ依ル引替ノ請求ハ値下實施ノ初日ヨリ煙草小賣人ニ在リテハ六十日以內、煙草元賣捌人ニ在リテハ六十日以內ニノミ之ヲ爲スヘシ

第二十七條　煙草元賣捌人其ノ營業ヲ廢止セムトスルトキハ廢止スヘキ日ヨリ九十日前ニ其ノ旨專賣局長ニ屆出ツヘシ

煙草小賣人ノ營業ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨專賣局長ニ屆出ツヘシ

前項ノ旨專賣局長ニ屆出ツヘシ二箇所以上ノ營業所ヲ有スル場合ニ於テ一箇所又ハ數箇所ノ營業所ヲ廢止セムトスルトキ亦同シ

第二十八條　左ノ場合ニ於テハ專賣局長ハ煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人ノ指定ヲ取消スコトヲ得

一　煙草元賣捌人タル會社又ハ其ノ役員若ハ其ノ業務ヲ執行スル者第四條第一項第一號又ハ第三號乃至第五號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキ

二　煙草元賣捌人納付期日ヲ過ギ仍製造煙草買受代金ヲ完納セザルトキ

三　煙草小賣人第四號第一項第一號ニ該當スルニ至リタルトキ

四　煙草小賣人一月以上引續キ其ノ營業ヲ爲サザルトキ但シ一月ニ滿タザル場合ト雖其ノ行方不明ナルトキ

五　煙草小賣人ノ製造煙草買受代金一年五十圓未滿ナルトキ

六　煙草賣捌人本令、本令ニ基キテ爲ス指示又ハ指定ニ附シタル條件ニ違反シタルトキ

法人タル煙草小賣人ニ付テハ前項第三號ノ事實ノ有無ハ法人、法人ノ業務ヲ執行スル者又ハ法人チ代表スル者ニ付之ヲ定ム

第二十九條　煙草元賣捌人指定期間滿了シ引續キ指定セラレサルトキ、指定ヲ取消サレタルトキ其ノ他營業ヲ廢止スルニ至リタルトキハ現存スル製造煙草ハ專賣官署ニ之ヲ賣渡スコトヲ得

第二十八條ノ規定ニ依リ煙草小賣人ノ指定ヲ取消サレタル場合ニ於テハ煙草小賣人ハ其ノ買受ケタル製造煙草ノ賣渡ヲ受ケタル日ヨリ五日內ニ專賣局長ニ屆出ツヘシ

第二十二條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ於テ煙草元賣捌人ノ賣ニ歸スヘキ事由ニ因リ品質惡變シ又ハ包裹破損シ若ハ汚染シタルモノアルトキハ現存スル製造煙草ハ專賣官署ニ之ヲ賣渡スコトヲ得ス

第三十條　煙草小賣人死亡シ其ノ營業ヲ承繼スルモノナキトキ、指定期間滿了シ引續キ指定セラレサルトキ、指定ヲ取消サレタルトキハ其ノ他營業ヲ廢止スルニ至リタルトキハ現存スル製造煙草ハ專賣官署ニ之ヲ賣渡スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ煙草元賣捌人ノ賣ニ歸スヘキ事由ニ因リ品質惡變シ又ハ包裹破損シ若ハ汚染シタルモノアルトキハ現存スル製造煙草ハ專賣官署ニ之ヲ賣渡スコトヲ得ス

第三十一條　煙草小賣人死亡シタル場合ニ於テハ其ノ相續人、相續人在ラサルトキハ其ノ管理人ニ於テ前二條ノ請求ヲ爲スヘシ

第三十二條　煙草賣捌人タリシ者又ハ其ノ相續人若ハ管理人ニ於テ賣戻ノ請求ヲ爲シ又ハ其ノ相續人若ハ管理人ニ於テ賣戻ノ請求ヲ爲ササル製造煙草ニ付テハ當該官吏ノ承認ヲ經テ相當ノ處置ヲ爲スヘシ

第三十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　煙草元賣捌人認許ヲ受ケスシテ他ノ煙草元賣捌人ヘノ現行割引歩合ニ相當スル金額ヲ控除シタルモノトス

二　煙草小賣人ハ製造煙草ノ價格ノ減少ニ相當スル金額ヲ控除シタルモノトス

煙草販賣官署若ハ貯藏所又ハ煙草元賣捌人ノ營業場ニ於テ煙草ノ賣渡ヲ爲シ又ハ煙草ノ賣渡ヲ受ケタル者ハ其ノ旨ヲ專賣局長ニ屆出ツヘシ

第三十四條　本令ニ依リ專賣局長ニ提出スヘキ書類ハ專賣局長ノ指定シタル煙草販賣官署ヲ經由スヘシ

附　則

本令ハ朝鮮煙草專賣令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮煙草專賣令第四十條ノ規定ニ依リ煙草小賣人ト看做サレタルモノノ指定期間ハ同令施行ノ日ヨリ大正十三年六月三十日迄トス

當分ノ內煙草元賣捌人ノ指定ヲ受ケムトスル者ハ大正九年中ニ販賣シタル煙草ノ種類數量及價格及買入先竝手持品ノ種類數量及價格ヲ明記シタル書類ヲ第二條第二項ノ申請書ニ添附シ之ヲ專賣局長ニ提出スヘシ

前項ノ規定ニ依リ指定ヲ受ケタル煙草元賣捌人ハ大正十一年三月三十一日迄ノ期間ニ買受ケヘキ製造煙草買受豫定額ヲ第二十二條第一項ニ準シ指定ヲ受ケタル日ヨリ五日內ニ專賣局長ニ屆出ツヘシ

第二十二條第二項ノ規定ハ前項豫定額ノ更正ニ付之ヲ準用ス

（第一號樣式）

煙草元賣捌人（煙草小賣人）指定申請書

一　現在營業ノ種類

何　業

一　煙草賣捌營業所豫定位置

營業所　道府（郡島）面町（洞里）番地

前記營業所ニ於テ煙草元賣捌人（煙草小賣人）ニ指定相成度申請候也

年　月　日

住所

氏名　㊞

專賣局長宛

備考

一　二箇所以上ノ營業所ヲ設置セムトスル者ニ在リテハ「第一」ヲ「第二」等ノ區分ヲ附スヘシ

二　削除

三　會社ノ申請ニ付テハ氏名ノ箇所ニ會社名ヲ記載シ代表者之ニ署名捺印シ且定款ヲ添附スヘシ

●煙草耕作奬勵規則

大正十一年五月十日朝鮮總督府令第八十三號

改正　大正十二年第八二號、十五年第六五號

煙草耕作奬勵規則左ノ通定ム

第一條　專賣局長ハ煙草耕作ノ成蹟優良ニシテ一般ノ模範ト爲ルヘキ耕作者ニ對シ每年度豫算ノ範圍內ニ於テ奬勵金又ハ奬勵品ヲ交付スルコトヲ得

第二條　奬勵金又ハ奬勵品ヲ交付スヘキ耕作者ノ員數ハ各收納官署別ニ其ノ區域內ニ於ケル耕作者數ノ百分ノ五以內、奬勵金額又ハ奬勵品ノ價額ハ耕作者一人ニ付二十圓以內トス

第三條　奬勵金又ハ奬勵品ヲ交付スヘキ耕作者ハ左ノ各號ニ掲ケル事項ヲ調查シ專賣局長之ヲ定ム

一　平均一貫匁當賠償價格ノ多寡

二　平均一段歩當收納數量ノ多寡

三　收量調查當時ニ於ケル耕作面積ノ多寡

第四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル耕作者ニ對シテハ奬勵金又ハ奬勵品ヲ交付セス

一　煙草專賣ニ關スル法規ニ違反シ其ノ處

分ヲ受ケタルトキヨリ滿五年ヲ經過セサル者

二　煙草專賣ニ關スル法規違反ノ嫌疑アル者

三　煙草專賣ニ關スル法規ニ甚キテ發スル指示命令ニ違背シ其ノ情重キ者

四　製年煙草ノ耕作ヲ許ササル者

第五條　奬勵金又ハ奬勵品ヲ受クヘキ耕作者死亡シタルトキハ之ヲ其ノ相續人ニ交付ス

第六條　本令施行ニ關シ必要ナル事項ハ專賣局長之ヲ定ム

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮煙草專賣令第四十一條第一項ノ煙草ノ製造及販賣ニ關スル件

大正十年七月一日
朝鮮總督府令第百九號
改正　大正一一年第九四號・一三年第三二號・一四年第五六號
昭和二年第一二號

朝鮮煙草專賣令第四十一條第一項ノ煙草ノ製造及販賣ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　朝鮮煙草專賣令第四十一條第一項ノ煙草（以下單ニ莖刻ト稱スル）ハ左ノ各號ニ該當スルモノヲ謂フ

一　主トシテ朝鮮種葉煙草ヲ原料ト爲シタルモノ

二　在來朝鮮ニ於テ使用スル截刻器（通稱「タンペカル」）ヲ用キ標準刻幅二厘以上ニ截刻シタルモノ

三　香料ヲ加ヘサルモノ

前項ノ煙草ハ包裝「ボール」箱ニ容ルル等製造煙草ト紛ラシキ裝置ヲ施シ販賣スルコトヲ得ス

第二條　莖刻煙草ハ煙草小賣人ニ非サレハ之ヲ受ケタルトキハ直ニ專賣局長ノ指定スル專賣官署ニ代金ヲ納付シ又ハ擔保ヲ提供シテ現品ヲ引取ルヘシ若シ十日内ニ現品ヲ引取ラサルトキハ專賣局長ノ定ムル保管料ヲ徵ス

第三條　輸出ノ爲煙草ヲ買受ケタル者代金納付ノ期日迄ニ買受代金ヲ納付セサルトキハ百圓ニ付日歩三錢ノ割合ヲ以テ遲延利息ヲ徵スルコトアルヘシ

第四條　輸出ノ爲煙草ヲ買受ケタル者ハ專賣局長ノ指定シタル期間内ニ輸出免狀及仕向先ニ於ケル稅關ノ輸入免狀又ハ之ニ代ルヘキ書類ヲ專賣局長ニ提出スヘシ

正當ノ事由ナクシテ仕向先ニ到著シタル數量カ買受數量ヨリ少キトキハ煙草輸出人チシテ其ノ不足額ニ對シ賣渡價格ニ相當スル金額ノ四倍以下ヲ納付セシムルコトアルヘシ

第五條　輸出ノ爲買受ケタル煙草ニシテ其ノ使用ニ適セサルニ至リタルトキハ專賣局長ノ承認ヲ受ケ相當ノ處置ヲ施スヘシ

第六條　輸出ノ爲買受ケタル煙草ニシテ仕向先ニ到著前災害其ノ他ノ事由ニ因リ滅失シタルトキハ直ニ專賣局長ニ屆出ツヘシ

第七條　輸出ノ爲買受ケタル煙草ハ輸出前之ヲ消費スルコトヲ得ス

第八條　輸出ノ爲煙草ヲ買受ケタル者買受ノ日ヨリ三年ヲ過キ之ヲ輸出セサルトキハ本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

力自己ノ製造ニ係ル莖刻煙草ヲ販賣スルハ此ノ限ニ在ラス

煙草小賣人ヲシテ莖刻煙草ノ卸賣ヲ爲サムトスルトキハ所轄煙草販賣官署ノ許可ヲ受クヘシ

第八條ノ二　莖刻煙草製造者其ノ製造ノ場所又ハ截刻器ノ箇數ヲ變更セムトスルトキハ所轄專賣支局長ノ許可ヲ受クヘシ

第八條ノ三　莖刻煙草製造者其ノ製造場外ニ販賣所若ハ荷置場ヲ設置シ又ハ之ヲ變更セムトスルトキハ所轄專賣支局長ノ許可ヲ受クヘシ

第八條ノ四　莖刻煙草製造者前條ノ販賣所又ハ荷置場ヲ廢止シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨所轄專賣支局長ニ屆出ツヘシ

第九條　第七條ノ規定ニ依リ莖刻煙草ノ製造ヲ承繼シタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ專賣支局長ハ莖刻煙草ノ製造ヲ禁止スルコトヲ得

一　莖刻煙草製造者朝鮮煙草專賣令第二十九條乃至第三十一條又ハ第三十三條ノ規定ニ依リ處罰又ハ處分セラレタルトキ

二　莖刻煙草製造者本令ニ違反シタルトキ

專賣支局長ハ取締上必要アルトキハ第八條ノ三ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十條　莖刻煙草製造者死亡シ其ノ營業ヲ承繼スル者ナキトキハ其ノ相續人、相續人在ラサルトキハ其ノ管理人ニ於テ現存スル葉煙草ニ付事實發生ノ日ヨリ三十日内ニ買受先又ハ所轄煙草販賣官署ニ之カ買戻ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ莖刻煙草製造者其ノ營業ヲ廢止シタル場合及前條ノ規定ニ依リ莖刻煙草ノ製造ヲ禁止セラレタル場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ場合ニ於テ莖刻煙草現存スルトキハ第一項ノ期間内ニ當該官吏ノ承認ヲ受ケ相當處置ヲ爲スヘシ

第十一條　前條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ葉煙草買戻ノ請求ヲ受ケタルトキハ鑑定人チシテ該葉煙草ヲ鑑定セシメ其ノ買戻價格ヲ決定ス但シ買戻價格ハ賣渡價格ヲ超過スルコトヲ得ス

第八條ノ二　莖刻煙草製造者其ノ製造ノ場所又ハ截刻器ノ箇數ヲ變更セムトスルトキハ所轄專賣支局長ノ許可ヲ受クヘシ

第八條ノ三　莖刻煙草製造者其ノ製造場外ニ販賣所若ハ荷置場ヲ設置シ又ハ之ヲ變更セムトスルトキハ所轄專賣支局長ノ許可ヲ受クヘシ

第八條ノ四　莖刻煙草製造者前條ノ販賣所又ハ荷置場ヲ廢止シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨所轄專賣支局長ニ屆出ツヘシ

第九條　第七條ノ規定ニ依リ莖刻煙草ノ製造ヲ承繼シタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ專賣支局長ハ莖刻煙草ノ製造ヲ禁止スルコトヲ得

一　莖刻煙草製造者朝鮮煙草專賣令第二十九條乃至第三十一條又ハ第三十三條ノ規定ニ依リ處罰又ハ處分セラレタルトキ

二　莖刻煙草製造者本令ニ違反シタルトキ

專賣支局長ハ取締上必要アルトキハ第八條ノ三ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十條　莖刻煙草製造者死亡シ其ノ營業ヲ承繼スル者ナキトキハ其ノ相續人、相續人在ラサルトキハ其ノ管理人ニ於テ現存スル葉煙草ニ付事實發生ノ日ヨリ三十日内ニ買受先又ハ所轄煙草販賣官署ニ之カ買戻ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ莖刻煙草製造者其ノ營業ヲ廢止シタル場合及前條ノ規定ニ依リ莖刻煙草ノ製造ヲ禁止セラレタル場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ場合ニ於テ莖刻煙草現存スルトキハ第一項ノ期間内ニ當該官吏ノ承認ヲ受ケ相當處置ヲ爲スヘシ

第十一條　前條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ葉煙草買戻ノ請求ヲ受ケタルトキハ鑑定人チシテ該葉煙草ヲ鑑定セシメ其ノ買戻價格ヲ決定ス但シ買戻價格ハ賣渡價格ヲ超過スルコトヲ得ス

鑑定人ハ專賣支局長之ヲ選定ス

第十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第一條第二項、第二條第二項、第三項、第五條、第八條ノ二、第八條ノ三又ハ第十條第三項ノ規定ニ違反シタル者

二　第六條ノ帳簿ヲ備ヘス又ハ其ノ記載ヲ僞リ若ハ怠リタル者

三　第八條若ハ第八條ノ四ノ屆出ヲ怠リ又ハ事實ヲ僞リテ屆出テタル者

附　則

本令ハ朝鮮煙草專賣令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮煙草專賣令施行ノ際現ニ莖刻煙草ヲ製造スル者ニシテ引續キ其ノ製造ヲ繼續セムトスルモノハ製造ノ場所、一年ノ製造見込數量、截刻器ノ箇數、所有又ハ所持ニ係ル煙草ノ種類、數量、價格及其ノ所在ヲ大正十年八月三十一日迄ニ所轄煙草販賣官署ノ長ニ屆出ツヘシ

前項ノ屆出ヲ爲ササル者ハ莖刻煙草製造ヲ廢止シタルモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ第十條ノ規定ヲ準用ス

（樣式）

二尺

七寸

莖刻煙草製造所

莖刻煙草製造者　何某

備考

本標札ハ木製トス

●葉煙草ノ輸出ニ關スル件

大正十年八月八日
朝鮮總督府令第百二十七號

葉煙草ノ輸出ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　輸出ノ爲葉煙草ノ賣渡ヲ受ケムトスル者ハ葉煙草ノ種類、葉分、等級及數量、輸出先竝輸出見込月日ヲ記載シタル賣渡請求書ヲ專賣局長ニ提出スヘシ但シ買受代金ハ千圓以上タルコトヲ要ス

第二條　輸出葉煙草賣渡請求者賣渡ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ專賣局長ノ指定スル專賣官署ニ代金ヲ納付シ又ハ擔保ヲ提供シテ現品ヲ引取ルヘシ若シ十日内ニ現品ヲ引取ラサルトキハ專賣局長ノ定ムル保管料ヲ徵ス

第三條　輸出ノ爲葉煙草ヲ買受ケタル者代金納付ノ期日迄ニ買受代金ヲ納付セサルトキハ百圓ニ付日歩三錢ノ割合ヲ以テ遲延利息ヲ徵スルコトアルヘシ

第四條　輸出ノ爲葉煙草ヲ買受ケタル者ハ專賣局長ノ指定シタル期間内ニ輸出免狀及仕向先ニ於ケル稅關ノ輸入免狀又ハ之ニ代ルヘキ書類ヲ專賣局長ニ提出スヘシ

正當ノ事由ナクシテ仕向先ニ到著シタル數量カ買受數量ヨリ少キトキハ煙草輸出人チシテ其ノ不足額ニ對シ賣渡價格ニ相當スル金額ノ四倍以下ヲ納付セシムルコトアルヘシ

第五條　輸出ノ爲買受ケタル葉煙草ニシテ其ノ使用ニ適セサルニ至リタルトキハ專賣局長ノ承認ヲ受ケ相當ノ處置ヲ施スヘシ

第六條　輸出ノ爲買受ケタル葉煙草ニシテ仕向先ニ到著前災害其ノ他ノ事由ニ因リ滅失シタルトキハ直ニ專賣局長ニ屆出ツヘシ

第七條　輸出ノ爲買受ケタル葉煙草ハ輸出前之ヲ消費スルコトヲ得ス

第八條　輸出ノ爲煙草ヲ買受ケタル者買受ノ日ヨリ三年ヲ過キ之ヲ輸出セサルトキハ本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣煙草專賣規則

明治三十八年三月三十日
律令第一號
改正　明治四一年第一號
昭和二年第七號

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル臺灣煙草專賣規則左ノ通裁ヲ得テ玆ニ之ヲ發布ス

臺灣煙草專賣規則

第一條　煙草ノ製造ハ政府ニ專屬ス

第二條　煙草ハ政府又ハ政府ノ命ヲ受ケタル者ニアラサレハ之ヲ輸入又ハ移入スルコトヲ得ス

第三條　煙草ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ニアラサレハ之ヲ耕作スルコトヲ得ス

第四條　煙草ヲ耕作セムトスル者ハ毎年煙草耕作地ノ位置及地積ヲ定メ政府ニ申請シ許可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更シ又ハ耕作ヲ廢止セムトスルトキ亦同シ

第五條　煙草耕作者ノ收穫シタル葉煙草ハ政府ニ納付スヘシ納付ノ期日及場所ハ臺灣總督之ヲ定ム

政府ハ收納シタル葉煙草ニ對シ賠償金ヲ交付ス賠償價格ハ臺灣總督之ヲ定メ豫メ公示スヘシ

煙草耕作者ノ收穫シタル葉煙草ニシテ政府ノ收納ニ適セサルモノハ政府ノ承認ヲ經テ之ヲ廢棄スヘシ

第六條　煙草ノ耕作區域ハ臺灣總督之ヲ定ム

第七條　政府ハ收穫前ニ於テ葉煙草ノ收穫高ヲ査定ス

第八條　煙草耕作者ハ政府ノ許可ヲ受クルニアラサレハ前條ノ査定前ニ於テ葉煙草ヲ採取シ又ハ幹根ヲ拔除スルコトヲ得ス

之カ買戻ヲ專賣局長ニ請求スヘシ但シ使用ニ適セサルモノハ此ノ限ニ在ラス

葉煙草ノ輸出ヲ廢止シタルトキハ亦前項ニ同シ

前二項ノ場合ニ於ケル買戻價格ハ專賣局長ニ於テ鑑定人チシテ鑑定セシメ之ヲ決定ス但シ其ノ買戻價格ハ賣渡價格ヲ超過スルコトヲ得ス

第九條　輸出ノ爲買受ケタル葉煙草ハ專賣局長ノ許可ヲ受ケタル場所ニ非サレハ之ヲ藏置スルコトヲ得ス

第十條　輸出ノ爲葉煙草ヲ買受ケタル者ハ帳簿ヲ調製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　葉煙草ノ買受年月日、輸出若ハ廢棄ヲ爲シ又ハ買戻ヲ受ケタル年月日、種類、葉分、等級、數量、代金及仕向先

二　葉煙草ノ改裝年月日及改裝數量竝改裝前ノ種類、葉分、等級及數量

第十一條　輸出ノ爲葉煙草ヲ買受ケタル者死亡シタル場合ニ於テハ其ノ相續人、相續人ニ在ラサルトキハ其ノ管理人ニ於テ死亡ノ日ヨリ三十日内ニ其ノ旨專賣局長ニ屆出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テハ第二條、第四條乃至第六條及第八條ノ手續竝前條ニ規定スル帳簿ノ調製及記載ハ相續人又ハ管理人ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　專賣ヲ僞リ第六號ノ屆出ヲ爲シタル者

二　第十條ノ帳簿ノ記載ヲ僞リタル者

第十三條　本令ハ内地、臺灣若ハ樺太ニ移出スル場合ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣總督府令ヲ以テ專賣局長ニ請求スヘシ但シ使用

第九條　煙草耕作者其ノ耕作地積ヲ減少シ又ハ耕作ヲ廢止シタル場合ニ於テ其ノ耕作ヲ承繼スル者ナキトキハ政府ハ其ノ現存スル葉煙草又ハ煙草苗ヲ廢棄セシムルコトヲ得

第十　試作場ヲ特設シ煙草ノ試作ヲ爲サムトスル者ハ政府ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ試作ニ關シテハ第五條及第九條ノ規定ヲ準用ス

第十條ノ二　政府ハ煙草耕作者ノ組織スル組合又ハ其ノ聯合組合ニ對シ煙草專賣事務執行上必要ナル施設ヲ爲シ又ハ其ノ補助ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

前項ノ組合又ハ聯合組合ニ對シテハ豫算ノ範圍内ニ於テ交付金ヲ交付スルコトヲ得

第十一條　製造煙草ハ政府又ハ煙草賣捌人若ハ煙草小賣人ニアラサレハ之ヲ販賣スルコトヲ得ス

第十二條　煙草小賣人ハ政府ノ定メタル價格ヲ以テスルニアラサレハ製造煙草ヲ消費者ニ販賣スルコトヲ得ス

第十三條　煙草賣捌人ハ政府ノ封緘ヲ施シタル製造煙草ノ包裝ヲ開披シ若ハ之ヲ改裝シ又ハ包裝ノ破損シタル製造煙草ヲ販賣スルコトヲ得ス

第十四條　何人ト雖此ノ規則ニ於テ認メタル場合ノ外葉煙草、政府ノ證票ヲ附セサル製造煙草又ハ煙草製造專用ノ器具機械及卷紙ヲ所持シ、讓渡シ又ハ讓受クルコトヲ得ス

前項ノ物件ハ此ノ規則ニ依リ沒收スル場合ノ外政府ニ於テ之ヲ處分ス

第十五條　何人ト雖營業ノ目的ヲ以テ煙草ニ代用スヘキ物品ヲ製造シ又ハ販賣スルコトヲ得ス

第十六條　煙草製造專用ノ器具機械及卷紙ハ

政府ノ許可ヲ受ケタル者ニアラサレハ之ヲ製作シ、販賣シ又ハ藏置スルコトヲ得ス

第十七條　煙草耕作者、試作者又ハ煙草製造專用ノ器具機械及卷紙ノ製作者、販賣者若ハ藏置者此ノ規則又ハ此ノ規則ニ基キテ發スル規定ニ違反シタルトキハ政府ハ耕作、試作、藏置又ハ營業ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十八條　政府ハ煙草ノ耕作地、試作地、乾燥場、藏置場又ハ煙草若ハ煙草製造器具機械及卷紙ノ所在ト認ムル場所又ハ煙草若ハ煙草製造器具機械及卷紙ヲ檢査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

當該官吏ハ前項ノ檢査ニ際シ必要ト認ムルトキハ關係人チシテ之ニ立會ハシムルコトヲ得

第十九條　私ニ煙草ヲ製造シ又ハ製造ノ準備ヲ爲シタル者ハ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草及煙草製造器具機械及卷紙ハ之ヲ沒收ス

第十九條ノ二　政府ノ命ヲ受ケスシテ煙草ノ輸入ヲ爲リ若ハ輸入ヲ爲シタル者ハ其ノ煙草ノ價格ノ十倍ニ相當スル罰金ニ處シ其ノ煙草ヲ沒收ス但シ其ノ罰金額ハ百圓ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ價格ハ其ノ煙草ノ生產地又ハ仕入地ニ於ケル原價ニ荷造費、運送費、保險料其ノ他輸入地ニ到著スルマテノ諸費及輸入稅ニ相當スル金額ヲ加ヘタルモノトス

第二十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草ハ之ヲ沒收ス

一　第二條ニ違反シ煙草ヲ移入シタル者

二　第三條ニ違反シタル者

三　第十條第一項ニ違反シタル者

四　政府ニ納付スヘキ葉煙草ヲ他ニ讓渡シ、讓受ケ、消費シ又ハ隱藏シ若ハ隱藏ノ種類、數量ヲ政府ニ申告スヘシ此ノ期限ノ場所ヲ供與シタル者

五　煙草賣捌人又ハ煙草小賣人ニアラスシテ製造煙草ヲ販賣シ又ハ販賣ノ準備ヲ爲シタル者

六　許可ヲ受ケサル者ノ耕作若ハ試作シタル葉煙草又ハ煙草耕作者、試作者ニアラサル者ノ育成シタル煙草苗又ハ權利者ノ不明ナル葉煙草若ハ煙草苗ヲ所持スル者

第二十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草ノ之ヲ沒收ス

一　煙草耕作者ニシテ許可ヲ受ケサル土地ニ煙草ヲ耕作シタル者

二　第八條ニ違反シタル者

三　第九條ノ命令ニ違反シテ葉煙草ヲ販賣シ若ハ煙草苗ヲ廢棄セサル者

第二十二條　煙草耕作者正當ノ事由ナクシテ臺灣總督ノ指定シタル納付期日ニ葉煙草ヲ納付セサルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條　第十二條又ハ第十三條ニ違反シタル者ハ五圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條　第十四條第一項ニ違反シテ製造煙草ヲ所持シ、讓渡シ又ハ讓受ケタル者ハ煙草賣捌人又ハ煙草小賣人ニ在リテハ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ他ノ者ニ在リテハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル製造煙草ハ之ヲ沒收ス

第二十五條　第十六條ニ違反シタル者又ハ權利者不明ノ煙草製造專用ノ器具機械及卷紙ヲ所持シタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル製造煙草ハ之ヲ沒收ス

第二十六條　此ノ規則ノ犯罪ニ係ル物件ヲ他ニ讓渡シ若ハ消費シタルトキ又ハ其ノ物件ニシテ他ニ所有者アル爲沒收スルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ種子ノ採取ヲ終リタルトキハ第一項ノ處置ヲ爲スヘシ

第十七條　第十條第一項ニ違反シテ煙草ヲ耕作シ、又ハ第十一條ニ違反シテ煙草ヲ栽培シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草ハ之ヲ沒收ス

第十八條　第十二條又ハ第十三條ニ違反シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草ハ之ヲ沒收ス

第十九條　第十四條第一項ニ違反シテ製造煙草ヲ所持シ、讓渡シ又ハ讓受ケタル者ハ煙草賣捌人又ハ煙草小賣人ニ在リテハ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ他ノ者ニ在リテハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル製造煙草ハ之ヲ沒收ス

第二十條　第十六條ニ違反シタル者又ハ權利者不明ノ煙草製造專用ノ器具機械及卷紙ヲ所持シタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草製造專用ノ器具機械及卷紙ハ之ヲ沒收ス

第二十一條　此ノ規則ノ犯罪ニ係ル物件ヲ他ニ讓渡シ若ハ消費シタルトキ又ハ其ノ物件ニシテ他ニ所有者アル爲沒收スルコトヲ得

第二十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル物件並其ノ原料、製造器具機械及卷紙ハ之ヲ沒收ス但シ第二號ノ場合ニ於テ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

一　第十五條ニ違反シタル者

二　當該官吏ノ尋問ニ對シ虛僞ノ答辯ヲ爲シ又ハ當該官吏ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者

第二十三條　此ノ規則又ハ此ノ規則ニ基キテ發スル規定ニ違反シタル者ニ付テハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヒス但シ第二十七條第二號ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條　煙草耕作者、試作者、煙草賣捌人、煙草小賣人又ハ煙草製造專用ノ器具機械及卷紙ノ製作者、販賣者若ハ藏置者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居人、雇人、其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ此ノ規則又ハ此ノ規則ニ基キテ發スル規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

第二十九條ノ二　間接國稅犯則者處分法ハ此ノ規則又ハ此ノ規則ニ基キテ發スル規定ノ違反事件ニ付之ヲ準用ス

第三十條　此ノ規則ニ規定スルモノノ外必要ナル規定ハ臺灣總督之ヲ定ム

附　則

第三十一條　此ノ規則ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

此ノ規則施行ノ際ニ於ケル煙草製造業者ハ明治三十八年四月一日ヨリ同年四月十日迄ニ其ノ種類、數量ヲ政府ニ申告スヘシ此ノ期限ヲ過キ申告ヲ爲ササルトキハ其ノ物件ノ藏置ニ關シテハ第二十條第六號ノ例ニ依リ處分ス

煙草製造業者ニシテ臺灣刻煙草以外ノ製造煙草ヲ所持スル者ハ明治三十八年三月三十一日現在ニ依リ同年四月十日迄ニ臺灣刻煙草ヲ製造又ハ販賣スル者ハ明治三十八年七月三十一日現在ニ依リ同年八月十日迄ニ其ノ製造ニ限リ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得

前項臺灣刻煙草ノ製造、其ノ原料ニ供スル葉煙草及煙草耕作ニ付テハ明治三十八年七月三十一日迄此ノ規則ヲ適用セス

第三十二條　左記ノ物件ハ政府之ヲ徵收シ之ニ對シ賠償金ヲ交付ス

一　明治三十八年三月三十一日ニ現在スル煙草製造專用ノ器具機械及卷紙但シ臺灣刻煙草製造專用ノ器具機械ヲ除ク

二　明治三十八年三月三十一日ニ於テ臺灣刻煙草以外ノ煙草製造業者ノ所持スル葉煙草

三　明治三十八年七月三十一日ニ現在スル葉煙草

四　明治三十八年七月三十一日ニ現在スル臺灣刻煙草製造專用ノ器具機械

第三十三條　前條第一號ノ物件ヲ所有スル者ハ明治三十八年四月十日迄ニ同條第四號ノ物件ヲ所有スル者ハ明治三十八年八月十日迄ニ其ノ種類、數量ヲ政府ニ申告スヘシ此ノ期限ヲ過キ申告ヲ爲ササルトキハ其ノ物件ノ藏置ニ關シテハ第二十條第六號ノ例ニ依リ處分ス

前條第二號ノ物件ヲ所有スル者ハ明治三十八年四月十日迄ニ同條第三號ノ物件ヲ所有スル者ハ明治三十八年八月十日迄ニ其ノ種類、數量ヲ政府ニ申告スヘシ此ノ期限ヲ過キ申告ヲ爲ササルトキハ其ノ物件ノ藏置ニ關シテハ第十六條及第二十五條ヲ適用ス

前項ニ依リ申告ヲ爲シタル物件ノ藏置ニ關シテハ之カ徵收ヲ終ル迄第十六條ヲ適用セス

ノ種類、數量ヲ政府ニ申告スヘシ此ノ期限ヲ過キ申告ヲ爲ササルトキハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條　此ノ規則施行ノ際ニ現在スル製造煙草及明治三十八年七月三十一日迄ニ製造シタル臺灣刻煙草ニ付テハ此ノ規則ヲ適用セス

●臺灣煙草專賣規則施行規則

昭和三年六月二日
臺灣總督府令第三十六號
改正　昭和四年第五號、第一七號

明治三十八年府令第二十號臺灣煙草專賣規則施行規則左ノ通改正ス

臺灣煙草專賣規則施行規則

第一條　煙草耕作ノ許可ヲ受ケントスル者ハ每年臺灣總督府專賣局長（以下單ニ專賣局長ト稱ス）ノ定ムル期間內ニ第一號樣式ノ申請書ヲ提出スヘシ

專賣局長煙草耕作ノ許可ヲ爲シタルトキハ第二號樣式ノ許可證ヲ交付スヘシ

第二條　專賣局長ハ煙草耕作申請者ノ資力及其ノ耕作上ノ設備ニ比シ申請ニ係ル面積過當ナリト認ムルトキハ其ノ面積ヲ減少シテ許可スルコトヲ得

第三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ煙草耕作者タルコトヲ得ス

一　煙草賣捌人（以下單ニ賣捌人ト稱ス）又ハ煙草小賣人（以下單ニ小賣人ト稱ス）

二　煙草製造專用ノ器具、機械又ハ卷紙ノ製作者、販賣者又ハ藏置者

三　煙草ノ輸出又ハ移出ヲ業トスル者

四　前各號ノ一ニ該當スル者ノ同居者

第四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ煙草ノ耕作ヲ許可セサルコトアルヘシ

一　煙草ニ關スル法令ニ違反スル所爲アリタル者

二　煙草耕作ノ成績不良ナリシ者

三　不適當ト認ムル土地ニ煙草ヲ耕作セントスル者

四　取締上不便ト認ムル場所ニ煙草ノ耕作、乾燥又ハ藏置ヲ爲サントスル者

五　面積五厘未滿ノ耕作申請ヲ爲シタル者

六　其ノ他煙草耕作者タルニ不適當ナリト認ムル者

第五條　煙草耕作者耕作地ノ位置、地積ノ變更又ハ煙草耕作廢止ノ許可ヲ受ケントスルトキハ申請書ニ煙草耕作許可證ヲ添附シ專賣局長ニ提出スヘシ

煙草耕作者耕作煙草ノ種類、本數又ハ煙草乾燥場若ハ藏置場ヲ變更又ハ廢止セントスルトキハ申請書ニ煙草耕作許可證ヲ添附シ專賣局長ノ許可ヲ受クヘシ

前二項ニ依リ提出スル申請書ハ第一號樣式ニ準シ作成スヘシ

第六條　相續ニ因リ煙草耕作ヲ承繼シタルトキハ其ノ煙草耕作許可證ヲ添附シ第三號樣式ニ依リ專賣局長ニ申告スヘシ

相續以外ノ原因ニ依リ煙草耕作ヲ承繼センストスルトキハ其ノ煙草耕作許可證ヲ添附シ第四號樣式ニ依リ專賣局長ニ許可ヲ申請スヘシ

第七條　煙草耕作者耕作地積ノ減少又ハ耕作廢止ノ許可ヲ受ケタルトキハ當該官吏ノ承認ヲ受ケ其ノ現存スル煙草又ハ煙草苗ニ付相當ノ處置ヲ爲スヘシ臺灣煙草專賣規則第十七條ニ依リ耕作ノ許可ヲ取消サレタルトキ亦同シ

煙草耕作者死亡シ其ノ耕作ヲ承繼シタルトキハ相續人又ハ管理人ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條　煙草耕作者ハ煙草ノ栽培、乾燥、調理及包裝其ノ他ニ關シ專賣局長ノ指示スル所ニ從フヘシ

第十二條　煙草耕作者ハ煙草ノ移植ヲ終リタルトキハ殘存セル煙草苗ハ之ヲ廢棄スヘシ但シ移植後三週間ヲ限リ豫備苗トシテ必要ノ本數ヲ保存スルコトヲ得

第十三條　煙草耕作者ハ煙草ノ移植ヲ終リタルトキハ直ニ耕作地一筒所每ニ許可番號、筒所順位、植付本數、耕作者ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記載シタル標木ヲ樹ツヘシ

第十四條　臺灣煙草專賣規則第七條ノ規定ニ依リ葉煙草ノ收穫高ヲ查定セントスルトキハ專賣局長ハ其ノ期日ヲ定メ豫メ之ヲ通告スヘシ

臺灣煙草專賣規則第八條ノ規定ニ依リ前項ノ期日以前ニ於テ葉煙草ノ採取又ハ幹根ノ拔除ニ付許可ヲ受ケントスル者ハ其ノ事由ヲ具シ所轄專賣官署ニ申請スヘシ

第十五條　煙草耕作者災害其ノ他ノ事故ニ因リ煙草ニ損害ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ事由ヲ具シ所轄專賣官署ニ屆出ツヘシ

第十六條　煙草耕作者煙草ノ收穫ヲ終リタルトキハ幹根ヲ拔除シ其ノ幹ニ附著スル葉煙草ハ之ヲ廢棄スヘシ

第八條　煙草耕作者種子採取ノ爲母本ヲ保存セントスルトキハ其ノ種類、本數ヲ定メ豫メ專賣局長ノ許可ヲ受クヘシ

第九條　煙草耕作者煙草耕作許可證ヲ亡失、毀損若ハ汚染シ又ハ住所、氏名若ハ名稱ヲ變更シタルトキハ直ニ事由ヲ具シ之カ再交付又ハ書換ヲ申請スヘシ

第十條　臺灣煙草專賣規則第十七條ニ依リ耕作ノ許可ヲ取消サレタル者ハ直ニ煙草耕作許可證ヲ返納スヘシ

煙草耕作者死亡シタル場合ニ於テ其ノ耕作ヲ承繼スル者ナキトキハ相續人又ハ管理人ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第十一

呈示スヘシ

第二十六條　專賣局長ハ煙草耕作者又ハ煙草耕作者ノ組織スル組合若ハ其ノ聯合組合ニ對シ無償ニテ煙草種子又ハ煙草苗ヲ交付スルコトヲ得

第二十七條　專賣局長ハ煙草耕作者又ハ煙草耕作者ノ組織スル組合若ハ其ノ聯合組合ニ就キ其ノ成績優良ニシテ他ノ模範トスルニ足ルモノニ對シ奬勵金ヲ交付スルコトヲ得

第二十八條　前條ニ依リ奬勵金ヲ受クヘキ煙草耕作者死亡シタルトキハ其ノ相續人ニ之ヲ交付ス

第二十九條　專賣局長ハ臺灣煙草專賣規則第十條ノ二ノ規定ニ依リ煙草耕作者ノ組織スル組合又ハ其ノ聯合組合ニ對シ交付金ヲ交付シ專賣事務執行上必要ナル施設又ハ其ノ補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十條　前條ノ組合又ハ聯合組合ニ對シ交付スヘキ金額ハ專賣局長之ヲ定メ一回又ハ數回ニ分ヲ適當ト認ムル時期ニ之ヲ交付ス

第三十一條　專賣局長ハ第二十九條ノ組合又ハ聯合組合ニ對シ交付金ノ用途ヲ指定スルコトヲ得

第三十二條　專賣局長ハ第二十九條ノ交付金交付ノ條件ニ違反シタル組合又ハ聯合組合ニ對シ交付金ノ一部ヲ交付セス又ハ既ニ交付シタル交付金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命スルコトヲ得

第三十三條　煙草ノ試作ニ關シテハ煙草耕作ニ關スル本令ノ規定ヲ準用ス但シ第一條第一項ヲ準用スル場合ニ於テハ其ノ申請書ニ試驗ノ目的及方法ヲ記載スヘシ

第三十四條　賣捌人ハ政府ヨリ製造煙草ヲ買受ケ之ヲ專賣局長ノ指定シタル煙草賣捌區域内ノ小賣人ニ賣渡スヘシ但シ第五十七條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條　賣捌人ト小賣人トハ互ニ相兼ヌコトヲ得ス

賣捌人又ハ小賣人ハ其ノ營業場ヲ同シクスルコトヲ得ス

第三十六條　賣捌人及小賣人ハ三年内ノ期間ヲ附シ專賣局長之ヲ指定ス

賣捌人又ハ小賣人ノ指定ヲ受ケントスル者ハ第六號樣式ノ申請書ヲ專賣局長ニ提出スヘシ

專賣局長賣捌人又ハ小賣人ヲ指定シタルトキハ第七號樣式ノ指定書ヲ交付スヘシ

第三十七條　賣捌人、小賣人死亡又ハ廢居シタルトキハ其ノ相續人ニ於テ殘期間其ノ營業ヲ承繼スルコトヲ得但シ第三十八條第一項第一號乃至第六號ノ規定ニ依リ賣捌人又ハ小賣人ニ指定セラルルコトヲ得サル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テハ事實發生ノ日ヨリ三十日内ニ指定書ヲ添附シ之ヲ專賣局長ニ申告スヘシ

第三十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ賣捌人ニ指定セラルルコトヲ得ス

一　煙草耕作者及其ノ同居者

二　臺灣煙草專賣規則第十九條乃至第二十五條及第二十七條ノ規定ニ依リ處罰又ハ處分ヲ受ケ二年ヲ經サル者

三　破產者ニシテ復權セサル者

四　破產者ニシテ復權セサル者

五　國稅滯納處分又ハ之ニ準シタル處分ヲ受ケ一年ヲ經サル者

六　禁錮以上ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リタルトキヨリ二年ヲ經サル者又ハ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

七　前各號ノ外業務執行上不適當ト認ムル者

前項第一號、第二號又ハ第七號ニ該當スル者及第六十一條第一項第四號又ハ第五號ノ規定ニ依リ賣捌人又ハ小賣人ノ指定ヲ取消サレ二年ヲ經サル者ハ小賣人ニ指定セラルルコトヲ得ス

前二項ノ事實ノ有無ハ法人ニ付テハ法人、法人ノ代表者又ハ法人ノ業務ヲ執行スル者ニ就キ之ヲ定メ未成年者又ハ禁治產者ニ付テハ未成年者、禁治產者又ハ其ノ法定代理人ニ就キ之ヲ定ムル但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十九條　賣捌人又ハ小賣人ノ營業所ハ一人一箇所トス但シ專賣局長必要ト認ムルトキハ賣捌人ニ對シ二箇所以上ノ營業所又ハ荷置場ノ設置ヲ許可シ又ハ之ヲ命スルコトアルヘシ

賣捌人前項ノ許可ヲ受ケントスルトキハ營業所又ハ荷置場ノ位置、建物ノ構造、坪數及荷置場ニ付テハ管理人ノ住所竝氏名ヲ記載シタル申請書ヲ專賣局長ニ提出スヘシ

第四十條　賣捌人他ノ營業ヲ兼ヌルトキハ其ノ營業所ト他ノ營業所トノ間ニ相當ノ區劃ヲ設クヘシ

第四十一條　賣捌人又ハ小賣人其ノ營業ヲ廢止シ又ハ營業所ヲ移轉セントスルトキハ專賣局長ノ許可ヲ受ケ賣捌人二箇所以上ノ營業所ヲ有スル場合ニ於テ一箇所若ハ數箇所ノ營業所ヲ廢止セントスルトキ又ハ其ノ荷置場ヲ廢止シ若ハ之ヲ移轉セントスルトキ亦前項ニ同シ

第四十二條　賣捌人ハ其ノ營業所又ハ荷置場ニ非サル場所ニ煙草ヲ藏置スルコトヲ得ス

第四十三條　小賣人ハ營業所ノ見易キ場所ニ煙草定價表及第八號樣式ノ標札竝招牌ヲ揭クヘシ

第四十四條　小賣人煙草ノ出賣ヲ爲シ又ハ其ノ家族若ハ雇人ヲシテ之ヲ爲サシメントスルトキハ第九號樣式ニ依リ所轄專賣官署ニ申請シ許可ヲ受クヘシ賣捌人其ノ家族若ハ雇人ヲシテ煙草ノ出賣ヲ爲サシメントスルトキ亦同シ

所轄專賣官署ニ於テ前項ノ煙草出賣許可ヲ爲シタルトキハ第十號樣式ノ許可證ヲ交付スヘシ

第四十五條　出賣人煙草ノ出賣ヲ爲ストキハ前條ノ許可證ヲ携帶スヘシ

第四十六條　賣捌人ハ營業所毎ニ帳簿ヲ備ヘ左記事項ヲ記載スヘシ

一　買受、引替又ハ買戻シノ爲受入レタル煙草ノ種類、名稱、數量、受入年月日及受入先

二　賣渡又ハ引替ニ依リ拂出シタル煙草ノ種類、名稱、數量、拂出年月日及拂出先、荷置場ヲ設置シタル賣捌人ハ荷置場毎ニ別ニ帳簿ヲ備ヘ其ノ受拂ヲ明ニスヘシ

第四十七條　小賣人ハ帳簿ヲ備ヘ煙草買受ノ都度直ニ其ノ買受年月日、種類、名稱、數量、代金及買受先ヲ記載スヘシ

第四十八條　政府ヨリ賣捌人ニ賣渡ス煙草ノ價格ハ煙草賣捌區域ノ等級ニ從ヒ其ノ定價ニ對シ專賣局長ノ定ムル割引歩合ニ依リ之ヲ定ム

賣捌人二箇所以上ノ營業所ヲ有スル場合ニ於テ一箇所若ハ數箇所ノ營業所ヲ廢止セントスルトキ又ハ其ノ荷置場ヲ廢止シ若ハ之ヲ移轉セントスルトキ亦前項ニ同シ

第四十二條　賣捌人ハ其ノ營業所又ハ煙草定價表及第八號樣式ノ標札竝招牌ヲ揭クヘシ

第四十三條　小賣人ハ營業所ノ見易キ場所ニ煙草定價表及第八號樣式ノ標札竝招牌ヲ揭クヘシ

第四十四條　小賣人煙草ノ出賣ヲ爲シ又ハ其ノ家族若ハ雇人ヲシテ之ヲ爲サシメントスルトキハ第九號樣式ニ依リ所轄專賣官署ニ申請シ許可ヲ受クヘシ賣捌人其ノ家族若ハ雇人ヲシテ煙草ノ出賣ヲ爲サシメントスルトキ亦同シ

所轄專賣官署ニ於テ前項ノ煙草出賣許可ヲ爲シタルトキハ第十號樣式ノ許可證ヲ交付スヘシ

第四十五條　出賣人煙草ノ出賣ヲ爲ストキハ前條ノ許可證ヲ携帶スヘシ

第四十六條　賣捌人ハ營業所毎ニ帳簿ヲ備ヘ左記事項ヲ記載スヘシ

一　買受、引替又ハ買戻シノ爲受入レタル煙草ノ種類、名稱、數量、受入年月日及受入先

二　賣渡又ハ引替ニ依リ拂出シタル煙草ノ種類、名稱、數量、拂出年月日及拂出先、荷置場ヲ設置シタル賣捌人ハ荷置場毎ニ別ニ帳簿ヲ備ヘ其ノ受拂ヲ明ニスヘシ

第四十七條　小賣人ハ帳簿ヲ備ヘ煙草買受ノ都度直ニ其ノ買受年月日、種類、名稱、數量、代金及買受先ヲ記載スヘシ

第四十八條　政府ヨリ賣捌人ニ賣渡ス煙草ノ價格ハ煙草賣捌區域ノ等級ニ從ヒ其ノ定價ニ對シ專賣局長ノ定ムル割引歩合ニ依リ之ヲ定ム

第四十九條　煙草ノ賣渡ヲ受ケントスル者ハ其ノ種類、名稱、包裝別數量ヲ記載シタル賣渡請求書ヲ所轄專賣官署ニ提出スヘシ

所轄專賣官署長必要ト認ムルトキハ請求ニ係ル煙草ノ種類又ハ數量ヲ査定シテ賣渡スコトヲ得

第五十條　煙草賣渡請求者賣渡ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ代金ヲ納付シ現品ヲ引取ラサルトキハ之ヲ若シ十日内ニ現品ヲ引取ラサルトキハ專賣局長ノ定ムル所ニ依リ保管料ヲ徵收スル但シ引取期間ニ付特別ノ定メヲ爲シタルトキ又ハ交通杜絕其ノ他已ムヲ得サル事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十一條　賣捌人煙草買受代金納付ノ擔保トシテ國債證券ヲ供託シ其ノ受領證ヲ提供シタルトキハ專賣局長ハ四箇月ノ範圍内ニ於テ適宜其ノ期間ヲ定メ代金ノ延納ヲ許可スルコトヲ得但シ一回ノ買受代金五百圓未滿ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條　賣捌人代金納付ノ期日迄ニ其ノ買受代金ヲ納付セサルトキハ百圓ニ付日歩三錢ノ割合ヲ以テ遲延利息ヲ徵收スルコトアルヘシ

第五十三條　政府ヨリ賣捌人ニ賣渡ス煙草ノ引渡ハ專賣官署ノ倉庫ニ於テ之ヲ行フ

專賣官署ノ倉庫ヨリ賣捌人ノ營業所又ハ專賣局長ニ於テ特ニ運搬費ヲ支給スヘキモノト認メタル荷置場ニ至ル迄ノ煙草荷造運搬費ハ一定ノ割合ヲ以テ政府之ヲ支給ス但シ賣捌人ノ營業所又ハ荷置場カ專賣官署ノ倉庫ノ所在地又ハ之ニ準スヘキ地ニ在ルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ依リ運搬費ヲ支給スヘキ場合ニ於テ專賣局長必要ト認ムルトキハ其ノ煙草ノ運送業者ヲ指定シ賣捌人ノ爲ニ運送契約ヲ締結スルコトヲ得

前項ニ依リ運送ヲ爲サシメタル場合ニ於テハ小賣人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ生シタルトキハ政府ハ引替請求ニ係ル煙草ノ現存價額ヲ鑑定シ之ニ相當スル煙草ヲ交付スヘシ此ノ場合ニ於テ計算上生シタル端數ノ金額ハ現金ヲ以テ之ヲ拂戻スヘシ

第五十九條　煙草ニシテ品質惡變シ又ハ包裝破損シ若ハ汚染シタルモノアルトキハ小賣人ハ其ノ營業所所在地ヲ賣捌區域トスル賣捌人ニ之カ引替ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該官吏ノ檢査證明ヲ受ケ現品ト共ニ其ノ檢査證明書ヲ引替先ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ引替ノ原因カ小賣人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ生シタルトキハ小賣人ハ煙草ノ價格ノ減少ニ相當スル金額ヲ辨償スヘシ

前項ノ規定ハ第三十四條第四項ニ依リ賣渡シタル煙草ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ其ノ所轄專賣官署ニ引替ノ請求ヲ爲スヘシ

第六十條　賣捌人又ハ小賣人其ノ營業ヲ廢止シ又ハ營業所ヲ移轉セントスルトキハ其ノ旨專賣局長ニ屆出ツヘシ但シ賣捌人ニ在リテハ廢止ノ日ヨリ三十日前ニ之ヲ爲スヘシ

第六十一條　賣捌人又ハ小賣人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ專賣局長ハ其ノ指定ヲ取消スコトヲ得

一　賣捌人第三十八條第一項第一號、第二號及第四號乃至第七號ノ規定ノ一ニ該當スルニ至リタルトキ

二　賣捌人納付期日ヲ過キ仍煙草買受代金ヲ完納セサルトキ

三　小賣人第三十八條第一項第二號ノ規定ニ該當スルニ至リタルトキ

四　小賣人一箇月以上引續キ其ノ營業ヲ爲ササルトキ又ハ煙草買受代金一箇年金百圓未滿ナルトキ

五　賣捌人又ハ小賣人本令又ハ本令ニ依リ指示シタル事項ニ違反シタルトキ

第三十八條第三項ノ規定ハ前項第一號又ハ第三號ノ事實ノ有無ニ付之ヲ準用ス

第六十二條　賣捌人又ハ小賣人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ二十日内ニ其ノ指定書又ハ出賣許可證ヲ所轄專賣官署ニ返納スヘシ但シ專賣人又ハ小賣人死亡ノ場合ニ於テハ相續人又ハ管理人ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ

一　賣捌人若ハ小賣人廢業シタルトキ又ハ賣捌人若ハ小賣人死亡シ其ノ營業ヲ承繼スル者ナキトキ

二　賣捌人又ハ小賣人其ノ指定ヲ取消サレタルトキ

三　小賣人煙草ノ出賣ヲ廢止シタルトキ又ハ煙草ノ出賣人死亡シタルトキ

四　賣捌人又ハ小賣人ノ家族、同居者若ハ其ノ雇人タル煙草ノ出賣人其ノ關係止ミタルトキ

第六十三條　賣捌人又ハ小賣人指定書若ハ出賣許可證ヲ亡失、毀損若ハ汚染シタルトキ又ハ住所、氏名若ハ名稱ヲ變更シタルトキハ直ニ事由ヲ具シ之カ再交付又ハ書換ヲ申請ス

第六十四條　賣捌人死亡シ其ノ營業ヲ承繼スル者ナキトキ、指定期間滿了シ引續キ指定セラレサルトキ、指定ヲ取消サレタルトキ又ハ營業ヲ廢止シタルトキハ事實發生ノ日ヨリ三十日内ニ所轄專賣官署ニ現存スル煙草ノ買戻ヲ請求シ又ハ其ノ承認ヲ得テ他ノ賣捌人ニ之ヲ賣渡スコトヲ得

前項ノ場合ニ於ケル價格ハ買戻又ハ賣渡當時ノ當該賣捌人ニ對スル現行賣渡價格ニ依ル前二項ノ場合ニ於テ賣捌人又ハ其ノ相續人ノ賣ニ歸スヘキ事由ニ因リテ煙草ノ品質

本令ハ昭和二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ於テ煙草耕作ニ關シ明治三十八年勅令第二十號ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ニ付テハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノトミナス

本令施行ノ際現ニ專賣局又ハ小賣人タル者ニ對スル指定ハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノトミナス

附則

第十三條　本令ニ依リ專賣局ニ提出スベキ請求書其ノ他ノ書類ハ朝鮮總督府專賣局ニ提出スベシ

第十二條　朝鮮ニ於テ煙草耕作者又ハ製造者ニ對スル專賣局ノ處分ニ付テハ朝鮮總督府ニ訴願スルコトヲ得

第十一條　煙草ノ製造又ハ販賣ヲ爲サントスル者ハ朝鮮總督ノ許可ヲ受クベシ

第十條　煙草ノ製造又ハ販賣ヲ爲サントスル者ハ其ノ營業所ニ付朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ專賣局ノ許可ヲ受クベシ

第九條　煙草ノ製造又ハ販賣ヲ爲サントスル者ハ其ノ營業所ニ付朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ專賣局ノ許可ヲ受クベシ

第八條　煙草ノ耕作ヲ爲サントスル者ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ專賣局ノ許可ヲ受クベシ

第七條　朝鮮總督ハ專賣ノ爲必要アリト認ムルトキハ煙草ノ耕作ヲ禁止シ又ハ其ノ耕作ヲ爲シ得ル區域ヲ制限スルコトヲ得

第六條　朝鮮總督ハ專賣ノ爲必要アリト認ムルトキハ煙草ノ耕作ヲ爲シ得ル區域ヲ制限スルコトヲ得

第五條　朝鮮總督ハ專賣ノ爲必要アリト認ムルトキハ煙草ノ耕作ヲ爲シ得ル區域ヲ制限スルコトヲ得

第四條　朝鮮總督ハ專賣ノ爲必要アリト認ムルトキハ煙草ノ耕作ヲ爲シ得ル區域ヲ制限スルコトヲ得

第三條　朝鮮總督ハ專賣ノ爲必要アリト認ムルトキハ煙草ノ耕作ヲ爲シ得ル區域ヲ制限スルコトヲ得

第二條　朝鮮總督ハ專賣ノ爲必要アリト認ムルトキハ煙草ノ耕作ヲ爲シ得ル區域ヲ制限スルコトヲ得

第一條　朝鮮總督ハ專賣ノ爲必要アリト認ムルトキハ煙草ノ耕作ヲ爲シ得ル區域ヲ制限スルコトヲ得

第一號樣式

（表）

煙草耕作許可申請書

住所

職業　氏名　㊞

年月日生

年月日

耕作許可第　號煙草耕作許可書ニ依リ煙草耕作ヲ爲サントスル者ノ住所職業氏名及生年月日

耕作位置								種類	自作小作	地目	地積	畦間	株間	本數	事由
郡（市）	街庄（區）	大字	地番												
											段	寸	寸		
合計			箇所												
乾燥場								藏置場							

備考

一　乾燥場及藏置場居宅構內ナルトキハ居宅構內ト記シ其ノ他ハ建物所在位置竝其ノ所有者氏名ヲ記入スヘシ

二　一筆ノ土地ニシテ數筆ノ耕作ニ關スルモノハ地番ノ下ニ括弧ヲ附シ其ノ耕作一箇所ナルモノハ其ノ地番ヲ列記シ地積ハ本數ハ合計ヲ記載スヘシ

三　通日ノ國ノ日ヲ以テ明記スヘシ

四　自作者又ハ小作者ハ「自作」「小作」ノ區分ヲ明記スヘシ

五　未成年者禁治產者ニアリテハ法定代理人連署捺印スヘシ

六　二番葉ノ收穫ヲナサントスルトキハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第二號樣式

一面（表）

煙草耕作許可證

局印

割印

受付番號	
月日	包數

二面

許可事項									事由
郡（市）	街庄（區）	大字	地番	種類	地積	畦間	株間	本數	
						寸	寸		
計			何箇所						
乾燥場					藏置場				

備考

一　乾燥場及藏置場居宅構內ナルトキハ居宅構內ト記シ其ノ他ハ建物所在位置竝其ノ所有者氏名ヲ記入スヘシ

二　二番葉ノ收穫ヲ許可シタルトキハ其ノ旨ヲ事由欄ニ記載シ其ノ地積本數ハ當該欄ノ左側ニ朱書スヘシ

三　耕作ノ許可事項ノ變更ヲ許可シタルトキハ其ノ旨ヲ事由欄ニ記載シ變更箇所ハ訂正ノ上取扱者捺印スヘシ

四　其ノ他ノ事項ハ申請書ニ依リ移記スヘシ

三面

日	收納月	包數	斤量	賠償	金
					圓

四面

注意事項

一　災害其ノ他ノ事故ニ因リ葉煙草ニ損害ヲ受ケタルトキハ其ノ數量及事由ヲ具シ届出ツヘシ

二　移植ヲ終リタルトキハ殘餘ノ煙草苗ハ直ニ廢棄スヘシ但シ移植後三週間ヲ經過セサル範圍ニ於テ豫備苗トシテ保存スルハ此ノ限ニ在ラス

三　播種期ハ當局員ノ指示ヲ遵守スヘシ

四　植付箇所、移植期、植付本數、畦間、株間ハ許可事項ト相違ナキ樣注意スヘシ

第三號樣式

許可番號第　號煙草耕作承繼申請書

一　事由　前耕作者何某家督（產）相續

年月日

住所

職業

承繼者　氏名　㊞

生年月日

煙草耕作者所轄專賣局長宛

耕作位置								種類	自作小作	地目	地積	畦間	株間	本數	事由
郡（市）	街庄（區）	大字	地番												
合計			箇所												
乾燥場					藏置場										

備考

一　耕作ノ全部ヲ承繼シ蔵置場及乾燥場ヲ變更セサルモノハ許可番號ノミヲ記載シ耕作地、乾燥場、蔵置場ノ記載ヲ要セス

二　耕作ノ一部ヲ承繼シ又ハ蔵置場若ハ乾燥場ヲ變更スル場合ニ在リテハ許可番號及其ノ變更ニ係ル事項ノミヲ記載スヘシ

三　承繼者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ法定代理人之ニ連署捺印スヘシ

第四號樣式

許可番號　第　號　煙草耕作承繼許可申請書

一事由

年　月　日

住所
耕作者　氏　名㊞
住所
職業
承繼者　氏　名㊞
生年月日

臺灣總督府專賣局長宛

耕作位置										許可		
州(廳)郡(市)街庄(區)大字	地番	種類	自作小作	地目	地積	畦間	株間	本數	事由	年月日	番號	

臺灣總督府專賣局埔里出張所	臺中州能高郡（國姓庄、埔里社、魚池庄ヲ除ク）、新高郡
臺灣總督府專賣局嘉義支局	臺南州嘉義郡、斗六郡、虎尾郡、北港郡、東石郡、新營郡
臺灣總督府專賣局臺南支局	臺南州臺南市、新豐郡、新化郡、曾文郡、北門郡
臺灣總督府專賣局高雄出張所	臺南州岡山郡（湖內庄ヲ除ク）、鳳山郡、旗山郡
臺灣總督府專賣局屏東支局	高雄州屏東郡、潮州郡、東港郡、旗山郡（田寮庄ヲ除ク）、恒春郡
臺灣總督府專賣局澎湖出張所	澎湖廳　一圓
臺灣總督府專賣局花蓮港支局	花蓮港廳　一圓
臺灣總督府專賣局臺東出張所	臺東廳　一圓

●臺灣ニ於ケル專賣諸法令ニ於テ準用スル間接國稅犯則者處分法中ノ收稅官吏又ハ稅務署長ニ屬スル職務ヲ行フベキ官吏ニ關スル件

昭和二年七月二十九日勅令第二百四十一號

臺灣ニ於ケル專賣諸法令ニ於テ準用スル間接國稅犯則者處分法中ノ收稅官吏又ハ稅務署長ニ屬スル職務ヲ行フベキ官吏ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

（樞密院ノ諮詢ヲ經タリ）

（內閣總理大臣臨時署理大藏大臣兼內務大臣田健治郎）

第一條　臺灣ニ於ケル專賣諸法令ニ於テ準用スル間接國稅犯則者處分法中ノ收稅官吏又ハ稅務署長ニ屬スル職務ヲ行フベキ官吏ニ關シテハ臺灣總督府稅關長トシ其ノ他ノ違反事件ニ關シテハ臺灣總督府專賣局長、同專賣局支局長又ハ同專賣局出張所長トス

第二條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十六年勅令第百四十一號ハ之ヲ廢止ス

●專賣官吏證票ニ關スル件

昭和二年十月十四日
臺灣總督府令第五十六號

專賣官吏證票ニ關スル件左ノ通相定ム

臺灣食鹽專賣規則第十七條、粗製樟腦樟腦油專賣法第十二條、臺灣煙草專賣規則第十八條及臺灣酒類專賣令第十一條ノ規定ニ依リ檢查又ハ處分ヲ爲スヘキ專賣官吏ハ昭和二年勅令第二百四十一號ノ規定ニ依リ收稅官吏ニ屬スル職務ヲ行フヘキ專賣官吏ノ身分ヲ證明スル證票左ノ通定ム

用紙厚質白紙　縱三寸　橫二寸八分

表

第　號

官　氏　名

臺灣總督府專賣局（何支局何出張所）

專賣官吏章

裏

昭和　年　月　日交付

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二款　樟腦及樟腦油

●粗製樟腦樟腦油專賣法

明治三十六年六月十七日
法律第五號

第一條　政府ハ粗製樟腦、樟腦油ノ專賣權ヲ有ス

第二條　粗製樟腦、樟腦油ヲ製造スル者ハ總テ其ノ粗製樟腦、樟腦油ヲ政府ニ納付スヘシ納付ノ期限及場所ハ政府之ヲ指定ス

第三條　政府ハ收納シタル粗製樟腦、樟腦油ニ對シ補償金ヲ交付ス補償金ハ政府之ヲ定メ豫メ公示スヘシ

第四條　政府ヨリ賣渡シタル粗製樟腦、樟腦油ニ非サレハ所有、所持、讓渡、質入若ハ消費シ、外國ニ輸出シ又ハ內地臺灣間ノ輸送ヲ爲スコトヲ得ス但シ納付期限前又ハ正當ノ事由ニ因リ納付ヲ遲延シタル場合ニ於テ所有、所持スルハ此ノ限ニ在ラス

第五條　樟腦、樟腦油ハ政府指定ノ港灣ニ由ルニ非サレハ之ヲ外國ニ輸出シ又ハ內地臺灣間ノ輸送ヲ爲スコトヲ得ス

第六條　粗製樟腦、樟腦油ヲ製造セムトスル者又ハ粗製樟腦、樟腦油ヲ製造セムトスル者ハ製造場、竈數、一箇年ノ生產見込量及製造著手ノ時期ヲ定メ政府ノ許可ヲ受クヘシ前項ニ依リ許可ヲ受ケタル事項ヲ變更シ又ハ製造ヲ廢止セムトスルトキハ政府ノ許可ヲ受クヘシ

第七條　相續ニ因リ樟腦、樟腦油ノ製造ヲ繼承シタルトキハ政府ニ屆出ツヘシ相續ニ因ルノ外製造ヲ繼承セムトスルトキハ政府ノ許可ヲ受クヘシ

第八條　粗製樟腦、樟腦油ノ製造者ハ粗製樟腦ノ精製者ト相互ニスルコトヲ得ス

第九條　政府ハ樟腦、樟腦油ノ需要供給ノ情況ニ依リ粗製樟腦、樟腦油ノ製造ヲ制限スルコトヲ得

第十條　樟腦、樟腦油ノ製造ノ許可ヲ受ケタル者本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違背シ又ハ豫定ノ條件ヲ履行セサルトキハ政府ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

專賣局支局長又ハ同專賣局出張所長トス

粗製樟腦、樟腦油專賣規則、臺灣煙草專賣規則、臺灣酒類專賣令、臺灣酒精令及臺灣食鹽專賣規則ノ違反事件ニ關シテハ臺灣總督府稅關長トシ其ノ他ノ違反事件ニ關シテハ臺灣總督府專賣局長、同專賣

三　許可ヲ受ケシテ許可ヲ受ケタル事項ヲ變更シ又ハ製造ヲ廢止シタル者

四　第九條ノ制限又ハ第十條第二項ノ停止ノ處分ニ違背シタル者

第十七條　相續ニ因リ樟腦、樟腦油ノ製造ヲ繼承シタルトキ其ノ屆出ヲ爲ササル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十八條　樟腦、樟腦油ノ製造者候簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ之ヲ怠リタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條　當該官吏ノ尋問ニ對シ虛僞ノ答辯ヲ爲シ又ハ當該官吏ノ職務執行ヲ拒ミ、之ヲ忌避シ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第二十條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違背シタル者ニハ刑法ノ減輕「昇」犯加重及數罪俱發」ノ例ヲ用ヰス

第二十一條　當業者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ當業者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條　樟腦、樟腦油ノ製造者又ハ取引人ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十三條　關稅關稅犯則者處分法及明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル罰則ニ之ヲ準用ス

間接國稅犯則者處分法中收稅官吏及稅務署長ニ屬スル職務ヲ行フヘキ官吏ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四條　本法施行ノ爲必要ナル規定ニシテ主務大臣ノ定ムヘキ事項ハ臺灣ニ於テハ臺灣總督之ヲ定ム

附　則

第二十五條　本法ハ明治三十六年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣樟腦及樟腦油專賣規則竝臺灣樟腦及樟腦油製造規則ハ之ヲ廢止ス

第二十六條　本法施行ノ際內地ニ於テ樟腦、樟腦油又ハ取引人ノ所有スル粗製樟腦、樟腦油ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ニ準シ之ヲ政府ニ納付スヘシ

第二十七條　本法施行ノ際內地ニ於テ樟腦、樟腦油ノ製造者又ハ取引人以外ノ者ノ所有ニ係ル粗製樟腦、樟腦油ニ關シテハ本法ノ規定ヲ適用ス

第二十八條　本法施行ノ際內地ニ於テ樟腦、樟腦油ヲ製造スル者ハ明治三十六年十一月一日迄ニ本法ニ依リ許可ヲ受クヘシ其ノ期間內ハ從前ノ製造ヲ繼續スルコトヲ得

第二十九條　臺灣樟腦及樟腦油製造規則ニ依リ許可ヲ受ケタル者ノ其ノ期間滿了ノ日迄本法ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

●粗製樟腦樟腦油專賣法施行細則

明治三十六年九月十五日
大藏省令第二十三號
改正　明治三十七年第二號、三八年第四三號、四〇年第三九號、第四四號、四三年第六號
大正九年第五二號、一〇年第七號、一一年第三號、第四九號

粗製樟腦、樟腦油專賣法施行細則左ノ通相定ム

第一條　粗製樟腦、樟腦油ヲ製造セムトスル者又ハ粗製樟腦、樟腦油ヲ精製セムトスル者ハ製造場、竈數、一箇年ノ生產見込量及製造著手ノ時期ヲ定メ所轄地方專賣局ノ許可ヲ受クヘシ

第二條　前條ノ許可ヲ受ケタル事項ヲ變更セムトスルトキ又ハ粗製樟腦、樟腦油ヲ精製セムトスル者及繼承者連署シテ所轄地方專賣局ニ出願スヘシ

第三條　粗製樟腦、樟腦油製造者又ハ精製者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ所轄地方專賣局ニ屆出ツヘシ

一　製造又ハ精製ヲ休止セムトスルトキ又ハ休止後更ニ製造又ハ精製ニ著手セムトスルトキ

二　住所又ハ氏名若ハ名稱ヲ變更シタルトキ

第四條　粗製樟腦、樟腦油製造者又ハ粗製樟腦精製者製造場所在市町村ニ現住セサルトキハ粗製樟腦、樟腦油專賣法ニ依ル事務ヲ處理セシムル爲管理人ヲ定メ所轄地方專賣局ニ屆出ツヘシ

第五條　粗製樟腦、樟腦油製造者ノ各製造場ニ其ノ竈數、氏名及許可ノ年月日ヲ記載シタル標札ヲ掲クヘシ

第六條　粗製樟腦、樟腦油製造者ハ管理人、焚夫、運搬夫其ノ他ノ從業者ニ左ノ木製鐵札ヲ携帶セシムヘシ

三寸

住所

表　管理人（焚夫等）氏名

年齡

二寸五分

粗製樟腦、樟腦油製造人

名印

氏

年　月　日

裏

第七條　粗製樟腦、樟腦油製造者又ハ粗製樟腦精製者ハ其ノ製造又ハ精製ヲ廢止セムトスルトキハ所轄地方專賣局ニ出願スヘシ

第八條　粗製樟腦、樟腦油製造者ハ粗製樟腦、樟腦油ノ製造又ハ取引人ノ所有スル粗製樟腦、樟腦油ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ニ準シ之ヲ政府ニ納付スヘシ

第九條　粗製樟腦、樟腦油製造者又ハ粗製樟腦精製者ハ其ノ製造又ハ精製ヲ廢止セムトスルトキハ所轄地方專賣局ニ出願スヘシ

第十條　粗製樟腦、樟腦油專賣法第九條ニ依リ粗製樟腦、樟腦油ノ製造ニ制限スル必要アリト認メタルトキハ地方專賣局ハ粗製樟腦、樟腦油製造者ノ一箇年生產見込量ヲ更訂シ之ヲ製造者ニ通知スヘシ

第十一條　粗製樟腦、樟腦油製造者ハ粗製樟腦、樟腦油製造後六十日以內ニ之ヲ所轄地方專賣局ニ納付スヘシ

第十二條　粗製樟腦、樟腦油ノ製造者ハ粗製樟腦又ハ樟腦油ノ容器ニ製造ノ場所、年月日及製造者ノ氏名ヲ記載スヘシ

第十三條　粗製樟腦、樟腦油製造者ハ代理人ヲ以テ粗製樟腦、樟腦油ノ納付ヲ爲スコトヲ得

運送營業者カ粗製樟腦、樟腦油製造者又ハ其ノ代理人ヨリ粗製樟腦、樟腦油ノ運送ヲ委託セラレタルトキハ運送中ノ其ノ代理人トナリタルモノト看做ス

第十四條　粗製樟腦、樟腦油製造者ハ豫メ所轄地方專賣局ノ認可ヲ得テ所轄地方專賣局以外ノ地方ノ專賣局ニ粗製樟腦、樟腦油ノ納付ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ納付ヲ爲スヘキ地方專賣局ヲ以テ第十一條ノ所轄地方專賣局ト看做ス

第十五條ノ一　地方專賣局ニ於テ收納スル粗製樟腦及樟腦油ノ標準品質左ノ如シ

一　粗製樟腦

水分及固形夾雜物ノ容量百分ノ壹以下ニシテ其ノ硫酸反應落色ニ於テ二十五分一沃素規定液ヲ退キス溫度ノ上昇ニ於テ攝氏檢溫器二十度以下ナルモノ

二　樟腦油

樟腦油固有ノ香氣ノ外異臭ヲ放タス且

ッ鍒氏験温器十五度ノ時ニ於テ比重
〇、九一以上ナルモノ

前項ニ於テ沃素規定液ト稱スルハ沃素百二十六、八六瓦ヲ沃度加里約三百瓦ト共ニ水ニ溶解シテ「リートル」ニ至ラシメタルモノヲ謂フ

第十五條ノ二　粗製樟腦樟腦油製造者ノ納付セムトスル粗製樟腦ニシテ其ノ品質粗惡ナルモノヌハ其ノ樟腦油ニシテ標準品質ニ適合セサルモノハ製造者ヲシテ更ニ相當ノ處理ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第十六條　地方專賣局ハ粗製樟腦、樟腦油ノ品質ヲ鑑定シ之ニ相當スル補償金ヲ交付ス

粗製樟腦、樟腦油製造者前項ノ鑑定ニ不服ナルトキハ再鑑定ヲ求ムルコトヲ得

第十七條　粗製樟腦、樟腦油製造者又ハ其ノ代理人災害其ノ他ノ事故ニ因リ粗製樟腦、樟腦油ニ損害ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ事由ヲ具シ現ニ損害アリタル地ヲ所轄スル地方專賣局ニ屆出ツヘシ

第十八條　樟腦、樟腦油ヲ買受クル者其ノ代金納付ノ擔保トシテ國債ヲ提供シタルトキハ專賣局長官ハ六箇月以内代金ノ延納ヲ許可スルコトヲ得

當時樟腦、樟腦油ノ買受ヲ爲ス者代金納付ノ擔保トシテ前項ノ擔保物件ヲ準メ提供シ置クトキハ專賣局長官ハ其ノ價格ニ達スル迄代金ノ延納ヲ許可スルコトヲ得

前二項ニ依リ延納ヲ許可スルハ一回ノ買受代金五百圓以上ノ場合ニ限ル

代金延納ノ擔保ヲ提供スル者ハ無記名國債證券ノ提供ニアリテハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ

第十九條　粗製樟腦、樟腦油又ハ精製樟腦ノ數納又ハ賣渡時間ハ公暇日ヲ除クノ外毎日午前九時ヨリ午後四時マテトス但シ既ニ數納ニ著手シタルモノニ付テハ午後四時ヲ過クルモ之ヲ數納スルコトアルヘシ

第二十條　粗製樟腦、樟腦油製造者ハ少ナクトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　原料ノ種類、量目、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引取先

二　使用シタル原料ノ種類、一釜毎ノ原料使用量目、釜數、使用原料總量目及其ノ使用ノ日

三　製造シタルモノノ種類、一釜毎ノ製造量目、製造總量目及其ノ製造ノ日

四　政府ニ納付シタルモノノ種類、量目、補償金額、納付ノ日

第二十一條　粗製樟腦精製者ハ少ナクトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　粗製樟腦ノ量目、價額、買入ノ日及其ノ買入先

二　使用シタル粗製樟腦ノ量目及其ノ使用ノ日

三　製造シタルモノノ種類、量目及其ノ製造ノ日

四　他ニ引渡シタル精製樟腦ノ量目、價額、引渡ノ日及其ノ引渡先

第二十二條　削除

第二十三條　第十一條第十六條ニ關スル事務ハ福岡、熊本、鹿兒島各地方專賣局、福岡地方專賣局長崎出張所及大阪地方專賣局其管轄專賣官吏派出所ニ於テノミ之ヲ行フ

附　則

第二十四條　粗製樟腦、樟腦油專賣法第二十六條ニ該當スル粗製樟腦、樟腦油ノ所有者ハ明治三十六年十一月三十日マテニ其ノ粗製樟腦、樟腦油ヲ所轄樟腦事務局ニ納付スヘシ

第十一條第二項、第三項、第十三條、第十四條、第十五條及第十六條ノ規定ハ之ヲ前項ノ場合ニ準用ス

第二十五條　粗製樟腦、樟腦油專賣法第二十八條ニ依リ許可ヲ受ケムトスル者ニハ本則第一條ヲ準用ス

附　則（大正九年六月敕令第五二號）

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前提供シタル國債以外ノ有價證券ハ本令施行ノ日ヨリ五年ヲ限リ本令ノ規定ニ拘ラス尙其ノ效力ヲ有ス

前項ノ有價證券ノ價格ハ毎年四月市場ニ於ケル前月中ノ平均價格ヨリ其ノ十分ノ二ヲ控除シ之ヲ改算スル但シ其ノ價格ニ著シキ變動アリト認メタルトキハ隨時之ヲ改算ス

●樟腦樟腦油ノ輸出又ハ輸送ヲ爲スコトヲ得ヘキ港灣指定

明治三十六年九月十五日
勅令第百四十二號
改正　明治四四年第二二四號
大正四年第一七二號、一二年第二八九號

製樟腦、樟腦油ノ輸出又ハ輸送ヲ爲スコトヲ得ヘキ港灣指定ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（内務大臣副署）

粗製樟腦、樟腦油專賣法第五條ニ依リ樟腦、樟腦油ノ輸出又ハ輸送ヲ爲スコトヲ得ヘキ港灣左ノ通指定ス

横濱港
神戸港
大阪港
敎賀港
下關港
門司港
基隆港
淡水港

●粗製樟腦樟腦油專賣法施行細則

明治三十六年九月十八日
勅令第百四十九號
改正　大正二年第三〇號
昭和二年第五五號

明治三十六年九月府令第六十五號粗製樟腦樟腦油專賣法施行細則左ノ通改正ス

粗製樟腦、樟腦油專賣法施行細則

第一條　粗製樟腦、樟腦油製造ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ別記第一號書式ノ願書ニ第二號書式ノ設計書及製腦場所ノ圖面ヲ添附シ製腦場所ノ所轄廳ヲ經由シテ臺灣總督府專賣局ニ差出スヘシ

第二條　粗製樟腦、樟腦油製造者ハ豫定ノ腦灶全數ノ製腦ニ著手スルニ至ルマテ每月末日ニ於ケル事業進行ノ現狀ヲ翌月五日限リ製腦場所ノ所轄廳ヲ經由シテ臺灣總督府專賣局ニ屆出ヘシ該屆書ニハ腦灶ノ位置、個數ヲ明記シタル圖面及其ノ腦灶別擔當腦長、腦首ノ氏名竝各腦灶ニ配置シタル腦丁ノ員數表ヲ添附スルヲ要ス

第三條　粗製樟腦、樟腦油製造者ハ每年二月限リ其ノ翌年度ノ生產見込量目ヲ別記第三號書式ニ依リ製腦場所ノ所轄廳ヲ經由シテ臺灣總督府專賣局ニ願出認可ヲ受クヘシ

第四條　粗製樟腦、樟腦油製造者ハ左ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ詳記シタル願書ヲ製腦場所ノ所轄廳ニ差出スヘシ

一　製腦著手期限ヲ變更セムトスルトキ

二　腦灶ノ位置ヲ變更セムトスルトキ

三　腦灶ヲ增加セムトスルトキ

四　腦灶ヲ減少セムトスルトキ

五　腦灶ノ一部若ハ全部ノ休業十日以上ニ亙リ尙之ヲ繼續セムトスルトキ

六　製腦場所ノ搖續セル地域ニ於テ更ニ製腦場所ヲ擴張セムトスルトキ

七　生產見込量目ヲ變更セムトスルトキ

前項第二號ノ場合ハ其ノ腦灶ノ現位置及移轉セムトスル場所ヲ明記シタル圖面竝別記設計書ヲ添附シ第四號及第六號ノ場合ハ其ノ腦灶ノ位置又ハ擴張セムトスル場所ヲ明記シタル圖面ヲ添附シ第五號ノ場合ハ其ノ期間ヲ定メ且休業腦灶ノ位置ヲ明記シタル圖面ヲ添附スルヲ要ス

地方廳ニ於テハ第一項ノ願書ヲ受ケタルトキハ審査ノ上之カ處分ヲ爲シ其ノ願末ヲ臺灣總督府專賣局長ニ報告スヘシ但シ第一項第七號ノ願書又ハ生產見込量目ニ異動ヲ生スヘシト認メタル願書ハ臺灣總督府專賣局長ノ承認ヲ經テ處分スヘシ

第五條　粗製樟腦、樟腦油製造者前條第一項各號ノ二以上ニ該當シ又ハ第三條ノ認可ヲ受ケムトスル場合ニ於テ同時ニ前條第一項各號ノ一若ハ二以上ニ該當スルトキハ前條ノ規定ニ依リ同時ニ出願スヘシ

第六條　第一條ノ出願又ハ生產見込量目ヲ增加セムトスルニ因リ製腦ニ使用スル樟樹其ノ他ノ木竹ノ拂下ヲ受ケムトスル者ハ第一條ノ願書又ハ生產見込量目變更願書ト共ニ明治二十九年十月府令第四十四號臺灣官有森林原野產物賣渡規則第四條ノ特賣願書ヲ製腦場所ノ所轄廳ニ經由シテ臺灣總督府專賣局ニ差出スヘシ

第七條　相續ニ因リ粗製樟腦、樟腦油ノ製造業ヲ繼承シタル者ハ其ノ日ヨリ五日以内ニ製腦場所ノ所轄廳ヲ經由シテ臺灣總督府專賣局ニ屆出ヘシ

相續ニ因ル外粗製樟腦、樟腦油ノ製造業ヲ繼承セムトスルトキハ製造者及繼承者連署シ製腦場所ノ所轄廳ヲ經由シテ臺灣總督府專賣局ニ願出ヘシ

第八條　粗製樟腦、樟腦油製造者ハ每月ノ製腦成績ヲ翌月五日限リ別記第四號書式ニ依リ製腦場所ノ所轄廳ヲ經由シテ臺灣總督府專賣局ニ屆出ヘシ

第九條　粗製樟腦、樟腦油製造者ハ左ノ場合ニ於テハ其ノ事實ノ發生シタル日ヨリ五日以内ニ製腦場所ノ所轄廳ヲ經由シテ臺灣總督府專賣局ニ屆出ヘシ

一　住所又ハ氏名若ハ名稱ヲ變更シタルトキ

二　代理人ヲシテ製造、運送又ハ納付ニ關スル事項ヲ處理セシムルトキ及其ノ代理人ヲ解除シタルトキ

三　腦長、腦首、腦丁竝事務員ヲ雇入レタルトキ及之ヲ解雇シタルトキ

前項第三號ノ場合ハ其ノ住所、氏名、年齡及男女別ヲ明記スルヲ要ス

第十條　粗製樟腦、樟腦油製造者ハ腦長、腦首、腦丁、運搬夫其ノ他ノ雇人ニ左式ノ木製鐵札ヲ携帶セシムヘシ

（三寸）

表	原籍 住所 氏名 年齡
腦長（腦首）（腦丁）（運搬夫）	

（二寸五分）

裏

粗製樟腦樟腦油製造人
氏名印

【明治】何年何月何日

第十一條　粗製樟腦、樟腦油製造者ハ其ノ腦館ニ別記第五號書式ノ帳簿ヲ備ヘテ每日製造品ノ受拂ニ關スル事項ヲ正確ニ記載シ尙別ニ金錢出納簿ヲ備ヘテ製腦業ニ關スル金錢ノ出納ヲ其ノ都度正確ニ記載スヘシ

二箇以上ノ腦館ヲ有スル者ハ前項ノ帳簿ヲ各腦館ニ備ヘテ記帳スルヲ要ス

第十二條　粗製樟腦、樟腦油製造者ハ每月五日、十日、十五日、二十日、二十五日及末日ニ於テ各其ノ期間内ニ於ケル腦館別製造品ノ受拂ヲ別記第六號書式ニ依リ臺灣總督府專賣局及腦館所在地ノ所轄廳ニ屆出ヘシ

第十三條　粗製樟腦、樟腦油製造者ハ每月五日、十日、十五日、二十日、二十五日及末日ニ於テ各其ノ期間内ニ於ケル腦館別製造品ノ受拂ヲ別記第六號書式ニ依リ臺灣總督府專賣局及腦館所在地ノ所轄廳ニ屆出ヘシ

第十四條　粗製樟腦、樟腦油製造者其ノ製造品ヲ納付ノ爲搬出スルトキハ別記第八號書式ノ書面ヲ添ヘテ臺灣總督府專賣局ニ納付スヘシ但シ樟腦油ニシテ基隆港ニ廻送シタルモノハ臺灣總督府專賣局基隆出張所ニ納付スヘシ

臺灣總督府專賣局ハ事務ノ都合ニ因リ前項ノ期限内特ニ納付期日ヲ指定スルヲ得ルコトアルヘシ

製造品ニ異狀ヲ生シ又ハ運搬通路ニ故障ヲ生シタルニ因リ第一項ノ期間及第二項ニ依リ指定シタル期日ニ納付ノ爲搬出シ能ハサル場合ハ卽日其ノ事由ヲ詳記シ腦館所在地ノ所轄廳ヲ經由シテ臺灣總督府專賣局ニ屆出ヘシ

第十四條　粗製樟腦、樟腦油製造者ハ豫定ノ製腦灶全數ノ製腦ニ著手スルニ至ルマテ每月末日ニ於ケル事業進行ノ現狀ヲ翌月五日限リ製腦場所ノ所轄廳ヲ經由シテ臺灣總督府專賣局ニ屆出ヘシ該屆書ニハ腦灶ノ位置、個數ヲ明記シタル圖面及其ノ腦灶別擔當腦長、腦首ノ氏名竝各腦灶ニ配置シタル腦丁ノ員數表ヲ添附スルヲ要ス

第三條　粗製樟腦、樟腦油製造者ハ每年二月限リ其ノ翌年度ノ生產見込量目ヲ別記第三號書式ニ依リ製腦場所ノ所轄廳ヲ經由シテ臺灣總督府專賣局ニ願出認可ヲ受クヘシ

第四條　粗製樟腦、樟腦油製造者ハ左ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ詳記シタル願書ヲ製腦場所ノ所轄廳ニ差出スヘシ

一　製腦著手期限ヲ變更セムトスルトキ

二　腦灶ノ位置ヲ變更セムトスルトキ

式ノ盜狀ヲ現品ニ添附シ又其ノ搬出ヲ終リタルトキハ即時別記第九號書式ニ依リ臺灣總督府專賣局及其ノ搬出ヲ爲シタル腦館所在地ノ所轄廳ニ屆出ヘシ

前項ノ製造品ニハ各容器ニ製造者ノ氏名若ハ名稱ヲ記載スヘシ

第十五條　粗製樟腦、樟腦油製造者ハ製造品運搬中ニ異狀アリタルトキハ即時其ノ順末ヲ臺灣總督府專賣局及之ヲ搬出シタル腦館所在地ノ所轄廳、事件ノ發生シタル土地ノ所轄廳ニ屆出ヘシ

第十六條　粗製樟腦、樟腦油製造者其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ別記第十號書式ニ依リ製腦場所ノ所轄廳ヲ經由シテ臺灣總督府專賣局ニ願出ヘシ

第十七條　粗製樟腦、樟腦油專賣法第九條ニ依リ粗製樟腦、樟腦油ノ製造ヲ制限スルノ必要アリト認メタルトキハ臺灣總督府專賣局ハ製造許可量目ヲ更訂シ尙必要ノ場合ニ於テハ竈灶數ヲ更訂シテ製造者ニ通知スヘシ

第十八條　粗製樟腦、樟腦油製造者ハ左ノ場合ニ於テハ所轄廳ノ指定シタル期限內ニ其ノ竈灶ヲ撤去スヘシ但シ指定期限內ニ之ヲ撤去スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ所轄廳ニ願出ヘシ

一　製造廢止ノトキ

二　製造許可ヲ取消サレタルトキ

三　竈灶更訂ノ通知ニ依リ減灶ヲ要スルトキ

地方廳ニ於テ前項ノ願書ヲ受ケタルトキハ審査ノ上之カ處分ヲ爲シ又竈灶撤去ヲ終了シタルトキハ之ヲ臺灣總督府專賣局長ニ報告スヘシ

第十九條　粗製樟腦、樟腦油專賣法第十二條ニ依リ檢査又ハ監督上必要ナル處分ヲ爲ス官吏ニシテ專賣官吏、警察官吏以外ノ者ハ左記ノ證票ヲ携帶スヘシ

用紙厚質白紙　縱三寸八分　橫一寸八分

表

官　氏　名

樟腦、樟腦油檢査官吏之證

州（廳）印

裏

第　號

年　月　日交付

第二十條　地方廳ニ於テ第四條及第十八條規定以外ノ願出ヲ受ケタルトキハ之ニ對スル意見ヲ附シ又第十二條、第十四條及第十五條規定以外ノ屆出ヲ受ケタルトキハ之ニ對スル檢査ノ結果ヲ記シテ臺灣總督府專賣局長ニ送付スヘシ

第二十一條　第四條第一項ニ違背シテ竈灶ノ位置ヲ變更シ若ハ十日以上ニ亙リ竈灶ノ一部若ハ全部ノ休業ヲ繼續シタル者、第九條第一項第三號ノ屆出ヲ怠リタル者又ハ第十條ニ違背シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條、第八條、第九條第一項第一號及第二號、第十二條、第十三條第三項、第十五條ノ屆出ヲ怠リ又ハ第十四條、第十八條第一項ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附　則

本令ハ明治三十八年八月十五日ヨリ之ヲ施行ス

粗製樟腦、樟腦油製造ノ許可ヲ受ケ本令施行ノ際現ニ製腦ニ從事スル者ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

（別記）

第一號書式

（備考）　圖面ニハ區域內ノ各字及地勢區域隣接地ノ概要ヲ描クヲ要ス

粗製樟腦樟腦油製造許可願

何廳何堡（里）何山林（番地）別紙圖面ノ場所ニ於テ製腦致度御許可ノ上ハ粗製樟腦樟腦油專賣法同施行細則其他製腦ニ關スル諸規則及命令等遵守可致別紙設計書及圖面添附此段奉願候也

年　月　日

原籍
住所　氏　名印

臺灣總督府專賣局長宛

第二號書式

製腦設計書

一　生產見込量目　本年度

月次	製腦地名	生產見込高						摘要
		何月			何月			
		何	何	計	何	何	計	
	樟腦							
	樟腦油							

二　腦灶數　何個

此配置

何山（何溪）（何坑）　何灶

何山（何溪）（何坑）　何灶

三　腦灶種類

何山（何溪）（何坑）何灶ノ內何灶（全部）ハ何式ニシテ（一）鍋ノ徑何尺何寸（二）甑ノ高サ何尺何寸口徑何尺何寸底徑何尺何寸（三）冷却器何個組合セ何灶ハ何式ニシテ（一）鍋ノ徑何尺何寸口徑何尺何寸底徑何尺何寸（二）甑ノ高サ何尺何寸口徑何尺何寸底徑何尺何寸（三）冷却器何個組合セ

何山（何溪）（何坑）何灶ノ內何灶（全部）ハ何式ニシテ（一）鍋ノ徑何尺何寸（二）甑ノ高サ何尺何寸口徑何尺何寸底徑何尺何寸（三）冷却器何個組合セ何灶，何式ニシテ（一）鍋ノ徑何尺何寸（二）甑ノ高サ何尺何寸口徑何尺何寸底徑何尺何寸（三）冷却器何個組合セ

四　製腦著手期限

何山（何溪）（何坑）ノ何灶ハ許可ヲ受ケタル日ヨリ何日以內ニ何灶ハ其後何日以內ニ何灶ハ其後何日以內ニ執レモ築成開竈ス

何山（何溪）（何坑）ノ內何灶ハ許可ヲ受ケタル日ヨリ何日以內ニ何灶ハ其後何日以內ニ何灶ハ其後何日以內ニ執レモ築成開竈ス

五　傭人數

腦長　〔內地人本島人〕何人

股首　〔內地人本島人〕何人

常傭運搬夫　何人

六　腦丁傭入

許可ヲ受ケタル日ヨリ何日以內ニ何人〔內地人本島人ノ內譯ヲ要ス以下同シ〕其ノ後何日以內ニ何人其後何日以內ニ何人ヲ傭入ル

右之通ニ候也

年　月　日

原籍
住所　氏　名印

臺灣總督府專賣局長宛

第三號書式

（備考）　生產ニ對スル計算ノ基礎ヲ摘要欄ニ詳設スルヲ要ス

【明治】何年度粗製樟腦樟腦油生產見込量目認可願

右生產見込量目御認可被成下度此段奉願候也

年　月　日

臺灣總督府專賣局長宛

製腦業者　氏　名印

第四號書式

備　考

使用灶數欄ニハ完成使用中ノ腦灶數，腦揭灶數欄ニハ其ノ月ニ於テ腦揭ヲ爲シタル腦灶數、生產高欄ニハ腦館ニ受入レタル數量但シ計及合計ノ欄ニハ秤量增及雜入ヲ朱書併記スルヲ要ス

作業腦丁員數欄ニハ其ノ月內ニ於テ腦揭セシ腦灶ノ作業ニ從事シタル腦丁ノ員數ヲ記載スルヲ要ス

大正　年　月中製腦成績屆

月次	製腦地名	生產見込高						摘要
		何月			何月			
		何	何	計	何	何	計	
	樟腦							
	樟腦油							

右生產見込量目御認可被成下度此段奉願候也

年　月　日

臺灣總督府專賣局長宛

製腦業者　氏　名印

第五號書式

備　考

他ノ腦館ヨリ受入レサル舊所ニハ甲號ヲ備フルヲ要セス

製腦地一字ニ止マルモノハ丙號ヲ備フルヲ要セス

直接專賣局ヘ向ケ撤出セサル腦館ハ丁號ヲ備フルヲ要セス

製腦事業經過簿

（甲號）　何年度

月日	受高			拂高			殘高	摘要
	前日殘高	受入高	雜入	計	拂出高	貯藏減	計	
月日								
月日								
合計								
累計								

（乙號）　何年度

月日	受高 前日殘高	受入高 秤量增	秤量增 入計	拂 拂出高	拂 貯藏減	拂 計	殘高	摘要
月日								
月日								
合計								
累計								

（丙號）　何年度

月日	樟腦 受入高 秤量增	樟腦 計	樟腦 摘要	樟腦油 受入高 秤量增	樟腦油 計	樟腦油 摘要
月日						
月日						
合計						
累計						

（丁號）　何年度

月日	樟腦 搬出高	樟腦 納付高 上中下	樟腦 計	樟腦 增減	樟腦油 搬出高	樟腦油 納付高	樟腦油 增減	摘要
月日								
月日								
合計								
累計								

記載例

一　甲號經過簿ハ他ノ腦館ヨリ受入レ及拂出ヲ爲シタルモノヲ記載スルヲ要ス

二　乙號經過簿ハ直接山許ヨリ受入レ及拂出シタルモノヲ總括記載スルヲ要ス

三　丙號經過簿ハ生産地ノ字名別ニ之ヲ設ケ其ノ受入高ヲ記載スルヲ要ス

四　丁號經過簿ハ專賣局ヘ搬出及納付ノ數量ヲ記載スルヲ要ス

五　甲號乙號經過簿ニハ樟腦ト樟腦油トノ口座ヲ設ケ各別ニ記載スルヲ要ス

六　一腦館ニシテ生産品ヲ腦長、製首又ハ腦丁及他ノ腦館ヨリ受入ルル箇所ハ甲號及乙號經過簿ヲ備ヘ乙號經過簿ノ受入合計ヲ甲號經過簿ニ拂出シ甲號經過簿ニ受入ルルモノトス

七　乙號、丙號經過簿ノ秤量增欄ニハ生産品ヲ受入ルルニ當リ水引又ハ增目ト稱シテ受入ルル增收量ヲ記載スルヲ要ス

八　甲號經過簿ニハ其ノ受入高ノ腦館名、乙號經過簿ニハ其ノ受入高ノ製腦地名、丙號經過簿ニハ其ノ受入高ノ腦寮番號ヲ摘要欄ニ記載スルヲ要ス

九　甲號、乙號經過簿ノ繰入欄ニハ樟腦油ヨリ變生シタルモノ等ヲ樟腦油ハ樟腦貯藏中油分脫離ノ爲ニ生シタルモノヲ執モ搬出ノ都度及毎月末日ニ於テ計上記載シ且ツ摘要欄ニハ（自何日至何日變生又ハ滴出）等ト記入スルヲ要ス

十　甲號、乙號經過簿ニ搬出高ヲ記載シタルトキハ其ノ搬出先（專賣局又ハ何腦館ヘ向ケ搬出）ヲ摘要欄ニ記載スルヲ要ス

十一　甲號、乙號經過簿ノ貯藏減ハ搬出ノ都度又ハ毎月末日ニ於テ計上記載スルヲ要ス

十二　丁號經過簿ノ增減ハ搬出高ト納付高トヲ對照シ其ノ增減數量ヲ記載スルヲ要ス

十三　甲號、乙號經過簿ハ合計前日殘高欄ニハ前月末殘高ヲ記入スルヲ要ス

十四　毎月合計ハ朱書シ各月累計ハ其ノ次行ニ墨書スルヲ要ス

第六號書式

（備考）本屬書ハ郵便編書ヲ使用スルモ差支ナシ

【明治】何年何月自何日至何日何腦館受拂屬

右及御屆候也

年月日

臺灣總督府專賣局（何廳）宛

製腦業者　氏　名印

第七號書式

粗製樟腦樟腦油納付書

一粗製樟腦　何斤
一樟腦油　何斤

此補償金何程
此補償金何程

種別	量目	補償金 單價	補償金 小計

樟腦	上等	中等	下等
計			
樟腦油			

右及納付候也

年月日

臺灣總督府專賣局長（基隆出張所主任）宛

製腦業者　氏　名印

第八號書式

（備考）基隆港揚樟腦油ニ對シテハ專賣局基隆出張所宛ニテ發行スルヲ要ス

第　號　樟腦樟腦油搬出竝狀

種別	量目	個數	運搬通路	搬出場所	貯藏期間	摘要
樟腦				自何月何日至何月何日	自何月何日至何月何日	
樟腦油				自何月何日至何月何日	自何月何日至何月何日	

右納付ノ爲本日搬出候也

【明治】年月日

臺灣總督府專賣局（何廳）御中

製腦業者　氏　名印

第九號書式

（備考）本屬書ハ郵便編書ヲ使用スルモ差支ナシ

第　號　樟腦樟腦油搬出屬

種別	量目	個數	運搬通路	搬出場所	貯藏期間	摘要
樟腦				自何月何日至何月何日	自何月何日至何月何日	
樟腦油				自何月何日至何月何日	自何月何日至何月何日	

右納付ノ爲本日搬出候也

【明治】年月日

臺灣總督府專賣局（基隆出張所）御中

製腦業者　氏　名印

第十號書式

粗製樟腦樟腦油製造廢止願

何廳何係（里）何庄何山林（番地）ニ於テ製腦ノ儀明治何年何月何日附指令第何號ヲ以テ御許可相成（製腦場所擴張ノ許可ヲ受ケタル者ハ「及何年何月何日附指令第何號ヲ以テ製腦場所擴張ノ御許可相成」ヲ入ルルコト）粗製樟腦何斤樟腦油何斤（前年度ヨリ引續キ製造セシモノハ「粗製樟腦」ノ上ニ「本年度モ」ヲ入ルルコト）製造仕候處何何（廢止ノ事由ヲ詳記スルコトス）

第十一號書式

相續ニ因リ製造ヲ承繼シタルトキハ其ノ旨政府ニ屆出ツヘシ

相續ニ因ルノ外製造ノ承繼セムトスルトキハ政府ノ許可ヲ受クヘシ

第十二條　製造者製造ヲ廢止セムトスルトキハ少クトモ一箇月前ニ政府ニ申告スヘシ但シ政府ノ許可ヲ受ケテ製造ヲ廢止スルハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　製造者本法又ハ本法ニ基キテ發スルル命令ニ違背シタルトキハ政府ハ製造ヲ停止シ又ハ製造ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十四條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ノ檢査ヲ受ケシムルコトヲ要ス

第十五條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第十六條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第十七條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第十八條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第十九條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第二十條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第二十一條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第二十二條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第二十三條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第二十四條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第二十五條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第二十六條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第二十七條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第二十八條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第二十九條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第三十條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第三十一條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第三十二條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第三十三條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第三十四條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第三十五條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第三十六條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第三十七條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第三十八條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第三十九條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第四十條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第四十一條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第四十二條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第四十三條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第四十四條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第四十五條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第四十六條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第四十七條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第四十八條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第四十九條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第五十條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第五十一條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第五十二條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第五十三條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第五十四條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第五十五條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第五十六條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第五十七條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第五十八條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第五十九條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第六十條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第六十一條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第六十二條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第六十三條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第六十四條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第六十五條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第六十六條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第六十七條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第六十八條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第六十九條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第七十條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第七十一條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第七十二條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第七十三條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第七十四條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第七十五條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第七十六條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第七十七條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第七十八條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第七十九條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第八十條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第八十一條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第八十二條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第八十三條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第八十四條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第八十五條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第八十六條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第八十七條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第八十八條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第八十九條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第九十條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第九十一條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第九十二條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第九十三條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第九十四條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第九十五條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第九十六條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第九十七條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第九十八條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第九十九條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第百條　製造者ハ製造ノ狀況ニ關シ政府ニ報告スヘシ

第十九條　左ニ揭ケル場合ニ於テハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ特ニ定メタル價格ヲ以テ鹽ノ賣渡ヲ爲スコトヲ得

一　外國ニ輸出シ又ハ本法ヲ施行セサル地ニ移出スル爲賣渡ヲ請求スル者アリタルトキ

二　命令ヲ以テ指定スル用途ニ使用スル爲賣渡ヲ請求スル者アリタルトキ

三　前各號ノ外特ニ命令ヲ以テ定メタル場合ニ該當スルトキ

前條又ハ前項第三號ニ依リ賣渡シタル鹽ニシテ外國ニ輸出シ、本法ヲ施行セサル地ニ移出シ又ハ命令ノ定ムル用途ニ使用セラレタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ交付金ヲ下付ス

第二十條　政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ鹽賣捌人ノ販賣スル鹽ノ價格ヲ制限スルコトヲ得

第二十一條　鹽賣捌人ハ鹽ニ他物ヲ混和シテ販賣スルコトヲ得ス

第二十二條　鹽製造者及鹽賣捌人ハ帳簿ヲ調製シ政府ノ指示ニ從ヒ營業ニ關スル要件ヲ記載スヘシ

第二十三條　當該官吏ハ採鹹地、製鹽場、貯藏場其ノ他鹽ノ所在ト認ムル場所ニ立入リ鹹水、鹽、器具、器械、建築物又ハ帳簿書類ヲ檢査スルコトヲ得

當該官吏監督上必要ト認ムルトキハ前項ノ物件ニ封印ヲ施スコトヲ得

第二十四條　當該官吏ハ運搬中ニ在ル鹽ヲ檢査シ其ノ出所及到着先ヲ質問スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ當該官吏監督上必要ト認メタルトキハ其ノ運搬ヲ停止シ又ハ荷物若ハ船車ニ封印ヲ施スコトヲ得

第二十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル鹽ノ現在スル間ハ仍本法ノ規定ヲ適用ス

一　第三條、第四條又ハ第五條ニ違反シタル者

二　許可ヲ受ケサル土地ニ於テ鹽ヲ製造シタル者

三　情ヲ知リテ政府ヨリ賣渡ササル鹽ヲ讓受ケタル者

第二十六條　鹽製造者正當ノ事由ナクシテ政府ノ指定シタル若ニ引渡ヲ爲ササルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス政府ノ指定シタル運搬通路ニ依ラスシテ鹽ヲ運搬シタルトキ亦同シ

第二十七條　鹽製造者政府ノ定メタル製造期間外ニ於テ鹽ヲ製造シ又ハ政府ノ許可シタル場所以外ニ於テ鹽ヲ製造シ若ハ貯藏シタルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル鹽ハ之ヲ沒收ス情ヲ知リテ其ノ場所ヲ供與シタル者亦同シ

第二十八條　前條ニ該當スル場合ヲ除クノ外鹽製造者許可ヲ受クシテ第九條ニ依リ許可ヲ受ケタル事項ヲ變更シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條　第十條ニ違反シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條　第十一條又ハ第十二條ニ違反シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條ノ二　鹽賣捌人第二十條【ノ二】ノ制限ヲ超エテ鹽ヲ販賣シタルトキハ五圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條ノ三　鹽賣捌人ニ非スシテ鹽ヲ販賣シ又ハ販賣ノ準備ヲ爲シタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル鹽ハ之ヲ沒收ス

第三十一條　鹽賣捌人第二十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ犯罪ニ係ル物件ハ之ヲ沒收ス

第三十二條　鹽製造者又ハ鹽賣捌人其ノ營業ニ關スル帳簿ヲ調製セス又ハ其ノ記載ヲ怠リ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十三條　當該官吏ハ採鹹地、製鹽場、貯藏場其ノ他鹽ノ所在ト認ムル場所ニ立入リ鹹水、鹽、器具、器械、建築物又ハ帳簿書類ヲ檢査スルコトヲ得

當該官吏監督上必要ト認ムルトキハ前項ノ物件ニ封印ヲ施スコトヲ得

第二十四條　當該官吏ハ運搬中ニ在ル鹽ヲ檢査シ其ノ出所及到着先ヲ質問スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ當該官吏監督上必要ト認メタルトキハ其ノ運搬ヲ停止シ又ハ荷物若ハ船車ニ封印ヲ施スコトヲ得

第二十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル鹽ハ之ヲ沒收ス

一　第三條、第四條又ハ第五條ニ違反シタル者

二　許可ヲ受ケサル土地ニ於テ鹽ヲ製造シタル者

三　情ヲ知リテ政府ヨリ賣渡ササル鹽ヲ讓受ケタル者

第二十六條　鹽製造者正當ノ事由ナクシテ政府ノ指定シタル若ニ引渡ヲ爲ササルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス政府ノ指定シタル運搬通路ニ依ラスシテ鹽ヲ運搬シタルトキ亦同シ

第二十七條　鹽製造者政府ノ定メタル製造期間外ニ於テ鹽ヲ製造シ又ハ政府ノ許可シタル場所以外ニ於テ鹽ヲ製造シ若ハ貯藏シタルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル鹽ハ之ヲ沒收ス情ヲ知リテ其ノ場所ヲ供與シタル者亦同シ

第二十八條　前條ニ該當スル場合ヲ除クノ外鹽製造者許可ヲ受クシテ第九條ニ依リ許可ヲ受ケタル事項ヲ變更シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條　第十條ニ違反シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條　第十一條又ハ第十二條ニ違反シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條ノ二　鹽賣捌人第二十條【ノ二】ノ制限ヲ超エテ鹽ヲ販賣シタルトキハ五圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條ノ三　鹽賣捌人ニ非スシテ鹽ヲ販賣シ又ハ販賣ノ準備ヲ爲シタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル鹽ハ之ヲ沒收ス

第三十一條　鹽賣捌人第二十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ犯罪ニ係ル物件ハ之ヲ沒收ス

第三十二條　鹽製造者及

サゞムヘシ但シ第十三條第二項ノ場合ニ於テ地方專賣局長ノ指定シタル者カ引取ヲ承諾シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十九條　鹽製造者鹽ヲ納付シタルトキハ地方專賣局ハ其ノ品質ヲ鑑定ノ相當ト認メタル證票ヲ交付ス

第二十條　鹽製造者前條ノ鑑定ニ不服アルトキハ其ノ要領ヲ具シ即時再鑑定ヲ求ムルコトヲ得

再鑑定ノ申立アリタルトキハ地方專賣局長ハ二人以上ノ鑑定人ヲシテ分析鑑定ヲ爲サシメ之ヲ決定スヘシ

再鑑定決定シタルトキハ其ノ決定書ヲ作リ再鑑定申立人ニ交付スヘシ

再鑑定ノ結果ニ依ル品質ノ等級カ最初鑑定シタル等級ヨリ上進セサルトキハ再鑑定ニ關スル費用ハ申立人ノ負擔トス

第二十一條　鹽製造者災害ニ因リ納付前ノ鹽ニ損害ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ事由ヲ具シ所轄地方專賣局ニ申告スヘシ

第二十二條　鹽製造者ノ自家用ニ供スル鹽ニシテ政府ニ納付スルコトヲ要セサルモノハ一箇年一人ニ付キ二十斤以内トス但シ一家ヲ通シテ一箇年三百斤ヲ超過スルコトヲ得ス

第二十三條　鹽製造者其ノ製造シタル鹽ノ一部ヲ自家用ニ供セムトスルトキハ豫メ申告シテ專賣官吏ノ檢査ヲ受ケ政府ニ納付スヘキ鹽ト區別シテ貯藏スヘシ

第二十四條　鹽製造者政府ヨリ賣渡シタル鹽ヲ鹹水ニ混和シテ鹽ヲ製造シタルトキハ其ノ製造シタル鹽ノ全部ヲ政府ニ納付スヘシ但シ專賣官吏ノ檢査ヲ受ケ混和鹽及製造鹽ノ數量ニ付其ノ承認ヲ得タルトキハ混和鹽ノ數量ニ相當スル製造鹽ハ政府ニ納付スルコトヲ要セス

第二十五條　鹹水ノミヲ以テ鹽ヲ製造スル者政府ヨリ賣渡シタル鹽ノ再製ヲ營ムトキハ政府ヨリ賣渡シタル鹽ト之ヲ以テ製造シタル鹽及鹹水ノミヲ以テ製造シタル鹽ヲ各別ニ區分シテ貯藏スヘシ

第二十六條　政府ヨリ賣渡シタル鹽ノ再製ヲ爲スヘキ一箇月毎ニ其ノ再製シタル鹽ノ數量ヲ所轄地方專賣局ニ申告スヘシ

第二十七條乃至第三十六條　削除

第三十七條　本令ハ鹽專賣法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十一條　本令ハ鹽專賣法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十二條　鹽專賣法施行ノ際製造者ノ所有又ハ所持スル鹽ハ明治三十八年六月三十日迄ニ之ヲ鹽務局ニ納付シ又ハ鹽務局長ノ指定シタル者ニ引渡スヘシ

●鹽賣捌規則

明治四十一年四月二十九日大藏省令第二十號

改正　明治四一年第三八號、四三年　第九號、四四年第八號、四五年第一五號
大正二年第二號、第三〇號、三年第三號、五年第七號、九年第五三號、一一年第四六號、一五年第三〇號

鹽賣捌規則左ノ通相定ム

鹽賣捌規則

第一條　鹽元賣捌人ハ政府ヨリ鹽ヲ買受ケ之ヲ鹽小賣人ニ賣渡スモノトス

鹽小賣人ハ鹽元賣捌人ヨリ鹽ヲ買受ケ之ヲ消費者ニ賣渡スモノトス

鹽元賣捌人ハ他ノ元賣捌人ヨリ鹽ヲ賣買シ又ハ一回千斤以上ニ限リ直接消費者ニ鹽ヲ賣渡スコトヲ得

鹽賣捌人ハ特ニ鹽專賣官署ノ認許シタル場合ニ限リ鹽賣捌人ニ非サル者ヨリ鹽ヲ買受クルコトヲ得

第二條　鹽元賣捌人及鹽小賣人ハ必要ニ應シ五箇年以内ノ期間ヲ以テ專賣局長官之ヲ指定ス

燒鹽其ノ他特殊ノ鹽及外國ヨリ輸入シ又ハ鹽專賣法ヲ施行セサル地ヨリ移入スル鹽ニ付テハ專賣局長官ハ特ニ其ノ賣捌人ヲ指定スルコトヲ得

第三條　鹽賣捌人死亡又ハ隱居ノ場合ニ於テハ其ノ相續人ハ專賣局長官ニ申告シテ殘期間其ノ營業ヲ承繼スルコトヲ得但シ第六條ニ依リ鹽賣捌人ニ指定セラルルコトヲ得サル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ申告ハ鹽賣捌人死亡又ハ隱居ノ日ヨリ一箇月以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四條　鹽賣捌人タラムトスル者ハ第一號書式ニ據リ申請スヘシ但シ法人ニ在リテハ定款ヲ添附スルコトヲ要ス

鹽元賣捌人タル法人其ノ定款ヲ變更セムトスルトキハ專賣局長官ノ承認ヲ受クヘシ

鹽小賣人タル法人其ノ定款ヲ變更シタルトキハ其ノ旨專賣局長官ニ屆出ツヘシ

第六條　左ニ揭クル者ハ鹽元賣捌人ニ指定セラルルコトヲ得ス

一　鹽專賣法第二十五條乃至第二十七條、第二十九條、第三十條ノ二乃至第三十一條ニ依リ處罰又ハ處分ヲ受ケ二箇年ヲ經サル者

二　輕罪ノ專賣法第四十一條乃至第四十二條第四十八條乃至第五十條第五十二條第五十四條乃至第六十條ニ依リ處罰又ハ處分ヲ受ケ二箇年ヲ經サル者

三　租稅犯罰、檢煙專賣法第十五條又ハ第十六條ニ依リ處罰又ハ處分ヲ受ケ二箇年ヲ經サル者

四　身代限處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ終ヘサル者又ハ家資分散若ハ破產ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ確定スルニ至ラサル者

五　國稅滯納處分ヲ受ケ又ハ之ニ準シタル處分ヲ受ケ一箇年ヲ經サル者

六　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者若ハ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判確定スルニ至ラサル者

七　第二十一條又ハ第二十一條ノ二ニ依リ鹽賣捌人ノ指定ヲ取消サレ二箇年ヲ經サル者

前項第一號乃至第三號又ハ第七號ニ該當スル者ハ鹽小賣人ニ指定セラルルコトヲ得ス

法人ノ場合ニ於テハ第一項各號ノ事實ノ有無ハ法人、法人ノ業務ヲ執行スル者又ハ法人ヲ代表スル者ニ付之ヲ定ム

第七條　鹽元賣捌人ト鹽小賣人トハ互ニ相兼ヌルコトヲ得ス

第八條　鹽賣捌人ノ營業所ハ一人一箇所トス但シ專賣局長官ハ必要ト認ムル場合ニ於テ二箇所以上ノ營業所ノ設置ヲ許可シ又ハ命スルコトアルヘシ

第八條ノ二　鹽元賣捌人鹽貯藏所ヲ設置セムトスルトキハ第一號書式ノ二ニ依リ專賣局長官ニ申請シ其ノ許可ヲ受クヘシ

第八條ノ三　鹽賣捌人ハ他ノ鹽賣捌人ト其ノ營業所及鹽貯藏所ヲ同シクスルコトヲ得ス

第九條　鹽賣捌人ハ專賣局長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ營業所又ハ鹽貯藏所ヲ變

更スルコトヲ得ス

第十條　削除

第十一條　鹽賣捌人ハ左記ニ依リ算定シタル金額ヲ超エテ鹽ヲ販賣スルコトヲ得ス

一　鹽元賣捌人ハ政府ヨリ賣渡シタル價格ニ營業利益及營業所又ハ鹽貯藏所ニ至ル鹽運賃ヲ加ヘタルモノ

二　鹽小賣人ハ前號ニ依リ鹽元賣捌人ノ賣渡スヘキ價格ニ營業利益及營業所ニ至ル鹽運賃ヲ加ヘタルモノ

前項ノ營業利益ノ算定方法ハ專賣局長官之ヲ定メ鹽運賃ハ地方專賣局長之ヲ認定シ鹽賣捌人ニ通知ス

第十二條　削除

第十三條　鹽ノ賣渡ヲ受ケムトスル者ハ其ノ種類、等級、包裝ノ區分及數量ヲ鹽販賣官署ニ申出ツヘシ

第十四條　鹽ヲ買受クル者ハ其ノ代金納付ノ擔保トシテ國債ヲ提供シタルトキハ專賣局長官ハ三箇月以内代金ノ延納ヲ許可スルコトヲ得

外國ニ輸出シ又ハ鹽專賣法ヲ施行セサル地ニ移出スル爲鹽ヲ買受クル者其ノ代金納付ノ擔保トシテ國債ヲ提供シタルトキハ其ノ輸出又ハ移出スヘキコトヲ確認シタル場合ニ限リ專賣局長官ハ三箇月以内代金ノ延納ヲ許可スルコトヲ得

常時鹽ノ買受ヲ爲ス者代金納付ノ擔保トシテ國債ヲ提供シ置クトキハ專賣局長官其ノ價額ニ塗スル迄代金ノ延納ヲ許可スルコトヲ得

前三項ニ依リ延納ヲ許可スルハ其ノ一回ノ買受代金三百圓以上ノ場合ニ限ル但シ鹽專賣法第十四條第二項ニ依ル指定引渡ノ場合及鹽販賣官署所左地外ニ於ケル問屋鹽引渡ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

代金納付ノ擔保ヲ提供スル者ハ無記名國債證券ノ提供ニ在リテハ之ヲ供託シ其ノ供託ノ提供ニ在リテハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄済通知書ヲ提出シ又ハ登錄國債ニシテ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノハ倘記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託物受入ノ記載アル供託書ヲ提出スヘシ

第十五條　削除

第十六條　鹽ノ賣渡請求者其ノ賣渡ヲ受クタルトキハ直ニ代金ヲ納付シ又ハ擔保物ヲ提供シ現品ヲ引取ルヘシ若シ五日以内ニ之ヲ引取ラサルトキハ相當保管料ヲ徵又但シ鹽販賣官署ニ於テ契約ヲ解除シタルトキハ此限ニ在ラス

鹽販賣官署所在地以外ニ於テ鹽ヲ賣渡シタルトキハ買受人ハ直ニ現品ヲ引取ルヘシ

第十六條ノ二　鹽ヲ買受クル者其ノ代金納付期日迄ニ之ヲ納付セサルトキハ年六分ノ割合ヲ以テ遲延利息ヲ徵スルコトアルヘシ

第十七條　鹽元賣捌人ハ第四號及第五號書式ノ帳簿ヲ調製シ鹽ノ受拂ヲ明確ニ記載スヘシ

鹽小賣人ハ帳簿ヲ調製シ鹽ヲ買受クタルトキハ其ノ買受先、買受年月日竝其ノ種類、等級、包裝ノ區分、數量、代金及運賃ヲ記載スヘシ

第十八條　鹽賣捌人ハ營業所ノ見易キ場所ニ其ノ販賣スル鹽ノ價格表及第七號標形ニ據ル標札ヲ揭クヘシ

第十八條ノ二　鹽元賣捌人鹽貯藏所ヲ設置シタルトキハ其ノ見易キ場所ニ氏名及鹽貯藏所タルコトヲ明記シタル標札ヲ揭クヘシ

第十八條ノ三　地方專賣局長ハ鹽賣捌人ノ店舖ノ設備、鹽保存ノ方法、店舖ニ備ヘ置クヘキ鹽ノ種類、等級、包裝ノ區分、數量及其ノ供給方ニ付指示スルコトヲ得

第十九條　削除

第二十條　鹽元賣捌人ニシテ其ノ營業ヲ廢止セムトスルトキハ廢業ノ日ヨリ三十日以前ニ其ノ旨ヲ專賣局長官ニ申告スヘシ二箇所以上ノ營業所又ハ一箇所以上ノ鹽貯藏所ヲ有スル鹽元賣捌人其ノ一箇所又ハ數箇所ヲ廢止セムトスルトキ亦同シ

前項ノ期間ヲ經過セスシテ其ノ營業又ハ營業所若クハ鹽貯藏所ヲ廢止セムトスルトキハ專賣局長官ノ許可ヲ受クヘシ

鹽小賣人ニシテ其ノ營業ヲ廢止セムトスルトキハ豫メ其ノ旨ヲ專賣局長官ニ申告スヘシ但シ本令中鹽賣捌人ノ指定及其ノ申請ニ關スル規定ハ本令發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（第一號書式）

鹽元賣捌人（又ハ鹽小賣人）指定申請書

一　現在營業ノ種類
　何々業
一　鹽賣捌營業所竝定位置
　本店　府縣　郡市　町村　字　番地
　支店　府縣　郡市　町村　字　番地
前記營業所ニ於テ鹽元賣捌人（又ハ鹽小賣人）ニ指定相成度申請候也

住所
氏名　生年月日

年　月　日

專賣局長官宛

備考

一　會社又ハ組合ノ指定申請ニ付テハ氏名ノ箇所ニ會社名又ハ組合名ヲ記載シ代表者之ニ署名捺印シ且定款ヲ添附スヘシ

二　無能力者ノ指定申請ニ付テハ法定代理人之ニ連署捺印スヘシ

（第一號書式ノ二）

鹽貯藏所設置許可申請書

一設置スヘキ位置

前記ノ場所ニ鹽貯藏所設置致度候ニ付許可相成度申請候也

年　月　日

住　所
鹽元賣捌人　氏　名㊞
生年月日

專賣局長官宛

備考

一　設置ノ場所ハ詳細ニ記述シ記述ノ足ラサル所ハ地圖ヲ添附スヘシ

二　無能力者ノ申請ニ付テハ法定代理人之ニ連署捺印スヘシ

（第二號書式）（第三號書式）　削除

（第四號書式）

鹽買受帳

月日	全數量	單價（一包裝ノ價格）	全價格	運賃（百斤當）	買受先
月日					
月日					
月計					
累計					
本月賣渡高					
翌月越高					

備考

一、本帳ハ鹽ノ種類、等級、包裝別ニ口座ヲ設クヘシ

二、本帳ニハ每月月計ヲ付シ二箇月目ヨリ累計ヲ付スヘシ

但鹽賣渡帳ノ月計ト對比シ其ノ越高ヲ記入スヘシ

三、本帳ハ營業所一箇所每ニ調製整理スヘシ

四、本帳ハ便宜横式ト爲スコトヲ妨ケス

（第五號書式）

鹽賣渡帳

月日	全數量	單價（一包裝ノ價格）	全價格	運賃（百斤當）	賣渡先
月日					
月日					
月計					
累計					

備考

一、本帳ハ鹽ノ種類、等級、包裝每ニ口座ヲ設クヘシ

二、補助簿其ノ他ノ方法ニ依リ賣渡先別ニ其ノ量目代金ヲ計算シ賣渡先欄ヲ省略スルコトヲ得

三、本帳ハ每月月計ヲ付シ二箇月目ヨリハ累計ヲ付スヘシ

四、本帳ハ營業所一箇所每ニ調製整理スヘシ

五、本帳ハ便宜横式ト爲スコトヲ妨ケス

六、本帳ハ便宜買受帳ト併合シ差引現在高欄ヲ設クルコトヲ妨ケス

（第六號書式）　削除

（第七號雛形）

○鹽元賣捌所（又ハ鹽小賣所）

鹽元賣捌人（又ハ鹽小賣人）何　某本店（又ハ何々支店）

●特別用鹽規則

大正五年八月八日　勅令第百九十七號

改正　大正七年第二〇號、第四〇二號

第一條　鹽專賣法第十九條第一項第二號ノ規定ニ依リ特別定價ヲ以テ賣渡スコトヲ得ル鹽ハ左ノ用途ニ使用スルモノニ限ル

一　化學的藥品、人造色素製造用

二　石鹸製造用

三　獸皮保存用

四　鑛業、製鋼用

五　窯業用

六　肥料、選種、家畜用

七　鮭、鱒、鰯、鯨、鹽鮭、鹽鱒用

前項第一號ニ掲ク化學的藥品ノ種類ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二條　鹽專賣法第十九條第一項第三號ノ規定ニ依リ特別定價ヲ以テ鹽ノ賣渡ヲ爲スハ左ノ場合ニ限ル

一　鹽賣捌人ニ非サル者一回ニ付一萬斤以上鹽ノ賣渡ヲ請求シタルトキ

二　鹽元賣捌人カ大藏大臣ノ定ムル制限價格以內ニ於テ鹽ノ販賣ヲ爲サル場合ニ鹽小賣人カ鹽ノ賣渡ヲ請求シタルトキ

第三條　外國ニ輸出スル爲又ハ第一條第一項第七號ノ用途ニ使用スル爲特別定價ニ依ル鹽ノ賣渡ヲ請求スルコトヲ得ル者ハ輸出者又ハ第一條第一項第七號ノ用途ニ使用スル漁獲者ニ限ル

生鮮ナル鮭、鱒、鰯、鯨又ハ鹽鮭、鹽鱒ヲ鹽藏スル者ハ之ヲ漁獲者ト看做ス

第四條　外國ニ輸出シ又ハ第一條第一項第一號若ハ第七號ノ用途ニ使用スル鹽ニ付テハ專賣官署ハ賣渡請求數量ニ依リ賣渡請求者チシテ其ノ定價ト鹽專賣法第十八條第一項ノ規定ニ依ル賣渡定價トノ差額ノ全部又ハ一部ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第五條　第一條第一項第一號乃至第六號ノ用途ニ使用スル爲賣渡シタル鹽ニ付テハ專賣官署ハ其ノ用途ニ從ヒ買受人ノ費用ヲ以テ鹽ノ變性ヲ施スヘシ但シ第一條第一項第一號ノ用途ニ使用スル爲賣渡シタル鹽ニ付擔保ヲ提供セシメタルトキハ變性ヲ施ササルコトヲ得

第六條　第二條又ハ鹽專賣法第十八條第一項ノ規定ニ依リ賣渡シタル鹽ヲ左ノ目的ニ供シタル者ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ交付金ノ下付ヲ專賣官署ニ請求スルコトヲ得

一　外國ニ輸出シタルトキ

二　第一條第一項第一號乃至第五號ノ用途ニ使用シタルトキ但シ專賣官署カ使用者ノ申請ニ因リ前條ノ規定ニ準シ鹽ノ變性ヲ施シタルトキハ其ノ用途ニ使用シタルモノト看做ス

三　第一條第一項第七號ノ用途ニ使用シタルトキ

四　其ノ鹽ヲ以テ鹽藏シタル鰯、鯖、鰮、乾鮭又ハ乾鮹ヲ外國ニ輸出シ又ハ鹽專賣法ヲ施行セサル地ニ移出シタルトキ

五　其ノ鹽ヲ以テ製成シタル醬油ヲ輸出シタルトキ

前項第一號又ハ第二號ノ場合ニ於ケル交付金額ハ鹽專賣法第十八條第一項ノ規定ニ依ル鹽ノ賣渡定價ヨリ賠償價格、購買價格又ハ生產費ヲ控除シタル金額ノ範圍內ニ於テ大藏大臣之ヲ定ム但シ內地鹽ニ付テハ大藏大臣ノ適當ト認ムル標準鹽ニ依リ之ヲ定ムルコトヲ得

第一項第三號乃至第五號ノ場合ニ於ケル交付金額ハ使用鹽ノ數量ニ依リ前項ノ規定ニ準シ大藏大臣之ヲ定ム

前項使用鹽ノ數量ノ計算標準ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ル

第七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ專賣官署ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ追徵金ヲ徵收ス

一　外國ニ輸出スル爲若ハ第一條第一項ノ用途ニ使用スル爲賣渡シタル鹽又ハ前條第一項第二號乃至第六號ノ用途ニ使用スル爲賣渡シタル鹽ニ付其ノ目的ヲ變更シタルトキ

二　外國ニ輸出スル爲又ハ第一條第一項第一號若ハ第七號ノ用途ニ使用スル爲賣渡シタル鹽ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ提出スヘキ書類ヲ期間內ニ提出セサルトキ

三　外國ニ輸出スル爲又ハ第一條第一項第一號若ハ第七號ノ用途ニ使用スル爲賣渡シタル鹽ヲ命令ノ定ムル所ニ依リ檢查ヲ受ケサルトキ

四　前條第四號又ハ第五號ノ規定ニ依リ交付金ノ下付ヲ受ケタル鹽藏魚介類ヲ輸入若ハ移入シ又ハ製成醬油ヲ輸入シタルトキ

五　虛僞ノ書類又ハ陳述ニ因リ交付金ノ下付ヲ受ケタルトキ

六　命令ノ定ムル所ニ依リ鹽ノ賣渡請求又ハ輸出申告ノ爲提出スヘキ書類ニ記載シタル輸出港、輸出先、使用場所、使用方法、漁獲物ノ種類、出漁船、鹽積載船、寄港地又ハ鹽ノ運搬方法ヲ變更シタルトキ

前項ノ追徵金額ハ第一條第一項又ハ鹽專賣法第十九條第一項第一號ノ規定ニ依リ賣渡シタル鹽ニ付テハ賣渡當時ノ數量ニ依リ其ノ定價ト鹽專賣法第十八條第一項ノ規定ニ依ル賣渡定價トノ差額及其ノ五分ノ二、前條第一項ノ規定ニ依リ交付金ノ下付ヲ受ケタル鹽ニ付テハ交付金額及其ノ五分ノ二ニ相當スル金額ノ範圍內ニ於テ大藏大臣之ヲ定ム

第八條　前條ノ追徵金ニ關シテハ國稅徵收法及國稅徵收法施行規則ヲ準用ス

第九條　鹽專賣法ヲ施行セサル地ニ移出スル鹽ノ特別定價賣渡及交付金下付ニ付テハ本令中外國輸出鹽ニ關スル規定ヲ、鹽專賣法施行セサル地ニ移出スル第六條第一項第四號ノ鹽藏魚介類ノ交付金下付ニ付テハ本令中外國輸出鹽藏魚介類ニ關スル規定ヲ準用ス

第十條　第一條第一項第一號若ハ第七號又ハ第六條第一項第三號若ハ第四號ノ用途ニ使用スル爲賣渡シタル鹽ニ付テハ專賣官署ハ其ノ用途ニ從ヒ專賣官署ノ檢查ヲ受ケヘシ但シ專賣官署ノ檢查ヲ受ケサル場合ニ於テハ稅務署、營業官署又ハ專賣局長官ノ適當ト認ムル官公衙ノ檢查ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

附則

本令ハ大正五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

專賣鹽特別定價賣渡及交付金下付規則ハ之ヲ廢止ス

本令施行前交付金ノ下付ヲ受クヘキ事由又ハ追徵金ヲ徵收スヘキ事由ヲ生シタルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

●特別用鹽規則施行細則

大正五年八月八日　大藏省令第十九號

改正　大正七年第七號、第四五號、九年第二六號、第五四號、一〇年第一三號、一一年第四九號

昭和二年第三號

特別用鹽規則施行細則左ノ通相定ム

第一條　特別用鹽規則施行細則第一條第一項第一號ノ規定ニ於テ化學的藥品ト稱スルハ鹽酸、炭酸曹達、重炭酸曹達、苛性曹達、硫酸曹達、クロール、次亞クロール酸曹達、クロール酸曹達、クロール亞鉛、昇汞、ニトロベンツオール、ニトロトルオール、ニトラニリン、アニリン、スルフオン酸、炭化珪素、ヒドロ亞硫酸鹽ヲ謂フ

第二條　外國ニ輸出スル爲又ハ特別用鹽規則第一條第一項第一號若ハ第七號ノ用途ニ使用スル爲鹽ノ賣渡ヲ受ケムトスル者ハ鹽ノ種類、等級、數量、目的ヲ記載シタル賣渡請求書ヲ專賣官署ニ提出スヘシ但シ外國ニ輸出スルモノニ在リテハ輸出港及輸出先、特別用鹽規則第一條第一項第一號ノ用途ニ使用スルモノニ在リテハ使用場所及使用方法、同規則第一條第一項第二號乃至第六號ノ用途ニ使用スルモノニ在リテハ使用場所、漁獲物ノ種類、出漁船名、鹽積載船名、寄港地名及鹽ノ運搬方法ヲモ記載スヘシ

第三條　特別用鹽規則第四條ノ規定ニ依リ提供スヘキ擔保物ハ國債トス

無記名國債證券ヲ擔保トシテ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ專賣官署ニ

●特別用鹽規則

大正五年八月八日　勅令第百九十七號

改正　大正七年第二〇號、第四〇二號

鹽賣渡帳

鹽買受帳

鹽賣捌所

特別用鹽規則施行細則

大正五年八月八日　大藏省令第十九號

改正　大正七年第七號、第四五號、九年第二六號、第五四號、一〇年第一三號、一一年第四九號

昭和二年第三號

提出スヘシ

登錄國債ヲ擔保トシテ提供スルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ專賣官署ニ提出スヘシ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ倘記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ

第四條　前條ニ依リ提供シタル擔保ハ其ノ鹽ヲ外國ニ輸出シ若ハ化學的藥品製造用、漁獲物鹽藏用ニ供シタルコトヲ證明セラレタルトキ又ハ其ノ不足額ニ對スル追徵金ヲ納付シタルトキ之ヲ解除ス

第五條　特別用鹽規則第五條ノ規定ニ依ル變性ハ鹽ノ重量百ニ對シ左ノ割合以上左記物品ノ一ヲ混和シテ之ヲ行フ

一　化學的藥品、人造色素製造用

發煙硫酸	二、五
純硫酸	二
酸性硫酸曹達	三ニ純硫酸〇、二五ヲ混シタルモノ
硫酸曹達	六
苛性曹達	二、五
曹達灰	三
石灰	三
晒粉	一、五
滿俺鑛	一
酸化鐵	〇、一五
鐵粉	〇、五
黑鉛	一
骸炭粉末	二
石炭粉末	二
木炭粉末	一
コールタール	〇、〇一
石油	〇、〇五
色素廢液	一

二　石鹼製造用

曹達灰	五
石鹼粉末	一、五
石油	〇、五
的列拉油	〇、三
椰子油	五
獸皮保存用	
石鹼粉末	一、五
石油	〇、五

三　鐵業、製鋼用

硫酸鐵	四
石灰	五
滿俺鑛	一、五
酸化鐵	〇、一
硫化鎳	五
金、銀、銅鑛ノ粉末又ハ其ノ灰物	五
石油	〇、五
木炭粉末	一、五
石炭粉末	二、五

四　窯業用

曹達灰	五
石灰	〇、五
石油	

六　肥料、種苗、家畜用

硫酸曹達	六ニ灰四ヲ混シタルモノ
石灰	五ニ灰四ヲ混シタルモノ
魚油	一ニ油煙〇、〇五ヲ混シタルモノ
コールタール	〇、〇一
當藥粉	〇、二五ニ油煙〇、〇五ヲ混シタルモノ
拂柄	〇、一ニ當藥粉〇、二五ヲ混シタルモノ

第六條　外國ニ輸出スル爲若ハ特別用鹽規則第一條第一項第七號ノ用途ニ使用スル爲賣渡ヲ受ケタル鹽又ハ同規則第一條第一項第一號ノ用途ニ使用スル爲賣渡ヲ受ケタル鹽ノ用途ニ使用スル爲賣渡ヲ受ケ同規則第五條但書ノ規定ニ依リ變性ヲ施ササル鹽ヲ運搬シ又ハ貯藏スルトキハ其ノ他ノ鹽ト之ヲ區別スヘシ

前項ノ場合ニ於テ必要ト認メタルトキハ當該官吏ハ其ノ鹽ニ封印ヲ施シ又ハ之ヲ護送スルコトアルヘシ

第七條　外國ニ輸出スル爲又ハ特別用鹽規則第一條第一項ノ用途ニ使用スル爲鹽ノ賣渡ヲ受ケタル者賣渡請求書ニ記載シタル目的ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ賣渡專賣官署ニ變更ノ許可ヲ出願スヘシ但シ外國ニ輸出スル者又ハ特別用鹽規則第一條第一項第七號ノ用途ニ使用スル者ニ讓渡セムトスルトキハ讓受人ノ連署ヲ要ス

第五條ノ規定ニ依リ變性ヲ施シタル鹽ニシテ特別用鹽規則第一條第一項第二號乃至第六號ノ用途中相互ノ變更ニ付テハ前項ノ出願ヲ要セス賣渡專賣官署ニ其ノ旨ヲ申告スヘシ

外國ニ輸出スル爲若ハ特別用鹽規則第一條第一項第七號ノ用途ニ使用スル爲賣渡ヲ受ケタル鹽ノ數量百ニ對シ左ノ割合ヲ以テ之ヲ計算ス但シ其ノ計算シタル鹽ノ數量カ實渡シタル鹽ノ數量ニ超過スルトキハ其ノ實渡數量ニ依ル

內地鹽ヲ使用シタルモノ	四十五
曹鍾	五十五
曹鍾	二十五
有骨開鍾	三十二
無骨開鍾	四十
進洋ニ於テ過燐曹鍾シタル無骨開鍾	八十
曹鍾尾羽	二十七
曹渡鹽肥料	四十
內地鹽以外ノ鹽ヲ使用シタルモノ	百
曹鍾	四十三
曹鍾	五十二
有骨開鍾	二十四
無骨開鍾	三十
進洋ニ於テ過燐曹鍾シタル無骨開鍾	三十八
曹鍾尾羽	七十六
曹渡鹽肥料	九十五
內地鹽ヲ使用シタル鹽藏物ニ付テハ內地鹽ヲ使用シタルモノトシテ計算ス	二十六
	三十八

第十三條　特別用鹽規則第一條第一項第一號ノ用途ニ使用スル爲鹽ノ賣渡ヲ受ケ同規則第五條但書ノ規定ニ依リ變性ノ免除ヲ受ケタル者又ハ同規則第一條第一項第一號乃至第六號ノ用途ニ使用スル爲賣渡ヲ受ケタル鹽ヲ許可ヲ受ケスシテ外國輸出又ハ同規則第一條第一項第一號乃至第六號ノ用途ニ供シタルトキ

外國ニ輸出スル爲又ハ特別用鹽規則第一條第一項第七號ノ用途ニ使用スル爲賣渡ヲ受ケタル鹽ヲ許可ヲ受ケスシテ外國輸出又ハ同規則第一條第一項第一號乃至第六號ノ用途ニ供シタルトキ

特別用鹽規則第一條第一項第七號ノ用途ニ使用スル爲賣渡ヲ受ケタル鹽ヲ許可ヲ受ケスシテ外國輸出又ハ同規則第一條第一項第一號乃至第六號ノ用途ニ供シタルトキ

特別用鹽規則第一條第一項第七號ノ用途ニ使用スル爲賣渡ヲ受ケタル鹽ヲ許可ヲ受ケスシテ外國輸出又ハ同規則第一條第一項第一號乃至第六號ノ用途ニ供シタルトキ

外國ニ輸出スル爲又ハ特別用鹽規則第一條第一項第七號ノ用途ニ使用スル爲賣渡ヲ受ケタル者若ハ同規則第一條第一項第一號ノ用途ニ使用スル爲鹽ノ賣渡ヲ受ケ同規則第五條但書ノ規定ニ依リ變性ノ免除ヲ受ケタル者ノ其ノ目的ニ供シタル鹽ノ數量カ賣渡數量ニ對シ不足シタル場合ニ於テ正當ノ事由ナシト認メタルトキハ專賣官署ハ其ノ不足額ニ對シ前項ノ金額ヲ追徵ス

第十六條　外國ニ輸出スル爲若ハ特別用鹽規則第一條第一項第七號ノ用途ニ使用スル爲賣渡ヲ受ケタル鹽又ハ同規則第一條第一項第一號ノ用途ニ使用スル爲賣渡ヲ受ケ同規則第五條但書ノ規定ニ依リ變性ノ免除ヲ受ケタル者ニ賣渡ヲ爲シタル場合ニ於テハ專賣官署ハ其ノ者ニ對シ賣渡ヲ受ケタル鹽ノ數量百ニ對シ左ノ割合ヲ以テ追徵ス

曹鍾	四十五
曹鍾	五十五
有骨開鍾	二十五
無骨開鍾	三十二
進洋ニ於テ過燐曹鍾シタル無骨開鍾	四十
曹鍾尾羽	二十七
曹渡鹽肥料	四十
內地鹽以外ノ鹽ヲ使用シタルモノ	八十
曹鍾	四十三
曹鍾	五十二
有骨開鍾	二十四
無骨開鍾	三十
進洋ニ於テ過燐曹鍾シタル無骨開鍾	三十八
曹鍾尾羽	七十六
曹渡鹽肥料	九十五
內地鹽ヲ使用シタル鹽藏物ニ付テハ內地鹽ヲ使用シタルモノトシテ計算ス	二十六
	三十八

第十七條　特別用鹽規則第一條第一項第一號乃至第六號ノ用途ニ使用スル爲鹽ノ賣渡ヲ受ケタル鹽又ハ特別用鹽規則第一條第一項第一號ノ用途ニ使用スル爲賣渡ヲ受ケ同規則第五條但書ノ規定ニ依リ變性ヲ施ササル鹽ヲ同ノ用途ニ使用スル爲賣渡ヲ受ケタル者ハ賣渡ノ日ヨリ一箇年以內ニ專賣官署ノ交付シタル鹽使用濟證明書ヲ賣渡專賣官署ニ提出スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ具シ未使用鹽ニ付一箇年毎ニ專賣官署ノ承認ヲ申請シ未使用鹽證明書ノ交付ヲ受ケ之ヲ賣渡專賣官署ニ返納スヘシ但シ特別用鹽規則第一條第一項第七號ノ用途ニ使用スル爲鹽ノ賣渡ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第八條　外國ニ輸出スル爲又ハ特別用鹽規則第一條第一項ノ用途ニ使用スル爲鹽ノ賣渡ヲ受ケタル者賣渡請求書ニ記載シタル輸出港、輸出先、使用場所、漁獲物ノ種類、出漁船、鹽積載船又ハ鹽ノ運搬方法ヲ變更セムトスルトキハ賣渡專賣官署ニ其ノ旨ヲ申告スヘシ

特別用鹽規則第一條第一項第一號ノ用途ニ使用スル爲鹽ノ賣渡ヲ受ケ同規則第五條但書ノ規定ニ依リ變性ノ免除ヲ受ケタル者賣渡請求書ニ記載シタル使用方法ヲ變更セムトスルトキハ賣渡專賣官署ニ其ノ旨ヲ申告スヘシ其ノ使用方法ヲ變更セムトスル者ニ讓渡セムトスルトキ亦同シ此ノ場合ニ於テハ讓受人ノ連署ヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ專賣官署ノ指揮ニ依リ

第五條ノ規定ニ準シ其ノ鹽ノ變性ヲ受クヘシ

第九條　外國ニ輸出スル爲賣渡ヲ受ケタル鹽ヲ外國ニ輸出セムトスルトキハ其ノ輸出申告書ニ關稅法施行規則第三十四條ニ記載セル事項ノ外少クトモ鹽ノ種類、等級及內國寄港地名ヲ記載スヘシ

第十條　外國ニ輸出スル爲鹽ノ賣渡ヲ受ケタル者ハ賣渡ノ日ヨリ六箇月以內ニ左ノ書類ヲ賣渡專賣官署ニ提出スヘシ

一　輸出免狀又ハ外國ニ輸出シタルコトヲ證明スヘキ書類

二　外國ニ陸揚シタルコトヲ證明スヘキ書類

專賣官署カ正當ノ事由アリト認メタルトキハ前項ノ期間ヲ一箇年迄延長スルコトヲ得

鹽ヲ輸出シタル後海難ニ因リ滅失シタル場合ニ於テハ其ノ事實ヲ證明スヘキ書類ヲ以テ第一項第二號ノ書類ニ代フルコトヲ得

第十一條　特別用鹽規則第一條第一項第一號ノ用途ニ使用スル爲鹽ノ賣渡ヲ受ケ同規則第五條但書ノ規定ニ依リ變性ノ免除ヲ受ケタル者ハ鹽使用ノ際專賣官署ノ檢查ヲ受ケ難キ場合ニ於テハ所轄稅務署、所轄專賣官署又ハ稅務署ノ檢查ヲ受ケ難キ場合ニ於テハ所轄警察官署、鹽專賣法施行地外ニ在ルトキハ專賣局長官ノ適當ト認ムル官公衙ノ檢查ヲ經テ未使用鹽證明書ノ交付ヲ受ケタル者ハ鹽使用ノ際鹽使用濟證明申請書ヲ使用地所轄專賣官署ニ提出シ當該官吏ノ立會檢查ヲ經テ鹽使用濟證明書ノ交付ヲ受クヘシ

第十二條　特別用鹽規則第一條第一項第七號ノ用途ニ使用スル爲鹽ノ賣渡ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ專賣官署ハ賣渡當時ノ數量ニ依リ其ノ定價ト鹽專賣法第十八條第一項ノ規定ニ依ル賣渡定價トノ差額及其ノ五分ノ二ニ相當スル金額ヲ追徵ス

一　許可ヲ受クスシテ其ノ鹽ヲ外國輸出及特別用鹽規則第一條第一項ノ用途以外ニ供シ又ハ供スル者ニ讓渡シタルトキ

二　第十條又ハ第十三條ノ規定ニ依リ提出スヘキ書類ヲ其ノ期間內ニ提出セサルトキ

外國ニ輸出スル爲又ハ特別用鹽規則第一條第一項第七號ノ用途ニ使用スル爲鹽ノ賣渡ヲ受ケタル者ハ賣渡當時ノ數量ニ依リ各特別定價ノ差額ニ相當スル金額ヲ追徵ス

第十五條　外國ニ輸出スル爲又ハ特別用鹽規則第一條第一項ノ用途ニ使用スル爲鹽ノ賣渡ヲ受ケタル者ハ賣渡當時ノ數量ニ依リ其ノ定價ト鹽專賣法第十八條第一項ノ規定ニ依ル賣渡定價トノ差額及其ノ五分ノ二ニ相當スル金額ヲ追徵ス

特別用鹽規則第一條第一項ノ用途以外ニ供シ又ハ供スル者ニ讓渡シタルトキ

第十條又ハ第十三條ノ規定ニ依リ提出スヘキ書類ヲ其ノ期間內ニ提出セサルトキ

外國ニ輸出スル爲又ハ特別用鹽規則第一條第一項第七號ノ用途ニ使用スル爲鹽ノ賣渡ヲ受ケタル者若ハ同規則第一條第一項第一號ノ用途ニ使用スル爲鹽ノ賣渡ヲ受ケ同規則第五條但書ノ規定ニ依リ變性ノ免除ヲ受ケタル者ノ其ノ目的ニ供シタル鹽ノ數量カ賣渡數量ニ對シ不足シタル場合ニ於テ正當ノ事由ナシト認メタルトキハ專賣官署ハ其ノ不足額ニ對シ前項ノ金額ヲ追徵ス

第十六條　外國ニ輸出スル爲若ハ特別用鹽規則第一條第一項第七號ノ用途ニ使用スル爲賣渡ヲ受ケタル鹽又ハ同規則第一條第一項第一號ノ用途ニ使用スル爲賣渡ヲ受ケ同規則第五條但書ノ規定ニ依リ變性ノ免除ヲ受ケタル者ニ賣渡ヲ爲シタル場合ニ於テハ專賣官署ハ其ノ者ニ對シ賣渡ヲ受ケタル鹽ノ數量百ニ對シ左ノ割合ヲ以テ追徵ス

曹鍾	四十五
曹鍾	五十五
有骨開鍾	二十五
無骨開鍾	三十二
進洋ニ於テ過燐曹鍾シタル無骨開鍾	四十
曹鍾尾羽	二十七
曹渡鹽肥料	四十
內地鹽以外ノ鹽ヲ使用シタルモノ	百
曹鍾	四十三
曹鍾	五十二
有骨開鍾	二十四
無骨開鍾	三十
進洋ニ於テ過燐曹鍾シタル無骨開鍾	三十八
曹鍾尾羽	七十六
曹渡鹽肥料	九十五
內地鹽ヲ使用シタル鹽藏物ニ付テハ內地鹽ヲ使用シタルモノトシテ計算ス	二十六
	三十八

第十七條　特別用鹽規則第一條第一項第一號乃至第六號ノ用途ニ使用スル爲鹽ノ賣渡ヲ受ケタル鹽又ハ同規則第一條第一項第一號ノ用途ニ使用スル爲賣渡ヲ受ケ同規則第五條但書ノ規定ニ依リ變性ヲ施ササル鹽ヲ同ノ用途ニ使用スル爲賣渡ヲ受ケタル者ハ賣渡ノ日ヨリ一箇年以內ニ專賣官署ノ交付シタル鹽使用濟證明書ヲ賣渡專賣官署ニ提出スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ具シ未使用鹽ニ付一箇年毎ニ專賣官署ノ承認ヲ申請シ未使用鹽證明書ノ交付ヲ受ケ之ヲ賣渡專賣官署ニ返納スヘシ但シ特別用鹽規則第一條第一項第七號ノ用途ニ使用スル爲鹽ノ賣渡ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第九條　外國ニ輸出スル爲賣渡ヲ受ケタル鹽ヲ外國ニ輸出セムトスルトキハ其ノ輸出申告書ニ關稅法施行規則第三十四條ニ記載セル事項ノ外少クトモ鹽ノ種類、等級及內國寄港地名ヲ記載スヘシ

第十條　外國ニ輸出スル爲鹽ノ賣渡ヲ受ケタル者ハ賣渡ノ日ヨリ六箇月以內ニ左ノ書類ヲ賣渡專賣官署ニ提出スヘシ

一　輸出免狀又ハ外國ニ輸出シタルコトヲ證明スヘキ書類

二　外國ニ陸揚シタルコトヲ證明スヘキ書類

專賣官署カ正當ノ事由アリト認メタルトキハ前項ノ期間ヲ一箇年迄延長スルコトヲ得

鹽ヲ輸出シタル後海難ニ因リ滅失シタル場合ニ於テハ其ノ事實ヲ證明スヘキ書類ヲ以テ第一項第二號ノ書類ニ代フルコトヲ得

第十一條　特別用鹽規則第一條第一項第一號ノ用途ニ使用スル爲鹽ノ賣渡ヲ受ケタル者ハ鹽使用ノ際專賣官署ノ檢查ヲ受ケ難キ場合ニ於テハ其ノ所轄稅務署、所轄專賣官署又ハ稅務署ノ檢查ヲ受ケ難キ場合ニ於テハ所轄警察官署、鹽專賣法施行地外ニ在ルトキハ專賣局長官ノ適當ト認ムル官公衙ノ檢查ヲ經テ未使用鹽證明書ノ交付ヲ受ケタル者ハ鹽使用ノ際鹽使用濟證明申請書ヲ使用地所轄專賣官署ニ提出シ當該官吏ノ立會檢查ヲ經テ鹽使用濟證明書ノ交付ヲ受クヘシ

第十二條　特別用鹽規則第一條第一項第七號ノ用途ニ使用スル爲鹽ノ賣渡ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ專賣官署ハ賣渡當時ノ數量ニ依リ其ノ定價ト鹽專賣法第十八條第一項ノ規定ニ依ル賣渡定價トノ差額及其ノ五分ノ二ニ相當スル金額ヲ追徵ス

一　許可ヲ受クスシテ其ノ鹽ヲ外國輸出及特別用鹽規則第一條第一項ノ用途以外ニ供シ又ハ供スル者ニ讓渡シタルトキ

二　第十條又ハ第十三條ノ規定ニ依リ提出スヘキ書類ヲ其ノ期間內ニ提出セサルトキ

外國ニ輸出スル爲又ハ特別用鹽規則第一條第一項第七號ノ用途ニ使用スル爲鹽ノ賣渡ヲ受ケタル者ハ賣渡當時ノ數量ニ依リ各特別定價ノ差額ニ相當スル金額ヲ追徵ス

第十五條　外國ニ輸出スル爲又ハ特別用鹽規則第一條第一項ノ用途ニ使用スル爲鹽ノ賣渡ヲ受ケタル者ハ賣渡當時ノ數量ニ依リ其ノ定價ト鹽專賣法第十八條第一項ノ規定ニ依ル賣渡定價トノ差額及其ノ五分ノ二ニ相當スル金額ヲ追徵ス

特別用鹽規則第一條第一項ノ用途以外ニ供シ又ハ供スル者ニ讓渡シタルトキ

第十條又ハ第十三條ノ規定ニ依リ提出スヘキ書類ヲ其ノ期間內ニ提出セサルトキ

外國ニ輸出スル爲又ハ特別用鹽規則第一條第一項第七號ノ用途ニ使用スル爲鹽ノ賣渡ヲ受ケタル者若ハ同規則第一條第一項第一號ノ用途ニ使用スル爲鹽ノ賣渡ヲ受ケ同規則第五條但書ノ規定ニ依リ變性ノ免除ヲ受ケタル者ノ其ノ目的ニ供シタル鹽ノ數量カ賣渡數量ニ對シ不足シタル場合ニ於テ正當ノ事由ナシト認メタルトキハ專賣官署ハ其ノ不足額ニ對シ前項ノ金額ヲ追徵ス

第十六條　外國ニ輸出スル爲若ハ特別用鹽規則第一條第一項第七號ノ用途ニ使用スル爲賣渡ヲ受ケタル鹽又ハ同規則第一條第一項第一號ノ用途ニ使用スル爲賣渡ヲ受ケ同規則第五條但書ノ規定ニ依リ變性ノ免除ヲ受ケタル者ニ賣渡ヲ爲シタル場合ニ於テハ專賣官署ハ其ノ者ニ對シ賣渡ヲ受ケタル鹽ノ數量百ニ對シ左ノ割合ヲ以テ追徵ス

曹鍾	四十五
曹鍾	五十五
有骨開鍾	二十五
無骨開鍾	三十二
進洋ニ於テ過燐曹鍾シタル無骨開鍾	四十
曹鍾尾羽	二十七
曹渡鹽肥料	四十
內地鹽以外ノ鹽ヲ使用シタルモノ	百
曹鍾	四十三
曹鍾	五十二
有骨開鍾	二十四
無骨開鍾	三十
進洋ニ於テ過燐曹鍾シタル無骨開鍾	三十八
曹鍾尾羽	七十六
曹渡鹽肥料	九十五
內地鹽ヲ使用シタル鹽藏物ニ付テハ內地鹽ヲ使用シタルモノトシテ計算ス	二十六
	三十八

第十七條　特別用鹽規則第一條第一項第一號乃至第六號ノ用途ニ使用スル爲鹽ノ賣渡ヲ受ケタル鹽又ハ同規則第一條第一項第一號ノ用途ニ使用スル爲賣渡ヲ受ケ同規則第五條但書ノ規定ニ依リ變性ヲ施ササル鹽ヲ同ノ用途ニ使用スル爲賣渡ヲ受ケタル者ハ賣渡ノ日ヨリ一箇年以內ニ專賣官署ノ交付シタル鹽使用濟證明書ヲ賣渡專賣官署ニ提出スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ具シ未使用鹽ニ付一箇年毎ニ專賣官署ノ承認ヲ申請シ未使用鹽證明書ノ交付ヲ受ケ之ヲ賣渡專賣官署ニ

則第一條第一項第二號乃至第七號ノ用途ニ供スル者ニ譲渡シタルトキ

七　第八條ノ規定ニ違反シタルトキ

八　第二條又ハ第九條ノ規定ニ依ル鹽ノ資渡請求書又ハ輸出申告書ニ記載シタル寄港地以外ノ内國沿岸ニ寄港シタルトキ但シ海難其ノ他已ムヲ得サル事故アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十七條　特別用鹽規則第七條ノ規定ニ依ル追徴金ニ關シテハ國稅徴収法施行細則ヲ準用ス

國稅徴収法施行細則ニ依リ稅務署長ニ屬スル職務ヲ行フヘキ官吏ハ地方專賣局長又ハ地方專賣局出張所長トス

第十八條　外國ニ輸出スル爲又ハ特別用鹽規則第一條第一項ノ用途ニ使用スル爲鹽ノ資渡ヲ受ケタル者ニ關スル規定ハ其ノ鹽ノ轉得者ニ之ヲ準用ス

第十九條　特別用鹽規則第六條第一項第四號ノ規定ニ依ル鹽藏魚介類ニ對シタル使用鹽ノ數量ハ鹽藏魚介類ノ重量百ニ對シ左ノ割合ヲ以テ計算ス此ノ場合ニ於テハ第十二條第三項但書ノ規定ヲ準用ス

內地鹽ヲ使用シタルモノ	
鹽漬鯖	四十六
鹽漬鰯	三十六
鹽漬鰤	四十
鹽水漬鰤及鯖	五十二
乾鰯	二十六
明鯵	四十三
灰鯵	二十三
內地鹽以外ノ鹽ヲ使用シタルモノ	
鹽漬鯖	四十三
鹽漬鰤	三十四
鹽水漬鰤及鯖	三十八
乾鰯	四十九
明鯵	二十五
灰鯵	四十一
	二十二

特別用鹽規則第六條第一項ノ規定ニ依ル鹽藏魚介類ノ重量ハ製成醬油一石ニ對シ內地鹽ヲ使用シタルモノニ在リテハ鹽ノ種類、等級ヲ問ハス二十二貫ニ、內地鹽以外ノ鹽ヲ使用シタルモノニ在リテハ鹽ノ種類、等級ヲ問ハス十七貫ニ、夫々相當スル製成醬油ノ數量ヲ減ジタル數量トス

第二十條　特別用鹽規則第六條第一項第一號、第四號又ハ第五號ノ規定ニ依リ交付金ノ下付ヲ請求セムトスル者ハ其ノ輸出申告書ニ記載セル事項ノ外少クトモ鹽ノ種類、等級、鹽藏魚介類又ハ製成醬油ノ種類及內國寄港地名ヲ記載スヘシ

第二十一條　特別用鹽規則第六條第一項第一號第四號又ハ第五號ノ規定ニ依リ交付金ノ下付ヲ請求セムトスル者ハ交付金下付申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ之ヲ輸出港所轄專賣官署ニ提出スヘシ但シ同規則第六條第一項第四號ノ規定ニ依リ交付金ノ下付ヲ請求セムトスル者ハ特ニ專賣官署ノ承認ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外使用鹽檢定書ヲ添附スヘシ

一　輸出免歎又ハ外國ニ輸出シタルコトヲ證明スヘキ書類

二　外國ニ陸揚シタルコトヲ證明スヘキ書類

鹽、鹽藏魚介類又ハ製成醬油ヲ輸出シタル後海難ニ因リ滅失シタル場合ニ於テハ其ノ事實ヲ證明スヘキ書類ヲ以テ前項第二號ノ書類ニ代フルコトヲ得

第一項但書ノ規定ニ依ル使用鹽檢定書ノ交付ヲ請求セムトスル者ハ第二十六條又ハ第二十七條ノ規定ニ準シ鹽ノ檢定ヲ受クヘシ

第一項ノ場合ニ於テハ其ノ使用鹽カ內地敢納鹽以外ノモノニシテ使用鹽檢定書ヲ添附セサルモノナルトキハ交付金下附申請書ニ內地再製鹽ニ在リテハ鹽ノ種類、等級、其ノ他ノ鹽ニ在リテハ鹽ノ種類、等級ヲ明記スヘシ

第三項ニ依リ使用鹽ノ檢定ヲ受ケタル者ハ其ノ鹽藏魚介類ノ輸出者ト異ナルトキハ第一項ノ交付金下付申請書ニ其ノ事由ヲ記載シ鹽、鹽藏魚介類又ハ魚介類ノ讓受ニ關スル證明書類ヲ添附スヘシ

第二十二條　特別用鹽規則第六條第一項第四號又ハ第五號ノ規定ニ依リ交付金ノ下付ヲ受ケタル鹽藏魚介類又ハ製成醬油ヲ輸入シタルトキハ輸入港所轄專賣官署ニ於テ其ノ輸入者ヨリ交付金ニ相當スル金額ヲ追徴ス

前項ニ依リ追徴金ヲ納入シタル後ニ非サレハ輸入者ハ其ノ鹽藏魚介類又ハ製成醬油ヲ引取ルコトヲ得ス

第二十三條　特別用鹽規則第六條第一項第二號ノ規定ニ依リ交付金ノ下付ヲ請求セムトスル者ハ交付金下付申請書ニ鹽使用證明書又ハ鹽變性證明書ヲ添附シ之ヲ使用地又ハ變性地所轄專賣官署ニ提出スヘシ但シ其ノ鹽カ內地敢納鹽以外ノモノナルトキハ內地再製鹽ニ在リテハ鹽ノ種類、等級、其ノ他ノ鹽ニ在リテハ鹽ノ種類、等級ヲ證明スヘキ書類ヲ添附スヘシ

第二十四條　前條ノ鹽使用證明書ノ交付ヲ請求セムトスル者ハ鹽使用ノ際、申請書ヲ使用地所轄專賣官署ニ提出スヘシ

前條ノ鹽變性證明書ノ交付ヲ請求セムトスル者ハ鹽使用前、申請書ヲ鹽ノ所在地所轄專賣官署ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ專賣官署ハ第五條ノ規定ニ準シ鹽ノ變性ヲ施スヘシ

第二十五條　前條第三項ノ規定ニ依リ變性ヲ施シタル鹽ヲ特別用鹽規則第一條第一項第一號乃至第六號以外ノ目的ニ、同規則第一條第一項第一號ノ用途ニ使用スヘキ鹽ヲ同規則第一條第一項第二號乃至第六號ノ用途ニ供シ又ハ供スル者ニ讓渡セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ其ノ地所轄專賣官署ニ變更ノ許可ヲ出願スヘシ

前條第三項ノ規定ニ依リ變性ヲ施シタル鹽ニシテ特別用鹽規則第一條第一項第二號乃至第六號ノ用途中相互ノ變更ニ付テハ其ノ旨ヲ申告スヘシ

第一項ノ場合ニ於テ其ノ鹽ヲ外國輸出及特別用鹽規則第一條第一項ノ用途以外ニ供スルコトヲ許可スルトキハ第十四條ノ規定ヲ準用ス

再製鹽ニ在リテハ鹽ノ種類、其ノ他ノ鹽ニ在リテハ鹽ノ種類、等級ヲモ記載スヘシ

前項ニ依ル鹽藏物及殘存鹽ノ檢査ハ鹽使用證明申請書ヲ受理シタル專賣官署所在地又ハ其ノ官署ノ指定シタル地ニ於テ之ヲ行フ但シ鹽藏物ハ其ノ事由ヲ具シ專賣官署ノ承認ヲ受クルコトヲ得

第二十九條　特別用鹽規則第六條第一項第三號ノ規定ニ依リ交付金ノ下付ヲ請求セムトスル場合ニ於テハ正當ノ事由ナシト認メタルトキハ其ノ不足額ニ對シ交付金ヲ下付セス

虛偽ノ書類又ハ陳述ニ因リ交付金ノ下付ヲ受ケタルトキハ交付金額及其ノ五分ノ二ニ相當スル金額ヲ追徴ス

第三十三條　特別用鹽規則第九條ノ規定ニ基キ鹽又ハ鹽藏魚介類ヲ移出セムトスル者ハ移出申告書ヲ移出地所轄專賣官署ニ提出スヘシ

前項ノ申告アリタルトキハ專賣官署ハ其ノ鹽ノ數量ヲ檢定スヘシ

第三十四條　漁獲者ニ非サル者生鮮ナル鮭、鱒、鰒、鯨又ハ鹽腌或ヒ鹽藏セムトスルトキハ其ノ使用ノ鹽ニ付本令中漁獲者ニ關スル規定ヲ準用ス但シ第十二條及第二十八條ノ鹽使用證明ニ關スル申請書ニハ漁獲物ノ買入先ヲモ記載スヘシ

附　則

本令ハ特別用鹽規則施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●製鹽地整理ニ關スル法律

昭和四年四月五日　法律第五十二號

（總理、大藏大臣副署）

貳帝國議會ノ協賛ヲ經タル製鹽地整理ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　鹽專賣法第六條ノ規定ニ依リ製鹽地ノ區域ヲ制限スル場合ニ於テハ政府ハ鹽ノ種類、製造方法ヲ區別シテ之ヲ制限スルコトヲ得

製鹽地ノ區域ノ制限ニ依リ鹽ノ製造ヲ禁止シタルトキハ政府ハ禁止ノ際ニ於ケル鹽製造者、製鹽地ノ所有者、現ニ鹽ノ製造ニ專用スル建物設備器具器械ノ所有者ニ對シ其ノ請求ニ依リ命令ノ定ムル所ニ從ヒ交付金ヲ交付ス

前項ノ鹽製造者ハ昭和四年三月以前ニ於テ鹽製造ノ許可ヲ受ケ製造禁止ノ際現ニ其ノ製造ヲ爲ス者ニ限ル但シ昭和四年四月以後若ハ第七號ノ用途ニ使用シタル鹽ニ付テハ使用後六箇月ヲ經過シタルトキ

外國ニ輸出シ又ハ特別用鹽規則第六條第一項第四號又ハ第五號ノ規定ニ依リ交付金ノ下付ヲ受ケタル鹽藏魚介類又ハ製成醬油ヲ輸入シタルトキノ輸入港所轄專賣官署ニ於テ其ノ輸入者ヨリ交付金ニ相當スル金額ヲ追徴ス

前項ニ依リ追徴金ヲ納入シタル後ニ非サレハ輸入者ハ其ノ鹽藏魚介類又ハ製成醬油ヲ引取ルコトヲ得ス

第二十三條　特別用鹽規則第六條第一項第二號ノ規定ニ依リ交付金ノ下付ヲ請求セムトスル者ハ交付金下付申請書ニ鹽使用證明書又ハ鹽變性證明書ヲ添附シ之ヲ使用地又ハ變性地所轄專賣官署ニ提出スヘシ但シ其ノ鹽カ內地敢納鹽以外ノモノナルトキハ內地再製鹽ニ在リテハ鹽ノ種類、等級、其ノ他ノ鹽ニ在リテハ鹽ノ種類、等級ヲ證明スヘキ書類ヲ添附スヘシ

第二十四條　前條ノ鹽使用證明書ノ交付ヲ請求セムトスル者ハ鹽使用前、申請書ヲ鹽ノ所在地所轄專賣官署ニ提出スヘシ

前條ノ鹽變性證明書ノ交付ヲ請求セムトスル者ハ鹽使用前、申請書ヲ鹽ノ所在地所轄專賣官署ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ專賣官署ハ第五條ノ規定ニ準シ鹽ノ變性ヲ施スヘシ

第二十五條　前條第三項ノ規定ニ依リ變性ヲ施シタル鹽ヲ特別用鹽規則第一條第一項第一號乃至第六號以外ノ目的ニ、同規則第一條第一項第一號ノ用途ニ使用スヘキ鹽ヲ同規則第一條第一項第二號乃至第六號ノ用途ニ供スル者ニ讓渡セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ其ノ地所轄專賣官署ニ變更ノ許可ヲ出願スヘシ

前條第三項ノ規定ニ依リ變性ヲ施シタル鹽ニシテ特別用鹽規則第一條第一項第二號乃至第六號ノ用途中相互ノ變更ニ付テハ其ノ旨ヲ申告スヘシ

第一項ノ場合ニ於テ其ノ鹽ヲ外國輸出及特別用鹽規則第一條第一項ノ用途以外ニ供スルコトヲ許可スルトキハ第十四條ノ規定ヲ準用ス

若ハ第七號ノ用途ニ使用シタル鹽ニ付テハ使用後六箇月ヲ經過シタルトキ

外國ニ輸出シ又ハ特別用鹽規則第六條第一項第四號又ハ第五號ノ規定ニ依リ交付金ノ下付ヲ受ケタル鹽藏魚介類又ハ製成醬油ヲ輸入シタルトキノ輸入港所轄專賣官署ニ於テ其ノ輸入者ヨリ交付金ニ相當スル金額ノ三割五分ニ相當スル金額ヲ追徴ス

前項ニ依リ追徴金ヲ納入シタル後ニ非サレハ輸入者ハ其ノ鹽藏魚介類又ハ製成醬油ヲ引取ルコトヲ得ス

第二十三條　特別用鹽規則第六條第一項第二號ノ規定ニ依リ交付金ノ下付ヲ請求セムトスル者ハ交付金下付申請書ニ鹽使用證明書又ハ鹽變性證明書ヲ添附シ之ヲ使用地又ハ變性地所轄專賣官署ニ提出スヘシ但シ其ノ鹽カ內地敢納鹽以外ノモノナルトキハ內地再製鹽ニ在リテハ鹽ノ種類、等級、其ノ他ノ鹽ニ在リテハ鹽ノ種類、等級ヲ證明スヘキ書類ヲ添附スヘシ

第二十四條　前條ノ鹽使用證明書ノ交付ヲ請求セムトスル者ハ鹽使用前、申請書ヲ鹽ノ所在地所轄專賣官署ニ提出スヘシ

前條ノ鹽變性證明書ノ交付ヲ請求セムトスル者ハ鹽使用前、申請書ヲ鹽ノ所在地所轄專賣官署ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ專賣官署ハ第五條ノ規定ニ準シ鹽ノ變性ヲ施スヘシ

第二十五條　前條第三項ノ規定ニ依リ變性ヲ施シタル鹽ヲ特別用鹽規則第一條第一項第一號乃至第六號以外ノ目的ニ、同規則第一條第一項第一號ノ用途ニ使用スヘキ鹽ヲ同規則第一條第一項第二號乃至第六號ノ用途ニ供スル者ニ讓渡セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ其ノ地所轄專賣官署ニ變更ノ許可ヲ出願スヘシ

前條第三項ノ規定ニ依リ變性ヲ施シタル鹽ニシテ特別用鹽規則第一條第一項第二號乃至第六號ノ用途中相互ノ變更ニ付テハ其ノ旨ヲ申告スヘシ

第一項ノ場合ニ於テ其ノ鹽ヲ外國輸出及特別用鹽規則第一條第一項ノ用途以外ニ供スルコトヲ許可スルトキハ第十四條ノ規定ヲ準用ス

●製鹽地整理ニ關スル法律

（總理、大藏大臣副署）

貳帝國議會ノ協賛ヲ經タル製鹽地整理ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　鹽專賣法第六條ノ規定ニ依リ製鹽地ノ區域ヲ制限スル場合ニ於テハ政府ハ鹽ノ種類、製造方法ヲ區別シテ之ヲ制限スルコトヲ得

製鹽地ノ區域ノ制限ニ依リ鹽ノ製造ヲ禁止シタルトキハ政府ハ禁止ノ際ニ於ケル鹽製造者、製鹽地ノ所有者、現ニ鹽ノ製造ニ專用スル建物設備器具器械ノ所有者ニ對シ其ノ請求ニ依リ命令ノ定ムル所ニ從ヒ交付金ヲ交付ス

前項ノ鹽製造者ハ昭和四年三月以前ニ於テ鹽製造ノ許可ヲ受ケ製造禁止ノ際現ニ其ノ製造ヲ爲ス者ニ限ル但シ昭和四年四月以後

ルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徴シ政府之ヲ決定ス

第五條　前條ノ決定ニ對シ不服アル者ハ十日内ニ其ノ申立ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府ハ更ニ鑑定人ヲ選定シ其ノ意見ヲ徴シ之ヲ裁定ス其ノ裁定ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第六條　交付金ノ總額ハ千三百萬圓以内トス

交付金ハ額面金額ニ依リ五分利附國債證券ヲ以テ之ヲ交付ス但シ鹽製造者ニ對スル交付金ノ一部及國債證券ノ最小額面金額ニ滿タザル端數ハ現金ヲ以テ之ヲ交付ス

第七條　政府ハ前條ノ交付金額中同條但書ノ規定ニ依リ現金ヲ以テ交付スル額ヲ除キタル金額ノ限度ニ於テ公債ヲ發行スルコトヲ得

第八條　鹽ノ製造ヲ禁止シタル區域内ニ於ケル鹽製造專用ノ建物設備器具器械ノ所有者ハ禁止告示後三十日内ニ別記樣式第一號乃至第三號ニ依リ其ノ物件ノ目錄ヲ所轄專賣官署ニ提出スベシ

前項ノ目錄提出後其ノ記載事項ニ增減變更アリタルトキハ其ノ都度申告スベシ

第二條　昭和四年法律第五十二號ニ依リ交付金ノ交付ヲ請求セムトスル者ハ鹽製造禁止後三十日内ニ別記樣式第四號乃至第七號ニ依リ交付金交付申請書ヲ所轄專賣官署ニ提出スベシ

前項ノ申請書ニハ計算ノ基礎及必要ナル說明ヲ附記シ且別記樣式第四號ノ申請書ニハ鹽製造許可書又ハ鹽製造承繼許可書ヲ、第五號ノ申請書ニハ土地臺帳謄本ヲ、第六號ノ申請書ニハ建物ノ配置圖面ヲ添附スベシ

第三條　昭和四年法律第五十二號中製鹽地トハ稱スルハ左ノ各號ノモノヲ謂フ但シ鹽製造者ノ住居ニ供用スル土地ハ此ノ限ニ在ラズ

一　鹹水貯藏場敷地（鹽田面ノ爬起ニ用フルモノ、撒砂ノ撒布、整均ニ用フルモノ、撤潮ニ用フルモノ、鹹砂ヲ集ムルニ用フルモノ、鹹砂ノ掏込ミニ用フルモノ、鹹砂ヲ均スニ用フルモノ、鹹水ノ浸出ニ用フルモノ、鹹水ヲ集ムルニ用フルモノ、鹹砂ノ掘出シニ用フルモノ、鹹水、苦汁ノ注入ニ用フルモノ、釜中ノ泡、石灰ノ除去ニ用フルモノ、釜中ノ鹽ノ攪集メ、盛出シニ用フルモノ）

二　煎熬場敷地（鹹水貯藏場敷地ヲ含ム）

三　煎熬場ト同一構内ニ於テ現ニ鹽ノ製造ニ供用スル土地

四　煎熬場ト同一構内ニ於テ現ニ鹽ノ製造以上各號ノ土地ニ近接スル場所ニ於テ現ニ鹽ノ製造ニ供用スル土地

第四條　交付金ヲ交付スベキ建物ハ前條ノ製鹽地ニ於テ現ニ鹽ノ製造ニ供用スル左ノ各號ノモノニ限ル但シ製鹽期中鹽製造以外ノ用途ニ兼用スルモノハ之ヲ除ク

一　煎熬場及其ノ附屬建物

二　鹽、製鹽原料、製鹽材料、製鹽副産物又ハ製鹽用設備器具器械ノ藏置場

三　鹽製造者ノ事務所、濱子部屋、修理場、製鹽檢查場

一棟ノ建物ヲ區分シ其ノ一部分ヲ前項各號ノ一ニ供用スルモノ其ノ部分ニ限リ交付金ヲ交付ス

第五條　左ニ揭ゲル種類ニ屬スル製鹽用設備器具器械ニ付テハ交付金ヲ交付ス但シ其ノ數量ハ專賣局長官之ヲ決定ス

一　海水、鹹水、苦汁ノ汲揚、排除又ハ輸送裝置（水車ヲ含ム）

二　原動機關（附屬噴筒共）、沸解槽、沈澱槽、結晶槽及其ノ据付裝置、傳動裝置、汽管、水管

三　海水、海水、鹹水、苦汁ノ汲揚、排除又ハ輸送裝置（水車ヲ含ム）

四　海水、鹹砂、鹹水、鹽、苦汁ノ貯藏用容器及其ノ据付裝置

五　海水、鹹水、苦汁ノ濾過裝置

六　鐵釜、石釜

七　竈、煙道、煙突、蒸氣放

八　岸先場、居出場、貯鹽設備

九　塩、鹽土、製鹽材料又ハ製鹽副産物ノ運搬裝置

第六條　左ニ揭ゲル種類ニ屬スル製鹽用器具ニシテ交付金ヲ交付スベキ品目及其ノ數量ハ專賣局長官之ヲ決定ス

一　鹽田地盤、沼井、鹹水貯ノ修理ニ用フルモノ

二　鹽田面ノ爬起ニ用フルモノ、撒砂ノ撒布、整均ニ用フルモノ

三　撤潮ニ用フルモノ

四　鹹砂ヲ集ムルニ用フルモノ

五　鹹砂ノ掏込ミニ用フルモノ

六　鹹砂ヲ均スニ用フルモノ

七　鹹水ノ浸出ニ用フルモノ

八　鹹水ヲ集ムルニ用フルモノ

九　鹹砂ノ掘出シニ用フルモノ

十　鹹水、苦汁ノ注入ニ用フルモノ

十一　釜中ノ泡、石灰ノ除去ニ用フルモノ

十二　釜中ノ鹽ノ攪集メ、盛出シニ用フルモノ

十三　鹽揚又ハ苦汁ノ除去ニ用フルモノ

十四　鹽剝、鹽切ニ用フルモノ

十五　鹽ヲ運ブニ用フルモノ

十六　鹽ノ秤量、包裝ニ用フルモノ

十七　燃料ヲ焚クニ用フルモノ

十八　濾過材料ノ篩別、取替ニ用フルモノ

十九　釜掃除ニ用フルモノ

二十　製鹽用設備器具器械ノ修理ニ用フルモノ

二十一

第七條　建物設備器械ノ所有者ニシテ交付金ノ交付ヲ請求セムトスル者鹽製造禁止告示後建物設備器械ヲ修繕、改造又ハ增設セムトスルトキハ所轄專賣官署ノ承認ヲ受クベシ此ノ場合ニ於テ其ノ價額ヲ增加シタルトキハ其ノ部分ニ對シ交付金ヲ交付セズ

第八條　製鹽地建物設備器具器械ノ所有者ニシテ交付金ノ交付ヲ請求セムトスル者鹽製造禁止後三十日内ニ別記樣式第四號乃至第七號ニ依リ交付金交付申請書ヲ所轄專賣官署ニ提出スベシ

前項ノ申請書ニハ計算ノ基礎及必要ナル說明ヲ附記シ且別記樣式第四號ノ申請書ニハ鹽製造許可書又ハ鹽製造承繼許可書ヲ、第五號ノ申請書ニハ土地臺帳謄本ヲ、第六號ノ申請書ニハ建物ノ配置圖面ヲ添附スベシ

第三條　昭和四年法律第五十二號中製鹽地トハ稱スルハ左ノ各號ノモノヲ謂フ但シ鹽製造者ノ住居ニ供用スル土地ハ此ノ限ニ在ラズ

一　鹹水貯藏場敷地（鹽田面ノ爬起ニ用フルモノ、撒砂ノ撒布、整均ニ用フルモノ、撤潮ニ用フルモノ、鹹砂ヲ集ムルニ用フルモノ、鹹砂ノ掏込ミニ用フルモノ、鹹砂ヲ均スニ用フルモノ、鹹水ノ浸出ニ用フルモノ、鹹水ヲ集ムルニ用フルモノ、鹹砂ノ掘出シニ用フルモノ、鹹水、苦汁ノ注入ニ用フルモノ、釜中ノ泡、石灰ノ除去ニ用フルモノ、釜中ノ鹽ノ攪集メ、盛出シニ用フルモノ）

二　煎熬場敷地（鹹水貯藏場敷地ヲ含ム）

三　煎熬場ト同一構内ニ於テ現ニ鹽ノ製造ニ供用スル土地

四　煎熬場ト同一構内ニ於テ現ニ鹽ノ製造以上各號ノ土地ニ近接スル場所ニ於テ現ニ鹽ノ製造ニ供用スル土地

第四條　交付金ヲ交付スベキ建物ハ前條ノ製鹽地ニ於テ現ニ鹽ノ製造ニ供用スル左ノ各號ノモノニ限ル但シ製鹽期中鹽製造以外ノ用途ニ兼用スルモノハ之ヲ除ク

一　煎熬場及其ノ附屬建物

二　鹽、製鹽原料、製鹽材料、製鹽副産物又ハ製鹽用設備器具器械ノ藏置場

三　鹽製造者ノ事務所、濱子部屋、修理場、製鹽檢查場

一棟ノ建物ヲ區分シ其ノ一部分ヲ前項各號ノ一ニ供用スルモノ其ノ部分ニ限リ交付金ヲ交付ス

第五條　左ニ揭ゲル種類ニ屬スル製鹽用設備器具器械ニ付テハ交付金ヲ交付ス但シ其ノ數量ハ專賣局長官之ヲ決定ス

一　海水、鹹水、苦汁ノ汲揚、排除又ハ輸送裝置（水車ヲ含ム）

二　原動機關（附屬噴筒共）、沸解槽、沈澱槽、結晶槽及其ノ据付裝置、傳動裝置、汽管、水管

三　海水、海水、鹹水、苦汁ノ汲揚、排除又ハ輸送裝置（水車ヲ含ム）

四　海水、鹹砂、鹹水、鹽、苦汁ノ貯藏用容器及其ノ据付裝置

五　海水、鹹水、苦汁ノ濾過裝置

六　鐵釜、石釜

七　竈、煙道、煙突、蒸氣放

八　岸先場、居出場、貯鹽設備

九　塩、鹽土、製鹽材料又ハ製鹽副産物ノ運搬裝置

第六條　左ニ揭ゲル種類ニ屬スル製鹽用器具ニシテ交付金ヲ交付スベキ品目及其ノ數量ハ專賣局長官之ヲ決定ス

一　鹽田地盤、沼井、鹹水貯ノ修理ニ用フルモノ

二　鹽田面ノ爬起ニ用フルモノ、撒砂ノ撒布、整均ニ用フルモノ

三　撤潮ニ用フルモノ

四　鹹砂ヲ集ムルニ用フルモノ

五　鹹砂ノ掏込ミニ用フルモノ

六　鹹砂ヲ均スニ用フルモノ

七　鹹水ノ浸出ニ用フルモノ

八　鹹水ヲ集ムルニ用フルモノ

九　鹹砂ノ掘出シニ用フルモノ

十　鹹水、苦汁ノ注入ニ用フルモノ

十一　釜中ノ泡、石灰ノ除去ニ用フルモノ

十二　釜中ノ鹽ノ攪集メ、盛出シニ用フルモノ

十三　鹽揚又ハ苦汁ノ除去ニ用フルモノ

十四　鹽剝、鹽切ニ用フルモノ

十五　鹽ヲ運ブニ用フルモノ

十六　鹽ノ秤量、包裝ニ用フルモノ

十七　燃料ヲ焚クニ用フルモノ

十八　濾過材料ノ篩別、取替ニ用フルモノ

十九　釜掃除ニ用フルモノ

二十　製鹽用設備器具器械ノ修理ニ用フルモノ

二十一

第七條　建物設備器械ノ所有者ニシテ交付金ノ交付ヲ請求セムトスル者鹽製造禁止告示後建物設備器械ヲ修繕、改造又ハ增設セムトスルトキハ所轄專賣官署ノ承認ヲ受クベシ此ノ場合ニ於テ其ノ價額ヲ增加シタルトキハ其ノ部分ニ對シ交付金ヲ交付セズ

第八條　製鹽地建物設備器具器械ノ所有者ニシテ交付金ノ交付ヲ請求セムトスル者鹽製造禁止後三十日内ニ別記樣式第四號乃至第七號ニ依リ交付金交付申請書ヲ所轄專賣官署ニ提出スベシ

前項ノ申請書ニハ計算ノ基礎及必要ナル說明ヲ附記シ且別記樣式第四號ノ申請書ニハ鹽製造許可書又ハ鹽製造承繼許可書ヲ爲サシムベシ

前項ノ鑑定人ハ少クトモ其ノ半數ヲ專賣官吏以外ノ者ヨリ選定ス

大藏大臣前條ノ請求ニ對シ裁定ヲ爲シタルトキハ其ノ裁定書ヲ作リ之ヲ申請者ニ交付ス

第十七條　鑑定人ノ意見一致セザルトキハ各鑑定人ノ鑑定シタル價額ノ平均ヲ以テ鑑定價額トス

第十八條　政府ハ鑑定人ナシテ自己、親族又ハ後見雇傭同居其ノ他利害關係アル者ノ利害關係ヲ有スル物件ニ付鑑定ヲ爲サシメザルコトヲ得

第十九條　昭和四年法律第五十二號第六條但書ニ依リ鹽製造者ニ對シ現金ヲ以テ交付スル額ハ總交付金額ノ七分ノ六トス

第二十條　交付金ノ交付請求者ニ對シ交付金ヲ交付セムトスルトキハ專賣局長官ハ別記樣式第八號ニ依リ交付金交付通知書ヲ發スベシ

第二十一條　鹽製造ヲ禁止シタル際鹽製造者ノ所有スル鹹水ハ所轄專賣官署ノ認可ヲ受ケ其ノ指定シタル期間ニ限リ之ヲ製鹽スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ鹽製造者ハ運搬ナク其ノ數量、焚上期間及鹽製造見込高ヲ申告スベシ

鹽製造ヲ禁止シタル際現存スル未納付鹽ハ禁止後二日内ニ、前項ニ依リ製造シタル鹽ハ製造後五日内ニ所轄專賣官署ニ其ノ數量ヲ申告シ其ノ指定シタル期日内ニ之ヲ納付スベシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●昭和四年法律第五十二號施行規則

昭和四年五月十四日大藏省令第六號

昭和四年法律第五十二號施行規則左ノ通定ム

第一條　鹽製造地及鹽製造ニ專用スル建物設備器具器械ノ所有者ハ禁止告示後三十日内ニ別記樣式第一號乃至第三號ニ依リ其ノ物件ノ目錄ヲ所轄專賣官署ニ提出スベシ

前項ノ目錄提出後其ノ記載事項ニ增減變更アリタルトキハ其ノ都度申告スベシ

第二條　昭和四年法律第五十二號ニ依リ交付金ノ交付ヲ請求セムトスル者鹽製造禁止後三十日内ニ別記樣式第四號乃至第七號ニ依リ交付金交付申請書ヲ所轄專賣官署ニ提出スベシ

前項ノ申請書ニハ計算ノ基礎及必要ナル說明ヲ附記シ且別記樣式第四號ノ申請書ニハ鹽製造許可書又ハ鹽製造承繼許可書ヲ、第五號ノ申請書ニハ土地臺帳謄本ヲ、第六號ノ申請書ニハ建物ノ配置圖面ヲ添附スベシ

第三條　昭和四年法律第五十二號中製鹽地トハ稱スルハ左ノ各號ノモノヲ謂フ但シ鹽製造者ノ住居ニ供用スル土地ハ此ノ限ニ在ラズ

一　鹹水貯藏場敷地（鹽田面ノ爬起ニ用フルモノ、撒砂ノ撒布、整均ニ用フルモノ、撤潮ニ用フルモノ、鹹砂ヲ集ムルニ用フルモノ、鹹砂ノ掏込ミニ用フルモノ、鹹砂ヲ均スニ用フルモノ、鹹水ノ浸出ニ用フルモノ、鹹水ヲ集ムルニ用フルモノ、鹹砂ノ掘出シニ用フルモノ、鹹水、苦汁ノ注入ニ用フルモノ、釜中ノ泡、石灰ノ除去ニ用フルモノ、釜中ノ鹽ノ攪集メ、盛出シニ用フルモノ）

二　煎熬場敷地（鹹水貯藏場敷地ヲ含ム）

三　煎熬場ト同一構内ニ於テ現ニ鹽ノ製造ニ供用スル土地

四　煎熬場ト同一構内ニ於テ現ニ鹽ノ製造以上各號ノ土地ニ近接スル場所ニ於テ現ニ鹽ノ製造ニ供用スル土地

第四條　交付金ヲ交付スベキ建物ハ前條ノ製鹽地ニ於テ現ニ鹽ノ製造ニ供用スル左ノ各號ノモノニ限ル但シ製鹽期中鹽製造以外ノ用途ニ兼用スルモノハ之ヲ除ク

一　煎熬場及其ノ附屬建物

二　鹽、製鹽原料、製鹽材料、製鹽副産物又ハ製鹽用設備器具器械ノ藏置場

三　鹽製造者ノ事務所、濱子部屋、修理場、製鹽檢查場

一棟ノ建物ヲ區分シ其ノ一部分ヲ前項各號ノ一ニ供用スルモノ其ノ部分ニ限リ交付金ヲ交付ス

第五條　左ニ揭ゲル種類ニ屬スル製鹽用設備器具器械ニ付テハ交付金ヲ交付ス但シ其ノ數量ハ專賣局長官之ヲ決定ス

一　海水、鹹水、苦汁ノ汲揚、排除又ハ輸送裝置（水車ヲ含ム）

二　原動機關（附屬噴筒共）、沸解槽、沈澱槽、結晶槽及其ノ据付裝置、傳動裝置、汽管、水管

三　海水、海水、鹹水、苦汁ノ汲揚、排除又ハ輸送裝置（水車ヲ含ム）

四　海水、鹹砂、鹹水、鹽、苦汁ノ貯藏用容器及其ノ据付裝置

五　海水、鹹水、苦汁ノ濾過裝置

六　鐵釜、石釜

七　竈、煙道、煙突、蒸氣放

八　岸先場、居出場、貯鹽設備

九　塩、鹽土、製鹽材料又ハ製鹽副産物ノ運搬裝置

第六條　左ニ揭ゲル種類ニ屬スル製鹽用器具ニシテ交付金ヲ交付スベキ品目及其ノ數量ハ專賣局長官之ヲ決定ス

一　鹽田地盤、沼井、鹹水貯ノ修理ニ用フルモノ

二　鹽田面ノ爬起ニ用フルモノ、撒砂ノ撒布、整均ニ用フルモノ

三　撤潮ニ用フルモノ

四　鹹砂ヲ集ムルニ用フルモノ

五　鹹砂ノ掏込ミニ用フルモノ

六　鹹砂ヲ均スニ用フルモノ

七　鹹水ノ浸出ニ用フルモノ

八　鹹水ヲ集ムルニ用フルモノ

九　鹹砂ノ掘出シニ用フルモノ

十　鹹水、苦汁ノ注入ニ用フルモノ

十一　釜中ノ泡、石灰ノ除去ニ用フルモノ

十二　釜中ノ鹽ノ攪集メ、盛出シニ用フルモノ

十三　鹽揚又ハ苦汁ノ除去ニ用フルモノ

十四　鹽剝、鹽切ニ用フルモノ

十五　鹽ヲ運ブニ用フルモノ

十六　鹽ノ秤量、包裝ニ用フルモノ

十七　燃料ヲ焚クニ用フルモノ

十八　濾過材料ノ篩別、取替ニ用フルモノ

十九　釜掃除ニ用フルモノ

二十　製鹽用設備器具器械ノ修理ニ用フルモノ

二十一

第七條　建物設備器械ノ所有者ニシテ交付金ノ交付ヲ請求セムトスル者鹽製造禁止告示後建物設備器械ヲ修繕、改造又ハ增設セムトスルトキハ所轄專賣官署ノ承認ヲ受クベシ此ノ場合ニ於テ其ノ價額ヲ增加シタルトキハ其ノ部分ニ對シ交付金ヲ交付セズ

第八條　製鹽地建物設備器具器械ノ所有者ニシテ交付金ノ交付ヲ請求セムトスル者鹽製造禁止後三十日内ニ別記樣式第四號乃至第七號ニ依リ交付金交付申請書ヲ所轄專賣官署ニ提出スベシ

前項ノ申請書ニハ計算ノ基礎及必要ナル說明ヲ附記シ且別記樣式第四號ノ申請書ニハ鹽製造許可書又ハ鹽製造承繼許可書ヲ爲サシムベシ

前項ノ鑑定人ハ少クトモ其ノ半數ヲ專賣官吏以外ノ者ヨリ選定ス

大藏大臣前條ノ請求ニ對シ裁定ヲ爲シタルトキハ其ノ裁定書ヲ作リ之ヲ申請者ニ交付ス

第十七條　鑑定人ノ意見一致セザルトキハ各鑑定人ノ鑑定シタル價額ノ平均ヲ以テ鑑定價額トス

第十八條　政府ハ鑑定人ナシテ自己、親族又ハ後見雇傭同居其ノ他利害關係アル者ノ利害關係ヲ有スル物件ニ付鑑定ヲ爲サシメザルコトヲ得

第十九條　昭和四年法律第五十二號第六條但書ニ依リ鹽製造者ニ對シ現金ヲ以テ交付スル額ハ總交付金額ノ七分ノ六トス

第二十條　交付金ノ交付請求者ニ對シ交付金ヲ交付セムトスルトキハ專賣局長官ハ別記樣式第八號ニ依リ交付金交付通知書ヲ發スベシ

第二十一條　鹽製造ヲ禁止シタル際鹽製造者ノ所有スル鹹水ハ所轄專賣官署ノ認可ヲ受ケ其ノ指定シタル期間ニ限リ之ヲ製鹽スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ鹽製造者ハ運搬ナク其ノ數量、焚上期間及鹽製造見込高ヲ申告スベシ

鹽製造ヲ禁止シタル際現存スル未納付鹽ハ禁止後二日内ニ、前項ニ依リ製造シタル鹽ハ製造後五日内ニ所轄專賣官署ニ其ノ數量ヲ申告シ其ノ指定シタル期日内ニ之ヲ納付スベシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別記

第一號樣式

製鹽地目錄

昭和何年何月何日

何府縣何郡何町市何村大字何字何何番地

專賣局長官宛

某㊞

鹽製造者氏名	製造方法	種類	製鹽地場所	地番地目	段	別
						町

備考

一　種類欄ニハ煎熬場敷地、鹽貯藏場敷地、鹹水貯藏場敷地、採鹹地等ノ區分ヲ記入スベシ但シ同一地番内ニ在ルモノハ其ノ種類ヲ併記スルモ妨ナシ

二　製造者又煎熬場ヲ異ニスル毎ニ煎熬場敷地、鹽貯藏場敷地、鹹水貯藏場敷地、採鹹地等ヲ區分スベシ

三　製鹽地場所欄ニハ市町村大字字及釜屋名ヲ記入スベシ

四　二以上ノ專賣官署ノ所屬區域ニ涉リ製鹽地ヲ有スル者ニ在リテハ本目錄末尾ニ他ノ目錄提出官署名ヲ朱記スベシ

第二號樣式

鹽製造專用建物目錄

昭和何年何月何日

何府縣何郡何町市何村大字何字何何番地

何　某㊞

專賣局長官宛

鹽製造者氏名	製造方法	建物場所	種類	構造	棟數	坪數	建設費	建設年月
							圓	年　月

備考

一　建物場所欄ニハ市町村大字字地番及釜屋名ヲ記入スベシ

二　種類欄ニハ煎熬場、鹽貯藏場、鹹水貯藏場等ノ區分ヲ記入スベシ

三　構造欄ニハ階數（平屋建、二階建）、屋根（瓦葺、板葺、柿葺、杉皮葺、草葺、藁葺等）、骨組（木造瓦葺、木造板葺、木造望屋、煉瓦造、コンクリート造、石造、土造、簀ノ子張造板、茣蓙、竹ノ類ヲ、伏小屋造骨組及屋等）ノ區分ヲ記入スベシ

四　坪數欄ニハ右倣ニ建坪數ヲ、左倣ニ延坪數ヲ記入スベシ

五　二以上ノ專賣官署ノ所屬區域ニ涉リ建物ヲ有スル者ニ在リテハ本目錄末尾ニ他ノ目錄提出官署名ヲ朱記スベシ

第三號樣式

鹽製造專用設備器具器械目錄

昭和何年何月何日

何府縣何郡何町市何村大字何字何何番地

何　某㊞

專賣局長官宛

備考

一　煎熬場場所欄ニハ市町村大字字及釜屋名ヲ記入スベシ

二　種類欄ニハ第五條及第六條各號ノ區分ニ依リ其ノ條、號ヲ記入スベシ

三　現在場所欄ニハ其ノ所屬製鹽地以外ノ場所ニ現在スルモノニ限リ第一號ニ準ジ記入スベシ

四　二以上ノ專賣官署ノ所屬區域ニ渉リ設備器具器械ヲ有スル者ニ在リテハ本目錄末尾ニ他ノ目錄提出官署名ヲ朱記スベシ

鹽製造者氏名	製造方法	煎熬場場所	煎熬場種類	品目	筒數	現在場所	新調又ハ新築又ハ購入年月	購入費
							年　月	圓

第四號樣式

昭和四年法律第五十二號第二條第一號交付金交付申請書（何通ノ內第何號何枚）

昭和四年法律第五十二號第二條第一號ノ交付金交付相成度同年大藏省令第六號第二條ニ依リ申請候也

昭和何年何月何日

何府何郡何町
何縣何市何村大字何字何何番地
何　某㊞

專賣局長官宛

鹽製造者住所氏名	何府何郡何町 何縣何市何村大字何字何何番地　何　某
煎熬場場所	何府何郡何町 何縣何市何村大字何字何何番地
製造許可年月日	何年何月何日
昭和四年三月以前製造承繼年月日	何年何月何日
昭和四年四月以後相續ニ因ル承繼年月日	昭和何年何月何日
製造方法	入濱（揚濱）鹽田臺取（笹取）直接火力使用（餘熱利用）又ハ海水直煮製鹽
自作小作區分	

備考

一　本申請書ハ煎熬場毎ニ調製シ二通以上ノ申請書ヲ提出スベキトキハ提出官署毎ニ各種申請書ヲ通ジタル總通數及番號ヲ附記スベシ

二　法定代理人又ハ委任ニ因ル代理人ニ依リ本申請ヲ爲ストキハ其ノ權限ヲ證スベキ書類ヲ添附スベシ

三　相續ニ因リ本申請ヲ爲ストキハ相續ノ事實ヲ證スベキ書類ヲ添附スベシ

四　本申請書ニハ其ノ紙數ヲ附記シ二枚以上ニ渉ルトキハ其ノ綴目ニ契印スベシ

五　本申請書ニハ土地臺帳謄本ヲ添附スベシ

六　所有者住所氏名欄ニハ製造禁止ノ際ニ於ケル所有者ノ住所氏名ヲ記入スベシ但シ申請者ト同一人ナルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

七　煎熬場場所欄ニハ釜屋名ヲ附記スベシ

八　自作小作區分欄ニハ採鹹地ノ自小作區分ニ依リ記入スベシ

九　種類欄ニハ煎熬場敷地、鹽貯藏場敷地、鹹水貯藏場敷地、採鹹地等ノ區分ヲ記入スベシ但シ同一地番內ニ在ルモノハ其ノ種類ヲ併記スルモ妨ナシ

十　一筆中交付金ヲ交付スベカラザル部分アルトキハ其ノ交付スベキ部分ノ段別ヲ內書朱記スベシ

十一　製鹽地見積價額欄ニハ製造禁止ノ際ニ於ケル其ノ見積價額ヲ、禁止後（加工後）見込價額欄ニハ禁止後製鹽地ヲ其ノ儘利用シ得ルモノニ付テハ其ノ見込價額ヲ、加工ノ上利用スルモノニ付テハ第十三條ノ規定ニ依リ計算シタル禁止後ノ見込價額ヲ、成工見込期間欄ニハ加工著手後成熟ニ至ルマデノ年月數ヲ、成工後見込價額欄ニハ成熟シタルトキノ見込價額ヲ記入スベシ

十二　製鹽地見積價額以下ノ各欄ハ一括シテ記入スルモ妨ナシ

十三　二以上ノ專賣官署ノ所屬區域ニ渉リ製鹽地ヲ有スル者ニ在リテハ本申請書末尾ニ他ノ申請書提出官署名ヲ朱記スベシ

十四　本申請書ヲ郵便ニテ差出ス場合ニ於テハ書留郵便ト爲スヲ要ス

十五　本申請書ヲ郵便ニテ差出ス場合ニ於テハ書留郵便ト爲スヲ要ス

同一官署ニ提出シタル他ノ申請書ニ添附シタルトキハ之ヲ略シ其ノ旨ヲ附記スベシ

第五號樣式

昭和四年法律第五十二號第二條第二號製鹽地交付金交付申請書（何通ノ內第何號何枚）

昭和四年法律第五十二號第二條第二號製鹽地交付金交付相成度同年大藏省令第六號第二條ニ依リ申請候也

昭和何年何月何日

何府何郡何町
何縣何市何村大字何字何何番地
何　某㊞

專賣局長官宛

所有者住所氏名	何府何郡何町 何縣何市何村大字何字何何番地　何　某
種類 場所	製鹽地 地番地目
段別	町　畝　歩
製鹽地見積價額	圓　錢
禁止後見積價額	圓　錢
禁止後（加工後）見込價額	圓　錢
加工ヲ要スルモノノ（加工後）見込用途	
成工見込後見込價額	圓　錢
成工見込後見込期間	年　月
成工見込後見込工費	圓　錢
成工見込後見込價額	圓　錢
製造方法	
自作小作區分	

備考

一　本申請書ハ煎熬場毎ニ調製シ二通以上ノ申請書ヲ提出スベキトキハ提出官署毎ニ各種申請書ヲ通ジタル總通數及番號ヲ附記スベシ

二　法定代理人又ハ委任ニ因ル代理人ニ依リ本申請ヲ爲ストキハ其ノ權限ヲ證スベキ書類ヲ添附スベシ

三　相續ニ因リ本申請ヲ爲ストキハ相續ノ事實ヲ證スベキ書類ヲ添附スベシ

四　本申請書ニハ其ノ紙數ヲ附記シ二枚以上ニ渉ルトキハ其ノ綴目ニ契印スベシ

五　本申請書ニハ土地臺帳謄本ヲ添附スベシ

六　所有者住所氏名欄ニハ製造禁止ノ際ニ於ケル所有者ノ住所氏名ヲ記入スベシ但シ申請者ト同一人ナルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

七　煎熬場場所欄ニハ釜屋名ヲ附記スベシ

八　自作小作區分欄ニハ採鹹地ノ自小作區分ニ依リ記入スベシ

九　種類欄ニハ煎熬場敷地、鹽貯藏場敷地、鹹水貯藏場敷地、採鹹地等ノ區分ヲ記入スベシ但シ同一地番內ニ在ルモノハ其ノ種類ヲ併記スルモ妨ナシ

十　一筆中交付金ヲ交付スベカラザル部分アルトキハ其ノ交付スベキ部分ノ段別ヲ內書朱記スベシ

十一　製鹽地見積價額欄ニハ製造禁止ノ際ニ於ケル其ノ見積價額ヲ、禁止後（加工後）見込價額欄ニハ禁止後製鹽地ヲ其ノ儘利用シ得ルモノニ付テハ其ノ見込價額ヲ、加工ノ上利用スルモノニ付テハ第十三條ノ規定ニ依リ計算シタル禁止後ノ見込價額ヲ、成工見込期間欄ニハ加工著手後成熟ニ至ルマデノ年月數ヲ、成工後見込價額欄ニハ成熟シタルトキノ見込價額ヲ記入スベシ

十二　製鹽地見積價額以下ノ各欄ハ一括シテ記入スルモ妨ナシ

十三　二以上ノ專賣官署ノ所屬區域ニ渉リ製鹽地ヲ有スル者ニ在リテハ本申請書末尾ニ他ノ申請書提出官署名ヲ朱記スベシ

十四　本申請書ヲ郵便ニテ差出ス場合ニ於テハ書留郵便ト爲スヲ要ス

十五　本申請書ヲ郵便ニテ差出ス場合ニ於テハ書留郵便ト爲スヲ要ス

同一官署ニ提出シタル他ノ申請書ニ添附シタルトキハ之ヲ略シ其ノ旨ヲ附記スベシ

第六號樣式

昭和四年法律第五十二號第三號建物交付金交付申請書（何通ノ內第何號何枚）

昭和四年法律第五十二號第二條第三號建物交付金交付相成度同年大藏省令第六號第二條ニ依リ申請候也

昭和何年何月何日

何府何郡何町
何縣何市何村大字何字何何番地
何　某㊞

專賣局長官宛

所有者住所氏名	何府何郡何町 何縣何市何村大字何字何何番地　何　某
建物場所種類構造棟數	坪數
建設年月	年　月
建設費及（一坪當）	圓　錢
見積價額及（一坪當）	圓　錢
禁止後用途	
禁止後見込價額及（一坪當）	圓　錢
差額	圓　錢

備考

年月	納付鹽（資買鹹水）	當該製鹽地ニ於ケル鹽製造者名	納付鹽	資渡鹹水	買受鹹水	差引
			數量	賠償金額	數量	資渡代金	數量	買受代金	金額
大正十四年自何月至何月		甲　某	斤	圓	石	圓	石	圓	圓
自何月至何月		乙　某							
計									
大正十五年自何月至何月		丙　某							
自何月至何月		丁　某							
計									
昭和二年自何月至何月		戊　某							
自何月至何月		己　某							
自何月至何月	申請者本人								
計									

備考

一　本申請書ハ煎熬場毎ニ調製シ二通以上ノ申請書ヲ提出スベキトキハ提出官署毎ニ各種申請書ヲ通ジタル總通數及番號ヲ附記スベシ

二　法定代理人又ハ委任ニ因ル代理人ニ依リ本申請ヲ爲ストキハ其ノ權限ヲ證スベキ書類ヲ添附スベシ

三　相續ニ因リ本申請ヲ爲ストキハ相續ノ事實ヲ證スベキ書類ヲ添附スベシ

四　本申請書ニハ其ノ紙數ヲ附記シ二枚以上ニ渉ルトキハ其ノ綴目ニ契印スベシ

五　本申請書ニハ煎熬場場所欄ニハ釜屋名ヲ附記スベシ

六　本申請書ニハ製造禁止ノ際ニ於ケル製造者ノ住所氏名ヲ記入スベシ但シ申請者ト同一人ナルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

七　煎熬場場所欄ニハ釜屋名ヲ附記スベシ

八　自作小作區分欄ニハ採鹹地ノ自小作區分ニ依リ記入スベシ

九　賣渡鹹水及買受鹹水ニ付テハ其ノ賣渡先又ハ買受先毎ニ年月日數量代金ヲ區分シタル明細書ヲ添附スベシ

十　差引金額欄ニハ納付鹽賠償金額ト鹹水賣渡代金トノ合計金額ヨリ鹹水買受代金ヲ控除シタル殘額ヲ記入スベシ

十一　製鹽地段別異動其ノ他事故欄ニハ大正十四年ヨリ昭和二年ニ至ル間ノ製造禁止當時ニ對比シタル製鹽地ノ異動、製鹽不繼續其ノ他當該製鹽地ノ納付鹽若ハ藏水ノ數量ノ區分シ難キニ至リタル事故等ヲ記入說明スベシ

十二　本申請書ニハ製造禁止ノ際ニ於ケル從業者ノ氏名、稱呼、雇傭區分、雇入年月、給額及交付金分與見込額ヲ記載シタル書類ヲ添附スベシ

十三　二以上ノ專賣官署ノ所屬區域ニ渉リ製鹽スル者ニ在リテハ本申請書末尾ニ他ノ申請書提出官署名ヲ朱記スベシ

十四　本申請書ヲ郵便ニテ差出ス場合ニ於テハ書留郵便ト爲スヲ要ス

十五　本申請書ヲ郵便ニテ差出ス場合ニ於テハ書留郵便ト爲スヲ要ス

同一官署ニ提出シタル他ノ申請書ニ添附シタルトキハ之ヲ略シ其ノ旨ヲ附記スベシ

一　本申請書ハ煎熬場毎ニ調製シ二通以上ノ申請書ヲ提出スベキトキハ提出官署毎ニ各種申請書ヲ通ジタル總通數及番號ヲ附記スベシ

二　法定代理人又ハ委任ニ因ル代理人ニ依リ本申請ヲ爲ストキハ其ノ權限ヲ證スベキ書類ヲ添附スベシ

三　相續ニ因リ本申請ヲ爲ストキハ相續ノ事實ヲ證スベキ書類ヲ添附スベシ

四　本申請書ニハ其ノ紙數ヲ附記シ二枚以上ニ渉ルトキハ其ノ綴目ニ契印スベシ

五　本申請書ニハ建物配置平面圖（建物毎ニ桁行、梁間ノ間數及坪數ノ記入ヲ要ス）ヲ添附スベシ

六　所有者住所氏名欄ニハ製造禁止ノ際ニ於ケル所有者ノ住所氏名ヲ記入スベシ但シ申請者ト同一人ナルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

七　煎熬場場所欄ニハ釜屋名ヲ附記スベシ

八　建物場所欄ニハ市町村大字字及地番ヲ記入スベシ

九　種類欄ニハ煎熬場、鹽貯藏場、鹹水貯藏場等ノ區分ヲ記入スベシ

十　構造欄ニハ階數（平屋建、二階建）、屋根（瓦葺、板葺、柿葺、杉皮葺、草葺、茨葺、鐵板葺等）、骨組（木造瓦張、木造板張、木造塗屋、煉瓦造、コンクリート造、石造、土造、竹ノ類ヲ以テ編メルモノ）、壁（煉瓦、竹ノ類ヲ、伏小屋造骨組及屋根ヲ含ム等）ノ區分ヲ記入スベシ

十一　坪數欄ニハ右傍ニ建坪數ヲ、左傍ニ延坪數ヲ記入スベシ

十二　建設費、見積價額、禁止後見込價額ノ各欄ニハ左傍ニ延坪一坪當價額ヲ記入シ括弧ヲ附スベシ

十三　差額欄ニハ見積價額ヨリ禁止後見込價額ヲ控除シタル殘額ヲ記入スベシ

十四　二以上ノ專賣官署ノ所屬區域ニ渉リ建物ヲ有スル者ニ在リテハ本申請書末尾ニ他ノ申請書提出官署名ヲ朱記スベシ

十五　本申請書ヲ郵便ニテ差出ス場合ニハ書留郵便ト爲スヲ要ス

十六　本申請書ニハ申請者、法定代理人、委任者及受任者ノ印鑑證明ヲ添附スベシ但シ同一官署ニ提出シタル他ノ申請書ニ添附シタルトキハ之ヲ略シ其ノ旨ヲ附記スベシ

第七號樣式

昭和四年法律第五十二號第二條第三號設（何號ノ內第何號何枚）

備器具器械交付金交付申請書

昭和四年法律第五十二號ニ依リ設備器具器械ニ對スル交付金交付相成度同年大藏省令第六號第二條ニ依リ申請候也

昭和何年何月何日

何縣何郡何町何村大字何字何何番地

何　某㊞

專賣局長官宛

種類	品目	箇數	現在場所	新調又ハ購入	新調又ハ購入費	保存期間	見積價額	禁止後用	禁止後見込價額	差額

製造方法

所有者住所氏名　何縣何郡何町村大字何字何何番地　何　某

煎熬場場所　何縣何郡何町村大字何字何何番地

交付金交付通知書　領收書

第（何）號

指定取扱店　日本銀行（何支店）（何代理店）

受取人　（住所氏名）

一金（何）百（何）拾（何）圓（何）拾（何）錢也　昭和四年法律第五十二號ニ依ル交付金

內譯

金（何）百（何）拾（何）圓也　五分利公債（何）號此證券（何）枚

但シ昭和（何）年（何）月（何）日渡以降利札附屬及日割利札添附

金（何）拾（何）圓（何）拾（何）錢也　現金

右ノ通交付ス

公債ハ前記指定ノ取扱店ニテ之ヲ受取ルベシ

現金ハ支出官ヨリ別ニ歲出金支拂通知書ヲ送付ス

昭和　年　月　日

專賣局長官（氏名）㊞

前記ノ公債正ニ領收候也

昭和　年　月　日

受取人（住所氏名）㊞

（注意）

一受取人ハ表面領收證ノ部ニ年月日及住所ヲ記入シ記名捺印シ公債領收ノ證トシテ之ヲ指定ノ取扱店ニ差出シ公債ノ交付ヲ受クベシ

一受取人ガ代人ヲ以テ公債ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ本人ニ於テ本書委任欄內ニ適宜ノ事項ヲ記載シ記名捺印スルカ又ハ別ニ委任狀ヲ差出スベシ此ノ場合ニ於テ代人ハ本書ニ代人タル旨書ヲ附シ記名捺印スベシ

一受取人ノ印章ハ交付金交付申請書ニ添附シタル印鑑ト同一ノモノニ限ル

（裏面）

印紙

委任狀

表記公債ノ受取方ヲ　ニ委任候也

昭和　年　月　日

（住所氏名）㊞

●鹽製造禁止區域

昭和四年五月二十五日大藏省告示第八十五號

鹽專賣法第六條及昭和四年法律第五十二號第一條第一項ノ規定ニ依リ昭和四年九月三十日限リ左ノ區域ニ於テ鹽ヲ製造スルコトヲ禁止ス但シ副產鹽及再製鹽ヲ製造スルハ此ノ限ニ在ラズ

宮城縣

桃生郡　野蒜村

牡鹿郡　渡波町大字根岸字前三句、石田釜、明神釜、岸釜

稻井村大及流留字家ノ前

千葉縣

東葛飾郡

石川縣

珠洲郡（西海村大字高屋、笹波、馬緤、大谷、長穗、片岩、淸水、仁江、眞浦ヲ除ク）

鳳至郡（町野村ヲ除ク）

愛知縣

寶飯郡　鹽津村（大字竹谷字太田新田、西ノ濱二十番地、二十番地ノ七、二番地ノ八十四、十番地ノ一、十番地ノ四、十六番地ノ一ノ內字太田新田製鹽地ニ屬スル煎熬場其ノ他ノ敷地、濱田八番地ノ一ノ內字太田新田六番地ノ四十三製鹽地ニ屬スル煎熬場其ノ他ノ敷地、前濱六番地ノ一、二十五番地ノ二、二十八番地ノ一、濱家、油井十四番地ノ一ノ內字太田新田六番地ノ二十五及六番地ノ二十六製鹽地ニ屬スル煎熬場其ノ他ノ敷地、十五番地ノ一、大字拾石ヲ除ク）

形原町

幡豆郡　幡豆町

吉田町大字白濱新田字南切三十番地乃至四十番地、北切二十二番地、三十八番地乃至四十七番地、大字吉田字取濱、高島新田

一色町大字生田字眞野新田、竹生新田一番地ノ二、一番地ノ八、一番地ノ七十三乃至一番地ノ八十九、二番地ノ百二十四乃至一番地ノ百二十六乃至一番地ノ百三十八、一番地ノ百五十二、一番地ノ百七十六乃至一番地ノ百八十、一番地ノ百八十二、二番地ノ百十三、二番地ノ一、二番地ノ七、二番地ノ八、二番地ノ十乃至二番地ノ八十二、三番地ノ一乃至三番地ノ六、大字細川字大岡

兵庫縣

印南郡　伊保村曾根町字渡シ場、七軒、立場

大塩町字元錄千九百七十七番地ノ一、千九百七十八番地、千九百七十九番地、千九百八十一番地、千九百八十二番地、千九百八十四番地、千九百八十五番地、東中二千七十七番地ノ二、二千七十八番地ノ二、二千七十

年月	價額單價	價額單價	價額單價	價額單價
年　月	圓	圓	圓	圓

第八號樣式

八番地ノ六、二千八十番地ノ一、宮前二千八十一番地、白貝二千二百五番地、二千二百六番地ノ一、二千二百七番地、二千二百八番地ノ三

北濱村大字西濱字塩濱千二百八番地ノ一、千二百一番地、千二百十番地、千二百十一番地ノ一、千二百十二番地ノ一、千二百十二番地ノ二、千二百十二番地ノ三、千二百十二番地ノ四、千二百十二番地ノ五、千二百十二番地ノ六、千二百十二番地ノ七、千二百十三番地ノ一

的形村大字的形字奥濱、若鼻前千八百四番地ノ二、千八百四番地ノ一、千八百四番地ノ二、千八百四番地ノ三、千八百四番地ノ四、千八百十番地ノ四、大字福泊

飾磨郡　英賀保村

津田村

八木村八家、木場字前六反、前七反、千四百六十三番地

白濱村字甲　万代新開、乙万代新開、丙万代新開、丁万代新開、高須、北濱、十八反丙四百四十四番地乃至丙四百六十四番地

赤穂郡　赤穂町加里屋字磯、加藤、江戸千百十九番地

鹽屋村折方字シヲ島

新濱村字中郷千六百七十九番地ノ一、千六百八十番地、千六百八十三番地、古濱六百二十四番地、六百二十五番地、六百二十六番地、六百二十七番地、六百二十八番地、甲六百二十九番地ノ一、甲六百二十九番地ノ二

尾崎村字明神木三千百七十一番地ノ一、本水尾三千七十四番地ノ一、三千七十六番地乃至三千七十八番地、三千百九番地、三千百十一番地乃至三千百十二番地、三千百十三番地ノ一

德島縣

德島市

新濱町、齋田町字西濱、東開一番地五番地十四番地合併、三番地、十五番地ノ一、八十五番地ノ二、八十八番地、八十九番地ノ一、九十一番地、百六番地ノ二、百六番地ノ五、百二十番地

名東郡　八万村

板野郡　撫養町立岩字元地十三番地、十四番地、三十七番地、三十九番地ノ一、三十九番地ノ二、四十一番地、辨財天字三ツ井丁、派名、北濱字宮ノ東一番地、十二番地ノ二、十二番地ノ三、十六番地、十八番地ノ二、二十番地、二十二番地、二十三番地ノ一、二十四番地ノ二、二十五番地ノ一、二十六番地ノ二、二十七番地、二十八番地ノ二、二十九番地、三十番地ノ一、三十一番地ノ一、三十一番地ノ二、三十二番地、三十三番地、三十四番地、三十五番地ノ一、三千百十四番地、三千七百三十一番地、三千百三十二番地、三千百三十三番地

香川縣

高松市

沖松島百九十八番地乃至三百七十八番地、西濱町四百七十七番地、西濱町四百六番地ノ七、四百六番地ノ三、内四百六番地ノ七裏鹽地ニ屬スル煎熬蒸場其ノ他ノ敷地

塩屋字外濱（八百二番地ノ二乃至八百二番地ノ十九ヲ除ク）

綾歌郡　坂出町字中筋

小豆郡　草壁町

安田村

四海村

土庄町字蔵本東、吉ヶ浦

詫間村大字詫間字大新田、黒瀬、大塚、新濱、城下、前山、柳添、塩生ヶ原六千五十三番地ノ三、六千五十四番地、六千五十八一番地、古濱六百二十四番地、六百二十五番地、六百二十六番地、六百二十七番地、六百二十八番地、甲六百二十九番地ノ一、甲六百二十九番地ノ二

三豐郡　豊浜村大字箱浦

十二　第七條　建物設備ノ所有者ニシテ交付金ノ下付ヲ請求セムトスル者又ハ鹹水製造禁止告示後建物設備ヲ修繕、改築又ハ増築セムトスルトキハ所轄鹽專賣官署ノ承認ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テ其ノ價額ヲ增加シタルトキハ其ノ部分ニ對シ交付金下付セス

第八條　製鹽地建物設備器具器械ノ所有者ニシテ交付金ノ下付ヲ請求セムトスル者鹽又ハ鹹水製造禁止後其ノ物件ヲ讓渡シ又ハ其ノ位置、形狀ヲ變更セムトスルトキハ所轄鹽專賣官署ノ承認ヲ受クヘシ其ノ請求ヲ爲シタル者亦同シ

相續ニ因リ前項ノ物件ヲ取得シタル者ハ直ニ其ノ旨ヲ所轄鹽專賣官署ニ申告スヘシ

第九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ交付金ヲ下付セス

一　第七條及第八條ノ規定ニ違反シタルトキ

二　交付金ヲ下付スヘキ物件カ交付金下付決定前ニ滅失又ハ毀損シタルトキ

三　第二條ニ定メタル期間ニ交付金下付申請書ヲ提出セサルトキ

第十條　明治四十三年法律第四十八號第二條第二號ノ鹹水竇渡代金ハ確實ナリト認ムル帳簿書類ニ依リ專賣局長官之ヲ決定ス

第十一條　明治四十三年法律第四十八號第五條ノ場合ニ於テ其ノ數製鹽地ヲ併セ同法第三條ノ規定ニ依リ得ヘキトキハ之ニ依リ總價額ヲ算出シ其ノ範圍内ニ於テ各製鹽地ノ價額ヲ鑑定スヘシ但シ同法第五條第一號ノ場合、第五號中第一號ノ製鹽地ヲ包含スル場合及數製鹽地ヲ併合スルモ同法第三條ノ規定ニ依リ難キ場合ハ類地ニ比準シテ其ノ價額ヲ鑑定スヘシ

第十二條　鹽又ハ鹹水製造禁止後利用ノ爲加工ヲ要スル製鹽地ニ在リテハ成工後ニ於ケル見込價額ヨリ見込工費ヲ減シタル金額ノ成工見込期間ニ於ケル年五歩ノ利子ヲ減シタル金額ヲ以テ製造禁止後ニ於ケル製鹽地ノ見込價額トシテ鑑定スヘシ

第十三條　明治四十三年法律第四十八號第五條及第六條ノ鑑定人ハ二人以上トシ專賣局長官之ヲ選定ス

前項ノ鑑定人ハ少クトモ其ノ半數ヲ專賣官吏以外ノ者ヨリ選定スヘシ

第十四條　明治四十三年法律第四十八號第五條及第六條ノ決定ハ專賣局長官之ヲ爲ス

前項ノ決定ヲ爲シタルトキハ其ノ決定書ヲ作リ之ヲ本人ニ交付スヘシ

第十五條　前條ノ決定ニ對シ不服ノ申立ヲ爲サムトスル者ハ決定書受領ノ日ノ翌日ヨリ起算シ十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ專賣局長官ヲ經テ大藏大臣ニ裁定ノ請求ヲ爲スヘシ

第十六條　大藏大臣前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ第十三條ニ依リ選定シタル鑑定人以外ノ者ヨリ二人以上ノ鑑定人ヲ選定シ再鑑定ヲ爲サシムヘシ

前項ノ鑑定人ハ少クトモ其ノ半數ヲ專賣官吏以外ノ者ヨリ選定ス

大藏大臣前條ノ請求ニ對シ裁定ヲ爲シタルトキハ其ノ裁定書ヲ作リ之ヲ本人ニ交付ス

第十七條　政府ハ鑑定人ヲシテ自己、親族又ハ後見、雇傭、同居其ノ他利害關係アル者ノ利害關係ヲ有スル物件ニ付鑑定ヲ爲サシメサルコトヲ得

第十八條　鑑定人ノ意見一致セサルトキハ各鑑定人ノ鑑定シタル價額ノ平均ヲ以テ鑑定價額トス

第十九條　鹽又ハ鹹水ノ製造ヲ禁止シタル際鹽又ハ鹹水製造者ノ所有スル鹹水ハ所轄鹽專賣官署長ノ認可ヲ受ケ其ノ指定シタル期間ニ限リ之ヲ製鹽ニ使用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ鹽製造者ハ遲滯ナク其ノ數量、禁止期間及鹽製造見込高ヲ申告スヘシ

鹽又ハ鹹水ノ製造ヲ禁止シタル際現存スル未納付鹽ハ禁止後二日以内ニ前項ニ依リ製造シタル鹽ハ製造後五日以内ニ所轄鹽專賣官署ニ其ノ數量ヲ申告シ其ノ指定シタル期日内ニ前二項ノ申告ヲ爲ササル者ハ科料ニ處ス

第二十條　交付金ノ下付請求者ニ對シ交付金ヲ給付セムトスルトキハ專賣局長官ハ明治四十年六大藏省令第二十五號第二號書式ニ準シ交付金給付通知書ヲ發スヘシ

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別記）

第一號樣式

製鹽地目錄

【明治】何年何月何日										何府縣何郡市何町村大字何字何何番地										何府縣何郡市何町村大字何字何何番地									
專賣局長官宛										何 某㊞																			
所有者住所氏名										何府縣何郡市何町村大字何字何何番地　何　某																			
（鹹水）製造者住所氏名										製造方法										種類									
										製鹽地場所										地番									
										地目										段別									
																				町									

ニハ被承繼者ノ分ヲ計入スヘカラス

七　納付鹽賠償金額又ハ鹹水實上代金ノ平均ハ屋位ヲ存スヘシ

八　製造許可後明治四十一年二月以後ニ於テ初テ製造ニ著手シタル者ノ納付鹽賠償金額又ハ鹹水實上代金ハ明治四十二年分ノミヲ記入スヘシ

九　煎熬場場所欄ニハ釜屋名ヲ附記スヘシ

十　自作小作區分欄ニハ採鹹地ノ所屬ニ依リ區分記入スヘシ

十一　鹹水製造ノ場合ニ在リテハ各年分ニ付實況先毎ニ數量及金額ヲ區分シタル明細書ヲ添附スヘシ

十二　本申請書ハ明治何年何月何日マテニ製鹽地所屬鹽專賣官署（支局、出張所）ニ提出スヘシ但シ二以上ノ鹽專賣官署所屬區域ニ渉リ製造スル者ニシテ他ノ鹽專賣官署ニ提出スヘキモノハ其ノ官署名ヲ附記スヘシ

十三　本申請書ハ郵便ニテ差出スコトヲ得但シ書留郵便ト爲スヲ要ス

十四　本申請書ニハ印鑑證明ヲ添附スヘシ但シ同一官署ニ提出シタル他ノ申請書ニ添附シタルトキハ之ヲ略シ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第五號樣式ノ一

製鹽地整理法第二條第三號交付金下付申請書（何通ノ內第何號）

明治四十三年法律第四十八號ニ依リ製鹽地ニ對スル交付金下付相成度同年大藏省令第二十號第二條ニ依リ申請候也

【明治】何年何月何日　何府縣何市郡何町村大字何字何何番地　何某㊞

專賣局長官宛

所有者住所氏名	何府縣何市郡何町村大字何字何何番地　何某
煎熬場場所	何府縣何市郡何町村大字何字何何番地
製造方法	
自作小作區分	

| (鹹水)製造者住所氏名 | 何府縣何市郡何町村大字何字何何番地　何某 | | |

鹽地所屬鹽專賣官署區域毎ニ調製スヘシ

三　申請者カ無能力者ナルトキハ法定代理人ノ記名捺印ヲ要ス此ノ場合ニ於テハ法定代理人タルコトヲ證スヘキ書類ヲ添附スヘシ

四　代理ヲ以テ本申請ヲ爲ストキハ委任狀ヲ添附スヘシ

六　本申請書ニハ其ノ紙數ヲ附記シ二枚以上ニ渉ルトキハ其ノ續目ニ契印スヘシ

七　種類欄ニハ明治四十三年大藏省令第二十號第五條及第六條各號ノ區分ニ據リ其ノ順號ヲ記入スヘシ

八　前項場所欄ニハ釜屋名ヲ附記スヘシ

九　明治四十三年大藏省令第二十號第六條ノ品目ハ專賣局長官ノ定ムル所ニ依リ記入スヘシ

十　同一物件ニシテ價格ニ相異アルモノハ區分記入スヘシ

十一　差額欄ニハ見積價額ヨリ禁止後見込價額ヲ控除シタル金額ヲ記入スヘシ

十二　本申請書ハ明治何年何月何日マテニ製鹽地所屬鹽專賣官署（支局、出張所）ニ提出スヘシ但シ二以上ノ鹽專賣官署ノ所屬區域ニ渉リ物件ヲ有スル者ニシテ他ノ鹽專賣官署ニ提出スヘキモノハ其ノ官署名ヲ附記スヘシ

十三　本申請書ハ郵便ニテ差出スコトヲ得但シ書留郵便ト爲スヲ要ス

十四　本申請書ニハ印鑑證明ヲ添附スヘシ但シ同一官署ニ提出シタル他ノ申請書ニ添附シタルトキハ之ヲ略シ其ノ旨ヲ附記スヘシ

●鹽及鹹水製造禁止區域

明治四十三年五月二日大藏省告示第六十八號
改正　大正元年第六一號

鹽專賣法第六條、第四十條ノ二及明治四十三年法律第四十八號第一條第一項ニ依リ明治四十三年九月三十日限左ノ區域ニ於テ鹽及鹹水ヲ製造スルコトヲ禁止ス但シ現ニ許可シタル沃度又ハ硝石製造副產鹽竝鹹水混和以外ノ再製鹽ノ製造ハ此ノ限ニ在ラス

京都府
　紳奈川縣
　長崎縣
　　西彼杵郡ノ內喜々津村、長與村、時津村、大串村
　　東彼杵郡
　　北高來郡
　　南高來郡
　　北松浦郡ノ內福島村、佐々村
　新潟縣
　千葉縣（千葉郡ノ內津田沼町、東葛飾郡ノ內南行德村、行德町、船橋町、葛飾村ヲ除ク）
　茨城縣
　群馬縣
　三重縣
　愛知縣
　　知多郡
　　碧海郡
　　寶飯郡ノ內大塚村
　　渥美郡
　靜岡縣
　長野縣
　宮城縣（桃生郡ノ內野蒜村、牡鹿郡ノ內稻井村、渡波町ヲ除ク）
　福島縣（石城郡ノ內小名濱町、字高山ヲ除ク）
　巖手縣
　青森縣
　山形縣
　秋田縣
　福井縣
　石川縣（鳳至郡ノ內輪島町、字出津町、大屋村、鵜ノ巢村、南志見村、三波村、鵜川村、諸橋村、町野村、珠洲郡ノ內小木村、上戶村、直村、正院村、三崎村、鵜島村、木郎村、寶立村、西海村ヲ除ク）
　鳥取縣
　和歌山縣
　愛媛縣
　　西宇和郡
　　北宇和郡
　高知縣
　福岡縣
　　福岡市
　　糟屋郡
　　糸島郡
　大分縣
　　南海部郡
　佐賀縣
　熊本縣
　　宇土郡ノ內戶馳村
　　葦北郡
　　天草郡
　宮崎縣
　鹿兒島縣
　　揖宿郡ノ內鵜娃村
　　川邊郡
　　日置郡
　　薩摩郡
　　出水郡
　　肝屬郡ノ內東串良村
　　囎唹郡

專賣局長官ハ前項ノ規定ニ拘ラス副產鹽ノ製造ニ限リ取締上不便ナシト認ムル地ニ於テ其ノ製造ヲ許可スルコトヲ得

明治四十四年五月二日大藏省告示第十號
改正　大正元年第六一號

鹽專賣法第六條第四十條ノ二及明治四十三年法律第四十八號第一條第一項ニ依リ明治四十四年九月三十日限左ノ區域ニ於テ鹽及鹹水ヲ製造スルコトヲ禁止ス但シ鹹水混和以外ノ再製鹽ノ製造ハ此ノ限ニ在ラス

　兵庫縣
　　三原郡
　岡山縣
　　邑久郡ノ內瓮掛村
　兒島郡ノ內下津井町
　小田郡ノ內金浦町
　廣島縣
　安藝郡
　佐伯郡
　賀茂郡ノ內仁方町
　御調郡ノ內三庄村
　深安郡
　山口縣
　玖珂郡（柳井町ヲ除ク）
　熊毛郡ノ內伊保庄村（大字高須濱、小田濱ヲ除ク）阿月村、室積町
　厚狹郡
　豐浦郡ノ內彥島村
　大津郡
　德島縣
　那賀郡
　香川縣
　大川郡
　　香川郡ノ內直島村字牛首、屛風
　三豐郡ノ內栢田村
　愛媛縣
　溫泉郡
　越智郡ノ內弓削村
　伊豫郡
　福岡縣
　宗像郡
　築上郡
　大分縣
　　東國東郡（姬島村ヲ除ク）
　　速見郡
　大分郡
　北海部郡
　熊本縣
　宇土郡
　玉名郡

八代郡
鹿兒島縣
　鹿兒島郡
　　揖宿郡

專賣局長官ハ前項ノ規定ニ拘ラス副產鹽ノ製造ニ限リ取締上不便ナシト認ムル地ニ於テ其ノ製造ヲ許可スルコトヲ得

●含鹽礦物輸入移入規則

明治三十九年三月三十日大藏省令第十三號
改正　大正一一年第四九號

含鹽礦物輸入移入規則左ノ通相定ム

含鹽礦物輸入移入規則

第一條　鹽專賣法第三條第二項ニ揭ケタル礦物ヲ輸入シタル者アル場合ニ於テ製鹽力其ノ礦物百分中四十以上ノ鹽化曹達ヲ含有スルモノナリト檢定シタルトキハ之ヲ輸入者ハ製鹽ノ指揮監督ニ從ヒ其ノ礦物ノ變性ヲ施スヘシ

前項輸入礦物ノ變性ハ其ノ礦物ノ重量百ニ對シ智利硝石ニ付テハ百分中五以下ノ鹽化曹達ヲ含有スル智利硝石六十「カイニット」「シルヴァイニット」「ポリハリット」「キーセリット」「カルナリット」「ハルトザルツ」其ノ他ノ礦物ニ付テハ百分中五以下ノ鹽化曹達ヲ含有スル智利硝石「カイニット」「シルヴァイニット」「ポリハリット」「キーセリット」「カルナリット」「ハルトザルツ」若ハ其ノ他ノ礦物六十ヲ混和シテ之ヲ爲スモノトス

第二條　鹽專賣法第三條第二項ニ揭ケタル礦物ヲ鹽專賣法ヲ施行セサル地ヨリ移入シタル者ハ直ニ移入地所轄ノ地方專賣局ヘ其ノ品名、用途、數量、仕入地名及積載船舶名ヲ記載シタル移入申告書ヲ提出スヘシ

第三條　前條ノ移入申告書ヲ提出スヘシ地方專賣局カ其ノ礦物百分中四十以上ノ鹽化曹達ヲ含有スルモノナリト檢定シタルトキハ移入者ノ指揮監督ニ從ヒ其ノ礦物ノ變性ヲ施スヘシ

第四條　食鹽ヲ製造セントスル者ハ政府ノ許可ヲ受クヘシ

食鹽ノ製造及製造者ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

含鹽礦物輸入移入規則

第一條　鹽專賣法第三條第二項ニ揭ケタル礦物ヲ輸入シタル者アル場合ニ於テ製鹽力其ノ礦物百分中四十以上ノ鹽化曹達ヲ含有スルモノナリト檢定シタルトキハ之ヲ輸入者ハ製鹽ノ指揮監督ニ從ヒ其ノ礦物ノ變性ヲ施スヘシ

前項輸入礦物ノ變性ハ其ノ礦物ノ重量百ニ對シ智利硝石ニ付テハ百分中五以下ノ鹽化曹達ヲ含有スル智利硝石六十「カイニット」「シルヴァイニット」「ポリハリット」「キーセリット」「カルナリット」「ハルトザルツ」其ノ他ノ礦物ニ付テハ百分中五以下ノ鹽化曹達ヲ含有スル智利硝石「カイニット」「シルヴァイニット」「ポリハリット」「キーセリット」「カルナリット」「ハルトザルツ」若ハ其ノ他ノ礦物六十ヲ混和シテ之ヲ爲スモノトス

第二條　鹽專賣法第三條第二項ニ揭ケタル礦物ヲ鹽專賣法ヲ施行セサル地ヨリ移入シタル者ハ直ニ移入地所轄ノ地方專賣局ヘ其ノ品名、用途、數量、仕入地名及積載船舶名ヲ記載シタル移入申告書ヲ提出スヘシ

第三條　前條ノ移入申告書ヲ提出スヘシ地方專賣局カ其ノ礦物百分中四十以上ノ鹽化曹達ヲ含有スルモノナリト檢定シタルトキハ移入者ノ指揮監督ニ從ヒ其ノ礦物ノ變性ヲ施スヘシ

前項輸入礦物ノ變性ハ其ノ礦物ノ重量百ニ對シ智利硝石ニ付テハ百分中五以下ノ鹽化曹達ヲ含有スル智利硝石六十「カイニット」「シルヴァイニット」「ポリハリット」「キーセリット」「カルナリット」「ハルトザルツ」其ノ他ノ礦物ニ付テハ百分中五以下ノ鹽化曹達ヲ含有スル智利硝石「カイニット」「シルヴァイニット」「ポリハリット」「キーセリット」「カルナリット」「ハルトザルツ」若ハ其ノ他ノ礦物六十ヲ混和シテ之ヲ爲スモノトス

第四條　食鹽ヲ製造セントスル者ハ政府ノ許可ヲ受クヘシ

食鹽ノ製造及製造者ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

食鹽ノ再製ハ之ヲ製造ト看做ス

第五條　食鹽製造者ノ製造シタル食鹽ハ政府之ヲ最納スル但シ命令ノ定ムル制限數量以內ノ食鹽ニシテ食鹽製造者ノ自家用ニ供スル爲當該官吏ノ檢查ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六條　食鹽製造者食鹽ヲ製造シタルトキハ之ヲ政府ニ納付スヘシ但シ前條但書ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラス

食鹽ノ納付場所ハ政府之ヲ定ム

第七條　食鹽製造者食鹽ヲ納付シタルトキハ政府ハ其ノ品質ヲ鑑定シ賠償金ヲ交付ス

食鹽ノ賠償價格ハ政府之ヲ定メ公示ス

第八條　食鹽製造者前條ノ鑑定ニ不服アルトキハ再鑑定ヲ求ムルコトヲ得但シ賠償金ノ請求ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

再鑑定ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條　食鹽製造者ノ納付セントスル食鹽ニシテ其ノ品質甚シク粗惡ナルモノニ付テハ政府ハ相當ノ處理ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

第十條　政府ハ需要供給ノ情況ニ依リ食鹽ノ製造期間又ハ製造數量ヲ制限スルコトヲ得

第十一條　政府ハ食鹽ノ納付期日、包裝、運搬方法及運搬通路ヲ指定スルコトヲ得

第十二條　食鹽ハ政府又ハ政府ノ指定シタル臺灣食鹽專賣規則ニ依リ勉裁ヲ得テ技ニ之ヲ公布ス

●臺灣食鹽專賣規則

大正十五年七月三十日
勅令第百五號

臺灣食鹽專賣規則改正ノ件大正十年法律第三號ニ依リ勉裁ヲ得テ技ニ之ヲ公布ス

臺灣食鹽專賣規則左ノ通改正ス

臺灣食鹽專賣規則

第一條　本令ニ於テ食鹽トハ百分中四十以上ノ鹽化曹達ヲ含有スル礦物ニシテ食用ニ供シ得ルモノヲ謂フ

第二條　政府ハ食鹽ノ專賣權ヲ有ス

第三條　食鹽ハ政府ノ政府又ハ政府ノ命ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ輸入スルコトヲ得ス

第四條　食鹽ヲ製造セントスル者ハ政府ノ許可ヲ受クヘシ

食鹽ノ製造及製造者ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

食鹽ノ再製ハ之ヲ製造ト看做ス

第五條　食鹽製造者ノ製造シタル食鹽ハ政府之ヲ最納スル但シ命令ノ定ムル制限數量以內ノ食鹽ニシテ食鹽製造者ノ自家用ニ供スル爲當該官吏ノ檢查ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六條　食鹽製造者食鹽ヲ製造シタルトキハ之ヲ政府ニ納付スヘシ但シ前條但書ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラス

食鹽ノ納付場所ハ政府之ヲ定ム

第七條　食鹽製造者食鹽ヲ納付シタルトキハ政府ハ其ノ品質ヲ鑑定シ賠償金ヲ交付ス

食鹽ノ賠償價格ハ政府之ヲ定メ公示ス

第八條　食鹽製造者前條ノ鑑定ニ不服アルトキハ再鑑定ヲ求ムルコトヲ得但シ賠償金ノ請求ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

再鑑定ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條　食鹽製造者ノ納付セントスル食鹽ニシテ其ノ品質甚シク粗惡ナルモノニ付テハ政府ハ相當ノ處理ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

第十條　政府ハ需要供給ノ情況ニ依リ食鹽ノ製造期間又ハ製造數量ヲ制限スルコトヲ得

第十一條　政府ハ食鹽ノ納付期日、包裝、運搬方法及運搬通路ヲ指定スルコトヲ得

第十二條　食鹽ハ政府又ハ政府ノ指定シタル食鹽小賣人ニ非サレハ之ヲ販賣スルコトヲ得ス

食鹽ノ販賣及販賣者ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條　食鹽販賣者ハ政府ノ定メタル制限價格ヲ超エテ食鹽ヲ販賣スルコトヲ得ス

第十四條　食鹽販賣者ハ食鹽ニ他物ヲ混和シテ販賣スルコトヲ得ス

第十五條　政府又ハ食鹽販賣者ヨリ買受ケタル食鹽ニ非サレハ之ヲ所有、所持、讓渡、質入又ハ消費スルコトヲ得ス但シ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ於テ認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十六條　政府ノ指定シタル用途ニ使用スル爲特定價格ヲ以テ買受ケタル食鹽ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ讓渡、質入、輸出又ハ他ノ用途ニ消費スルコトヲ得ス

輸出ノ爲特定價格ヲ以テ買受ケタル食鹽ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ臺灣ニ於テ讓渡、質入又ハ消費スルコトヲ得ス

第十七條　當該官吏ハ食鹽ノ製造場、貯藏場又ハ食鹽販賣者ノ營業場其ノ他必要ノ場所ニ立入リ食鹽、器具機械、帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢查シ又ハ取締上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

當該官吏ハ運搬中ニ在ル食鹽ヲ檢查シ必要ト認ムルトキハ其ノ運搬ヲ停止シ又ハ荷物若ハ船車ニ封印ヲ施スコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ當該官吏ハ關係人ヲシテ立會ハシムルコトヲ得

第十八條　食鹽製造者又ハ食鹽販賣者本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ政府ハ製造ノ許可若ハ販賣ノ指定ヲ取消シ又ハ製造若ハ販賣ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第十九條　食鹽製造者製造ノ許可ヲ取消サレタルトキ雖既ニ製造ヲ了シタル食鹽ニシ

テ未タ納付セサルモノニ付テハ仍本令ヲ適用ス

食鹽販賣者販賣ノ指定ヲ取消サレタル場合ニ於テ未タ販賣セサル食鹽現存スルトキハ政府ノ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ買戻スコトヲ得

第二十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第三條ノ規定ニ違反シテ食鹽ヲ輸入シタル者

二　第四條ノ規定ニ違反シテ食鹽ヲ製造シタル者

三　第十二條ノ規定ニ違反シテ食鹽ヲ販賣シタル者

四　第十五條ノ規定ニ違反シタル者

第二十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第十條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シテ食鹽ヲ製造シタル者

二　第十三條ノ規定ニ違反シテ制限價格ヲ超エテ食鹽ヲ販賣シタル者

三　第十四條ノ規定ニ違反シテ食鹽ニ他物ヲ混和シテ販賣シタル者

四　第十六條ノ規定ニ違反シタル者

五　第十八條ノ規定ニ依ル製造又ハ販賣ノ停止命令ニ違反シタル者

第二十二條　第十一條ノ規定ニ依ル指定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十三條　第二十條、第二十一條第一號又ハ第條第三號乃至第五號ノ罪ヲ犯シタル者ノ所有又ハ所持スル食鹽ニシテ犯罪ニ係ルモノハ之ヲ沒收ス既ニ讓渡、消費其ノ他ノ行爲ニ因リ所有及所持セサルニ至リタルトキハ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ追徵ス

前項ノ價格ハ政府之ヲ決定ス

第二十四條　當該官吏ノ職務執行ヲ妨ケタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法ニ規定アルモノハ刑法ニ依ル

第二十五條　本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者ニ付テハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヒス但シ刑法ニ規定シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條　食鹽ノ輸入者、製造者又ハ販賣者カ未成年者又ハ禁治產者ナル場合ニ於テ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ依リ處罰スヘキトキハ第二十四條ノ場合ヲ除キ其ノ法定代理人ヲ處罰ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條　食鹽ノ輸入者、製造者又ハ販賣者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者其ノ業務ニ關シ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ食鹽ノ輸入者、製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

第二十八條　間接國稅犯則者處分法ハ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ノ犯罪事件ニ付之ヲ準用ス

第二十九條　本令中輸入又ハ輸出ニ關スル規定ハ移入又ハ移出ニ付之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正十五年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

舊製食鹽以外ノ食鹽ニシテ本令施行ノ際現存スルモノニ付テハ本令ヲ適用セス但シ大正十五年八月一日以後ニ於テ其ノ食鹽ヲ販賣セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ニ申告スヘシ

●臺灣食鹽專賣規則施行規則

大正十五年七月三十日
總督府令第六十三號
改正　昭和二年第五號、第六八號、四年第一八號

臺灣食鹽專賣規則施行規則左ノ通相定ム

第一條　食鹽ヲ製造セントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ臺灣總督府專賣局長（以下專賣局長ト稱ス）ニ提出シ許可ヲ受クヘシ

一　住所、氏名若ハ名稱

二　鹽田ノ位置及面積

三　工場ノ位置及設備

四　製造方法

五　一年ノ製造見込高

第二條　食鹽製造ノ許可ヲ受ケタル者（以下製造者ト稱ス）左ニ揭ク場合ニ於テハ專賣局長ノ許可ヲ受クヘシ

一　鹽田面積ヲ增加セントスルトキ

二　工場ヲ新設、移轉、增築又ハ改築セントスルトキ

三　製造方法又ハ工場設備ヲ變更セントスルトキ

第三條　製造者左ニ揭ク場合ニ於テハ直ニ專賣局長ニ申告スヘシ

一　住所、氏名若ハ名稱ヲ變更シタルトキ

二　鹽田面積又ハ工場ヲ縮少シタルトキ

第四條　製造者死亡シタルトキハ相續人ハ六十日內ニ所轄專賣官署ニ申告シテ食鹽ノ製造ヲ承繼スルコトヲ得但シ第六條ノ規定ニ依リ許可ヲ受クルコトヲ得サル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ヲ除クノ外食鹽ノ製造ヲ承繼セントスル者ハ製造者ト連署シ專賣局長ノ許可ヲ受クヘシ但シ專賣局長ノ許可ヲ受ケタル場所ニ於テ其ノ指定シタル運送人ヲ以テ運送スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五條　製造者食鹽ノ製造ヲ廢止セントストキハ其ノ旨豫メ所轄專賣官署ニ申告スヘシ

第六條　臺灣食鹽專賣規則ニ違反シ處罰又ハ處分ヲ受ケ二年ヲ經サル者ハ食鹽製造ノ許可ヲ受クルコトヲ得ス

第七條　製造者食鹽ヲ製造シタルトキハ政府ノ定ムル期日ニ之ヲ所轄專賣官署ニ納付スヘシ

前項ノ期日ハ所轄專賣官署長之ヲ定ム

製造者ノ納付セントスル食鹽ニシテ其ノ品質甚シク粗惡ナルトキハ所轄專賣官署長ハ相當ノ處理ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

第八條　製造者食鹽ヲ納付シタルトキハ專賣官署ハ其ノ品質ヲ鑑定シ秤量ノ上之ヲ收納ス

專賣官署ハ收納シタル食鹽ニ對シ賠償金ヲ交付ス

第九條　製造者再鑑定ヲ求メントスルトキハ其ノ要領ヲ具シ即時所轄專賣官署長ニ申立ツヘシ

再鑑定ノ申立アリタルトキハ專賣官署長ハ二人以上ノ鑑定人ヲ指定シテ更ニ鑑定ヲ爲サシメ其ノ品質ノ等級ヲ決定ス

再鑑定ニ依リ其ノ等級決定シタルトキハ所轄專賣官署長ハ決定書ヲ作リ之ヲ再鑑定申立人ニ交付ス

再鑑定ノ結果其ノ等級當初鑑定ノ等級ヨリ上進セサルトキハ再鑑定ニ要シタル費用ハ申立人ノ負擔トス

第十條　製造者其ノ製造シタル食鹽ヲ自家用可ヲ受クヘシ但シ專賣局長正當ノ事由アリト認メタルトキハ製造者ノ連署ヲ要セス

第十一條　製造者食鹽ノ製造ヲ廢止セントストキハ其ノ旨豫メ所轄專賣官署ニ申告スヘシ

第十二條　臺灣食鹽專賣規則第十條ノ許可ヲ受ケタル者ハ食鹽ヲ製造シタル場所ニ於テ食鹽ヲ販賣スルトキハ其ノ都度代金ヲ受取リ即時之ヲ交付スヘシ

第十三條　食鹽ノ販賣價格ハ政府之ヲ定ム

第十四條　食鹽ノ販賣ハ政府ノ指定シタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條　食鹽ノ販賣ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ專賣局長ニ提出シ許可ヲ受クヘシ

一　住所、氏名若ハ名稱

二　販賣ノ場所

三　販賣ノ方法

四　販賣ノ期間

第十六條　食鹽販賣者ハ販賣ノ場所ニ於テ販賣ノ價格ヲ明示スヘシ

第十七條　食鹽販賣者ハ販賣ノ場所ニ於テ食鹽ヲ販賣スルトキハ其ノ都度代金ヲ受取リ即時之ヲ交付スヘシ

第十八條　食鹽販賣者ハ販賣ノ場所ニ於テ食鹽ヲ販賣スルトキハ其ノ都度代金ヲ受取リ即時之ヲ交付スヘシ

第十九條　食鹽販賣者ハ販賣ノ場所ニ於テ食鹽ヲ販賣スルトキハ其ノ都度代金ヲ受取リ即時之ヲ交付スヘシ

第二十條　食鹽販賣者ハ販賣ノ場所ニ於テ食鹽ヲ販賣スルトキハ其ノ都度代金ヲ受取リ即時之ヲ交付スヘシ

第二十一條　食鹽販賣者ハ販賣ノ場所ニ於テ食鹽ヲ販賣スルトキハ其ノ都度代金ヲ受取リ即時之ヲ交付スヘシ

第二十二條　食鹽販賣者ハ販賣ノ場所ニ於テ食鹽ヲ販賣スルトキハ其ノ都度代金ヲ受取リ即時之ヲ交付スヘシ

第二十三條　食鹽販賣者ハ販賣ノ場所ニ於テ食鹽ヲ販賣スルトキハ其ノ都度代金ヲ受取リ即時之ヲ交付スヘシ

第二十四條　食鹽販賣者ハ販賣ノ場所ニ於テ食鹽ヲ販賣スルトキハ其ノ都度代金ヲ受取リ即時之ヲ交付スヘシ

第二十五條　食鹽販賣者ハ販賣ノ場所ニ於テ食鹽ヲ販賣スルトキハ其ノ都度代金ヲ受取リ即時之ヲ交付スヘシ

第二十六條　食鹽販賣者ハ販賣ノ場所ニ於テ食鹽ヲ販賣スルトキハ其ノ都度代金ヲ受取リ即時之ヲ交付スヘシ

第二十七條　食鹽販賣者ハ販賣ノ場所ニ於テ食鹽ヲ販賣スルトキハ其ノ都度代金ヲ受取リ即時之ヲ交付スヘシ

第二十八條　食鹽販賣者ハ販賣ノ場所ニ於テ食鹽ヲ販賣スルトキハ其ノ都度代金ヲ受取リ即時之ヲ交付スヘシ

第二十九條　食鹽販賣者ハ販賣ノ場所ニ於テ食鹽ヲ販賣スルトキハ其ノ都度代金ヲ受取リ即時之ヲ交付スヘシ

第三十條　食鹽販賣者ハ販賣ノ場所ニ於テ食鹽ヲ販賣スルトキハ其ノ都度代金ヲ受取リ即時之ヲ交付スヘシ

第三十一條　食鹽販賣者ハ販賣ノ場所ニ於テ食鹽ヲ販賣スルトキハ其ノ都度代金ヲ受取リ即時之ヲ交付スヘシ

第三十二條　食鹽販賣者ハ販賣ノ場所ニ於テ食鹽ヲ販賣スルトキハ其ノ都度代金ヲ受取リ即時之ヲ交付スヘシ

第三十三條　食鹽販賣者ハ販賣ノ場所ニ於テ食鹽ヲ販賣スルトキハ其ノ都度代金ヲ受取リ即時之ヲ交付スヘシ

申告シテ專賣官吏ノ檢查ヲ受クヘシ

自家用鹽ノ數量ノ製造者並其ノ家族及從業者一人ニ付一年十五斤ヲ超ユルコトヲ得ス

第十一條　食鹽ノ製造期間又ハ製造高ヲ制限スル必要アルトキハ專賣局長之ヲ定メ製造者ニ通知ス

第十二條　食鹽製造ノ方法又ハ政府ニ納付スヘキ食鹽ノ包裝、貯藏若ハ運搬方法又ハ運搬通路ヲ指定スル必要アルトキハ所轄專賣官署長之ヲ定メ製造者ニ通知ス

第十三條　專賣局長必要ト認ムルトキハ製造者ニ食鹽ノ製造若ハ貯藏設備ノ圖面又ハ製造用器具機械ノ目錄ヲ提出スヘキコトヲ命スルコトヲ得

第十四條　製造者ハ帳簿ヲ備ヘ左ノ事項ヲ記載スヘシ但シ所轄專賣官署長ノ許可ヲ受ケタルトキハ其ノ記載事項ヲ省略シ又ハ帳簿ヲ備ヘサルコトヲ得

一　製造シタル食鹽ノ種類、數量及製造年月日

二　政府ニ納付シタル食鹽ノ種類、數量及納付年月日

三　原料トシテ買入レタル食鹽ノ種類、數量、價格、受入年月日及受入先

四　原料トシテ使用シタル食鹽ノ種類、數量及使用年月日

五　自家用トシテ檢查ヲ受ケタル食鹽ノ種類、數量及檢查年月日

專賣官署長必要ト認ムルトキハ前項各號ノ外記載事項ヲ指示スルコトヲ得

第十五條　製造者食鹽製造場所在地ニ現住セサルトキハ委託食鹽專賣規則及本令ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲代理人ヲ定メ連署シテ專賣局長ニ申告スヘシ

第十六條　食鹽製造許可ノ取消又ハ食鹽製造停止ノ命令ハ書面ヲ以テ專賣局長之ヲ製造者ニ通知ス

第十七條　製造者死亡シタルトキ現存スル食鹽ノ相續人又ハ管理人ニ於テ直ニ所轄專賣官署ニ納付スヘシ

第十八條　食鹽販賣者（以下販賣者ト稱ス）ヲ分チテ食鹽元賣捌人（以下賣捌人ト稱ス）及食鹽小賣人（以下小賣人ト稱ス）トス

第十九條　賣捌人ハ政府ヨリ食鹽ヲ買受ケ之ヲ小賣人ニ賣渡スモノトス但シ專賣局長必要ト認ムルトキハ直接消費者ニ賣渡サシムルコトヲ得

小賣人ハ賣捌人ヨリ食鹽ヲ買受ケ之ヲ消費者ニ賣渡スモノトス

專賣局長ハ賣捌人ノ食鹽賣捌區域ヲ指定スルコトヲ得

食鹽賣捌區域ヲ指定シタル場合ニ於テハ賣捌人ハ其ノ指定區域外ノ小賣人ニ食鹽ヲ賣渡スコトヲ得ス又小賣人ハ其ノ所屬以外ノ賣捌人ヨリ食鹽ヲ買受クルコトヲ得ス但シ專賣局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十條　販賣者ハ三年內ノ期間ヲ以テ專賣局長之ヲ指定ス

第二十一條　賣捌人ノ指定ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ履歷書ヲ添附シ專賣局長ニ提出スヘシ

小賣人ノ指定ヲ受ケントスル者ハ申請書ヲ專賣局長ニ提出スヘシ

第二十二條　販賣者死亡シタルトキハ相續人ハ三十日以內ニ專賣局長ニ申告シテ殘期間營業ヲ繼續スルコトヲ得但シ第二十五條ノ規定ニ依リ販賣者ニ指定セラルルコトヲ得サル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條　賣捌人其ノ營業ヲ廢止セントスルトキハ少クトモ三十日前ニ其ノ旨專賣局長ニ申告スヘシ

小賣人其ノ營業ヲ廢止セントスルトキハ其ノ旨賣捌人所轄專賣官署ニ申告スヘシ

第二十四條　販賣者住所、氏名若ハ名稱ヲ變更シタルトキハ直ニ專賣局長ニ申告スヘシ

第二十五條　左ニ揭クル者ハ販賣者ニ指定セラルルコトヲ得ス

一　臺灣食鹽專賣規則ニ違反シ處罰又ハ處分ヲ受ケ二年ヲ經サル者

二　第三十九條ノ規定ニ依リ販賣者ノ指定ヲ取消サレ二年ヲ經サル者

三　破產者ニシテ未タ復權セサル者

四　國稅滯納處分又ハ之ニ準スル處分ヲ受ケ二年ヲ經サル者

五　禁錮以上ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リタルトキヨリ二年ヲ經サル者又ハ假出獄中若ハ刑ノ執行猶豫中ノ者

第二十六條　販賣者ハ營業場ハ一人一箇所トス但シ專賣局長必要ト認ムルトキハ賣捌人ニ對シ二箇所以上ノ營業場ノ設置ヲ命スルコトヲ得

賣捌人其ノ營業場ヲ移轉若ハ廢止セントスルトキハ又ハ食鹽貯藏場（以下貯藏場ト稱ス）ヲ設置、移轉若ハ廢止セントスルトキハ專賣局長ノ許可ヲ受クヘシ

小賣人其ノ營業場ヲ移轉セントスルトキハ所轄專賣官署長ノ許可ヲ受クヘシ

第二十七條　販賣者ハ營業場ノ見易キ場所ニ標札及食鹽賣捌價格表ヲ揭クヘシ

賣捌人貯藏場ヲ設置シタルトキハ見易キ場所ニ標札ヲ揭クヘシ

第二十八條　賣捌人食鹽ノ賣渡ヲ受ケントスルトキハ食鹽ノ種類及數量ヲ記載シタル食鹽賣渡請求書ヲ專賣局長ニ提出スヘシ

第二十九條　賣捌人食鹽賣渡ノ通知ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク代金ヲ納付シ又ハ擔保ヲ提出スヘシ

第三十條　賣捌人前條ノ擔保ヲ提供シタル場合ニ於テ食鹽買受代金ヲ其ノ納付期日迄ニ納付セサルトキハ專賣局長ハ百圓ニ付日歩三錢ノ割合ヲ以テ遲延利息ヲ徵收スルコトヲ得

第三十一條　政府ヨリ賣捌人ニ賣渡シ食鹽ハ專賣官署又ハ專賣官署長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ引渡スモノトス

專賣官署又ハ專賣官署長ノ指定シタル場所ヨリ賣捌人ノ營業場、貯藏場若ハ賣捌人カ特ニ專賣局長ノ許可ヲ受ケ小賣人ニ食鹽ヲ引渡ス場所ニ至ル迄ノ運賃竝包裝費ハ一定ノ割合ヲ以テ政府之ヲ支給ス

專賣局長必要ト認ムルトキハ賣捌人ニ賣渡シタル食鹽ノ運送ニ付其ノ運送人ヲ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ指定シタル運送人ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ食鹽滅失若ハ毀損シタルトキハ政府ハ現品ノ補給又ハ引替ヲ爲スコトヲ得

第三十二條　賣捌人ヨリ小賣人ニ賣渡ス食鹽ハ賣捌人ノ營業場ニ於テ之ヲ引渡スモノトス但シ專賣局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ營業場以外ノ場所ニ於テ引渡スコトヲ得

前項ノ引渡場所ヨリ小賣人ノ營業場ニ至ル迄ノ食鹽運賃ハ專賣局長之ヲ認定シ小賣人ニ通知ス

第三十三條　賣捌人他ノ賣捌人ヨリ食鹽ヲ買受ケントスルトキハ專賣局長ノ許可ヲ受ク

トキハ專賣局長ハ其ノ指定ヲ取消シ又ハ販賣ノ停止ヲ命スルコトヲ得

一　第二十五條第一號、第三號、第四號又ハ第五號ニ該當スルニ至リタルトキ

二　本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ

三　納付期日ヲ過キ食鹽ノ買受代金ヲ完納セス又ハ故ナク買受ケタル食鹽ヲ引取ラサルトキ

四　賣捌人正當ノ事由ナクシテ七日以上引續キ其ノ營業ヲ爲ササルトキ

五　小賣人正當ノ事由ナクシテ三十日以上引續キ其ノ營業ヲ爲ササルトキ

六　業務ノ遂行上不適當ト認メタルトキ

第四十條　賣捌人死亡シ其ノ營業ヲ承繼スル者ナキトキ、其ノ指定期間滿了シ引續キ指定セラレサルトキ、指定ヲ取消サレタルトキ若ハ營業ヲ廢止シタルトキニ於テ現存スル食鹽ハ專賣官署ノ許可ヲ受ケ最寄ノ賣捌人ニ賣渡スコトヲ得此ノ場合ニ於ケル買戻若ハ賣渡價格ハ賣捌人ニ對スル現行ノ賣渡價格ニ依ル

前項ノ場合ニ於テ食鹽ノ品質惡變シタルモノアルトキハ政府又ハ賣捌人ハ其ノ買戻若ハ賣渡ヲ拒ムコトヲ得

第四十一條　小賣人死亡シ其ノ營業ヲ承繼スル者ナキトキ、其ノ指定期間滿了シ引續キ指定セラレサルトキ、指定ヲ取消サレタルトキ若ハ營業ヲ廢止シタルトキニ於テ現存スル食鹽ハ專賣官署ノ許可ヲ受ケ最寄ノ賣捌人ニ賣渡スコトヲ得此ノ場合ニ於ケル買戻若ハ賣渡價格ハ賣捌人ニ對スル現行ノ賣渡價格ニ依ル

前項ノ場合ニ於テ食鹽ノ品質惡變シタルモノアルトキハ政府又ハ賣捌人ハ其ノ買戻若ハ買受金額ヨリ價格ノ減少ニ相當スル金額ヲ控除ス

第四十二條　小賣人又ハ小賣人ノ相續人若ハ管理人カ前條ニ依リ食鹽ノ買受ヲ請求シタルトキハ賣捌人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第四十三條　政府ノ指定シタル用途ニ使用スル食鹽（以下特別用鹽ト稱ス）ノ賣渡ヲ受ケントスル者ハ其ノ用途及食鹽ノ種類、數量竝使用ノ場所ヲ記載シタル特別用鹽賣渡願書ヲ專賣局長ニ提出スヘシ

第二十九條、第三十條及第三十一條ノ規定ハ前項ノ買受者ニ之ヲ準用ス

第四十四條　特別用鹽ヲ買受ケタル者食鹽ヲ其ノ用途ニ使用スルコト能ハサルニ至リタルトキハ現存スル食鹽ハ所轄專賣官署ノ許可ヲ受ケ同一用途ニ使用スル者若ハ政府カ同一價格ヲ以テ賣渡ス他ノ用途ノ食鹽使用者ニ賣渡シ又ハ專賣發生ノ日ヨリ三十日內ニ所轄專賣官署ニ其ノ買戻ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル賣渡若ハ買戻價格ハ其ノ用途ニ付定メタル現行ノ賣渡價格ニ依ル

第四十條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十五條　輸出ノ爲食鹽ノ賣渡ヲ受ケントスル者ハ食鹽ノ種類、數量、仕向地、積出地及積出豫定期日ヲ記載シタル輸出鹽賣渡願書ヲ專賣局長ニ提出スヘシ

第二十九條、第三十條及第三十一條第一項ノ規定ハ前項ノ買受者ニ之ヲ準用ス

第四十六條　輸出ノ爲食鹽ノ賣渡ヲ受ケタル者其ノ食鹽ヲ輸出スルコト能ハサルニ至リタルトキハ現存スル食鹽ハ專賣局長ノ許可ヲ受ケ仕向地ヲ同シクスル他ノ輸出者ニ賣渡シ又ハ現品ノ所在地ヲ管轄スル專賣官署ニ其ノ買戻ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ食鹽ノ品質惡變シタルモノアルトキハ政府又ハ賣捌人ハ其ノ買戻若ハ賣渡ヲ拒ムコトヲ得

第四十七條　政府ヨリ販賣者ニ賣渡ス食鹽ノ價格及輸出鹽ノ賣渡價格ハ專賣局長之ヲ定ム

第四十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　製造者第二條ノ規定ニ違反シタルトキ

二　製造者政府ノ指定シタル食鹽ノ製造方法ニ違反シタルトキ

第四十九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ科料ニ處ス

一　製造者第十三條ノ命令ニ違反シタルトキ

二　第十四條、第三十八條ノ規定ニ違反シテ帳簿ヲ備ヘス又ハ帳簿ヲ備フルモ其ノ記載ヲ怠リ若ハ之ニ不實ノ記載ヲ爲シタルトキ

三　販賣者第十九條第四項ノ規定ニ違反シタルトキ

四　販賣者第二十六條ノ規定又ハ命令ニ違反シタルトキ

五　販賣者第二十七條又ハ第三十五條ノ規定ニ違反シタルトキ

六　小賣人ハ賣買許可證ノ下付ヲ受ケス若ハ出賣許可證ヲ携帶セスシテ出賣ヲ爲シタルトキ

第五十條　削除

第五十一條　本令中輸出ニ關スル規定ハ移出ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十二條　本令ニ依リ專賣局長ニ提出スヘキ書類ハ第二十一條第一項、第二十八條、第

ヘシ

專賣局長必要ト認ムルトキハ賣捌人ニ對シ他ノ賣捌人ニ食鹽ノ賣渡ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ食鹽ノ運賃竝包裝費ハ政府之ヲ支給ス

第三十四條　專賣局長必要ト認ムルトキハ賣捌人ニ指定シタル者ニ對シ其ノ者ヲ賣捌人ト看做シ食鹽ノ賣渡ヲ爲スコトヲ得

專賣局長必要ト認ムルトキハ小賣人ニ對シ直接食鹽ノ賣渡ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於ケル賣渡價格ハ賣捌人カ小賣人ニ對スル現行ノ賣渡價格ニ依ル

第二十八條乃至第三十一條ノ規定ハ前項ノ買受者ニ之ヲ準用ス

第三十五條　販賣者ハ其ノ營業場又ハ貯藏場ニ非サレハ食鹽ヲ藏置スルコトヲ得ス

第三十六條　小賣人食鹽ノ出賣ヲ爲サントスルトキハ所轄專賣官署ニ申請シ別記第一號樣式ノ食鹽出賣許可證（以下出賣許可證ト稱ス）ノ下付ヲ受クヘシ

前項ノ出賣許可證ハ出賣ノ際之ヲ携帶スヘシ

第三十七條　專賣局長ハ販賣者ノ營業場又ハ貯藏場ノ位置若ハ其ノ設備又ハ營業場ニ備付クヘキ食鹽ノ種類若ハ數量其ノ他業務上必要ト認ムル事項ニ付指示スルコトヲ得

第三十八條　賣捌人ハ營業場每ニ帳簿ヲ備ヘ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　買受ケタル食鹽ノ種類、數量、價格、受入年月日及受入先

二　賣渡シタル食鹽ノ種類、數量、價格、賣渡年月日及賣渡先

小賣人ハ帳簿ヲ備ヘ買受ケタル食鹽ノ種類、數量、價格、買入年月日、買入先及其ノ食鹽ニ付要シタル運賃額ヲ記載スヘシ

第三十九條　販賣者左ノ各號ノ一ニ該當スル

四十三條及第四十五條ノ場合ヲ除クノ外別表ノ區域ニ依リ當該專賣官署ヲ經由スヘシ

但シ第二十八條及第四十三條ニ依リ提出スヘキ書類ニシテ花蓮港廳及臺東廳管內ノ者ヨリ提出スル場合ニ在リテハ臺灣總督府專賣局花蓮港支局ニ、臺中州管內ノ者ヨリ提出スル場合ニ在リテハ臺灣總督府專賣局臺南支局ニ、臺南州、高雄州及澎湖廳管內ノ者ヨリ提出スル場合ニ在リテハ臺灣總督府專賣局臺南支局ニ提出スヘシ

附　則

第五十三條　本令ハ大正十五年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五十四條　臺灣食鹽專賣規則施行細則及食鹽請賣規則ハ之ヲ廢止ス

第五十五條　本令施行ノ際從前ノ規定ニ依リ現ニ食鹽ヲ製造スル者ハ本令ノ規定ニ依リ食鹽製造ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス但シ大正十五年八月三十一日迄ニ第一條各號ノ事項ヲ記載シタル申告書ヲ所轄專賣官署ニ提出スヘシ

第五十六條　本令施行ノ際現ニ食鹽請賣人タル者ハ大正十六年九月三十日迄本令ノ規定ニ依リ食鹽小賣人ニ指定セラレタルモノト看做ス

第五十七條　本令施行ノ際現ニ所有スル粗製食鹽以外ノ食鹽ヲ販賣セントスル者ハ大正十五年八月三十一日迄ニ左ノ事項ヲ記載シタル申告書ヲ所轄專賣官署ニ提出スヘシ

一　住所、氏名若ハ名稱

二　食鹽ノ種類、數量及所在

三　販賣ノ場所

前項ノ申告ヲ爲シタル者其ノ食鹽ヲ販賣シタルトキハ每月五日迄ニ其ノ前月中ノ販賣高ヲ所轄專賣官署ニ申告スヘシ

第五十八條　本令施行ノ際現ニ食鹽製造ノ業ヲ營ム者ハ大正十六年九月三十日迄ニ製造場ヲ廢止スルカ又ハ第一條各號ノ事項ヲ記載シタル申告書ヲ所轄專賣官署ニ提出スヘシ

第五十九條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ本令ノ規定ニ依リ販賣又ハ製造ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第六十條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ貯藏スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ其ノ貯藏場ノ位置ヲ所轄專賣官署ニ申告スヘシ

第六十一條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第三十五條ノ規定ニ依リ營業場ニ備付クヘキ帳簿ヲ備ヘ付ケ第三十八條ノ規定ニ依リ帳簿ヲ備ヘ付ケ且第三十九條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第六十二條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第三十六條ノ規定ニ依リ食鹽出賣許可證ノ下付ヲ受ケ且第三十七條ノ規定ニ依リ營業場ニ備付ケヘキ帳簿ヲ備ヘ付ケ且第三十九條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第六十三條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第三十七條ノ規定ニ依リ營業場ニ備付ケヘキ帳簿ヲ備ヘ付ケ且第三十九條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第六十四條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第三十八條ノ規定ニ依リ帳簿ヲ備ヘ付ケ且第三十九條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第六十五條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第三十九條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第六十六條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第四十條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第六十七條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第四十一條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第六十八條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第四十二條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第六十九條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第四十三條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第七十條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第四十四條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第七十一條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第四十五條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第七十二條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第四十六條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第七十三條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第四十七條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第七十四條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第四十八條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第七十五條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第四十九條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第七十六條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第五十條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第七十七條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第五十一條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第七十八條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第五十二條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第七十九條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第五十三條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第八十條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第五十四條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第八十一條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第五十五條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第八十二條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第五十六條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第八十三條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第五十七條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第八十四條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第五十八條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第八十五條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第五十九條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第八十六條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第六十條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第八十七條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第六十一條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第八十八條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第六十二條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第八十九條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第六十三條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第九十條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第六十四條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第九十一條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第六十五條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第九十二條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第六十六條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第九十三條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第六十七條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第九十四條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第六十八條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第九十五條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第六十九條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第九十六條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第七十條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第九十七條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第七十一條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第九十八條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第七十二條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第九十九條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第七十三條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第七十四條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百一條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第七十五條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百二條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第七十六條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百三條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第七十七條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百四條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第七十八條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百五條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第七十九條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百六條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第八十條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百七條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第八十一條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百八條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第八十二條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百九條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第八十三條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百十條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第八十四條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百十一條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第八十五條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百十二條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第八十六條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百十三條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第八十七條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百十四條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第八十八條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百十五條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第八十九條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百十六條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第九十條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百十七條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第九十一條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百十八條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第九十二條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百十九條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第九十三條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百二十條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第九十四條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百二十一條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第九十五條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百二十二條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第九十六條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百二十三條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第九十七條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百二十四條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第九十八條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百二十五條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第九十九條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百二十六條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第百條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百二十七條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第百一條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百二十八條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第百二條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百二十九條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第百三條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百三十條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第百四條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百三十一條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第百五條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百三十二條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第百六條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百三十三條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第百七條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百三十四條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第百八條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百三十五條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第百九條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百三十六條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第百十條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百三十七條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第百十一條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百三十八條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第百十二條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百三十九條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第百十三條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百四十條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第百十四條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百四十一條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第百十五條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百四十二條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第百十六條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百四十三條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第百十七條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百四十四條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第百十八條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百四十五條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第百十九條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百四十六條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第百二十條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百四十七條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第百二十一條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百四十八條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第百二十二條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百四十九條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄ニ第百二十三條ノ規定ニ依リ販賣者ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラサルヤウ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第百五十條　本令施行ノ際現ニ食鹽ヲ販賣シ又ハ製造スル者ハ大正十六年九月三十日迄

チ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ輸入スルコトヲ得ス

皮付白蔘、水蔘又ハ人蔘種子ハ政府及政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ輸出スルコトヲ得ス

第三條　人蔘ヲ耕作セムトスル者ハ耕作坪數ヲ定メ免許ヲ受クヘシ

人蔘耕作者耕作ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

人蔘耕作者耕作坪數ヲ變更セムトスルトキハ許可ヲ受クヘシ

第四條　人蔘ノ耕作ヲ相續ニ因リ承繼シタルトキハ遲滯ナク之ヲ屆出ツヘシ

前項ノ場合ヲ除クノ外人蔘ノ耕作ヲ承繼セムトスルトキハ免許ヲ受クヘシ

第五條　朝鮮總督ノ指定シタル耕作區域內ニ於テ收穫シタル水蔘ニシテ紅蔘ノ製造原料ニ適スルモノハ政府之ヲ收納ス

第六條　前條ノ耕作區域內ニ於テ耕作シタル人蔘ハ其ノ收穫量及根數ノ查定ヲ受クルニ非サレハ之ヲ收穫スルコトヲ得ス

第七條　第五條ノ耕作區域內ニ於テ收穫シタル水蔘ハ朝鮮總督ノ指定シタル期日迄ニ其ノ指定シタル場所ニ之ヲ搬入スヘシ

前項ノ規定ニ依リ搬入シタル水蔘ニシテ政府ニ收納セラレサルモノハ人蔘耕作者之ヲ搬出スヘシ

第八條　政府ハ其ノ收納シタル水蔘ニ對シ賠償金ヲ交付ス

水蔘ノ賠償價格ハ朝鮮總督難メノ之ヲ告示ス

第九條　人蔘耕作者第五條ノ耕作區域內ニ於ケル耕作坪數ヲ減少シ又ハ耕作ヲ廢止シタルトキハ政府ハ人蔘ノ廢棄其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十條　紅蔘ハ政府及政府ノ指定シタル賣捌人ニ非サレハ之ヲ販賣スルコトヲ得ス

紅蔘ノ賣捌ニ關スル規程ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第十一條　賞該官吏ハ人蔘ノ苗圃、耕作地、乾燥場、貯藏場、店舖其ノ他必要ト認ムル場所ニ立入リ帳簿物件ヲ檢查シ又ハ取締上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十二條　人蔘耕作者本令ニ違反シタルトキハ政府ハ耕作ノ免許ヲ取消スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ耕作ノ免許ヲ取消シタルトキハ政府ハ人蔘ノ廢棄其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十三條　紅蔘ヲ製造シ又ハ製造ノ準備ヲ爲シタル者ハ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル紅蔘、紅蔘原料及製造器具ハ之ヲ沒收ス

第十四條　政府ノ命ヲ受クシテ紅蔘若ハ人蔘種子ノ輸入ヲ圖リ若ハ輸入ヲ爲シタル者又ハ政府ノ許可ヲ受クシテ皮付白蔘、水蔘若ハ人蔘種子ノ輸出ヲ圖リ若ハ輸出ヲ爲シタル者ハ其ノ紅蔘、皮付白蔘、水蔘又ハ人蔘種子ノ價格ノ十倍ニ相當スル罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル物件ニシテ犯人ノ所有シ又ハ所持スルモノハ之ヲ沒收ス但シ其ノ罰金額ハ百圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル物件ニシテ犯人ノ所有シ又ハ所持スルモノハ之ヲ沒收ス

一　第三條第一項又ハ第四條第二項ノ免許ヲ受クシテ人蔘ヲ耕作シタル者

二　第六條ノ規定ニ違反シタル者

三　第五條ノ耕作區域內ニ於テ收穫シタル水蔘ヲ朝鮮總督ノ指定シタル場所ニ搬入前消費シ、隱藏シ又ハ他人ニ引渡シタル者

四　政府ノ指定シタル賣捌人ニ非スシテ紅蔘ヲ販賣シ又ハ販賣ノ準備ヲ爲シタル者

第十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第五條ノ耕作區域內ノ人蔘耕作者ニシテ第三條第二項又ハ第三項ノ規定ニ違反シタル者

二　第四條第一項ノ屆出ヲ怠リタル者

三　第五條ノ耕作區域內ニ於テ收穫シタル水蔘ヲ正當ノ事由ナクシテ朝鮮總督ノ指定シタル期日迄ニ搬入セサル者

第十七條　第十三條、第十四條又ハ第十五條ノ規定ニ依リ沒收スヘキ物件ヲ讓渡、消費其ノ他ノ事由ニ依リ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ追徵ス

第十八條　賞該官吏ノ職務ノ執行ヲ妨ケタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十九條　朝鮮間接國稅犯則者處分令及大正元年制令第四號ノ規定ハ本令ノ犯罪事件ニ付之ヲ準用ス但シ朝鮮間接國稅犯則者處分令ニ定メタル職務ヲ行フ官吏ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第二十條　本令中輸入又ハ輸出ニ關スル規定ハ紅蔘、皮付白蔘、水蔘又ハ人蔘種子ヲ內地、臺灣若ハ樺太ヨリ移入シ又ハ內地、臺灣若ハ樺太ニ移出スル場合ニ付之ヲ準用ス

附　則

本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム

大正三年法律第十四號紅蔘專賣法ハ之ヲ廢止ス

舊法ニ依リ爲シタル免許、處分其ノ他ノ行爲ハ本令中之ニ相當スル規定アルトキハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

（大正九年朝鮮總督府令第百六十七號）

ヲ以テ同年十一月十五日ヨリ施行

●紅蔘專賣令施行規則

大正九年十一月六日
朝鮮總督府令第百六十八號
改正　大正一一年第一〇九號、一三年第二三號
昭和二年第五四號

紅蔘專賣令施行規則左ノ通定ム

第一條　人蔘耕作ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ蔘苗ヲ購入シテ人蔘ヲ耕作スル場合ニ在リテハ移植ノ前年一月末日迄ニ、其ノ他ノ場合ニ在リテハ播種ノ前年一月末日迄ニ第一號樣式ノ申請書ニ免許證ヲ添附シ之ヲ提出スヘシ

第二條　免許證記載ノ年ニ播種又ハ移植ヲ爲ササリシトキハ前條ノ免許ハ其ノ效力ヲ失フ

第三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ人蔘耕作ノ免許ヲ爲ササルコトアルヘシ

一　人蔘ニ關スル法令ニ違背シ又ハ人蔘耕作ニ關シ政府ノ指示ニ從ハサル者其ノ他人蔘耕作者タルニ不適當ナリト認ムル者

二　人蔘耕作ノ成績不良ナル者

三　人蔘耕作地トシテ不適當ト認ムル場所ニ耕作セムトスル者

四　取締上不便ナル地ニ耕作セムトスル者

五　一ノ場所ニ於テ苗圃ニ在リテハ百坪、本圃ニ在リテハ三十坪未滿、本圃ニ在リテハ百坪未滿ノ耕作ヲ爲サムトスル者

前項第一號乃至第三號及第五號ノ規定ハ紅蔘專賣令第五條ノ耕作區域外ニ於テ人蔘ヲ耕作スル者ニ之ヲ適用ス

第四條　人蔘耕作者其ノ耕作ヲ廢止セムトスルトキハ第三號樣式ノ申請書ニ免許證ヲ添附シ之ヲ提出スヘシ

人蔘耕作者耕作坪數ヲ變更セムトスルトキハ第四號樣式ノ申請書ニ免許證ヲ添附シ之ヲ提出スヘシ

第五條　人蔘耕作者紅蔘專賣令第五條ノ耕作區域內ノ耕作ヲ廢止シ又ハ耕作坪數減少ノ許可ヲ受ケタルトキハ其ノ現存スル人蔘ハ賞該官吏ノ指揮ヲ受ケ相當ノ處分ヲ爲スヘシ

第六條　人蔘ノ耕作ヲ相續ニ因リ承繼シタルトキハ三十日內ニ第五號樣式ノ申告書ニ免許證及相續開始ノ事實ヲ證スル書類ヲ添附シテ提出シ免許證ノ更正ヲ受クヘシ

前項ノ場合ヲ除クノ外人蔘耕作承繼ノ免許ニ免許證ヲ添附シテ提出スヘシ

第七條　人蔘耕作者住所又ハ氏名ヲ變更シタルトキハ三十日以內ニ免許證ノ更正ヲ申請スヘシ

免許證ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ直ニ其ノ事實ヲ詳具シ之カ再交付ヲ申請スヘシ

第八條　人蔘耕作者人蔘耕作ノ免許ヲ取消サレタルトキハ直ニ免許證ヲ返納スヘシ

第九條　紅蔘專賣令第六條ニ依リ人蔘收穫ノ查定ヲ爲サムトスルトキハ豫メ人蔘耕作者ニ通知ス

前項ノ查定ヲ爲シタルトキハ第七號樣式ノ查定證ヲ交付ス

第十條　人蔘耕作者紅蔘專賣令第五條ノ耕作區域內ニ於テ耕作中ノ人蔘又ハ收穫シタル水蔘ニ災害、毀壞其ノ他ノ事故ニ因リ損害ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ事實ヲ申告スヘシ

第十一條　紅蔘專賣令第五條ノ耕作區域內ニ於テ人蔘ヲ耕作スル者ハ左ノ事項ニ付政府ノ指示ニ從フヘシ

一　蔘圃ノ設備

二　人蔘ノ耕作及病蟲害ノ豫防驅除方法

三　水蔘ノ荷造及搬入ノ方法

第十二條　人蔘耕作者紅蔘專賣令第五條ノ耕作區域內ニ於テ水蔘ヲ收穫シ又ハ之ヲ政府指定ノ場所ニ搬入セムトスルトキハ收穫查定證ヲ携帶スヘシ

第十三條　政府ニ於テ水蔘ヲ收納シタルトキハ收穫查定證ニ、收納量目、根數、賠償金額及紅蔘專賣令第七條第二項ノ人蔘ノ量目、根數ヲ記入交付ス

第十四條　紅蔘專賣令第五條ニ依リ新ニ耕作區域ニ指定セラレタルトキハ指定ノ翌年以後ニ播種又ハ移植スル人蔘ニ付第五條及前五條ノ規定ヲ適用

第十五條　本令ニ依ル申請又ハ申告竝免許證ノ返納ハ紅蔘專賣令第五條ノ耕作區域內ニ在リテハ專賣局開城出張所長、其ノ他ニ在リテハ所轄府尹郡守島司ニ之ヲ爲スヘシ

第十六條　朝鮮間接國稅犯則者處分令ニ定メタル收稅官吏ニ屬スル職務ハ紅蔘專賣令第五條ノ耕作區域內ニ在リテハ朝鮮總督府專賣局官吏其ノ他ニ在リテハ府郡ノ稅務官吏、稅務署長ニ屬スル職務ハ紅蔘專賣令第五條ノ耕作區域內ニ在リテハ專賣局開城出張所長其ノ他ニ在リテハ府尹郡守島司之ヲ行フ

附　則

本令ハ大正九年十一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式ノ一

人蔘耕作免許申請

申請者	住所	
	氏名	
種子ノ出所		
蔘苗ノ出所		
播種ノ年月		
移植ノ年月		
苗圃ノ耕作方法		
育成蔘苗ノ處分		

第一號樣式ノ二

人蔘耕作免許申請

申請者	住所	
	氏名	
蔘苗ノ出所		
移植ノ年月		
一坪ニ付植付本數		

本圃耕作地

所在地坪	數	一坪ニ付移植本數	耕作地
			苗圃
			本圃
			計

右地圖相添申請候也

年　月　日

右　氏名　㊞

【京城專賣支局】
（府）開城出張所長殿
（郡）島司）

備考

一　蔘圃ノ一區域カ數地番ニ跨ルトキハ當該地番ヲ併記シ又一地番ノ一部ナルトキハ「何番ノ內」ト記載スヘシ

二　地圖ハ第八號樣式ニ依リ調製シ正副二通ヲ添附スヘシ

三　紅蔘專賣令第五條ノ耕作區域外ニ在リテハ地圖ノ添附ヲ要セス

右　氏　名㊞

【京城專賣支局】開城出張所長殿
（府尹　鳥司）

備考

一　蔘圃ノ一區域カ數地番ニ跨ルトキハ當該地番ヲ併記シ又一地番ノ一部ナルトキハ「何番ノ内」ト記載スヘシ

二　地圖ハ第八號樣式ニ依リ調製シ正副二通ヲ添附スヘシ

三　紅蔘專賣令第五條ノ耕作區域外ニ在リテハ地圖ノ添附ヲ要セス

第二號樣式　紙質　厚洋紙
寸法　縱六寸五分、橫七寸　二重輪廓ノコト

第　號

人蔘耕作免許證

耕作免許者

住所　氏名　摘要

蔘圃ノ別　所在地　坪數　播種又ハ移植ノ年月　摘要

苗圃（本圃）

計　苗圃　本圃

右免許ス

年　月　日

印

官廳名

備考

一　裏面ニ地圖ヲ添附シ契印ヲ爲ス

第三號樣式

人蔘耕作免許取消申請

免許番號

申請者　住所　氏名

苗圃（本圃）所在地

播種（移植）ノ年月

播種（移植）ノ坪數

減坪數

同上ニ現存スル人蔘ノ數量

同上人蔘ノ處分方法

減少ノ事由

右地圖及耕作免許證相添申請候也

年　月　日

右　氏　名㊞

【京城專賣支局】開城出張所長殿
（府尹　鳥司）

第四號樣式

人蔘耕作面積減少申請

免許番號

申請者　住所　氏名

苗圃（本圃）所在地

坪數

現存人蔘見込數量

同上人蔘ノ處分方法

右耕作免許證相添申請候也

年　月　日

右　氏　名㊞

【京城專賣支局】開城出張所長殿
（府尹　鳥司）

備考

一　蔘圃ノ一區域カ數地番ニ跨ルトキハ當該地番ヲ併記シ又一地番ノ一部ナルトキハ「何番ノ内」ト記載スヘシ

二　地圖ハ第八號樣式ニ依リ調製シ正副二通ヲ添附スヘシ

三　紅蔘專賣令第五條ノ耕作區域外ニ在リテハ地圖ノ添附ヲ要セス

第五號樣式

人蔘耕作相續承繼申告

耕作免許者　氏名

承繼者　住所　氏名

蔘圃ノ別　所在地　年根　坪數　免許番號　年月日

右耕作免許證相添申告候也

年　月　日

右　氏　名㊞

【京城專賣支局】開城出張所長殿
（府尹　鳥司）

第六號樣式

人蔘耕作承繼免許申請

耕作免許者　住所　氏名

承繼者　住所　氏名

承繼ノ原因

蔘圃ノ別　所在地　年根　坪數　免許番號　年月日

坪

右耕作免許證相添申請候也

年　月　日

右　氏　名㊞

【京城專賣支局】開城出張所長殿
（府尹　鳥司）

第七號樣式　一面ノ寸法　紙質　厚洋紙
寸法　縱六寸、橫四寸五分　二重輪廓ノコト

第　號

人蔘收穫查定證

一　耕作者　住所　氏名

免許番號　住所　年根　坪數　查定　量目　根數　摘要

右查定ス

年　月　日

官廳名

面

二　納付　月日　所在地　採掘　坪數　收納　量目　根數　賠償金　後蔘　量目　根數　摘要

坪

注意

一　水蔘ヲ收穫シ又ハ之ヲ政府指定ノ場所ニ搬入セムトスルトキハ本證及實印ヲ携帶スヘシ

二　本證ハ官吏臨檢ノトキ提示シ得ル樣保管スヘシ

面

第八號樣式ノ一

人蔘耕作地圖

一坪數　　郡　　面　　洞　　番
　　坪　　里
　　住所
　　申請者　氏　　名㊞

備考

一　本圖ハ地籍圖謄本ニ基キ作製スヘシ

二　數地番ニ跨ルトキ及二地番以上ヲ合併使用スルトキハ地番界ハ朱ノ點線ニテ之ヲ表示スヘシ

第八號樣式ノ二

人蔘耕作地圖

一苗圃坪數　　郡　　面　　洞　　番
一本圖坪數　　坪　　里
　　住所
　　申請者　氏　　名㊞

備考

一　地番ノ一部ヲ使用スルトキハ本例ニ倣ヒ調製シ何番ノ內ト記載スヘシ

二　苗圃、本圖ノ區分及符號ハ之ヲ朱記スヘシ

●人蔘耕作獎勵規則

大正十四年六月十九日
朝鮮總督府令第六十九號

人蔘耕作獎勵規則左ノ通改正ス

人蔘耕作獎勵規則

第一條　專賣局長ハ紅蔘專賣令第五條ノ規定ニ依リ朝鮮總督ノ指定シタル區域內ノ人蔘耕作者ニシテ人蔘ノ耕作及病蟲害豫防罷除ニ關シ特殊ノ功勞アルモノ又ハ五年以上引續キ人蔘耕作ニ從事シ耕作ノ成績優秀ナルモノニハ每年度豫算ノ範圍內ニ於テ獎勵金ヲ交付スルコトヲ得

第二條　人蔘ノ耕作及病蟲害豫防罷除ニ關シ特殊ノ功勞アル者ニ交付スヘキ獎勵金ノ額ハ百圓以內トシ五年以上引續キ人蔘耕作ニ從事スル者ニシテ耕作ノ成績優秀ナルモノニ交付スヘキ獎勵金ハ一等乃至四等トシ其ノ額ハ一人平均五十圓以內トス

第三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ獎勵金ヲ交付セス

一　紅蔘專賣ニ關スル法規ニ違反シ其ノ處分ヲ受ケタル時ヨリ三年ヲ經過セサル者

二　紅蔘專賣ニ關スル法規違反ノ嫌疑アル者

三　人蔘耕作ニ關スル政府ノ指示命令ニ違反シ其ノ情重キ者

第四條　獎勵金ヲ受ケヘキ者死亡シタルトキハ之ヲ其ノ相續人ニ交付ス

第五條　本令施行ニ關シ必要ナル事項ハ專賣局長之ヲ定ム

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五款　酒類

●臺灣酒類專賣令

大正十一年五月五日
律令第三號
改正　大正十二年第五號

臺灣酒類專賣令大正十年法律第三號第二條及第三條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

臺灣酒類專賣令

第一條　本令ニ於テ酒類トハ酒精及酒精含有飲料ニシテ酒精分九十度未滿ノモノヲ謂フ

前項ニ於テ酒精分ト稱スルハ攝氏檢溫器十五度ノ時ニ於テ原容量百分中ニ含有スル〇・七九四七ノ比重ヲ有スル酒精ノ容量ヲ謂フ

第二條　酒類ノ製造ハ政府ニ專屬ス

第三條　酒類ハ政府又ハ政府ノ命ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ外國ヨリ輸入スルコトヲ得ス

第四條　酒類ハ政府ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ外國ニ輸出スルコトヲ得ス

酒類ノ輸出ニ關スル規定ハ臺灣總督之ヲ定ム

第五條　酒類ハ政府又ハ政府ノ指定シタル酒類賣捌人若ハ酒類小賣人ニ非サレハ之ヲ販賣スルコトヲ得ス

酒類ノ販賣及販賣者ニ關スル規定ハ臺灣總督之ヲ定ム

第六條　酒類小賣人ハ政府ノ定メタル價格ヲ以テスルニ非サレハ酒類ヲ消費者ニ販賣スルコトヲ得ス

第七條　酒類販賣者ハ政府ノ封緘ヲ施シタル酒類ノ容器ヲ變更シ、開披シ又ハ容器ニ附シタル證票其ノ他ノ表示ヲ破毀若ハ變更スルコトヲ得ス但シ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ零賣ヲ爲ス酒類ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八條　白糖、紅糖、酒母又ハ醪ヲ製造セムトスル者ハ政府ノ許可ヲ受クヘシ

白糖、紅糖、酒母又ハ醪ノ製造ニ關スル規定ハ臺灣總督之ヲ定ム

第九條　本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ於テ認ムル場合ヲ除クノ外白糖、紅糖、酒母、醪及政府ノ證票ヲ附セサル酒類ヲ所持シ、讓渡シ又ハ讓受クルコトヲ得ス

第十條　白糖、紅糖、酒母又ハ醪ノ製造者本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ政府ハ其ノ製造ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十一條　當該官吏ハ酒精、酒精含有飲料、白糖、紅糖、酒母又ハ醪ノ店舖、藏置場、製造場其ノ他必要ノ場所ニ立入リ製品、原料、材料、器具機械、帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢查シ又ハ取締上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

當該官吏ハ運搬中ニ在ル酒精、酒精含有飲料、白糖、紅糖、酒母又ハ醪ヲ檢查シ必要ト認ムルトキハ其ノ運搬ヲ停止シ又ハ荷物若ハ船車ニ封印ヲ施スコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ當該官吏ハ關係人ヲシテ立會ハシムルコトヲ得

第十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以上五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　私ニ酒類ヲ製造シ又ハ製造ノ準備ヲ爲シタル者

二　第三條又ハ第四條ノ規定ニ違反シテ酒類ノ輸出若ハ輸入ヲ爲シ又ハ輸出若ハ輸入ノ準備ヲ爲シタル者

第十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　酒類販賣者ニ非スシテ酒類ヲ販賣シ又ハ販賣ノ準備ヲ爲シタル者

二　私ニ酒母又ハ醪ヲ製造シ又ハ製造ノ準備ヲ爲シタル者

第十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第六條、第七條又ハ第九條ノ規定ニ違反シタル者

二　私ニ白糖又ハ紅糖ヲ製造シ又ハ製造ノ準備ヲ爲シタル者

第十五條　當該官吏ノ職務ノ執行ヲ妨クタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法ニ規定アルモノハ刑法ニ依ル

第十六條　第十二條、第十三條、第二號又ハ第十四條第二號ノ罪ヲ犯シタル者ノ所持又ハ所有スル酒類、白糖、紅糖、酒母、醪及製造用器具機械ハ之ヲ沒收ス其ノ既ニ讓渡シ、消費シ又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ沒收スルコト能ハサルニ至リタルトキハ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ追徵ス

前項ノ價格ハ政府之ヲ決定ス

第十七條　本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者ニ付テハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用キス但シ第十五條ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　酒類ノ販賣者若ハ輸出入者又ハ白糖、紅糖、酒母若ハ醪ノ製造者カ未成年者又ハ禁治產者ナル場合ニ於テ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ依リ處罰スヘキトキハ其ノ法定代理人ヲ處罰ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十九條　酒類ノ販賣者若ハ輸出入者又ハ白糖、紅糖、酒母若ハ醪ノ製造者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者其ノ事務ニ關シ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ酒類ノ販賣者若ハ輸出入者又ハ白糖、紅糖、酒母若ハ醪ノ製造者ヲ處罰ス

第二十條　明治三十三年法律第五十二號及間接國稅犯則者處分法ハ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ノ犯罪事件ニ付之ヲ準用ス

第二十一條　本令中輸入又ハ輸出ニ關スル規定ハ內地、朝鮮、樺太若ハ南洋群島ヨリ移入シ又ハ內地、朝鮮、樺太若ハ南洋群島ニ移出スル場合ニ付之ヲ準用ス

附則

第二十二條　本令ハ大正十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第二十六條及第二十七條ノ規定ハ本令公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十三條　臺灣酒造稅規則及臺灣工業用酒精戾稅規則ハ之ヲ廢止ス但シ大正十一年七月一日前ニ製造シタル酒精及酒精含有飲料ニ關シテハ仍舊令ニ依ル

第二十四條　酒類製造者ハ大正十一年七月一日現ニ製造中ノ酒類ニ限リ其ノ製造ヲ繼續スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ製造シタル酒類ニ關シテハ仍舊令ニ依ル

第二十五條　本令ハ當分ノ內麥酒ニ付之ヲ適用セス

第二十六條　本令施行ノ爲必要アリト認ムルトキハ臺灣總督ハ酒類ノ製造、輸入又ハ移入ヲ制限スルコトヲ得

前項ノ制限ニ違反シ酒類ノ製造、輸入又ハ移入ヲ爲シタル者ハ三十圓以上三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條乃至第二十條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條　本令公布ノ際現ニ存スル酒類製造用ノ建物、其ノ敷地及製造場備付ノ酒類、白麴、紅麴、酒母又ハ醪ノ製造用器具機械ハ政府ニ於テ之ヲ徵收シ又ハ使用スルコトヲ得

政府ハ酒類、白麴、紅麴、酒母又ハ醪ノ製造者ノ營業場ニ就キ前項ノ規定ニ依リ徵收シ又ハ使用スヘキ物件ヲ調査シ徵收目錄又ハ使用目錄ヲ作成ス

徵收目錄又ハ使用目錄ハ本令公布後三十日內ニ之ヲ所有者ニ交付ス

徵收目錄又ハ使用目錄ノ交付ヲ受ケタル後ハ所有者ハ政府ノ承認ヲ受クルニ非サレハ徵收目錄又ハ使用目錄ニ記載シタル物件ヲ處分スルコトヲ得ス

第二十八條　前條ノ規定ニ依リ徵收シ又ハ使用スル物件ニ對シテハ補償金又ハ使用料ヲ交付ス

補償金又ハ使用料ノ額ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ政府之ヲ決定ス

鑑定人ニ關スル規定ハ臺灣總督之ヲ定ム

第二十九條　政府ハ酒類製造者ニ對シ其ノ請求ニ依リ酒類ノ資渡代金ノ二割五分ニ相當スル金額ヲ交付シ其ノ金額五百圓ニ滿タサルトキハ五百圓ヲ交付ス

酒類製造用ノ建物ヲ所有スル酒類製造者ニシテ第二十七條ノ規定ニ依リ其ノ建物ノ全部ノ徵收ヲ受ケサルモノニ對シテハ前項ノ交付金ノ外其ノ五分ノ一ニ相當スル金額ヲ交付ス

酒類製造者ニシテ大正十一年七月一日酒類賣捌人ニ指定セラレタルモノニ對シテハ前二項ノ規定ニ依リ交付スヘキ金額ヨリ其ノ四分ノ三ニ相當スル金額ヲ控除シタル金額ヲ交付ス

第三十條　前條ノ資渡代金ハ大正八年七月一日ヨリ大正十年六月三十日ニ至ル二年間ノ資渡代金ノ二分ノ一ニ相當スル金額ニ依ル但シ大正八年七月二日以後製造ヲ開始シタル場合ニ於テハ製造開始ノ翌月ヨリ大正十年十一月三十日ニ至ル期間ノ資渡代金ノ平均月額ノ十二倍ニ相當スル金額ニ依ル

前項ノ資渡代金ハ確實ナリト認ムル帳簿書類ニ依リ政府之ヲ決定ス

第三十一條　第二十九條ノ酒類製造者ハ大正十年七月一日以前ヨリ本令公布ノ日迄其ノ營業ヲ繼續シタル者ニ限リ但シ相續ノ場合ニ於テハ被相續人ノ營業期間ハ相續人ノ營業期間ト看做ス

第三十二條　第二十九條ノ交付金ハ大正十一年八月三十一日迄ニ之ヲ請求スヘシ

第三十三條　第二十九條ノ交付金ハ額面金額ニ依リ五十五年內ニ償還スヘキ五分利附國債證券ヲ以テ之ヲ交付ス但シ五十圓未滿ノ端數ハ現金ヲ以テ之ヲ交付ス

第二十八條ノ補償金ハ大正十一年七月一日前一年間ニ於ケル平均相場ニ依リ五十五年內ニ償還スヘキ五分利附國債證券ヲ以テ之ヲ交付ス但シ五十圓未滿ノ端數ハ現金ヲ以テ之ヲ交付ス

第三十四條　第二十九條第一項、第三十一條乃至第三十三條ノ規定ハ酒類製造者ニ非サル白麴、紅麴、酒母又ハ醪ノ製造者ニシテ本令公布ノ日ヨリ大正十一年七月十日迄ニ其ノ製造ヲ廢止スルモノニ付之ヲ準用ス

●臺灣酒類專賣令施行規則

大正十一年五月五日
臺灣總督府令第百九號
改正　大正一一年第一四〇號、一二年第五一號、一三年第九七號、一四年第六號、第四九號
昭和二年第六號、三年第四四號、四年第二〇〇號

臺灣酒類專賣令施行規則左ノ通相定ム

臺灣酒類專賣令施行規則

第一條　酒類販賣者（以下單ニ販賣者ト稱ス）ヲ分チテ酒類賣捌人（以下單ニ賣捌人ト稱ス）及酒類小賣人（以下單ニ小賣人ト稱ス）トス

第二條　賣捌人ハ政府ヨリ酒類ヲ買受ケ之ヲ臺灣總督府專賣局長（以下單ニ專賣局長ト稱ス）ノ指定スル賣捌區域內ノ小賣人ニ賣渡スモノトス

小賣人ハ其ノ所屬ノ賣捌人ヨリ酒類ヲ買受ケ之ヲ消費者ニ賣渡スモノトス

第三條　販賣者ハ三年ノ內ノ期間ヲ以テ專賣局長之ヲ指定ス

第四條　販賣者ノ指定ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ履歷書ヲ添附シ專賣局長ニ提出スヘシ

第五條　販賣者死亡シタルトキハ相續人ハ專賣局長ニ申告シテ幾期間營業ヲ繼續スルコトヲ得但シ第六條ノ規定ニ依リ販賣者ニ指定セラルルコトヲ得サル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ申告ハ死亡ノ日ヨリ一月內ニ之ヲ爲スヘシ

第六條　左ニ揭ケル者ハ賣捌人ニ指定セラルルコトヲ得ス

一　酒精、白麴、紅麴、酒母又ハ醪ノ製造者及其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者

二　臺灣酒類專賣令又ハ臺灣酒精令ノ規定ニ違反シ處罰又ハ處分ヲ受ケ二年ヲ經サル者

三　第二十四條ノ規定ニ依リ賣捌人ノ指定取消サレ二年ヲ經サル者

四　國稅滯納處分又ハ之ニ準スル處分ヲ受ケ二年ヲ經サル者

五　其ノ他取締上不適當ト認ムル者

前項第一號、第二號及第五號ニ該當スル者、第二十四條ノ規定ニ依リ賣捌人ノ指定ヲ取消サレ二年ヲ經サル者又ハ現ニ賣捌人タル者ハ小賣人ニ指定セラルルコトヲ得ス

第七條　營業場ヲ設置スヘシ

販賣者營業場及貯藏場ノ位置ヲ變更シ又ハ廢止セムトスルトキハ所轄專賣官署ノ承認ヲ受クヘシ

賣捌人ト小賣人トノ其ノ營業場ヲ同クスルコトヲ得ス賣捌人他ノ營業場トノ間ニ相當ノ區劃ヲ設クヘシ

第八條　賣捌人ハ標札ヲ、小賣人ハ小賣招牌及酒類ノ定價表ヲ營業場ノ見易キ場所ニ揭ケヘシ

第九條　賣捌人ハ每月十五日迄ニ其ノ翌月ニ於テ賣渡ヲ受ケヘキ酒類ノ酒名、容器區分及數量ヲ記載シタル賣渡請求書ヲ所轄專賣官署ニ提出スヘシ但シ特別ノ事由ニ因リ臨時ニ賣渡ヲ請求セムトスル者ハ其ノ都度請求ヲ爲スコトヲ得

專賣局長必要ト認ムルトキハ賣渡スヘキ酒類ノ酒名、容器區分及數量ヲ查定スルコトアルヘシ

第十條　賣捌人賣渡ノ通知ヲ受クタルトキハ交付ヲ受ケヘシ

小賣人前項ノ許可ヲ受ケタルトキハ酒精分ノ檢定器及檢定表ヲ見易キ箇所ニ設備シ消費者ノ請求アルトキハ直ニ檢定ヲ行フヘシ

零賣ヲ許可スヘキ酒類ハ專賣局長之ヲ定ム

第十八條　小賣人酒類ノ出賣ヲ爲サムトスルトキハ所轄專賣官署ニ申請シ出賣許可證ノ交付ヲ受ケ出賣ノ際之ヲ携帶スヘシ

第十九條　專賣局長ハ販賣者ノ營業場及貯藏場ノ設備、從業者、出賣及零賣ノ方法、營業場ニ備付クヘキ酒類ノ酒名、容器區分、數量竝其ノ保存及配給方法其ノ他必要ナル事項ニ付指示スルコトヲ得

第二十條　酒類ノ品質惡變シ又ハ證票ノ汚損シタルモノアルトキハ政府ハ拂戾スヘキ金額ヨリ價格ノ減少ニ相當スル金額ヲ控除スルモノトス

第二十一條　小賣人死亡シ其ノ營業ヲ承繼スルノ指定ヲ受ケムトスル者ハ一年ノ買受金額專賣局長ノ指定額ニ充タサルトキ

小賣人一月以上引續キ其ノ營業ヲ爲ササルトキ又ハ一年ノ買受金額五百圓ニ充タサルトキ

六　其ノ他賣捌又ハ小賣業務ノ遂行上不適當ト認メタルトキ

第二十五條　賣捌人死亡シ其ノ營業ヲ承繼スルノ指定期間滿了シ引續キ指定セラレサルトキ、指定期間滿了シ引續キ指定又ハ營業ヲ廢止シタルトキハ現存スル酒類ハ事實發生ノ日ヨリ三十日內ニ其ノ所屬ノ賣捌人ニ之カ買戾ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ小賣人ニ對スル現行ノ賣渡價格ニ依ル

前項ノ場合ニ於テ販賣者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ酒類ノ品質惡變シ又ハ證票ノ汚損シタルモノアルトキハ政府ハ拂戾スヘキ金額ヨリ價格ノ減少ニ相當スル金額ヲ控除スル

第二十六條　小賣人死亡シ其ノ營業ヲ承繼スルノ指定ヲ受ケムトスル者ハ一年ノ買受金額專賣局長ノ指定額ニ充タサルトキ、指定期間滿了シ引續キ指定セラレサルトキ、指定ヲ取消サレタルトキ又ハ營業ヲ廢止シタルトキハ現存スル酒類ハ事實發生ノ日ヨリ三十日內ニ其ノ所屬ノ賣捌人ニ之カ買戾ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ小賣人ニ對スル現行ノ賣渡價格ニ依ル

前項ノ場合ニ於テ販賣者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ酒類ノ品質惡變シ又ハ證票ノ汚損シタルモノアルトキハ政府ハ拂戾スヘキ金額ヨリ價格ノ減少ニ相當スル金額ヲ控除スル

第二十七條　販賣者死亡シタル場合ニ於テハ

交付ヲ受ケヘシ

小賣人前項ノ許可ヲ受ケタルトキハ酒精分ノ檢定器及檢定表ヲ見易キ箇所ニ設備シ消費者ノ請求アルトキハ直ニ檢定ヲ行フヘシ

零賣ヲ許可スヘキ酒類ハ專賣局長之ヲ定ム

第十八條　小賣人酒類ノ出賣ヲ爲サムトスルトキハ所轄專賣官署ニ申請シ出賣許可證ノ交付ヲ受ケ出賣ノ際之ヲ携帶スヘシ

第十九條　專賣局長ハ販賣者ノ營業場及貯藏場ノ設備、從業者、出賣及零賣ノ方法、營業場ニ備付クヘキ酒類ノ酒名、容器區分、數量竝其ノ保存及配給方法其ノ他必要ナル事項ニ付指示スルコトヲ得

第二十條　酒類ノ品質惡變シ又ハ證票ノ汚損シタルモノアルトキハ賣捌人ノ所轄專賣官署ニ其ノ酒類ノ引替ヲ請求スルコトヲ得但シ引替ノ原因カ販賣者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ生シタルトキハ賣捌人ハ酒類ノ價格ノ減少ニ相當スル金額ヲ販賣者ニ請求スヘシ

第二十一條　小賣人ノ所持スル酒類ニ付前條第一項ノ事由發生シタルトキハ小賣人ハ賣捌人ニ其ノ引替ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該官吏ノ檢查證明ヲ受ケ現品ト共ニ其ノ檢查證明書ヲ賣捌人ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ引替ノ原因カ小賣人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ生シタルトキハ小賣人ハ酒類ノ價格ノ減少ニ相當スル金額ヲ辨償スヘシ

第十二條　第二十條第二項ノ規定ハ前項ノ酒類ノ運送ニ付之ヲ準用ス

第十三條　政府必要ト認ムルトキハ賣捌人ニ指定シタル者ニ對シ其ノ指定期間開始前賣捌人ト看做シ酒類ヲ賣渡スコトアルヘシ

政府必要ト認ムルトキハ小賣人又ハ消費者ニ對シ直接ニ酒類ヲ賣渡スコトアルヘシ

第十條乃至第十二條ノ規定ハ前項ノ買受人ニ付之ヲ準用ス

第十六條　販賣者ハ其ノ營業場又ハ貯藏場ニ非サレハ酒類ヲ藏置スルコトヲ得ス

第十七條　小賣人酒類ノ零賣ヲ爲サムトスルトキハ所轄專賣官署ニ申請シ零賣許可證ノ直ニ代金ヲ納付シ又ハ擔保ヲ提供シテ現品ヲ引取ルヘシ通知後十日內ニ引取ラサルトキハ別ニ定ムル保管料ヲ徵收スルコトアルヘシ

第十一條　酒類ヲ買受ケタル者代金納付ノ期日迄ニ買受代金ヲ納付セサルトキハ百圓ニ付日歩三錢ノ割合ヲ以テ遲延利息ヲ徵收スルコトアルヘシ

第十二條　政府ヨリ賣渡ス酒類ハ專賣官署ニ於テ之ヲ引渡スモノトス

專賣官署ヨリ賣捌人ノ營業場迄配達スヘシ但シ所轄專賣官署ノ承認ヲ受ケ一定ノ運送賃ヲ交付シテ現品ノ配達ニ代フルコトヲ得

第十三條　政府ノ賣捌人ニ賣渡ス酒類ノ價格ハ專賣局長之ヲ定ム

賣捌人ノ小賣人ニ賣渡ス酒類ノ價格ハ專賣局長ノ定ムル制限額ヲ超エルコトヲ得ス

第十四條　賣捌人他ノ賣捌人ヨリ酒類ヲ買受ケムトスルトキ又ハ小賣人其ノ所屬ニ非サル賣捌人ヨリ酒類ヲ買受ケムトスルトキハ所轄專賣官署ノ許可ヲ受クヘシ

政府必要ト認ムルトキハ賣捌人ニ對シ他ノ賣捌人ニ酒類ノ賣渡ヲ命スルコトアルヘシ

第十二條第二項ノ規定ハ前項ノ酒類ノ運送ニ付之ヲ準用ス

第十五條　政府必要ト認ムルトキハ賣捌人ニ指定シタル者ニ對シ其ノ指定期間開始前賣捌人ト看做シ酒類ヲ賣渡スコトアルヘシ

政府必要ト認ムルトキハ小賣人又ハ消費者ニ對シ直接ニ酒類ヲ賣渡スコトアルヘシ

第十條乃至第十二條ノ規定ハ前項ノ買受人ニ付之ヲ準用ス

第十六條　販賣者ハ其ノ營業場又ハ貯藏場ニ非サレハ酒類ヲ藏置スルコトヲ得ス

第十七條　小賣人酒類ノ零賣ヲ爲サムトスルトキハ所轄專賣官署ニ申請シ零賣許可證ノ

百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　小賣人第十七條第二項ノ規定ニ違反シタルトキ

二　第三十條ノ規定ニ違反シタルトキ

第三十三條　賣捌人第七條、第八條、第十三條第二項、第十六條、第二十二條又ハ第二十八條ノ規定ニ違反シタルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　小賣人第七條、第八條、第十四條第一項、第十六條又ハ第十八條ノ規定ニ違反シタルトキ

二　白釉、紅釉、酒母又ハ醪ノ製造者第三十一條ノ規定ニ違反シタルトキ

第三十五條　間接國稅犯則者處分法ヲ準用スヘキ場合稅務監督局トアルハ專賣局、稅務署トアルハ專賣局支局又ハ專賣局出張所トシ收稅官吏ニ屬スル職務ハ專賣局長、專賣官吏、稅務署長ニ屬スル職務ハ專賣局長、專賣局支局長又ハ專賣局出張所長之ヲ行フ

第三十六條　本令ニ依リ提出スヘキ書類ハ別表ノ區域ニ依リ當該專賣官署ヲ經由スヘシ

附　則

第三十七條　本令ハ大正十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四條、第三十九條、第四十條及第四十一條第一項ノ規定ハ本令發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十八條　大正十一年七月一日ニ於テ現ニ存スル酒類又ハ臺灣酒類專賣令第二十四條ノ規定ニ依リ製成シタル酒類ヲ販賣セムトスル者ハ大正十一年七月十日迄ニ左ノ事項ヲ記載シタル申告書ヲ所轄專賣官署ニ提出スヘシ

一　酒名別數量及所在

二　販賣ノ場所

三　販賣者ノ住所氏名又ハ名稱

前項ノ酒類ヲ販賣スル者ハ每月其ノ酒類ノ賣渡高及買受高ヲ翌月五日迄ニ所轄專賣官署ニ申告スヘシ

第二十八條ノ規定ハ第一項ノ酒類ヲ販賣ス

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四章　幣制

第一款　貨幣及紙幣

●貨幣法

明治三十年三月二十九日
法律第十六號

改正　明治三九年第二六號、四〇年第六號
大正五年第八號、七年　第四二號、九年第五號、一一年第七三號

殷帝國議會ノ協賛ヲ經タル貨幣法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（御署名、大臣副署省略）

貨幣法

第一條　貨幣ノ製造及發行ノ權ハ政府ニ屬ス

第二條　純金ノ量目二分ヲ以テ價格ノ單位トス

第三條　貨幣ノ種類ハ左ノ九種トス

金貨幣　二十圓
十圓
五圓
銀貨幣　五十錢
二十錢
白銅貨幣　十錢
五錢
青銅貨幣　一錢
五厘

第四條　貨幣ノ第則ハ總テ十進一位ノ法ヲ用ヰ一圓以下ハ一圓ノ百分ノ一ヲ錢ト稱シ錢ノ十分ノ一ヲ厘ト稱ス

第五條　貨幣ノ品位ハ左ノ如シ

一　金貨幣　純金九百分參和銅一百分

二　銀貨幣　純銀七百二十分參和銅二百八十分

三　白銅貨幣　「ニッケル」二百五十分參和銅七百五十分

四　青銅貨幣　亞鉛十分銅九百五十分錫四十分

第六條　貨幣ノ量目ハ左ノ如シ

一　二十圓金貨幣　四匁四分四厘四毛四

二　十圓金貨幣　二匁二分二厘二毛二

三　五圓金貨幣　一匁一分一厘一毛一

四　五十錢銀貨幣　一匁三分二厘

五　二十錢銀貨幣　五分二厘八毛

六　十錢白銅貨幣　一匁

七　五錢白銅貨幣　七分

八　一錢青銅貨幣　一匁

九　五厘青銅貨幣　五分六厘

第七條　金貨幣ハ其ノ額ニ制限ナク法貨トシテ通用ス銀貨幣ハ十圓マテ白銅貨幣ハ五圓マテ青銅貨幣ハ一圓マテヲ限リ法貨トシテ通用ス

第八條　貨幣ノ形式ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條　金銀貨幣純分ノ公差ハ金貨幣ハ一千分ノ一銀貨幣ハ一千分ノ三トス

第十條　金銀貨幣量目ノ公差ハ左ノ如シ

一　金貨幣二十圓ハ每片八毛六四一千枚每ニ八分三厘十圓ハ每片六毛零五一千枚每ニ六分二厘五圓ハ每片四毛三二一千枚每ニ四分一厘トス

二　銀貨幣五十錢ハ每片一厘七毛一一千枚每ニ一匁零分六厘六毛六二十錢ハ每片一厘零毛七一千枚每ニ五分三厘三毛三トス

第十一條　金貨幣ノ通用最輕量目ハ二十圓金貨幣四匁四分二厘十圓金貨幣二匁二分一厘五圓金貨幣一匁一分零厘五毛トス

第十二條　金貨幣ニシテ磨損ノ甚通用最輕量目ヲ下ルモノ及銀貨幣白銅貨幣又ハ青銅貨幣ニシテ著シク磨損シタルモノ其ノ他流通不便ノ貨幣ハ其ノ額面價格ヲ以テ無手數料ニテ政府ニ於テ之ヲ引換フヘシ

第十三條　貨幣ニシテ模樣ノ認識シ難キモノ又ハ私ニ極印ヲ爲シ其ノ他故意ニ毀傷セリト認ムルモノハ貨幣タルノ效用ナキモノトス

第十四條　金地金ヲ納シ金貨幣ノ製造ヲ請フ者アルトキハ政府ハ其ノ請求ニ應スヘシ

第十五條　從來發行ノ金貨幣ハ此ノ法律ニ依リ發行スル金貨幣ノ倍位ニ通用スヘシ

第十六條　【從來發行ノ二圓銀貨幣ハ　金貨幣

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四章　幣制

第一款　貨幣及紙幣

●貨幣法

明治三十年三月二十九日
法律第十六號

改正　明治三九年第二六號、四〇年第六號
大正五年第八號、七年　第四二號、九年第五號、一一年第七三號

殷帝國議會ノ協賛ヲ經タル貨幣法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（御署名、大臣副署省略）

貨幣法

第一條　貨幣ノ製造及發行ノ權ハ政府ニ屬ス

第二條　純金ノ量目二分ヲ以テ價格ノ單位トス

第三條　貨幣ノ種類ハ左ノ九種トス

金貨幣　二十圓
十圓
五圓
銀貨幣　五十錢
二十錢
白銅貨幣　十錢
五錢
青銅貨幣　一錢
五厘

第四條　貨幣ノ第則ハ總テ十進一位ノ法ヲ用ヰ一圓以下ハ一圓ノ百分ノ一ヲ錢ト稱シ錢ノ十分ノ一ヲ厘ト稱ス

第五條　貨幣ノ品位ハ左ノ如シ

一　金貨幣　純金九百分參和銅一百分

二　銀貨幣　純銀七百二十分參和銅二百八十分

三　白銅貨幣　「ニッケル」二百五十分參和銅七百五十分

四　青銅貨幣　亞鉛十分銅九百五十分錫四十分

第六條　貨幣ノ量目ハ左ノ如シ

一　二十圓金貨幣　四匁四分四厘四毛四

二　十圓金貨幣　二匁二分二厘二毛二

三　五圓金貨幣　一匁一分一厘一毛一

四　五十錢銀貨幣　一匁三分二厘

五　二十錢銀貨幣　五分二厘八毛

六　十錢白銅貨幣　一匁

七　五錢白銅貨幣　七分

八　一錢青銅貨幣　一匁

九　五厘青銅貨幣　五分六厘

第七條　金貨幣ハ其ノ額ニ制限ナク法貨トシテ通用ス銀貨幣ハ十圓マテ白銅貨幣ハ五圓マテ青銅貨幣ハ一圓マテヲ限リ法貨トシテ通用ス

第八條　貨幣ノ形式ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條　金銀貨幣純分ノ公差ハ金貨幣ハ一千分ノ一銀貨幣ハ一千分ノ三トス

第十條　金銀貨幣量目ノ公差ハ左ノ如シ

一　金貨幣二十圓ハ每片八毛六四一千枚每ニ八分三厘十圓ハ每片六毛零五一千枚每ニ六分二厘五圓ハ每片四毛三二一千枚每ニ四分一厘トス

二　銀貨幣五十錢ハ每片一厘七毛一一千枚每ニ一匁零分六厘六毛六二十錢ハ每片一厘零毛七一千枚每ニ五分三厘三毛三トス

第十一條　金貨幣ノ通用最輕量目ハ二十圓金貨幣四匁四分二厘十圓金貨幣二匁二分一厘五圓金貨幣一匁一分零厘五毛トス

第十二條　金貨幣ニシテ磨損ノ甚通用最輕量目ヲ下ルモノ及銀貨幣白銅貨幣又ハ青銅貨幣ニシテ著シク磨損シタルモノ其ノ他流通不便ノ貨幣ハ其ノ額面價格ヲ以テ無手數料ニテ政府ニ於テ之ヲ引換フヘシ

第十三條　貨幣ニシテ模樣ノ認識シ難キモノ又ハ私ニ極印ヲ爲シ其ノ他故意ニ毀傷セリト認ムルモノハ貨幣タルノ效用ナキモノトス

第十四條　金地金ヲ納シ金貨幣ノ製造ヲ請フ者アルトキハ政府ハ其ノ請求ニ應スヘシ

第十五條　從來發行ノ金貨幣ハ此ノ法律ニ依リ發行スル金貨幣ノ倍位ニ通用スヘシ

第十六條　【從來發行ノ二圓銀貨幣ハ　金貨幣ノ一ニ該當スルモノトス

一　直接製造ニ要スル器具機械

二　貯藏用器具

三　試驗用器具機械

四　包裝用器具機械

第二條　臺灣酒類專賣令第二十七條第二項ノ規定ニ依リ政府ニ於テ徵收又ハ使用スヘキ物件ヲ調查スル場合ニ於テハ職メ其ノ期日ヲ所有者ニ告知シ所有者又ハ其ノ代理人ヲ立會ハシムヘシ

調查濟ノ物件ニシテ徵收スヘキモノニ對シテハ徵號ヲ附スヘシ

第三條　徵收目錄又ハ使用目錄ニ記載シタル物件ヲ處分セムトスルトキハ臺灣總督府專賣局長（以下單ニ專賣局長ト稱ス）ニ申請シ其ノ承認ヲ受クヘシ

第四條　臺灣酒類專賣令第二十八條第二項ノ規定ニ依ル補償金又ハ使用料ハ專賣局長之ヲ定ム

專賣局長補償金又ハ使用料ノ決定ヲ爲シタルトキハ其ノ決定書ヲ作リ之ヲ本人ニ交付スヘシ

第五條　臺灣酒類專賣令第二十八條第三項ノ鑑定人ハ三人以上ト專賣局長之ヲ選定ス

第六條　官吏ニ非サル鑑定人鑑定ニ從事シタルトキハ一日金十圓ノ手當ヲ支給ス

前項ノ鑑定人鑑定ノ爲旅行シタルトキハ左ノ旅費ヲ支給ス

一　鐵道賃、船賃　一等實費

二　車馬賃　一里ニ付一圓五十錢

三　宿泊料　一夜ニ付金十圓

前項ノ旅費ノ支給ニ關シテハ臺灣總督府職員旅費規則ノ例ニ依ル

附　則

一圓ノ割合ヲ以テ政府ノ都合ニ依リ漸次之ヲ引換フヘシ

【前項引換ノ結了マテハ金貨幣一圓ノ割合ヲ以テ無制限ニ法貨トシテ其ノ通用ヲ許シ通用禁止ノ場合ニ於テハ六箇月以前ニ勅令ヲ以テ之ヲ公布スヘシ通用禁止ノ翌日ヨリ起算シ滿五箇年內ニ】引換ヲ請求セサルトキハ爾後地金トシテ取扱フヘシ

第十七條　從來發行ノ五錢銀貨幣及銅貨幣ハ從前ノ通リ通用スヘシ

第十八條　此ノ法律發布以後ハ一圓銀貨幣ノ製造ヲ廢ス但シ右期日以前ニ政府ニ輸納シタル銀地金ハ此ノ限ニ在ラス

第十九條　此ノ法律ニ抵觸スル從前ノ法令ハ總テ之ヲ廢止ス

第二十條　此ノ法律ハ第十八條ヲ除ク外明治三十年十月一日ヨリ施行ス

附　則（明治三十九年法律第二十六號）

本法ハ明治三十九年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

從來發行ノ銀貨幣ハ從前ノ通通用スヘシ

附　則（明治四十年法律第六號）

本法ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

從來發行ノ十錢銀貨幣ハ從前ノ通通用スヘシ

附　則（大正五年法律第八號）

本法ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

從來發行ノ白銅貨幣及青銅貨幣ハ從前ノ通通用スヘシ

附　則（大正七年法律第四十二號）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從來發行ノ銀貨幣ハ從前ノ通通用スヘシ

附　則（大正九年法律第五號）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從來發行ノ十錢銀貨幣及五錢白銅貨幣ハ從前ノ通通用スヘシ

附　則（大正十一年法律第七十三號）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從來發行ノ銀貨幣ハ從前ノ通通用スヘシ

●貨幣形式

明治三十年五月十三日
勅令第百四十四號

改正　明治三一年第二一七號、三九年第一〇九號、四〇年第三二號
大正五年第三五號、七年第一一一號、九年第三三四號、一一年第二四〇號

殷貨幣ノ形式ヲ定ムルノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（御名御璽）

貨幣法第八條ニ依リ貨幣ノ形式ヲ定ムルコト左ノ如シ

二十圓

十圓

本位	二十圓	十圓
徑	九分五厘	七分
量目	四匁四分四厘四毛	二匁二分二厘二毛
性合	純金　九百分 參和銅　一百分	純金　九百分 參和銅　一百分

	五圓	五十錢	二十錢	十錢	五錢
徑	五分六厘	七分七厘五毛五	五分六厘一毛	七分三厘	六分三厘
量目	一匁一分一厘一毛一	一匁三分二厘	五分二厘八毛	一匁	七分
性合	純金　九百分 參和銅　一百分	純銀　七百二十分 參和銅　二百八十分	純銀　七百二十分 參和銅　二百八十分	「ニッケル」　二百五十分 參和銅　七百五十分	「ニッケル」　二百五十分 參和銅　七百五十分

●貨幣條例　明治八年六月二十五日　太政官布告第百八號

改正　明治九年第二七號、第六〇號、一一年第二三號、一六年第一八號、二八年第四一號、二一年勅令第七四號、三〇年法律第一六號

新貨條例ノ儀明治四年五月布告ノ後追々貨幣圖面寸法ノ改正規則例目ノ創補等有之候ニ付本年第六十貳號布告但書ノ通今般改刻更ニ貨幣條例ト相改候條此旨布告候事

但明治六年八月第三百八號布告新貨圖面同七年三月第三拾四號布告壹圓銀圓面本年二月第三拾五號布告貿易銀圓面共表裏ノ唱ヘ反對イタシ居候ニ付今般改正候事

皇國往古より他邦貿易の事少なく貨幣之制度いまた精密ならず其品類各種にして其價位も亦一定せず今其概略を擧むには慶長金あり享保金あり文字金あり大小判金あり一分金あり貳分金あり貳朱金あり一分銀あり一朱銀あり當百錢あり大小數種の銅錢あり其他一時通用の貨幣は枚擧に遑あらず甚しきは一國一郡限の貨幣ありて今に至るまで僅に其一部に通用し他方に流通せざるものありかく其品類區々にして方圓大小其價を異にし混合雜駁其實を同うせず抑貨幣の眼目たる量目と性合とに至りては殆んと絧知すへからず新舊互に雜用し品位自ら低下し其間或は僞造の弊ありて竟に今日の甚しきに馴致せり偶々良性の貨幣は徒らに富家庫中の寶物となり或は外國へ輸出せしも亦少なからず遂に諸品換用の能力な失ひ日用便利の道を塞き流通の公益殆んと絶えんとするに至る實にこれ天下一般の窮

	一錢	五厘
徑	七分六厘	六分二厘
量目	一匁	五分六厘
性合	銅　九百五十分 錫鉛　四十分 亞鉛　十分	銅　九百五十分 錫鉛　四十分 亞鉛　十分

厄にして萬民の痛心更に之より大なるものなし今其緣由を尋繹するに全く一定の價位なくして善惡良否を雜用するの舊弊より生する事なり方今貨易の道彌盛むなる時に當りて舊弊を改め精良の新製を設けすんは何をもつて流通の道を開き富國の基を立んや是政府の責任にして然も燃眉の急務たり故に去る明治元戊辰の年より早くその功を起し莫大の經費を厭ばす大阪において新に造幣寮を建置し壯大なる器械を備へ廣く宇內各國貨幣の體理を察知し金銀の性質量目より割合の差等錢造の方法に至るまで詳かに普通の制を比較商量し以て精密の通用貨幣を鑄造し在來の貨幣に加へて一般の流通を資けんとするの都合を謀り既に開寮の儀奏を完了せりされとも前に言へるごとく區々各種の貨幣多ければ現場諸品の價直を錯亂し萬民の迷惑なるとなれは漸々新舊を交換して在來の通貨は悉く改鑄し都て品類を一定せしめんとの御趣意なり且貨幣は天下萬民の通貨たる主旨に基き地金を持參して引換を望むものへは速かに改鑄して通用貨幣を渡すへしされば今人々古來の習慣を襲ひ重代の寶物とせる古金銀の類も數年ならすして全く地金一樣のものとなるへけれは早々交換流通して貨幣の眞理を失はさる樣注意すへき事肝要なり新く新たに造幣寮を設けしも偏に萬民の保護を任するの職分を盡すの外他あるにあらされは萬民亦能く此理を會得し各その務を勉勵して天賦の智をつくすへし仍て今爰に其大第を揭示し并せて新貨幣の眞形を摹し其量目品位表を添へ且地金引換への規則等詳細に附錄し普く國內に頒布致告するもの也

明治四年辛未五月　　太政官

貨幣例目

一貨幣の稱呼は圓を以て起票とし其多寡を論せす都て圓の原稱に數字を加へて之を計算すへし但し一圓以下は錢一錢の百分一と厘十分一とを以て少數の計算に用ふへし

一算則は都て十進一位の法を用ひ一厘十を合して一錢とし一錢十を併せて十錢といひ十錢十即ち百錢を以て一圓とす一圓より上十百千萬に至るといふとも皆十數を合して一位を進む其他半錢五錢五十錢五圓の如きは十數を半割し二十錢二圓二十圓の如きも亦一十の數を倍するまでにして固より軌範の外に出す

一厘より以下は別に鑄造の貨幣なしと雖若し計算を要すれは毛絲忽微纖を以て微少の數を算すへし又萬より以上は十萬百萬千萬に至り千萬十即ち萬々を以て一億とし大數の計算を爲すへし

一製貨中金銀純分の割合及其量目は都て眞形摸寫の下に表出するといへとも鈔和鑄造の際僅少の差あるを免かれす故に今各種の貨幣に就て其不得已して生する量目並品位の公差を表出して以て毛絲の微細を辨析すると絕えんとするに至る實にこれ天下一般の窮

公差表	金	銀
量目	品位 千分ノ二付	品位 千分ノ二付
大數差	貨幣全量 メートリックグラム	金銀重量 メートリックグラム
一枚ノ差	貨幣全量 トロイグレイン	金銀重量 トロイグレイン
數枚數	金銀重量 メートリックグラム	貨幣全量 メートリックグラム
一千	金銀重量 トロイグレイン	貨幣全量 トロイグレイン
一千	金銀重量 メートリックグラム	貨幣全量 メートリックグラム
一千	金銀重量 トロイグレイン	貨幣全量 トロイグレイン

【貿易銀】五十錢　二十錢　十錢　五錢

公量目	品位 千分ノ二付	位千分ノ内	金	二十圓	十圓	五圓	二圓	一圓
		混合物	純金	九百分	九百分	九百分	九百分	九百分
		一百分		一百分	一百分	一百分	一百分	一百分
		一百分	銀	九百分	八百分	八百分	八百分	八百分
		二百分		二百分	二百分	二百分	二百分	二百分
		一百分		一百分	一百分	一百分	一百分	一百分
		混合物	銅	一百分	二百分	二百分	二百分	二百分

公量目	品位 千分ノ二付	位千分ノ内	金	二十圓	十圓	五圓	二圓	一圓
三分ノ一	二	純金	トロイグレイン 舊	三七四、四	一三四、四	六二、七六	三〇、八八	一四、四
三分ノ一	二	銀	トロイグレイン 新	三七八、	一三六、	六六、五六	三二、二六	一四、
三分ノ一	二	純金	メートリックグラム 舊	二四、二六二	一〇、	四、	二、	一、
三分ノ一	二	銀	メートリックグラム 新	二四、二六二	一〇、六八八	四、五九二	二、二五六五六	一、〇八八六
三分ノ一	二	貨幣	トロイグレイン 舊	二九三、	七七、二	三八、八	一九、三	
三分ノ一	二	貨幣	トロイグレイン 新	三〇八、	八三、二	四一、六	二〇、八	
三分ノ一	二	貨幣	メートリックグラム 舊	二一、	五、	二、	一、二	
三分ノ一	二	貨幣	メートリックグラム 新	二一、二六	五、	二、	一、〇八六	
二分ノ一	二	純銀	トロイグレイン 舊	三七四、四	一三四、四	六二、七六	三〇、八八	一四、四
二分ノ一	二	純銀	トロイグレイン 新	三七八、	一三六、	六六、五六	三二、二六	一四、
二分ノ一	二	純銀	メートリックグラム 舊	二四、二六二	一〇、	四、	二、	一、
二分ノ一	二	純銀	メートリックグラム 新	二四、二六二	一〇、六八八	四、五九二	二、二五六五六	一、〇八六
一分ノ一	二	貨幣	トロイグレイン 舊	二九三、	七七、二	三八、八	一九、三	
一分ノ一	二	貨幣	トロイグレイン 新	三〇八、	八三、二	四一、六	二〇、八	
一分ノ一	二	貨幣	メートリックグラム 舊	二一、	五、	二、	一、二	
一分ノ一	二	貨幣	メートリックグラム 新	二一、二六	五、	二、	一、〇八六	

表　差

一枚ノ差	ミリグラム	舊	九七、一〇	九七、一〇	六四、八〇	三二、四〇	三二、四〇
		新	六四、八〇	九七、二〇	六四、八〇	三二、四〇	三二、四〇
大數差	量目	枚數	一千	一千	一千	一千	一千
	トロイグレイン		九六、	七二、	四八、	二四、	二四、
	メトリックグラム		六、三一	四、六六	三、一〇	一、五五五	一、五五五

「一ガラム」「ミリガラム」「オンス」「グレイン」ト日本量目ノ比較ハ在來ノ秤量ニヨリテ聊ノ差アルトイヘトモ爰ニ其平均ヲ取テ之ヲ算シ左ノ略表ヲ以テ當分比較ノ定規トス

ガラム　メトリック	グレイン　トロイ	日本量目
一ミリガラム　一ガラム千分ノ一	〇、〇一五四三　グレイン百分ノ一、五四三	〇、〇〇三六分一〇匁
一サンチガラム　一ガラム百分ノ一	〇、一五四三　グレイン百分ノ一五、四三	〇、〇〇六分一〇匁
一デシガラム　一ガラム十分ノ一	一、五四三　グレイン	〇、〇三六分一〇匁
一ガラム	一五、四三二	〇、二六分一〇匁
一デカガラム	一五四、三二〇	二、六分一〇匁
一ヘクトガラム	一五四三、二〇	二六、六一〇匁
一キロガラム	一五四三二、〇	二六六、一〇匁
一ミリヤガラム	一五四三二〇、	二六六一、〇匁

日本量目　ガラム　メトリック	グレイン　トロイ
一絲	〇、三七五六ミリガラム	〇、〇〇五九七
一毛	三、七五六二ミリガラム	〇、〇五九七
一厘	三七、五六二三ミリガラム	〇、五九七一
一分	三七五、六二三一ミリガラム 三七五六、五二一一ミリガラム	五、九七一
一錢	三七五六、五二一一ミリガラム 三七五六五、二一一ミリガラム	五九、七一
十錢	三七五六五二、一一ミリガラム 三七五六五二、一一ミリガラム	五九七、一
百錢	三七五六五二一、一一ミリガラム 三七五六五二一、一一ミリガラム	五九七一、
一貫文目	三七五六五二一一、一一ミリガラム 三七五六五二一一、一一ミリガラム	五九七一、

「一グレイン」ハ　凡一厘七毛二絲五忽　但一グレイン」ハ　六十四ミリガラム」ニ「一オンス」ハ　凡八匁二分八厘　但一オンス」ハ　四百八十グレイン

本位金貨　二十圓

明治四年ヨリ發行

表

裏

徑	曲尺	七分八厘七毛
量目	日本	二匁二分一厘八毛
	英吉利	三五百二十八グレイン」六
性合		金九銅一

本位金貨　十圓

明治四年ヨリ發行

表

裏

徑	曲尺	七分二厘
量目		前ト同シ
性合		前ト同シ

明治五年十一月寸法改正

表裏圖畫如故

本位金貨　五圓

明治四年ヨリ發行

表

裏

徑	曲尺	五分七厘七毛
量目	日本	八分八厘七毛三四
	英吉利	五十「グレイン」四四
性合		金九銅一

明治五年十一月寸法改正

表裏圖畫如故

本位金貨　二圓

明治四年ヨリ發行

表

裏

徑	曲尺	五分六厘
量目		前ト同シ
性合		前ト同シ

明治五年十一月寸法改正

表裏圖畫如故

本位金貨　一圓

明治四年制定發行セス　明治五年表面改正發行

表

裏

徑	曲尺	四分四厘六毛
量目	日本	四分四厘三毛六七
	英吉利	二十「グレイン」七二
性合		金九銅一
徑	曲尺	四分
量目		前ト同シ
性合		前ト同シ

明治五年十一月寸法改正

表裏圖畫如故

補助銀貨　五十錢

明治四年ヨリ發行

表

裏

以五枚換一圓		
徑	曲尺	一寸〇四厘
量目	日本	三匁三分二厘九毛
	英吉利	二五百九十三グレイン」
性合		銀八銅二
徑	曲尺	一寸〇二厘
量目	日本	三匁五分八厘八毛
	英吉利	二百〇八グレイン」
性合		前ト同シ

明治五年十一月量目寸法改正同六年一月圖畫改正

補助銀貨　二十錢

明治四年ヨリ發行

表

裏

以五枚換一圓		
徑	曲尺	七分七厘
量目	日本	一匁三分二厘一毛
	英吉利	七十七グレイン」二
性合		銀八銅二
徑	曲尺	七分四厘
量目		前ト同シ
性合		前ト同シ

明治五年十一月量目寸法改正同六年一月圖畫改正

補助銀貨　十錢

明治四年ヨリ發行

表

裏

以十枚換一圓		
徑	曲尺	一寸一分五厘七毛
量目	日本	八匁八分七厘三毛
	英吉利	五百七十四グレイン」四一
性合		金九銅一
徑	曲尺	九分七厘一毛
量目	日本	四匁四分三厘六毛
	英吉利	二百五十七グレイン」二
性合		金九銅一
徑	曲尺	九分七厘
量目		前ト同シ
性合		前ト同シ

明治五年十一月寸法改正

表裏圖畫如故

表紙

貨幣略圖并品位量目表

補助銀貨

十錢

明治四年ヨリ發行

明治五年十一月量目改正
同六年一月圖畫改正

以十枚換一圓

徑尺	性合	量目	徑尺	性合	量目
五分八厘	前ト同シ	日本六分六厘五毛八糸英吉利三十八ダレイン」六	前ト同シ	銀八銅二	日本七分一厘七毛六糸英吉利四十一ダレイン」六

補助銀貨

五錢

明治四年ヨリ發行

明治五年三月裏面並外緣改正

明治五年十一月量目改正
同六年一月圖畫改正

以二十枚換一圓

徑尺	性合	量目	徑尺	性合	量目
五分	前ト同シ	日本三分三厘二毛九糸英吉利十九ダレイン」三	前ト同シ	銀八銅二	日本三分五厘八毛八糸英吉利二十〇ダレイン」八

銅貨

半錢

明治四年制定發行セス

明治六年八月圖畫寸法改正發行

以二百枚換一圓

徑尺	量目	徑尺	量目
七分七厘	日本九分四厘八毛七糸五吉利五十ダレイン」	七分二厘	前ト同シ

銅貨

一厘

明治六年八月圖畫改正發行

明治四年制定發行セス

以千枚換一圓

徑尺	量目	徑尺	量目
五分二厘	日本二分一厘七毛五糸英吉利十四ダレイン」	前ト同シ	

附錄

貨幣試驗分析定則

第一條　日本政府の【造幣寮】より發行する貨幣の品位其法則に適正なるや否を檢査する爲に毎年一度【造幣寮】に於て試驗分析の集會を催すへし

第二條　此集會の全權は【大藏卿輔】の一人にして其他集會を命ぜられし諸官員幷に中外人民の內分析學術を心得たる者を其時に當りて政府より擇撰して此會に臨ましむへし

第三條　此集會の爲に都て鑄造の貨幣は【極印局】より之を請取る度毎に【地金局】中に於て右局長は試驗方立會の上各種の貨幣若干箇を取除け直に之れを【造幣頭】の眼前にて碎包し則【地金局長】と試驗方と共に其封印を施し【造幣頭】は之れを檢印して自ら預り置き右貨幣の員數種類幷封印の月日等別に設けたる帳面に書留め置へし

但右貨幣を取除け之れを碎封する等に他人之れに關係することを得す

第四條　右封印せし貨幣なれは日本語幷英語にて其種類員數及び其請取りし月日其外巨細を認めたる書付を添へ【造幣頭】は之れを筐中に藏め置くへし

第五條　二拾圓金五圓金は千枚毎に壹枚宛【二圓金壹圓金】は五千枚毎に壹枚宛を取除け置くへし

第六條　【貿易銀】は五千枚毎に壹枚宛を取除け置くへし

第七條　補助銀貨幣は其品類に不拘貨幣員數二千枚毎に壹枚宛取除け置くへし

第八條　試驗の爲め集會せし諸士官の目前に於て【造幣寮】試驗方其手續を爲すへし其節政府の存意に依り【造幣寮】試驗方と共に其事を取扱ふ爲め別に試驗方を任することあるへし

右日本政府の命を以て供試貨幣分析の規則を設立する者也

明治八年一月　　大藏省

●舊銅貨品位並通用方

（明治四年十二月十九日大政官布告）

舊銅貨ノ儀去ル辰年定價被　仰出候處今般新貨御發行ニ付各種比較商量ノ上當分左ノ通品位被相定候條其旨相心得新貨幣並【金札】共取交聊無差支通用可致事

【新貨並金札ノ比較】

【新貨壹圓】【金札壹兩ニ當ル】
【新貨五十錢】【金札貳分ニ當ル】
【新貨二十五錢】【金札壹分ニ當ル】
【新貨十二錢半】【金札貳朱ニ當ル】
【新貨六錢二厘五】【金札壹朱ニ當ル】

舊銅貨品位

【八厘錢】

【十枚ヲ以テ八錢トス】

青波錢ト唱ヘ元四文錢ナリ

【百二十五枚ヲ以テ一圓ニ換ル】
【六十二枚ト二厘錢二枚ヲ以テ五十錢ニ換ル】
【三十一枚ト二厘錢一枚ヲ以テ二十五錢ニ換ル】
【但十二錢半六錢二厘五毛右ノ割合タルヘシ以下同斷】

二厘

十枚ヲ以テ二錢トス

五百枚ヲ以テ　一圓ニ換ル
二百五十枚ヲ以テ　五十錢ニ換ル
百二十五枚ヲ以テ　二十五錢ニ換ル

銅貨

二錢

明治六年八月制定發行

以五十枚換一圓

徑尺	量目
一寸〇五厘	日本三匁七分九厘五毛英吉利二百二十ダレイン」

銅貨

一錢

明治六年八月圖畫寸法改正發行

明治四年制定發行セス

以百枚換一圓

徑尺	量目
九分	日本一匁八分九厘七毛英吉利百十ダレイン」

白銅貨

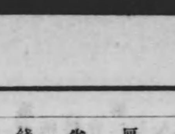
五錢

以二十枚換一圓

徑尺	量目	性合
六分八厘	日本一匁二分四厘二毛英吉利七十二ダレイン」	「ニッケル」銅　二、五、七、五

一　十枚ヲ以テ壹錢牛ト ス

厘　半　錢



波錢ニテ元四文錢ナリ

一　十枚ヲ以テ壹錢ト ス

厘　錢

耳白錢或ハ其外ト モ元一文錢ナリ

右ハ本位ノ新貨幣ト新銅貨トノ比例ニ依テ定ムルカ故ニ一種又ハ數種ヲ併セ用ユルトモ一口ノ取遣リ一圓ノ高ヲ限リ用ユヘシ

但壹圓ノ高ヲ越レハ是ヲ拒ムノ權アルヘシ尤相互ノ便宜ニ依テ取遣リスル時ハ右制限ニ不拘勝手タルヘシ

右ノ通相定候事

●通用禁止貨幣紙幣引換期限

明治二十三年三月一日
法律第十三號

脫通用ヲ禁止シタル貨幣紙幣ノ引換ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（御璽・大臣副書）

政府發行ノ補助貨幣及紙幣ニシテ通用ヲ廢止シタルモノハ其廢止ノ翌日ヨリ起算シ滿五箇年內ニ引換ヲ請求セサレハ期滿免除トシテ政府ハ引換義務ヲ免ルヽモノトス【但明治二十年六月三十日ヲ以テ通用ヲ廢止シタル拾錢紙幣ハ本法發布ノ日ヨリ起算シ滿三年ヲ以テ期滿免除ノ期限トス】

●外國貨幣及私ニ極印ヲ施シタル貨幣ハ公納ニ用フルヲ得ス

明治三十年十月二十二日
勅令第三百七十四號

脫臺灣ニ於テ政府極印附一圓銀貨幣公納使用ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（大藏大臣副書）

第一條【臺灣ニ於テハ當分ノ內政府ノ極印ヲ施セル一圓銀貨幣ヲ時價ヲ以テ公納及政府ノ支拂ニ用ウルコトヲ得但シ政府ノ支拂ハ合意ニ依ルヘキモノトス】

第二條【前條ノ極印ノ左ノ形式ニ依リ政府引換濟一圓銀貨幣ノ表面ニ施スモノトス】

（銀）【徑一分五厘】

第三條　外國貨幣及私ニ極印ヲ施シタル貨幣ハ爾後公納ニ用ウルコトヲ得ス但シ特ニ外國貨幣ヲ以テ公納ニ用ウルコトヲ規定シアルモノハ此ノ限ニアラス

●金貨幣又ハ金地金輸出許可方

大正六年九月十二日
大藏省令第二十八號

金貨幣又ハ金地金ヲ輸出セムトスル者ハ大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ但シ外國ニ旅行スル者ノ携帶スル手週品及身邊裝飾品ハ現品ヲ稅關ニ呈示シテ其ノ許可ヲ受ケ輸出スルコトヲ得

前項ノ規定ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●銀貨幣又ハ金地金輸出許可方

大正六年九月六日
大藏省令第二十六號

銀貨幣又ハ銀地金ヲ輸出セムトスル者ハ大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ但シ外國ニ旅行スル者銀貨幣五十圓未滿ヲ携帶スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

地金トシテ販賣シ又ハ使用スル目的ヲ以テ銀貨幣ヲ蒐集、鑄潰又ハ毀傷シタル者ノ罪亦前項ニ同シ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●銀貨幣又ハ銀地金輸出許可方

大正六年九月十四日
臺灣總督府令第四十四號

金貨幣又ハ金地金ヲ輸出セムトスル者ハ臺灣總督ノ許可ヲ受クヘシ但シ外國ニ旅行スル者銀貨幣百圓未滿ヲ携帶スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

地金トシテ販賣シ又ハ使用スル目的ヲ以テ金貨幣ヲ蒐集、鑄潰シ又ハ毀損シタル者亦前項ニ同シ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●銀貨幣又ハ銀地金輸出許可方

大正六年九月十四日
臺灣總督府令第四十四號

金貨幣又ハ金地金ヲ輸出セムトスル者ハ臺灣總督ノ許可ヲ受クヘシ但シ外國ニ旅行スル者銀貨幣百圓未滿ヲ携帶スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

地金トシテ販賣シ又ハ使用スル目的ヲ以テ銀貨幣ヲ蒐集、鑄潰又ハ毀損シタル者ノ罪亦前項ニ同シ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●金若ハ銀ヲ主タル材料トスル製品又ハ銀ノ合金輸出許可方

大正七年八月二十六日
大藏省告示第百三十八號

金若ハ銀ヲ主タル材料トスル製品又ハ金若ハ銀ノ合金ヲ輸出セムトスル者ハ左記要項ヲ詳記シタル許可申請書二通ヲ作リ豫メ輸出地ノ稅關ニ呈示シテ其ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ規定ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

一、金若ハ銀ヲ主タル材料トスル製品又ハ金若ハ銀ノ合金ヲ輸出セムトスル者ハ左記要項ヲ詳記シタル許可申請書二通ヲ作リ豫メ輸出地ノ稅關ニ呈示シテ其ノ許可ヲ受クヘシ

二、前項ノ物品ヲ輸出セムトスル者ハ輸出申告又ハ郵便物差出ノ際輸出許可證ヲ稅關又ハ郵便局ヘ呈示スルコトヲ要ス

三、旅行者ノ携帶スル手週品及身邊裝飾品ハ前二項ノ手續ニ依ラス乘船前現品ヲ稅關旅具係ニ呈示シテ其ノ許可ヲ受クルコトヲ得

一　輸出セムトスル製品又ハ合金ノ種類、數量、見積價格及合金ニ在リテハ其ノ成分

二　輸出者ノ住所、氏名又ハ商號

三　輸出先ノ地名及荷受人ノ住所、氏名又ハ商號

四　豫定積出年月日

五　積出港

六　積載船名

七　輸出ヲ必要トスル事情

小包郵便ニ依ル者ニ在リテハ前記四號五號ニ代ヘ差出郵便局名及豫定差出年月日ヲ記載スヘシ

●小額紙幣發行期限ニ關スル法律

大正九年七月二十七日
法律第六號

脫帝國議會ノ協賛ヲ經タル小額紙幣發行ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理・大藏大臣副署）

大正六年勅令第二百二號ニ依ル小額紙幣ハ當分ノ內之ヲ發行スルコトヲ得但シ二十錢及十錢ノ小額紙幣ヲ除クノ外大正十年四月一日以後之ヲ發行セス

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●小額紙幣ノ形式

大正六年十月三十日
勅令第二百三號

脫小額紙幣ノ形式ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理・大藏大臣副署）

大正六年勅令第二百二號第五條ノ規定ニ依リ小額紙幣ノ形式左ノ通定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

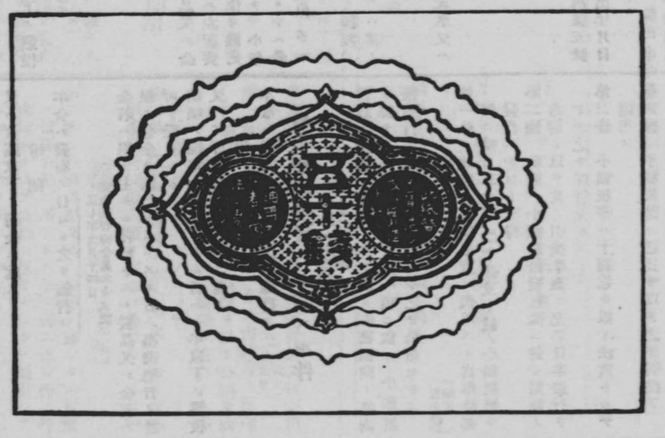
小額紙幣五十錢

寸法　竪二寸一分五厘　橫三寸四分

用紙　綠線入凹透

表面　文字及上模樣　黑
　　地紋　紅色
　　印章及記號　赤色

裏面
模様　紅色



小額紙幣二十錢
寸法　竪二寸九分四厘　横三寸第分四厘
用紙　線條　凹流
表面
文字及上模様　黒
地紋　線色
印章及記號　赤色

裏面
模様　綠色

小額紙幣十錢
寸法　竪二寸八分　横二寸八分六厘
用紙　線條　凹流
表面
文字及上模様　黒
地紋　模黃色
印章及記號　赤色

裏面
模様　橙黄色

●小額紙幣ノ發行銷却及損傷紙幣ノ引換ニ關スル件

大正六年十月三十日
大藏省令第三十號
改正　大正七年第二五號

小額紙幣ノ發行銷却及損傷紙幣ノ引換ニ關スル件左ノ通之ヲ定ム

第一條　大藏大臣ハ小額紙幣ノ發行及銷却ヲ爲シタルトキハ其ノ種類、枚數及金額ヲ告示スヘシ

第二條　汚損若クハ毀傷シタル小額紙幣ハ日本銀行本支店ニ於テ無手數料ニテ之ヲ引換フヘシ

第三條　小額紙幣ニシテ表裏兩面ヲ具備シ其ノ三分ノ二以上ヲ存スルモノハ券面金額ノ全額、五分ノ二以上ヲ存スルモノハ券面金額ノ半額ヲ以テ之ヲ引換フヘシ表裏ノ模様大部分認識シ難キモ紙質色彩等ニ依リ眞正ノ小額紙幣ト認メタルモノハ亦同シ

第四條　小額紙幣ノ細片ヲ合シ其ノ各片相吻合シ若クハ吻合セサルモ同一紙幣ノ紙片ナルコトヲ認メタルモノニ付テハ前條ヲ適用ス

第五條　前二條ニ該當スルモノト雖小額紙幣ノ紙質色彩ノ變化其ノ他ノ原因ニ依リ眞僞鑑定シ難キモノ及銷却ノ爲穿孔ヲ施シタル疑アルモノハ之ヲ引換ヘス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●造幣規則

明治三十年五月四日
勅令第百三十八號
改正　明治三十六年第三六號
大正四年第二三號
（大藏大臣臨時署）

貨造幣規則ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

造幣規則

第一條　金貨幣ノ製造ヲ請ハントスル者ハ金地金ヲ造幣局ニ輸納スヘシ

第二條　貨幣製造ノ爲受取ル地金ハ品位一千分中金八百九十八以上ニシテ其ノ含有物ノ性質造幣ニ障害ナキモノトス但シ銅以外ノ含有物ハ一千分中十以内ニ限ル

第三條　貨幣製造ノ爲メ受取ル地金ハ其ノ量目一百匁以上トス但シ金銀地金精製及品位證明規則ニ依リ貨幣ノ製造ヲ請フトキハ此限ニアラス

第四條　輸納ノ地金ハ輸納人又ハ其ノ代理者ヲ立會ハシメ之ヲ秤量シテ預リ證書ヲ交付スヘシ

第五條　地金ノ品位及性質ハ試驗ノ上之ヲ定ム

第六條　地金ノ試驗了リタルトキハ勘定書ニ試驗表ヲ添ヘ之ヲ輸納人ニ送付スヘシ

第七條　輸納人前條書類ノ送付ヲ受ケ異議ナキトキハ預リ證書ヲ提出シテ貨幣拂渡證書ヲ請求スヘシ但シ異議アル者ハ三日以内ニ其ノ旨ヲ申告スヘシ此ノ期間内ニ異議ノ申告ヲ爲ササルトキハ承諾シタルモノト見做スヘシ

第八條　輸納人前條ニ依リ異議ノ申告ヲ爲シタルトキハ其ノ輸納地金ヲ返付スヘシ此ノ場合ニ於テハ手數料ヲシテ地金四貫匁及其ノ端數毎ニ金三圓ヲ徴收ス

第九條　輸納地金ノ露解減ハ輸納人ノ負擔トス

第十條　輸納地金ノ取扱ハ一般休暇日ノ外三月十六日ヨリ同三十一日マテノ間之ヲ停止ス但シ臨時停止ヲ要スルトキハ大藏大臣之ヲ告示ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●造幣地金及成貨受渡竝精製地金品位證明取扱順序

大正七年十月三十日
大藏省告示第百七十八號
改正　大正一〇年第九七號、一一年第一一四號、一三年第一三五號、一五年第一五六號

明治四十年十月大藏省告示第百七十二號造幣地金及成貨受渡竝精製地金品位證明取扱順序左ノ通改正シ大正七年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一條　造幣地金ノ取扱ハ輸納シタル地金ノ代リ貨幣ハ日本銀行大阪支店ニ於テ之ヲ拂渡ス

第二條　輸納ノ造幣地金ニ對スル代リ貨幣ハ通常地金試驗濟ノ翌日ヨリ休日ヲ除キ十二日目ニ之ヲ拂渡ス但シ輸納ノ地金輻輳シ又ハ工業ノ都合ニ依リ十二日目ニ拂渡ヲ爲シ難キトキハ造幣局長別ニ期日ヲ定メ拂渡ヲ爲ス

精製ノ上貨幣ニ製造スル地金ノ代リ貨幣拂渡期日ハ前項ノ日數ニ第五條ノ精製地金拂戻期日ヲ加ヘタル日數トス

第三條　金銀地金精製及品位證明規則ニ依リ輸納シタル地金ハ精製又ハ證明濟ノ上造幣局ニ於テ之ヲ返付ス

第四條　削除

第五條　精製又ハ品位證明濟地金ハ通常左ノ期間内ニ之ヲ返付ス

但シ輸納ノ地金輻輳シ又ハ工業ノ都合ニ依リ其ノ期間内ニ返付ヲ爲シ難キトキハ造幣局長別ニ期日ヲ定メ之ヲ返付ス

一精製地金ハ地金試驗濟ノ翌日ヨリ休日ヲ除キ十日以内

一品位證明濟地金ハ地金試驗濟ノ翌日ヨリ休日ヲ除キ五日以内

第六條　輸納地金ノ取扱時間ヲ左ノ如ク定ム但シ臨時伸縮ヲ要スルトキハ造幣局長別ニ時間ヲ定メ之ヲ局内ニ掲示ス

受取時間

午前九時ヨリ午後二時マテ

拂戻時間

午前九時ヨリ午後三時マテ

土曜日及七月二十一日ヨリ八月三十一日迄ハ受取拂戻共午前九時ヨリ同十一時迄トス

●金銀地金精製及品位證明規則

明治三十年五月四日
勅令第百三十九號
改正　明治三二年第三七號、三七年第一〇〇號、第二二四號、四〇年第一九九號
大正七年第三七二號
（大藏大臣臨時署）

貨金銀地金精製及品位證明規則ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

金銀地金精製及品位證明規則

第一條　造幣局ハ金銀地金ノ精製又ハ品位證明ヲ請フ者アルトキハ本規則ノ定ムル所ニ依リ其ノ精製又ハ品位證明ヲ爲シ納スルヲ得

第二條　精製又ハ品位證明ノ爲輸納スル地金ハ品位一千分中金、銀又ハ金銀合計五百以上量目一百匁以上ノ地金トス

第三條　輸納ノ地金ハ輸納人又ハ其ノ代理者ヲ立會ハシメ之ヲ秤量シテ預リ證書ヲ交付スヘシ

第四條、第五條　削除

第六條　精製又ハ品位證明濟地金ハ通常地金試驗濟ノ翌日ヨリ休日ヲ除キ十二日目ニ之ヲ拂渡スヘシ但シ輸納ノ地金輻輳シ又ハ工業ノ都合ニ依リ十二日目ニ拂渡ヲ爲シ難キトキハ造幣局長別ニ期日ヲ定メ拂渡ヲ爲ス

精製ノ上貨幣ニ製造スル地金ノ代リ貨幣拂渡期日ハ前項ノ日數ニ第五條ノ精製地金拂戻期日ヲ加ヘタル日數トス

第三條　金銀地金精製及品位證明規則ニ依リ輸納シタル地金ハ精製又ハ證明濟ノ上造幣局ニ於テ之ヲ返付ス

第四條　削除

第五條　精製又ハ品位證明濟地金ハ通常左ノ期間内ニ之ヲ返付ス

但シ輸納ノ地金輻輳シ又ハ工業ノ都合ニ依リ其ノ期間内ニ返付ヲ爲シ難キトキハ造幣局長別ニ期日ヲ定メ之ヲ返付ス

一精製地金ハ地金試驗濟ノ翌日ヨリ休日ヲ除キ十日以内

一品位證明濟地金ハ地金試驗濟ノ翌日ヨリ休日ヲ除キ五日以内

第六條　輸納地金ノ取扱時間ヲ左ノ如ク定ム但シ臨時伸縮ヲ要スルトキハ造幣局長別ニ時間ヲ定メ之ヲ局内ニ掲示ス

受取時間

午前九時ヨリ午後二時マテ

拂戻時間

午前九時ヨリ午後三時マテ

土曜日及七月二十一日ヨリ八月三十一日迄ハ受取拂戻共午前九時ヨリ同十一時迄トス

第二條　輸納ノ造幣地金ニ對スル代リ貨幣ハ通常地金試驗濟ノ翌日ヨリ休日ヲ除キ十二日目ニ之ヲ拂渡ス但シ輸納ノ地金輻輳シ又ハ工業ノ都合ニ依リ十二日目ニ拂渡ヲ爲シ難キトキハ造幣局長別ニ期日ヲ定メ拂渡ヲ爲ス

精製ノ上貨幣ニ製造スル地金ノ代リ貨幣拂渡期日ハ前項ノ日數ニ第五條ノ精製地金拂戻期日ヲ加ヘタル日數トス

第三條　金銀地金精製及品位證明規則ニ依リ輸納シタル地金ハ精製又ハ證明濟ノ上造幣局ニ於テ之ヲ返付ス

第四條　削除

第五條　精製又ハ品位證明濟地金ハ通常左ノ期間内ニ之ヲ返付ス

但シ輸納ノ地金輻輳シ又ハ工業ノ都合ニ依リ其ノ期間内ニ返付ヲ爲シ難キトキハ造幣局長別ニ期日ヲ定メ之ヲ返付ス

一精製地金ハ地金試驗濟ノ翌日ヨリ休日ヲ除キ十日以内

一品位證明濟地金ハ地金試驗濟ノ翌日ヨリ休日ヲ除キ五日以内

第六條　輸納地金ノ取扱時間ヲ左ノ如ク定ム但シ臨時伸縮ヲ要スルトキハ造幣局長別ニ時間ヲ定メ之ヲ局内ニ掲示ス

受取時間

午前九時ヨリ午後二時マテ

拂戻時間

午前九時ヨリ午後三時マテ

土曜日及七月二十一日ヨリ八月三十一日迄ハ受取拂戻共午前九時ヨリ同十一時迄トス

明ヲ請ヒ又ハ其ノ金分ヲ以テ貨幣ノ製造ヲ請ハントスル者ハ輸納ノ際其ノ旨申告スヘシ

第七條　輸納シタル地金試驗ノ後精製又ハ品位證明ヲ爲サスシテ返付ヲ要スルトキハ手數料ヲ徴ス

第八條　輸納地金ノ鎔解減ハ輸納人ノ負擔トス

第九條　輸納地金ノ精製又ハ品位證明ヲ爲シタルトキハ手數料ヲ徴ス

第十條　第七條及前條ノ手數料ニ關シテハ主務大臣之ヲ定ム

第十一條　輸納地金ヲ精製シタル場合ニ於テ其ノ地金ニ含有スル雜物ハ之ヲ返付セス

第十二條　地金ノ輸納ハ毎年三月十六日ヨリ同三十一日迄ノ間之ヲ受理セス

輸納地金ノ受理ヲ停止スル必要アリト認ムルトキハ主務大臣之ヲ告示ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

一、精製又ハ品位證明ヲ爲サスシテ輸納地金ヲ返付スル場合ニ於ケル試驗手數料

地金ヲ鎔解シタル場合

金銀混合地金及金地金

銀地金

地金ヲ鎔解セサル場合

金地金

銀地金

二、品位證明手數料

地金ヲ鎔解シタル場合

金地金

銀地金

地金ヲ鎔解セサル場合

金地金

銀地金

三、精製手數料

一千分中金銀九百五十以上

一千分中金銀九百以上

一千分中金銀八百五十以上

全量四貫匁又ハ其ノ端數毎ニ	金三圓	
全量八貫匁又ハ其ノ端數毎ニ	金二圓	
一個ニ付	金一圓	
〃	金五十錢	
全量四貫匁又ハ其ノ端數毎ニ	金四圓	
全量八貫匁又ハ其ノ端數毎ニ	金三圓	
一個ニ付	金一圓五十錢	
〃	金一圓	
（純金一百匁ニ付純銀一百匁ニ付）	金九十錢	
（純金一百匁ニ付純銀一百匁ニ付）	金二十錢	
（純金一百匁ニ付純銀一百匁ニ付）	金三十錢	
（純金一百匁ニ付純銀一百匁ニ付）	金一圓	
（純金一百匁ニ付純銀一百匁ニ付）	金一圓二十錢	
（純金一百匁ニ付純銀一百匁ニ付）	金一圓四十錢	
（純金一百匁ニ付純銀一百匁ニ付）	金四十錢	

一千分中金銀八百以上

一千分中金銀七百五十以上

一千分中金銀七百以上

一千分中金銀六百五十以上

一千分中金銀六百以上

一千分中金銀五百五十以上

一千分中金銀五百以上

（純金一百匁ニ付純銀一百匁ニ付）	金一圓二十錢
（純金一百匁ニ付純銀一百匁ニ付）	金一圓一十錢
（純金一百匁ニ付純銀一百匁ニ付）	金一圓六十錢
（純金一百匁ニ付純銀一百匁ニ付）	金八十錢
（純金一百匁ニ付純銀一百匁ニ付）	金一圓
（純金一百匁ニ付純銀一百匁ニ付）	金一圓四十錢
（純金一百匁ニ付純銀一百匁ニ付）	金一圓二十錢
（純金一百匁ニ付純銀一百匁ニ付）	金一圓四十錢
（純金一百匁ニ付純銀一百匁ニ付）	金一圓六十錢

貴金屬製品品位證明規則

貴金屬製品品位證明規則左ノ通定ム

第一條　本令ニ於テ貴金屬トハ金、銀又ハ金若ハ銀ノ合金ヲ謂ヒ貴金屬製品トハ貴金屬使用シテ製作シタル製品ヲ謂フ

第二條　貴金屬製品ノ製造業者又ハ販賣業者ヨリ貴金屬製品ニ付其ノ貴金屬ノ品位證明ノ申請アリタルトキハ造幣局ハ本令ノ定ムル所ニ依リ證明ヲ爲スヘシ

第三條　證明ヲ爲スヘキ貴金屬ノ品位ハ金又ハ金合金ニ在リテハ純金、千分ノ九百十七、千分ノ八百三十五、千分ノ七百五十、千分ノ六百六十六、千分ノ五百及千分ノ三百七十五ノ七種、銀又ハ銀合金ニ在リテハ純銀、千分ノ九百五十、千分ノ九百二十五、千分ノ九百及千分ノ八百ノ五種トス

第四條　貴金屬ノ內部ニ種類又ハ品位ヲ異ニスル金屬ヲ包藏スルモノニ付テハ品位ノ證明ヲ請フコトヲ得ス

第五條　品位證明ヲ受ケル爲提出スル貴金屬製品ハ品位證明後ノ加工ニ因リ貴金屬ノ形態ニ變更ヲ生スルコトナキ程度迄出來上リタルモノナルコトヲ要ス

第六條　品位證明ヲ受ケル爲提出スル貴金屬製品ノ貴金屬接合ニ使用スル鑞ハ該貴金屬ノ品位ノ二分ノ一以上ノ品位ヲ有スルモノナルコトヲ要ス但シ製作上已ムヲ得サルモノト認ムルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第七條　左ノ貴金屬製品ニ付テハ本令ニ依ル品位證明ヲ爲サス

一　外國ニ於テ製造シタルモノ

二　形狀細小又ハ工作精密ニシテ證明刻印ヲ押刻スルコト困難ナリト認ムルモノ

三　試料ヲ採取スルコト困難ナリト認ムルモノ

四　鑞ノ使用量必要ノ程度ヲ超エタルト認ムルモノ

第八條　貴金屬ノ品位證明ヲ請ハムトスル者ハ豫メ造幣局ニ住所、氏名又ハ商號及印鑑ヲ屆出テ製造業者又ハ販賣業者タルコトヲ證明スヘキ書類ヲ提出スヘシ

第九條　貴金屬ノ品位證明ヲ請ハムトスルトキハ申請書ヲ添附シテ其ノ製品ヲ造幣局ニ提出スヘシ

第十條　貴金屬ノ品位證明ノ申請ヲ受理スル時間ハ午前九時ヨリ同十一時迄トス

第十一條　貴金屬ノ品位證明ハ申請書受理ノ日ヨリ起算シ三日以內（ホワイト、ゴールド

前項ノ規定ニ依ル記號ノ樣式ハ左ノ如シ

一　造幣局ノ記號

二　品位ヲ示ス記號ハ菱形内ニ純金又ハ純銀ニ在リテハ千ヲアラビア數字ヲ以テ示シ合金又ハ銀合金ニ在リテハ第三條ノ規定ニ依ル金又ハ銀ノ純分ノ數ヲアラビア數字ヲ以テ示シタルモノトス

三　證明ノ年ヲ示ス記號ハ正方形内ニ昭和四年ニ在リテハ「ア」ヲ、以後毎年五十番ノ順序ニ依リ片假名一字ヲ挿入シタルモノトス但シヤ行ノ「イ」及「エ」並ワ行ノ「ウ」ハ之ヲ使用セズ

第十七條　本令ニ依ル貴金屬ノ品位證明ニ對シテハ地金ノ種類又ハ品位ヲ異ニスル毎ニ左ノ區分ニ依リ算出シタル手數料ヲ徵ス

甲　一箇ノ量目二十グラム未滿ノモノ　各品目毎ニ　十箇迄　三十錢
十箇ヲ超ユル數量ニ對シテハ一箇ヲ增ス毎ニ三錢ヲ加フ

乙　一箇ノ量目二十グラム以上百グラム未滿ノモノ　各品目毎ニ　十箇迄　五十錢
十箇ヲ超ユル數量ニ對シテハ一箇ヲ增ス毎ニ五錢ヲ加フ

丙　一箇ノ量目百グラム以上ノモノ　各品目毎ニ　五箇迄　五十錢
五箇ヲ超ユル數量ニ對シテハ一箇ヲ增ス毎ニ十錢ヲ加フ

試金ノ後品位證明ヲ爲サズシテ製品ヲ申請者ニ返付スル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依リ算出シタル手數料ノ半額ヲ徵ス

第十八條　同一貴金屬ニ對シ所定以上ノ證明刻印ノ押刻ヲ請フ者アルトキハ前條ノ規定ニ依リ算出シタル金額ノ外一證明毎ニ金製品ニ在リテハ二錢、銀製品ニ在リテハ一錢ヲ徵ス

第十九條　特ニ急速ニ品位ノ證明ヲ請ハムトスル者アルトキハ前二條ノ規定ニ依ル額ノ二倍ノ手數料ヲ徵シ之ニ應ズルコトヲ得前項ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ申請書ニ其ノ旨ヲ明記スベシ

第二十條　品位證明濟貴金屬製品其ノ他申請者ニ返付スベキ物ハ其ノ申請ヲ受理シタル場所ニ於テ之ヲ引渡ヲ爲スモノトス

附　則

本令ハ昭和四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●造幣局合金製造規則

大正十五年五月四日　大藏省令第二十一號

造幣局合金製造規則左ノ通定ム

第一條　精製金（品位一千分中金分九百九）若ハ精製銀（品位一千分中銀分九百九）ヲ提出シテ合金若ハ銀合金ノ製造ヲ請フ者アルトキ又ハ其ノ他ノ金地金若ハ銀地金ヲ提出シテ之ト性合ヲ異ニスル金合金若ハ銀合金ノ製造ヲ請フ者アルトキハ造幣局ハ其ノ依頼ニ應ジ之カ製造ヲ請ハムトスル者ハ材料

地金（參和地金ヲ除ク）ニ別紙樣式ニ依ル依頼書ヲ添付シテ之ヲ造幣局ニ提出スベシ

第三條　依頼ニ依リ製造スル合金ノ品位、形狀及色相左ノ如シ

一品位

イ　金　七百五十位、五百八十五位、五百位及三百七十五位

ロ　銀　九百五十位、九百位及八百位

二形狀

イ　塊

ロ　鑄棒　厚　十五ミリメートル

幅　三センチメートル、五センチメートル又ハ七センチメートル

三色相

イ　七百五十位金及五百八十五位金　白色、黄色及赤色

ロ　五百位金及三百七十五位金　黄色及赤色

第四條　材料トシテ提出スル地金ハ左記各號ノ一ニ該當スルモノナルコトヲ要ス

一　金地金ハ品位一千分中純分五百以上總量四百グラム以上ニシテ銀又ハ銅以外ノ含有物ハ一千分中十以内ノモノ

二　銀地金ハ品位一千分中純分五百以上總量二キログラム以上ニシテ銅以外ノ含有物ハ一千分中十以内ノモノ

第五條　材料トシテ提出スル地金ハ依頼者又ハ其ノ代理人ヲ立會シ、シメ之ヲ秤量シテ預

リ證書ヲ交付スベシ但シ依頼者ニ於テ立會ノ必要ナキ旨申出タルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

第六條　試金ノ爲生ズル鎔解減及分析減ハ依頼者ノ負擔トス

第七條　材料トシテ提出シタル地金試金ノ結果第四條ノ規定ニ該當セサルトキハ合金ノ製造ヲ爲サスシテ之ヲ依頼者ニ返付ス

前項ノ場合ニ於テハ依頼者ハ返付ニ要スル費用ヲ負擔シ尙左ノ手數料ヲ納付スベシ

金、銀又ハ銅　一成分ニ付　二圓

第八條　合金製造手數料ハ製造濟合金引渡ノ際之ヲ納付スベシ

前項ノ手數料ハ製造濟合金一百グラムニ付左ノ區分ニ依リ算出シタル額トス

一金

イ　七百五十位金　白色金　四十五錢

白色金　三十錢

黄色金又ハ赤色金　四十五錢

ロ　五百八十五位金　白色金　三十錢

黄色金又ハ赤色金　四十錢

白色金　三十錢

ハ　五百位金　二十五錢

ニ　三百七十五位金　二十錢

二銀　十二錢

材料トシテ提出シタル地金ニシテ精製ヲ要スルモノニ在リテハ前項ノ手數料ノ外金銀地金精製及品位證明規則ニ依ル手數料ヲ納付スベシ

第九條　合金製造ノ爲必要ナル參和地金ノ代金ハ前條ノ手數料ト共ニ納付スベシ

第十條　製造シタル合金ノ純分公差ハ金ニ在リテハ一千分ノ二銀ニ在リテハ一千分ノ三トス

第十一條　合金製造ノ爲生シタル雜物ハ金又ハ銀ニ限リ之ヲ依頼者ニ返付ス

第十二條　製造濟合金其ノ他依頼者ニ返付スヘキ物ハ造幣局ニ於テ之カ引渡ヲ爲スモノトス但シ依頼者ノ請求アルトキハ其ノ指定スル場所ニ之ヲ送付ス此ノ場合ニ於テハ依頼者ハ運送方法ヲ指定シ且運送ニ關スル費用及危險ヲ負擔スルコトヲ要ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別紙樣式）

合金製造依頼書

材料地金、種類及量目

秤量ニ立會ノ要否

合金ノ品位及色相

合金ノ形狀

運送方法ノ指定

右製造被成下度及御依頼候也

大正　年　月　日

住所　依頼者　氏　名

造幣局長　殿

備考　造幣局ニ於テ引渡ヲ受クル場合ハ運送方法ノ指定欄ノ記載ヲ要セス

●舊韓國貨幣ノ處分ニ關スル法律

大正七年四月一日　法律第二十三號

改帝國議會ノ協賛ヲ經タル舊韓國貨幣ノ處分ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

（韓璽、大臣）（大臣副署）

朝鮮ニ於テ舊韓國貨幣條例ニ依リ發行シ又ハ通用ヲ認メタル貨幣ハ大正九年十二月三十一日迄從前ノ通通用ス

前項ノ貨幣ハ通用期間經過後五年間ハ政府ニ於テ通貨ヲ以テ之ヲ引換フ

葉錢ハ當分ノ内朝鮮ニ於テ從前ノ通通用ス

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●銀貨幣竝粗銀移入及輸入禁止

明治四十一年十月二十日　律令第十五號

銀貨幣竝粗銀ノ移入及輸入禁止ニ關スル件明治三十九年法律第三十一號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

帝國貨幣ニ換算シテ百圓ヲ超過スル【一圓銀貨幣及】外國銀貨幣、三圓ヲ超過スル外國補助貨幣竝粗銀ノ移入及輸入ハ之ヲ禁止ス【一圓銀貨幣及】外國銀貨幣ニシテ通シテ百圓ヲ超過スルモノ亦同シ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十六年律令第五號及明治三十七年律令第五號ハ之ヲ廢止ス

●歹錢輸入禁止

明治三十六年九月二十六日　律令第四號

憂國總督府評議會ノ議決ヲ經タル歹錢ノ輸入禁止ニ關スル件勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ發布ス

歹錢（粗惡ナル方孔錢）ノ輸入ヲ禁止ス

本令ハ明治三十七年四月一日ヨリ施行ス

●金銀輸出取締規則

大正七年十月八日　勅令第三百七十三號

金銀輸出取締規則左ノ通定ム

金銀輸出取締規則

第一條　金若ハ銀ヲ主タル材料トスル製品又ハ金若ハ銀ノ合金ヲ輸出セムトスル者ハ樺太廳長官ノ許可ヲ受クヘシ

第二條　前條ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ少クトモ二週間前ニ出願スルコトヲ要ス

一　輸出セムトスル製品又ハ合金ノ種類、數量、見積價格但シ合金ニ在リテハ其ノ成分ヲモ記載スルコトヲ要ス

二　輸出者ノ住所、氏名又ハ商號

三　輸出先及荷受人ノ住所、氏名又ハ商號

四　輸出豫定年月日

五　輸出港

六　積載スル船舶ノ名稱

七　輸出ヲ要スル事由

郵便ニ依リ輸出セムトスル場合ニ於テハ前項第四號乃至第六號ニ揭クル事項ヲ省略シ其ノ差出郵便局名及差出豫定年月日ヲ記載スヘシ

第三條　第一條ノ物品ヲ輸出セムトスル者ハ輸出申告又ハ郵便差出ノ際其ノ輸出許可證ヲ當該官署ニ提示スルコトヲ要ス

第四條　前三條ノ規定ハ外國ニ旅行スル者ノ携帶スル手廻品及身邊裝飾品ニシテ稅關ノ許可ヲ得タルモノニハ之ヲ適用セス

第五條　第一條ノ規定ニ違反シタル者ハ二月以下ノ懲役又ハ七十圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二款　銀行券

●兌換銀行券條例

明治十七年五月二十六日　太政官布告第十八號

改正　明治一八年第九號、二一年勅令第五九號、二三年法律第三四號、三〇年同第一八號、三二年同第五五號

兌換銀行券條例別紙ノ通制定シ明治十七年七月一日ヨリ施行ス

但明治七年九月第百號布告ハ此條例布告ノ日ヨリ滿一ケ年ノ後廢止ス

右奉　勅旨布告候事（大藏卿）（連署）

（別紙）

兌換銀行券條例

第一條　兌換銀行券ハ日本銀行條例第十四條ニ據リ同銀行ニ於テ發行シ金貨ヲ以テ兌換スルモノトス

第二條　日本銀行ハ兌換銀行券發行高ニ對シ

ハ日本銀行本店及ヒ支店ニ於テ營業時間中何時ニテモ兌換スヘシ但支店ニ於テハ本店ヨリ準備金ノ到達スヘキ時間其兌換ヲ延期スルコトヲ得

第七條　金貨ヲ持參シテ兌換銀行券ニ引換ンコトヲ請フモノアルトキハ日本銀行本店及ヒ支店ニ於テ無手數料ニテ之ヲ交換スルモノトス

第八條　日本銀行ハ兌換銀行券發行額及交換準備ニ關スル出納日表及毎週平均高表ヲ製シ之ヲ大藏大臣ヘ差達シ且毎週平均高表ハ官報ニ廣告スヘシ

第九條　【大藏省】ハ日本銀行監理官ヲシテ特ニ兌換銀行券發行ノ件ヲ監督セシムヘシ但監理官ニ於テ必要ナリトスルトキハ何時ニテモ其手許有高及ヒ帳簿ヲ檢査スルコトヲ得

第十條　兌換銀行券ノ染汚毀損等ニヨリ通用シ難キモノハ日本銀行本店及ヒ支店ニ於テ無手數料ニテ之ヲ引換フヘシ

第十一條　兌換銀行券ノ製造ヲ損券引換及ヒ消却等ノ手續ハ【大藏省】之ヲ定ムヘシ

第十二條　兌換銀行券ノ僞造變造ニ係ル罪ハ刑法【僞造紙幣】ノ各本條ニ關シテ處斷ス

●兌換銀行券整理法

昭和二年四月一日
法律第四十六號

貶帝國議會ノ協贊ヲ經タル兌換銀行券整理法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

兌換銀行券整理法

第一條　日本銀行ガ發行シタル左記種類ノ兌換銀行券ハ昭和十四年三月三十一日限リ强制通用ノ效力ヲ失フモノトス但シ政府又ハ日本銀行ニ於テ受入ルル場合ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第一　五圓券
一　明治十八年十二月大藏省告示第百六十六號ノ分
二　明治二十一年十一月大藏省告示第百四十號ノ分
三　明治三十二年三月大藏省告示第十號ノ分
四　明治四十三年八月大藏省告示第百七號ノ分
五　大正五年十二月大藏省告示第百六十三號ノ分

第二　拾圓券
一　明治十八年一月大藏省告示第十二號ノ分
二　明治二十三年七月大藏省告示第三十三號ノ分
三　明治三十二年九月大藏省告示第五十一號ノ分
四　大正四年四月大藏省告示第四十四號ノ分
五　大正六年十一月大藏省告示第百七十六號ノ分

第三　貳拾圓券
一　大正六年十一月大藏省告示第百七十六號ノ分

第四　百圓券
一　明治十八年八月大藏省告示第百十九號ノ分
二　明治二十四年十一月大藏省告示第三十六號ノ分
三　明治三十三年十二月大藏省告示第五十五號ノ分
四　大正六年八月大藏省告示第百三十六號ノ分

第二條　日本銀行ハ昭和十四年三月三十一日ニ於ケル前條ノ兌換銀行券ノ發行高ヲ同年四月一日ニ於ケル兌換銀行券發行高ヨリ除去シ且其ノ除去シタル發行高ニ相當スル金額ヲ卽日國庫ニ納付スベシ

第三條　第一條ノ期限經過後政府ハ同條ノ兌換銀行券ノ引換義務ヲ承繼ス

前項ノ承繼後ニ於ケル引換ハ日本銀行本支店ニ於テ之ヲ取扱フ

第四條　第二條ノ規定ニ依リ日本銀行ノ納付スル金額中減失ノ爲前條ノ引換ノ請求ナシト認ムル兌換銀行券ノ額ニ相當スル金額ハ國債整理基金特別會計法第二條ノ規定ニ依ル繰入ノ外之ヲ國債償還ニ充ツル爲漸次一般會計ヨリ國債整理基金特別會計ニ繰入レ其ノ殘餘ニ相當スル金額ハ前條ノ規定ニ依ル引換ノ準備金トシテ日本銀行ヲシテ之ヲ保管セシムベシ

●橫濱正金銀行ノ支那ニ於ケル銀行券ノ發行ニ關スル件

明治三十九年九月十五日
勅令第二百四十七號

改正　明治四三年第四一九號
大正二年第二五〇號、六年第二一八號

貶橫濱正金銀行ノ關東州及清國ニ於ケル銀行券ノ發行ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（外務、大藏大臣副署）

第一條　橫濱正金銀行ノ支那ニ於ケル銀行券ノ發行ハ外務大臣及大藏大臣ノ監督ニ屬ス

第二條　橫濱正金銀行ハ前條銀行券ノ發行店及樣式種類ニ付主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三條　橫濱正金銀行ノ銀行券ハ銀ヲ以テ引換フヘシ

換フヘシ

第四條　橫濱正金銀行ハ銀行券ノ發行高ニ對シ同額ノ準備ヲ保有スヘシ

前項準備ノ種類ハ主務大臣之ヲ定ム

第五條　橫濱正金銀行ノ銀行券ハ支那ニ於テ公私一切ノ取引ニ無制限ニ通用スルモノトス

附　則

本令ハ明治三十九年十月十五日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前橫濱正金銀行カ關東州及清國ニ於テ發行シタル銀行券ハ本令ニ依リ發行シタルモノト看做ス

●關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ於ケル朝鮮銀行銀行券ノ通用ニ關スル件

大正六年十一月二十八日
勅令第二百十七號

貶關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ於ケル朝鮮銀行銀行券ノ通用ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、外務、大藏大臣副署）

朝鮮銀行ノ發行スル銀行券ハ關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ於テ公私一切ノ取引ニ無制限ニ通用スルモノトス

附　則

本令ハ大正六年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五章　國債及證券

●國債ニ關スル法律

明治三十九年四月十一日
法律第三十四號
改正　大正一〇年第四四號

貶帝國議會ノ協贊ヲ經タル國債ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

第一條　國債ノ起債、元金償還、利子仕拂、證券及登錄ニ關スル取扱手續ハ大藏大臣之ヲ定メ日本銀行ヲシテ其ノ事務ヲ取扱ハシム

第二條　國債ニ對シテハ無記名證券ヲ發行ス

國債ノ登錄ハ債權者ノ請求ニ因リ之ヲ爲ス

此ノ場合ニ於テハ證券ヲ發行セス但シ債權者ノ請求アルトキハ記名證券ヲ發行ス

第三條　登錄國債ヲ移轉シ又ハ登錄國債ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタルトキハ登錄ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ政府其ノ他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四條　相續、遺贈及强制執行ノ場合ヲ除クノ外權利ノ移轉ニ因ル國債ノ登錄ハ其ノ利子仕拂期前一箇月ヲ超エサル期間之ヲ停止スルコトヲ得國債ノ登錄除却ニ付亦同シ

第五條　記名國債證券又ハ其ノ利札ヲ滅失又ハ紛失シタルトキハ其ノ記名者ヨリ直ニ之ヲ所管取扱銀行ニ屆出ツヘシ之ヲ發見シタルトキ亦同シ

前項ノ規定ニ依リ滅失又ハ紛失ノ屆出ヲ爲シタル者ハ屆出ヲ爲シタル後三箇月ヲ經過シテ仍發見セサルトキハ代證券又ハ代利札ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ元金ノ償還期又ハ利子ノ仕拂期開始以後ハ代證券又ハ代利札ノ交付ヲ爲サス

滅失又ハ紛失ノ屆出アリタル記名國債證券又ハ其ノ利札ハ代證券又ハ代利札ノ交付ニ因リ其ノ效力ヲ失フ

第六條　無記名國債證券又ハ其ノ利札ヲ滅失又ハ紛失シタル者ハ其ノ證券又ハ利札ノ持參人カ償還又ハ仕拂ヲ受ケタル場合ニハ其ノ金額及其ノ仕拂ノ日以後ノ利子ヲ辨償スヘキ旨ヲ約シテ擔保ヲ提供シ其ノ元金ノ償還又ハ利子ノ仕拂ヲ請求スルコトヲ得但シ取扱銀行ノ確實ト認メタル保證人ヲ立テ擔保ノ提供ニ代フルコトヲ得

擔保ノ提供シタル者カ債務ノ履行ヲ爲ササルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充テ過剩額アルトキハ之ヲ還付ス

金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公賣ニ付ス

公賣ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　無記名國債證券ニ對シ元金ヲ償還スル場合ニ於テハ其ノ證券ニ附屬スル利札中欠缺セルモノアルトキハ之ニ相當スル金額ヲ元金ノ內ヨリ控除スル但シ既ニ利子仕拂期ノ開始シタル利札ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項利札ノ所持人ハ何時ト雖其ノ利札ヲ提出シテ控除金額ノ仕拂ヲ請求スルコトヲ得

第八條　民法施行法第五十七條ノ規定ハ國債證券及其ノ利札ニ之ヲ適用セス

第九條　國債ノ消滅時效ハ元金ニ在リテハ十箇年、利子ニ在リテハ五箇年ヲ以テ完成ス但シ割引ノ方法ヲ以テ發行シタル國債ノ消滅時效ハ五箇年ヲ以テ完成ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

新舊公債證書發行條例ニ依ル舊公債ノ賦金ニハ本法中利子ノ規定ヲ、賦札ニハ本法中利札ノ規定ヲ準用ス

國債ニ關スル現行法令中本法ノ規定ニ牴觸スルモノハ其ノ效力ヲ失フ但シ時效ニ關スル規定ハ此ノ限ニ在ラス

本法施行前ニ整理公債條例ノ規定ニ依リ滅失又ハ紛失ノ屆出ヲ爲シタル無記名國債證券及其ノ利札ノ處分ニ付テハ仍整理公債條例ニ依ル

明治三十九年七月一日ヨリ施行（明治三九年勅令第一三四號）

●登錄國債ノ擔保充用ニ關スル法律

明治四十二年三月二十二日
法律第八號

貶帝國議會ノ協贊ヲ經タル登錄國債ノ擔保充用ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

法令ノ規定ニ依リ擔保トシテ國債證券ヲ供託又ハ寄託スル場合ニ於テハ證券ヲ發行セサル登錄國債ニ付テ擔保ノ登錄ヲ受ケ之ニ代フルコトヲ得

●國債規則

大正十一年四月一日
大藏省令第三十一號
改正　大正一一年第六二號

國債規則左ノ通改正ス

國債規則

第一章　總則

第一條　證券ヲ發行スヘキ國債ニ關スル事項ハ別段ノ定アルモノヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　日本銀行ニ於ケル國債事務取扱ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

第三條　郵便官署ニ於ケル國債事務取扱ニ關シテハ遞信大臣又ハ所管長官ノ定ムル所ニ依ル

第四條　國債事務ノ取扱店ハ日本銀行ノ本店、支店及代理店トシ其ノ名稱及位置ハ別ニ之ヲ告示ス

第五條　國債ノ名稱其ノ他國債證券ノ發行ニ關スル事項ハ本令ニ規定スルモノヲ除クノ外別ニ之ヲ定ム

第六條　本令中第二章及第三章ノ規定ハ第十八條ノ二及第十八條ノ四ノ規定ヲ除クノ外外國ニ於テ發行スル國債ニハ之ヲ適用セス

第二章　國債證券

第七條　國債證券、添附利札及記名紙ノ見本ハ之ヲ各取扱店ニ配置シ其ノ旨ヲ告示ス但シ其ノ樣式ノ要項ヲ告示シ見本ノ配置ニ代フルコトアルヘシ

前項ノ見本ハ何人ト雖取扱店ニ就キ之ヲ閱覽スルコトヲ得

第八條　國債證券及添附利札ニハ記號及番號ヲ附ス

第九條　記名國債證券ニハ記名紙ヲ貼附シ其ノ證券、利札又ハ添附利札ニハ記名ノ二字ヲ記ス

第十條　國債證券ノ額面金額ノ種類ハ利札附證券ニ在リテハ二十五圓、五十圓、百圓、五百圓、千圓、五千圓及一萬圓ノ七種、割引ノ方法ニ依リ發行スル證券ニ在リテハ百圓、五百圓、千圓、一萬圓及十萬圓ノ五種トス但シ特別ノ定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　無記名國債證券ノ所持人ハ第二十八條ノ規定ニ依リ無記名國債證券ヲ記名國債證券ニ變換スルノ請求ヲ爲スコトヲ得

第十二條　記名國債證券ノ所有者ハ第三十五條ノ規定ニ依リ記名國債證券ヲ無記名國債

證券ニ變換スルノ請求ヲ爲スコトヲ得

第十三條　國債證券カ汚染又ハ毀損シタルトキハ其ノ所有者又ハ所持人ハ之カ引換ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ左ノ事項ヲ記載シ且記名捺印シタル書面ニ該國債證券ヲ添ヘ之ヲ取扱店ニ提出スヘシ

一　國債ノ名稱
二　國債證券ノ額面金額ノ種類及枚數
三　無記名國債證券ニ在リテハ該國債證券ノ記號、記名國債證券ニ在リテハ該國債證券ノ記號及番號
四　請求ノ年月日
五　請求者ノ住所

第十四條　汚染又ハ毀損シタル無記名利札附國債證券ノ引換ヲ請求スル場合ニ於テ該國債證券ノ附屬利札中欠缺セルモノアルトキハ其ノ欠缺利札ノ金額ニ相當スル現金ヲ取扱店ニ納付スヘシ

前項ノ欠缺利札ノ所持人ハ其ノ利札ヲ提供シテ納付金額ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

第十五條　國債證券ノ所有者又ハ所持人ハ額面金額ノ種類ニ從ヒ國債證券ノ分割又ハ併合ヲ請求スルコトヲ得但シ國債ノ名稱、國債證券ノ記號、發行年又ハ償還期限ノ異ナルモノニ付テハ併合ヲ請求スルコトヲ得ス

前項ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ且記名捺印シタル書面ニ該國債證券ヲ添ヘ之ヲ取扱店ニ提出スヘシ

一　國債ノ名稱
二　原國債證券ノ額面金額ノ種類及枚數
三　無記名國債證券ノ記號、記名國債證券ノ記號、發行年又ハ償還期限ノ異ナルトキハ其ノ各別ノ記載及番號
四　代國債證券ノ額面金額ノ種類及枚數
五　請求ノ年月日
六　請求者ノ住所

前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條　前二條ノ規定ニ依リ國債證券ノ請求ヲ爲ス場合ニ於テ各共有者ノ持分相均シカラサルトキハ其ノ國債證券ノ請求書ニ各持分ノ金額及氏名ヲ記載シ又ハ之ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ第二十六條第二項ノ共有人名簿ニ其ノ持分金額ヲ記載ス

第三十條　甲種國債證券ノ變更ヲ請求セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ且記名捺印シタル書面ヲ取扱店ニ提出スヘシ

一　國債ノ名稱及變更スヘキ證券金額
二　證券國債ノ記號及番號
三　記名者ノ變更ニ在リテハ原記名及新記名、共有者ノ持分ノ變更ニ在リテハ其ノ持分金額及氏名
四　證券變更ノ事由
五　請求ノ年月日
六　請求者ノ住所但シ請求者ト新記名者ト異ナルトキハ新記名者ノ住所トモ

前項ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條　乙種國債證券ノ變更ヲ請求セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ且記名捺印シタル書面ヲ取扱店ニ提出スヘシ

一　國債ノ名稱及變更スヘキ證券金額
二　記名國債證券ノ額面金額ノ種類及枚數
三　記名者ノ變更ニ在リテハ原記名及新記名、共有者ノ持分ノ變更ニ在リテハ其ノ持分金額及氏名
四　證券變更ノ事由
五　請求ノ年月日
六　請求者ノ住所但シ請求者ト新記名者ト異ナルトキハ新記名者ノ住所トモ

前項ノ場合ニ於テハ第二十六條第二項ノ共有人名簿ニ其ノ持分金額ヲ記載ス

第三十二條　乙種國債證券ノ變更ヲ請求セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ且記名捺印シタル書面ニ該國債證券ヲ添ヘ之ヲ取扱店ニ提出スヘシ

一　國債ノ名稱
二　記名國債證券ノ額面金額ノ種類及枚數
三　記名國債證券ノ記號及番號
四　證券變更ノ事由
五　請求ノ年月日
六　請求者ノ住所但シ請求者ト新記名者ト異ナルトキハ新記名者ノ住所トモ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條　甲種國債證券ノ變更ヲ請求セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ且記名捺印シタル書面ニ該國債證券ヲ添ヘ之ヲ取扱店ニ提出スヘシ

一　國債ノ名稱
二　記名國債證券ノ額面金額ノ種類及枚數
三　記名國債證券ノ記號及番號
四　證券變更ノ事由
五　元利金ノ支拂場所
六　請求ノ年月日
七　請求者ノ住所

第三十四條　甲種國債證券ノ除却ヲ請求セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ且記名捺印シタル書面ヲ取扱店ニ提出スヘシ

一　國債ノ名稱及除却スヘキ證券金額
二　證券國債ノ記號及番號
三　登錄ノ記名
四　國債證券ノ除却ニ因リ交付ヲ受クヘキ無記名國債證券ノ額面金額ノ種類及枚數
五　請求ノ年月日
六　請求者ノ住所

第三十五條　乙種國債證券ノ除却ヲ請求セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ且記名捺印シタル書面ニ該記名國債證券ヲ添ヘ之ヲ取扱店ニ提出スヘシ

一　國債ノ名稱及除却スヘキ證券金額
二　證券國債ノ記號及番號
三　登錄ノ記名
四　國債證券ノ除却ニ因リ交付ヲ受クヘキ無記名國債證券ノ額面金額ノ種類及枚數
五　請求ノ年月日
六　請求者ノ住所

第三十六條　登錄國債ノ利子支拂期前ニ於テハ登錄ノ變更又ハ登錄ノ除却ヲ停止スル期間ハ別ニ之ヲ告示ス

第三十七條　登錄國債ニ付テ質權設定又ハ轉質ノ登錄ヲ請求セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ且當事者雙方カ其ノ請求書ニ記名捺印シタル書面ヲ取扱店ニ提出スヘシ

一　國債ノ名稱及質權ノ目的ト爲シタル登錄金額
二　甲種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ登錄國債ノ記號及番號、乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ記名國債證券ノ額面金額ノ種類、記號及番號
三　登錄ノ記名
四　質權ノ金額及辨濟期ノ定アルトキハ其ノ期日
五　質權ニ付利息ニ關スル定アルトキ、違約金又ハ賠償額ノ定アルトキ、債權ニ條件ヲ附シタルトキ及民法第三百四十六條但書ノ定アルトキハ其ノ事項
六　質權設定者カ債務者ニ非サルトキハ債務者ノ住所氏名
七　請求ノ年月日
八　請求者ノ住所

第十四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條　前二條ノ規定ニ依リ國債登錄ノ請求ヲ爲ス場合ニ於テ各共有者ノ持分相均シカラサルトキハ其ノ國債登錄ノ請求書ニ各持分ノ金額及氏名ヲ記載シ又ハ之ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ第二十六條第二項ノ共有人名簿ニ其ノ持分金額ヲ記載ス

第三十條　甲種國債登錄簿ニ登錄シタル國債ニ付テ登錄ノ變更ヲ請求セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ且記名捺印シタル書面ヲ取扱店ニ提出スヘシ

一　國債ノ名稱及變更スヘキ登錄金額
二　登錄國債ノ記號及番號
三　記名者ノ變更ニ在リテハ原記名及新記名、共有者ノ持分ノ變更ニ在リテハ其ノ持分金額及氏名
四　登錄變更ノ事由
五　請求ノ年月日
六　請求者ノ住所但シ請求者ト新記名者ト異ナルトキハ新記名者ノ住所トモ

前項ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條　乙種國債登錄簿ニ登錄シタル國債ニ付テ登錄ノ變更ヲ請求セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ且記名捺印シタル書面ヲ取扱店ニ提出スヘシ

一　國債ノ名稱及變更スヘキ登錄金額
二　記名國債證券ノ額面金額ノ種類及枚數
三　記名者ノ變更ニ在リテハ原記名及新記名、共有者ノ持分ノ變更ニ在リテハ其ノ持分金額及氏名
四　登錄變更ノ事由
五　請求ノ年月日
六　請求者ノ住所但シ請求者ト新記名者ト異ナルトキハ新記名者ノ住所トモ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十二條　乙種國債登錄簿ニ登錄シタル國債ニ付テ甲種國債登錄簿ニ移記ヲ請求セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ且記名捺印シタル書面ニ該記名國債證券ヲ添ヘ之ヲ取扱店ニ提出スヘシ

一　國債ノ名稱及移記スヘキ登錄金額
二　國債登錄國債ノ記號及番號
三　登錄ノ記名
四　國債登錄簿ノ移記ニ因リ交付ヲ受クヘキ記名國債證券ノ額面金額ノ種類及枚數

第三十三條　甲種國債登錄簿ニ登錄シタル國債ニ付テ乙種國債登錄簿ニ移記ヲ請求セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ且記名捺印シタル書面ヲ取扱店ニ提出スヘシ

一　國債ノ名稱及移記スヘキ登錄金額
二　國債登錄國債ノ記號及番號
三　登錄ノ記名
四　國債登錄簿ノ移記ニ因リ交付ヲ受クヘキ記名國債證券ノ額面金額ノ種類及枚數
五　元利金ノ支拂場所
六　請求ノ年月日
七　請求者ノ住所

第三十四條　甲種國債登錄簿ニ登錄シタル國債ニ付テ國債登錄ノ除却ヲ請求セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ且記名捺印シタル書面ヲ取扱店ニ提出スヘシ

一　國債ノ名稱及除却スヘキ證券金額
二　證券國債ノ記號及番號
三　登錄ノ記名
四　國債證券ノ除却ニ因リ交付ヲ受クヘキ無記名國債證券ノ額面金額ノ種類及枚數
五　請求ノ年月日
六　請求者ノ住所

第三十五條　乙種國債登錄簿ニ登錄シタル國債ニ付テ國債登錄ノ除却ヲ請求セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ且記名捺印シタル書面ニ該記名國債證券ヲ添ヘ之ヲ取扱店ニ提出スヘシ

一　國債ノ名稱及除却スヘキ證券金額
二　證券國債ノ記號及番號
三　登錄ノ記名
四　國債證券ノ除却ニ因リ交付ヲ受クヘキ無記名國債證券ノ額面金額ノ種類及枚數
五　請求ノ年月日
六　請求者ノ住所

第二十五條ノ規定ハ質權ノ目的ト爲ス國債ノ登錄金額ニ之ヲ準用ス

第三十八條　前條ノ規定ハ登錄國債ニ關スル質權ノ登錄ノ變更又ハ抹消ヲ請求スル場合ニ之ヲ準用ス但シ抹消ノ事由ヲ證スル足ルヘキ書面ヲ添附スル場合又ハ質權者カ抹消ニ付利害關係ヲ有スル第三者ノ承諾書ヲ提出シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十九條　法令ノ規定ニ依リ登錄國債ヲ以テ質權ニ非サル擔保ノ目的ト爲シ之カ登錄ヲ請求セムトスル者ハ其ノ法令ノ條項、擔保權者ノ住所氏名及第三十七條第一項各號ニ準シタル事項ヲ記載シ且記名捺印シタル書面ヲ取扱店ニ提出スヘシ

第四十條　前條ノ規定ハ質權ニ非サル擔保ノ登錄ノ變更又ハ抹消ヲ請求スル場合ニ之ヲ準用ス但シ擔保權者カ抹消ノ請求ヲ爲ス場合ヲ除クノ外變更若ハ抹消ノ事由ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ提出シ又ハ當事者雙方カ其ノ請求書ニ記名捺印シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十一條　登錄國債ニ付テ信託ノ登錄ヲ請求セムトスル者ハ第二十七條乃至第三十一條ノ規定ニ依ル外當該規定ニ依リ取扱店ニ提出スル書面ニ信託ノ登錄ヲ請求スル旨ヲ記載シ委託者及受託者記名捺印シ且左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

一　委託者、受託者、受益者及信託管理人ノ住所氏名
二　信託ノ目的
三　信託財産ノ管理方法
四　信託終了ノ事由
五　其ノ他信託ノ條項

前項ノ添附書面ニハ委託者及受託者記名捺印スヘシ

左ノ場合ノ信託ノ登錄ノ請求ハ受託者ノ記名捺印ノミヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

一　信託法第十四條ノ規定ニ依リテ信託財産ニ屬スル國債ノ信託ノ登錄
二　信託法第二十七條ノ規定ニ基キ復舊ス

前項ノ規定ニ依リ國債證券ノ交付又ハ利札ノ繼足ヲ請求セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ且記名捺印シタル書面ニ該國債證券ヲ添ヘ之ヲ取扱店ニ提出スヘシ

一　國債ノ名稱
二　原國債證券ノ額面金額ノ種類及枚數
三　無記名國債證券ノ額面金額ノ種類及枚數
四　記名ノ國債證券、利札又ハ添附利札ノ記號及番號
五　記名國債證券ノ滅失又ハ紛失ニ在リテハ附屬利札面ニ記載スル利子支拂期、記名ノ利札又ハ添附利札ノ滅失又ハ紛失ニ在リテハ其ノ利札面ニ記載スル利子支拂期
六　記名國債證券ノ記名
七　届出ノ年月日
八　届出人ノ住所

第十八條　記名ノ國債證券、利札又ハ添附利札ノ滅失又ハ紛失ニ因リ代證券又ハ代利札ノ交付ヲ請求セムトスル者ハ前條第一號乃至第七號ノ事項、請求ノ年月日及請求者ノ住所ヲ記載シ且記名捺印シタル書面ヲ取扱店ニ提出スヘシ

第十八條ノ二　無記名國債證券ニ信託財産ナルコトノ表示ヲ請求セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ且記名捺印シタル書面ニ該國債證券ヲ添ヘ之ヲ取扱店ニ提出スヘシ

一　國債ノ名稱
二　國債證券ノ額面金額ノ種類及枚數
三　記名國債證券ノ記號及番號
四　記名者ノ住所
五　請求ノ年月日

第十九條　國債證券、利札又ハ添附利札ノ滅失又ハ紛失ニ因リ拂戻ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ且記名捺印シタル書面ヲ取扱店ニ提出スヘシ發見シタルトキ亦之ニ準ス

一　國債ノ名稱
二　記名國債證券ノ額面金額ノ種類
三　記名ノ國債證券、利札又ハ添附利札ノ枚數
四　記名ノ國債證券、利札又ハ添附利札ノ記號及番號
五　記名國債證券ノ滅失又ハ紛失ニ在リテハ附屬利札面ニ記載スル利子支拂期、記名ノ利札又ハ添附利札ノ滅失又ハ紛失ニ在リテハ其ノ利札面ニ記載スル利子支拂期
六　記名國債證券ノ記名
七　届出ノ年月日
八　届出人ノ住所

第二十條　消滅時效ノ完成シタル國債證券、利札又ハ添附利札並滅失又ハ紛失ニ因リ效力ヲ失ヒタル記名ノ國債證券、利札又ハ添附利札ヲ所持スル者ハ直ニ之ヲ取扱店ニ返還スヘシ

第三章　登錄國債

第二十一條　國債登錄簿ハ甲乙二種トシ甲種ハ證券ヲ發行セサルモノヲ登錄シ乙種ハ記名國債證券ヲ發行スルモノヲ登錄ス

國債登錄簿ハ之ヲ日本銀行本店ニ置ク

第二十二條　甲種國債登錄簿ニハ副本ヲ設ケ之ヲ日本銀行大阪支店ニ置ク但シ信託原簿ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條　國債登錄簿ノ樣式ハ別ニ之ヲ告示ス

第二十四條　甲種國債登錄簿ハ國債ノ名稱、起債年又ハ國債證券ノ記號毎ニ口座ヲ分チ其ノ登錄國債ニハ記號及番號ヲ附シ乙種國債登錄簿ニハ記號及番號ノ國債登錄ニ於ケル登錄國債ノ記號及番號ノ國債證券ノ記號及番號ニ從フ

第二十五條　甲種國債登錄簿ノ登錄金額ハ當該國債證券ノ額面金額ニ分割スルコトヲ得ヘキモノ又ハ額面金額ニ相當スルモノニ限ル

乙種國債登錄簿ノ登錄金額ハ當該國債證券ニ於ケル額面金額ニ從フ

第二十六條　國債ノ登錄ハ自然人ニ在リテハ其ノ氏名ヲ、法人ニ在リテハ其ノ名稱ヲ、法人ニ非サル組合ニ在リテハ其ノ管理者ノ氏名ヲ以テ之ヲ爲ス但シ法人ニ準スヘキ團體ニシテ從來其ノ名稱ヲ以テ登錄スルノ慣習アルモノハ其ノ慣習ニ從フ

共有ニ係ル登錄國債ニ付テハ請求書ニ掲ケタル筆頭者ノ氏名及他ノ人員ヲ登錄シ其ノ氏名ハ別ニ共有人名簿ニ記載ス

第二十七條　國債ノ應募者又ハ引受人國債ノ登錄ヲ請求セムトスルトキハ募入決定後又ハ引受ノ際左ノ事項ヲ記載シ且記名捺印シタル書面ヲ取扱店ニ提出スヘシ

一　國債登錄簿ノ種別
二　國債ノ名稱及登錄金額
三　登錄スヘキ記名
四　元利金ノ支拂場所
五　請求者ノ住所但シ請求者ト記名者ト異ナルトキハ記名者ノ住所トモ

第二十八條　無記名國債證券ノ所持人國債登錄ヲ請求セムトスルトキハ左ノ事項ヲ記載シ且記名捺印シタル書面ニ該國債證券ヲ添ヘ之ヲ取扱店ニ提出スヘシ

一　國債ノ名稱
二　無記名國債證券ノ記號、額面金額ノ種類及枚數
三　登錄金額
四　登錄スヘキ記名
五　元利金ノ支拂場所
六　請求ノ年月日
七　請求ノ住所

ル國債ノ信託ノ登錄

三　第二十八條ノ規定ニ依リ信託財産ナルコトヲ表示シタル無記名國債證券ヲ提出シ國債登錄簿ニ新規ニ登錄スル場合ノ信託ノ登錄

第一項ノ規定ニ依リ信託ノ登錄ノ請求書ニ添附シタル書面ハ之ヲ信託原簿トス

信託原簿ハ之ヲ登錄簿ノ一部ト看做ス

記載ハ之ヲ登錄ト看做ス

第四十條ノ三　受託者更迭ノ場合又ハ信託法第五十條第二項ノ場合ニ於テハ第三十條又ハ第三十一條ノ規定ニ依ル外當該規定ニ依リ取扱店ニ提出スル書面ニ受託者變更ノ旨ヲ記載シ前受託者及新受託者記名捺印シ且其ノ變更ヲ證スルニ足ルヘキ書類ヲ添附シ之ヲ取扱店ニ提出スヘシ

第四十條ノ四　前條ノ場合ヲ除クノ外第四十條ノ二第一項第一號乃至第五號ニ掲クル事項ニ付登錄ノ變更ヲ請求セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ且受託者ノ記名捺印シタル書面ニ其ノ變更ヲ證スルニ足ルヘキ書類ヲ添附シ之ヲ取扱店ニ提出スヘシ

一　國債登錄簿ノ種別及國債ノ名稱

二　甲種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ登錄國債ノ記號及番號、乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ記名國債證券ノ額面金額ノ種類、記號及番號

三　登錄ノ記名

四　登錄變更ノ事項

五　請求ノ年月日

六　請求者ノ住所

第四十條ノ五　登錄國債ニ付テ信託ノ登錄ノ抹消ヲ請求スル手續ハ第三十條又ハ第三十一條ノ規定ニ依ル

第四十一條　取扱店ニ於テ甲種國債登錄簿ニ新規、變更、移記及質權其ノ他ノ增保ノ登錄又ハ信託ニ關スル登錄ヲ爲シタルトキハ登錄濟通知書ヲ請求者ニ交付ス

乙種國債登錄簿ニ質權其ノ他ノ增保又ハ信託ニ關スル登錄ヲ爲シタルトキ亦同シ

第四十二條　登錄國債ノ元金償還又ハ買入銷却アリタルトキハ取扱店ニ於テ受取人ノ領收證書又ハ回收ノ記名國債證券ニ依リ之ニ對スル國債ノ登錄ヲ除却ス

第四十三條　登錄國債ノ記名者其ノ他ノ利害關係人ハ何時ト雖利害ノ關係アル部分ニ限リ國債登錄簿ノ閱覽又ハ其ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ取扱店ニ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ハ書面ヲ以テ之ヲ爲シ且他人ノ記名ニ係ル部分ノ閱覽又ハ謄本若ハ抄本ノ交付ニ付テハ其ノ利害關係ヲ證スルニ足ヘキ書類ヲ提出スルコトヲ要ス但シ請求書ニ當該記名者ノ記名捺印アルトキハ證據書類ノ提出ヲ要セス

第四十四條　登錄國債ノ記名者ノ親權者、後見人、保佐人、夫其ノ他記名者ノ爲ニ其ノ權利ヲ行使スル者ハ其ノ記名者ノ爲ニ其ノ權利ヲ行使スル者ニ變更アリタルトキハ後任者又ハ記名者ヨリ選滯ナク證明書類ヲ添附シテ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

前項ノ規定ハ法人ノ代表者ニ變更アリタルトキニ之ヲ準用ス

第四十五條　登錄國債ノ記名者及其ノ權利ヲ行使スル者ノ印鑑ヲ取扱店ニ提出シ證クコトヲ要ス改印ノトキ亦同シ

取扱店ハ其ノ必要ニ因リ關係人ノ印鑑ヲ徵スルコトヲ得

第四十六條　登錄國債ノ記名者其ノ住所ノ表示ニ變更ヲ生シタルトキハ直ニ之ヲ取扱店ニ屆出ツヘシ

第四章　元金償還及利子支拂

第四十七條　國債元金ノ全部償還ヲ爲ストキハ其ノ償還期日ヲ定メ之ヲ告示ス但シ償還期限滿了ノ日ニ於テ償還スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十八條　國債ノ元金ヲ償還スル爲抽籤ヲ執行スルトキハ其ノ償還額、償還期日抽籤ノ方法ヲ定メ之ヲ告示ス

第四十九條　抽籤ハ日本銀行本店ニ於テ之ヲ行フ

第五十條　當籤シタル國債證券ノ額面金額ノ種類、記號及番號竝甲種國債登錄簿ノ登錄金額、記號及番號ハ日本銀行之ヲ廣告ス

第五十一條　國債利子ノ支拂期ハ特別ノ定アルモノヲ除クノ外每年三月一日、六月一日、九月一日及十二月一日ノ四回トシ各其ノ日以前三箇月間ニ屬スルモノヲ支拂フ但シ利子支拂期開始前元金償還ノ場合ニ於ケル當期分利子ハ元金ト同時ニ之ヲ支拂フ

第五十二條　起債當初ニ於ケル利子ハ起債ノトキ之ヲ定メ國債元金償還ノ場合ニ於ケル利子ハ元金償還ノ期日マテ之ヲ附スル但シ月ヲ以テ利子支拂期ヲ定メタルモノノ終期利子ハ元金償還期日ノ屬スル月マテ之ヲ附ス

第五十三條　無記名國債證券ニ對スル元金及利子ハ無記名ノ國債證券、利札又ハ添附利札ノ所持人ニ其ノ證券又ハ利札ト引換ニ之ヲ支拂フ

第五十四條　登錄國債ノ元金及利子ハ甲種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ記名ノ國債證券、利札又ハ添附利札ト引換ニ記名者又ハ其ノ權利ヲ行使スル者タルコトヲ表示シタル者ニ之ヲ支拂フ

前項ノ領收證書ノ所持人竝記名ノ國債證券、利札又ハ添附利札及豫テ屆出ノ印章ニ依ル請求者ハ記名者又ハ其ノ權利ヲ行使スル者ト看做ス

第五十五條　國債證券ヲ發行シタル國債ノ元金ト同時ニ支拂フヘキ利子ハ其ノ國債證券ニ對シテ之ヲ支拂フ

第五十六條　滅失又ハ紛失シタル國債證券、利札又ハ添附利札ニ對スル元金又ハ利子ハ領收證書ト引換ニ之ヲ支拂フ

第五十七條　國債證券、利札又ハ添附利札ノ所有者又ハ所持人ハ元金償還期又ハ利子支拂期ノ開始前該國債證券、利札又ハ添附利札ヲ取扱店ニ預託シ置クコトヲ得

第五十八條　登錄國債ニ付テ元利金支拂場所ノ變更ヲ請求セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ且記名捺印シタル書面ヲ取扱店ニ提出スヘシ

一　登錄ノ種別及國債ノ名稱

二　甲種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ登錄國債ノ記號及番號、乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ記名國債證券ノ額面金額

三　登錄ノ記名

四　原支拂場所及新支拂場所

五　請求ノ年月日

六　請求者ノ住所

第五十九條　國債ノ元金又ハ利子ノ支拂ヲ受クヘキ者ハ書面ヲ以テ其ノ竪付ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル竪金ノ費用及危險ハ請求者ノ負擔トス

第六十條　滅失又ハ紛失シタル記名ノ國債證券、利札又ハ添附利札ニ對スル元金ノ償還又ハ利子ノ支拂ヲ請求セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ且記名捺印シタル書面ヲ取扱店ニ提出スヘシ

一　國債ノ名稱

二　記名國債證券ノ額面金額ノ種類

三　記名ノ國債證券、利札又ハ添附利札ノ枚數

四　記名ノ國債證券、利札又ハ添附利札ノ記號及番號

五　記名國債證券ノ記名

六　支拂ヲ受クヘキ元金額又ハ利子金額

七　元金償還期又ハ利子支拂期

八　滅失又ハ紛失届出ノ年月日

九　請求ノ年月日

十　請求者ノ住所

第六十一條　滅失又ハ紛失シタル無記名ノ國債證券、利札又ハ添附利札ニ對スル元金ノ償還又ハ利子ノ支拂ヲ請求セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ且記名捺印シタル書面ヲ取扱店ニ提出スヘシ

一　國債ノ名稱

二　無記名國債證券ノ額面金額ノ種類

三　無記名ノ國債證券、利札又ハ添附利札ノ枚數

四　無記名ノ國債證券、利札又ハ添附利札ノ記號及番號

五　支拂ヲ受クヘキ元金額又ハ利子金額

六　元金償還期又ハ利子支拂期

七　提供スヘキ增保ノ種類及數量又ハ保證人ノ住所氏名

八　請求ノ年月日

九　請求者ノ住所

滅失又ハ紛失シタル無記名國債證券ノ附屬利札又ハ添附利札中利子支拂期ノ開始セサルモノノ現存スルトキハ前項ノ規定ニ依リ元金ノ償還ヲ請求スル際之ヲ取扱店ニ提出スヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ利札ノ枚數及利札面ニ記載スル利子支拂期ヲ請求書ニ附記スルコトヲ要ス

第六十二條　前條ノ場合ニ於テ取扱店ノ承認ヲ得タル者ハ滅失又ハ添附利札ノ所持人カ償還又ハ支拂ノ日以後ノ利子ヲ受ケタル場合ニハ其ノ金額及其ノ支拂ノ日以後ノ利子ヲ辨償スヘキ旨ヲ記載シ且記名捺印シタル契約證書ニ印鑑ヲ添ヘ之ヲ取扱店ニ提出シ同時ニ之ニ對スル增保ヲ提供スヘシ

前項ノ增保ノ提供ニ代ヘ保證人ヲ立ツル場合ニ於テハ前項ノ契約證書ニ保證人記名捺印ヲ爲シ且其ノ印鑑ヲ提出スルコトヲ要ス

第五章　增保及保證

第六十三條　無記名ノ國債證券、利札又ハ添附利札ヲ滅失又ハ紛失シタル者カ元金ノ償還又ハ利子ノ支拂ヲ受クルカ爲提供スヘキ增保ハ現金又ハ國債トス

第六十四條　前條ノ增保額ハ償還ヲ受クヘキ元金又ハ支拂ヲ受クヘキ利子ノ金額ニ其ノ支拂フヘキ日ヨリ元金又ハ利子ノ消滅時效完成ノ日ニ至マテノ日數ニ應スル年五分ノ利子金額ヲ加ヘタルモノヲ以テ最下限トス但シ第六十一條第二項ノ規定ニ依リ利札ヲ提出シタルトキハ償還ヲ受クヘキ元金中ヨリ其ノ提出利札相當ノ金額ヲ控除シ增保額ヲ計算ス

第六十五條　現金ヲ以テ增保ト爲ストキハ之ヲ供託シ其ノ要項ヲ記載シ且記名捺印シタル增保提供書ニ現金受入ノ證明アル供託書ヲ添ヘ之ヲ取扱店ニ提出スヘシ

第六十六條　無記名國債證券ヲ以テ增保ト爲ストキハ其ノ名稱、額面金額ノ種類、記號及番號ヲ記載シ且記名捺印シタル增保提供書ニ被無記名國債證券ヲ添ヘ之ヲ取扱店ニ提出スヘシ

前項ノ期限マテニ增保提供者カ其ノ手續ヲ爲ササルトキハ取扱店ニ於テ增保提供者ニ代リ之ヲ爲スコトヲ得

第六十七條　增保ニ提供シタル國債ノ元金償還又ハ利子支拂ノ期限ヲ定メ之ヲ告示ス但シ償還期限滿了ノ日ニ於テ償還スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六十八條　前二條ノ國債證券ハ取扱店ニ於テ之ヲ保管ス

第六十九條　增保ヲ提供シタル者カ其ノ增保物ヲ變更セムトスルトキハ新ニ提供スヘキ增保ノ種類、數量、年月日及住所ヲ記載シ且記名捺印シタル書面ヲ以テ之ヲ取扱店ニ請求シ其ノ承認ヲ受クヘシ

前項ノ承認ヲ得タル者ハ直ニ第六十五條乃至第六十七條ノ規定ニ依リ新增保物ノ提供ヲ爲スコトヲ要ス

第七十條　增保ヲ提供シタル者ハ增保ノ原因カ一部消滅シタル場合ニ於テ其ノ限度ニ應シ增保ノ一部解除ヲ取扱店ニ請求スルコトヲ得

第七十一條　增保タル國債ノ公賣ハ取引所ニ於テ競爭ノ方法ヲ以テ之ヲ執行セシム

前項ノ規定ニ依リ難キ場合ニハ公賣ハ取扱店ニ於テ其ノ要項ヲ廣告ノ日ヨリ三日ヲ經過シタル後入札ノ方法ニ依リ之ヲ執行ス

第七十二條　公賣シタル國債ニ付テ增保提供者ヲシテ權利移轉ノ手續ヲ爲サシムルノ必要アルトキハ取扱店ニ於テ期限ヲ指定シ其ノ手續ヲ爲サシム

前項ノ期限マテニ增保提供者カ其ノ手續ヲ爲ササルトキハ取扱店ニ於テ增保提供者ニ代リ之ヲ爲スコトヲ得

第七十三條　公賣ノ費用ハ公賣代金ヲ以テ之ヲ支辨ス

公賣代金ヲ以テ辨償金及公賣費用ヲ支辨スルニ足ラサルトキハ取扱店ニ於テ納付ノ期限ヲ定メ之ヲ增保提供者ニ通知ス

第七十四條　增保ノ提供ニ代フルコトヲ得ヘキ保證人ノ債務ハ主タル債務者ト連帶トス

第七十五條　保證人カ死亡シタルトキハ債務者ニ於テ遲ニ代保證人ヲ立テ取扱店ノ承認ヲ受クヘシ保證人ノ變更ヲ要スルトキ亦同シ

債務者ハ保證人ノ資產ノ減損ニ因リ取扱店ヨリ更ニ增保ヲ提供スヘキコトヲ求メラレタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ取扱店ノ承認ヲ經テ代保證人ヲ立ツルコトヲ妨ケス

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治十九年大藏省令第二十六號、明治三十八年大藏省令第九號、明治三十九年大藏省令第二十四號、明治四十三年大藏省令第四號、同年大藏省令第八號、明治四十五年大藏省令第六號及大正六年大藏省令第二十二號ハ之ヲ廢止ス

舊公債竝本令施行前割引ノ方法ニ依リ發行シタル大藏省證券及臨時國庫證券ノ取扱ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

大正十年四月一日前增保ニ提供シタル國債以外ノ有價證券ハ大正十五年三月三十一日迄本令ノ規定ニ拘ラス仍其ノ效力ヲ有ス

前項ノ有價證券ノ價格ノ減少又ハ公賣ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

●國債名稱

大正十一年四月二十七日大藏省告示第六十一號

國債規則ニ於ケル國債ノ名稱左ノ如シ

元金償還ヲ開始セル國債ノ名稱ハ從前ノ國債ノ種別ニ依ル

明治三十九年大藏省告示第七百二十八號ハ大正十一年三月三十一日限之ヲ廢止ス

國債ノ名稱	記號及發行年	起債法令及告示（官報トアルハ大蔵省告示ノ類官報トアルハ大蔵省告示ノ類）
う（明治三十九年）	明治三十九年（三月）法律第十七號鐵道國有法、同年（十一月）省令第四十九號舊鐵道會社債務整理公債發行規程	明治三十九年（三月）法律第十七號鐵道國有法、同年（十一月）省令第四十九號舊鐵道會社債務整理公債發行規程
え（同　四十年）	明治二十五年（六月）法律第四號鐵道敷設法、同二十九年（三月）法律第五十九號事業公債條例、同年（五月）法律第二十一號樺太事業公債法、同年（三月）法律第十二號、同年（五月）告示第四十七號、同年（五月）告示第八十二號	明治二十五年（六月）法律第四號鐵道敷設法、同二十九年（三月）法律第五十九號事業公債條例、同年（五月）法律第二十一號樺太事業公債法、同年（三月）法律第十二號、同年（五月）告示第四十七號、同年（五月）告示第八十二號
お（同　四十一年）	明治三十九年（三月）法律第十七號鐵道國有法、同年（十二月）省令第四十九號舊鐵道會社債務整理公債發行規程	明治三十九年（三月）法律第十七號鐵道國有法、同年（十二月）省令第四十九號舊鐵道會社債務整理公債發行規程
く（同四十二年）	明治三十九年（三月）法律第十七號鐵道國有法、同年（二月）法律第十八號京釜鐵道買收法、同年（十二月）省令第四十九號舊鐵道會社債務整理公債發行規程	明治三十九年（三月）法律第十七號鐵道國有法、同年（二月）法律第十八號京釜鐵道買收法、同年（十二月）省令第四十九號舊鐵道會社債務整理公債發行規程
や（同四十三年）	明治四十二年（四月）法律第三十八號、同四十三年（四月）法律第四十八號、同年（八月）法律第五十九號沖繩縣諸縣分法、同年（五月）省令第二十一號沖繩縣諸縣分公債規程、同年（十月）省令第四十八號救恤公債規程、同年（十月）省令第五十號製塩地整理公債	明治四十二年（四月）法律第三十八號、同四十三年（四月）法律第四十八號、同年（八月）法律第五十九號沖繩縣諸縣分法、同年（五月）省令第二十一號沖繩縣諸縣分公債規程、同年（十月）省令第四十八號救恤公債規程、同年（十月）省令第五十號製塩地整理公債
ま（同四十四年）	明治四十三年（四月）法律第四十八號、同年（十月）省令第五十號製塩地整理公債規程	明治四十三年（四月）法律第四十八號、同年（十月）省令第五十號製塩地整理公債規程
け（同　四十五年）	明治四十五年（三月）法律第二十六號家祿賞典祿處分法	明治四十五年（三月）法律第二十六號家祿賞典祿處分法
ふ（同　大正元年）	大正元年（八月）法律第二十二號、大正元年（十二月）省令第八號禁酒公債規程、同年（六月）法律第二十二號家祿賞典祿處分法	大正元年（八月）法律第二十二號、大正元年（十二月）省令第八號禁酒公債規程、同年（六月）法律第二十二號家祿賞典祿處分法
こ（同　八年）	明治三十二年（三月）法律第七十五號臺灣事業公債法	明治三十二年（三月）法律第七十五號臺灣事業公債法
え（同　十年）	明治三十二年（三月）法律第十六號、同年（十一月）省令第三十四號一時賜金公債規程、同七年（三月）法律第二十一號樺太事業公債法、同年（三月）法律第十二號、同年（五月）告示第八十二號	明治三十二年（三月）法律第十六號、同年（十一月）省令第三十四號一時賜金公債規程、同七年（三月）法律第二十一號樺太事業公債法、同年（三月）法律第十二號、同年（五月）告示第八十二號
て（同　九年）	明治三十二年（三月）法律第八十四號家祿賞典祿處分法	明治三十二年（三月）法律第八十四號家祿賞典祿處分法
あ（同　十年）	明治三十二年（三月）法律第八十四號、同年（六月）法律第十六號、同年（十一月）省令第三十四號一時賜金公債規程、同七年（三月）法律第十二號、同九年（八月）法律第五十五號、同十年（十一月）告示第百六十三號	明治三十二年（三月）法律第八十四號、同年（六月）法律第十六號、同年（十一月）省令第三十四號一時賜金公債規程、同七年（三月）法律第十二號、同九年（八月）法律第五十五號、同十年（十一月）告示第百六十三號
さ（同　十一年）	明治三十二年（三月）法律第八十四號、同四年（四月）法律第五十九號沖繩縣諸縣分法、同年（五月）省令第二十一號沖繩縣諸縣分公債規程、同年（十一月）省令第三十九號、同年（十一月）告示第百六十三號	明治三十二年（三月）法律第八十四號、同四年（四月）法律第五十九號沖繩縣諸縣分法、同年（五月）省令第二十一號沖繩縣諸縣分公債規程、同年（十一月）省令第三十九號、同年（十一月）告示第百六十三號
恩賜（明治四十三年同四十四年大正二年）	明治四十三年（八月）勅令第三百二十七號、同年（九月）省令第四十二號恩賜公債規程	明治四十三年（八月）勅令第三百二十七號、同年（九月）省令第四十二號恩賜公債規程
た（明治三十九年）	明治三十九年（二月）法律第一號、同年（二月）省令第八號臨時事件公債規程	明治三十九年（二月）法律第一號、同年（二月）省令第八號臨時事件公債規程
わ（同　四十年）	明治三十九年（二月）法律第一號、同年（二月）省令第八號臨時事件公債規程、同年（六月）省令第二十六號	明治三十九年（二月）法律第一號、同年（二月）省令第八號臨時事件公債規程、同年（六月）省令第二十六號
甲ハ（同　四十一年）	明治三十九年（三月）法律第十七號鐵道國有法、同年（三月）法律第十八號京釜鐵道買收法	明治三十九年（三月）法律第十七號鐵道國有法、同年（三月）法律第十八號京釜鐵道買收法
甲ホ（同四十二年）	明治三十九年（三月）法律第十七號鐵道國有法	明治三十九年（三月）法律第十七號鐵道國有法
ル（同四十三年） は（同四十四年） ホ（大正元年）	明治三十九年（三月）法律第六號國債整理基金特別會計法、同四十三年（三月）省令第三號第一回四分利公債規程、同年（五月）省令第二十三號	明治三十九年（三月）法律第六號國債整理基金特別會計法、同四十三年（三月）省令第三號第一回四分利公債規程、同年（五月）省令第二十三號
第一回四分利公債		
第二回四分利公債		
特別五分利公債		
甲號五分利公債	

			（七月）省令第二十七號臨時國庫證券（な號）發行規程
同	同十一年	大正六年（七月）法律第七號臨時國庫證券法、同十年（十一月）告示第百五十六號、同十一年（二月）告示第十九號	
第一回四分利付英貨公債	明治三十二年（一八九九）	明治二十五年（六月）法律第四號鐵道敷設法、同二十九年（三月）法律第五十九號事業公債條例、同年（五月）法律第九十三號北海道鐵道敷設法、同三十二年（四月）法律第百一號、同年（五月）省令第二十二號	
第一回四分半利付英貨公債	同　三十八年（一九〇五）	明治三十八年（一月）法律第十二號、同年（三月）勅令第七十八號	
第二回四分半利付英貨公債	同　年	明治三十八年（七月）勅令第百九十四號、同年（七月）勅令第百九十五號	
第二回四分利付英貨公債	同　年	明治三十七年（三月）法律第一號、同三十八年（一月）法律第十二號、同年（十一月）勅令第二百四十一號	
五分利付英貨公債	同　四十（一九〇七）	明治三十七年（三月）法律第一號、同三十八年（一月）法律第十二號、同四十年（三月）勅令第二十三號	
四分利付佛貨公債	同　四十三年（一九一〇）	明治三十九年（三月）法律第六號國債整理基金特別會計法、同四十三年（四月）省令第十九號四分利付佛貨公債發行規程	
第三回四分利付英貨公債	同　年	明治三十九年（三月）法律第六號國債整理基金特別會計法、同四十三年（五月）省令第二十四號第三回四分利付英貨公債發行規程	
佛貨國庫債券	大　正　二年（一九一三）	明治四十二年（三月）法律第六號帝國鐵道會計法、大正二年（四月）省令第十號佛貨國庫債券發行規程	
舊關西鐵道株式會社英貨社債	明治三十九年（一九〇六）	明治三十九年（八月）法律第十七號鐵道國有法	
南滿洲鐵道株式會社英貨社債	（一）同四十年（一九〇七） （二）同四十一年（一九〇八） （三）同四十四年（一九一一） （四）同四十四年（一九一一）	大正九年（八月）法律第三十四號	

●日本銀行國債事務取扱規程

大正十一年四月一日
大藏省令第三十二號
改正　大正一一年第六三號

國債規則第二條ニ依リ日本銀行國債事務取扱規程左ノ通定ム

日本銀行國債事務取扱規程

第一章　總則

第一條　日本銀行ハ別段ノ定アルモノヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依リ國債ニ關スル事務ノ取扱ヲ爲スヘシ

第二條　日本銀行ハ其ノ本店、支店及代理店ニ於テ國債ニ關スル事務ノ取扱ヲ爲スヘシ

前項ノ代理店ハ日本銀行大藏大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ但シ特ニ必要アリト認ムルトキハ大藏大臣之カ設置ヲ命スルコトアルヘシ

第一項ノ取扱店ノ名稱又ハ位置ニ變更ヲ生スルトキハ日本銀行其ノ旨ヲ大藏省ニ報告スヘシ

第三條　日本銀行ハ遞信大臣又ハ所管長官ノ定ムル所ニ依リ郵便官署ニ於ケル國債事務ノ取扱ニ關シ必要ナル請較ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條　日本銀行ハ國債ノ發行ニ依リ收入金及國債元利拂資金ノ收支ヲ日本銀行國庫金取扱規程第七十條ノ國庫金總括帳ニ記入シ同第八十六條ノ國庫金貸借對照表ニ之ヲ編入スヘシ

第五條　本令ノ施行ニ必要ナル取扱手續ニシテ大藏大臣ノ定ムルモノヲ除クノ外日本銀行之ヲ定ム大藏大臣ニ報告スヘシ其ノ改廢ニ付亦同シ

第二章　起債

第六條　日本銀行ハ國債ノ募集其ノ他ノ起債ニ付テハ本章ノ規定及別ニ定ムル所ニ依ルノ外其ノ時々大藏大臣ノ命スル所ニ依リ其ノ取扱ヲ爲スヘシ

第七條　日本銀行ハ揭示、新聞廣告其ノ他適切ナル方法ヲ以テ國債募集ノ廣告ヲ爲シ且應募申込書ノ用紙ヲ配布スヘシ

第八條　日本銀行ハ應募申込書ニ添ヘ應募申込保證金ノ提出ヲ受クヘキヤノ之ニ對シテ領收證書ヲ交付スヘシ

第九條　日本銀行ハ應募申込ノ狀況ヲ每日支店及代理店ヲシテ本店ニ電報セシメ本店ノ分ト併セテ其ノ要項ヲ大藏省ニ報告スヘシ

郵便官署ノ取扱ニ係ル應募申込ノ狀況ヲ別ニ之ヲ取纏メテ報告スヘシ

第十條　日本銀行ハ各應募申込ニ對シ募入額ヲ決定シ之ヲ各應募者ニ通知シ其ノ顚末ヲ大藏大臣ニ報告スヘシ

第十一條　日本銀行ハ國債ノ應募者ヨリ應募拂込金ノ拂込ヲ受ケタルトキハ領收證書ヲ交付シ拂込完了ノ後之ト引換ニ國債證券ヲ交付スヘシ但シ國債規則第二十七條ノ規定ニ依リ甲種國債登錄簿ニ登錄ノ請求ヲ爲シタル者ニ對シテハ領收證書ト引換ニ登錄濟通知書ヲ交付スヘシ

第十二條　日本銀行ハ國債ノ應募金額中拂込ノ完了シタルモノアルトキハ一箇月每ニ其ノ國債ノ名稱、記號、國債額及拂込金額ヲ大藏省ニ報告スヘシ

第十三條　日本銀行ハ國債ノ應募金額中拂込利息ヲ利子及代用拂込超過額ニ區別シタル口座ヲ設ケ國債募集金ノ受拂額ヲ記入スヘシ

第十四條　日本銀行ハ國債ノ發行ニ依ル收入金納付ノ爲歲入徵收官ヨリ納入告知書ノ交付ヲ受ケタルトキハ國債募集金ヨリ拂出シ歲入金トシテ受入レ整理スヘシ但シ大藏省證券及融通證券ノ發行ニ依リ收入金ニ付テハ大藏大臣ノ納入命令書ニ依リ納付ノ手續ヲ爲スヘシ

第十五條　日本銀行ハ國債ノ發行ニ依ル收入金ノ內募入外保證金ノ拂戻ヲ要スルトキハ保證金領收證書ト、證券代用拂込超過額ノ拂戻ヲ要スルトキハ領收證書ト引換ニ之カ支拂ヲ爲シ國債募集金ヨリ拂出ノ整理ヲ爲スヘシ

第十六條　日本銀行ハ每日國債募集金ノ出納ニ關シ第一號書式ノ國債募集金出納報告表ヲ調製シ之ヲ大藏省ニ提出スヘシ

第十七條　日本銀行ハ大藏大臣ノ命スル所ニ依リ收入金ノ伴ハサル國債證券ノ交付ヲ爲シタルトキハ領收證書ヲ發シ一箇月每ニ之ヲ取纏メ翌月二十日迄ニ大藏省ニ提出スヘシ

前項ノ領收證書ハ國債ノ名稱每ニ區分シテ之ヲ編綴シ表紙ニ其ノ金額及紙數ヲ記載スヘシ

第一項ノ領收證書中其ノ提出期日內ニ未到達ノモノアルトキハ其ノ旨ヲ表紙ニ記載シ

第二十條　日本銀行ハ印刷局ヨリ證券類（白紙、未完成國債證券、國債證券、附利札、記名無記名ノ別及名義人ノ見本ノ類ヲ謂フ以下同シ）ヲ受領シタルトキハ其ノ品目、數量及受入年月日ヲ大藏省ニ報告スヘシ

第二十一條　日本銀行ハ其ノ保管スル證券類ニ關シ入ヲ要スルモノアルトキハ大藏省ノ通知ニ依リ其ノ證券類ヲ印刷局ニ引渡スヘシ

第二十二條　日本銀行ハ大藏大臣ノ命スル所ニ依リ國債證券、添附利札及記名紙ノ見本ヲ各取扱店其ノ他ニ配置シタルトキハ其ノ旨ヲ大藏省ニ報告スヘシ

第二十三條　日本銀行ハ法令其ノ他ノ規定又ハ大藏大臣ノ許可ニ依ル場合ヲ除クノ外其ノ保管スル證券類ヲ他人ニ交付シ又ハ貸與スルコトヲ得ス

第二十四條　日本銀行ハ其ノ本店ニ國債證券臺帳ヲ置キ國債證券ノ發行及銷却ヲ登記スヘシ

國債證券臺帳ハ之ニ登記シタル國債證券全部ノ元金及利子ノ消滅時效完成スヘキ時期ノ後五箇年ヲ經過スル迄之ヲ保存スヘシ

第二十五條　日本銀行ハ每月國債證券臺帳ニ依リ其ノ月中ニ起債ノ爲發行シタル國債證券ノ名稱、記號及發行總額ヲ記載シタル調書ヲ調製シ臨檢ノ大藏省官吏ニ提出スヘシ但シ第十九條ニ規定スル國債證券ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條ノ二　日本銀行ハ其ノ本店ニ國債證券信託表示簿ヲ置キ請求ノ順ニ從ヒ登簿年月日及登簿番號ヲ附シ信託ノ目的タル無記名國債證券ノ名稱、額面金額ノ種類、記號、番號、信託ノ委託者及受託者ノ住所氏名

關後到達スルニ從ヒ別ニ區分編綴シテ之ヲ提出スヘシ

第三章　國債證券

第二十條　日本銀行ハ印刷局ヨリ證券類（白紙、未完成國債證券、國債證券、附利札、記名無記名ノ別及名義人ノ見本ノ類ヲ謂フ以下同シ）ヲ受領シタルトキハ其ノ品目、數量及受入年月日ヲ大藏省ニ報告スヘシ

第二十一條　日本銀行ハ其ノ保管スル證券類ニ關シ入ヲ要スルモノアルトキハ大藏省ノ通知ニ依リ其ノ證券類ヲ印刷局ニ引渡スヘシ

第二十二條　日本銀行ハ大藏大臣ノ命スル所ニ依リ國債證券、添附利札及記名紙ノ見本ヲ各取扱店其ノ他ニ配置シタルトキハ其ノ旨ヲ大藏省ニ報告スヘシ

第二十三條　日本銀行ハ法令其ノ他ノ規定又ハ大藏大臣ノ許可ニ依ル場合ヲ除クノ外其ノ保管スル證券類ヲ他人ニ交付シ又ハ貸與スルコトヲ得ス

第二十四條　日本銀行ハ其ノ本店ニ國債證券臺帳ヲ置キ國債證券ノ發行及銷却ヲ登記スヘシ

國債證券臺帳ハ之ニ登記シタル國債證券全部ノ元金及利子ノ消滅時效完成スヘキ時期ノ後五箇年ヲ經過スル迄之ヲ保存スヘシ

第二十五條　日本銀行ハ每月中ニ起債ノ爲發行シタル國債證券ノ名稱、記號及發行總額ヲ記載シタル調書ヲ調製シ臨檢ノ大藏省官吏ニ提出スヘシ但シ第十九條ニ規定スル國債證券ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條ノ二　日本銀行ハ其ノ本店ニ國債證券信託表示簿ヲ置キ請求ノ順ニ從ヒ登簿年月日及登簿番號ヲ附シ信託ノ目的タル無記名國債證券ノ名稱、額面金額ノ種類、記號、番號、信託ノ委託者及受託者ノ住所氏名

第二十六條　日本銀行ハ每月末日現在ノ國債證券發行額及其ノ月中ニ於ケル增減ヲ國債證券ノ名稱、記號、額面金額ノ種類、發行年及增減事由ノ異ナル每ニ區分シ速ニ大藏省ニ報告スヘシ

第三十五條　日本銀行ハ證券類出納ニ關スル帳簿ヲ備ヘ證券及利札ニ付左ノ科目ニ區分シ其保管スル證券類ヲ出納整理スヘシ但シ白紙及記名紙ハ之ヲ證券ニ編入スヘシ

一　豫備證券
二　豫備利札
三　保管證券
四　保管利札

チ登記シ又抹消ノ請求アリタルトキハ抹消ノ事由及抹消ノ年月日ヲ登記スヘシ

第二十四條　第四項ノ規定ハ國債證券信託表示簿ニ付之ヲ準用ス

第二十六條　國債證券及添附利札ノ押印加工、利札ノ繼足及記名紙ノ貼附契印ハ成規定例ニ從ヒ日本銀行本店ニ於テ之ヲ取扱フヘシ但シ利札ノ繼足ハ支店及代理店ニ於テモ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第二十七條　日本銀行ハ國債ノ起債、國債證券ノ記名無記名ノ變換、汚染毀損ノ引換、分割併合、附屬利札ノ盡了、登錄ノ除却其ノ他其ノ時々之ヲ取扱店ニ囘付シ受取人ニ交付ノ手續ヲ爲スヘシ但シ證券類送付ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ請求ノ本旨ニ依リテ相當ノ取扱ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ國債證券又ハ其ノ附屬利札中不用ニ屬スルモノヲ生スルトキハ日本銀行直ニ之カ廢棄ニ必要ナル手續ヲ爲スヘシ

第二十八條　日本銀行ハ國債規則第十四條又ハ第十五條ノ規定ニ依リ欠缺利札ニ對スル納付金ヲ徵收シタルトキハ其ノ金額及事由ヲ大藏省ニ報告シ納入告知書ニ依リ之ヲ納付スヘシ

前項納付金ノ拂戻ヲ要スルモノアルトキハ其ノ時々金額、事由及受取人ノ住所氏名ヲ大藏省ニ報告スヘシ

第二十九條　元金償還、利子支拂其ノ他ノ事由ニ因リ囘收シタル證券類ノ記名紙及見本ヲ除クノ外元金償還又ハ利子支拂ノ消滅時效完成ニ在リテハ其ノ元金及利子ノ消滅時效完成スヘキ時期迄其ノ他ノモノニ在リテハ囘收ノ時ヨリ五年間之ヲ保存スヘシ但シ國債證券白紙及記名紙ハ之ヲ證券ニ編入スヘシ

第三十條　前條ノ保存期間ヲ經過シタル證券類ノ國債證券、利札又ハ添附利札ヲ一箇月分毎ニ速ニ取纏メ臨檢ノ大藏省官吏ニ提出シ其ノ國債證券ノ名稱、記號、償還年月日、額面金額ノ種類、附屬利札支拂期、端數利金、枚數、總枚數、總額面金額、欠缺利札控除額及支拂金額ヲ記載シタル支拂濟證券調書、國債證券ノ名稱、記號、額面金額ノ種類、附屬利札支拂期、端數利金、枚數、總枚數及總額面金額ヲ記載シタル買入銷却證券調書又ハ國債證券ノ名稱、利札金額ノ種類、利子支拂期、元金ノ償還若ハ利子ノ支拂ヲ爲シタルトキハ減失又ハ紛失シタル支拂濟利札調書ニ檢查濟ノ證印ヲ受ケヘシ但シ時宜ニ依リ一箇月分ヲ數回ニ分チ檢查ヲ受クルコトヲ得

第三十二條　日本銀行ハ記名ノ國債證券、利札又ハ添附利札ノ滅失又ハ紛失ノ屆出アリタルトキハ國債證券ノ名稱、額面金額ノ種類又ハ利札金額ノ種類、國債證券又ハ利札ノ記號、番號及枚數、附屬利札支拂期、屆出年月日、屆出人ノ氏名ヲ大藏省ニ報告スヘシ但シ發見ノ屆出アリタル時ハ此ノ限ニ在ラス

第三十三條　日本銀行ハ滅失又ハ紛失ノ屆出アリタル記名ノ國債證券、利札又ハ添附利札ノ元金ノ償還若ハ利子ノ支拂ヲ爲シタルトキハ滅失又ハ紛失シタル國債證券ノ名稱、額面金額ノ種類、利札金額ノ種類、國債證券又ハ利札ノ記號、番號、償還期、利子支拂期、交付年月日、屆出人氏名ヲ大藏省ニ報告スヘシ

第三十四條　日本銀行ハ每月末日現在ノ國債證券發行額及其ノ月中ニ於ケル增減ヲ國債證券ノ名稱、記號、額面金額ノ種類、發行年及增減事由ノ異ナル每ニ區分シ速ニ大藏省ニ報告スヘシ

第三十五條　日本銀行ハ證券類出納ニ關スル帳簿ヲ備ヘ證券及利札ニ付左ノ科目ニ區分シ其保管スル證券類ヲ出納整理スヘシ但シ白紙及記名紙ハ之ヲ證券ニ編入スヘシ

一　豫備證券
二　豫備利札
三　保管證券
四　保管利札

五　廢銷證券
六　廢銷利札

豫備證券又ハ豫備利札ハ發行又ハ交付ノ手續ヲ爲ササル完成又ハ未完成ノ證券類トス

保管證券又ハ保管利札ハ既ニ發行ノ手續ヲ爲シ未タ交付ヲ終ラサルモノ其ノ他取扱上一時保管スル國債證券、利札又ハ添附利札トス

廢銷證券又ハ廢銷利札ハ發行又ハ交付ノ後囘收シタル證券類及廢物又ハ不用ト爲リタル未發行又ハ未交付ノ證券類トス

第一項ノ帳簿ノ樣式及記入ノ方法ハ大藏大臣ノ認可ヲ經テ日本銀行之ヲ定ムヘシ

第三十六條　豫備證券又ハ豫備利札ヲ廢銷證券又ハ廢銷利札ニ組換ヘムトスルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ取扱中汚染又ハ毀損シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十七條　日本銀行ハ證券類ノ出納ニ關シ每月其ノ品目、數量及事由其ノ他必要ナル事項ヲ記載シタル報告書ヲ調製シ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏省ニ提出スヘシ但シ保管證券又ハ保管利札ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四章　登錄國債

第三十八條　甲種國債登錄簿、其ノ副本及乙種國債登錄簿ハ國債ノ名稱每ニ之ヲ別冊ト爲スヘシ但シ信託原簿ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

甲種國債登錄簿、其ノ副本及乙種國債登錄簿ハ其ノ保全ノ爲必要アリト認ムル場合ヲ除クノ外之ヲ日本銀行ノ本店外又ハ大阪支店外ニ搬出スルコトヲ得ス

甲種國債登錄簿、其ノ副本及乙種國債登錄簿ハ之ニ登錄シタル國債全部ノ元金ノ消滅時效完成スヘキ時期ノ後五年ヲ經過スル迄日本銀行之ヲ保存スヘシ

前三項ノ甲種國債登錄簿、其ノ副本及乙種國債登錄簿ノ附屬書類ニ之ヲ準用ス

第三十九條　日本銀行本店ハ甲種國債登錄簿ニ登錄シタルトキハ直ニ書面ヲ以テ其ノ事項ヲ日本銀行大阪支店ニ報告スヘシ但

シ新規ニ口座番號ヲ設ケル場合ニ於テハ報告書ニ代ヘ登錄ノ副本ヲ調製送付スルコトヲ妨ケス

第四十條　甲種國債登錄簿ノ副本ハ日本銀行大阪支店ニ於テ前條ノ報告書ニ基キ甲種國債登錄簿ト同一ノ樣式ニ依リ直ニ之ヲ調製スヘシ但シ前條但書ノ場合ニ於テハ登錄ノ副本ヲ甲種國債登錄簿ト同一ノ順序ニ依リ編綴スヘシ

第四十一條　甲種國債登錄簿ニ登錄シタル國債ニ付登錄ノ變更又ハ除却（附記登錄其ノ他登錄ニ異動ヲ生シタルトキハ日本銀行本店ハ直ニ其ノ事項ヲ日本銀行大阪支店ニ報告スヘシ

第四十二條　日本銀行大阪支店ハ前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ直ニ副本ニ之カ記入又ハ抹消ヲ爲スヘシ

第四十三條　日本銀行ハ每月末日現在登錄國債ノ登錄金額及其ノ月中ニ於ケル增減ヲ甲乙二種ノ登錄簿每ニ大別シ尙之ヲ國債ノ名稱、記號、發行年及增減事由ノ異ナル每ニ區分シ速ニ大藏省ニ提出スヘシ

第四十四條　日本銀行ハ每月甲種國債登錄簿ニ依リ其ノ月中ニ起債ノ爲登錄シタル國債ノ名稱、記號及發行總額ヲ記載シタル調書ヲ調製シ臨檢ノ大藏省官吏ニ提出スヘシ

第四十五條　日本銀行ハ國債登錄簿ノ閱覽ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ取扱主任者ノ面前ニ於テ之ヲ閱覽セシムヘシ

第四十六條　日本銀行ハ國債登錄簿ノ謄本又ハ抄本交付ノ請求ヲ受ケ之ヲ作製シタルトキハ之ニ原本ト相異ナキ旨ヲ記載シ記名捺印ヲ爲スヘシ

第五章　國債ノ償還及利子支拂

第四十七條　日本銀行ハ國債償還ノ爲抽籤ヲ執行シタルトキハ直ニ其ノ當籤シタル國債證券ノ名稱、記號、額面金額ノ種類及枚數竝甲種國債登錄簿ニ於ケル國債ノ名稱、記號及登錄金額ヲ記載シタル抽籤調書三通ヲ作リ立會官吏ノ署名捺印ヲ受ケ大藏省及會計檢査院ノ官吏ニ各一通ヲ提出シ他ノ一通ヲ保存スヘシ

第四十八條　日本銀行ハ揭示、官報又ハ新聞ノ揭載其ノ他適切ナル方法ヲ以テ國債規則第五十條ノ廣告ヲ爲スヘシ

第四十九條　國債證券ノ買入銷却ハ日本銀行大藏大臣ノ命スル所ニ依リ之ヲ取扱ヒ其ノ買入レタル國債證券ノ名稱、記號、額面金額ノ種類、枚數、總金額、買入價格及買入年月日ヲ大藏省ニ報告スヘシ

前項ノ規定ハ甲種國債登錄簿ニ登錄シタル國債ノ買入銷却ニ付之ヲ準用ス

第五十條　日本銀行國債ノ元金償還又ハ利子支拂ニ必要ナル資金ハ別ニ定ムルモノヲ除ク外所要期日前豫メ其ノ金額ヲ算定シ大藏大臣ニ請求シ之カ交付ヲ受クヘシ

第五十一條　日本銀行ハ前條ノ規定ニ依リ資金ノ交付ヲ受ケタルトキハ其ノ金額ヲ國債元利拂資金トシテ受入レ整理スヘシ

第五十二條　日本銀行ハ國債元利金ノ支拂ヲ了シタルモノニ付テハ其ノ金額ヲ前條ノ國債元利拂資金ヨリ拂出ノ整理ヲ爲スヘシ

第五十三條　日本銀行ハ國債元利拂資金ノ出納ヲ整理スル爲國債元利拂資金受拂帳ヲ備フヘシ

前項ノ帳簿ニハ大藏大臣ノ定ムル計算科目每ニ日座ヲ設ケ國債元利拂資金ノ受拂額ヲ記入スヘシ

第五十四條　日本銀行每年度所屬國債元利金ノ支拂ハ當該年度末日ヲ以テ之ヲ打切リ整理スヘシ

前項ノ打切整理ノ場合ニ於テ資金ノ殘額アルトキハ大藏省證券元金及醵通證券元金ノ償還資金ヲ除クノ外翌年度四月三十日迄ニ其ノ科目每ニ內地拂及海外拂ニ區分シタル金額ヲ大藏省ニ報告シ返納告知書又ハ納入告知書ノ交付ヲ受クヘシ

第五十五條　日本銀行ハ消滅時效完成其ノ他ノ事由ニ因リ國債元利拂資金ノ不用ニ歸シタルモノアルトキハ前條ノ規定ニ準シ其ノ金額ヲ大藏省ニ報告シ納入告知書ノ交付ヲ受クヘシ

第五十六條　日本銀行ハ前二條ノ規定ニ依リ返納告知書又ハ納入告知書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ本令ノ規定ニ依リ原證券ヲ保存スヘシ

第一號書式

表告報納出金

殘	拂	受
0		
0		
0		
0		

行　大正　年　月　日

日本銀行

宛　大藏省

集幕債國

種別	殘	拂	受	種別
（い）券債庫國利分五	0			金利元拂地內
同（ろ）	0			金利元拂外海
大藏省證券發行代金何々	0			金元券證省藏大

第二號書式

表告報納出金資拂利元債國

大正　年　月　日

日本銀行

宛　大藏省

●國債事務ヲ日本銀行國庫事務取扱所ヲシテ取扱ハシムルノ件

昭和二年四月二十五日
大藏省令第八號

國債事務ヲ日本銀行國庫事務取扱所ヲシテ取扱ハシムルノ件左ノ通定ム

日本銀行ニ於ケル國債ニ關スル事務ハ當分ノ內其ノ本店、支店及代理店ノ外國庫事務取扱所ヲシテ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得

前項ノ日本銀行國庫事務取扱所ノ名稱及位置ハ別ニ之ヲ告示ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●寄託又ハ供託ニ係ル國債ノ償還元金代リ新公債交付ニ關スル特別取扱規程

明治四十三年五月七日
大藏省令第二十六號

寄託又ハ供託ニ係ル國債ノ償還元金代リ新公債交付ニ關スル特別取扱規程左ノ通之ヲ定ム

第一條　寄託又ハ供託ニ係ル國債ノ償還元金代リ新公債ノ交付ニ關スル特別取扱規程

金庫ニ寄託又ハ供託シアル國債ノ償還元金代リトシテ新公債ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ其ノ金庫所在地ノ取扱銀行ニ於テ仕拂ヲ受クル場合ニ限リ本令ノ規定ニ依リ寄託又ハ供託ニ關スル特別ノ取扱ヲ受クルコトヲ得

第二條　政府ニ對スル保證金其ノ他ノ擔保トシテ金庫ニ寄託又ハ供託シアル國債ノ償還元金代リトシテ新公債ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ仕拂取扱銀行名、原證券ノ名稱、額面高、額面金額種類、枚數、記號、番號竝ニ交付ヲ受クヘキ新證券ノ名稱及寄託又ハ供託スヘキ新證券ノ額面高ヲ記載シタル當該官廳宛ノ特別取扱請求書二通ヲ作リ國債發行ノ規程ニ從ヒ作製シタル取扱銀行宛ノ引受申込書ヲ添ヘ之ヲ當該官廳ニ提出スヘシ

前項特別取扱ノ請求ニ係ル舊證券ノ償還元金ノ額カ新證券ノ發行代金ノ額ニ滿タサル場合ハ取扱銀行ノ通知ニ依リ其ノ不足額ヲ拂込ムヘシ若シ取扱銀行ノ指定シタル期限內ニ其ノ拂込ヲ了ラサルトキハ引受ノ申込ハ其ノ效力ヲ失フ

第三條　當該官廳ニ於テ前條第一項ノ請求書ヲ調査シ其ノ請求ニ應スヘキモノト認メタルトキハ其ノ旨ヲ請求者ニ告知シ同時ニ保管證書、送付書ニ對スル領收證書又ハ供託受領證ノ番號、日附、證券ノ額面高及寄託又ハ供託ノ金庫名ヲ記載シタル承認通知書ヲ作リ前條ノ請求書（二）及引受申込書ト共ニ之ヲ取扱銀行ニ送付スヘシ

前項ノ引受申込書ハ當該官廳ニ於テ其ノ受付年月日ヲ附記スルコトヲ要ス

第四條　取扱銀行ニ於テ前條書類ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ其ノ寄託又ハ供託スヘキ新證券ノ名稱、額面高、額面金額種類、枚數、記號及番號ヲ記載シタル仕譯書ヲ作リ之ヲ其ノ證券ニ添ヘ前條ノ承認通知書及特別取扱請求書ト共ニ之ヲ當該金庫ニ送付スヘシ但シ償還元金ノ額カ發行代金ノ額ニ滿タサル場合ニ在リテハ不足金額拂込ノ期限ヲ指定シ之ヲ引受申込人ニ通知シ其ノ拂込アリタル後本條ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條　金庫ニ於テ前條ニ依リ證券及書類ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ寄託又ハ供託ニ在リテハ保管物變更證書ヲ、供託ニ在リテハ供託物變更證書ヲ作リ原證券ト共ニ之ヲ取扱銀行ニ交付スヘシ

前項ノ變更證書ニハ原證券及新證券ノ名稱、額面高、額面金額種類、枚數、記號、番號竝ニ原證券ノ保管證書、送付書ニ對スル領收證書又ハ供託受領證ノ番號、日附、變更ノ事由及年月日ヲ記載シ金庫名ヲ署シ之ニ捺印スルコトヲ要ス

差押其ノ他ノ事故ニ因リ寄託又ハ供託ノ證券ヲ變更シ難キトキハ金庫ハ其ノ旨ヲ告ケ送付ヲ受ケタル證券及書類ヲ取扱銀行ニ返還スヘシ

第六條　取扱銀行ニ於テ前條第一項ニ依リ證券及書類ノ交付ヲ受ケタルトキハ保管物變更證書又ハ供託物變更證書ヲ當該官廳ニ送付シ償還元金代リトシテ交付ノ新證券ニシテ寄託又ハ供託ノ部分ニ屬セサルモノアルトキハ之ヲ引受申込人ニ交付スヘシ

前條第三項ノ場合ニ於テハ取扱銀行ハ其ノ旨ヲ引受申込人ニ通知シ同時ニ承認通知書及特別取扱請求書ヲ當該官廳ニ返還スヘシ

第二條第二項ニ依リ引受ノ申込カ無效ト爲リ又ハ寄託若ハ供託ノ證券カ償還セラルヘキ效力ヲ有セサルモノナルトキ亦同シ

第七條　第二條第一項ニ依ル引受申込書ニ付テハ當該官廳ニ於テ附記シタル受付ノ日ヲ以テ償還ノ請求及引受ノ申込アリタルモノト看做ス

第八條　金庫ニ寄託又ハ供託シアル臨償ノ償還元金代リトシテ新公債ノ交付ヲ受ケムトスル者ニシテ其ノ國債證券カ政府ニ對スル擔保ニ非サルトキハ原證券ノ名稱、額面高、額面金額種類、枚數、記號、番號竝ニ交付ヲ受クヘキ新證券ノ名稱及寄託又ハ供託スヘキ新證券ノ額面高ヲ記載シタル特別取扱請求書ヲ作リ證券ノ變更ニ付キ法令ノ規定ニ依リ主務官廳ノ認可ヲ經ヘキモノニ在リテハ其ノ認可書、其ノ他ノモノニ在リテハ權利者ノ承諾書ト共ニ之ヲ申込書ニ添ヘ國債發行ノ規程ニ從ヒ引受申込ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ請求書ニハ第三條ノ承認通知書ニ準シタル事項ヲ附記スヘシ但シ前項ノ認可書ノ

又ハ承諾書ニ於テ其ノ事項ヲ證メ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條　第四條乃至第六條ノ規定ハ前條第一項ノ請求ニ對スル取扱ニ之ヲ準用ス但シ第六條第一項ノ場合ニ於テ保管物變更證書又ハ供託物變更證書ハ特ニ登付先ヲ指定シタルモノハ其ノ指定ニ從ヒ其ノ他ハ之ヲ引受申込人ニ送付スルモノトス同條第二項ニ依ル書類ノ返還ニ付テ亦同シ

第十條　本令ノ規定ニ依リ變更ノ手續ヲ了リタル新證券ノ拂渡ニ付テ保管物取扱規程ニ依リ保管證書ニ裏書ヲ爲スヘキ場合ハ保管物變更證書ノ裏書ヲ以テ之ニ代ヘ之ニ實證券ノ保管證書ヲ添附スルコトヲ要ス供託物取扱規程ニ依リ供託受領證ニ奥書ヲ爲スヘキ場合亦之ニ準ス

保管物取扱規程第二十條ノ規定ハ保管物變更證書ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●寄託又ハ供託セル國債ノ國債應募拂込現金代用ニ關スル特別取扱規程

大正十一年五月八日大藏省令第四十二號

寄託又ハ供託セル國債ノ國債應募拂込現金代用ニ關スル特別取扱規程左ノ通定ム

寄託又ハ供託セル國債ノ國債應募拂込現金代用ニ關スル特別取扱規程

第一條　法令ノ規定ニ依リ政府ニ對スル保證又ハ擔保トシテ寄託又ハ供託セル國債ヲ以テ國債應募拂込ノ現金ニ代用セムトスル場合ノ特別取扱ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　本令ノ規定ニ依リ國債代用拂込應募ノ申込ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル取扱官廳（供託事務ノ取扱ヲ爲ス銀行ヲ含ム以下同シ）宛ノ特別取扱請求書二通ニ國債發行ノ規程ニ依リ作製シタル取扱店宛ノ應募申込書ヲ添附シ之ヲ當該官廳ニ提出スヘシ

一　應募ノ申込ヲ爲スヘキ日本銀行本支店名又ハ代理店名

二　代用拂込ノ國債ノ名稱、額面總額、額面金額種類、枚數、記號及番號又ハ登録金額、登録ノ記號及番號

三　交付ヲ受クヘキ國債ノ名稱及寄託又ハ供託スヘキ國債ノ額面總額又ハ登録金額

四　政府保管有價證券受領證書番號又ハ供託番號

國債ノ變更ニ付主務官廳ノ認可又ハ權利者ノ承諾ヲ必要トスル場合ニ於テハ其ノ認可書又ハ承諾書ヲ前項ノ特別取扱請求書ニ添附シ且其ノ旨ヲ附記スヘシ

國債ノ額面金額又ハ登錄金額ノ一部ヲ以テ代用拂込ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ前項ノ特別取扱請求書ニ代用ニ充ツヘキ國債額ヲ記載スヘシ

國債證券代用拂込ノ應募申込書ノ宛名ハ代用スヘキ國債證券ヲ保管スル日本銀行本支店名又ハ代理店名トス

第三條　取扱官廳ハ前條ノ特別取扱請求書ヲ調査シ其ノ請求ニ應スヘキモノト認メタルトキハ其ノ旨ヲ請求者ニ通知シ且特別取扱請求書ニ承認ノ旨及政府保管有價證券受託證書又ハ政府保管有價證券振込濟通知書ノ番號ヲ記載シ其ノ一通ヲ應募申込書ト共ニ當該日本銀行ニ送付スヘシ

第四條　日本銀行ハ前條特別取扱ノ請求ニ係ル應募ノ申込ニ對シ募入ノ決定ヲ爲シタル旨ヲ取扱官廳ニ通知スヘシ

受託有價證券代用拂込ノ應募申込書ノ宛名ハ代用スヘキ國債證券ヲ保管スル日本銀行本支店名ヲ代理店名トス

第三條　取扱官廳ハ前條ノ特別取扱請求書ヲ調査シ其ノ請求ニ應スヘキモノト認メタルトキハ其ノ旨ヲ請求者ニ通知シ且特別取扱請求書ニ承認ノ旨及政府保管有價證券受託證書又ハ政府保管有價證券振込濟通知書ノ番號ヲ記載シ其ノ一通ヲ應募申込書ト共ニ當該日本銀行ニ送付スヘシ

第四條　日本銀行ハ前條特別取扱ノ請求ニ係ル應募ノ申込ニ對シ募入ノ決定ヲ爲シタル旨ヲ取扱官廳ニ通知スヘシ

受託有價證券變更證書ニハ左ノ事項ヲ記載シ且記名捺印スヘシ

一　代用國債及新規發行國債ノ名稱、額面總額、額面金額種類、枚數、記號及番號又ハ登錄金額、登錄ノ記號及番號

二　代用國債ノ政府保管有價證券受託證書若ハ政府保管有價證券振込濟通知書ノ番號又ハ供託番號

三　應募申込額ノ一部カ製當募入ト爲リタル爲代用國債ヲ減少スヘキ場合ハ日本銀行ニ於テ適宜代用拂込ニ充當スヘキモノヲ指定シ其ノ旨ヲ取扱官廳及應募者ニ通知スヘシ

國債證券代用拂込ノ應募申込ニ對シ製當募入ヲ爲シタルトキハ代用スヘキ國債證券ノ額面金額、登錄ノ記號及番號ヲ通知スヘシ

第五條　日本銀行ハ應募申込ニ對シ製當募入ヲ爲シタル國債ノ額面金額ニ超過スル金額ノ代用國債ヲ還付スヘシ

第六條　代用拂込ニ對シ交付スヘキ新規發行國債ニシテ代用國債額ヲ超過スルモノアルトキハ日本銀行ハ之ヲ應募者ニ交付スヘシ代用國債ノ代用價額カ拂込金額ニ超過スルモノアルトキ亦同シ

第七條　第二條ノ規定ニ依ル特別取扱ノ請求ハ代用國債額ノ限度ニ於テ國債發行ノ規程ニ依リ國債證券ノ引渡ヲ爲シ又ハ登錄國債ノ貸權設定ノ登錄請求アリタルモノト看做ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●寄託又ハ供託セル國債證券附屬利札盡了ノモノノ特別取扱規程

大正十一年十二月一日大藏省令第五十八號

寄託又ハ供託セル國債證券附屬利札盡了ノモノノ特別取扱規程左ノ通定ム

寄託又ハ供託セル國債證券附屬利札盡了ノモノノ特別取扱規程

第一條　法令ノ規定ニ依リ政府ニ對スル保證又ハ擔保トシテ寄託又ハ供託セル國債ヲ以テ國債應募拂込ノ現金ニ代用セムトスル場合ノ特別取扱ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　本令ノ規定ニ依リ國債代用拂込應募ノ申込ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル取扱官廳（供託事務ノ取扱ヲ爲ス銀行ヲ含ム以下同シ）宛ノ特別取扱請求書二通ニ國債發行ノ規程ニ依リ作製シタル取扱店宛ノ應募申込書ヲ添附シ之ヲ當該官廳ニ提出スヘシ

一　應募ノ申込ヲ爲スヘキ日本銀行本支店名又ハ代理店名

二　代用拂込ノ國債ノ名稱、額面總額、額面金額種類、枚數、記號及番號又ハ登錄金額、登錄ノ記號及番號

三　交付ヲ受クヘキ國債ノ名稱及寄託又ハ供託スヘキ國債ノ額面總額又ハ登錄金額

四　政府保管有價證券受領證書番號又ハ供託番號

國債ノ變更ニ付主務官廳ノ認可又ハ權利者ノ承諾ヲ必要トスル場合ニ於テハ其ノ認可書又ハ承諾書ヲ前項ノ特別取扱請求書ニ添附シ且其ノ旨ヲ附記スヘシ

國債ノ額面金額又ハ登錄金額ノ一部ヲ以テ代用拂込ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ前項ノ特別取扱請求書ニ代用ニ充ツヘキ國債額ヲ記載スヘシ

國債證券代用拂込ノ應募申込書ノ宛名ハ代用スヘキ國債證券ヲ保管スル日本銀行本支店名又ハ代理店名トス

第三條　取扱官廳ハ前條ノ特別取扱請求書ヲ調査シ其ノ請求ニ應スヘキモノト認メタルトキハ其ノ旨ヲ請求者ニ通知シ且特別取扱請求書ニ承認ノ旨及政府保管有價證券受託證書又ハ政府保管有價證券振込濟通知書ノ番號ヲ記載シ其ノ一通ヲ應募申込書ト共ニ當該日本銀行ニ送付スヘシ

第四條　日本銀行ハ前條特別取扱ノ請求ニ係ル應募ノ申込ニ對シ募入ノ決定ヲ爲シタル旨ヲ取扱官廳ニ通知スヘシ

受託有價證券代用拂込ノ應募申込書ノ宛名ハ代用スヘキ國債證券ヲ保管スル日本銀行本支店名又ハ代理店名トス

第三條　取扱官廳ハ前條ノ特別取扱請求書ヲ調査シ其ノ請求ニ應スヘキモノト認メタルトキハ其ノ旨ヲ請求者ニ通知シ且特別取扱請求書ニ承認ノ旨及政府保管有價證券受託證書又ハ政府保管有價證券振込濟通知書ノ番號ヲ記載シ其ノ一通ヲ應募申込書ト共ニ當該日本銀行ニ送付スヘシ

第四條　日本銀行ハ前條特別取扱ノ請求ニ係ル應募ノ申込ニ對シ募入ノ決定ヲ爲シタル旨ヲ取扱官廳ニ通知スヘシ

受託有價證券變更證書ニハ左ノ事項ヲ記載シ且記名捺印スヘシ

一　代用國債及新規發行國債ノ名稱、額面總額、額面金額種類、枚數、記號及番號又ハ登錄金額、登錄ノ記號及番號

二　代用國債ノ政府保管有價證券受託證書若ハ政府保管有價證券振込濟通知書ノ番號又ハ供託番號

三　應募申込額ノ一部カ製當募入ト爲リタル爲代用國債ヲ減少スヘキ場合ハ日本銀行ニ於テ適宜代用拂込ニ充當スヘキモノヲ指定シ其ノ旨ヲ取扱官廳及應募者ニ通知スヘシ

國債證券代用拂込ノ應募申込ニ對シ製當募入ヲ爲シタルトキハ代用スヘキ國債證券ノ額面金額、登錄ノ記號及番號ヲ通知スヘシ

第五條　日本銀行ハ應募申込ニ對シ製當募入ヲ爲シタル國債ノ額面金額ニ超過スル金額ノ代用國債ヲ還付スヘシ

第六條　代用拂込ニ對シ交付スヘキ新規發行國債ニシテ代用國債額ヲ超過スルモノアルトキハ日本銀行ハ之ヲ應募者ニ交付スヘシ代用國債ノ代用價額カ拂込金額ニ超過スルモノアルトキ亦同シ

第七條　第二條ノ規定ニ依ル特別取扱ノ請求ハ代用國債額ノ限度ニ於テ國債發行ノ規程ニ依リ國債證券ノ引渡ヲ爲シ又ハ登錄國債ノ貸權設定ノ登錄請求アリタルモノト看做ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●大日本帝國政府五分利公債證書ノ舊樣式證券ヲ新樣式證券ト引換請求方

明治三十九年九月十二日大藏省令第三十八號

大日本帝國政府五分利公債證書ノ舊樣式證券（裏書廢ノモノヲ除ク）ヲ所有スル者ハ新樣式證券ト引換ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ國債規則第八條ノ規定ニ準シ調製シタル書面ヲ以テ之ヲ取扱店（記名證券ナルトキハ所管取扱店）ニ請求シ追テ取扱店ノ通知ヲ得テ原證券ヲ提出シ之ト引換ニ新證券ヲ受取ルヘシ

前項引換ノ請求ヲ爲シタル後原證券ヲ他人ニ讓渡シ又ハ滅失若ハ紛失シタルトキハ直ニ其旨ヲ取扱店ニ屆出ツヘシ

國債規則第十條ノ規定ハ本令ノ規定ニ依ル證券ノ引換ニ之ヲ準用ス

●國債證券買入銷却法

明治二十九年二月二十一日　法律第五號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル國債證券買入銷却法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

國債證券買入銷却法

第一條　政府ハ每年度國債費豫算定額以內ニ於テ國債證券ヲ買入レ之カ銷却ヲ爲スコトヲ得

前項買入ノ價格ハ該證券面金額ニ超過スルコトヲ得ス

第二條　國債證券ノ買入銷却ヲ爲シタルトキハ大藏大臣ハ其ノ證券ノ種類、番號、總額及其ノ買入價格ヲ告示スヘシ

第三條　銷却ノ爲ニスル國債證券ノ買入ハ隨意契約ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

●政府ニ對スル保證金其ノ他ノ擔保ニ供シタル國債ノ買入銷却ニ關スル法律

明治四十二年三月二十二日　法律第九號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル政府ニ對スル保證金其ノ他ノ擔保ニ供シタル國債ノ買入銷却ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

政府ニ對スル保證金其ノ他ノ擔保トシテ提供シタル國債ヲ法令ノ規定ニ依リ公賣スヘキ場合ニ於テハ國債證券買入銷却法ニ依リ其ノ國債ノ債權金額ヲ以テ之ヲ買入レ銷却スルコトヲ得

●國債債還抽籤執行ノ場合ニ於ケル立會者ニ關スル件

明治三十九年六月六日　勅令第百三十七號

朕國債債還ノ爲抽籤執行ノ場合ニ於ケル立會者ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（大藏大臣副署）

國債債還ノ爲抽籤ヲ執行スルトキハ大藏省官吏三名以上ノ會計檢查院官吏二名以上及日本銀行役員二名以上ノ立會ヲ要ス

附　則

第一條　整理公債ノ利子ノ每年六月十二月十二日ニ於テ支拂フモノトス

第二條　整理公債ノ壹億七千五百萬圓ヲ限リ大藏大臣財政ノ便宜ヲ計リ漸次之ヲ募集スルモノトス

第三條　整理公債利子ノ割合ハ一箇年百分ノ五トス

第四條　整理公債ニ對シ發行スル證書ハ無記名利札附トス但應募者又ハ所有者ノ望ニ由リ記名トスルコトヲ得

第五條　整理公債證書ノ種類及樣式ハ大藏大臣之ヲ定メ豫メ告示スヘシ

第六條　整理公債證書ノ價格ハ該證券面金額ニ超過スルコトヲ得ス

第二條　整理公債ハ壹億七千五百萬圓ヲ限リ大藏大臣財政ノ便宜ヲ計リ漸次之ヲ募集スルモノトス

第三條　整理公債利子ノ割合ハ一箇年百分ノ五トス

第四條　整理公債ニ對シ發行スル證書ハ無記名利札附トス但應募者又ハ所有者ノ望ニ由リ記名トスルコトヲ得

第五條　整理公債證書ノ種類及樣式ハ大藏大臣之ヲ定メ豫メ告示スヘシ

第六條　整理公債證書ノ價格ハ該證券面金額ニ超過スルコトヲ得ス

第二條　整理公債ハ壹億七千五百萬圓ヲ限リ大藏大臣財政ノ便宜ヲ計リ漸次之ヲ募集スルモノトス

第三條　整理公債利子ノ割合ハ一箇年百分ノ五トス

第四條　整理公債ニ對シ發行スル證書ハ無記名利札附トス但應募者又ハ所有者ノ望ニ由リ記名トスルコトヲ得

第五條　整理公債證書ノ種類及樣式ハ大藏大臣之ヲ定メ豫メ告示スヘシ

第六條　整理公債證書ノ價格ハ該證券面金額ニ超過スルコトヲ得ス

第七條　整理公債證書ハ每期償還ヲ必トスルトキハ大藏大臣ハ應募價格ノ高キモノヨリ順次證書ヲ交付シ需要額ニ滿ルニ至テ止ムヘシ其價格同シキモノハ申込ノ高ヲ割合減少スルモノトス但時宜ニ依リ貳百圓以下ノ應募者ニハ之ヲ減少セサルコトアルヘシ

第八條　整理公債應募金ノ拂込ヲ數回ニ分ツ場合ニ於テ拂込期ノ來日マテニ拂込未濟ノモノアルトキハ其翌日ヨリ現拂込ノ日マテ一箇年百分ノ七ノ割合ヲ以テ利子ヲ徵收スヘシ

前項拂込期日後三箇月ヲ過キ尙ホ拂込ヲ怠サルトキハ公債證書ヲ交付セス且既ニ拂込ノ金額ハ還付セサルモノトス

第九條　整理公債元金ハ募集ノ年ヨリ五箇年據置其翌年ヨリ向五十箇年間ニ抽籤法ヲ以テ償還スルモノトス但償還金額ハ其時々大藏大臣之ヲ定メ豫メ告示スヘシ

第十條　削除

第十一條　整理公債ノ利子ノ每年六月十二月十二日ニ於テ支拂フモノトス

第十二條　整理公債ノ利子ノ其元金拂込ノ時月ノ十五日以前ニ在ルモノハ下半月分ヲ支拂ヒ月ノ十六日以後ニ在ルモノハ翌月分ヨリ支拂ヒ元金償還ノ年ニ於テハ其償還ノ月マテ月割ヲ以テ支拂フモノトス

第十三條　整理公債證書ノ利札ハ利子請求ノ時其所有者各自之ヲ裁斷シテ日本銀行本支店又ハ代理店ニ持參スヘシ

第十四條　整理公債元利ノ支拂ヲ請求セサルモノアルトキハ元金ノ償還ノ月ヨリ滿十五箇年利子ノ支拂ノ期月後滿五箇年ヲ過クレハ之ヲ支拂ハサルヘシ但證書ノ紛失汚染及ヒ毀損等ニ由リ元利ノ支拂ヲ見合セ及ヒ訴訟事件ニ由リ請求ヲ爲シ難キ場合アルトキハ其間ノ日數ヲ算セス

●事業公債條例

明治二十九年三月三十日　法律第五十九號

改正　明治三四年　第二〇號、三六年　第七號、四〇年第九號、四一年第一三號、四二年第六號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル事業公債條例ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

第一條　事業公債ハ【既設官線鐵道改良、北海道鐵道建設】、【製鋼事業】、【電話擴張ノ費途】、【業煙草專賣資金及國防事業ノ費用ニ充ツル爲】貳億二千五百萬圓ヲ限リ漸次之ヲ募集スル

第二條　本公債ノ利子ハ一箇年百分ノ五以下トシ募集ノ都度大藏大臣之ヲ定ム

第三條　本公債ニ關シ本條例ニ規定セサルモノハ明治十九年勅令第六十六號整理公債條例ノ各條項ヲ適用ス

●鐵道公債及事業公債利子支拂期

明治三十年二月二十四日　法律第一號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル鐵道公債及事業公債利子支拂期改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

明治二十五年法律第四號鐵道敷設法明治二十九年法律第五十九號事業公債條例及明治二十九年法律第五十九號北海道鐵道敷設法ニ依ル公債ノ利子ハ每年三月九月ニ於テ支拂フモノトス

●公債證書額面種類

明治三十七年十二月二十四日
大蔵省令第四十六號

大日本帝國政府五分利公債證書ノ額面種類ハ五千圓、千圓、五百圓、百圓及五拾圓ノ五種トシ臺灣事業公債證書ノ額面種類ハ五千圓、千圓、五百圓、百圓、五拾圓、拾五圓及拾圓ノ七種トス

明治三十九年二月十六日
大蔵省令第七號

整理公債證書、【軍事公債證書】及大日本帝國政府五分利公債證書ノ額面種類ハ五十圓、百圓、五百圓、千圓、五千圓及一萬圓ノ六種トス

●震災善後公債法

大正十二年十二月二十四日
法律第五十六號

改正　大正一三年第一二號

震災善後ニ關スル經費支辨ノ爲政府ハ十億七千三百萬圓ヲ限リ公債ヲ發行シ又ハ之カ繰替支辨ノ爲借入金ヲ爲スコトヲ得

第一條　震災ニ伴フ復興事業其ノ他震災善後ノ爲ニ要スル經費支辨ノ爲政府ハ十億七千三百萬圓ヲ限リ公債ヲ發行シ又ハ之カ繰替支辨ノ爲借入金ヲ爲スコトヲ得

第二條　前條ノ規定ニ依ル公債ノ發行價格差減額ヲ補塡スル爲必要アル場合ニ於テハ前條ノ制限以外ニ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●震災善後ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件

大正十三年三月一日
勅令第四十六號

改正　大正一三年第一二號

震災善後ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副書）

震災善後公債法第一條ノ規定ニ依リ震災善後ニ關シ必要ナル經費支辨ノ爲政府ハ二千四百二十萬圓ヲ限リ公債ヲ發行シ又ハ之カ繰替支辨ノ爲借入金ヲ爲スコトヲ得

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●震災善後ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件

大正十三年三月一日
勅令第四十六號

震災善後ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副書）

震災善後公債法第一條ノ規定ニ依リ震災善後ニ關シ必要ナル經費支辨ノ爲政府ハ「コールローン」ノ證書ヲ擔保トシテ銀行ノ振出シタル手形

四　前三號ニ規定スル手形ニシテ日本銀行ノ割引シタルモノノ書換ノ爲ニ振出シタル手形

日本銀行ハ本令ニ依リテ爲ス手形ノ割引ニ付政府ノ監督ヲ受クヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

【參考】

大正十四年三月三十一日
法律第三十五號

改正　大正一五年第三三號

震災善後ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副書）

震災善後公債法第一條ノ規定ニ依リ震災善後ニ關シ必要ナル經費支辨ノ爲政府ハ日本銀行カ大正十二年勅令第四百二十四號第一項第四號ニ該當スル手形ニシテ大正十四年十月一日ヨリ大正十六年九月三十日迄ノ間ニ於ケル滿期日ヲ有スルモノノ割引ヲ爲シ之ニ因リテ損失ヲ受ケタル場合ニ於テ同行ニ對シ其ノ損失ヲ補償スルノ契約ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル公債ノ發行價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●復興事業ノ施行ニ伴ヒ支拂フヘキ金額ヲ國債證券ヲ以テ交付スル等ニ關スル法律

大正十二年十二月二十四日
法律第五十五號

改正　大正一三年第一二號

震災善後ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副書）

第一條　政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ復興事業ノ施行ニ伴ヒ土地所有者其ノ他ノ利害關係人ニ支拂フヘキ補償金其ノ他ノ金額ヲ五分利附國債證券ヲ以テ交付スルコトヲ得

第二條　政府ハ前條ノ規定ニ依リ交付スル爲必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得但シ其ノ總額ハ震災善後公債法ニ依リ發行スル公債又ハ借入金ノ總額ニ付テ定スル制限額ヲ超ユルコトヲ得ス

震災善後公債法第二條ノ規定ニ依リ交付スル爲必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行シ又ハ之ヲ借入金ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ總額ハ震災善後公債法ニ依リ發行スル公債又ハ借入金ノ總額ニ付テ定スル制限額ヲ超ユルコトヲ得ス

第三條　第一條第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ支拂フヘキ補償金又ハ對價ハ前條ノ規定ニ依リ交付スル金額ヲ以テ其ノ請求ニ因リ現金ヲ以テ之ヲ交付ス

一　前條第一號ノ場合ニ於テ直接自己ノ用ニ供スル土地ニ付其ノ所有者又ハ借地權者カ換地ノ交付ヲ受ケサリシトキ又ハ換地ノ交付ヲ受ケ若ハ換地ノ交付ト共ニ借地權ニ付換地ノ指定ヲ受ケタルモノニ非サルトキ

二　前條第二號乃至第四號ノ場合ニ於テ對價ノ目的タル土地又ハ借地權カ對價ヲ受クヘキ者ノ債務ノ擔保タルトキ但シ當該債務ノ元利支拂ニ要スル金額ヲ限度トス

第四條　本令ニ於テ借地權ト稱スルハ地上權、永小作權、賃借權及國有財産法第二十四條ノ規定ニ依リ土地ノ貸付ヲ受クル者ノ權利ヲ謂フ

第五條　國債ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●復興事業ノ施行ニ伴ヒ交付スヘキ國債證券ニ關スル件

大正十三年六月二日
勅令第百三十七號

改正　大正一五年第三三號

震災復興事業ノ施行ニ伴ヒ交付スヘキ國債證券ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務、大藏大臣副書）

第一條　復興事業ノ施行ニ伴ヒ政府カ土地所有者其ノ他ノ利害關係人ニ對シ支拂フヘキ補償金其ノ他ノ金額ヲ左ニ掲ケル場合ニ於テハ五分利附國債證券ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得但シ其ノ總額ハ國債ノ最小額面ノ交付價格ニ滿タサル額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一　特別都市計畫法第八條第一項ノ規定ニ依リ交付スヘキ補償金ヲ支拂フトキ

二　直接自己ノ用ニ供セサル土地又ハ建物其ノ他ノ工作物ヲ敎用又ハ買敎シタル場合ニ於テ其ノ所有者ニ補償金又ハ對價ヲ支拂フトキ

三　直接自己ノ用ニ供セサル借地又ハ其ノ上ニ存スル借地權ヲ敎用又ハ買敎シタル場合ニ於テ其ノ借地權者ニ補償金又ハ對價ヲ支拂フトキ

四　敎用又ハ買敎シタル土地ノ殘地ヲ從來用ヰタル目的ニ供シ得ル場合ニ於テ當該土地ノ所有者又ハ借地權者ニ對シ補償金又ハ對價ヲ支拂フトキ

五　現金ヲ以テ補償金又ハ對價ヲ交付スヘキ場合ト雖之ヲ受クヘキ者カ同意シタルトキ

第二條　左ニ揭ケル場合ニ於テ支拂フヘキ補償金又ハ對價ハ之ヲ受クヘキ者ノ請求ニ因リ現金ヲ以テ之ヲ交付ス

一　前條第一號ノ場合ニ於テ直接自己ノ用ニ供スル土地ニ付其ノ所有者又ハ借地權者カ換地ノ交付ヲ受ケサリシトキ又ハ換地ノ交付ヲ受ケ若ハ換地ノ交付ト共ニ借地權ニ付換地ノ指定ヲ受ケタルモノニ非サルトキ

第三條　第一條第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ支拂フヘキ補償金又ハ對價ハ前條ノ規定ニ依リ交付スル金額ヲ限度トス

第四條　本令ニ於テ借地權ト稱スルハ地上權、永小作權、賃借權及國有財産法第二十四條ノ規定ニ依リ土地ノ貸付ヲ受クル者ノ權利ヲ謂フ

第五條　國債ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（以下震災手形所持銀行ト稱ス）ニ對シ該震災手形ノ整理ヲ爲サシムル爲本法ノ定ムル所ニ依リ貸付金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ貸付金ハ五分利附國債證券ヲ以テ之ヲ交付ス

第三條　政府ハ前條ノ規定ニ依リ交付スル爲必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得但シ其ノ總額ハ震災手形損失補償公債法ニ依リ發行スル公債ヲ通シテ二億七百萬圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第四條　前條並震災手形損失補償公債法第二條及第三條ノ規定ニ依リ發行スル公債ノ交付價額カ通シテ二億七百萬圓ニ達セサルトキハ其ノ差額ヲ補塡スル爲前條ノ制限以外ニ公債ヲ發行スルコトヲ得

第五條　本法ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

第六條　第二條ノ貸付ハ震災手形所持銀行カ其ノ震災手形債務者トノ間ニ其ノ手形債務ヲ更改スル爲十年以內ノ年賦償還貸付契約ヲ締結シタル場合ニ非サレハ之ヲ爲サス

第七條　第二條ノ貸付ノ期限ハ十年以內トシ其ノ利率ハ年五分以上トス

前項ノ外貸付金ニ關シテハ大藏大臣之ヲ定ム

第八條　第二條ノ貸付ノ辨濟金ニ相當スル金額ハ國債整理基金特別會計法第二條ノ規定ニ依ル繰入ノ外本法ニ依リ發行シタル公債ノ償還ニ充ツル爲之ヲ一般會計ヨリ國債整理基金特別會計ニ繰入ヘシ但シ本法ニ依リ發行シタル公債ノ前年度首ニ於ケル未償還額ノ萬分ノ百十六ニ相當スル金額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九條　第二條ノ貸付ニ關スル事務ハ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシム

前項ノ事務ノ取扱ニ要スル經費ハ日本銀行ノ負擔トス

第十條　震災手形所持銀行ニ對シ第二條ノ貸付確定前ニ於テ日本銀行カ昭和二年十月一日ヨリ同年十一月三十日迄ノ間ニ於ケル滿期日ヲ有スル震災手形ノ割引ヲ受ケタル銀行ニ對シ其ノ損失ヲ補償スルノ契約ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル公債ノ發行價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●震災手形損失補償公債法

昭和二年三月三十日
法律第十九號

震災手形損失補償公債法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副書）

震災手形損失補償公債法

第一條　大正十二年勅令第四百二十四號及大正十四年法律第三十五號ニ依ル契約ニ基キ政府カ日本銀行ニ對シ震災手形又ハ震災地ニ震災ノ爲時價事業所ヲ有シタル者ノ振出シタル手形若ハ之ヲ支拂人トスル手形ニシテ大正十二年九月一日以前ニ銀行ノ割引シタルモノ又ハ之ヲ書換ノ爲ニ振出シタル手形ニ付テハ大正十三年三月三十一日迄ニ爲シタルモノニ限ル

一　震災地（東京府、神奈川縣、埼玉縣、千葉縣及靜岡縣ヲ謂フ以下同シ）ヲ支拂地トスル手形又ハ震災地ニ震災ノ爲時價事業所ヲ有シタル者ノ振出シタル手形若ハ之ヲ支拂人トスル手形ニシテ大正十二年九月一日以前ニ銀行ノ割引シタルモノ

二　前號ニ規定スル手形ノ書換ノ爲ニ振出シタル手形

減額ヲ補塡スル爲必要アル場合ニ於テハ前條ノ制限以外ニ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●電信事業公債法

大正九年八月五日
法律第四十二號

改正　大正一五年第五九號

震災復興事業ノ施行ニ伴ヒ政府カ土地所有者其ノ他ノ利害關係人ニ對シ支拂フヘキ補償金其ノ他ノ金額ヲ五分利附國債證券ヲ以テ交付スル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依リ交付スル金額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得但シ其ノ總額ハ震災善後公債法第二條ノ規定ニ依リ發行スル公債又ハ借入金ノ總額ニ付テ定スル制限額ヲ超ユルコトヲ得ス

震災善後公債法第二條ノ規定ニ依リ交付スル爲必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行シ又ハ之ヲ借入金ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ總額ハ震災善後公債法ニ依リ發行スル公債又ハ借入金ノ總額ニ付テ定スル制限額ヲ超ユルコトヲ得ス

第三條　第一條第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ支拂フヘキ補償金又ハ對價ハ之ヲ受クヘキ者ノ請求ニ因リ現金ヲ以テ之ヲ交付ス

一　前條第一號ノ場合ニ於テ直接自己ノ用ニ供スル土地ニ付其ノ所有者又ハ借地權者カ換地ノ交付ヲ受ケサリシトキ又ハ換地ノ交付ヲ受ケ若ハ換地ノ交付ト共ニ借地權ニ付換地ノ指定ヲ受ケタルモノニ非サルトキ

二　前條第二號乃至第四號ノ場合ニ於テ對價ノ目的タル土地又ハ借地權カ對價ヲ受クヘキ者ノ債務ノ擔保タルトキ但シ當該債務ノ元利支拂ニ要スル金額ヲ限度トス

第四條　本令ニ於テ借地權ト稱スルハ地上權、永小作權、賃借權及國有財産法第二十四條ノ規定ニ依リ土地ノ貸付ヲ受クル者ノ權利ヲ謂フ

第五條　國債ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●震災手形損失補償公債法

昭和二年三月三十日
法律第十九號

震災手形損失補償公債法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副書）

震災手形損失補償公債法

第一條　大正十二年勅令第四百二十四號及大正十四年法律第三十五號ニ依ル契約ニ基キ政府カ日本銀行ニ對シ震災手形又ハ震災地ニ震災ノ爲時價事業所ヲ有シタル者ノ振出シタル手形若ハ之ヲ支拂人トスル手形ニシテ大正十二年九月一日以前ニ銀行ノ割引シタルモノ又ハ之ヲ書換ノ爲ニ振出シタル手形ニ付テハ大正十三年三月三十一日迄ニ爲シタルモノニ限ル

一　震災地（東京府、神奈川縣、埼玉縣、千葉縣及靜岡縣ヲ謂フ以下同シ）ヲ支拂地トスル手形又ハ震災地ニ震災ノ爲時價事業所ヲ有シタル者ノ振出シタル手形若ハ之ヲ支拂人トスル手形ニシテ大正十二年九月一日以前ニ銀行ノ割引シタルモノ

二　前號ニ規定スル手形ノ書換ノ爲ニ振出シタル手形

三　前二號ニ規定スル手形又ハ震災地ニ營業所ヲ有スル銀行カ他ノ銀行ニ對シ大正十二年九月一日以前ニ發行シタル預金證書若ハ「コールローン」ノ證書ヲ擔保トシテ銀行ノ振出シタル手形

四　前三號ニ規定スル手形ニシテ日本銀行ノ割引シタルモノノ書換ノ爲ニ振出シタル手形

日本銀行ハ本令ニ依リテ爲ス手形ノ割引ニ付政府ノ監督ヲ受クヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

【參考】

大正十四年三月三十一日
法律第三十五號

改正　大正一五年第三三號

震災善後ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副書）

震災善後公債法第一條ノ規定ニ依リ震災善後ニ關シ必要ナル經費支辨ノ爲政府ハ日本銀行カ震災手形善後處理法ニ依リ貸付ヲ受ケムトスルトキハ貸付ヲ受ケムトスル金額、期限及償還ノ方法ヲ記載シタル貸付申請書ニ總取締役、業務執行社員ノ全員、其ノ他法人ノ代表者署名シ左ノ書類ヲ添附シテ之ヲ昭和二年十月十五日迄ニ日本銀行ヲ經由シ大藏大臣ニ提出スヘシ

一　震災手形債務者トノ間ニ締結シタル年賦償還貸借契約書寫

二　前號ノ契約債務者ノ資産及信用ヲ調査シタル書類

三　提供セムトスル擔保ノ種類、數量及價額ヲ記載シタル書面

四　昭和二年六月三十日現在ノ貸借對照表及其ノ說明書

大藏大臣ハ前項ニ揭ケル書類ノ外必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●電話事業公債法

大正六年七月二十一日
法律第十一號

改正　大正九年第四三號

昭和四年第四〇號

電話事業ノ經營ヲ確實ナラシムル爲政府ハ五億三千百三十萬圓ヲ限リ公債ヲ發行シ又ハ之ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副書）

電話事業公債法

第一條　電話交換擴張費支辨ノ爲政府ハ五億三千百三十萬圓ヲ限リ公債ヲ發行シ又ハ之カ繰替支辨ノ爲借入金ヲ爲スコトヲ得

第二條　前條ノ規定ニ依ル公債ノ發行ニ關スル事務ハ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシム

第九條　第二條ノ貸付ニ關スル事務ハ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシム

前項ノ事務ノ取扱ニ要スル經費ハ日本銀行ノ負擔トス

第十條　震災手形所持銀行ニ對シ第二條ノ貸付確定前ニ於テ日本銀行カ昭和二年十月一日ヨリ同年十一月三十日迄ノ間ニ於ケル滿期日ヲ有スル震災手形ノ割引ヲ受ケタル銀行ニ對シ其ノ損失ヲ補償スルノ契約ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル公債ノ發行價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●震災手形損失補償公債法

昭和二年三月三十日
法律第十九號

震災手形損失補償公債法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副書）

震災手形損失補償公債法

第一條　大正十二年勅令第四百二十四號及大正十四年法律第三十五號ニ依ル契約ニ基キ政府カ日本銀行ニ對シ震災手形又ハ震災地ニ震災ノ爲時價事業所ヲ有シタル者ノ振出シタル手形若ハ之ヲ支拂人トスル手形ニシテ大正十二年九月一日以前ニ銀行ノ割引シタルモノ又ハ之ヲ書換ノ爲ニ振出シタル手形ニ付テハ大正十三年三月三十一日迄ニ爲シタルモノニ限ル

一　震災地（東京府、神奈川縣、埼玉縣、千葉縣及靜岡縣ヲ謂フ以下同シ）ヲ支拂地トスル手形又ハ震災地ニ震災ノ爲時價事業所ヲ有シタル者ノ振出シタル手形若ハ之ヲ支拂人トスル手形ニシテ大正十二年九月一日以前ニ銀行ノ割引シタルモノ

二　前號ニ規定スル手形ノ書換ノ爲ニ振出シタル手形

公債ヲ發行シ又ハ之カ繼替支辨ノ爲借入ヲ爲スコトヲ得

第二條　前條ノ規定ニ依ル公債ノ發行價格差減額ヲ補塡スル爲必要アル場合ニ於テハ前條ノ制限以外ニ公債ヲ發行シ又ハ借入ヲ爲スコトヲ得

附　則

本法ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣事業公債法

大正十一年三月二十八日　法律第十三號
改正　大正十二年第一五號
昭和二年第二號、四年第一五號

朝鮮總督府會計法ヲ臺灣ニ施行スル件ニ依リ臺灣ニ於テモ特別會計ヲ設ケ臺灣事業公債ヲ以テ其ノ經費ヲ支辨スルノ必要アリ茲ニ本法ヲ制定ス

第一條　臺灣ニ於ケル事業費又ハ事業費補助ニ要スル經費ヲ支辨シ且酒專賣制度ノ實施又ハ私設鐵道買收ニ要スル交付金トシテ交付スル爲政府ハ從前募集シタルモノヲ通シテ一億五千二百萬圓ヲ限リ公債ヲ發行シ又ハ之カ繰替支辨ノ爲借入ヲ爲スコトヲ得

第二條　前條ノ規定ニ依ル公債ノ發行價格差【減】額ヲ補塡スル爲必要アル場合ニ於テハ前條ノ制限以外ニ公債ヲ發行シ又ハ借入ヲ爲スコトヲ得

附　則

本法ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正八年三月二十九日　法律第三十七號

臺灣事業公債法

大正七年三月三十日　法律第二十一號
改正　大正九年第四六號、一〇年第二九號、一一年第一六號
昭和二年第一四號、三年第三六號

臺灣ニ於ケル事業費又ハ事業費補助ニ要スル經費ヲ支辨シ且酒專賣制度ノ實施又ハ私設鐵道買收ニ要スル交付金トシテ交付スル爲政府ハ從前募集シタルモノヲ通シテ一億五千二百萬圓ヲ限リ公債ヲ發行シ又ハ之カ繰替支辨ノ爲借入ヲ爲スコトヲ得

第一條　臺灣ニ於ケル事業費又ハ事業費補助ニ要スル經費ヲ支辨シ且酒專賣制度ノ實施又ハ私設鐵道買收ニ要スル交付金トシテ交付スル爲政府ハ從前募集シタルモノヲ通シテ一億五千二百萬圓ヲ限リ公債ヲ發行シ又ハ之カ繰替支辨ノ爲借入ヲ爲スコトヲ得

第二條　前條ノ規定ニ依ル公債ノ發行價格差【減】額ヲ補塡スル爲必要アル場合ニ於テハ前條ノ制限以外ニ公債ヲ發行シ又ハ借入ヲ爲スコトヲ得

第三條　臺灣事業公債ノ元金償還ハ一般會計ヨリ之ヲ繰入レ特別會計ニ於テ積立ツヘシ

第四條　臺灣事業公債ノ利子ハ一般會計ヨリ之ヲ繰入レ特別會計ニ於テ支辨ス

第五條　臺灣事業公債ノ募集ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本法ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●臨時恩賜金管理規則

明治四十三年十月八日　勅令第二百十六號
朝鮮總督府令第二十六號
改正　明治四四年第四八號、四五年第二四號
大正三年第一三號、五年第九九號、九年第二號、一〇年第三一號、一三年第七〇號
昭和二年第一四號、三年第三六號

臨時恩賜金管理規則左ノ通定ム

第一條　明治四十三年八月二十九日勅令第三百二十九號ニ依リ朝鮮各府郡ニ下付セラレタル臨時恩賜金ハ道知事ヲシテ之ヲ管理セシム

第二條　臨時恩賜金ノ元本ハ之ヲ基金トシ費消スルコトヲ得ス

第三條　臨時恩賜金ハ豪帳ヲ備ヘ各府郡島別ニ其ノ種類數量ヲ記載シ國債證券又ハ朝鮮殖産債券ニ在リテハ朝鮮總督ノ指定シタル銀行ニ保護預ケトス

基金タル現金ハ國債證券又ハ朝鮮殖産債券ニ代ヘ保管スヘシ但シ國債證券又ハ朝鮮殖産債券ニ代フル迄ノ間若ハ現金トシテ保管スル必要アル場合ハ郵便貯金預ケ又ハ前項ノ銀行又ハ朝鮮殖産銀行ニ利付預ケトス

道知事ハ必要アリト認ムルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス基金タル現金ヲ利付ニテ朝鮮總督ノ指定スル公共團體ニ貸出スコトヲ得

第四條　臨時恩賜金ノ收入ハ授產、社會救濟、教育、囚獄救濟ノ費用ニ充ツル爲道地方費ニ編入スヘシ但シ囚獄救濟費ニ剩餘ヲ生シタルトキハ臨時恩賜金ニ繰戻サシムヘシ

第五條　前條ノ規定ニ依ル編入金ヲ以テ施設スヘキ事業ノ種類及其ノ經理ノ方法、道知事ニ於テ府尹、郡守及島司ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムヘシ

第六條　削除

第七條　道知事ハ每年度前臨時恩賜金ニ對スル收入支出ノ豫算ヲ定メ朝鮮總督ニ報告スヘシ

第八條　第四條但書ニ依リ臨時恩賜金ニ繰戻ヲ受ケタルトキハ之ヲ基金ニ編入スヘシ

第九條　道知事必要アリト認ムルトキハ基金編入金タル現金ヲ第三條第三項ノ規定ニ準シ貸出シ又ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ道地方費ニ編入シテ之ヲ使用スルコトヲ得

第十條　道知事ハ翌年度八月三十一日迄ニ決算ヲ調製シ之ヲ朝鮮總督ニ報告スヘシ

●東洋拓殖株式會社法

大正八年三月二十九日　法律第三十八號
改正　大正一〇年第三一號
昭和二年第一四號

東洋拓殖株式會社ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

東洋拓殖株式會社法

第一章　總則

第一條　東洋拓殖株式會社ハ朝鮮ニ於ケル農業及殖民事業ヲ經營スルヲ以テ目的トス

第二條　會社ハ前條ノ目的ヲ達スル爲左ノ業務ヲ營ム

一　朝鮮ニ於ケル土地ノ取得及經營

二　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル資金ノ供給

三　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル調査及試驗

四　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル指導及奬勵

五　朝鮮ニ於ケル移民ノ保護及奬勵

六　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

七　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

八　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

九　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

十　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

十一　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

十二　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

十三　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

十四　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

十五　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

十六　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

十七　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

十八　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

十九　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

二十　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

二十一　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

二十二　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

二十三　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

二十四　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

二十五　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

二十六　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

二十七　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

二十八　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

二十九　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

三十　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

三十一　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

三十二　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

三十三　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

三十四　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

三十五　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

三十六　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

三十七　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

三十八　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

三十九　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

四十　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

四十一　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

四十二　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

四十三　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

四十四　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

四十五　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

四十六　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

四十七　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

四十八　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

四十九　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

五十　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

五十一　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

五十二　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

五十三　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

五十四　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

五十五　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

五十六　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

五十七　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

五十八　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

五十九　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

六十　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

六十一　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

六十二　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

六十三　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

六十四　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

六十五　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

六十六　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

六十七　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

六十八　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

六十九　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

七十　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

七十一　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

七十二　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

七十三　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

七十四　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

七十五　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

七十六　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

七十七　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

七十八　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

七十九　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

八十　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

八十一　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

八十二　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

八十三　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

八十四　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

八十五　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

八十六　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

八十七　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

八十八　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

八十九　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

九十　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

九十一　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

九十二　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

九十三　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

九十四　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

九十五　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

九十六　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

九十七　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

九十八　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

九十九　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

百　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

百一　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

百二　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

百三　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

百四　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

百五　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

百六　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

百七　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

百八　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

百九　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

百十　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

百十一　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

百十二　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

百十三　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

百十四　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

百十五　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

百十六　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

百十七　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

百十八　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

百十九　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

百二十　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

百二十一　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

百二十二　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

百二十三　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

百二十四　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

百二十五　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

百二十六　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

百二十七　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

百二十八　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

百二十九　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

百三十　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

百三十一　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

百三十二　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

百三十三　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

百三十四　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

百三十五　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

百三十六　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

百三十七　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

百三十八　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

百三十九　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

百四十　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

百四十一　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

百四十二　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

百四十三　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

百四十四　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

百四十五　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

百四十六　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

百四十七　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

百四十八　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

百四十九　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

百五十　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

百五十一　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

百五十二　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

百五十三　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

百五十四　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

百五十五　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

百五十六　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

百五十七　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

百五十八　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

百五十九　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

百六十　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

百六十一　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

百六十二　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

百六十三　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

百六十四　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

百六十五　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

百六十六　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

百六十七　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

百六十八　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

百六十九　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

百七十　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

百七十一　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

百七十二　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

百七十三　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

百七十四　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

百七十五　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

百七十六　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

百七十七　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

百七十八　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

百七十九　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

百八十　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

百八十一　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

百八十二　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

百八十三　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

百八十四　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

百八十五　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

百八十六　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

百八十七　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

百八十八　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

百八十九　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

百九十　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

百九十一　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

百九十二　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

百九十三　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

百九十四　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

百九十五　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

百九十六　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

百九十七　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

百九十八　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

百九十九　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

二百　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

二百一　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

二百二　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

二百三　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

二百四　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

二百五　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

二百六　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

二百七　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

二百八　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

二百九　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

二百十　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

二百十一　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

二百十二　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

二百十三　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

二百十四　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

二百十五　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

二百十六　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

二百十七　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

二百十八　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

二百十九　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

二百二十　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

二百二十一　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

二百二十二　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

二百二十三　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

二百二十四　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

二百二十五　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

二百二十六　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

二百二十七　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

二百二十八　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

二百二十九　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

二百三十　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

二百三十一　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

二百三十二　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

二百三十三　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

二百三十四　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

二百三十五　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

二百三十六　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

二百三十七　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

二百三十八　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

二百三十九　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

二百四十　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

二百四十一　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

二百四十二　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

二百四十三　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

二百四十四　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

二百四十五　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

二百四十六　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

二百四十七　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

二百四十八　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

二百四十九　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

二百五十　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

二百五十一　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

二百五十二　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

二百五十三　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

二百五十四　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

二百五十五　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

二百五十六　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

二百五十七　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

二百五十八　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

二百五十九　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

二百六十　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

二百六十一　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

二百六十二　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

二百六十三　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

二百六十四　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

二百六十五　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

二百六十六　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

二百六十七　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

二百六十八　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

二百六十九　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

二百七十　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

二百七十一　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

二百七十二　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

二百七十三　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

二百七十四　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

二百七十五　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

二百七十六　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

二百七十七　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

二百七十八　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

二百七十九　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

二百八十　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

二百八十一　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

二百八十二　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

二百八十三　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

二百八十四　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

二百八十五　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

二百八十六　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

二百八十七　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

二百八十八　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

二百八十九　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

二百九十　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

二百九十一　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

二百九十二　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

二百九十三　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

二百九十四　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

二百九十五　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

二百九十六　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

二百九十七　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

二百九十八　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

二百九十九　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

三百　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

三百一　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

三百二　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

三百三　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

三百四　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

三百五　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

三百六　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

三百七　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

三百八　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

三百九　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

三百十　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

三百十一　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

三百十二　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

三百十三　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

三百十四　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

三百十五　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

三百十六　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

三百十七　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

三百十八　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

三百十九　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

三百二十　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

三百二十一　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

三百二十二　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

三百二十三　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

三百二十四　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

三百二十五　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

三百二十六　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

三百二十七　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

三百二十八　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

三百二十九　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

三百三十　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

三百三十一　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

三百三十二　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

三百三十三　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

三百三十四　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

三百三十五　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

三百三十六　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

三百三十七　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

三百三十八　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

三百三十九　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

三百四十　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

三百四十一　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

三百四十二　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

三百四十三　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

三百四十四　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

三百四十五　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

三百四十六　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

三百四十七　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

三百四十八　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

三百四十九　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

三百五十　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

三百五十一　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

三百五十二　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

三百五十三　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

三百五十四　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

三百五十五　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

三百五十六　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

三百五十七　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

三百五十八　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

三百五十九　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

三百六十　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

三百六十一　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

三百六十二　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

三百六十三　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

三百六十四　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

三百六十五　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

三百六十六　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

三百六十七　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

三百六十八　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

三百六十九　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

三百七十　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

三百七十一　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

三百七十二　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

三百七十三　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

三百七十四　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

三百七十五　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

三百七十六　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

三百七十七　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

三百七十八　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

三百七十九　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

三百八十　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

三百八十一　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

三百八十二　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

三百八十三　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

三百八十四　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

三百八十五　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

三百八十六　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

三百八十七　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

三百八十八　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

三百八十九　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

三百九十　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

三百九十一　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

三百九十二　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

三百九十三　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

三百九十四　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

三百九十五　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

三百九十六　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

三百九十七　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

三百九十八　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

三百九十九　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

四百　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

四百一　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

四百二　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

四百三　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

四百四　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

四百五　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

四百六　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

四百七　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

四百八　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

四百九　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

四百十　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

四百十一　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

四百十二　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

四百十三　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

四百十四　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

四百十五　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

四百十六　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

四百十七　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

四百十八　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

四百十九　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

四百二十　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

四百二十一　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

四百二十二　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

四百二十三　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

四百二十四　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

四百二十五　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

四百二十六　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

四百二十七　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

四百二十八　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

四百二十九　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

四百三十　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

四百三十一　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

四百三十二　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

四百三十三　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

四百三十四　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

四百三十五　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

四百三十六　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

四百三十七　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

四百三十八　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

四百三十九　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

四百四十　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

四百四十一　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

四百四十二　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

四百四十三　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル代理業

四百四十四　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル仲立業

四百四十五　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル問屋業

四百四十六　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル運送業

四百四十七　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル倉庫業

四百四十八　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル信託業

四百四十九　朝鮮ニ於ケル農業ニ關スル保險業

四百五十　

トヲ得

一　山口縣營軌道

一　筑後軌道株式會社所屬軌道

●鐵道買收公債登錄手數料ヲ要セサル種別

明治四十一年六月四日大藏省令第二十號

鐵道國有法及京釜鐵道買收法ニ依リ發行スル鐵道買收公債ノ登錄ニ關スル請求ニシテ左ニ揭クルモノハ手數料ヲ納ムルコトヲ要セス

一　公債交付期日又ハ其ノ前ニ於テ當該會社ヨリ請求スル甲種國債登錄簿ノ新規登錄

二　當該會社ニ於テ前項登錄ノ公債ヲ株主ニ分配スル爲株主名義ニ變更ヲ請求スル甲種國債登錄簿ノ登錄變更但シ請求者ハ國債事務取扱店ニ對シ新記名者カ現ニ當該會社ノ株主タルコトヲ證明スヘシ

三　分配ヲ受ケタル株主ニ於テ前項ノ登錄變更後六箇月以內ニ請求スル甲種國債登錄簿ノ登錄變更及質權設定ノ登錄

四　分配ヲ受ケタル株主ヨリ請求スル甲種國債登錄簿ノ登錄除却

●臨時事件公債規程

明治三十九年二月二十日大藏省令第八號

改正　明治三十九年第二三號

臨時事件公債規程左ノ通之ヲ定ム

臨時事件公債規程

第一條　政府ハ明治三十九年法律第一號ニ依リ臨時事件公債二億圓ヲ募集ス

第二條　臨時事件公債ノ利率ハ一箇年百分ノ五トス

第三條　臨時事件公債ノ證券ハ大日本帝國政府五分利公債證書トス

第四條　臨時事件公債ノ元金ハ明治三十九年ヨリ五箇年据置キ其ノ翌年ヨリ向二十五箇年以內ニ償還スルモノトス

第五條　臨時事件公債ノ利子ハ毎年六月及十二月ニ於テ仕拂フモノトス

第六條　臨時事件公債ノ發行價格ハ證券額面百圓ニ付金九十五圓トス

第七條　臨時事件公債ノ應募申込期間ハ明治三十九年三月八日ヨリ同月二十日マテトス

但シ取扱銀行ハ應募者ノ便宜ニヨリ三月八日前ト雖モ申込ヲ受クルコトヲ得

第八條　應募者ハ應募高、應募價格及住所氏名ヲ詳記シタル申込書ニ申込高百圓ニ付金五圓ノ保證金ヲ添ヘ日本銀行本支店其ノ他日本銀行ノ定ムル申込所ニ申込ムヘシ但シ保證金ニハ利子ヲ付セス

前項ノ應募價格ニハ十錢位ニ滿タサル端數ヲ付スルコトヲ得ス

第九條　臨時事件公債ノ發行價格ハ證券額面百圓ニ付其ノ最低ヲ九十五圓トス

但シ取扱銀行ハ應募者ノ便宜ニヨリ二月十九日前ト雖モ申込ヲ受クルコトヲ得

第十條　申込ハ明治三十九年三月三十一日マテニ確定スルモノトス

前項確定ノ上ハ其ノ旨ヲ申込人ニ通知スヘシ

第十一條　前條第二項ノ規定ニ依リ募入決定ノ通知ヲ受ケタル者ハ左ノ區別ニ依リ拂込ヲ爲スヘシ但シ第一期拂込ハ保證金ヲ以テ之ニ充ツ

金五圓（百圓ニ付）

金十五圓（同　上）

金二十圓（同　上）

金十五圓（同　上）

金二十圓（同　上）

金二十圓（同　上）

第十二條　第四回及第五回國庫債券ヲ以テ臨時事件公債應募拂込ノ現金ニ代用セントスル者ハ應募申込ノ際其ノ債券ノ額面金額ヲ證告シ若ハ該債券ヲ取扱銀行ニ預托シ置クコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ國庫債券ヲ預托スル場合ニ於テハ保證金ヲ納ムルコトヲ要セス

第十三條　第四回及第五回國庫債券ハ臨時事件公債應募拂込ノ現金ニ代用スルコトヲ得

前項ノ代用價格ハ其ノ額面金額ニ償還期限ノ翌日ヨリ現拂込ノ日マテ金百圓ニ付日歩金四錢ノ割合ヲ以テ利子ヲ附スヘシ

拂込期限後三箇月ヲ過キ尙拂込ヲ爲ササルトキハ應募ノ申込ヲ無效トシ既ニ拂込ミタル金額ハ之ヲ返戻ス

第十四條　第四回及第五回國庫債券ハ臨時事件公債ノ拂込ヲ完了シタル者ニ對シ證券額面百圓ニ付金八十錢ノ割合ニ依リ割引ヲ爲スモノトス

第十五條　國庫債券代用ノ證告ヲ爲シ若ハ國庫債券ヲ預托シタル者ノ應募高ハ第九條ノ規定ニ依リ割合減少ヲ爲ス場合ニ於テ優先ニ募入セラルルモノトス

第十六條　國庫債券代用ノ證告ヲ爲シタル者ハ代用債券ノ償還期限ニ拘ラス第二期ニ於テ其ノ代用債券ヲ取扱銀行ニ提供スヘシ

證告ヲ爲シタル者ノ保證金ハ第十一條第一項但書ノ規定ニ依ラス其ノ代用債券ノ提供アリタルトキノ之ヲ還付ス

第十七條　前條ニ依リ提供シタル國庫債券又ハ預托シタル國庫債券ハ其ノ償還期限ニ拘ラス第二期ニ於テ現金ノ拂込ニ代用納付シタルモノト看做ス

第十八條　證告若ハ預托ヲ爲ササリシ國庫債券ハ其ノ償還期限以後ニ非サレハ代用納付スルコトヲ得ス

第十九條　國庫債券代用價格ノ金額カ拂込ムヘキ現金ノ額ヲ超過スルトキハ償還期限ニ拘ラス其ノ拂込ノ時ニ於テ該超過額ニ相當スル現金ヲ拂戻スヘシ

第二十條　臨時事件公債ノ明治三十九年六月及十二月ノ渡ノ利子ハ證券額面百圓ニ付金二圓五十錢ノ割合ヲ以テ之ヲ仕拂フモノトス

但シ明治三十九年六月渡ノ利子ノ第三期マテノ拂込ヲ了リタル後ニ非サレハ之カ仕拂ヲ爲サス

第二十一條　臨時事件公債ノ拂込ヲ延滯シタル者アルトキハ拂込期限ノ翌日ヨリ現拂込ノ日マテ金百圓ニ付日歩金四錢ノ割合ヲ以テ利子ヲ徵スヘシ

第二十二條　國庫債券代用ノ證告ヲ爲シタル者カ其ノ證告ニ從ヒ代用債券ノ提供ヲ爲ササルトキハ應募ノ申込ヲ無效トシ既ニ拂込ミタル金額ハ之ヲ返戻ス

第二十三條　第四回及第五回國庫債券ノ代用ニ關スル前各條ノ規定ハ其ノ假債券ニ之ヲ適用ス但シ代用ノ假債券ハ之ヲ無記名本債券ト看做シテ取扱フモノトス

第二十四條　代用ノ證告ヲ爲シ若ハ取扱銀行ニ預托シタル記名國庫債券ニ付テハ記名書換及所管店轉換ノ取扱ヲ爲ササルモノトス

但シ相續、遺贈及强制執行ニ因リ記名書換ヲ要スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條　臨時事件公債ノ應募者第二期ノ拂込ヲ了シタルトキハ記名ノ假證書ヲ交付シ全額拂込ノ上之ト引換ニ本證書ヲ交付ス

第二十六條　臨時事件公債ノ假證書ハ賣買讓與シ及貸ト爲スコトヲ得

前項ノ取扱ニ關シテハ明治二十七年大藏省令第十七號ヲ準用ス但シ應募者カ拂込ヲ爲スニ當リ供託又ハ質入等ノ事故ニ因リ假證書ヲ呈示スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ旨ヲ證明スルトキハ同令第三條ニ依リ其ノ拂込ヲ假證書ニ記入スル代リニ之ニ對シテ假ニ領收證書ヲ發スルコトアルヘシ

第二十七條　第二十一條第二項ノ規定ニ依リ無效ト爲リタル假證書ヲ所持スル者ハ速ニ之ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ返還スヘシ

第二十八條　假證書ヲ紛失シ又ハ滅失シタル者ハ二名以上ノ保證人ヲ立テ其ノ事實ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ證明シ代假證書ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタル後原假證書ヲ發見シタル者ハ速ニ其ノ旨ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ屆出ツヘシ此ノ場合ニ於テ既ニ代假證書ノ交付ヲ了リタルトキハ原假證書ヲ返還セシム其ノ交付手續中ニ係ルモノモ時宜ニ由リ返還セシムルコトアルヘシ

明治三十九年六月四日大藏省令第二十六號

第一條　臨時事件ニ關スル一時關金ニ充ツル爲明治三十九年法律第一號ニ依リ臨時公債證書ヲ發行ス

第二條　本公債證書ノ發行價格ハ證券額面百圓ニ付金九十五圓トス

第三條　本公債ノ利子ハ一時關金設令ノ日ノ屬スル月ヨリ之ヲ附ス

第四條　本公債ノ元金ハ明治四十三年ヨリ十箇年据置キ其ノ翌年ヨリ向五十箇年間ニ之ヲ償還ス

第五條　本公債ノ利子仕拂期ハ每年六月一日及十二月一日トス

第六條　本公債ノ發行價格ハ額面金額百圓ニ付其ノ最低ヲ九十五圓トス

第七條　本公債ノ應募申込期間ハ明治四十三年二月十九日ヨリ同月二十五日迄トス但シ取扱銀行ハ應募者ノ便宜ニ由リ二月十九日前ト雖申込ヲ受クルコトヲ得

第八條　本公債ノ應募者ハ應募高、應募價格及住所氏名ヲ詳記シタル申込書ニ申込高百圓ニ付五圓ノ保證金ヲ添ヘ之ヲ取扱銀行ニ提出スヘシ

前項ノ應募價格ニハ十錢位ニ滿タサル端數ヲ附スルコトヲ得ス

第九條　本公債ノ應募者ハ應募高、應募價格及住所氏名ヲ詳記シタル申込書ニ申込高百圓ニ付五圓ノ保證金ヲ添ヘ之ヲ取扱銀行ニ提出スヘシ

第十條　第二十一條第二項ノ規定ニ依リ無效ト爲リタル假證書ヲ所持スル者ハ速ニ之ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ返還スヘシ

第十一條　假證書ヲ紛失シ又ハ滅失シタル者ハ二名以上ノ保證人ヲ立テ其ノ事實ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ證明シ代假證書ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタル後原假證書ヲ發見シタル者ハ速ニ其ノ旨ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ屆出ツヘシ此ノ場合ニ於テ既ニ代假證書ノ交付ヲ了リタルトキハ原假證書ヲ返還セシム其ノ交付手續中ニ係ルモノモ時宜ニ由リ返還セシムルコトアルヘシ

第十二條　本公債證書ノ發行價格ハ證券額面百圓ニ付金九十五圓トス

第十三條　本公債ノ利子ハ一時關金設令ノ日ノ屬スル月ヨリ之ヲ附ス

第十四條　本公債ノ元金ハ明治四十三年ヨリ十箇年据置キ其ノ翌年ヨリ向五十箇年間ニ之ヲ償還ス

第十五條　本公債ノ利子仕拂期ハ每年六月一日及十二月一日トス

第十六條　本公債ノ發行價格ハ額面金額百圓ニ付其ノ最低ヲ九十五圓トス

第十七條　本公債ノ應募申込期間ハ明治四十三年二月十九日ヨリ同月二十五日迄トス但シ取扱銀行ハ應募者ノ便宜ニ由リ二月十九日前ト雖申込ヲ受クルコトヲ得

第十八條　本公債ノ應募者ハ應募高、應募價格及住所氏名ヲ詳記シタル申込書ニ申込高百圓ニ付金五圓ノ保證金ヲ添ヘ之ヲ取扱銀行ニ提出スヘシ

第十九條　第二十一條第二項ノ規定ニ依リ無效ト爲リタル假證書ヲ所持スル者ハ速ニ之ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ返還スヘシ

第二十條　假證書ヲ紛失シ又ハ滅失シタル者ハ二名以上ノ保證人ヲ立テ其ノ事實ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ證明シ代假證書ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタル後原假證書ヲ發見シタル者ハ速ニ其ノ旨ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ屆出ツヘシ此ノ場合ニ於テ既ニ代假證書ノ交付ヲ了リタルトキハ原假證書ヲ返還セシム其ノ交付手續中ニ係ルモノモ時宜ニ由リ返還セシムルコトアルヘシ

第二十一條　本公債證書ノ發行價格ハ證券額面百圓ニ付金九十五圓トス

第二十二條　本公債ノ利子ハ一時關金設令ノ日ノ屬スル月ヨリ之ヲ附ス

第二十三條　本公債ノ元金ハ明治四十三年ヨリ十箇年据置キ其ノ翌年ヨリ向五十箇年間ニ之ヲ償還ス

第二十四條　本公債ノ利子仕拂期ハ每年六月一日及十二月一日トス

第二十五條　本公債ノ發行價格ハ額面金額百圓ニ付金九十五圓トス

第二十六條　本公債ノ應募申込期間ハ明治四十三年二月十九日ヨリ同月二十五日迄トス但シ取扱銀行ハ應募者ノ便宜ニ由リ二月十九日前ト雖申込ヲ受クルコトヲ得

第二十七條　本公債ノ應募者ハ應募高、應募價格及住所氏名ヲ詳記シタル申込書ニ申込高百圓ニ付金五圓ノ保證金ヲ添ヘ之ヲ取扱銀行ニ提出スヘシ

第二十八條　第二十一條第二項ノ規定ニ依リ無效ト爲リタル假證書ヲ所持スル者ハ速ニ之ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ返還スヘシ

第二十九條　本公債證書ノ發行價格ハ證券額面百圓ニ付金九十五圓トス

第三十條　本公債ノ利子ハ一時關金設令ノ日ノ屬スル月ヨリ之ヲ附ス

第三十一條　本公債ノ元金ハ明治四十三年ヨリ十箇年据置キ其ノ翌年ヨリ向五十箇年間ニ之ヲ償還ス

第三十二條　本公債ノ利子仕拂期ハ每年六月一日及十二月一日トス

第三十三條　本公債ノ發行價格ハ額面金額百圓ニ付金九十五圓トス

第三十四條　本公債ノ應募申込期間ハ明治四十三年二月十九日ヨリ同月二十五日迄トス但シ取扱銀行ハ應募者ノ便宜ニ由リ二月十九日前ト雖申込ヲ受クルコトヲ得

第三十五條　本公債ノ應募者ハ應募高、應募價格及住所氏名ヲ詳記シタル申込書ニ申込高百圓ニ付金五圓ノ保證金ヲ添ヘ之ヲ取扱銀行ニ提出スヘシ

第三十六條　本公債ノ應募者ハ應募高、應募價格及住所氏名ヲ詳記シタル申込書ニ申込高百圓ニ付金五圓ノ保證金ヲ添ヘ之ヲ取扱銀行ニ提出スヘシ

第三十七條　第二十一條第二項ノ規定ニ依リ無效ト爲リタル假證書ヲ所持スル者ハ速ニ之ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ返還スヘシ

第三十八條　假證書ヲ紛失シ又ハ滅失シタル者ハ二名以上ノ保證人ヲ立テ其ノ事實ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ證明シ代假證書ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタル後原假證書ヲ發見シタル者ハ速ニ其ノ旨ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ屆出ツヘシ此ノ場合ニ於テ既ニ代假證書ノ交付ヲ了リタルトキハ原假證書ヲ返還セシム其ノ交付手續中ニ係ルモノモ時宜ニ由リ返還セシムルコトアルヘシ

第三十九條　本公債證書ノ發行價格ハ證券額面百圓ニ付金九十五圓トス

第四十條　本公債ノ利子ハ一時關金設令ノ日ノ屬スル月ヨリ之ヲ附ス

第四十一條　本公債ノ元金ハ明治四十三年ヨリ十箇年据置キ其ノ翌年ヨリ向五十箇年間ニ之ヲ償還ス

第四十二條　本公債ノ利子仕拂期ハ每年六月一日及十二月一日トス

第四十三條　本公債ノ發行價格ハ額面金額百圓ニ付金九十五圓トス

第四十四條　本公債ノ應募申込期間ハ明治四十三年二月十九日ヨリ同月二十五日迄トス但シ取扱銀行ハ應募者ノ便宜ニ由リ二月十九日前ト雖申込ヲ受クルコトヲ得

第四十五條　本公債ノ應募者ハ應募高、應募價格及住所氏名ヲ詳記シタル申込書ニ申込高百圓ニ付金五圓ノ保證金ヲ添ヘ之ヲ取扱銀行ニ提出スヘシ

第四十六條　本公債ノ應募者ハ應募高、應募價格及住所氏名ヲ詳記シタル申込書ニ申込高百圓ニ付金五圓ノ保證金ヲ添ヘ之ヲ取扱銀行ニ提出スヘシ

第四十七條　第二十一條第二項ノ規定ニ依リ無效ト爲リタル假證書ヲ所持スル者ハ速ニ之ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ返還スヘシ

第四十八條　假證書ヲ紛失シ又ハ滅失シタル者ハ二名以上ノ保證人ヲ立テ其ノ事實ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ證明シ代假證書ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタル後原假證書ヲ發見シタル者ハ速ニ其ノ旨ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ屆出ツヘシ此ノ場合ニ於テ既ニ代假證書ノ交付ヲ了リタルトキハ原假證書ヲ返還セシム其ノ交付手續中ニ係ルモノモ時宜ニ由リ返還セシムルコトアルヘシ

第四十九條　本公債證書ノ發行價格ハ證券額面百圓ニ付金九十五圓トス

第五十條　本公債ノ利子ハ一時關金設令ノ日ノ屬スル月ヨリ之ヲ附ス

第五十一條　本公債ノ元金ハ明治四十三年ヨリ十箇年据置キ其ノ翌年ヨリ向五十箇年間ニ之ヲ償還ス

第五十二條　本公債ノ利子仕拂期ハ每年六月一日及十二月一日トス

第五十三條　本公債ノ發行價格ハ額面金額百圓ニ付金九十五圓トス

第五十四條　本公債ノ應募申込期間ハ明治四十三年二月十九日ヨリ同月二十五日迄トス但シ取扱銀行ハ應募者ノ便宜ニ由リ二月十九日前ト雖申込ヲ受クルコトヲ得

第五十五條　本公債ノ應募者ハ應募高、應募價格及住所氏名ヲ詳記シタル申込書ニ申込高百圓ニ付金五圓ノ保證金ヲ添ヘ之ヲ取扱銀行ニ提出スヘシ

第五十六條　本公債ノ應募者ハ應募高、應募價格及住所氏名ヲ詳記シタル申込書ニ申込高百圓ニ付金五圓ノ保證金ヲ添ヘ之ヲ取扱銀行ニ提出スヘシ

第五十七條　第二十一條第二項ノ規定ニ依リ無效ト爲リタル假證書ヲ所持スル者ハ速ニ之ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ返還スヘシ

第五十八條　假證書ヲ紛失シ又ハ滅失シタル者ハ二名以上ノ保證人ヲ立テ其ノ事實ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ證明シ代假證書ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタル後原假證書ヲ發見シタル者ハ速ニ其ノ旨ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ屆出ツヘシ此ノ場合ニ於テ既ニ代假證書ノ交付ヲ了リタルトキハ原假證書ヲ返還セシム其ノ交付手續中ニ係ルモノモ時宜ニ由リ返還セシムルコトアルヘシ

第五十九條　本公債證書ノ發行價格ハ證券額面百圓ニ付金九十五圓トス

第六十條　本公債ノ利子ハ一時關金設令ノ日ノ屬スル月ヨリ之ヲ附ス

第六十一條　本公債ノ元金ハ明治四十三年ヨリ十箇年据置キ其ノ翌年ヨリ向五十箇年間ニ之ヲ償還ス

第六十二條　本公債ノ利子仕拂期ハ每年六月一日及十二月一日トス

第六十三條　本公債ノ發行價格ハ額面金額百圓ニ付金九十五圓トス

第六十四條　本公債ノ應募申込期間ハ明治四十三年二月十九日ヨリ同月二十五日迄トス但シ取扱銀行ハ應募者ノ便宜ニ由リ二月十九日前ト雖申込ヲ受クルコトヲ得

第六十五條　本公債ノ應募者ハ應募高、應募價格及住所氏名ヲ詳記シタル申込書ニ申込高百圓ニ付金五圓ノ保證金ヲ添ヘ之ヲ取扱銀行ニ提出スヘシ

第六十六條　本公債ノ應募者ハ應募高、應募價格及住所氏名ヲ詳記シタル申込書ニ申込高百圓ニ付金五圓ノ保證金ヲ添ヘ之ヲ取扱銀行ニ提出スヘシ

第六十七條　第二十一條第二項ノ規定ニ依リ無效ト爲リタル假證書ヲ所持スル者ハ速ニ之ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ返還スヘシ

第六十八條　假證書ヲ紛失シ又ハ滅失シタル者ハ二名以上ノ保證人ヲ立テ其ノ事實ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ證明シ代假證書ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタル後原假證書ヲ發見シタル者ハ速ニ其ノ旨ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ屆出ツヘシ此ノ場合ニ於テ既ニ代假證書ノ交付ヲ了リタルトキハ原假證書ヲ返還セシム其ノ交付手續中ニ係ルモノモ時宜ニ由リ返還セシムルコトアルヘシ

第六十九條　本公債證書ノ發行價格ハ證券額面百圓ニ付金九十五圓トス

第七十條　本公債ノ利子ハ一時關金設令ノ日ノ屬スル月ヨリ之ヲ附ス

第七十一條　本公債ノ元金ハ明治四十三年ヨリ十箇年据置キ其ノ翌年ヨリ向五十箇年間ニ之ヲ償還ス

第七十二條　本公債ノ利子仕拂期ハ每年六月一日及十二月一日トス

第七十三條　本公債ノ發行價格ハ額面金額百圓ニ付金九十五圓トス

第七十四條　本公債ノ應募申込期間ハ明治四十三年二月十九日ヨリ同月二十五日迄トス但シ取扱銀行ハ應募者ノ便宜ニ由リ二月十九日前ト雖申込ヲ受クルコトヲ得

第七十五條　本公債ノ應募者ハ應募高、應募價格及住所氏名ヲ詳記シタル申込書ニ申込高百圓ニ付金五圓ノ保證金ヲ添ヘ之ヲ取扱銀行ニ提出スヘシ

第七十六條　本公債ノ應募者ハ應募高、應募價格及住所氏名ヲ詳記シタル申込書ニ申込高百圓ニ付金五圓ノ保證金ヲ添ヘ之ヲ取扱銀行ニ提出スヘシ

第七十七條　第二十一條第二項ノ規定ニ依リ無效ト爲リタル假證書ヲ所持スル者ハ速ニ之ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ返還スヘシ

第七十八條　假證書ヲ紛失シ又ハ滅失シタル者ハ二名以上ノ保證人ヲ立テ其ノ事實ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ證明シ代假證書ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタル後原假證書ヲ發見シタル者ハ速ニ其ノ旨ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ屆出ツヘシ此ノ場合ニ於テ既ニ代假證書ノ交付ヲ了リタルトキハ原假證書ヲ返還セシム其ノ交付手續中ニ係ルモノモ時宜ニ由リ返還セシムルコトアルヘシ

第七十九條　本公債證書ノ發行價格ハ證券額面百圓ニ付金九十五圓トス

第八十條　本公債ノ利子ハ一時關金設令ノ日ノ屬スル月ヨリ之ヲ附ス

第八十一條　本公債ノ元金ハ明治四十三年ヨリ十箇年据置キ其ノ翌年ヨリ向五十箇年間ニ之ヲ償還ス

第八十二條　本公債ノ利子仕拂期ハ每年六月一日及十二月一日トス

第八十三條　本公債ノ發行價格ハ額面金額百圓ニ付金九十五圓トス

第八十四條　本公債ノ應募申込期間ハ明治四十三年二月十九日ヨリ同月二十五日迄トス但シ取扱銀行ハ應募者ノ便宜ニ由リ二月十九日前ト雖申込ヲ受クルコトヲ得

第八十五條　本公債ノ應募者ハ應募高、應募價格及住所氏名ヲ詳記シタル申込書ニ申込高百圓ニ付金五圓ノ保證金ヲ添ヘ之ヲ取扱銀行ニ提出スヘシ

第八十六條　本公債ノ應募者ハ應募高、應募價格及住所氏名ヲ詳記シタル申込書ニ申込高百圓ニ付金五圓ノ保證金ヲ添ヘ之ヲ取扱銀行ニ提出スヘシ

第八十七條　第二十一條第二項ノ規定ニ依リ無效ト爲リタル假證書ヲ所持スル者ハ速ニ之ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ返還スヘシ

第八十八條　假證書ヲ紛失シ又ハ滅失シタル者ハ二名以上ノ保證人ヲ立テ其ノ事實ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ證明シ代假證書ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタル後原假證書ヲ發見シタル者ハ速ニ其ノ旨ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ屆出ツヘシ此ノ場合ニ於テ既ニ代假證書ノ交付ヲ了リタルトキハ原假證書ヲ返還セシム其ノ交付手續中ニ係ルモノモ時宜ニ由リ返還セシムルコトアルヘシ

第八十九條　本公債證書ノ發行價格ハ證券額面百圓ニ付金九十五圓トス

第九十條　本公債ノ利子ハ一時關金設令ノ日ノ屬スル月ヨリ之ヲ附ス

第九十一條　本公債ノ元金ハ明治四十三年ヨリ十箇年据置キ其ノ翌年ヨリ向五十箇年間ニ之ヲ償還ス

第九十二條　本公債ノ利子仕拂期ハ每年六月一日及十二月一日トス

第九十三條　本公債ノ發行價格ハ額面金額百圓ニ付金九十五圓トス

第九十四條　本公債ノ應募申込期間ハ明治四十三年二月十九日ヨリ同月二十五日迄トス但シ取扱銀行ハ應募者ノ便宜ニ由リ二月十九日前ト雖申込ヲ受クルコトヲ得

第九十五條　本公債ノ應募者ハ應募高、應募價格及住所氏名ヲ詳記シタル申込書ニ申込高百圓ニ付金五圓ノ保證金ヲ添ヘ之ヲ取扱銀行ニ提出スヘシ

第九十六條　本公債ノ應募者ハ應募高、應募價格及住所氏名ヲ詳記シタル申込書ニ申込高百圓ニ付金五圓ノ保證金ヲ添ヘ之ヲ取扱銀行ニ提出スヘシ

第九十七條　第二十一條第二項ノ規定ニ依リ無效ト爲リタル假證書ヲ所持スル者ハ速ニ之ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ返還スヘシ

第九十八條　假證書ヲ紛失シ又ハ滅失シタル者ハ二名以上ノ保證人ヲ立テ其ノ事實ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ證明シ代假證書ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタル後原假證書ヲ發見シタル者ハ速ニ其ノ旨ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ屆出ツヘシ此ノ場合ニ於テ既ニ代假證書ノ交付ヲ了リタルトキハ原假證書ヲ返還セシム其ノ交付手續中ニ係ルモノモ時宜ニ由リ返還セシムルコトアルヘシ

第九十九條　本公債證書ノ發行價格ハ證券額面百圓ニ付金九十五圓トス

第百條　本公債ノ利子ハ一時關金設令ノ日ノ屬スル月ヨリ之ヲ附ス

第百一條　本公債ノ元金ハ明治四十三年ヨリ十箇年据置キ其ノ翌年ヨリ向五十箇年間ニ之ヲ償還ス

第百二條　本公債ノ利子仕拂期ハ每年六月一日及十二月一日トス

第百三條　本公債ノ發行價格ハ額面金額百圓ニ付金九十五圓トス

第百四條　本公債ノ應募申込期間ハ明治四十三年二月十九日ヨリ同月二十五日迄トス但シ取扱銀行ハ應募者ノ便宜ニ由リ二月十九日前ト雖申込ヲ受クルコトヲ得

第百五條　本公債ノ應募者ハ應募高、應募價格及住所氏名ヲ詳記シタル申込書ニ申込高百圓ニ付金五圓ノ保證金ヲ添ヘ之ヲ取扱銀行ニ提出スヘシ

第百六條　本公債ノ應募者ハ應募高、應募價格及住所氏名ヲ詳記シタル申込書ニ申込高百圓ニ付金五圓ノ保證金ヲ添ヘ之ヲ取扱銀行ニ提出スヘシ

第百七條　第二十一條第二項ノ規定ニ依リ無效ト爲リタル假證書ヲ所持スル者ハ速ニ之ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ返還スヘシ

第百八條　假證書ヲ紛失シ又ハ滅失シタル者ハ二名以上ノ保證人ヲ立テ其ノ事實ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ證明シ代假證書ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタル後原假證書ヲ發見シタル者ハ速ニ其ノ旨ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ屆出ツヘシ此ノ場合ニ於テ既ニ代假證書ノ交付ヲ了リタルトキハ原假證書ヲ返還セシム其ノ交付手續中ニ係ルモノモ時宜ニ由リ返還セシムルコトアルヘシ

第百九條　本公債證書ノ發行價格ハ證券額面百圓ニ付金九十五圓トス

第百十條　本公債ノ利子ハ一時關金設令ノ日ノ屬スル月ヨリ之ヲ附ス

第百十一條　本公債ノ元金ハ明治四十三年ヨリ十箇年据置キ其ノ翌年ヨリ向五十箇年間ニ之ヲ償還ス

第百十二條　本公債ノ利子仕拂期ハ每年六月一日及十二月一日トス

第百十三條　本公債ノ發行價格ハ額面金額百圓ニ付金九十五圓トス

第百十四條　本公債ノ應募申込期間ハ明治四十三年二月十九日ヨリ同月二十五日迄トス但シ取扱銀行ハ應募者ノ便宜ニ由リ二月十九日前ト雖申込ヲ受クルコトヲ得

第百十五條　本公債ノ應募者ハ應募高、應募價格及住所氏名ヲ詳記シタル申込書ニ申込高百圓ニ付金五圓ノ保證金ヲ添ヘ之ヲ取扱銀行ニ提出スヘシ

第百十六條　本公債ノ應募者ハ應募高、應募價格及住所氏名ヲ詳記シタル申込書ニ申込高百圓ニ付金五圓ノ保證金ヲ添ヘ之ヲ取扱銀行ニ提出スヘシ

第百十七條　第二十一條第二項ノ規定ニ依リ無效ト爲リタル假證書ヲ所持スル者ハ速ニ之ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ返還スヘシ

第百十八條　假證書ヲ紛失シ又ハ滅失シタル者ハ二名以上ノ保證人ヲ立テ其ノ事實ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ證明シ代假證書ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタル後原假證書ヲ發見シタル者ハ速ニ其ノ旨ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ屆出ツヘシ此ノ場合ニ於テ既ニ代假證書ノ交付ヲ了リタルトキハ原假證書ヲ返還セシム其ノ交付手續中ニ係ルモノモ時宜ニ由リ返還セシムルコトアルヘシ

第百十九條　本公債證書ノ發行價格ハ證券額面百圓ニ付金九十五圓トス

第百二十條　本公債ノ利子ハ一時關金設令ノ日ノ屬スル月ヨリ之ヲ附ス

第百二十一條　本公債ノ元金ハ明治四十三年ヨリ十箇年据置キ其ノ翌年ヨリ向五十箇年間ニ之ヲ償還ス

第百二十二條　本公債ノ利子仕拂期ハ每年六月一日及十二月一日トス

第百二十三條　本公債ノ發行價格ハ額面金額百圓ニ付金九十五圓トス

第百二十四條　本公債ノ應募申込期間ハ明治四十三年二月十九日ヨリ同月二十五日迄トス但シ取扱銀行ハ應募者ノ便宜ニ由リ二月十九日前ト雖申込ヲ受クルコトヲ得

第百二十五條　本公債ノ應募者ハ應募高、應募價格及住所氏名ヲ詳記シタル申込書ニ申込高百圓ニ付金五圓ノ保證金ヲ添ヘ之ヲ取扱銀行ニ提出スヘシ

第百二十六條　本公債ノ應募者ハ應募高、應募價格及住所氏名ヲ詳記シタル申込書ニ申込高百圓ニ付金五圓ノ保證金ヲ添ヘ之ヲ取扱銀行ニ提出スヘシ

第百二十七條　第二十一條第二項ノ規定ニ依リ無效ト爲リタル假證書ヲ所持スル者ハ速ニ之ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ返還スヘシ

第百二十八條　假證書ヲ紛失シ又ハ滅失シタル者ハ二名以上ノ保證人ヲ立テ其ノ事實ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ證明シ代假證書ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタル後原假證書ヲ發見シタル者ハ速ニ其ノ旨ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ屆出ツヘシ此ノ場合ニ於テ既ニ代假證書ノ交付ヲ了リタルトキハ原假證書ヲ返還セシム其ノ交付手續中ニ係ルモノモ時宜ニ由リ返還セシムルコトアルヘシ

第百二十九條　本公債證書ノ發行價格ハ證券額面百圓ニ付金九十五圓トス

第百三十條　本公債ノ利子ハ一時關金設令ノ日ノ屬スル月ヨリ之ヲ附ス

第百三十一條　本公債ノ元金ハ明治四十三年ヨリ十箇年据置キ其ノ翌年ヨリ向五十箇年間ニ之ヲ償還ス

第百三十二條　本公債ノ利子仕拂期ハ每年六月一日及十二月一日トス

第百三十三條　本公債ノ發行價格ハ額面金額百圓ニ付金九十五圓トス

第百三十四條　本公債ノ應募申込期間ハ明治四十三年二月十九日ヨリ同月二十五日迄トス但シ取扱銀行ハ應募者ノ便宜ニ由リ二月十九日前ト雖申込ヲ受クルコトヲ得

第百三十五條　本公債ノ應募者ハ應募高、應募價格及住所氏名ヲ詳記シタル申込書ニ申込高百圓ニ付金五圓ノ保證金ヲ添ヘ之ヲ取扱銀行ニ提出スヘシ

第百三十六條　本公債ノ應募者ハ應募高、應募價格及住所氏名ヲ詳記シタル申込書ニ申込高百圓ニ付金五圓ノ保證金ヲ添ヘ之ヲ取扱銀行ニ提出スヘシ

第百三十七條　第二十一條第二項ノ規定ニ依リ無效ト爲リタル假證書ヲ所持スル者ハ速ニ之ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ返還スヘシ

第百三十八條　假證書ヲ紛失シ又ハ滅失シタル者ハ二名以上ノ保證人ヲ立テ其ノ事實ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ證明シ代假證書ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタル後原假證書ヲ發見シタル者ハ速ニ其ノ旨ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ屆出ツヘシ此ノ場合ニ於テ既ニ代假證書ノ交付ヲ了リタルトキハ原假證書ヲ返還セシム其ノ交付手續中ニ係ルモノモ時宜ニ由リ返還セシムルコトアルヘシ

第百三十九條　本公債證書ノ發行價格ハ證券額面百圓ニ付金九十五圓トス

第百四十條　本公債ノ利子ハ一時關金設令ノ日ノ屬スル月ヨリ之ヲ附ス

第百四十一條　本公債ノ元金ハ明治四十三年ヨリ十箇年据置キ其ノ翌年ヨリ向五十箇年間ニ之ヲ償還ス

第百四十二條　本公債ノ利子仕拂期ハ每年六月一日及十二月一日トス

第百四十三條　本公債ノ發行價格ハ額面金額百圓ニ付金九十五圓トス

第百四十四條　本公債ノ應募申込期間ハ明治四十三年二月十九日ヨリ同月二十五日迄トス但シ取扱

テ現金ノ拂込ニ代用納付シタルモノト看做ス

第十八條　本公債應募拂込ノ現金ニ代用スル國債證券又ハ登錄國債ノ代用價額カ拂込ムヘキ現金ノ額ヲ超過スルトキハ前條第一項ニ該當スルモノニ在リテハ其ノ超過額ニ相當スル現金ヲ拂戻スモノトス但シ現金ノ拂戻ハ五十圓ニ付テハ第二期ニ於テ該超過額ニ相當スル現金ヲ拂戻スモノトス

第十九條　本公債應募金ノ拂込ヲ延滯シタル者ハ拂込期限ノ翌日ヨリ現拂込ノ日マテ拂込金百圓ニ付日歩四錢ノ割合ヲ以テ利子ヲ納ムヘシ

前項拂込ヲ延滯シタル者カ拂込期限後三箇月以内ニ拂込ヲ爲ササルトキハ之ニ對スル應募ノ申込ヲ無效トシ既ニ拂込ミタル金額ハ之ヲ政府ノ所得トス

第二十條　代用ノ豫告ヲ爲シ又ハ預託ヲ爲シタル國債證券又ハ登錄國債ニ付テハ新規登錄、登錄變更、登錄除却及所管轉換ノ取扱ヲ爲サス但シ相續、遺贈、强制執行又ハ氏名變更ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條　本公債ノ應募者第二期ノ拂込ヲ爲シタルトキハ假證券ヲ交付シ拂込完了ノ上之ト引換ニ本證券ヲ交付ス但シ國債規則第二十五條ニ依リ甲種國債登錄簿ニ登錄ノ請求ヲ爲シタル者ニ對シテハ假證券ト引換ニ登錄濟證書ヲ交付ス

前項ノ規定ハ第二期以前ニ拂込ヲ完了シタル場合ニ之ヲ準用ス但シ國債規則第二十五條ニ依リ甲種國債登錄簿ニ登錄ノ請求ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●沖繩縣諸祿公債規程

明治四十三年五月四日
大藏省令第二十一號

沖繩縣諸祿公債規程左ノ通之ヲ定ム

沖繩縣諸祿公債規程

第一條　政府ハ沖繩縣諸祿處分法第八條ニ依リ公債ヲ發行ス

第二條　本公債ノ證券ハ大日本帝國政府五分利公債證書トス

第三條　本公債ノ元金ハ發行ノ年ヨリ五箇年据置キ其ノ翌年ヨリ向五十箇年以内ニ之ヲ償還ス

第四條　本公債ノ元金ハ發行ノ年ヨリ五箇年以内ニ之ヲ償還ス

第五條　本公債ノ利子ハ毎年三月及九月ニ於テ其ノ月以前六箇月間ニ屬スルモノヲ仕拂フ但シ明治四十三年三月以前ニ屬スル利子ノ仕拂期ニ限リ同年六月トス

●恩賜公債規程

明治四十三年勅令第三百二十七號
改正　明治四十四年勅令第四號
大正八年勅令第二〇號、第三四號、九年第四八號

恩賜公債規程左ノ通之ヲ定ム

恩賜公債規程

第一條　明治四十三年勅令第三百二十七號ニ依リ發行スル恩賜公債ノ證券ノ額面金額種類ハ二十五圓、五十圓、百圓、五百圓、千圓、五千圓及一萬圓ノ七種トス

恩賜公債ニハ記號ヲ附セス

第二條　本公債ノ元金ハ發行ノ年ヨリ五箇年据置キ其ノ翌年ヨリ向五十箇年以内ニ之ヲ償還ス

第三條　本公債ノ元金ハ發行ノ年ヨリ五箇年据置キ其ノ翌年ヨリ向五十箇年以内ニ之ヲ償還ス

第四條　本公債ノ利子ハ明治四十五年農商務省令第十二號第十四條ニ依リ交付金額通知ノ日付ノ屬スル月ヨリ之ヲ附シ元金償還ノトキハ其ノ償還ノ月迄之ヲ附ス

第五條　本公債利子ノ仕拂期日ハ毎年三月一日及九月一日トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●鐵道債券發行規程

大正五年四月八日
大藏省令第六號

第一條　政府ハ帝國鐵道會計法第三條ニ依リ鐵道債券四千萬圓ヲ發行ス

第二條　本債券ノ利率ハ一箇年百分ノ五トス

第三條　本債券ノ額面金額ハ五十圓、百圓、五百圓、千圓、五千圓及一萬圓ノ六種トス

第四條　本債券ノ元金ハ大正二十年三月十五日迄ニ額面金額ヲ以テ之ヲ償還ス

第五條　本債券ノ利子仕拂期ハ毎年三月十五日及九月十五日トス

第六條　本債券初期ノ利子ハ全半箇年分ヲ附ス

第七條　本債券ノ發行價格ハ額面金額百圓ニ付其ノ最低ヲ九十五圓トス

第八條　本債券ノ應募申込期間ハ大正五年四月二十一日ヨリ同月二十五日迄トス但シ取扱銀行ハ應募者ノ便宜ニ由リ四月二十一日前ト雖應募ノ申込ヲ受クルコトヲ得

第九條　本債券ノ應募者ハ應募價格及住所氏名ヲ記シタル申込書ニ申込高百圓ニ付五圓ノ保證金ヲ添ヘ之ヲ取扱銀行ニ提出スヘシ但シ保證金ニハ利子ヲ附セス

前項ノ應募金ハ第二期以後ニ於テ各一期又ハ數期分ヲ繰上ケ拂込ヲ爲スコトヲ得

第十條　本債券ノ應募者カ拂込ムヘキ現金ノ額ヲ超過スルトキハ其ノ應募價格ノ高キモノヨリ順次之ヲ採リ募集豫定額ニ滿ツルニ至リテ止ム

第十一條　國債證券又ハ登錄國債ヲ以テ本公債應募拂込ノ現金ニ代用スル者ハ應募高ハ同一價格ニ於テ現金拂込ノモノニ對シ優先ニ募入セラルルモノトス

第十二條　本公債ノ應募申込ニ對スル募入ノ決定ハ明治四十三年四月十九日迄ニ之ヲ爲シ取扱銀行ヨリ其ノ旨ヲ應募者ニ通知ス

第十三條　國債證券又ハ登錄國債ヲ以テ本公債應募拂込ノ現金ニ代用スル者ノ應募高ハ同一價格ニ於テ現金拂込ノモノニ對シ優先ニ募入セラルルモノトス

第十四條　本公債ノ應募申込ニ對スル募入ノ決定ハ明治四十三年四月十九日迄ニ之ヲ爲シ取扱銀行ヨリ其ノ旨ヲ應募者ニ通知ス

第十五條　前條ニ依リ募入決定ノ通知ヲ受ケタル者ハ左ノ區別ニ從ヒ募入高ニ對スル現金ヲ取扱銀行ニ拂込ムヘシ但シ第一期拂込ハ保證金ヲ以テ之ニ充ツ

第一期　明治四十三年四月十九日　金五圓（募入高百圓ニ付）

第二期　同　年五月三十日　金二十圓（同　上）

第三期　同　年六月三十日　金二十圓（同　上）

第四期　同　年八月十日　金五十圓（同　上）

第十六條　取扱銀行ハ應募者ノ便宜ニ由リ前條第一項ノ各拂込期日前ト雖其ノ拂込ヲ受ケタル者ニ對シテハ假證券ト引換ニ登錄濟證書ヲ交付ス

第十七條　無記名國債證券又ハ乙種國債登錄簿ノ登錄國債代用ノ豫告ヲ爲シタル者ハ募入決定ノ通知ヲ受ケタルトキ直ニ其ノ證券ヲ取扱銀行ニ提出スヘシ此ノ場合ニ於テハ第十五條第一項但書ノ規定ニ拘ラス保證金ヲ還付ス

代用ノ豫告ヲ爲シタル甲種國債登錄簿ノ登錄國債及預託シタル國債證券ハ第一期ニ於テ現金ノ拂込ニ代用納付シタルモノト看做ス

第十八條　本公債ノ發行價格ハ額面金額百圓ニ付其ノ最低ヲ九十五圓トス

第十九條　本公債ノ應募申込期間ハ明治四十三年四月四日ヨリ同月十一日迄トス但シ取扱銀行ハ應募者ノ便宜ニ由リ四月四日前ト雖申込ヲ受クルコトヲ得

第二十條　本公債應募金ノ拂込ヲ延滯シタル者カ拂込期限後三箇月以内ニ拂込ヲ爲ササルトキハ之ニ對スル應募ノ申込ヲ無效トシ既ニ拂込ミタル金額ハ之ヲ政府ノ所得トス

第二十一條　本公債ノ應募者第二期ノ拂込ヲ爲シタル國債證券又ハ登錄國債ニ付テハ新規登錄、登錄變更、登錄除却及所管轉換ノ取扱ヲ爲サス但シ相續、遺贈、强制執行又ハ氏名變更ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條　本公債ノ應募者第二期ノ拂込ヲ爲シタルトキハ假證券ヲ交付シ拂込完了ノ上之ト引換ニ本證券ヲ交付ス但シ國債規則第二十五條ニ依リ甲種國債登錄簿ニ登錄ノ請求ヲ爲シタル者ニ對シテハ假證券ト引換ニ登錄濟證書ヲ交付ス

前項ノ規定ハ第二期以前ニ拂込ヲ完了シタル場合ニ之ヲ準用ス但シ國債規則第二十五條ニ依リ甲種國債登錄簿ニ登錄ノ請求ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●第二回四分利公債規程

明治四十三年三月十五日
大藏省令第七號

第二回四分利公債規程左ノ通之ヲ定ム

第二回四分利公債規程

第一條　政府ハ國債整理基金特別會計法第五條第一項ニ依リ公債一億圓ヲ募集ス

第二條　本公債ノ利率ハ一箇年百分ノ四トス

第三條　本公債ノ證券ハ大日本帝國政府四分利公債證書トシ其ノ額面金額ハ五十圓、百圓、五百圓、千圓、五千圓及一萬圓ノ六種トス

第四條　本公債ノ元金ハ明治四十三年ヨリ十箇年据置キ其ノ翌年ヨリ向五十箇年間ニ之ヲ償還ス

第五條　本公債ノ利子仕拂期ハ毎年三月一日及九月一日トス

第六條　本公債初期ノ利子ハ全半箇年分ヲ附ス

第七條　本公債ノ發行價格ハ額面金額百圓ニ付其ノ最低ヲ九十五圓トス

第八條　本公債ノ應募申込期間ハ明治四十三年四月四日ヨリ同月十一日迄トス但シ取扱銀行ハ應募者ノ便宜ニ由リ四月四日前ト雖申込ヲ受クルコトヲ得

第九條　本公債ノ應募者ハ應募高、應募價格及住所氏名ヲ詳記シタル申込書ニ申込高百圓ニ付五圓ノ保證金ヲ添ヘ之ヲ取扱銀行ニ提出スヘシ但シ官廳及公共團體ノ申込ニ付テハ保證金ヲ要セス

前項ノ應募價格ニハ十錢位ニ滿タサル端數ヲ附スルコトヲ得ス

第十條　從前發行ノ五分利付國債證券又ハ五分利付登錄國債ハ左ニ揭ケル代用價格ヲ以テ計算シ本公債應募拂込ノ現金ニ代用スルコトヲ得但シ本令施行前ニ元金償還期日ノ既ニ到來シ又ハ確定シタルモノノ代用價格ハ其ノ元金額ニ利子ノ未拂金額ヲ加ヘタルモノニ依ル

一　六月、十二月利拂ノモノ　額面金額百圓ニ付　百二圓九十錢

二　三月、九月利拂ノモノ　同　上　百一圓六十五錢

無記名國債證券ノ附屬利札中明治四十三年六月以降又ハ元金償還期日以後ノ利拂期ニ屬スルモノ欠缺セルトキハ前項ノ代用價格中其ノ欠缺利札ニ於ケル利子相當ノ金額ヲ控除ス

第十一條　國債證券又ハ登錄國債ヲ以テ本公債應募拂込ノ現金ニ代用セントスル者ハ應募申込ノ際國債證券ニ在リテハ其ノ名稱、額面金額種類及枚數ヲ、登錄國債ニ在リテハ其ノ種別、金額、記號、番號及記名ヲ豫告シ又ハ該國債證券ヲ取扱銀行ニ預託シ置ク旨ヲ要ス

前項ニ依リ甲種國債登錄簿ノ登錄國債代用ノ豫告ヲ爲シ又ハ代用證券ヲ預託スル場合ニ於テハ保證金ヲ納ムルコトヲ要セス

第十二條　本公債ノ應募高、募集豫定額ヲ超過スルトキハ其ノ應募價格ノ高キモノヨリ順次之ヲ採リ募集豫定額ニ滿ツルニ至リテ止ム

第十三條　國債證券又ハ登錄國債ヲ以テ本公債應募拂込ノ現金ニ代用スル者ノ應募高ハ同一價格ニ於テ現金拂込ノモノニ對シ優先ニ募入セラルルモノトス

第十四條　本公債ノ應募申込ニ對スル募入ノ決定ハ明治四十三年四月十九日迄ニ之ヲ爲シ取扱銀行ヨリ其ノ旨ヲ應募者ニ通知ス

第十五條　前條ニ依リ募入決定ノ通知ヲ受ケタル者ハ左ノ區別ニ從ヒ募入高ニ對スル現金ヲ取扱銀行ニ拂込ムヘシ但シ第一期拂込ハ保證金ヲ以テ之ニ充ツ

第一期　明治四十三年四月十九日　金五圓（募入高百圓ニ付）

第二期　同　年五月三十日　金二十圓（同　上）

第三期　同　年六月三十日　金二十圓（同　上）

第四期　同　年八月十日　金五十圓（同　上）

第十六條　最低發行價格ヨリモ高キ價格ヲ以テ申込ヲ爲シタル者ハ第二期拂込ト共ニ其ノ差額ヲ拂込ムヘシ

第十六條　取扱銀行ハ應募者ノ便宜ニ由リ前條第一項ノ各拂込期日前ト雖其ノ拂込ヲ受ケタル者ニ對シテハ假證券ト引換ニ登錄濟證書ヲ交付ス

第十七條　無記名國債證券又ハ乙種國債登錄簿ノ登錄國債代用ノ豫告ヲ爲シタル者ハ募入決定ノ通知ヲ受ケタルトキ直ニ其ノ證券ヲ取扱銀行ニ提出スヘシ此ノ場合ニ於テハ第十五條第一項但書ノ規定ニ拘ラス保證金ヲ還付ス

代用ノ豫告ヲ爲シタル甲種國債登錄簿ノ登錄國債及預託シタル國債證券ハ第一期ニ於テ現金ノ拂込ニ代用納付シタルモノト看做ス

第十八條　本公債ノ發行價格ハ額面金額百圓ニ付其ノ最低ヲ九十五圓トス

第十九條　本公債ノ應募申込期間ハ明治四十三年四月四日ヨリ同月十一日迄トス但シ取扱銀行ハ應募者ノ便宜ニ由リ四月四日前ト雖申込ヲ受クルコトヲ得

第二十條　本公債應募金ノ拂込ヲ延滯シタル者カ拂込期限後三箇月以内ニ拂込ヲ爲ササルトキハ之ニ對スル應募ノ申込ヲ無效トシ既ニ拂込ミタル金額ハ之ヲ政府ノ所得トス

第二十一條　本公債ノ應募者第二期ノ拂込ヲ爲シタル國債證券又ハ登錄國債ニ付テハ新規登錄、登錄變更、登錄除却及所管轉換ノ取扱ヲ爲サス但シ相續、遺贈、强制執行又ハ氏名變更ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條　本公債ノ應募者第二期ノ拂込ヲ爲シタルトキハ假證券ヲ交付シ拂込完了ノ上之ト引換ニ本證券ヲ交付ス但シ國債規則第二十五條ニ依リ甲種國債登錄簿ニ登錄ノ請求ヲ爲シタル者ニ對シテハ假證券ト引換ニ登錄濟證書ヲ交付ス

前項ノ規定ハ第二期以前ニ拂込ヲ完了シタル場合ニ之ヲ準用ス但シ國債規則第二十五條ニ依リ甲種國債登錄簿ニ登錄ノ請求ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●製鹽地整理公債規程

明治四十三年十月十日
大藏省令第五十號

製鹽地整理公債規程左ノ通之ヲ定ム

製鹽地整理公債規程

第一條　政府ハ明治四十三年法律第四十八號第九條ニ依リ公債ヲ發行ス

第二條　本公債ノ證券ハ大日本帝國政府五分利公債證書トス

第三條　本公債初期ノ利子ハ鹽及鹹水製造禁止ノ月ヨリ之ヲ附シ元金償還ノトキハ其ノ償還ノ月迄之ヲ附ス

第四條　本公債ノ元金ハ發行ノ年ヨリ五箇年据置キ其ノ翌年ヨリ向五十箇年以内ニ之ヲ償還ス

第五條　本公債ノ利子ハ每年三月及九月ニ於テ其ノ月以前六箇月間ニ屬スルモノヲ仕拂フ

●禁獵公債規程

大正元年十二月十三日
農商務省令第八號

禁獵公債規程左ノ通之ヲ定ム

禁獵公債規程

第一條　政府ハ明治四十五年法律第二十二號第五條ニ依リ公債ヲ發行ス

第二條　本公債ノ證券ハ大日本帝國政府五分利公債證書トス

第三條　本公債ノ元金ハ發行ノ年ヨリ五箇年据置キ其ノ翌年ヨリ向五十箇年以内ニ之ヲ償還ス

第四條　本公債ノ元金ハ發行ノ年ヨリ五箇年以内ニ之ヲ償還ス

第五條　本公債ノ利子ハ每年三月及九月ニ於テ其ノ月以前六箇月間ニ屬スルモノヲ仕拂フ

●救恤公債規程

明治四十三年十月八日
大藏省令第四十八號

救恤公債規程左ノ通之ヲ定ム

救恤公債規程

第一條　政府ハ明治四十二年法律第三十八號第四條ニ依リ公債ヲ發行ス

第二條　本公債ノ證券ハ大日本帝國政府五分利公債證書トス

第三條　本公債ノ元金ハ發行ノ年ヨリ向五十箇年以内ニ之ヲ償還ス

第四條　本公債ノ利子ハ救恤金下付告知ノ日付ノ屬スル月ヨリ之ヲ附シ元金償還ノトキハ其ノ償還ノ月迄之ヲ附ス

第五條　本公債利子ノ仕拂期日ハ每年三月一日及九月一日トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●鐵道債券發行規程

大正五年四月八日
大藏省令第六號

第一條　政府ハ帝國鐵道會計法第三條ニ依リ鐵道債券四千萬圓ヲ發行ス

第二條　本債券ノ利率ハ一箇年百分ノ五トス

第三條　本債券ノ額面金額ハ五十圓、百圓、五百圓、千圓、五千圓及一萬圓ノ六種トス

第四條　本債券ノ元金ハ大正二十年三月十五日迄ニ額面金額ヲ以テ之ヲ償還ス

第五條　本債券ノ利子仕拂期ハ每年三月十五日及九月十五日トス

第六條　本債券初期ノ利子ハ全半箇年分ヲ附ス

第七條　本債券ノ發行價格ハ額面金額百圓ニ付其ノ最低ヲ九十五圓トス

第八條　本債券ノ應募申込期間ハ大正五年四月二十一日ヨリ同月二十五日迄トス但シ取扱銀行ハ應募者ノ便宜ニ由リ四月二十一日前ト雖應募ノ申込ヲ受クルコトヲ得

第九條　本債券ノ應募者ハ應募高、應募價格及住所氏名ヲ記シタル申込書ニ申込高百圓ニ付五圓ノ保證金ヲ添ヘ之ヲ取扱銀行ニ提出スヘシ但シ保證金ニハ利子ヲ附セス

前項ノ應募金ハ第二期以後ニ於テ各一期又ハ數期分ヲ繰上ケ拂込ヲ爲スコトヲ得

第十條　本債券ノ應募者カ拂込ムヘキ現金ノ額ヲ超過スルトキハ其ノ應募價格ノ高キモノヨリ順次之ヲ採リ募集豫定額ニ滿ツルニ至リテ止ム

第十一條　國債證券又ハ登錄國債ヲ以テ本公債應募拂込ノ現金ニ代用スル者ハ應募申込ノ際國債證券ニ在リテハ其ノ名稱、額面金額種類及枚數ヲ、登錄國債ニ在リテハ其ノ種別、金額、記號、番號及記名ヲ豫告シ又ハ該國債證券ヲ取扱銀行ニ預託シ置ク旨ヲ要ス

前項ニ依リ甲種國債登錄簿ノ登錄國債代用ノ豫告ヲ爲シ又ハ代用證券ヲ預託スル場合ニ於テハ保證金ヲ納ムルコトヲ要セス

第十二條　本公債ノ應募高、募集豫定額ヲ超過スルトキハ其ノ應募價格ノ高キモノヨリ順次之ヲ採リ募集豫定額ニ滿ツルニ至リテ止ム

第十三條　國債證券又ハ登錄國債ヲ以テ本公債應募拂込ノ現金ニ代用スル者ノ應募高ハ同一價格ニ於テ現金拂込ノモノニ對シ優先ニ募入セラルルモノトス

第十四條　本公債ノ應募申込ニ對スル募入ノ決定ハ明治四十三年四月十九日迄ニ之ヲ爲シ取扱銀行ヨリ其ノ旨ヲ應募者ニ通知ス

第十五條　前條ニ依リ募入決定ノ通知ヲ受ケタル者ハ左ノ區別ニ從ヒ募入高ニ對スル現金ヲ取扱銀行ニ拂込ムヘシ但シ第一期拂込ハ保證金ヲ以テ之ニ充ツ

第一期　明治四十三年四月十九日　金五圓（募入高百圓ニ付）

第二期　同　年五月三十日　金二十圓（同　上）

第三期　同　年六月三十日　金二十圓（同　上）

第四期　同　年八月十日　金五十圓（同　上）

第十六條　最低發行價格ヨリモ高キ價格ヲ以テ申込ヲ爲シタル者ハ第二期拂込ト共ニ其ノ差額ヲ拂込ムヘシ

第十六條　取扱銀行ハ應募者ノ便宜ニ由リ前條第一項ノ各拂込期日前ト雖其ノ拂込ヲ受ケタル者ニ對シテハ假證券ト引換ニ登錄濟證書ヲ交付ス

第十七條　無記名國債證券又ハ乙種國債登錄簿ノ登錄國債代用ノ豫告ヲ爲シタル者ハ募入決定ノ通知ヲ受ケタルトキ直ニ其ノ證券ヲ取扱銀行ニ提出スヘシ此ノ場合ニ於テハ第十五條第一項但書ノ規定ニ拘ラス保證金ヲ還付ス

代用ノ豫告ヲ爲シタル甲種國債登錄簿ノ登錄國債及預託シタル國債證券ハ第一期ニ於テ現金ノ拂込ニ代用納付シタルモノト看做ス

第十八條　本公債ノ發行價格ハ額面金額百圓ニ付其ノ最低ヲ九十五圓トス

第十九條　本公債ノ應募申込期間ハ明治四十三年四月四日ヨリ同月十一日迄トス但シ取扱銀行ハ應募者ノ便宜ニ由リ四月四日前ト雖申込ヲ受クルコトヲ得

第二十條　本公債應募金ノ拂込ヲ延滯シタル者カ拂込期限後三箇月以内ニ拂込ヲ爲ササルトキハ之ニ對スル應募ノ申込ヲ無效トシ既ニ拂込ミタル金額ハ之ヲ政府ノ所得トス

第二十一條　本公債ノ應募者第二期ノ拂込ヲ爲シタル國債證券又ハ登錄國債ニ付テハ新規登錄、登錄變更、登錄除却及所管轉換ノ取扱ヲ爲サス但シ相續、遺贈、强制執行又ハ氏名變更ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條　本公債ノ應募者第二期ノ拂込ヲ爲シタルトキハ假證券ヲ交付シ拂込完了ノ上之ト引換ニ本證券ヲ交付ス但シ國債規則第二十五條ニ依リ甲種國債登錄簿ニ登錄ノ請求ヲ爲シタル者ニ對シテハ假證券ト引換ニ登錄濟證書ヲ交付ス

前項ノ規定ハ第二期以前ニ拂込ヲ完了シタル場合ニ之ヲ準用ス但シ國債規則第二十五條ニ依リ甲種國債登錄簿ニ登錄ノ請求ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●第二回四分利公債規程

明治四十三年三月十五日
大藏省令第七號

第二回四分利公債規程左ノ通之ヲ定ム

第二回四分利公債規程

第一條　政府ハ國債整理基金特別會計法第五條第一項ニ依リ公債一億圓ヲ募集ス

第二條　本公債ノ利率ハ一箇年百分ノ四トス

第三條　本公債ノ證券ハ大日本帝國政府四分利公債證書トシ其ノ額面金額ハ五十圓、百圓、五百圓、千圓、五千圓及一萬圓ノ六種トス

第四條　本公債ノ元金ハ明治四十三年ヨリ十箇年据置キ其ノ翌年ヨリ向五十箇年間ニ之ヲ償還ス

第五條　本公債ノ利子仕拂期ハ每年三月一日及九月一日トス

第六條　本公債初期ノ利子ハ全半箇年分ヲ附ス

第七條　本公債ノ發行價格ハ額面金額百圓ニ付其ノ最低ヲ九十五圓トス

第八條　本公債ノ應募申込期間ハ明治四十三年四月四日ヨリ同月十一日迄トス但シ取扱銀行ハ應募者ノ便宜ニ由リ四月四日前ト雖申込ヲ受クルコトヲ得

第九條　本公債ノ應募者ハ應募高、應募價格及住所氏名ヲ詳記シタル申込書ニ申込高百圓ニ付五圓ノ保證金ヲ添ヘ之ヲ取扱銀行ニ提出スヘシ但シ官廳及公共團體ノ申込ニ付テハ保證金ヲ要セス

前項ノ應募價格ニハ十錢位ニ滿タサル端數ヲ附スルコトヲ得ス

第十條　從前發行ノ五分利付國債證券又ハ五分利付登錄國債ハ左ニ揭ケル代用價格ヲ以テ計算シ本公債應募拂込ノ現金ニ代用スルコトヲ得但シ本令施行前ニ元金償還期日ノ既ニ到來シ又ハ確定シタルモノノ代用價格ハ其ノ元金額ニ利子ノ未拂金額ヲ加ヘタルモノニ依ル

一　六月、十二月利拂ノモノ　額面金額百圓ニ付　百二圓九十錢

二　三月、九月利拂ノモノ　同　上　百一圓六十五錢

無記名國債證券ノ附屬利札中明治四十三年六月以降又ハ元金償還期日以後ノ利拂期ニ屬スルモノ欠缺セルトキハ前項ノ代用價格中其ノ欠缺利札ニ於ケル利子相當ノ金額ヲ控除ス

第十一條　國債證券又ハ登錄國債ヲ以テ本公債應募拂込ノ現金ニ代用セントスル者ハ應募申込ノ際國債證券ニ在リテハ其ノ名稱、額面金額種類及枚數ヲ、登錄國債ニ在リテハ其ノ種別、金額、記號、番號及記名ヲ豫告シ又ハ該國債證券ヲ取扱銀行ニ預託シ置ク旨ヲ要ス

前項ニ依リ甲種國債登錄簿ノ登錄國債代用ノ豫告ヲ爲シ又ハ代用證券ヲ預託スル場合ニ於テハ保證金ヲ納ムルコトヲ要セス

第十二條　本公債ノ應募高、募集豫定額ヲ超過スルトキハ其ノ應募價格ノ高キモノヨリ順次之ヲ採リ募集豫定額ニ滿ツルニ至リテ止ム

第十三條　國債證券又ハ登錄國債ヲ以テ本公債應募拂込ノ現金ニ代用スル者ノ應募高ハ同一價格ニ於テ現金拂込ノモノニ對シ優先ニ募入セラルルモノトス

第十四條　本公債ノ應募申込ニ對スル募入ノ決定ハ明治四十三年四月十九日迄ニ之ヲ爲シ取扱銀行ヨリ其ノ旨ヲ應募者ニ通知ス

第十五條　前條ニ依リ募入決定ノ通知ヲ受ケタル者ハ左ノ區別ニ從ヒ募入高ニ對スル現金ヲ取扱銀行ニ拂込ムヘシ但シ第一期拂込ハ保證金ヲ以テ之ニ充ツ

第一期　明治四十三年四月十九日　金五圓（募入高百圓ニ付）

第二期　同　年五月三十日　金二十圓（同　上）

第三期　同　年六月三十日　金二十圓（同　上）

第四期　同　年八月十日　金五十圓（同　上）

第十六條　最低發行價格ヨリモ高キ價格ヲ以テ申込ヲ爲シタル者ハ第二期拂込ト共ニ其ノ差額ヲ拂込ムヘシ

第十六條　取扱銀行ハ應募者ノ便宜ニ由リ前條第一項ノ各拂込期日前ト雖其ノ拂込ヲ受ケタル者ニ對シテハ假證券ト引換ニ登錄濟證書ヲ交付ス

第二期　同　年五月十七日
第三期　同　年六月十五日　上）
五十圓（同　上）
四十圓（同　上）

最低發行價格ヨリモ高キ價格ヲ以テ申込ヲ爲シタル者ハ第二期拂込ト共ニ其ノ差額ヲ拂込ムヘシ

第十三條　本債券應募金ノ拂込ヲ延滯シタル者ハ拂込期日ノ翌日ヨリ現拂込ノ日迄拂込金百圓ニ付日歩四錢ノ割合ヲ以テ利子ヲ仕拂フヘシ拂込期日後三箇月以内ニ拂込ヲ爲ササルトキハ之ニ對スル應募ノ申込ヲ無效トシ既ニ拂込ミタル金額ハ之ヲ政府ノ所得トス

第十四條　本債券ノ應募者第二期ノ拂込ヲ爲シタルトキハ假證券ヲ交付シ拂込完了ノ後之ト引換ニ本證券ヲ交付ス但シ國債規則第二十五條ニ依リ甲種國債登錄簿ニ登錄ノ請求ヲ爲シタル者ニ對シテハ假證券ヲ引換ニ登錄濟通知書ヲ交付ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●借入鐵道買收公債規程

大正六年四月二十七日
大藏省令第十四號

鐵道債券發行規程左ノ通之ヲ定ム

鐵道債券發行規程

第一條　政府ハ帝國鐵道會計法第二條及第三條ニ依リ鐵道債券四千萬圓ヲ發行ス

第二條　本債券ノ利率ハ一箇年百分ノ五トス

第三條　本債券ノ額面金額ハ五十圓、百圓、五百圓、千圓、五千圓及一萬圓ノ六種トス

第四條　本債券ノ元金ハ大正二十一年三月十五日迄ニ額面金額ヲ以テ之ヲ償還ス

第五條　本債券ノ利子仕拂期ハ每年三月十五日及九月十五日トス

第六條　本債券ノ大正六年九月十五日渡利子ハ額面百圓ニ付一圓六十四錢ノ割合ヲ以テ之ヲ仕拂フ

第七條　本債券ノ發行價格ハ額面金額百圓ニ付其ノ最低ヲ九十五圓トス

第八條　本債券ノ應募申込期間ハ大正六年五月二日ヨリ同月五日迄トス但シ取扱銀行ハ應募者ノ便宜ニ由リ五月二日前ト雖應募ノ申込ヲ受クルコトヲ得

第九條　本債券ノ應募者ハ應募高、應募價格及住所氏名ヲ記シタル申込書ニ申込高百圓ニ付五圓ノ保證金ヲ添ヘ之ヲ取扱銀行ニ提出スヘシ但シ保證金ニハ利子ヲ附セス

前項ノ應募價格ニハ十錢位ニ滿タサル端數ヲ附スルコトヲ得ス

第十條　本債券ノ應募高、募集豫定額ヲ超過スルトキハ其ノ應募價格ノ高キモノヨリ順次之ヲ採リ募集豫定額ニ滿ツルニ至リテ止ム

第十一條　本債券ノ應募申込ニ對スル募入ノ決定ハ大正六年五月十日ニ於テ之ヲ爲シ取扱銀行ヨリ應募者ニ通知ス

第十二條　前條ニ依リ募入決定ノ通知ヲ受ケタル者ハ左ノ區別ニ從ヒ募入高ニ對スル現金ヲ取扱銀行ニ拂込ムヘシ但シ第一期拂込ニハ保證金ヲ以テ之ニ充ツ

第一期　大正六年五月十　日
五　圓（募入高百圓ニ付）
第二期　同　年同月十　五　日
五十圓（同　上）
第三期　同　年同月二十五日
四十圓（同　上）

最低發行價格ヨリモ高キ價格ヲ以テ申込ヲ爲シタル者ハ第二期拂込ト共ニ其ノ差額ヲ拂込ムヘシ

第十三條　本債券應募金ノ拂込ヲ延滯シタル者ハ拂込期日ノ翌日ヨリ現拂込ノ日迄拂込金百圓ニ付日歩四錢ノ割合ヲ以テ利子ヲ仕拂フヘシ拂込期日後三箇月以内ニ拂込ヲ爲ササルトキハ之ニ對スル應募ノ申込ヲ無效トシ既ニ拂込ミタル金額ハ之ヲ政府ノ所得トス

第十四條　本債券ノ應募者ハ拂込ヲ爲